SMITHSONIAN INSTITUTION LIBRARIES
3 9088 01109 9892

SHOUT
SHARE
IT

7/1843

1/4

Botanical magazine.

植物學雜誌

652/1596 D.

第七卷

(7)

自第七十一號至第八十二號

植物學雜誌編輯所發行

明治二十六年

QK1
.B33

Vol. 7

植物學雜誌第七卷目錄

ARTICLES IN ENGLISH.

Dianella straminea, nov sp. By R.Yatabe, Sc. D. No. 71. p. 435.
Senecio Bonninsimæ, nov. sp. By R. Yatabe, Sc. D. No. 72. p. 1.
Tricyrtis nana, nov. sp. By R. Yatabe, Sc. D. No. 73. p. 39.
Asparagus Tamabōki, nov. sp. By R. Yatabe, Sc. D. No. 74. p. 61.
All Known species of the Japanese Listera. By T. Makino. No. 74. p. 65.
Contributions to the Phycology of Japan. By K. Okamura. No. 75. p. 99.
Notes on Japanese Plants. By T. Makino No. 75,p102. No. 76, p.133. No, 80, p. 285. No. 81, p. 322.
Eria Luchuensis, nov. sp. By R. Yatabe, Sc. D. No. 76. p. 131.
Trillium Tschonoskii, Max. By R. Yatabe, Sc. D. No. 77. p. 175.
Mallotopus Japonicus, Fr. et Sav. By R. Yatabe Sc. D. No. 78, p. 207.
Senecio syneilensis, Fr. et Sav. By R. Yatabe, Sc. D. No. 79, p. 245.
Tetraspores of Desmia. By K. Okamura, No. 81, p. 321.
Explanation to the Plate XI. p. 323.

あ之部

あとかごのき 334
あとがし 326
あとほらごけ 387
あともド 340
あかき 402
あかしで 274
Acanthopeltis 233
あきぐみ 321
あけび 250
あさだ土佐ニ産ス 96
あさのはかへで 275
あ(吾)妻山ノ植物 345
あ(會)津ニテ 276
あまのり 110
あまみにぼしぐさ 386
あまみぼんてんくは 382
あわぶき 275
あんさくめノ新產地ニ就テ 30

い之部

いかりさう 252
いぎす 110
いしもちさう 118
いしもちさう福山近傍ニ產ス 194
いすむぎ 156
いうぎく 22
いろやまだけ 348
いたや 275
いたやかへで 275
いち(1)ニ海藻ノ報知 7
いてうしだノ新產地 96
いてう(公孫樹)ノ枝ノ北向ニ就テ 69.101.326.
いぬゑび 142
いぬがし 336
いぬがらし 349
いぬぐす 333
いぬざくら 402
いれ(稻)ノいれこうド病 209
いはつくばれうつぎ 286
いぶきノ大木 117

う之部

タひViola 96

LBAp'20

う(羽)後北秋田郡植物方言1斑　269
うちはごけ　387
うはみずさくら　401
うはみぞ　402
うまのぶす　143
うりのきノ芽　118
うるし　276

ゐ、ゑ之部

ゑご　110
ゐびづる　385
ゐんトゆ　276

を、お之部

をかたまのき　221
をさばぐさ　391
おにしばり　22
おにのげし　157
おにばす　215
おほうりかへで　275
おほこけしのぶ　388
おほつゞらふぢ　291
おほつるうめもどき　102
おほばくろもト　338
おほばしようま　90
おほばみればり　22
おほやまれんげ　220
おほふたばらん　63.66
おやぶトらみ　44

か之部

Caucalisニ就テ　44
かうしうゝやく　293.34348.
かうほれ　215
かうやこけしのぶ　388
かごのき　334
かしわ(槲)ノ老木　281
かたばみ　383
かつら　276.247
かぢのはらせんさう　383
かなくぎ　338
がれふ　140
かはいはたけ　117
かほほれ　215
かふ　276
Callophyllis　7
から(辛)崎の松　199
からたれをがたま　222
かれ(枯)草ノ發火スルヿ　401
かんぺいトも　274
かん(橄)欖　314

き之部

きう(九)州採集土産　394
きう(九)州ノはぜのき　395
き(寄)送書目　130.366.460.408
きからすうりノ吸盤　97
きくばわうれん　89
きけまん　348
きはだ　275
きふぢ　21
きよく(曲)亭馬琴翁調製ノ腊葉帖　18
きばなのきゝやうらん　435
きふぢ屬　390
きんぎよも　216
きんこうぼく　222
ぎんこうぼく　222
きんごトくは　382
きんちやくぼたん　394

く之部

くさのわう　392
くす(樟)樹ノ大木　297
くすのき　333
くすり　281
くは(桑)　276
くもらん　119
Grateloupia　99.100.101
くろみ　275
くろいげ　384
くろいはざゝ　313
くろぐわい(勃臍)ノ球莖ニ就テ　456
くろたきかづら　119
くろもト　275.337
くろよな　386
くわ(花)粉粒ノ細胞核ヲ染色スル法　359
くろみ　275

け之部

けい(硅)藻類　95

けくろもじ 338
けさんかくづる 145
けし 393
けまんさう 394
けんかつら 386
げん(顯)花植物分科撿索表
自七十一號至八十號附錄
ゲン(顯)花植物分科撿索篇 364
ゲン(原)形質及ヒ感應症 22.51.82.113.157.189

こ之部

こうもりづた 292
こうり 275
こうりかへで 275
ごかにふわうれん 89
ごがれしのぶ 388
こけをさぎり 38
こけしのぶ 389
こゞのき 402
こぶかし 333
こぶし 218
ごふたばらん 63.67
こ(糊)粉粒 27·46
ごま 277
こまくさ 394
こめのり 101
こものき 402
こやすのき 276
こんがうざくら 402
こんすみれ 350

さ之部

さい(些)事一束 91
さい(細)胞内ノ緊張ニ關シ細胞仁ノ作用 450
さかき屬 390
さぎしまはまぼ 381
さきしまふうてうさう 350
さきしまぼたんづる 347
さく(昨)年中出版外國植物書數篇ニ就キ 167
ざくろ 341
さゞんくわ 390
ささいもノ開花 361
されかづら 222
さらされんげ 218
さらしなしようま 91
さるかけみかん 383
さるなし屬 390
さん(三)葉松 458
さんかにう 251
さん(山)東菜 276

し之部

し(紫)蕨 277
しとぢ 277
し(四)月上旬常陸國多賀久慈兩郡ニ開花セル植物 277
しきみ 224
し(四)十年前植物學 277
しでこぶし 219
しづ(靜)岡縣産植物錄 300
しつ(質)問應答 37.97.174.204.243.284
しまいちび 381
しまきつれのぼたん 348
しまつなろ 382
しまはまぼ 381
しまぼろぎく
しもくれん 218
しやらのき屬 390
しやりんばい・ 21
じゆんさい 214
しよく(植)物解剖雜記 351
しよく(植)物家彙報 167
しよく(植)物採集記 259
しよく(植)物雜言 274
しよく(植)物雜語 162
しよく(植)物採集雜記 238
しよく(植)物新稱 156
しよく(植)物体中揮發油ノ生成及ヒ所在 164
しよく(植)物通信 116
しよく(植)物分類餘錄 139.195.213.247.291.330.391
しろがや不忍池畔ニ生ス 119
しろだも 22.335
しろたんぼ 104
しろがやつりノ學名 315
しん(新)刊批評 126

しん(唇)形　277
しん(信)州方言　276
しん(新)刊しろばなにんれいさう　175
しん(新)版植物學教科書批評　174
しん(新)著ノ「レフエラート」　171
じん(人)類ノ仇敵タル黴毒　356

す之部

すゐせん　22
すぎのり　20
すなづる　340
すゞたけ　276

せ之部

せつぶんすう　88
せりばやまぶきさう　391
せりはわうれん　89
せんさうぞーむ　86
せん(旋)花　277

そ之部

そ(蘇)鐵ニ就テ　458
そ(蘇)鐵ノ花及實　459
そなれむぐら　22
そろ　275

た之部

たいさんぼく　221
たいみがさ　245
だう(導)管ノ長サ　359
たけにぐさ　392
たゝらび　348
たちざくら　103
たれつけばな　349
たぶのき　333
たまばうき　61
たれ(誰)カ言フ淸國ニさくら無シト　120
だんかうばい　339

ち之部

ぢ(地)震ト植物生育ノ關係　456
ちや(茶)　390.404
ちやうじぎく　207
ちやぼつめれんげ　117
ちやぼくさゝぎす　39

つ之部

つきみぐさノ開花　361
づくのき　383
つち(土)屋勇之輔氏逝　281
つのはしばみ　275
つばき　381
つばき屬　390
つぼすみれ　350
つめくさ　351
つるな　21
つるぐみ　326

て之部

てうじのき　183
てうせんごみし　223
てりはのき　380
でDelesseria　7
でろしよう　393
てんだいうやく　340

と之部

ど(獨)逸植物學總會ノ略況　405
とう(東)京近郊新採集地　360
とう(東)京植物學會　129.318.365408
とう(東)京植物學會々員猪子吉人氏逝ク　360
とう(遠)江京丸ノ牡丹　278
とう(遠)江ノ大蘇鐵　459
とう(東)京上野ノChroolepus屬ノ一種　94
どくさう Huth氏ノ毛茛科小屬中ノ訂正　87
ときはれんげ　221
と(土)佐高知ノAphanothece屬一種　94
とさのみつばつゝし　134
とちかゞみ　455

な之部

なが(長)崎諏訪山ノ公園　398
なす(茄)屬ノ花ト六脚蟲　401
なつがんざう　143
なつぐみ　326
なでんざくら　402
なづな　349
なはしろぐみ　326
なべさりかづら　142
なんかくらん　118
なんてん　252
なんぶさう　251

に　之　部
にがき 402
にくけい 332
に(二)三植物ノ化學的實驗 8.45.437
にしきさう 454
につ(日)光山植物雜記 185.297
に(日)本産ふたばらん屬 63
に(日)本植物圖解 460
に(日)本農業植物病害論 151
に(日)本ノ石竹 164
に(日)本羊齒彙類 387
に(日)本藥局方植物篇 3.41.71.105
136. 180. 229. 255. 287. 341. 371. 377. 441
ぬ　之　部
ぬかぼたて 453
ぬなは 214
ね　之　部
ねトき中毒 19
ねぶか(葱)ノ萎黄病 151
の　之　部
のう(農)科大學ニ植物家來ル 361
のう(農)業植物篇 444
のう(能)州ノ海藻 110
のけいさう 453
のぢあふひ 382
のぢきくノ産地 96
のぶだう 145.385
のみのつゞり 351
は　之　部
ばい(黴)菌ノ奇觀 308
ばいくわいかりさう 252
はくうんぼく 275
はく(白)朮 276
はくさんいちげさう 96
はくもくれん 217.275
ばくてりあノ說 11.76.123.166
197. 264 308. 356. 403. 447
は(波)波迦之說 401.266
はひれず 22
は(Hagenia) 441
はこべ 351
はしばみ 275
はす 213
はすのはかづら 294.348
はすのはぎり 341
はぜ 276
はちす 213
はたうこん 339
はなしんぼーき 384
はなびしさう 391
は Habenaria 120
はまあづき 385
はまおもと 22
はますべりひゆ 380
はまなたまめ 386
はまなでしこ 351
はまひさかき 381
はまびは 334
はむぶりー氏及びたりぶろ氏生藥品及ビ
經濟植物學ニ關スル穿鑿 15
はりつるまさき
はBankskia 441
ひ　之　部
ひこ(彥)山ノ樹木 395
ひさかき屬 390
ひしノ學名 313
ひつぢぐさ 215
ひさつばしようま 103
ひHydrastis 88
ひなげし 393
ひなちどり 134
びなんかづら 348
ひのきばやどりきノ寄生主 119
ひ(批)評 459
ひめたごりこさう 157
ひめくまやなぎ 384
ひめこうもりさう 104
ひめなでしこ 274
ひめふたばらん 63
ひめほらごけ 387
ひめやぶらん 323
ふ　之　部
ふうせんかづら 385
ふうさうかづら 22

ふう(封)藥 56
ふく(福)岡縣粕屋ニ於テ九月中ニ開花ヲ目擊シ得ベキ自生植物 54.451
ふく(福)岡縣農事試驗場 398
ふくわうさう 133
ふくわうにがな 133
ふくりんさゝゆり 135
ぶたう 139
ぶ(葡)萄ノ卷鬚 194
ぶ(附)子ニ就テ 316
ふじこけしのぶ 388
ふたばらん 63.69
ふぢ(藤)ノ莖 359
ふらんく氏植物學教科書第二卷ヲ評シ併セテ植物學近來ノ進歩ニ及ブ 225
ふ(附)錄 自七十一號至八十號

へ之部

へびのぼらず 255
へーまさきしりん液 241
ぺーりんぐ海トおこつく海ノ海藻ノ關係ニ就テ 31

ほ之部

ほざきいかりさう 253
ほざきみゝかきぐさ 451
ほそばこけしのぶ 389
ほそばつゝじ 135
ほそばのうなぎつかみ 453
ほそばほらごけ 387
ぼたんづる 347
ほゝのき 220
ほん(本)邦產胡頹子科植物ニ就テ 325
ほん(本)邦產山茱萸屬植物ニ就キテ 389

ま之部

まさき 21.384
まつの枝ニ就テ 121
まつ(松)ノみどりノ運動ニ就テ 295
まMartensia australis, Harv. の造搆ニ就キテ 75
まるばぐみ 22.326
まるばにくけい 332

み之部

み(三)崎ノ冬ノ採集 20
みつばあけび 251
みつばしようま 90
みつばつゝじ 134
みつばわうれん 89
みづぶき 215
みづぶで 90
みづめ 402
みのぢのり 99
み(美)作植物一斑 177.146
みやまぶだう 144
みやまへびのぼらず 254

む之部

むじなも 285
むべ 249.276
むらさきこふじ 219
むらだち 336

め之部

めぎ 254
めくらぶだう 145
めづら 402
めらりうか 257.290

も之部

もう(毛)莨科小屬ノ訂正 87
もくこく屬 390
もちのき 21
もみぢからまつ 87

や之部

やにやましきみ 225
やく(譯)語 199
やく(藥)獵 281
やぶじらみ 44
やぶにくけい 330
やぶまめノ地中結實 95
やはづすみれ 350
や(八)重山列島各屬島ノ植物 346.380
やまゐび 143.141
やまかうばし 337
やまかはごじくは 382
やまくろま 248
やまぶきさう 391
やまもゝ 92
やわらつろ 224
やんばるがらし 349

ゆ之部
ゆくのきノ花 270
ゆきもちさう 322
よ之部
よう(羊)齒門 387
よう(繇)條書屋植雜記物 94.118.313
よう(葉)面ハ水分ヲ吸收スルヤ否ヤヲ論ス 367
よぐろざくら 402
ら之部
らふばい 294
らん(蘭)草の事 57
り之部
りうきうがれぶ 144
りう(琉)球産ノ海藻ニ就テ 369
りうきうせきこく 131
り(理)學士白井光太郎氏著中等植物學教科書批評 241
りLiquidambar 106
りLigustrum 314
り(狸)藻 277
る之部
るゐにふしようま 90
るゐにふぼたん 253
れ之部
れつ(列)當 277
れんげしようま 90
ろ之部
ろ Rosa 71.73
ろう(老)利兒 340
わ之部
わ(和)州方言 276

地學雜誌

第五集
第六十卷

◎論　說

●吾妻山ノ破裂（前卷ノ續キ）（圖入）　理學博士　橫山又次郎
●地震遠響ノ觀察　理學博士　原田豐吉
●本邦石炭ノ供給ハ如何　和田維四郎
●日本交通一班（第五十七卷ノ續キ）　理學士　金田楢太郎

◎雜　錄

●地質原論　理學博士　橫山又次郎
●颶風ノ圏狀ヲ畫ク理由（圖入）　安藝本吾
●地學通論　岐陽學士

◎寄　書

●汀線ニ就テ　相原修

◎雜　報

●地學協會ノ演說●故三浦西山兩氏義捐金ノ落着●本邦ノ人口●人口一萬以上ノ町名及ビ人口●北海道ノ戶口調●明治二十四年ノ鑛產額●本邦ノ地震●物ノ速力●海水中ノ金銀●美人亞弗利加ヲ探撿ス●阿蘇山ニ關スル舊記●地理學ノ科學ニ於ケル位置●國土所有ノ割合●コリンス地峽ノ開渠●海外探撿彙報●地方通信●新刊書

◎批　評

●北海道地理　佐藤昌介氏閱　加藤房造氏著　石川貞治

◎質　疑　三件
◎應　問

●石膏ノ石鹽ノ上ニ成層スル理由　地質學ノ一書生

東京市京橋區西紺屋町十九番地
東京地學協會

櫻井吉松君著

井上博士

全壹册

定價金二拾錢
郵税金貳錢

學、萬國に通じ識、古今を兼ねて此人ありと知られたる井上博士は無形人心の上に於ては教育と宗教の衝突を鳴らして獨力耶蘇教の蔓延を防ぎ、有形國家の上に於ては內地雜居の尙早を唱へて一身天下の大勢に當り兩ら能く國家の危機を支ふ蓋し得難き人傑なるかゐ本書は右衝突と尙早の結果より博士の主義と經歷とを詳に評論叙述したる者にて文辭明晰、論旨奇拔、大に當世の教育家宗教家及ひ政治家をして警醒せしむるものあり◎有名ゐる**白菊詩**、**雜居論**、**衝突論**の要領を掲ぐ

發賣所　東京市神田區裏神保町一番地　**敬業社**

恭賀新年

發賣所　東京市神田區裏神保町壹番地　電話二百五十八

動物學雜誌　第六十二號

明治廿六年十二月十五日發行一册金十一錢郵稅金一錢六册前金六拾六錢（郵稅共）

目次　やまからノ新種ニ就テ飯島魁君○桑樹の介殼蟲（第五十九號の續き）佐々木忠二郎君○日本魚學小史北原多作君○人躰ノ由來（第三）ヴサデルシャイム箕作佳吉君◎寄書○蝸牛其他二三ニ就テ田島千景君◎雜錄○岐阜地近傍の天蛾類○岐阜縣產淡水魚類○くるまえびトくまえびノ別○Dipsus Saepestriata に就テ○むくら驅除法ニ就テ○札幌博物學會記事○東京動物學會○季氏日本及ビ朝鮮產鱗翅類（承前）○The Nidiologists○日本水產雜誌

敬業社

日本園藝會雜誌　第四十九號

明治廿六年十二月廿五日發兌一册金十錢郵稅金五厘

●目次○公園論小澤圭次郎君○後樂園考横井時冬○植物の効用澤田駒次郎君○園藝用野生植物論評田代安定君○朱櫻の培養に付て○ビランヂ○驅蟲菊栽培○棕櫚竹ノ輸出○側金盞花に付て○島竹の栽植に付て○生垣ニ適當ナル樹木○大坂植木夜店○妙國寺の蘇鐵○交接法の効用○日本園藝會總集會○岩手華菓組合○萬年青大會○府下切花相場○新潟縣下中魚沼郡の氣象○世界博覽會紀事

發賣所　東京市神田區裏神保町　敬業社

東京人類學會雜誌

廿六年十二月三十一日第九十三號發兌

○記事第九十一例會　○論說及報告　東洋博言學研究の必要　岡倉由三郎　刑事人類學の眞價　理學士坪井正五郎　ニューヘブリッド群島土俗（承前）　荒井第二郎　西ヶ原貝塚探究報告其四　理學士坪井正五郎　本邦發見石鏃形狀の分類　八木奘三郎　玉川沿岸遺跡探究の記　井上喜久治　○雜報　奧羽人類學會第三十八會記事

●本誌毎月々末一回發兌一部金十錢郵稅二錢六部前金郵稅共六十七錢十二册前金郵稅共一圓三十四錢

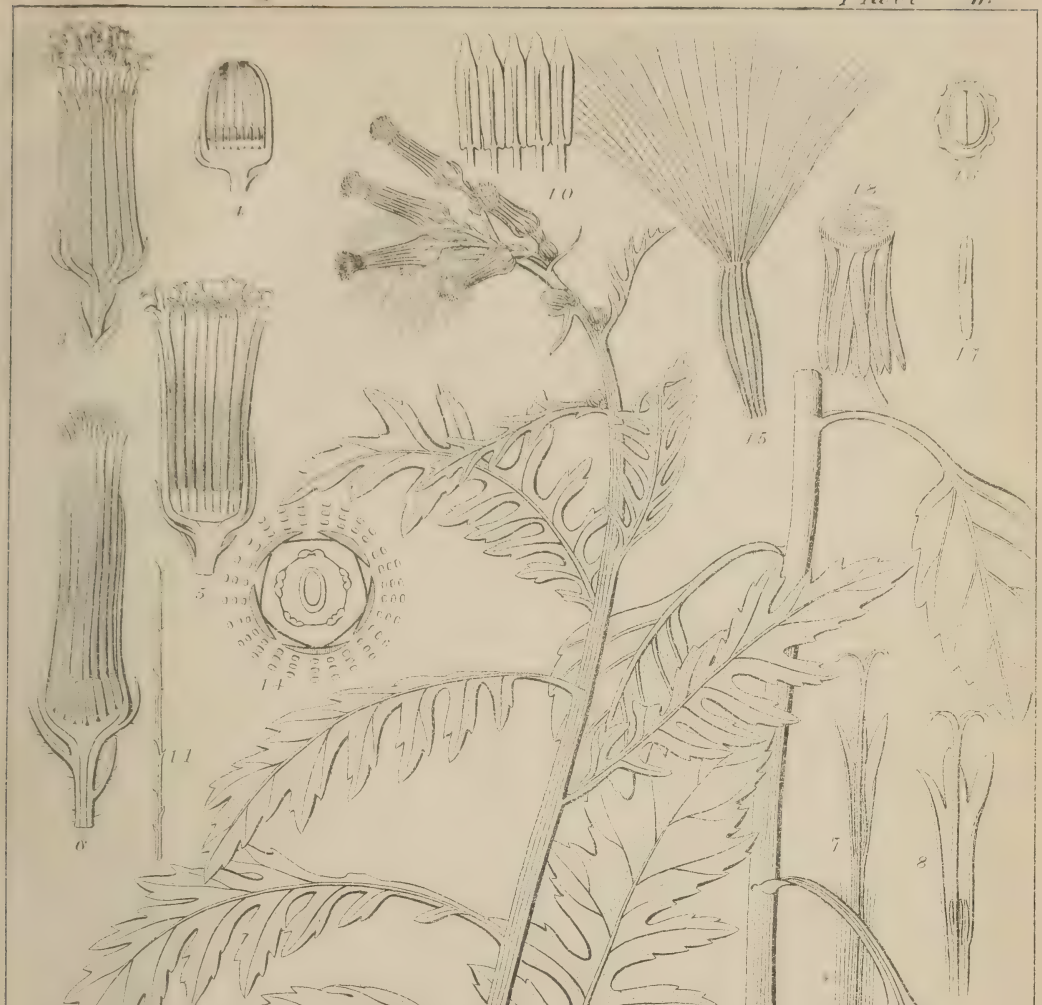
●發賣所　東京本鄉六丁目　哲學書院

東洋學藝雜誌　第百七十四號

十二月二十五日發兌○表紙等ヲ除キ本年中ノ總目錄共五十四頁挿圖數個

●論說○羅馬法ノ影響（承前）宮崎道三郎○躰勢論（承前）宇野朗○科學ト哲學中島力造○人類學の實躰と人類學なる名稱坪井正五郎●雜錄○刑事犯罪人犯時月別表●雜報○飲料水消毒法○ニユートン會○レェヴ敎授○奇怪なる明文○東洋學○谷本富氏○衝突論の終決○不具の學者○新刊植物大名彙○理學者の金を投つ亦此の如し○殖物寶典三幅對○海中の寫眞○天文に由て年代の測算○札幌博物學會○岩手山噴火の來歷○人造地震○數學展覽會目錄等●寄書○同語反意の原因下村三四吉●應問○馬足ノ指石川千代松●定價十錢

●發行所　東京神田區裏神保町　東洋學藝社


3
4
10
16
5
14
11
6
15
17
7
8
12
13
1
2
9
K. W. DEL.

東京日本橋區呉服町東京刷版社印行

SENECIO BONINSIMÆ, YATABE.
SHIMA-BOROGIKU. シマボロギク.

植物學雜誌第七卷第七十二號　(明治二十六年二月十日)

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. VII. February 10, 1893. No. 72.]

New or Little Known Plants of Japan.

No. 31.

Ryōkichi Yatabe, Sc. D.

Senecio Boninsimæ, nov. sp.

Nom. jap. Shima-borogiku. シマボロギク.

(Order Compositæ).

Plate II.

A perennial herb. Stems cæspitose, simple, somewhat pubescent, purplish below, emitting roots above the base, $1\frac{1}{2}$ to more than 2 feet high. Leaves alternate, exstipulate, oblong-ovate, acutish at the apex, narrowed into a petiole at the base, rough with coarse hairs on both surfaces, veins prominent on the under surface; lower leaves inciso-dentate, 2—3 inches long including the petiole, 6—15 lines broad; middle leaves lyrate-pinnatifid, the divisions coarsely dentate, 2—4 inches long including the petiole, 6—20 lines broad; upper leaves smaller, sessile, pinnatifid, passing into subulate bracts; petioles arcuate, canaliculate above, the longest about 1 inch long. Heads few, in a terminal corymb, subhomogamous, marginal florets having sterile anthers. Involucre at first cylindrical, afterwards swollen at the base by the lateral expansion of the receplacle, 3—5 lines long; its bracts about 15, sub-2-sesiate, linear, acutish at the apex, scattered with minute hairs outside, the outer ones narrower, the inner ones broader and scarious at the margins which are overlapped by those of the outer, all at length reflexed. Bracts at the base of the involucre several, linear, acute, hairy, 1—2 lines long. Receptacle flat, naked. Corolla white, tubular, very slender, the upper part dilated and tubular-obconical, the apex 5-lobed, the lobes ovate-lanceolate. Anther-bases slightly auricled; pollen-grains spherical, echinulate. Style-arms recurved, purplish, penicillate at the apex. Achenes subcylindrical, slightly curved, 10-ribbed, minutely hairy, 1¼ lines long. Pappus-hairs copious in several rows; soft, minutely barbellate under the microscope, white and tinged with purple when mature, purple when young. Seeds exalbuminous; embryo straight; cotyledons semiterete; radicle inferior.

This plant is cultivated in the Botanic Garden of the Imperial University from Bonin Islands, where it is one of the esculent vegetables. It flowers in September and October in the Garden.

Plate II. Fig. 1, upper part of plant; 2, lower part; 3, young flower-head; 4, vertical section of

flower-head in bud; 5, vertical section of young flower-head; 6, vertical section of older flower-head; 7, vertical section of disk-floret; 8, upper portion of marginal floret cut vertically showing the sterile anthers; 9, lower portion of the same also cut vertically; 10, anthers; 11, upper portion of pappus-hair; 12, outer bract of involucre; 13, inner bract of involucre; 14, floral diagram; 15, achene with pappus; 16, transverse section of achene; 17, embryo; 18, receptacle with bracts of involucre reflexed:—*all except 1 and 2 enlarged.*

日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）

會員　澤田駒次郎

第七十一號正誤441ノ第十六行十七字目兩ノ字ノ下ニ面ノ字ヲ脫ス

成分　苦蘇花ノ主成分ハ「コシン」(Kosin) ト稱スル物質ニシテ大約三「ペルセント」ヲ含有ス此物質ハ黃色ノ結晶ヲ爲シ無味無臭其比重ハ顯著ニシテ硫酸ニ沈下シ水ニハ溶解セズ酒精ニハ極メテ微ニ溶解シ扁陣、硫化炭素、哥囉仿謨、依的兒ニハ隨意ニ溶解シ其集成ハ珊篤寧ニ類似ス Flückiger. Buri 兩氏ノ調査ニ據レバ「コシン」ハ針狀若クハ矮短ナル稜柱狀ノ結晶ニシテ其彩色一定セズ針狀ノモノハ硫黃色ニシテ稜柱狀ノモノハ濃黃色ヲ呈ス又「コシン」ハ異性乳脂酸依的兒トス又 Buchleim 氏ノ試驗ニ據レバ「コシン」ノミヲ用フルトキハ其効驗苦蘇花ヲ用フルヨリ稍々劣レリ」ト生藥學ニ云「コシン」ハ中性化合品ニ屬シ亞爾加里及ヒ强硫酸ニ溶解シ殺蟲ノ効力ヲ有スレ𪜈華本ニ比スレバ確實ナラズ故ニ之ヲ應用スルヿ稀ナリ」トアリ其他鞣酸、固体ヲナセル揮發油等ヲ含有ス

醫治効用　驅蟲ノ一藥ニシテ豚種絛蟲(Taenia Solium)裂頭絛蟲 (Bothriocephalus latus ニ用ヒテ効驗アリ然レドモ此藥下利ヲ發スルコト無シ故ニ之ヲ用ヒタル後他ノ下劑ヲ用フルヲ緊要トス或云絛蟲ヲ驅殺スルノ迅速ナルコト實ニ此ノ右ニ出ルモノ無シ本藥ヲ乳劑トナシ用フルトキハ半時間ニシテ絛蟲ヲ制殺ス的列並底油モ亦其効驗速ナリト雖圧一時間乃至一時三十分間ヲ費シ蓖麻子油ノ如キハ八時間ヲ要スト又本藥ヲ服シ間マ惡心嘔吐スル者アリ亞比西尼亞ニテハ多量ニ用ヒ中毒症ヲ發シ斃死スル者アリト

用法ハ花蕚ヲ粉末トナシ成人ハ半写ヲ用フベシ之ヲ與フルニハ先ツ下劑ヲ投シ胃ヲシテ空虚ナラシメ粉末ハ温湯半「パイント」ニ攪和シ二三回ニ服セシム飲間稍々時ヲ隔ツベシ然ラザレバ嘔氣ヲ發スルコトアリ服后三四時間ヲ經テ腸中未ダ藥効ヲ覺ヘザルトキハ蓖麻子油或ハ開達下劑ヲ用フルヲ緊要トス此藥一回服スレバ絛蟲ヲ驅除スルモノナリ

三十六　ロザ、センチホリア

羅甸名　Rosa Centifolia, Linn.

Syn. Rosa Muscosa, Mill.

薔薇科

細小ナル落葉灌木ニシテ高サ三尺餘乃至六尺直立性枝杪ヲ繁茂シ大小不同ノ刺ヲ密生シ稍々大イナル刺ハ鈎狀ヲ爲シ腺狀ノ刺ヲ錯雜ス葉ハ奇性翼狀ニシテ互生シ葉柄ヲ有ス托葉一對長圓形ニシテ先頂尖リ其邊緣葉柄ニ附着ス小葉ハ其ノ邊緣鋸齒及ヒ毛茸ヲ有ス花ハ大ニシテ重瓣常ニ下垂ス花梗ハ腺毛ヲ密生ス花瓣ハ大ニシテ非薄柔軟石竹色（薔薇色ト云フ）若クハ白色其數許多花瓣ト雄蘂ノ中間ナル器官ヲ存ス果實ハ長圓形若クハ長卵圓形

ニシテ稔熟スレバ橙赤色ヲ呈ス

本植物ハ何ナル植物ヨリ變種セシヤ未ダ詳カナラズト雖モ往時ヨリ之ヲ庭園ニ栽植シテ其花ヲ賞翫セリ

本植物ハ歐羅巴ニ産スル種類ヨリ變種セシモノニアラズシテ波斯、アッセリア (Assyria) 高加索東部ニ産スル植物ヨリ變種セシモノトス

薔薇ノ變種ハ無數ニシテ諸説アリト雖モ之ヲ詳記スルトキハ冗長ニ渉ルヲ以テ今茲ニ贅セズ

藥品

第一　薔薇花　Rosæ Centifoliæ Petala.

薔薇花ハ本植物ノ充分開展セシ新鮮ナル花冠ニシテ英國印度合衆國藥局方ニハ藥用トス日本藥局方ニハ用ヒズ

採收　薔薇花ハ新鮮ニシテ美麗ナル暗赤色ヲ呈スルモノハ其香氣顯著ナリト雖モ凋萎セシモノハ之ヲ消失ス故ニ花ノ充分ニ開展シ落花セザル前ニ採集ス又該花ヲ乾燥スレバ褐色ニ變シ其香氣ヲ消失スルニ因リ生鮮ナル花ヲ採集シ器中ニ納メ食鹽ヲ加ヘ密閉シテ貯藏スベシ英國藥局方ニ用フル薔薇水ハ生鮮ナル花部ニ食鹽ヲ加ヘ貯藏シタルモノヨリ製造ス此等ノ花部ハ專ラ培養ノ植物ヨリ採集スト

性狀　薔薇花ハ其花瓣柔軟ニシテ菲薄其生鮮ナルモノハ佳快ナル芳香ヲ有シ其味ヒ甘酸ニシテ稍々收斂性ノ苦味ヲ帶ブ

成分　林檎酸、酒石酸、鞣酸、脂肪、樹脂、砂糖及ヒ小量ノ揮發油ヲ含有ス薔薇花ノ快活ナル佳香ヲ有スルハ此揮發油ニ基因ス英國ニ於テ薔薇水ヲ蒸餾スルコト極メテ多量ナリ又薔薇水ヲ蒸餾ノ際一種小量ノ油ヲ生

ズ此油ハ香氣微弱ニシテ主モニ無臭ノ「ステロフテン」ヨリ成ルモノトス

薔薇油ハ薔薇屬諸種ノ花ヨリ蒸餾シ得タル揮發油ニシテ日本藥局方ニハ此等ノ油ヲ以テ藥用ニ供ス

第二　薔薇油　Oleum Rosæ.

薔薇油ハ其品位種々アリ坊間ニテ Otto of Rosa ト稱シ鬻クモノハ露土戰爭ノ前バルゲン山 (Balgen Mountains) ノ南際羅美里亞川ノ一市府ナルキザンリーキ (Kizanlike) ヨリ産出シ戰爭中ハ該油ノ輸出ハ一時中絶スト然レトモ或説ニ據レバ一千八百七十八年ニ於テ薔薇油ノ輸入ハ前年度ニ比スレバ只僅カニ小量ナリト又薔薇油ハ印度ヨリ多量ニ産出ス又佛國南部其他ノ諸國ニ於テ該油ヲ製造スト雖モ其産額多カラズシテ殆ンド其全量ハ自國ニ於テ消費ス又英國及ヒ合衆國ニ於テ薔薇花ニ水ヲ加ヘ蒸餾シテ薔薇水ヲ製スルコト極メテ多量ナリ此際生出スル油ハ香氣微弱ニシテ香料ニ適應セズ Baur 氏等ノ説ニ據レバ羅美里亞ニテ次ノ方法ヲ以テ薔薇油ヲ製造ス即チ第四五月ニ於テ毎朝日出前ニ花ヲ採集シ萼ヲ有スルモノヲ直チニ蒸餾シ或ハ數日間ニ採集セシモノヲ纏メテ蒸餾スルコトアリ蒸餾器ハ錫葉ヲ以テ內面ヲ被覆シタル銅製甑中ニ該花ヲ盛リ之ニ容積大約倍量ノ常水ヲ加ヘテ蒸餾ス而シテ甑ノ上部ハ眞直ナル銅製ノ管即チ冷却器ニ連接シ其冷却器ハ絶ヘズ水ノ交流スル管中ニ斜メニ貫通ス此裝置ニ大約一時三十分間熱度ヲ加ヘ其蒸餾シ來レル物質ハ硝子製長頸ノ受器ニ受ケ最初ニ蒸餾セシ部分ハ再ヒ甑中ニ戻シ次キニ蒸餾シ來レル部分ヲ取リ一兩日溫度六十度ノ室內ニ放置ス是レ油ヲ分離セシムル爲メナリ斯ノ如ク扱フトキハ薔薇油ハ液体ト爲リテ水面ニ浮游ス之ヲ分液漏斗ニ移シテ分離ス這樣ニシテ得タルモノハ坊間ニテ鬻ク所ノ薔薇油ニシテ其産額ハ極メテ多量ナリ氏ノ説ニ據レバ薔薇花ハ平均〇、〇四「ペルセント」ノ揮發油ヲ生出スト又露土戰爭前羅美里亞ヨリ年々産スル薔薇油ハ

大約四千磅ニシテ此金額六萬英金許トス

（以下次號）

一二海藻ノ報知

岡村金太郎

此頃海藻書二冊ヲ得タル處計ラズ左ノ本邦ニ產スル二種ヲ確知スルコトヲ得タレバ不取敢參考ノ爲メ紙上ニ報ズ

Delesseria Beccarii Zanardini Phycearum Indicarum p. 140. Tav. V, A, Fig. 1—3. 此種ハ今日迄ニ知ラルヽ所ニテハ唯小笠原島ノミニ產スル所ニシテ形狀大ニ亞米利加ニ產スルD. Lepriurii Mont. ニ類スレ𪜈分岐ノ法稍異リテ叉狀ナリ而ルニ此種ハ三—五叉狀ニ分岐ス此ノ故ニ余曩キニ之ヲ以テD. Lepriurii Mont. ノ變種ナラント思ヒ之ニ var. Polychotoma ノ名ヲ附シ置キタレ𪜈今此書ヲ得ルニ當テ既ニ已ニ Zanardini 氏ノ命名スル所ナルヲ知レリ氏ハ此種ノ性質ヲ左ノ如ク記述セリ

"Fronde pulvinatum cæspitosa repente, tenuissime costata, segmentis foliiformibus angustissimis lineari-lanceolatis utrinque attennatis basi substipitatis apice radicantibus proliferis, prolificationibus 3—4 polychotomis rosulatis."

氏ハ之ヲボルネオ島サラワクノ Gunong Poe 山ノ麓ナル Sodomæ 流ノ石上ニ得タリ此產地ヲ見ルニ全ク淡水カ將タ河口ノ海ニ注グ所ナルヤ兎ニ角淡水ノ多量ナル所タルヤ明ナリ蓋シ D. Lepriurii Mont. ハ淡水ノ多量ニ注グ所若クハ往々淡水ニ產スルモノナレバ此種モ亦然ルナルベシ

Callophyllis rhyncocarpa Ruprecht Tange d. Ochotskischen Meeres p. 260—Taf. 13. 体ハ扁平線狀ニシテ

下部始メ叉狀ニ分岐シ之ヨリ分岐益々密ニシテ羽狀ヲナシ腋圓ク枝端鈍圓ナリ高サ八セ、メ許巾二一三シ、メニシテ全体恰モ開キタル扇ノ如シ囊果ハ枝ノ緣邊ニ單獨若クハ二三集合シ半球狀ニシテ一條乃至四條ノ囊狀突起ヲ有シ之ニ因テ外界ニ開口ス色ハ紅色ニシテ体質柔軟ナリ此種ハ余之ヲ本年八月房州ニ採集セリ當時余ハ此種ナルヿヲ詳ニセズ普ク相房邊ヨリ志州邊迄產スル所ノ余ノ新種ナラント認メタルモノト同一視シタレ𪜈其形狀ノ少シク異ナレル所アルヲ以テ心密ニ疑ヲ懐キシガ果メ其別種ナルヿヲ知レリRuprecht氏ノ此種ヲ得タルハオコツク海ナルヲ以テ其北地ノ產タルヤ知ルベク余ノ此回房州ニ獲タルヲ以テ始トシ未ダ他所ニ之レアルヲ知ラザレ𪜈房州ヨリ以北ニハ倘ホ產スルナルベシMartens氏ハ氏ノDie Preussische Expedition nach Ost-Asien p. 118 p. 132. ニ之ヲ長崎ニ獲タリト記セ𪜈少シク疑ハシ何トナレバ北海ノ植物ニシテ遠ク西南地方迄產スルモノハ余ノ今日迄知ル所ヲ以テスルニ特リわかめアルノミ而シテ此種ノ房州ニ產スルハ蓋シ親潮即チ千島流ノ齎ス所タルベシト雖𪜈其長崎邊ニ產スルハ余ノ其理ヲ知ルニ苦シム所ナリ氏ノ認メテ此種トナスモノハ或ハ房相邊ニ普キ余ノ新種ナラント思フモノニハアラザルカ暫ク記シテ他日ノ考證ヲ俟ツ

* * *

二三植物ノ化學的實驗（承前）

醫科大學教授　下山順一郎口演

澤田駒次郎筆記

余ハ是ヨリ烏頭ニ就キ陳述スベシ、凡ソ峻烈ノ効力アル生藥類ハ其全効ヲ代表スル所ノ有効成分ヲ含有スルヲ常トス故ニ劇烈ノ作用アル類似ノ生藥類ハ其有効成分ノ如何ヲ詳ニシ且其含量ヲ詳知スルニ非ラザレバ猥

リニ醫藥上ノ應用ヲ許サヽル者ナリ然リ而シテ系裔ヲ同スル所ノ植物類ハ概ネ同種ノ化合品ヲ含有スル例之ハ亞篤魯必涅「ヒナスチアミシ」等ノ如キハ常ニ茄科植物ニ發見シ又規尼涅ハ茜草科即チCinchona及ビ Remijia屬ノ植物ニ存在シ又規那酸(Chinasäure) ノ如キモ規那樹及ヒ咖啡等總テ茜草科植物ニ固有スル酸ニシテ斯篤里幾尼涅及ヒ「ブルチン」モ亦番木鼈科屬ノ植物ニ非ラザレバ發見セザルガ如キ是レナリ然ルニ毛茛科植物ニ至テハ此原則ニ違フ所アリテ該科ノ植物類ハ啻ニ異屬ノ植物ノミニアラス亦同屬ノ植物ト雖モ各々相異ナル所ノ有効成分ヲ含有スルニ似タリ Delphinium Staphisagria(「ヒエンサウ」ノ類)Anemone pratensis (白頭翁ノ類)Hydrastis Canadensis 等ハ皆ナ是レ毛茛科屬ノ植物ニシテ各々異ナル物質ヲ含有シ而シテ又毛茛科ニ屬スル Aconitum (「トリカブト」)屬ノ植物ハ種類甚タ多クシテ其含有スル所ノ亞爾嘉魯乙度ヲ異ニス即チ左ニ示スガ如シ Aconitum Napellus, L. ハ歐洲諸國ニ産シ Aconitin ($C_{33}H_{43}NO_{12}$)ナル亞爾嘉魯乙度ヲ含有シ Aconitum Lycoctonum, L. (レイジンサウ)、本邦及ヒ歐洲ニ産シLycoctorin及ビLycosinナル二種ノ亞爾嘉魯乙度ヲ含有ス又 Aconitum ferox ナルモノアリ印度地方ニ産シ土人之ヲ毒矢ニ附シテ猛獸ヲ射殺スルニ應用ス本根中ニハ Pseudoaconitin ($C_{36}H_{49}NO_{11}$) ヲ含有ス

以上列記セル諸亞爾嘉魯乙度類ハ各々化學的本性ヲ異ニシ其毒性作用ニモ大ニ、強弱アルモノトス又「アコニツム」中毫モ毒性ヲ有セザル亞爾嘉魯乙度ヲ含有スルモノアリ即チ印度ニ産スル Aconitum heterophyllum

---

本邦ニ販賣スル「アコニツム」類ニハ

草烏頭

二三植物ノ化學的實驗

白川附子
勝山附子　本邦ニ產ス
川烏頭
大附子　支那ニ產ス

ノ五種アリ草烏頭ハ Aconitum Fischeri Reichenb（トリカブト）ノ球根ニシテ英人ポール及ビキングセットノ兩氏該根中ニ一種ノ亞爾嘉魯乙度ノ存在スルヲ發見シ之ヲ Japaconitin ト名ケ之ニ $C_{29}H_{43}NO_9$ ナル記號ヲ附セリ次ニライト氏ハ更ニ之ヲ實驗ニ徵シ其集成ヲ $C_{66}H_{88}N_2O_{21}$ トナセリ嘗テ余ガ門人藥學第三年學生池口慶三氏ハ此亞爾嘉魯乙度ノ集成以上二種ノ記號何レニ適中スヘキヤヲ確撿シライト氏ノ記號ノ果シテ正實ナルコトヲ發明セリ而シテ嘗テ職ヲ大學醫學部ニ奉ゼシ恩師ランガルト氏ハ此亞爾嘉魯乙度ハ諸「アコニチン」中ニ於テ最モ峻烈ナル毒性ヲ有スルコトヲ撿明セリ白川附子ハ其解剖學的構造ヨリ見レバ草烏頭トハ全ク異種ノ植物ニ基原スルモノヽ如シト雖𪜈亦上記植物即チ「トリカブト」ノ根ニ外ナラス草烏頭ハ稚根（子根）ニシテ白川附子ハ老根（母根）ナルノ差ヒアルノミ同種植物ニ基原スル根ニシテ斯ノ如ク其形狀ヲ異ニスルハ甚ダ怪ムベキニ似タリト雖𪜈余ハ草烏頭ノ年ヲ經ルニ從ヒ解剖學的ノ形態ヲ變遷シ白川附子固有ノ形狀ヲ呈スルニ至ルコトヲ撿明セリランガルト氏ハ白川附子中ニ含メル亞爾嘉魯乙度ハ「ヤプアコニチン」ヨリ局處ヲ刺戟スルノ力弱ク其毒性モ亦「ヤプアコニチン」ノ如ク峻烈ナラストナセリ池口慶三氏ノ撿査ニ據レバ白川附子中ニ含有スル亞爾嘉魯乙度ハ草烏頭中ニ含有スルモノト毫モ異ナルヿ無シ然レドモ此二種ノ生藥ハ大イニ亞爾加魯乙度ノ含量ヲ異ニシ草烏頭ハ亞爾嘉魯乙度ヲ含有スルコト〇、三二「ペルセント」ノ多キニ至レ𪜈白川附子ハ

僅ニ〇、〇六八「ペルセント」ヲ含有スルノミ白川附子中ニ亞爾嘉魯乙度ノ含量少キハ左ノ原因ニ歸スルモノトス

凡ソ球根類ハ榮養物ヲ貯蓄スル器官ニ屬シ植物發芽ノ季節ニ至リ其榮養物ヲ幼稚ナル新芽ニ輸送シ以テ之ヲ榮養スルノ任ヲ負フルモノニシテ新芽漸ク生長シテ花ヲ帶フルノ時季ニ至レバ其榮養物ノ大半ヲ消費シ從テ亞爾嘉魯乙度ノ含量モ亦自ラ減却スルモノナリ是レ白川附子中亞爾嘉魯乙度ノ含量少ナキ原因ノ一ニシテ第二ノ原因ハ白川附子ハ鹽水ニ浸漬シ灰中ニ埋メ亞爾嘉魯乙度ノ若干分ヲ溶出シテ之ヲ調製スルニ在リト然ルニ草烏頭ハ子根即チ幼稚ニシテ翌年發育スル新芽ヲ榮養スル目的ニ對シ充分榮養物ヲ貯蓄セルニ因リ其有効成分含有量多ヤ自然ノ理ナリ況ンヤ草烏頭ハ之ヲ調製セサルニ於テヲヤ　（未完）

◎雜錄

○バクテリアの說（前號ノ續キ）

K. D. 山人　纂譯

今ヤ動物階級ノ一歩ヲ進ミテ更ニ多數ノ細胞ヨリ組成セル動物ヲ觀察スベシ爰ニ海綿類ノ一種ニシテオリンツストイヘル動物アリ其卵ハ單一ノ細胞ヨリ成リ而ソ其外形ハ殆ンドアメバト同ジク自ラ分レテ二個ノ細胞ヲ生ス然レ𪜈此二箇ノ細胞ハ元トアメバノ如ク一箇孤立ノモノニアラス即チ相合シテ離ルヽコトナシ而シテ各細胞ハ再ビ分レ其分レタル細胞又相分レ遂ニ同一ノ形狀ヲ有セル細胞ノ小塊トナリ恰モ桑椹（クハノミ）ノ形ヲ成スニ至リテ初メテ止ム然ルニ此時一ノ變化ヲ生ジ外面ニ於ケル細胞ハ他ノ部分ニ於ケルヨリモ細長トナリ是等ノ細胞ハ其氈毛ト稱スル毛髮狀ノ突起ヲ發生シ前後左右ニ搖動シツヽ恰モ櫂ノ作用ヲナシテ身体ヲ海中ニ進行

セシム是ト同時ニ內部ノ細胞ハ互ニ排列シテ中央ニ凹處ヲ造出シ以テ一方ニ口ヲ開ク故ニ全体ヨリ見ル𪜈ハ微小ナル杯ヤウノ形狀ヲ成スモノナリ斯クテ此動物カ海藻若クハ岩石ニ附着シタル後チハ最早進行ヲ要セザルガ故ニ毛ハ自（オノヅ）ト消失スルモノナリサレド進行スルコト能ハザルヲ以テ又必用ナル食物ヲモ自ラ需ムルコト能ハズ故ニ其体ノ四方ニ小孔ヲ生ジ而シテ中央ノ凹處ニ橫レル細胞ハ發達シテ細長トナリ恰モ氈毛ノ形ヲナシ常ニ震動シテ酸素並ニ食物ヲ含メル鹹水ノ体內ニ入リ來ルヲ竢チテ之ヲ保存シ由テ以テ食餌トス是レオリンツスノ十分發育セル所以ナリ

今玆ニオリンツスノ發育間ニ起レルコトヲ述ベンニ單一ナル細胞ガ分レテ多クノ細胞トナリ復タコノ細胞分レテ夥多ノ細胞トナルコトハ前已ニ說キタルガ如シサテ斯ク漸々成長スルニ隨ヒ或細胞ニハ機關ヲ生シ又ハ迅速ノ運動ヲ成スベキ力ヲ得ルニ至リ其形狀モ亦常ニ之ニ伴ヒテ變化ヲ生スルモノナリ是即此動物カ稍々高等ノ域ニ進ミタル徵候トス

是ニ於テ吾人ハ始メテ高等動物ト下等動物ノ間ニ存スル差違ニ就キ一ノ原理ヲ知リ得タリト云フヲ得ベシ其原理トハ他ナラズ即チ細胞ノ分業是ナリ而シテ動物ノ漸次高等ナルニ從ヒ此原理益〻明確ニシテ疑フ可カラザルコト昭カナリ

上來觀察シタル點ヨリ見ルモ其劣等ナルアメバト稍々高等ナルオリンツストノ間ニ差違アルコト知ルベシ即チオリンツスニ在リテハ其迅速ニ動作スベキ細胞カ他ノ細胞ト離レテ特ニ作用ヲナセドモアメバハ則チ否ラス獨リ其動作速カナラザルノミナラスオリンツスノ如ク常ニ一定ノ方向ヲ取ルコトナシ故ニ若シオリンツスヲシテ消化力ヲ有セル細胞ヲ具ヘシムルトモ決シテ彼ノアメバノ有セザル新細胞ヲ特生スベキモノニアラス

即チ此ニ在リテハ唯其固有セル同化力ノイヨ々々發達シテ其力ノ増スアルヲ見ルノミ是レ此ノ動物カ高等ノ域ニ進ムベキ順序トス

抑動物ノ高等ニ赴クニ從ヒ細胞ハ必ス各自特種ノ能力ヲ生シ其構造モ亦從テ完全トナルモノナリ今コヽニ人類ノ發達上明カニ此原理ノ存セルコトヲ述ベントス抑人類ノ生命カ緣起スル所以ハ卵球ト稱スル單純ナル細胞ニ基ケルモノニシテ此卵球ハ高等ノ能力ヲ保有スト雖モ亦アメバニ類スルノ點少ナカラズ而シテ此細胞ハ互ニ相分レテ竟ニ一箇ノ房ヲナシテ層々相連リ叉或ル細胞ハ其數ノ增加スルニ隨ヒ特種ノ形狀特殊ノ力ヲ生ジ即チ成育体ニ於ケル種々ノ組織ト機關トヲ組成スルニ至ル畢竟スルニ人体ハ是等細胞ノ相連絡シテ組成セル一ノ社會タルニ過ギザルナリカク或細胞ハ完全ナル方法ニ由リテ特種ノ事ヲ營ム力ヲ有スレ𪜈他ノ細胞ニ在リテハ其機能大ニ之レヨリ劣レルモノアリ今十分發育セル人体ニ就テ以上二箇ノ相異ナレル細胞ノ例ヲ擧ゲンニ第一ヲ筋肉細胞トス是等ノ細胞ハ固ヨリ生命ヲ有シ猶ホアメバノ如ク一種ノ活動ヲナシテ即チ滋養、生育、作用、生殖力等ノ諸能ヲ具ヘ而モ其近傍ニ於ケル細胞ヨリ長ク延ビ外面ニ沿フテ線條ヲ生ジ斯クテ漸々細長トナリ而シテ其内部ノ組織ハ極メテ複雜ナル絲狀ヲナシ終ニ結束體ヲ作リテ筋肉ヲ組成スルモノナリ以上ハ吾人肉眼ヲ以テ見得ベキモノニシテ即チ是等ノ筋肉纖維ニ於ケル特殊ノ組織ハ亦實ニ筋肉ノ作用タル急激ノ運動ニ取リテ必要欠クベカラザルモノナリ抑筋肉細胞ガ其作用ヲナスノ能力アルハ偏ニ他ノ細胞ト共通セル他ノ能力ノ消費トニ由リテ得ルモノナリ故ニ筋肉細胞ヲ以テ全ク生殖力ヲ缺ケルモノト爲スニハアラサルモ亦殆ント之ナキモノト言フヲ得ベク叉且ツ自ラ食物ヲ取リテ之ヲ消化スルノ力ナシ故ニ食物ノ如キハ唯自然ニ來ルヲ待ツノ一途アルノミ而シテ地ノ細胞ハ胃液ト稱スル一種ノ液体ヲ具フルカ故ニ何如ナル粗惡ナ

ル食物ヲモ變ジテ善ク筋肉細胞若クハ他ノ細胞ニ養分ヲ輸送スルコトヲ得加之ナラズ又赤血細胞ト稱スルモノハ他ノ細胞ノ爲メニ酸素ヲ送致スルノ力ヲモ有スルモノナリ而シテ以上ノ諸作用ハ畢竟其職分ヲ盡サンガ爲メ其嘗テ有セシ劣等ノ作用ヲ變シテ漸次此ニ到リシモノトス又他ノ細胞ノ如キハ即チ神經ヲ組成スルカ故ニ身体ノ各部分自ラ一致シ以テ圓滑自在ノ動作ヲナシ得ルナリサレバ高等動物ニ於テ發達セル細胞ハ自己ノ爲メ又ハ他ノ細胞ノ爲メ或ハ全身ノ爲メニ動作スルモノニシテ其主要ナル勤務ハ唯タ一ノ特殊ナル物ノ爲メニ其全力ヲ注クニ在リ是ヲ以テ特殊ノ力ヲ有セザル普通ノ細胞ハ自ラ消失スルカ若シクハ其力ヲ滅セザルヲ得サルノ結果ヲ來タスモノナリ

若シ余輩ニシテ十分ノ時アラバ更ニ人体ニ於ケル劣等ナル細胞（高等ナル細胞ノ如ク組織分業ヲ有セザルモノ）ノ性質作用及ヒ其中ニ潜伏スル非常ノ勢力單純ナル生存並ニ特殊ノ能力ヲ有セサルコト等ヲ述ベ尚ホ進ンデ其無限ナル生殖力ガ何故ニ人体ヲ保存スルニ必要ナルヤ及ヒ是等ノ細胞中或種類ニ於ケル動作ハ人体ノ疾病ヲ癒シテ更ニ新組織ヲ造ルニ尤モ必要ナルコト等ノ理由ニ説キ及ボサント欲シタレ𪜈到底此小册子ノ得テ能クスベキ所ニ非ザルガ故ニ遺憾ナガラ玆ニ之ヲ略スベシ而シテ是等ノ劣等細胞ハ通常其生存單純ニシテ而モ其動作甚タ著シカラザルモノナリ然レ𪜈此ノ所以ヲ以テ直ニ無用ナリトナスベカラズ何トナレバ是等ノ細胞ハ堅硬ナル組織中ノ隅々ニ止リ或ハ斷エズ血液ノ循環中ニ漂流シテ生殖若クハ修復ノ必要起ルニ及ビ乃チ其活力ヲ現ハシテ再ヒ用ヲ成スモノナレバナリ

且是等ノ細胞ハ後ニモ述ブルガ如ク最モ必要ナル動作ヲナシ即チ人体ヲ組成スル細胞ノ中ニ侵入セントスル所ノ黴菌ヲ防クモノトス

抑々人体ニ於ケル種々ノ組織ト動作トハ之ヲ組成スル所ノ細胞ノ組織ト生命ト相合シテ現出セルモノニ過キズ而シテ是等ノ細胞ハ其自ラ造レル細胞的器械ニ因リテ更ニ合同一致シ以テ圓滑ノ動作ヲナスモノナリ去レハ生物中最單純ナルモノヽ一細胞ヨリ成レルハ勿論如何ニ完全ナル有機体ト雖モ亦此ノ細胞ノ集合体ニシテ即チ其中ノ或細胞ハ天然ノ法則ニ從ヒテ以テ其固有ノ形ト力トヲ發達シタルニ外ナラサルモノナリ故ニ設令今日ニ於テ岩石ノ歷史不完全ナリナリトスルモ生物ノ分類上尙ホ未タ完全ナル系統ナシトスルモ凡ソ動植物ノ何タルヲ問ハズ試ニ之ヲ把リ來リテ撿スル𪜈ハ萬物進化ノ理歷然トシテ眼前ニ現ハレ一瞥能ク心ニ了解シ得ベキ故ニ之ガ適切明亮ナル證據ヲ出スガ如キハ敢テ難シトセサルナリ

○ハムブリー氏及ヲリエル氏ノ生藥品及ヒ經濟植物學ニ關スル穿鑿 （前號ノ續キ）

澤田駒次郎

墨西哥、西印度、中部及南部亞米利加

墨西哥越列密 (Mexican Elemi) 本生藥ハ墨西哥ニテ「コパル」ト稱シ知ラレタル墨西哥越列密ハチヽキサカノ近方ニ產スル Elaphrium elemiferum, Royl. ヨリ生出ス本植物ノ良好ナル標本ハ大イニ要求スルモノトス

撒兒沙巴利刺(Sarsaparilla)本生藥ハ土茯苓種類ノ根ナリ坊間ニ鬻賣スルモノハ土茯苓ノ何ナル種類ヨリ製造スルヤ未ダ充分ニ知ラレザルモノトス葉花及ヒ果實ヲ包括シ而シテ莖及ビ根ヲ添ヘタル良好ノ植物學的標本ハ注意シテ保存シ之ヲ確定スル爲メ英國ニ輸送セザルベカラズ牙買加撒兒沙巴利刺ト稱スルモノハコスタリカ州中チリキ湖ノ近傍ニ生育ス而シテ若シ之レト同一ノモノナラザレバ則チ極メテ之ニ類似シタル種類ハニユーグラナダ國リヲ、マグダレナ中ノバチヨルキユニ生產ス又撒兒沙巴利刺ノ他ノ種類ハ墨西哥グアテマ

ラホンヅラス巴西等ニ產ス

イコアドル桂皮 (Cinnamon of Ecuador) 本生藥ハ錫蘭桂皮ニ類似シカネロス州ニ產スル貴重ナル樹ヨリ製造ス酒精ニ浸シ保存シタル花及ビ大イナル果實ヲ包括シタル其標本ハ大イニ要求スル所ノモノトス此果實ニ存スル蕚ハ ishpingo ノ名稱ヲ以テ香料トス

骨湃波拔爾撒謨(Balsam of Copavin)此生藥ハ巴西ノ諸部ヨリ輸入シ其性質ニ於テ稍々差異アリ而シテ Copaifera 屬ノ各種ノ產トス之ヲ生出スル樹ノ花及ビ葉若シ成ルベクハ果實ノ標本及ヒ該樹ノ生育スル所ノ地名ト共方言併セテ各種ノ拔爾撒謨ヲ得ルヲ要ス

Wood-Lignum nephriticum 此木材ハ最モ早ク亞米利加ヲ訪査セシ或ル者ニ因テ注目ザレタル此稀有ナル木材ハ墨西哥ノ產物タリ其如何ナル樹ナルヤ未ダ之ヲ詳カニセズ其浸劑ハ規尼涅溶液中ニ現出スル藍色ヲ有スル爲メ著明ナルモノトス

Satin-Woad of the West Indies. 此木材ト共ニ花及ヒ果實ヲ有スル標本ヲ要ス又西印度ノ Coca 即チ Cacus-Wood ノ根元モ亦未ダ確定セザルモノトス又西印度或ハ中部亞米利加ニテ貿易ニ供スル Lance-Wood ノ花ヲ有スル標本ハ其種類ヲ決定スル爲メニ要求ス

King-Wood, Maracaybo wood, and Mustaiba Wood. 巴西ヨリ輸入スル總テ此等ノ木材及ビ中央亞米利加ヨリ輸入スル Nicaragua-Wood ハ其植物學的ノ基本未ダ知ラレザルモノトス

Rosa-Woods of Brazil. 此木材ノ各種類ヲ生出スル樹ニ就テハ猶ホ稍々疑ヒ有リトス

吐根(Jpecacuauha) ニユグラナラニ產スル大イナル吐根ハ如何ナル植物ニ基因スルヤ宜シク之ル考究スベシ」

Pareira Brava リオ、デージヤネイロ(Rio de janeiro)ヨリ歐羅巴ニ輸出スル貿易品ナル Pareira Brava ヲ爲ス所ノ心木ヲ生スル原植物ハ未ダ確定セズ其之ヲ生育スル地方モ亦未ダ詳カナラス此件ニ付宜シク考究スヘキモノトス

規那皮(Cinchona Bark.)委内瑞辣、中 Puerto Cabello ニ於テ船積ニスル Cinchona Tucujensis ノ皮ノ佗ニ同港ヨリ輸入スル所ノ他ノ規那皮ニシテ植物學上未ダ充分ニ知ラレザルモノアリ此等ノ規那皮ノ或ル種類ハCinchona Cordifolia ノ變種ヨリ製スルモノヽ如シ其他ノ種類ハ Quinquina rose d' Ocana ト稱スルモノニ屬スルガ如シ Karsten 氏ノ記載シタル種類ト比較ノ爲メ枝及ヒ幹ノ截片（皮部ヲ有スルモノ）ト共ニ花弁ニ果實ヲ有スル眞正ノ標本ヲ得ルヲ調法トス Dr. Weddell 氏ノ說ニ據レバ贋造規那皮ノ原植物ハ其子房通常肥大ニシテ頂端ヨリ基礎部ノ方向ニ分離スル瓣ヲ有スルヲ以テ之ヲ區別ス其花ハ比較的大ニシテ香氣ヲ有セス亞爾嘉魯乙度ヲ含有スルヤ否ヲ確定スル爲メニ Buena (Cascarilla or Ladenbergia) 屬ノ此等ノ樹皮ノ眞正ナル標本ヲ得ルコトヲ頗ル調法トス其皮部ニハ花ヲ有スル標本ヲ添ヘザルベカラズ化學的試驗ノ爲メ各種ノ皮樹ノ數磅ヲ要求ス

Para Phatany 本品ハ巴西ノパラヨリ輸入スル根ニシテ藥學雜誌第壹卷八十四號（一千八百七十年）（英國藥學雜誌云ヲ）ニ記載セリ之ヲ生出スル植物ヲ確定セザルベカラズ此目途ノ爲メニ其完全ナル根ヲ有スル良好ノ標本ヲ要求ス

Milk or Kow tree of Para. Massaranduba ト稱スル樹ノ花及ヒ果實ヲ有スル標本ハ其種類ノ精密ナル決定ノ爲メニ要用トス

彈力性護謨(Cantchonc or India-ruber.)中央亞米利加ノ彈力性護謨ハ總テ Ule-ule 樹ト稱スル Castillo aelastica ヨリ採集スル者ト假定ス又之レト同屬異種ニ〆彈力性護謨供給ノ根元ナル本植物ト誤認スベキ類似ノ樹アルヤ未ダ知ルヘカラズニユー、クラナラニハ彈力性護謨ヲ生スル翼狀葉ノ樹アリト云フ如何ナル樹ナルヤ Hevea (Siphonia) Braziliensis. 本植物ハパラ產彈力性護謨ノ重ナル基因トス然レドモ H. lutea, H. discolor, H. pancifolia, H. rigidifolia ノ如キ他ノ種類ノ樹モ亦彈力性護謨ヲ生出スト此等ノ各樹ヨリ各生產物ヲ知リ又其良好ノ標本ヲ得ルヲ企望ノ最ナル者トスペルナムブーコ及ヒシアラニ於テ甚タ良好ノ彈力性護謨アリ之レ巴西人ノ Mangaba ト稱スル Hancornia Speciosa ヨリ生產スト云ヘリ眞正ノ標本及ビ其報告ヲ要求ス又英領及ヒ佛領歪阿那ニ彈力性護謨樹アリ其完全ナル標本及ヒ其各種ノ生產物ヲ併セテ之ヲ蒐集スベシ　（完）

○曲亭馬琴翁調製ノ腊葉帖

ハ題シテ枝葉折叢ト曰フ余ハ舊臘此稀有ノ一册ヲ饗庭篁村氏ヨリ得タリ氏ノ說話ニ據レバ此帖ハ他ノ曲亭翁遺物ト共ニ翁ノ遺族ヨリ購得シタルモノニシテ都合八册アリシガ大抵紙魚ノ蝕フ所トナリ已ニ其形ヲ失ヒ僅ニ一册ノミ原形ヲ存セリ而シテ表題ノ文字ハ翁ノ眞筆ニシテ帖中ノ植物ノ記名ハ翁ノ孫興國ノ書スル所ナリト云フ橫册ニシテ縱一尺橫一尺四寸アリ表紙ハ厚キ澁紙ヲ用ヒ其表面ノ右端ニ幅二寸長八寸五分ノ紙片ヲ貼付シ幅一分五厘程青色紙ヲ以テ緣取リ上部ニ枝葉折叢下部ニ第一ト書セリ帖ノ用紙ハ半紙ニシテ都テ二十二枚アリ每葉通例二品ヲ並ベ貼リ藥袋紙ヲ幅一分許ニ細ク切リタル者ヲ用ヒテ其上ヲ押ヘ貼ルコト今日ノ腊葉ニ似タリ帖中ニ收載セル植物ヲ擧グレバ左ノ如シ

五味子　海松子　仁之由津　綿麥兒
槐　欒華　江戶賽　菟手兒苗

宇之巳呂之
增上寺白蘓
伊豆椰葉
女眞化木
近江辛崎松
伊勢白子觀音
名木不斷櫻
矮柏
千頭柏
接骨木
竊衣
徐長卿
鹿蹄草
遠志（鼠山產）
茜草
知也之也乃幾
杜板木
百芷草
忍冬
莽
赤者使者
九牛草
粘魚鬚
及巳
絲喬喬
漏蘆
以和加津艮
鼠麴草
稀薟

以上ノ標品中ニハ記名ノ適當セザル者モアレ𪜈今ハ只其原名ヲ記載セリ翁ノ文名ハ已ニ海內ニ遍シト雖モ其本草ニ注意セルハ人多ク知ラズ聊記シテ異聞ヲ弘ムト云フ

○ねじき中毒

數年前僚友勝島君一枝ノ木葉ト記事一篇ヲ携ヘ余ニ示シ樹種ノ名ヲ質サル受テ之ヲ見ルニかしをしみ一名ぬじきナリ氏ノ說ニ一日伊勢國明野牧場ニ於テ此木葉ヲ苅リ之ヲ山羊ニ給セシニ忽チ中毒症ヲ發シ二頭ノ斃死ヲ致セリト云フ按スルニあせび。きばなしやくなげ其他つゝじノ種類ノ毒分アルハ本邦ノ諸書ニ記載シ世人モ亦好ク其事實ヲ知レ𪜈ぬじきノ毒ニ至リテハ余輩ノ未知ニ屬セリ依テ同氏ニ請フテ該記事ヲ轉寫シ同學ノ諸氏ニ報セント欲シ納メ置キタルモノ本年ニ至リ篋底ヨリ出タリ左ニ掲ゲ參考ニ供ス

山羊斃死記事

本年（明治廿二年）五月十日午后三時牧夫偶方言「アカギ」（莖赤色ナルヲ以テ名クルカ）又「マヽコタヽキ」ト稱スル植物ノ新葉ヲ刈リ來リ山羊ニ與ヘシニ凡五時間ヲ經テ三頭ノ山羊病狀ヲ呈スルヲ發見シタリ其症候左ノ如シ

大聲哀號シ眼大開シテ獰相ヲ呈シ口黄色ノ泡沫ヲ出シ頻リニ咬牙シ吐セントシテ吐セザルノ狀ヲナシ屢々腹部ヲ顧盻シ又頸ヲ反張シ初メ行歩跟々タリシガ遂ニ麻痺シテ起ツ克ハズ心悸亢盛呼吸促迫セリ一頭同夜十二時一頭ハ翌朝七時遂ニ斃ル死ニ至ルマテ大聲哀鳴シテ止マズ

右病羊診察ノ際隣舍內ニアリシ一山羊初メ毫モ病狀ナク健歩セシモノ卒然哀鳴スルヲ以テ就テ熟察スルニ行歩蹌踉トナリ忽チニシテ起ツ能ハズ從テ前記同樣ノ症候ヲ呈セリ然ルニ多量ヲ食セザリシ者歟或ハ醫療功ヲ奏セシモノカ三日ヲ經テ幸ニ快癒スルヲ得タリ然レ𪜈妊娠中ナリシ爲流產ヲ致セリ

死後凡六時間ヲ經テ解屍シ其所見左ノ如シ

第一胃第二胃共ニ「アカギ」ノ新葉ヲ充タシ第三胃ハ乾燥シタル物第四胃ハ液体トナリタル食物ヲ含有シ他ニ異常ナシ十二指腸ノ粘膜ハ暗黑色ヲ呈ス呼吸器ニ於テハ氣管支粘膜面充血シ肺臓ハ暗紫色ヲ呈シ忽チ水底ニ沈降スル部アリ循環器ニ於テハ左右心房心室共ニ凝血ヲ充タシ心內膜及心膜下ニ溢血斑ヲ認メ神經系ニ於テハ腦髓著ルシク充血シ后腦面及腦室內ニ血液ノ滲漏アルヲ見タリ」以上二件　白井　報

○三崎ノ冬ノ採集

マ、サ、生　報ズ

三崎ハ三浦郡ニ屬ス其地タル相州ノ南端ニ在ルヲ以テ氣候ハ東京ナドヨリモ頗ル温暖ナリ余ハ昨年十二月二十六日ヲ以テ同地ニ着シ先ツ土地ノ人ニ氣候ノ寒暖ヲ尋ネタルニ此冬ニナツテカラ氷ノハツタヿハケフマデ

ニ一度ホカアリマセンヤートノ答ヲ得タリ又余ハ一月五日ヲ以テ同地ヲ去リタルニ其近邊ニハ已ニ蕓薹ノ花ヲ著ケタルヲ目擊セリ三崎ノ氣候ハ此ノ如クナルニ因リ深冬ト雖尙幾種ノ開花シタル植物ヲ採集スルヲ得ベシ余ノ同地ニ滯在シタル間ハ專植物ノ採集ニ從事シタルニアラズ隨テ余ノ得タル種類ハ極メテ少ナシサレドモ僅ニ海路半日程ヲ隔テタル東京ニアリテハ自生ナクシテ三崎ニハ自生スルモノモアリ彼ニハ稀ニシテ此ニハ多キモノモアリ相比較スルトキハ興味ナキニアラザルベシ因テ本誌ノ餘白ヲ借リ採集シタル顯花植物ノ名稱ヲ摘記シ以テ同地ニ遊バレタル諸君又ハ之ニ遊バントスル諸君ニ就キテ其目錄ノ訂正增加ヲ乞ハントス元來三崎ノ地ハ海產動物ニ富ムヲ以テ帝國大學ニテハ夙ニ臨海實驗所ノ創設アリ實ニ動物學者ノ樂園ト稱スルモ可ナランカ然レドモ同地ノ富ハ特ニ動物ニ限ルニアラズ其近傍ノ顯花植物ニ就テ探求スルモ愉快ナルベシマシテコヽカシコノ岸邊水底ニハ藻類ノ繁茂スルアリ少シク表面アツメヲナスモ無數ノ顯微鏡的藻類ニ邂逅スルヲ得同地ノ如キハ植物學ヲ脩ムル人々ニシテ之ニ遊ブモ亦益ヲ得ルヿ少ナカラザルベシ

Pittospoum Tobira, Ait.	トベラ

其種子ノ鳥糞ニ混シタルモノ海岸ニ多クアリ之ヲ見ルニ赤色ノ被包ヲ存シ少シモ消化ヲ受ケザル如シ

Stachyurus Præcox S.et Z.	キフヂ
Ilex integra, Thunb.	モチノキ
Euonymus japonicus, Thunb.	マサキ
Rhaphiolepis japonica, S. et Z.	シヤリンバイ
Tetragonia expansa, Ait.	ツルナ

Angelica kiusiana,Max.	アシタバ
Oldenlandia paniculata, L.	ソナレムグラ
Chrysanthemum marginatum, Miq.	イソギク(開花中)
Crepis integra, Miq. var. platyphylla, F. et S.	ワダン(開花中)
Vincetoxicum amplexicaule, S. et S.	ロクオンサウ
Piper Futo-Kadsura, S. etZ.	フウトウカツラ
Litsea glauca, S.	シロダモ
Daphne Pseudo-mezereum, A. Gray.	オニシバリ
Elæagnus macrophylla, Thunb.	マルバグミ
Myrica rubra, S. et Z.	ヤマモヽ
Alnus firma, S. et. Z.	オホバミネバリ
Juniperus littoralis,Max.	ハヒネズ
Narcissus Tazetta, L. var. chinesis, Roem.	スヰセン
Crinum asiaticum, L. var. diclinatum, Kunth.	ハマオモト

○原形質及ビ感應性 （前々號ノ續）

池野成一郎

原形質ノ造搆ヲ研究セルモノ實ニプリングスハイム氏(Paringsheim)ガ千八百五十四年ニ於ケル植物細胞ノ研究ヲ以テ嚆失トス氏ハ原形質ヲ皮質ト粒質トニ區別シタルガ其區別ハ今尙人ノ採用スル所ナリ皮質ハ細胞

質ト細胞膜若クハ虚胞トノ境堺ニシテ今世學者ノ唱フル所ニ因レバ唯細胞質ノ緻密ナル部分ナリ、其外學者ガ細胞質ニ就キテ論ゼル造搆ニハ全体ヨリ論ズレバ左ノミ緊要ナルヿナシ又細胞質ニ一種特異ノ造搆アリテ特異ノ官能ヲ有スルヿ往々コレアリ殊ニ動物ノ組織ニ於テ然リトス抑細胞質ノ泡沫狀ニシテ絲狀ノ造搆ヲ有スルヿハ多ク人ノ論ズル所ニシテ人ハコレヲ以テ細胞質ノ一定セル堅固ノ造搆ヲ有スル證左ト爲セ𪜈余ハ以テ然リト爲サズコレタヾ固体及ビ流動体ガ常ニ其分布ヲ變ジテ止ムヿナキノ證左ナリトスルノミ乞フ見ヨ粘液菌ノ「プラスモジア」ニ於ケルガ如ク輪藻類ノ細胞內ニ於ケルガ如ク其外種々ナル水草ノ細胞內ニ於ケルガ如ク細胞質ノ急激ニ流動スルヿヲ以テ之ヲ考フレバ其造搆ノ堅固一定セルヿハ實ニ考定シ得ベカラザルニアラズヤ況ヤ啻ニ細胞質ノ大塊ガ運動スルノミナラズ此大塊內ニ含有セル小粒モ運動スルヿヲ明瞭ニ觀察シ得ベキニ於テヲヤ流動スル原形質ハ實ニ其狀一種ノ液体ニシテ固体ノ如キ狀更ニ之ヲ見得ベカラズ若シ造搆ノ堅固ナルヿアレバコレ一種特異ノ場合ニシテ細胞質ガ常ノ官能ヲ有セザル時ナリ

細胞核ハ細胞質ト異リ近世ノ研究ニ因レバ堅固ナル造搆ヲ有スルモノタルヿ明ナリ細胞核ハ細微ナル糸ヨリ成リ此糸相集テ網狀ヲナス細胞核ノ斯クノ如キ堅固ナル造搆ヲ有スルヿハ其生物体中ニ於ケル官能ヲ爲サシムルニ能ク適當ス而シテ亦細胞質ノ液体狀ヲ爲スヿモ能ク細胞質ノ官能ニ適當ス蓋細胞核ハ生殖上遺傳ノ性質ヲ有スル者ニシテ一生物ガ發育スルニ當リ必ズ常ニ一定ノ方向ヲ取テ誤ラザルモノ細胞核ノ作用ニ因ル即蕓卵ヨリハ常ニ蕓ヲ生ジ牡丹ノ種子ヨリ常ニ牡丹ヲ生ジ決シテ誤ラズ又生物体ノ器官ノ發生スルヤ其順序整然トシテ紊亂スルヿナキモノ皆コレ細胞核ノ作用ナリ其官能タル斯クノ如クナルガ故ニ其造搆ノ堅固ナル敢テ怪ムニ足ラズ之ニ反シ細胞質ハ其官能稍々受身ノ狀アリ卽細胞核ガ起セル仕事ヲ續ケ或ハ生物体ノ榮養ヲ司

ルニアリ而メ動物ノ筋肉ニ於ケルガ如ク細胞質ガ一定不變ノ造構ヲ有スルヿハコレ其官能ノ常ト相違セルニ因ル動物界ニ於テハ体中ノ器官ニ於ケル分業盛ナルガ故ニ細胞質ガ特異ノ造構ヲ有スルヿ屢次コレアリトス植物界ニ於テハ斯クノ如キヿ更ニコレナキナリ

然レ𪜈植物細胞ノ細胞質ニハ特異ノ有形物質アリテ之ニ屬スコレ細胞体ノ生活セル成分ニシテ原形質ノ内ニ數ヘベキモノナリ之ヲ色素体ト稱ス此ノ物質タルヤ未ダ學者ノ深ク細胞含有物ノ何物タルヤヲ知ラザル以前ヨリシテ人ノ知ル所ナリシ盖色素体ノ内ニハ彼ノ植物ニ緑色ヲ附與スル所ノ緑色体モ屬スルガ故ニ早ク人ノ之ヲ知リタルモ道理ナリ則カルヽ、スプレンゲル氏(Carl Sprengel)ハ一千八百〇二年ニ於テ葉緑粒ヲ論ジトレヰジヌス氏ハ一千八百〇六年ニ於テ之ヲ論ジ其澱粉粒ニ類似シ唯其緑色ナルニヨリ之ト區別シ得ベキヿ又其新ニ細胞ヲ造成スルノ力アルヿヲ說ケリ葉緑粒ガ蛋白質ニシテ其緑色ナルハ之ニ緑色ノ物質ノ混交セルニ因ルヿヲ論ジタルモノゴットフリード、ラインホールド、トレヰラヌス(Gottfried Reinhold Treviranus)氏ニシテ一千八百十四年ノヿトス之ヲ以テ生活セル細胞含有物ト爲シタルハネーゲーリ及ビフオン、モールノ二氏ニシテ一千八百五十年ノヿトス又色素体全体ヲ詳細ニ研究シタルハ近來ノヿニシテ實ニヰルヘルム、シンペル氏(Wilhelm Schimper)トス氏ハ植物ヲ緑色ナラシムル所ノ葉緑、花及ビ果實ヲ黄色或ハ紅色爲ナラシムル所ノ色素体及ビ植物ノ内部ニアリテ澱粉ヲ造成スル所ノ無色ノ体、コノ三者ノ同一源ヨリ生ズルモノタルヿヲ確認セリ凡ソ此等ノ体ハ其源ニ溯テ之ヲ考フレバ皆幼若ナル細胞内ニアル微細無色ノ原形質体ヨリ分裂シ來リタルモノニシテ其官能ノ如何ニ因リ或ハ葉緑トナリ或ハ他ノ体トナルナリ若シ植物体ノ周邊ニアレバ緑色トナリテ光線ヲ利用シ大氣中ノ炭酸瓦斯及ビ植物ガ土壤中ヨリ吸收スル所ノ水分幷ニ鹽分ヲ分解シ以テ

有機質ノ養分ヲ造成スルノ力ヲ得ルニ至ル植物ハ此養分ヲ以テ生活シ又動物ハ自ラ養分ヲ造成スルノ力ナキガ故ニ植物ガ造成シタル養分ヲ取テ以テ生活ス從來ノ研究ニ因レバ炭酸瓦斯、水及ビ無機鹽類ヲ類化スルノ力ハ唯植物ノ綠色ナル色素体ノ有スル所ナリ但近來土壤中ニ生活セル一種無色ノバクテリアニモ幾分カ此力アルモノヲ發見シタリ又花或ハ果實ヲ彩色スル所ノ色素体ハ動物ヲ招誘シ之ヲシテ或ハ花ノ授精ヲ媒介セシメ或ハ種子ヲ播布セシムルノ官能アリ植物体内ニアル無色ノ色素体ハ既ニ類化セラレタル物質タル糖分ヨリ再ビ澱粉ヲ造成シ以テ組織内ニ貯蓄シ以テ後日ノ用ニ供セシム

光學的ノ器械精巧トナリタルニ因リ細胞含有物ノ研究一新路ヲ得タルガ如ク又研究ノ方法近來新面目ヲ開キタルニ因リ細胞論大ニ進歩ノ狀ヲ呈セリ千八百七十年ノ初メ迄ハ植物家動物家ニ論ナク皆其研究物ヲ生ノマヽニテ觀察シタリ思ヘラク生ノマヽニテ撿セズシテ藥品等ヲ用フレバ自然ニナキ物ヲ生ズノ患アリト然レ𪜈學術ノ進歩ハ世上ノ潮流ヲ堰キ止メタリ植物學上ニ於テハアルコールヲ用ヰテ物質ヲ固定スル法大ニ用ヰラレ其外種々ノ方法發明アリテ遂ニハ一個ノ技術トハナリヌ蓋アルコールハ蛋白質ヲ凝固セシムルノ力アルガ故ニ急ニアルコールガ植物体ニ觸ルレバ細胞含有物ハ全然其形狀ヲ變ズルヿナクシテ之ヲ固定シ得ルナリ生ノ物体ヲ用フレバ害ヲ避ケントシテ却テ害ヲ受クルノ患アリ即生ノモノヲ用フレバ其觀察スル所ハタヾ打崩レアル物体ノミ今日ニ至リテハ固定シタル物体ヲ用フルガ故ニ其物ノ構造ハ整然トシテ更ニ亂ルヽヿナシ爾後固定ニ用フル藥品ノ數ハ大ニ增加シ尚又細胞ノ種々ノ成分ハ各々色素ヲ吸收スルノ性質アリテ各々其度ヲ異ニスルヿヲ發見シタレバ今ヤ色素ヲ用ヰテ以テ此等ノ成分ヲ明瞭ナラシムルニ至レリ、此等ノ成分ニシテ其光線屈折ノ力等シキモノハ從來區別シ難カリシモ今ハ之ヲ染メテ其色彩ヲ異ニセシメ以テ之ヲ明視スルヲ

得ルニ至レリ以上陳ブルガ如キ進歩セル方法ヲ使用シテ近來原形質ノ一新成分ヲ發見セリ之ヲ「セントロゾーム」ト爲ス「セントロゾーム」ハ極テ微細ナル物ニシテ細胞內ニ於ケル力ノ中心トモ云フベク細胞ノ増殖ニ於テハ與テ大ニ力アルモノナリ

因是觀之今日ノ學術上ヨリ考フルニ生活セル原形質ノ成分左ノ如シ細胞質コレ細胞体ノ主ナル部分トス、細胞核、色素体及ビ「セントロゾーム」コレナリ此等ノ成分ヲ合稱シテ原形質ト稱ス蓋皆細胞体ノ生活セル成分タリトノ謂ヒナリ故ニ次ノ如ク云フコトヲ得ベシ凡細胞体ノ生活セル成分ハ皆原形質ニ屬スト

植物ノ細胞体ニハ右ノ外尚生命ナキ物体モ屬スコレ生命ナキモノナルガ故ニ原形質ニ屬セズ澱粉、脂肪滴、「アルーロン」粒、結晶体、細胞液及ビ之ニ類セルモノヽ如シ

原形質ガ細胞質、細胞核、色素体及ビ「セントロゾーム」ニ分異セルハコレ細胞內分業ノ主意ナリ即細胞核ハ發生作用ヲ主宰シ尚又新陳代謝作用ニ關係アリ色素体ハ光線ノ力ヲ假リテ無機抱合物ヲ原形質ニ榮養スベキ有機抱合物ニ變ズルノ官能アリ蓋是有機質ヨリシテ原形質ハ呼吸ニ因リ生ゼル損失ヲ償ヒ其体ノ量ヲ增シ植物体ノ造構ヲ全フスルヲ得ルナリ尚又色素体ハ溶解セル含水炭素ヲ再ビ有形ノ含水炭素ニ變ズルノ力アリ糖分ヲ變ジテ澱粉ト爲スカアリ、細胞質ハ先ヅ植物細胞內ニ於ケル新陳代謝ノ機關タリ且其物理的ノ性質タル液体狀タルガ爲細胞間ノ物質交換ヲ整正スルノ力アリ細胞液ガ細胞膜ニ對シテ行フ所ノ壓力ハ植物体部ノ生長ノ主源タリ而シテ此壓力ヲ主宰シ整正スルモノ細胞質ノ力ナリ、又「セントロゾーム」ハ細胞核及ビ細胞質ノ分裂作用ヲ主宰スル力ノ中心タルガ如シ

植物原形質ニ於ケル分業ニ關スルモノハ以上ノ機關ノミニテ他ニ之ニ關スル機關無キヤ否ヤコレ今日ニ於テ

断言スベカラズ既ニ此原形質内ニ近來微細ナル物發見セラレタリ之ヲ「グラヌラ」ト稱スコレ又恐クハ特異ノ官能ヲ具フルモノナラン

（以下次號）

○糊粉粒 Aleurone-grains.

平瀬作五郎

とうごまノ種子内ニ貯積セル糊粉粒ハ其大ナル、其「グロボイド」及ビ「クリスタロイド」ノ明瞭ナル、其粒々打揃ヒテ顆群鮮明ナル等ノ諸點ヲ以テ糊粉粒ノ摸式標品トシテ稱セラル丶價値ハ慥ニ存スルナリ未タ嘗テ全然其右ニ出ルモノヲ撿出シ得ザルナリ去レバ通常ノ植物學敎科書ニ於テハ糊粉粒ノ説明ニ當リテ例トシ擧ケタル處ノ圖大概蓖麻子ノ糊粉粒ニ非サルハナシ而メ蓖麻和名とうごまハ本邦普通ニ栽培スル植物ニアラザレバ地方ニヨリテハ本標品ヲ得易カラザル處アリテ爲メニ敎授上不便ヲ覺フルヿアリト聞ク余近頃種々ノ實驗法ニ傚ヒ手近ナル植物ニ就テ實驗シタルモノアリ今私ニ本誌ノ餘白ヲ借リテ其備忘錄ニ易ントス若シ夫レ前聞不便ヲ補フノ一助トモナルヿアラバ望外ナリ

細胞含有物中ニ「プロテイド」（譯シテ蛋白質類ト云フ）ト稱スル混合物ノ存スルアリ

「プロテイド」ヲ分チテ二類トス曰ク稀薄剝篤亞斯液若クハ食鹽ニ溶解シ得ルモノ（甲）、曰ク剝篤亞斯强液ヲ以テ沸騰スルニアラザレバ溶解シ能ハザルモノ（乙）是ナリ其甲ハ Hoppe-Seyler 氏ノ所謂 Globulin ニシテ乙ハ Reinke 氏ノ Plastin ト稱スルモノナリ

蛋白質類ハ成長ノ盛ナル嫩幼細胞中ニハ多量ニ存在スレドモ細胞老成スルニ從ヒテ漸次減滅シ生長止ルニ及ビテハ單ニ原形質「プラスチン」網狀トナリテ存ス是即「プラステイン」ナリ而メ原形質中眞ノ生活力ヲ有スルハ此部分ナルベシト云フ「グロブリン」若クハ「ペプトーン」ハ死物蛋白質即チ「ハンスタイン」氏ノ enchylema

ナリ

附言　「ペプトーン」ハ植物躰中何處ノ部分ニモ必ス存在スルモノニ非ス種子中ニハ多量ニ存スルヿ通常ナレ𪜈其他ノ部分ニハ側ヘ含蓄スルモ極メテ少量ナリ而ソ「ペプトーン」ハ水ニ溶解シ其溶液ヲ沸騰セシムルモ沈澱物ヲ生ズルヿナシ

成熟セシ種子中ニハ「グロブリン」及ビ「ペプトーン」ノ粒狀体ヲ貯積スルモノアリ名ケテ糊粉粒ト云フ一千八百五十五年ニ Theodore Hartig 氏之ヲ發見シ且研究セシヲ以テ首トス後 Sachs, Pfeffer, Vines 及ビ其他ノ諸氏之ヲ研究セラレタリ

糊粉粒ハ棕櫚科、胡盧科、繖形科、茄子科、大戟科、及ヒ其他ノ種子中ニ貯積スル處ノモノナリ而ソ未タ曾テ種子外ニ存在セルヿヲ發見セシ者ハ非ザルナリ

糊粉粒「ペプトーン」ニ「グロブリン」ニ「アルビユミネード」(蛋白樣質)ヨリ成ル而ソ脂肪ニ富ミタル種子中ニ存在スルヲ以テ常トスレ𪜈澱粉ヲ有スル種子中ニモ存スルヿアリ只乙ハ甲ニ存スル者ヨリモ小ナリ

糊粉粒ハ一個若クハ數個ノ蓚酸石灰ノ結晶ヲ含ムヿアリ而ソ大概不定形ノ礦物塊即チ「グロボイド」ヲ有ス(ペフフヘル)氏ノ說ニヨレハ「グロボイド」ハ重燐化石灰及ビ麻屈涅矢亞ヨリ成ルト云フ)又往々蛋白質類ノ結晶狀体ノ存スルヿアリ此結晶樣体ノ鑛物結晶ト異ナレルハ膨脹性ヲ有スルニ在リ故ニ之ヲ假晶躰 Crystalloid ト稱ス

「バインス」氏ハ「グロボイド」及ビ蓚酸石灰ノ結晶ヲ除キテ糊粉粒ノ化學的性質ヲ說明シテ曰ク糊粉粒ハ三種ノ蛋白質ヨリ成ル其一ハ水ニ溶解シ之ヲ沸騰セシムルモ沈澱物ヲ生ゼザル蛋白質即「ペプトーン」群、其二ハ

水ニ溶解セズ然レ𪜈十「ペルセント」又ハ飽充食鹽水ニ溶解スルモノ即「グロブリン」群、其三ハ水及ヒ食鹽液ニ溶解セズシテ「アルカリ」ニ溶解スル蛋白質即「アルビユミネード」トス之レ「グロブリン」ヨリ變成シタルモノナルベシ、而シテ假晶体ハ「グロブリン」若クハ「アルビユミネード」ヨリ成ルモノナリト

糊粉粒ハ「ヨード」ニテ帶褐黄色ニ染色シ、グリセリンニ溶解セズ、十「ペルセント」ノ食鹽水ニ溶解スルモノアリ或ハ無水アルコールニ浸シテ后飽充食鹽水ニ浸セハ直チニ溶解シテ「グロボイド」ヲ存留スルモノアリ或ハ前兩方ニ反應ヲ呈セザルモ稀薄加里液ニテ溶解スルモノアリ而〆燐酸ソーダノ稀薄水液或ハ酒*石酸アンモニヤ水液ニテハ假晶体ヲ存留シテ「グロボイド」等ヲ溶解ス

糊粉粒ハ先ツ無水「アルコール」ニ浸スヿ數時乃至數十時ノ後「ヘイマトキシリン」ニ浸スヿ數時ニシテ染色セハ之ヲ水ニテ洗ヒ次ニ無水「アルコール」ニ移シ更ニ丁字油中ニ投シ終ニ「カナダバルサム」ニテ裝置シ「プレパラート」ヲ作ルベシ或ハ「†ピクリツクアニリンブルー」或ハ「アシドフクシン」ニテ染色シテ后亦皆前同法ニテ「プレパラード」ヲ作ルベシ又或ハ無水アルコールニ浸スヿ二十四時間ニシテ「タンニン」酸ノ二十五「ペルセント」水液中ニ浸スヿ一時間之ヲ水ニテ洗淨シ更ニ重「コロム酸ポッタース」水液ニ投シテ褐色若クハ黄色ニ染色スルヲ以テ適度トス而〆之ヲ「グリセリン」ニテ裝置セハ鮮明ナル「プレパラート」ヲ得ベシ、又或ハ前法ノ如ク「タンニン」ニ浸シタル后之ヲ洗淨シ硫酸鐵ノ十乃至二十「パルセント」水液ニ一時間浸シ暗青若クハ殆黑色ヲ呈スルニ至リテ之ヲ洗ヒ無水「アルコール」中ニ投シ後丁字油ニ移シ更ニ「バルサム」ニテ裝置スベシ又或ハ無水「アルコール」ニ浸シタル后「ボウラツクスカルミン」液ニテ染色シ「グリセリン」ニテ裝置セバ是又鮮麗ナル「プレパラート」ヲ得ベキナリ　（＊†ヲ除ク外ハ摘譯）

燐酸「ソーダ」或ハ酒石酸「アンモニヤ」水液ニテ「グロボイド」等ヲ溶解シ之ヲ水ニテ洗淨シ次ニ「ヘエマトキシリン」液ニテ染色セハ「クリスタロイド」ノ「ペレパラート」ヲ製スベシ

以上列記シタル實驗法ニヨリテ撿セシモノ左ノ如シ

マツ　ゴエフマツ　アブラギリ　ゴマ　ムベ　トウグワン　キウリ　マメ　ヒマワリ　トウナス　ヘチマ
ヒヤウタン　カラスウリ　クルミ　サクラ　ナシ　アサ　サンセウ　エゴマ　ホホノキ　ツルレイシ等ナリ

前記ノ中「グロボイド」假晶体ヲ有シ顆粒ノ大サ打揃ヒテ鮮明ニ見ルヿヲ得ルモノハとうゐす　へちま　まつ等ナリからすうりハ顆粒大ニシテ能ク揃ヒタレ圧「グロボイド」小ニシテ且假晶体ノ稜角明瞭ナラザリシ而メ假晶体ヲ有セザルモノニアリテハまめヲ最モ宜シトス其顆粒大ニシテ能ク染色ス但飽充食鹽水ニハ溶解セスシテ稀薄カリ液ニハ溶液シタリ

（以下次號）

○あんとくめノ新産地ニ就テ

岡村金八郎

曩ニ余ガ本誌第六巻第五十九號（明治廿五年一月十日發兌）第一―六頁ニ記述シタルあんとくめノ材料ハ田中芳男先生ヨリ余ニ贈ラレタル數多ノ標品ニ就テ調査シタル所ナレ圧其後昨年夏六月中友人鏑木余三男氏ガ水産調査ノ爲メ鹿兒島縣下巡廻中薩摩ノ西岸阿久根ニテ採集シテ余ニ送ラレタル二品ハ余ノ從來見ザル所ノ大ナルモノニシテ一ハ体ノ全長四十二「セ、メ」巾ノ最モ廣キ所四十「セ、メ」ニシテ短卵形ヲナシ一ハ長サ四十八「セ、メ」巾仝上三十三「セ、メ」ニシテ長卵形ヲナセリ且ツ二品圧体ノ兩縁缺刻甚シカラズシテ恰モ波狀ノ不整ナルモノヽ如シ（尤モ一二片稍長キモノハアレ圧）然ルニ麑島縣水産會幹事水産傳習所第二回卒業生高橋新太郎氏ノ話ニ依レバ同縣下ニ尚ホ大ナルモノアリテ往々長サ三尺余巾一尺程ノモノアリト而シテ此種ハ本邦西南

部ノ沿岸ニ生スル處ニシテ殊ニ伊豫及ビ土佐ノ産其名高ククエルマン氏ノ說ニ依レバ又五島及ビ肥前野茂崎（前號ニ長州トシタルハ誤リ）ニモアリト右高橋氏ノ話ニハ薩摩ノ西海岸泉郡（阿久根ヲ含ム）即チ肥後境ニ多ク甑（コシキ）島ニモアリ又鹿兒島灣口山川村ト其對岸小根占村沿海ニモ少シク存スト然レ𪜈之レ只氏ノ話ノミニシテ未ダ其地ノ産ニ係ル標品ヲ得タルニアラザルヲ以テ一ニ信ジ難シト雖モ恐ラクハ然ラン果シテ然ラバ薩摩以南諸島ニモ或ハ存スルヤモ知ルベカラズ暫ク茲ニ記シテ他日ノ考證ヲ俟ツ

〇左ノ一篇ハプフロエスソル、クエルマン氏ノ著ニ係ル Om Beringhafvets Algflora Stockholm 1889 中ノ一章ニシテ此書ハ余ノ藏スル所ナレ𪜈記述スル所ノ語悉クスヱーデン語ナルヲ以テ了解スル能ハズ甚ダ遺憾トナセシガ幸ニ千八百九十年發兌 Botanische Centralblatt 第四十一卷ニ之ガ獨逸文ノ譯アリシヲ以テ先項拔萃シ置キタリシガ此頃少シク閑ヲ得タレバ譯シテ紙上ニ報ズルヿトハナセリ

ベーリング海トオコツク海トノ海藻ノ關係ニ就テ

岡村金太郎譯

曩ニループレヒト氏ハオコツク海ノ海藻ヲ研究シ說ヲ爲シテ曰クオコツグハ海藻ノ分布上其近隣ノ海ニ類似スルヿナク却テ一個特立ノフロラヲ爲スト氏ノ此結論ヲ爲スヤ其據ル所蓋シ茲ニアリ即チオコツク海ノフロラノ凡ソ四分ノ一ハ特殊ノ種類ヨリ成リ殘余ノ三十四種ハ東[illegible]加ノ東南岸若クハ千島ノ如キ相接近セル部ノ種類ヨリハ寧ロ歐洲北氷洋ノ種類ト大ニ相類シ且ツ其一般ノ性質ヨリスル時ハオコツク海ノ南部太平洋ニ堺スル部分ノフロラヨリハ却テ歐洲北氷洋ノフロラニ近シト

氏以來行ハレタル此部ノ研究殊ニビガ探檢ノ間ニ行ハレタル研究ヲ以テ考フルニループレヒト氏ガ曩ニ Tange des Ochotskischen Meeres（オコツク海ノ海藻）ニモノシタル材料ヨリ結論シタルモノト此海ノ海藻ノ

分布上ノ位置ニ就テ大ニ異ナルモノアリ

吾人ハ既ニ今日ニ至テループレヒト氏ガオコツク海ニ全ク特殊ナリト考ヘタル十三種ノ內少ナクモ五種恐ラクハ七種ハ此部ニ特殊ナラザルモノトセザルベカラザルヿヲ信ズルナルベシ何トナレバ此等ノ種類ハ其後他處ノ產アルヲ知リ或ハ決シテ此部ニ特殊ナルニアラズシテ廣ク他海ニ產スルモノヽ變形ナルヿヲ知リ得タレバナリ即チ Crossocarpus lamuticus 及ビ Calophyllis rhyncocarpa ハ東撻加ノ東部ノ海ニ生シ Cruoria (Petrocelis) Middendorffii ハ今日ニアツテハノーウエーノ北氷洋沿岸ニ產スルヲ知リ Polyostea gemmifera Rupr. ハ Polysiihonia bipinnata ト全ク同一種ニシテ此種ハ往々ベーリング島ニ在リ又ベーリング海トオコツク海ト境スル部分ニ產ス Callithamnion corallina Rupr. ハ余ガ嘗テ The Algæ of the Arctic Sea (北氷洋ノ海藻) ニ證明シタル如ク廣ク北氷洋ニ散布セル Antithamnion boreale ノ一ノ變形ニシテ此種ハ往々ノバゼンブラノ西岸ニ於テ得ル所ナリ而シテ Callithamnion subnudum Rupr. モ亦 corallina Rupr. ト同一ナルヲ以テ此モ亦 Antithamnion boreale ノ一ノ變形トシテ考ヘザルヲ得ズ

又ルーブレヒト氏ノ認メテ以テ特種トナス所ノ Pylaiella olivacea ハ彼ノ北部太平洋ニ生シ且甚ダ種々ノ形狀ヲ以テ顯ハルヽ所ノ P. littoralis ニ比シテ其發見サルヽヿ極メテ僅少ニシテ能ク比較上研究ヲナス能ハザルヲ以テ此種ニ就テハ別ニ何等ノ斷定ヲモ降ス能ハズ

以上述來ル處ヲ以テ考フルニオコツク海ノフロラハループレヒト氏ノ考フル如クナラズシテ太平洋北部ノモノト同一ナル種類ヲ多數ニ存スルヤ明ナリ加フルニビガ探撿ノ間ニ行ハレタル研究ニ依ルニ尚ホ他ノ種類ヲ存スルーブレヒト氏ハ北太平洋ノフロラニ對シテオコツク海ノフロラノ特殊ナルヿヲ論シテ曰ク此海ニ特殊

ナラサルモノヽ內十一乃至十五種ハ太平洋ノ全北部ニ存スルヿアルヲ知ラズト然レ𪜈氏ノ所謂Enteromorpha ramulosa ハ E. Compressa ニ Conferva saxatilis ハ Spongomorpha arcta ニ Hormiscia flacca ハ Urospora penicilliformis ニ同一ナルヿハ數多識者信ジテ疑ハザル所ナルヲ以テビガ探撿中研究シタルニ此等十一乃至十五種ノ內少ナモ九種ハ太平洋北部ニ產スルヿヲ確メタリ即チ以上列記セル三種ノ外Atomaria (Odonthalia) dentata, Fuscaria tenuissima (Rhodomela lycopodioides f. tenuissima), Dumontia contorta (D. filiformis), Gymnogongrus (Ahnfetia) plicatus, Scytosiphon (Phloeospora) tortilis 及ビ Scytosiphon (Dictyosiphon) foeniculaceus 之ナリ而シテループレヒト氏ガオコツク海ニ產スルヿニ就テ頗ル疑ヲ懷キタル Chondrus crispus ハ實ニコニヤンベー及ビポートクラレンスニ生ズル種ト同一ナルヲ以テ前後總計十種ハ太平洋北部ニ產スト云フヲ得ベシ

既ニ茲ニ至レバオコツク海ニ產スル五十三種ノ內少ナクモ四十種ハ又ベーリング海ニ生ストハ縱ヒ斷言スルヲ得ストスルモ其論據ハ頗ル當ヲ得タルモノト言ハザルベカラズ人或ハ此數ヲ以テ僅少ナリト云フベケレ𪜈元來此地方ハ未ダ充分ノ探究ヲ經サルヿヲ思ヒナバ四十ノ數豈ニ割合ニ多數ナリト云ハサルベケンヤ

ループレヒト氏ニシテ曩ニオコツク海ト北氷洋トノフロラノ相類スルヿヲ公言シタリシナラバ必スヤ其說ノ世ニ容レタルハ疑ヒナカルベシ實ニ此關係ノ證明ヲ與ヘタルモノハ氏ニ踵イデ企テタル北氷洋ノ探撿與リテ大ニ力アリト云フベシ殊ニビガ探撿中最モ貴重ナル事實ヲ蒐メタリ即チアリユウシアン群島以北ナルベーリング海ニハループレヒト氏ノ考ヘタル如ク「殆ンド海藻ノ種類ヲ全ク存スルヿナシ」ト云フヿナクカラ海以東ベーリング海峽ニ至ル迄ノ北氷洋ニ比較上少ナカラザル種類ノ存スルヿヲ證明セリ此等ノ地方ニ藻類ノ存ス

ルヿハループレヒト氏ノ全ク知ラザル所ニシテオコツク海ノ數多ノ種類ガカラ海西比利亞ノ北氷洋並ニベーリング海ニ生スル如キハ氏ノ全ク豫想セザル所タルハ氏ノ言ヲ以テ明カナリ氏ハ曰ク此等ノ地方ヨリハ一種ノ海藻ト雖モ未ダ之アルヲ知ラズト

前段記載セル研究ヨリホワイト海以東ベーリング海峽ニ至ル迄ノフロラノ一般ノ性質ハ同一ナリト言フヲ得ベシ此故ニ入若シオコツク海ノフロラハ其一般ノ性質ニ依リテ歐洲北氷洋ノフロラト相類スト云フヲ得バ又カラ海及ヒシベリア海ノフロラト同一ナリト云フヲ得ベシ

ループレヒト氏ガ與ヘタル植物ノ分布上オコツク海ノ種類ノ分類ハ頗ル解シ難キモノアリト雖モ中ニ就テ余ノ考フル所ト同ジカラシムルモノハ特ニ左ノ種類ナルベシ此等ノ種類ハ即チ歐洲北氷洋トオコツク海トノ種類ノ相一致スルヿヲ證スルニ足ル所ノモノタリ種類トハ即チ Atomaria dentata, Fuscaria tenuissima, Delesseria Baesii, Halosaccion soboliferum, Dumontia contorta, Chondrus crispus (?), Gymnogongrus plicatus, Laminaria saccharina, L. digitata, Scytosiphon tortilis 及ビ Conferva saxatilis 是ナリ此等ノ十一種ノ中六種ハベーリング海ニ五種ハ西比利亞海ニ四種ハカラ海ニ生ズ以上ノ內只四種即チ Delesseria Baerii, Chondrus crispus, Laminaria saccharina及ビL. digitata ハ今日ノ所此等地方ノ海ニ產スルヲ聞カズ此等四種ノ內後ノ二種ニ就キテハ曩キニオコツク海ヨリ此種ナリトシテ齎シタルモノハ北部太西洋及ビ太西洋ト北氷洋ト界スル部分殊ニムルマン海ノ西部ニ得タル此種名ノモノト同一種ナルヿハ信ズル能ハズ實ニ Laminaria saccharina Rupr. ニハ少ナクモ二種アルコトハ今日疑ハレザル所ニシテ其一ハ即チカラ海並ニ西比利亞海ノ東部ニ產スル Laminaria solidungula ナルヿハ明ナリループレヒト氏ハ又西比利亞海ノ東部及ビ北部太平洋ニ生スル所

ノ Laminaria cuneifolia J. Ag. ナル種ヲ此種ト混同シタルモノヽ如シ氏ノオコツク海ノフロラニ就テモノシタル書ニ見ユル如ク Laminaria 屬中 Digitata 類ノモノハ只一種ニシテ即チ L. digitata ノ名ヲ以テ記載セラレタリ然レモ其後此種類中ニ數多ノ全ク異ナレル種類ヲ含メルコヲ知レリ其四種ハ即チベーリング海及ビ西比利亞海ノ東部ニ產スルヲ知ル之ニ依テ思フニオコツク海ニ得タル Digitata 類ノ種ハ太西洋ノ北部並ニ太西洋ト北氷洋トノ境界部ニ廣ク分布スル所ノ L. digitata ニ屬スルヨリハ寧ロ此類中ノ某種ニ同一ナルカ否ラザレバ尤モ近緣ノモノナラン Chondrus crispus ニ關シテハ既ニ前段述フル所ノ如シ

又ノバゼンブラ以東ニ Delesseria Baerii ノ產スルコハ今日ノ所詳ナラズ Cruoria (Petrocelis) Middendorffii モ亦ノーウエーノ北ナル北極海トオコツク海トノ間ノ海岸ニ產スルヲ知ラズ人若シカラ海西比利亞海及ビベーリング海ニ於テ今日迄ニ海藻ノ繁茂スル部分ノ知ラレタルモノハ甚ダ僅少ニシテ且ツ此等地方ノ研究ハ決シテ充分ナルコナク甚ダ倉卒ノ間ニ爲サレタルモノタルコヲ考ヘナバループレヒト氏ノ見ニ隨テムルマン海ノ大部カラ海西比利亞海及ビベーリング海ヲ以テ隔タレタル全キ海藻ノ種類ハ西比利亞ノ全岸ニ沿フテ所々ニ產スルコヲ推知シ得ベク其一般ノ性質ヨリ及ビ其種類ノ夥多ナルヨリ同一ノ種類ヲ以テ成レルソロラガホワイト海地方ヨリベーリング海峽並ニベーリング海ノ北部迄モ播布セルコヲ推究シ得ベシ之ニ反シテ今オコツク海ノ一二ノ藻類例ヘバ Delesseria Baerii, Petrocelis Middendorffii ノ如キモノガムルマン海若クハノーウエーノ北極海ノ如キオコツク海以西ノ部分ニ產出セズトスルモ斯ノ如キハ植物ノ現時ノ分布上其例決メ少ナシトセズ其依テ起ル所ノ理ハ蓋シ氣候海陸ノ分配等ノ爲ニ生ズル著シキ變化ノ然ラシムル所ニ外ナラサルベシ若シ往古ニ在テ學者ノ確信スル如ク現時ヨリハ尙ホ一層强大ナルグラシア(氷山)ガ太平洋ノ北部ニ存シ

タリシナラバ其部ノフロラハ今日ヨリハ尙ホ極地ノ性質ヲ存シ爲ニベーリング海ハ全ク今日ベーリング海峽以北ニ繁茂スル種類ニ等シキ植物ヲ以テ充タサレタルナルベシ又西比利亞ノ北氷洋沿岸ハ比較的近時ニ昂起作用ヲ受ケタルヿハ明カナリ此變化ハ實ニ種類ニ富メル一フロラノ產出ヲ助ケタリト云フヨリハ寧ロ之ヲ妨ゲタルモノタルヿモ亦明ナリト云フヲ得ベシ

右ノ如ク西比利亞ノ海岸ハ近代海底ヨリ昂起シタル部分ナルヲ以テ海底ハ砂ヨリ成リ數條ノ大河ハ著シク其鹽量ヲ減ジタルヲ以テ藻類ノ關係上一度ハ今日ヨリハ大ニ便利ヲ與ヘタルナルベシト考フルヲ得ベシ而シテ其時代ノ內ニ或種ノ此海岸ニ繁茂スルアリテ廣ク播布シタルモノアラン然レ𪜈夫等ノ種類ハ既ニ今日ニ至テハ其處ニアルヿナク只其等種類ノ生活ニ適シタル狀態ノ存スル所ニノミ僅ニ繁茂スルモノトス

以上說ク所ヲ以テ能クオコツク海ノフロラノ起因ヲ解スルヲ得ベシ即チ一時ハ其四隣ノ海ニ於ケルフロラノ如ク全ク極地ノ性質ヲ存シカラ海及ビ西比利亞海ノ現今ノフロラト相類シタルモノナリシナラン而シテベーリング海ノ南部ニ於テ氷時代ノ後ニ起リタル著シキ變化ノ爲ニ更ニ新キ種類ノ移殖スルアリテ新種ノ繁殖ヲ得タル間ニベーリング海ノ北部及ビオコツク海ニ於テハ尙ホ北氷洋ノ種類ノ數多存スルアリ何トナレバ自然ノ形勢ガ玆ニ氷時代ノ性質ヲ變化シタルヿ極メテ僅カナレバナリ加フルニ南部ヨリ來レル種類ハ北方遙ニオコツク海迄モ播布シ玆ニ又恐ラクハ新種ノ產出スルモノアリシナラン此故ニ此地方ハ南部ト北部トノ遷移ノ位置トナリ又兩部ノ混合ノ地ノ性質ヲ得爾來今日ニ至ル迄尙ホ其性質ヲ存スルナルベシ然ルニ西比利亞海及ビカラ海ハ充分氷時代ノ性質ヲ存シテ失ハザリシガ玆ニ又變化ノ起ルアリテ其結果此部ニ產スル種類ノ一部ハ其分布上大ニ制限セラレ若クハ玆ニ全ク跡ヲ絕ツニ至リ其內某種ノオコツク海ニ生スルモノアルニ至レル

ナラン

ループレヒト氏以來研究シタル結果ニ依リ余ハ思フニオコツク海ハ一個特立ノフロラヲ存スル地方トハ考フル能ハズシテ却テ此等地方ノ一部ヲナスモノヽ如シベーリング海モ亦之ニ屬ス而シテオコツク海ハ氷時代ノ後自然ノ形勢ニ從テ東薩加ノ南部ニ界スルベーリング海ノ南部ノフロラヨリハ尚ホ北地ノ性質ヲ存スルモノナラン

質問應答

質問

(一)山吹ノ實ノ生ゼザル理由ハ如何(羽前國佐々木源之助)

(二)或ル植物(例茄子)ノ地飽スル理由ハ如何(佐々木源之助)

(三)植物花ノ天然色ヲ保存スル法如何(佐々木源之助)

(四)月光ハ植物ノ仝化作用ヲ起スニ足ラザル乎(佐々木源之助)

應問

○第一問之答

理科大學植物學教室　ふ、け、

質問者ハ山吹ハ總テ實ヲ生ゼザルモノトナスガ如シ去レ𪜈實際ハ然ラズ實ヲ生ズルモアリ亦生ゼザルモアリ一般ニハ一重ノ花ハ實ヲ生シ八重ノ花ハ之ヲ生ゼズ實ヲ生ズルハ即チ胚珠ト花粉トノ間ニ起ル受胎作用ノ結果ナルニ八重花ヲ開ク山吹ニ實ノ生ゼザルハ雄蘂トナルベキモノ或ハ雌蘂トナルベキモノ若シクハ其兩方ガ

變態シテ花瓣樣トナレルヲ以テ花粉或ハ胚珠若シクハ其兩方ガ欠如スルガ故ナリ

ふ、け、

○第二問之答

植物一般ニ必要ナル養料モアレドモ特種ノ植物ノ生育ニハ亦特種ノ養料ヲモ要ス故ニ同一ノ土地ニ同種ノ植物ヲ長ク植ル時ハ若シ他ヨリ其養料ヲ補フコトナキ場合ニ於テハ其特種ノ養料ハ次第ニ減少シテ其土地ハ其植物ノ生育ニハ遂ニ適セザルニ至ルナリ問者ノ植物ガ地飽スルトハ此ノ結果ヲ云フナルベシ

ふ、け、

○第三問之答

問意不分明ナレドモ植物ヲ腊葉ニシテ保存スルニ於テ其花ノ色ヲ永遠ニ變化セザル樣ニスル法トノ意カ其法トシテ知ラレタルモノ一ナラズ植物學雜誌ニモ登載サレタルコトアリ去レドモ實際其功アル法ハ今日未ダ之レ有ラズ簡ニシテ良キハ日陰ニテ可成早ク其植物ヲ乾カスノ外ナシ即チ尋常ノ腊葉ノ法ニ於テ初メノ間可成早ク度々押紙ヲ取替ヘルニアリ

ふ、け、

○第四問之答

學者ノ實驗ニヨレバ月光ハ薄弱ニ過ギテ仝化作用ヲ起スニ足ラズ

◉●◉每月一回（十五日）發行◉●◉

（速記彙報）

正價一册八錢 ● 前金六册四十五錢 ● 全國無遞送料

速記彙報第四十八ニハ
帝國議會議事筆記概論
現今速記術進步ノ程度
帝國議會ニ於ケル國務大臣及議員ノ演說振り
松林伯圓翁講演ノ『目出鯛話』演說者ニ要スル注意、文字ト語音、發音學、新聞紙ノ筆記振り、其他速記及演說ニ關スル記事ヲ掲グ。

東京神田區裏神保町壹番地
速記彙報發行所

東洋學藝雜誌 第百三十六號

明治二十六年一月二十五日發兌 ●表紙廣告ヲ除キ四十八頁 ●定價金十錢

●物理學ノ大家キルヒホッフ之肖像（新年ノ祝意ヲ表センガ爲ニ氏ノ寫眞ヲ石版ニ寫シ之ヲ挿入セリ）●論說○キルヒホッフ略傳長岡半太郎○人像ノ醜美田口和美○人種ニ就テ横山又次郎○敎育と宗敎の衝突井上哲次郎●雜錄○The “Chishima-Kan.“ W. D. C.●雜報○ニウトン祭○新理學博士○國會新聞の英語○空氣の波動を示す法（圖入）○明かに縄の横波を示す法（圖入）○日本蘚苔新書○チヨロギ（草石蠶）の成分○鈴木晴雨計●寄書○更紗獵場の圖は和蘭マストリヒト寺院寶物の織物模樣より寫せしものなり鳥居龍藏●學會記事●應問●發行所東京市神田區裏神保町東洋學藝社

地學雜誌

第五集 第四十九卷

◎論說
●中國產鐵鑛の概要 理學博士 巨智部忠承君
●地理學の分科 理學士 金田楢太郎君
●周防國大島郡の土石 農學士 東條平二郎君
●旅は道づれ 大川通久君
●谷山錫山 理學士 中島謙造君

◎雜錄
●アラスカ國セイント、エリヤス山の位置及高度（圖入） 理學博士 横山又次郎君
●十九世紀地學大家列傳（第四十七卷の續き） 西和田久學君
●鑛層と層狀脈 T. K.君
●南海廻島雜談（圖入） 石井八萬次郎君
●宮城縣の噴出泉 平田芳太郎君
●日本の人口に就て 理學士 金田楢太郎君
●金屬鑛床の成因 西和田久學君

◎雜報●大陽斑點の氣象に及はす影響●月の氣象に及はす影響●小藤博士の新著●廿四年末の本邦人口●牛肉人を驚かす●英國ドーバの試み堀り●山口氣象一斑●近江五別所の接觸鑛物●愛宕山の砥材●河底の平地より高き川●第六回萬國地理學會議●琉球に眞正なる珊瑚島なし●北海道近海の流氷●大峰山の崩壞●應用地學に關する獨逸の新雜誌●羅馬字雜誌の發行中止●歐洲大國人口增減の割合

發行所 京橋區西紺屋町十九番地 東京地學協會
賣捌所 神田區裏神保町壹番地 敬業社

314179

THE
BOTANICAL MAGAZINE.

Vol. 7.] February 10, 1893. [No. 72.

CONTENTS.

Senecio Bonninsimæ, nov. sp. By R. Yatabe, Sc. D. . . . .

Plants Employed in Medicine in the Japanese. Pharmacopæia. (Continued from No. 71.) By K. Sawada. . . . .

Notes on some Japanese Algæ. By. K. Okamura. . . . .

Chemical Researches on the Aconitum and other Plants. By Prof. J. Shimoyama.

Micellaneous :—

Bacteria.—Herbarium of Novelist Bakin.—Plants collected in Misaki.—Protoplasm and Irritability.—Aleurone grains.—A New Locality of Ecklonia radicosa.—Relation between the Algæ of the Behring and Ochotsk Seas.

Appendix :— . . . .

Analytical Key to the Phanerogamous Plants.

All letters and communications to be addressed to the editor of the
TŌKYŌ BOTANICAL MAGAZINE,
No. 1. Urajimbōchō, Kanda, Tōkyō, Japan.

第七卷　第七拾參號

73

明治二十六年三月十日

植物學雜誌

目錄

ちやぼほとゝぎす　理學博士 矢田部良吉（三九丁）

日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）　澤田駒次郎（四一丁）

Caucalis scabra Makino ニ就テ　牧野富太郎（四四丁）

二三植物ノ化學的實驗（承前）　醫科大學敎授 下山順一郎口演 澤田駒次郎筆記（四五丁）

◎雜錄　（四六丁）

○糊粉粒 ○原形質及ビ感應性 ○福岡縣粕屋郡ニ於テ九月中ニ開花ヲ目擊シ得ベキ自生ノ植物○封藥○蘭草の事

◎附錄

顯花植物分科撿索表　池野成一郎（二九丁）

植物學雜誌編輯所

地學雜誌

第五拾卷

二月廿五日發兌一部金十錢

◎論說

●秩父地質巡檢旅行日誌（圖入） 理學博士 横山又次郎君
●濃尾大震ノ震源ニ就テ 脇水鐵五郎君
●經濟地理學ニ就テ 理學士 金田楢太郎君
●羽後國ノ泥炭地並御物河舊床ノ土質 農學士 東條平二郎君
●普通學教科ニ地質學ノ必要 理科大學簡易科卒業生 猪間收三郎君

◎雜錄

●墨西國ノ面積ト人口 理學士 金田楢太郎君
●南僊氏ノ綠國橫斷旅行（圖入） 理學博士 横山又次郎君
●福岡圖幅地ノ海岸ニ就テ すゝき生
●黑海探撿ノ報告（圖入） 猪間收三郎君

◎雜報

●地學協會ノ美擧●魯西亞政府ノ大計畫●太陽地球間ノ距離●ラプランド國ノ氣候●紅ノ雪●筑波山嶺測候●常陸山尾村ノ柘榴石●榕樹●漢ノ蘇武羊ヲ牧セシ地●播州山崎町近傍ハ上古ノ湖底ニハ非ルカ●陸前ノ一大天隕石●陸前國氣仙沼地方ニ汀線下動ノ兆アリ

京橋區西紺屋町十九番地
發行所 地學協會事務所

動物學雜誌

第五十二號明治廿六年二月發兌一部拾錢郵稅一錢
六册前金六拾六錢

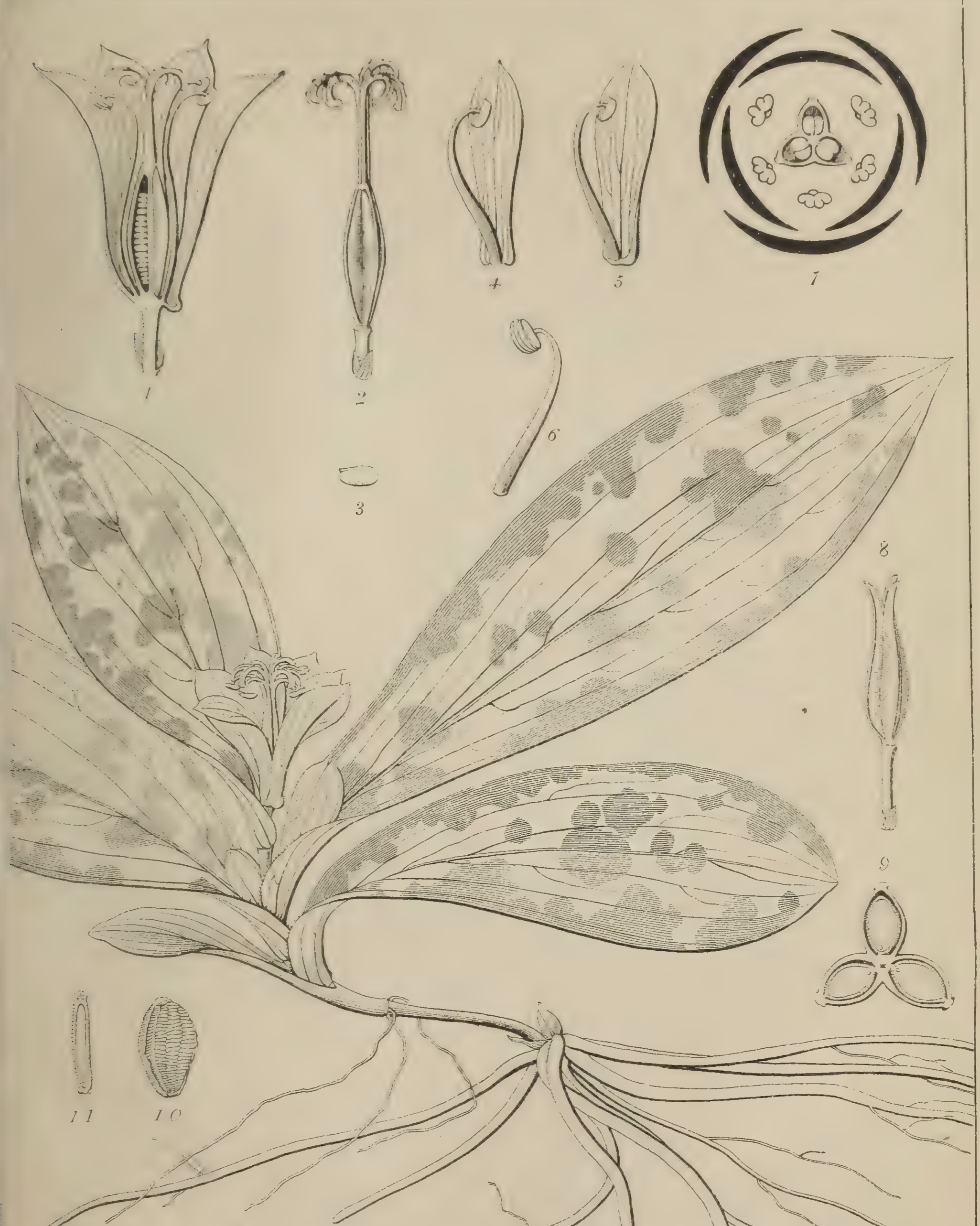
◉目錄

○桃ノ害虫「チヨツキリ」虫ニ就テ 佐々木忠二郎君
○球陽雜譚 黑岩恒君
○本邦保護鳥類（承前） 長濱兼吉君
○海產生物學ノ沿革（一） 岩川友太郎君
○對島採集日記（承前） 波江元吉君 土田兎四造君

◉雜錄

●織毛類●蜘蛛ノ巢●比魚目ト鰈●動物豢養の話（つゞき）●まつかさうノ防禦●鱟魚の利用●水母の利用●動物の移殖●「カトンボ」の洋行●害虫標本目錄●動植物學科ヲ敎授スルニ用ユヘキ方法●閣龍博覽會出品昆蟲標本●明治廿五年西海の動物●札幌博物學會●東京動物學會例會

東京神田區裏神保町一番地
發行所 敬業社


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
K. W. DEL.

TRICYRTIS NANA, YATABE.
CHABO-HOTOTOGISU. チヤボホトトギス.

植物學雜誌第七卷第七十三號 （明治二十六年三月十日）

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. VII. March 10, 1893. No. 73.]

New or Little Known Plants of Japan.

No. 32.

Ryōkichi Yatabe, Sc. D.

Tricyrtis nana, nov. sp.

Nom. jap. Chabo-hototogisu. チヤボホトヽギス.

(Order Liliaceæ.)

Plate III.

A perennial herb with long thick roots. Stem simple, smooth, assurgent, emitting fine roots from the lower nodes, $\frac{1}{2}$—2 inches long. Leaves crowded, oblanceolate or oblong-oblanceolate, shortly acuminate at the apex, narrowed and amplexicaul at the base, smooth on both surfaces, mottled with dark spots on the upper surface, paler on the under surface, ciliate at the basal margins, $1\frac{1}{2}$—8 inches long, 8 lines to 2 inches broad, the lowest often much reduced in size. Flowers axillary, solitary or 2 together; pedicels pubescent, about 2 lines long in flower, 6—7 lines long in fruit; bracts at the base of the pedicel 3, imbricate, ovate, acute, pubescent, about 2 lines long. Perianth open-campanulate, yellow; segments 6, distinct, oblanceolate, apiculate, 10 lines long; the outer 3 auriculo-saccate at the base, pubescent outside, 3 lines broad; the inner 3 auriculo-cordate and slightly pubescent at the base, narrower than the outer ones. Stamens 6, about as long as the perianth-segments, closely applied to the ovary, recurved towards the apex; the outer 3 attached to the inner rim of the sac of the outer perianth-segments; the inner 3 attached to the base of the inner perianth-segments; filaments linear, tapering towards the apex; anthers versatile, 2-celled, oblong, dehiscing longitudinally, 1 line long. Ovary smooth, subfusiform, triquetrous, 3-celled; style columnar, triquetrous; its branches 3, bifid at the apex, glandular-papillose, recurved, the ultimate branches stigmatose along the inner surface; ovules numerous in 2 series in each cell, attached to axile placentæ, oblong-cylindrical, anatropous. Capsule lanceolate, septicidal, 3-valved, 9—10 lines long, $2\frac{1}{2}$—3 lines broad; its valves ovate in transverse section. Seeds subobovate, flattened; testa dark-brown, few-nerved, minutely reticulate-rugose; embryo minute, in a fleshy albumen, near the hilum.—Fl. August.

Specimens of this plant in flower were collected by Mr. Kanō Watanabe on August 23, 1892, at Kokuson-yama in the province of Tosa; and specimens in fruit were collected by him on October 14, 1891, at Dōgamori-yama in the same province. This plant also grows near Shizuoka in the province of

Suruga. The specific name *nana* was suggested by my friend Prof. Jinzō Matsumura.

Plate III. Fig. 1, vertical section of flower; 2, pistil; 3, ovule; 4, inner perianth-segment with stamen; 5, outer perianth-segment with stamen; 6, stamen; 7, floral diagram; 8, capsule; 9, transverse section of capsule; 10, seed; 11, vertical section of seed:—*all except 8 enlarged.*

日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）

會員　澤田駒次郎

性狀　薔薇油ハ澄明淡黃色ノ揮發油ニシテ其比重ハ〇、八七乃至〇、八九ナリ其香氣峻烈ナリト雖モ之ヲ大氣中ニ發散セシメ或ハ酒精ヲ加ヘテ之ヲ稀薄ナラシムルトキハ極メテ快活ナル佳香ヲ有ス

本品ハ低度ノ温度ニ於テ固形体ト爲ル是レ「ステロプテン」ノ分離シテ螢石彩ヲ有スル板狀ノ結晶ヲ析出スルニ基因ス Baur氏ノ説ニ據レバ薔薇油ノ凝結スルハ華氏五十二度乃至六十度トス又Hanbury氏ノ檢査ニ據レバ其熔融點ハ種類ニ因リ差異アリ純眞ナル土耳古產薔薇油ハ六十度乃至六十四度印度產ノモノハ大約六十八度佛蘭西西南部ニ於テ蒸餾セシモノハ六十九度八乃至七十三度四巴西ニテ製造スルモノハ八十四度龍動府ニテ薔薇水ヲ蒸餾シテ得タルモノハ八十六度乃至九十度トス故ニ薔薇油ヲ產出スル土地ノ北部ニ至ルニ從ヒ其熔融點ハ高度ヲ有スト云フ

土耳古產薔薇油（Turkish otto）ハ分極光線ヲ右旋ス又改正日本藥局方ニ云薔薇油ハ本植物ノ新鮮ナル花ヨリ水ヲ和シ蒸餾シテ得タル淡黃色ノ揮發油ニシテ特異佳快ノ香氣ヲ有シ大約百分ノ酒精ニハ澄明ニ混和シ寒冷

ニ在テハ透明小板狀ノ結晶ヲ析出シ其結晶ハ大約十二度ニ於テ再ヒ熔融ス比重ハ〇、八六乃至〇、八九ナリ」トアリ製藥化學ニ云（全上）薔薇油ハ淡黃色濃厚ノ液ニシテ只僅ニ分極光線ノ平面ヲ右旋シ異重ハ〇、八七乃至〇、八九ナリ其固有ノ佳香ハ殊ニ之ヲ水、酒精等ニテ稀薄スルニ當リ著ク發生スルモノトス十一度乃至十六度ノ温ニ於ケルモ已ニ其上面ニ彩光アル結晶（固形揮發油）ヲ析出シテ稍〻濃厚ナル結晶粥トナル薔薇油ノ凝結點ハ其含有スル固形揮發油分ノ多少ニ由テ一定ナラスバルカン山岨ノ上域産、百爾矢亞産及ビ印度産ノ薔薇油ハ已ニ二十度或ハ之ヨリ高キ温ニ於ケルモ凝結ス薔薇油ハ最モ酒精ニ難溶性ノ揮發油ニシテ其一分ニ酒精（九十（ペルセント））百分以上ヲ加フルニ非ラザレバ溶解セス」トアリ

成分　薔薇油ハ酸素ヲ含有スル液狀揮發油及ビ酸素ヲ有セザル固形揮發油ヨリ成リ其佳快ノ芳香ハ酸素ヲ含有スル液体ニ基因ス

純良ナル薔薇油ハ酸素ヲ含有セザル固形揮發油即チ水化炭素「ステロプチン」ヲ含有スルコト極メテ些少ナリ此原因ハ花ヲ採集スル時期及ヒ氣候等ニ多少關係スト雖圧其主因ハ之ヲ産スル土地ニ因ルモノトス故ニ土耳古産薔薇油ハ酸素ヲ有セザル固形揮發油ヲ含有スルコト小量ニシテ十八「ペルセント」ニ過キズ英國及ビ佛國ヨリ産出スルモノハ之ヲ含ムコト三十五乃至六十八「ペルセント」トス叉北部ノ寒地ヨリ産出スル薔薇油ノ品位下等ナルハ酸素ヲ含有セザル固形揮發油ノ多量ヲ包有スルニ基因ス此等ノ揮發油ハ土耳古産ノモノニ比スレバ稍〻高度ノ温度ニ於テ凝固ス但シ北部ノ寒地ニテハ善良ノ薔薇油ヲ得ルコト能ハスト云フ

擬造品　製藥化學ニ云（全上）薔薇油ハ其價極メテ貴キカ故ニ擬造品最モ多シ薔薇油製造所ニ於テ擬造スルヲ常トスルガ故ニ坊間ニハ眞正油ヲ見ルコト極メテ稀レナリ而シテ之ヲ贋造スルニ使用スルモノハ中央印度及ヒ北

印度ニ培植セルAndropogon Schoenanthus, L.（チガルカヤ）ノ揮發油（草油ト名ク）ニシテ印度地方ニ於テハRusa油、歐洲ニ於テハGeranium油或ハPalmarosa油（方今本邦ニ於テ山椒油ト稱シテ販賣スル揮發油ノ類）ト稱スルモノ是ナリ、薔薇油中此草油ノ混有ハ光學的ニ之ヲ發見シ難シ蓋シ此油ハ只僅ニ旋光機能ヲ呈スレバナリ然レトモ草油ハ多量ニ之ヲ薔薇油ニ調和シ難キモノトス如何トナレバ此油ハ低度ノ温ヲ得ルモ固結セズ薔薇油ノ凝固點ヲ低却セシムレハナリ而シテ薔薇油ノ凝固點ハ十一度以上ノ温ニ在ルヲ要ス冷處或ハ北地ニ於テ製出スル薔薇油ハ大ニ固形揮發油分ニ富ミ多量ノ草油ヲ加ヘテ之ヲ稀釋スルモ尙ホ能ク其常温ニ於テ固形揮發油ヲ析出スル性ヲ保有ス故ニ薔薇油ニシテ其凝固點十一度以上ノ温ニ在ルモノト雖モ輕卒ニ之ヲ眞正油ト認ム可ラズ又巴拉賓或ハ鯨蠟ヲ用テ薔薇油ヲ贋造セルヿアリ然レ圧此諸質ハ低度ノ温ヲ得ル𪜈ハ薔薇油ノ固体揮發油トハ全ク異ナル形狀（板狀）ヲナシ大抵器ノ底面ニ析出スルモノトス其他アルゼリア及ヒ佛國ノ南部ニ於テ培植スルPelargonium屬（モンテンヂクアフヒ）ノ類）殊ニP. roseumノ揮發油ハ其香氣頗ル薔薇油ニ類スレ圧强酸性ヲ呈シ又著ク左旋機能ヲ有ス（薔薇油ハ中性ノ反應ヲ徵ス）トアリ

醫治効用　薔薇油ハ矯味矯臭ノ一藥トシ稀レニ應用ス又粉裝料トシテハ香油及ヒ香水ノ製造ニ用フ○薔薇花ハ緩下劑トス英國ニテハ舍利別稠ト爲シ用ヒシコトアリト雖圧英國藥局方ニ於テ之ヲ廢除セリ合衆國ニテハ現今猶ホ有効ノ一藥ト爲シ藥局方ニハ復方撒兒沙巴利刺舍利別ノ一成分トス

薔薇水ハ現今矯味藥トシ應用ス英國藥局方ニハ鐵及ヒ蒼鉛ニ伍用シ錠劑ヲ製ス又薔薇水ハ該油ニ水ヲ加ヘテ蒸餾シ製スト雖圧薔薇花ヲ蒸餾シ得タルモノニ比スレバ品位稍〻劣レリト云フ

（以下次號）

Caucalis scabra Makino ニ就テ

牧野富太郎

やぶじらみ山坡原頭ニ之レアリ二種アリ一ハやぶじらみナリ飯沼翁ノ草木圖説第五卷之ヲ載ス是レ本邦普通ノ品ナリ一ハおやぶじらみナリ從來和名ナキヲ以テ此ニ新稱ヲ下シテ以テ其稱呼ニ便ニス此種土佐ニ稀レナラズシテ共ニやぶじらみト雜生ス瘠果大ニシテ刺毛ハ生時紅采アリ織梗常種ニ比シテ少ク總苞無クシテ葉裏白色ヲ帶ビ之ヲ常種ト別ツヿ敢テ難事ニ非ラズ而シテ Franchet 氏ハ同氏幷ニ Savatier 氏同著ノ Enumeratio plantarum japonicarum vol. I. p. 190. ニ於テ、又 Miquel 氏ハ同氏所著ノ Prolusio florae japonicae p. 252. ニ於テ此兩種ヲ混同シテ之ヲ一名ノ下ニ收錄シ以テ一種ノモノトナセリ覽者宜シク察スル所アル可キナリ今此ニ此兩種ヲ整理セバ即チ實ニ左ノ如シ

一、やぶじらみ

Caucalis japonica Houtt. Pfl. syst. VIII. p. 42, t. 45, f. 1; Franch. et Savat. Enum. pl. jap. vol. I. p. 190.

=Torilis japonica DC. Prodr. IV. p. 219; A. Gray in Perr. Exp. p. 312.

=Torilis scabra Miq. Prol. p. 252, non DC.

二、おやぶじらみ（新稱）

Caucalis scabra Makino=Chærophyllum scabrum Thunb. Fl. jap. p. 119.

=Chærophyllum hispidum Thunb. herb. in herb. Royeni.

=Torilis scabra DC. Prodr. IV. p. 219.

一二三植物ノ化學的實驗　（承前）

醫科大學教授　下山順一郎口演
澤田駒次郎筆記

又本邦ニ勝山附子ナルモノアリランガルト氏ハ嘗テ之ガ生理的撿查ヲ行ヒ全ク毒物ニ非スト爲セリ余氏ノ說ノ果シテ正實ナルヤ否ヲ證センガ爲メ先ヅ勝山附子ヨリ亞爾嘉魯乙度ノ製出ヲ試ミ一種ノ亞爾嘉魯乙度ヲ得タリ然レ𪜈其量ハ甚ダ些少ニシテ本品一斤ヨリ僅ニ亞爾嘉魯乙度大約〇、一「グラム」ヲ得シノミ而シテ該附子ノ斯ノ如ク小量ノ亞爾嘉魯乙度ヲ含有スルハ亦之ヲ鹽水ニ浸シ調製スルニ由ルモノトス此亞爾嘉魯乙度ハ其味苦シト雖𪜈全ク草烏頭中ニ含有スル「ヤプアコニチン」ト異ニシテ局所ヲ刺戟セス同僚高橋順太郎氏ハ余ノ依賴ニ應シ勝山附子ノ亞爾嘉魯乙度ニ就キ生理的撿查ヲ施シ頗ル其多量ヲ用フルニ非レバ毒性ヲ現ハサヾルコトヲ確知セリ然ルニ草烏頭ノ亞爾嘉魯乙度「ヤプアコニチン」ハ僅ニ其十分一「ミリグラム」ヲ兎ノ皮下ニ注射スルモ忽ニシテ斃ル（ランガールト氏ノ撿查ニ由ル）

烏頭類ハ上文ニ述フル如ク各々其成分ヲ異ニスルノミニアラズ同一ノ植物ヨリ取レルモノト雖ドモ稚根ト老根トニ由リ大ニ其亞爾嘉魯乙度ノ含量ニ多寡アリテ草烏頭ハ「ヤプアコニチン」ヲ含有スルコト白川附子ヨリ大約五倍ノ多キニ居ル

抑モ草烏頭及ヒ白川附子ノ基本植物ニ就テハ其說二途ニ分レ此二種ノ根類ハ全ク異種ノ植物ニ基原スト云ヒ或ハ同種植物ノ根ト云ヒ余ハ其何レガ信ナルヤ之ガ判決ヲ下スコト能ハザリキ故ニ余ハ之ヲ詳カニセンガ爲メ嘗テ草烏頭ヲ栽植シ以テ其發育ノ經過ヲ撿查シ草烏頭ト白川附子トハ全ク同種ノ植物即チ Aconitum fischeri, Reich. ニ基原シ草烏頭ハ其稚根ニシテ白川附子ハ其老根タルコトヲ撿明セリ今先ヅ上記植物ニ就キ其植物

學上ノ特徵ヲ陳述シ次ニ其根卽チ草烏頭及ヒ白川附子ノ解剖學的及實驗成蹟ヲ報道セントス　（未完）

◎雜　錄

○糊粉粒（前號ノ續キ）

平瀨作五郎

もも、しやくやく、たらねふ、くすのき、しきみ及ヒやまぶき等ノ含蓄スル糊粉粒ハ水ニ溶解スルモノナリ且ツ強酒精若クハ「エーテル」ニ數時間浸シタル後ニ在テモ水ニ接スレバ忽チ溶解スルヿ異ナラサレモ其溶解スル度合ニハ多少ノ緩急アルヲ見ル即チもゝ、しやくやくノ如キハ忽チ消滅シくすのき、しきみニ在リテハ稍緩ナリ而メたらねふニ在リテハ結晶ヲ含有スル處ノ顆粒最モ速カニ溶解シテ假晶体ヲ有スルモノハ徐々ニ減滅スルヲ見ル又やまぶきニ於テハ水ニ浸スヿ數時ニ渉ルモ多少形態ニ異狀ヲ呈スルノミニシテ全然消滅スルニハ至ラズ但シ之ニ飽充食鹽水ヲ注入スレバ忽チ溶解シタリ

此等ノ糊粉粒ヲ染色セント欲シテ強酒精若クハ「エーテル」ニ多時間浸シタル后「アシドフクシン」「ヘマトキシリン」「タンニン」液等ヲ試用シタレモ或ハ全ク溶解シ或ハ破滅シテ徒勞ニ屬シタリ只「クロミツク」酸液及ビ「ピクリツク」酸ノ酒精液ニテハ稍々染色シテ「プレパラート」ヲ造ルニ至リタレモ未タ完全ナリト云フ可ラズ而シテ終ニ「ピクリツクオレンヂ」ノ酒精液（末尾ニ其調合法ヲ掲ク）ニ浸スヿ五分乃至三十分間ニシテ染色シ鮮麗ナル「プレパラート」ヲ造ルヿヲ得タリ

「グロボイド」ハ一顆粒内ニ概ネ一個ヲ有シ或ハ二三個或ハ多數ヲ有スルヿアリ其多數ナル件ハ粒体小ナリ又或ハ「グロボイド」ヲ有セズシテ結晶ノミヲ有スルモノアリ或ハ兩者混在スルヿアリ而シテ「グロボイド」ハ稀

薄加里液ニハ溶解セズ〆無機酸類及ビ醋酸、酒石酸、又ハ蓚酸ニ溶解ス而シテ蓚酸石灰ノ結晶ハ醋酸ニ溶解セズシテ鹽酸ニハ溶解スト云フ

前説ニヨリテ視撿スルニ水又ハ食鹽水又ハ加里液ヲ以テ糊粉粒ヲ溶解セバ之ヲ被包スル處ノ物質及ビ其袋內ニ存スル「グロボイド」一個若クハ二三個ヲ遺スヲ通常トス但シくるみ、及からすうり、ニ在リテハ五六個以上ノ小粒ヲ含蓄スルモノアルヲ見ル而シテくすのきノ顆粒ハ形態頗ル不規則ニシテ針狀ノ結晶体ヲ有ス之ニ加里又ハ醋酸ヲ注クニ異狀ヲ呈セズシテ更ニ鹽酸ヲ注ゲバ泡沫ヲ發セズシテ消滅ス以テ其蓚酸石灰ナルヿヲ證スルニ足ラン又たらにふハ針狀結晶ヲ有スルモノト然ラザルモノトアリ其有スルモノハ水ニ遇ヒテ忽チ破滅シ針狀体及ビ「グロボイド」ノ小球數個ヲ散出ス而シテ假晶躰ノ稜角明瞭ナルモノハ概ネ一個ノ大ナル「グロボイド」ヲ有シ且ツ水ニ溶解スルヿ極メテ遲緩ナリ凡ソ結晶躰及ビ「グロボイド」ヲ撿スルニハ「エーテル」若クハ「キシロール」ヲ用フルヲ宜シトス又之ガ「プレパラート」ヲ作ルニハ染色セズシテ「バルサム」ニテ封裝スルヲ佳トス但シ「グロボイド」ノミヲ撿スルニハ「アシドフクシン」ニテ染色スルモ佳ナリ此染料ハ假晶体ノミヲ染色スルガ故ニ自ラ「グロボイド」ヲ判認シ得ベケレバナリ

左ニ實驗表ヲ揭テ閲覽ニ便ニス而シテ其材料ノ多分ハ大久保助教授ノ撰擇ニ係レリ玆ニ記シテ聊カ謝意ヲ表ス

種子	顆粒中ノ最大ナルモノノ直徑ニシテ其單位ハ「ミクロミリメートル」ナリ	「グロボイド」	摘要
			微小ナル澱粉粒ト混在スル部分アリ、「ボーラックスカ

水ニ溶解スルモノ	マメ	十—十六	有セズ	ーミン」或ハ「ピクリツクオレンヂ」酒精液ニ染色ス、假晶体ヲ有セズ稍不規則ナル形態ナリ
	シヤクヤク	八—十二	判明ナラズ	假晶体ヲ有セズ「ピクリツクオレンヂ」酒精液ニテ染色ス
	モモ	十—十六	瞭然	仝上ニシテ体ニ稍々稜角ヲ存スルモノアリ
	クスノキ	十二—十七	有セズ	針狀結晶ヲ有ス「ピクリツクオレンヂ」酒精液ニテ染色ス
	タラエフ	十二—十四	瞭然但シ有セザルモノハ結晶ヲ含蓄ス	假晶躰ノ稜角分明ナルモノハ「グロボイド」大ニシテ其躰整然、結晶ヲ包含スルモノハ稍々不規則ニシテ間々微細ナル「グロボイド」數個包有スルモノアリ、而シテ「ピクリツクオレンヂ」酒精液ニテ染色ス
	むべ	十二—二十	明瞭但シ有セザルモノハ結晶ヲ含蓄ス	其大ナルモノハ能ク水ニ溶解シ中ニ結晶ヲ含有ス又小ニシテ假晶体ノ稜角明瞭ナルモノハ「グロホイド」ヲ有ス此假晶躰ハ水ニ溶解セズシテ食鹽水ニ溶解ス
	シキミ	十二—十四	明瞭	假晶躰ヲ有ス、「ピクリツクオレンヂ」ニテ染色ス
	ヤマブキ	十—十二	明瞭ナリ	假晶体アリ、「ピクリツクオレンヂ」酒精液ニテ染色ス
	ケンポナシ	六—十	小ナリ	「ピクリツクオレンヂ」酒精液ニテ染色ス
水ニ	マツ	十六—十八	明瞭ナリ	「アシドフクシン」水液ニテ染色ス、假晶体ノ稜角明瞭ナリ

溶解セス無水酒精ニ浸シタル后飽充食鹽水ニ

ホホノキ	十六—二十	稍小ナリ	「アシドフクシン」「ピクリツクオレンヂ」水液、及ビ「タンニン」ニ浸シタル后重「クロムサンカリ」等ニテ能ク染色シ、其假晶体ノ稜角最モ明瞭ナリ
トウゴマ	十二—十四	最モ大ナリ	「アシドフクシン」「ヘマトキシリン」等ニテ能ク染色ス
カラスウリ	十四—十八	小ニシテ數個ヲ有スルモノアリ	仝上ニシテ假晶体ノ稜角明瞭而シテ「グロボイド」ノ見ヘザルモノ多シ
ヤマカウバシ	十二—十六	明瞭ナリ	「ピクリツクオレンヂ」水液ニテ能ク染色ス
ゴエフマツ	十二—十六	仝上	「アシドフクシン」水液ニテ染色ス
マルバチシヤノキ	十—十四	仝上	「ピクリツクオレンヂ」水液ニテ染色ス
オニシバリ	十—十四	仝上	「アシドフクシン」水液ニテ染色ス
サンセウ	十—十四	仝上	仝上假晶体ノ稜角明瞭ナリ
トウグワン	十—十四	大ナリ	仝
ヒヤウタン	十—八	仝上	仝
クルミ	十二—十四	仝上	仝上ニシテ假晶体明瞭ナラズ且ツ瓢狀ヲ成スモノアリ
ヨシノサクラ	十—八	小ナリ	仝
エゴマ	八—十	仝	仝
アサ	八—十	明瞭	仝上ニシテ假晶躰ノ稜角明瞭ナリ

溶解シタルモノ			
シラキ	八ー十	仝	仝
トウナス	六ー八	仝	仝上ニシテ假晶体鮮明ナリ
ヘチマ	六	仝	仝
キウリ	六	仝	仝
ザクロ	八ー十	仝	「ピクリツクオレンヂ」水液ニテ染色ス
ガンピ	六ー十	仝	仝
ヒマワリ	十ー十四	判明ならず	仝假晶体ヲ有セズ

水幷ニ食鹽水ニハ溶解セズシテ稀薄加里液ニ溶解スルモノ			
アカメガシハ	十二ー十四	小ナリ	「アシドフクシン」液ニ染ム
コブシ	十ー十二	仝	仝、假晶体ノ稜角最判然
ツルレイシ	八ー六	明瞭	仝上、但シ洗淨スル際脱色シ易シ「ピクリツクオレンヂ」水液ヲ宜シトス
ゴマ	八ー十	仝	仝
ナシ	六	明瞭	仝
アブラギリ	六	仝	仝
ナスビ	四	有ス	「ピクリツクオレンヂ」水液ニテ染色ス

附「ピクリツクオレンヂ」酒精液ハ「ピクリツクアシド」ノ强酒精飽充液ニ「オレンヂ」ヲ飽充セシメタルモノニシテ糊粉粒ノ「セクシヨン」ヲ直チニ此液中ニ投シ四五分乃至十分ヲ經テ之ヲ强酒精ニテ丁寧ニ洗淨シ（キ

シロール）ヲ點シテ后「カナダバルサム」ニテ封裝セバ糊粉粒ハ鮮麗ナル橙黄色ニ染色ス「ピクリツクオレンヂ」水液ハ「ピクリツクアシド」ノ强酒精飽充液一分ニ水二分ヲ混和シ之ニ「オレンヂ」ヲ飽充シタルモノニシテ糊粉粒ノ「セシクヨン」ヲ强酒精又ハ「エーテル」ニ浸シタル后此染液中ヘ沒スルヿ二三分乃至十分ニシテ水ニテ洗淨セハ糊粉粒ハ橙黄色ニ染ム之ヲ「バルサム」ニテ封裝セント欲セハ前同様ノ手續キヲ要スレ𪜈「グリセリン」ニテ封裝センニハ水ニテ洗淨シタル后直チニ「グリセリン」ヲ點ズベシ

○原形質及ビ感應性（前號ノ續）

池野成一郎

細胞質、細胞核及ビ「セントロゾーム」ハ動植物細胞共ニ之ヲ有ス而シテ斯ク原形質ガ三体ニ分ルヽモノハ其分異ノ進化セル狀態ニシテ今日吾人ガ生物發育ニ就テ知ル所ニ因テ推考スレバ此狀態ハ單簡ナル狀態ヨリ進化シ來リシモノナラン是下等生物ノ研究ニ因テ明瞭ナリトス即今日吾人ガ知ル所ノ最劣等植物ニハ無核ノモノアリ或ハ色素体ナク唯全体ニ綠色ナル細胞体アリ然リト雖モ今日世ニ知ラルヽ最下等植物ノ無核ナルヿ若クハ色素体ヲ有セザルヿハ確然言ヒ難シ何トナレバ此說ヲ打破スルノ研究往々コレアレバナリ即バクテリアノ如キ從來無核ノモノト信ジタリシガ近來其細胞核ヲ發見セルモノアルガ如シ然リト雖モ假令吾人ガ今日知ル所ノ生物ガ悉ク分異セル原形質ヲ有スルト見做スモ未ダ驟ニ下等生物ハ皆此分異ヲ有スルヤ否ヤコレ斷言シ能ハザルナリ何トナレバ吾人ガ今日顯微鏡ヲ以テ認得ベキ最微ノ生物ハ此世ニ存在スル最微ノ生物ナルヤ否ヤ之ヲ知ル能ハザレバナリ況ヤ今日吾人ガ有スル器械ヲ以テ生物最微ノ限界ニ達シ得タルヿハコレ甚ダ覺束ナキヿナルニ於テヲヤ吾人ノ祖先モ或ハ其時代ノ顯微鏡ニ因リ最微生物ヲ觀察シ得タリト推想セルヤモ知ルベカラズト雖モ其後ニ至リ其時代ノ器械ニテ觀察シ能ハザリシ物体發見セラレタルニ非ズヤ例ヘババクテ

リアノ如シ況ヤ吾人ガ今日知ル所ノ最微生物ノ形狀學的及ビ生理學的性質ノ複雜ナルハ適々以テ吾人ガ觀察シ得ベキ以外ニ尙ホ搆造及ビ性質ノ簡單ナル生物アルヿヲ證スルニ於テヲヤ

原形質ガ分異上進化スルノ力アリ且實ニ此進化ヲ爲スヿハ植物原形質ニアリテ動物原形質ニ無キ器官タル色素体コレガ適證タリ植物ノ原形質ハ其綠色ナルガ爲某々ノ無機化合物ヲ有機化合物ニ化スルノ力ヲ得タリ原形質ノ分業愈〻進步スルニ隨ヒ此力ハ唯原形質ノ一定部ニ限ラルヽニ至リ其部遂ニ獨立シテ一個ノ器官トナルニ至リ又動物細胞ニ於テハ斯クノ如キ官能ノ分異コレナキナリ

顯微鏡的實驗ハ生物原形質ノ分異ヲ證シタリ而シテ一方ニ於テハ化學的ノ研究アリテ原形質ニハ唯一個ノ物質ナク多數ノ物質アルヿヲ證明シタリ盖原形質ノ成ルヤ多數ノ蛋白質及ビ之ニ類スル物質即總ジテ「プロテイン」質ト稱スル物質其形成ニ預ルナリ蓋原形質內ニ斯クノ如キ物質多數存在スルヿハ化學的反應之ヲ確定シタリト雖モ其物質ノ性質ハ未ダ詳ナラズ其化學的造搆ノ如キ唯臆想ニ留ルノミ又細胞核及ビ細胞ノ分裂ノ如キ其他ノ場合ニ於テ化學的反應ノ順次變化スルニ因テ考フレバ生活セル原形質內ノ「プロテイン」質ハ容易ニ其性質ヲ變化スルヤ明ナリエドワルド、プフリユーゲル（Eduard Pflüger）ガ明確ナル理論ニ因レバ原形質ノ生活作用ハ蛋白質分子ガ絕エズ分解シ或ハ新ニ形成スルニ因ルモノナリト然レバ生活セル原形質ノ忽然變ジ忽然化スルヤ當然ナルノミ

植物細胞ハ動物細胞ト異リテ化學上一種特別ノ膜ヲ以テ包圍セラルコレ植物細胞ノ特別ナル性質ナリトス細胞膜ノ發生スル摸樣ハコレヲ簡單ナル植物ニ於テ明知シ得ベシ溝中ニ生ズル綠色ナル水藻ノ繁殖スルハ其細胞ノ原形質分裂シテ多數トナリ而〆後細胞膜ノ一部溶解シ彼ノ數多ノ裂片ハ此ノ溶解ニ因テ生ジタル孔穴ヨ

リ游出ス此裂片ハ多ク梨子狀ニシテ其狹キ前端ニ細微ナル毛アリ此裂片ハ此毛ヲ以テ水ヲ游泳スルヿ恰モ動物ノ如シ而〆其運動セル間ハ細胞膜ナク少時ヲ經テ其裂片ノ表面ニ細胞膜ヲ生ズレバ運動隨テ遲緩トナリ其前端ヲ以テ他物ニ固着シ次テ延伸シ横裂シ元來生ジタルガ如キ植物トナルニ至ル

植物細胞內ノ生活セル原形質ハ膜ニ因テ包圍セラルヽニ因リ其植物全体ノ活働稍々衰フルハ明瞭ナリ

植物細胞內ノ原形質ハ細胞膜ニ因テ全然相隔別シ毫モ相通ズルヿコレナキトハ從來人ノ唱道スル所ナリキ果シテ然ラバ某々ノ細胞相共同シテ全植物体ノ爲ニ働クガ如キ或ハ多數ノ細胞ヨリ成レル植物ガ一個ノ生体ト爲リテ存在スルガ如キハ如何ナル故ナルヤコレ解スベカラザルナリ此ノ疑問ハ近來確然タル解釋ヲ得タリ即今ヤ細胞ノ原形質ハ全然相通ゼザル者ニアラズシテ微細ナル原形質ノ糸ニ因テ相結合スルヿヲ發見シタリ此糸ハ細胞膜ヲ貫通シテ一細胞ヨリ他細胞ニ至ル故ニ一個植物ノ生活物質ハ實ハ相結合シテ一個体ヲ爲スヿ動物ニ同ジ然レ𪜈植物細胞体ノ結合タルヤ僅ニ細微ナル糸ニ因ルガ故ニ其活働ニ限アリテ其活働力ハ恐クハ唯各細胞ノ活働力ノ總計ニ過ギザラン之ニ反シ動物細胞体ハ其結合極テ親密ナルヿ植物ノ比ニアラズ故ニ其活働モ亦植物ニ比シテ大ニ優ルモノアルナリ

植物界ノ或ルモノハ其分異ノ方法一種特別ニシテ常ノ方法トハ大ニ相違セルモノアルハ奇ナリト云フベシ即此類ニ於テハ植物体ノ外形ハ比較的ニ進步シ其官能ハ比較的ニ分異セリト雖モ植物ハ多數ノ細胞ニ隔別スルヿナク一個ノ細胞ナルニアリ斯クノ如キ植物ヲ非細胞植物ト稱ス斯クノ如キ植物アルニ因テ考フレバ植物ガ進化シテ其活働ノ盛ナルニ至ルハ必ズシモ其体ノ多數ノ細胞ヨリ成ルヿヲ要セズ而シテ多數ノ細胞ニ分ルヽハコレ唯々活働ノ盛ナルニ至ル爲メノ一法タルニ過ギザルヿヲ證スルナリ而シテ非細胞植物ノ僅ニ藻類菌類

ノ一部ニ限ラルヽハコレ細胞ニ分ルヽヿガ植物進化ノ爲メ最モ通常ナル方法タルヲ知ルニ足ル非細胞植物ハ一個ノ細胞ヨリ成リテ其膜ノ内面ヲ覆フ所ノ細胞質ニハ多數ノ細胞核アリ非細胞植物中「カウレルパ」(Caulerpa)ノ如キハ其長サ一尺餘ニ至ル「カウレルパ」ハ海藻ナリ其外形ハ高等植物ニ類シ根ノ如キ突起アリテ海底ニ固着シ薄キ圓壔形ノ莖アリテ海底ニ匍匐シ緑色ナル長キ葉アリテ之ヲ上部ニ出ス此植物ノ原形質ハ全体相連結シテ一体ヲ爲ス

非細胞植物ノ海藻ハ細胞ニ隔壁ナク隨テ其原形質ハ全然連結スト雖モ之ヲ細胞ヨリ成レルモノニ比シテ其搆造必ズシモ高等ナリト云フベカラズ何トナレバ細胞的ノ造搆及ビ隨テ起ル所ノ各細胞ノ分業ハ其目的成ルベク細胞相互ノ結合ヲ完全ニシ成ルベク細胞ノ共同ヲ容易ニシナガラ生物体内ノ最高等ナル活働ヲ爲サシムルニアリ而シテ原形質ノ全然相通ズル非細胞造搆ハ斯クノ如キ高等ナル目的ヲ仕遂グル爲メノ仕掛ニアラザレバナリ

（以下次號）

○福島縣粕屋郡ニ於テ九月中ニ開花ヲ目擊シ得ヘキ自生ノ植物（前々號ノ續）

長野菊次郎

穀精草科

154 ホシグサ　Eriocaulon sexangulare, L.

155 オホホシグサ　Eriocaulon Miquelianum, Koern.?

澤瀉科

156 ヘラオモダカ　Alisma plantago, L.

莎草科

157	オニカヤツリ	Cyperus pilorus, Vahl.
158	アセカヤツリ	Cyperus complanatus, Presl.
159	ミヅカヤツリ	Cyperus japonicus, Miq.
160	ヒンジカヤツリ	Lipocarpha microcephala, Kunth.
161	タマカヤツリ	Cyperus difformis, L.
162	オホテンツキ	Fimbristylis Buergeri. Miq.
163	ヒデリコ	Fimbristylis miliacea, Vahl.
164	ウキヤガラ	Scirpus maritimus, L.
165	カンガレイ	Scirpus mucronatus, L.
166	ヒメクヾ	Kyllingia monocepephala, L.
167	イガクサ	Rhynchospora Wallichiana, Kunth.
168	ヤハラスゲ	Carex transversa Boott.

禾本科

169	チカラグサ	Eleusine indica, Gaertn
170	スヽメノヒエ	Paspalum Thunbergii, Kunth
171	ノビエ	Panicum Crus-galli, L.

172	ネヅミノヲ	Sporobolus indicus, R. Br.
173	ネズミガヤ	Muehlenbergia japonica, Steud.
174	メカルカヤ	Themeda Forskalii, Hackel, var major, subvar. japonica, Hackel.
175	ヲカルカヤ	Andropogon Nardus, L. sub. sp. marginatus, Hackel, var Goeringii, Hackel
176	メヒシバ	Panicum sanguinale, L
177	キンエノコロ	Setaria glauca, Beauv
178	コヌカグサ	Agrostis vulgaris, Willd.
179	ヌメリグサ	Panicum indicum, L. var contractum, Miq
180	トダシバ	Arundinella anomala, Steud.
181	ガゼクサ	Eragrostis ferruginea, Beauv.
182	ヨ　シ	Phragmitis communis, Trin.
183	サヽクサ	Lophatherum elatum, Zoll.
184	チヾミザヽ	Oplismenus Burmanni, Beauv.
185	チカラシバ	Pennisetum japonicum, Trin.
186	ズヾダマ	Coix lachryma, L.

○封　薬

大、三、

顯微鏡的標品ヲ製スルニ當リ覆ヒ硝子ノ周縁ヲ封ズルニ近來本邦ニテ白らつくナルモノヲ使用スル者往々ア

レモ永久保存セント欲スル標品ニハ不適當ナリ如何トナレバ壹ヶ年以上ヲ經過スレバ其らつくニ龜裂ヲ生ジぐりすりんノ如キハ之レヨリ洩出スレバナリ去レバ封藥ニハでーるどさいず若シクハあすふあるとばーにすヲ宜シトス

附言でーるどさいずノ製法ハ亞麻仁油ニ朱並umberヲ加ヘ三時間沸騰セシメ透明液ヲ去リ唐土及黄土ノ同分量ヲ徐々加ヘタヘズ攪雜セ再ビ沸騰セシメテ瓶ニ蓄フベシ（亞麻仁油廿五分朱一分、をんべる三分ノ割合ナリ）

あすふあるとばーにす最上ノモノヲ同量ノ亞麻仁油トてれびん油ニ溶解セシモノナリ（若硬結セシ時ハてれびんヲ加フベシ）

○蘭草の事

蘭草に古今の別あり漢土の人後世多く誤る東壁の李氏よく本草綱目に辯せり我國はまたしかり萬葉集の和歌に詠ぜしは古時の蘭草にしてふしはかまと訓ずこれ直蘭と稱するものなり俗に燕尾蘭といふ今の蘭草の如く生にはあらず其葉兩々相對して花は濃くむらさき色なり故に藤の名之による秋心ありて花葉ともに香あり秋後諸草と共に枯る別に澤蘭草あり香なし稍々似たれども方莖にして花葉の間に開く至て小なりこれ眞蘭に似たる故を以て名づく今盆種となして蘭草と名くるものは花のかたち白（俗にいふ芝蘭）の花の如くにして芳香甚しく葉は麥門冬の大葉なるが如く蒲生なり少しく寒を怖るといへども嚴寒も凋ます、是れ古昔の蘭草にあらす和歌に詠するふぢはかまに非す亦唐朝の諸人、詩に作る所に非す又左傳に鄭文公香草を夢見て戀ひ始めに御して子を得て蘭と名く即ち穆公なり病に臨て曰我蘭を以て生す蘭の枯る時死なんとこの秋枯る時をいふ也今の蒲生のものを以てらん草とする事は宋の時黄庭堅深く是れを愛して蘭草とす今建蘭（福建に出るものを佳品とす故に名づく）といふ

ものなり後世古の蘭草をしらずして今の建菊を以て古昔の蘭とするものは蓋是よりして謬る明の世に至て謝肇か如きものも五雜俎に蘭を辯して古今の別ある事をしらす然るに其藥用に至りしは誤るへからす故に李時珍本草綱目によく辯ぜり藥に用ゐるものは古昔の蘭草なり神農本經に菊花といふもの是なり其葉も亦藥に用ふ唯蒲生の蘭草なるものは根に大毒あり葉も又藥に用ふる事なしこゝを以て辯せすんはあるへからす

本草綱目曰、　時珍曰、　二氏（家夾震亭）所說、乃近世所レ謂蘭花、非二古之蘭草一也、蘭有二數種一、蘭草澤菊生二水傍一、山茶即菊草之生二山中一者、蘭花亦生二山中一、與二蘭廻別、蘭花生二近處一者、如二麥門冬一而春花生二福建一者、葉管芽如而秋花、黃山谷所謂、一幹一花爲蘭幹數花爲蕙者、蓋因レ不レ識二蘭草蕙草一、遂以二蘭花一强生二分別一也、　蘭草與二澤蘭一同レ數、故陸機云、蘭似二澤蘭一、但廣而長節、離騷曰、其綠葉紫莖素枝、可レ紉可レ佩、可レ籍可レ膏可レ浴、鄭詩曰、士女乘蘭應、而風俗通云、尙書奏レ事、懷レ香握レ蘭、禮記云、諸侯贄レ薰、大夫贄レ蘭、漢書云、蘭以レ香自燒也、若夫之蘭花、有レ葉無レ枝、可レ玩而不レ可二紉佩籍俗乘握膏焚一、故朱氏離騷辯、證二言之一、香草必花葉俱香、而燥溫不レ變、故可二刈佩一、今之蘭但黃、花香而葉乃無二氣質弱易一、蘭不レ可二刈佩一、必非二古人所レ指甚明一、古之蘭以二澤而蕙一、即今之零陵香、今之似レ茅而花有二兩種一者、不レ知二何時誤一也、然大古冀越集云、　世俗之蘭生二于深山窮谷一、決非二古時水旁之蘭一也、　陣遯齊閑覽云、楚騷之蘭、或以爲二澤蘭一、或以爲二猗蘭一、當下以二澤蘭一爲上レ正、今人所種如二麥門冬一者、名二幽蘭一非二眞蘭一也、故陳止齊著二盜蘭說一、以二機之方一、盧谷訂蘭記云古之蘭草、　即今之千金草名二孩兒蘭一者、　今之所謂蘭、其葉如芽而嫩者、根名二土續斷一、因二花馥郁一故得二蘭名一也、揚升庵丹世、以下、如二蒲萱一者上爲レ蘭、九畹之受詛久矣、又吳草廬有菊說甚詳云、蘭爲二醫經上品之藥一、有レ枝有レ莖草之德者也、今所謂蘭世枝世莖、　因二黃山谷稱一レ之、世遂謬指爲二離騷之蘭一、寇氏本草亦溺二于浴一、反疑二舊說一爲レ非、　夫醫經爲二實

用ハ豈可ㇾ誤哉今之蘭果可三利ㇾ水殺ㇾ蟲而除二痰癖一乎、其種盛ニ于閩ハ朱震亨乃閩人豈不ㇾ識二其土產ハ而反辯折如ㇾ此、世俗到ㇾ今猶以ㇾ非ㇾ蘭爲ㇾ蘭、何其惑之難ㇾ解也、嗚呼觀二諸儒之明折一如ハ此、則冠朱二氏之誤可ㇾ知、而醫家用二蘭草一者當ㇾ不二復疑一矣、此說甚明解也、唯後世蘭と稱する所のものはいにしへに蘭草は香草といふによりて後世花に香あるものに蘭の名を假り用ひたるなりたとへば木蘭は花木かたちらんに似たる事なしといへとも香あるを以て蘭の名を得るか如しその謬りし初は後世蘭と稱する者も古への蘭草とも同しく蘭といひしならん古のものをらん草とし後世のものを蘭花と名を別ていへる事は李氏の古今正僞を分別せんが爲なるへし宋の黃山谷より謬れるといへとも猶宋朝も古の蘭草を以て蘭となせる人あり東坡が梅の詩に蘭をいふなり又李氏いふ古の蕙草は零陵香なりと便ち一名芸香和名麝香草なり又今山谷か說に從て一幹一花一幹數花を以て蘭蕙を別つものは大きに誤れり（骨董雜談）

K. S.

◉●◉毎月一回（十五日）發行◉●◉

（速記彙報）

正價一冊八錢 ● 六冊前金四十五錢 ● 全國無遞送料

速記彙報第四十九ニハ貴衆兩院議員ノ演說振リ、一百十各新聞紙ノ筆記振リ一節、慶應年間渡米セシ江戸ノ手品師中川浪五郎翁ノ談話ノ速記、講談師ノ松林伯圓翁ノ巨擘『目出鯛話』ト題セル講演ノ速記論說雜錄寄書雜報等ヲ其他掲グ。

東京神田區裏神保町一番地
速記彙報發行所

東洋學藝雜誌
第百三十七號
明治二十六年二月二十五日發兌
●表紙廣告ヲ除キ六十二頁木版挿圖數個

●論說○教育と宗教の衝突（承前）井上哲次郎○アウストラリヤの土俗坪井正五郎○釜石鐵山ノ話併セテ我國鐵業ノ前途ヲ論ズ野呂景義○こさつくノ話坪井九馬三○神經細胞ガ其官能上働作ノ爲ニ受クル形態上ノ變化箕作佳吉●雜報○全國學校の數○修學比例○帝國大學果して官吏養生所なるか○新著數學表○四桁の對數書○教員撿定試驗口頭問題○コエーベル氏○樹木と雷震との關係○アルミニユムの効能○上野動物園の象○ヴイスマン先生の新著外數件●學會記事六件●應問○湖上及海上住居ノ時代坪井正五郎●定價金十錢●東京神田區裏神保町東洋學藝社

●東京人類學會雜誌 第八巻第八十二號

●本誌毎月一回月末發兌壹部定價拾錢郵稅貳錢六冊前金五拾五錢郵稅壹部ニ付金貳錢ツヽ

○記事 ○論說及報告 ○沖繩縣記標文字說（圖入）田代安定君 ○羽前最上郡津谷村の遺蹟遺物（圖入）羽柴雄輔君 ○食人風習論補遺寺石正路 ○通俗講話人類學大意 理學士坪井正五郎君 ○穴居考材料（圖入）寺石正路君○本會へ寄附されたる最近諸雜誌中に在る人類學上の材料 坪井正五郎君 ○雜報 貝器（着色石版圖付キ若林勝邦） 貝塚百首（井上喜久治其他數件（圖入）

東京本郷六丁目
發行所 哲學書院

明治廿六年三月九日印刷
明治廿六年三月十日出版

版權所有

編輯兼發行者 東京府平民 井上蘇吉
東京神田區錦町三丁目一番地
印刷者 滋賀縣士族 熊田宜遜
東京神田區錦町三丁目廿五番地
發行所 植物學雜誌編輯所
東京神田區裏神保町壹番地
賣捌所 敬業社
同所
同 丸善書店
東京日本橋區通三丁目

314179

THE
BOTANICAL MAGAZINE.

Vol. 7.] March 10, 1893. [No. 73.

CONTENTS.

Tricryrtis nana, nov. sp. By R. Yatabe, Sc. D. 39

Plants Employed in Medicine in the Japanese Pharmacopæia. (Continued from No. 72.) By K. Sawada. 41

Canclis scarbra, Makino. By T. Makino. 44

Chemical Researches on the Aconitum and other Plants. By Prof. J. Shimoyama. 45

Micellaneous :— 46

Aleurone graines.—Protoplasm and Irritability.—Plants flowering during September in Kasuya County, Fukuoka Ken.—Cements.—Eupatorium.

All letters and communications to be addressed to the editor of the
TŌKYŌ BOTANICAL MAGAZINE,
No. 1. Urajimbōchō, Kanda, Tōkyō, Japan.

第七卷　第七拾四號
74
明治二十六年四月十日

植物學雜誌

目録

たまばうき（石版圖入）　理學博士　矢田部良吉（六一丁）
日本産ふたばらん屬　牧野富太郎（六三丁）
All Known Species of the Japanese Listera.　仝　上（六五丁）
公孫樹ノ枝ノ北向ニ就テ　理學士　藤井健次郎（六九丁）
日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）　澤田駒次郎（七一丁）
まるてんしわ　をーすとらりすノ造構ニ就キテ　理學士　岡村金太郎（七五丁）
◎雜　録（七六丁）
○「バクテリア」の說○原形質及ひ感應性○ドクトル Huth氏の毛莨科小屬中の訂正○
些事一束○絲條書屋植物雜記（其二）
◎質問應答（九七丁）
◎附　録
○顯花植物分科檢索表　池野成一郎（三七丁）

植物學雜誌編輯所

本誌缺號（買入交換）廣告

第一號至第四號、第七號、第八號、第十二號、第十五號、第十七號至第三十一號、第五十號、第五十一號至第五十三號、第五十五號、第五十七號、第五十九號、第六十一號、

右缺號各地愛讀諸君より屢々御注文有之候處右缺號の爲め空しく御斷申居遺憾の極に御座候就ては地方各地の諸君にして右雜誌缺號御不用の餘册御座候へば何卒御通知被下度候然る上は相當の代價亦は本誌最近號と交換等御申越に從ひ右兩樣可仕候此段廣告仕候也

東京市神田區裏神保町一番地
申込所　敬業社雜誌部

花主諸君ヨ

敬業社ハ花主ノ御便利ヲ謀リ和漢洋書籍及諸雜誌ハ何方出版ノ品ニテモ金高ト部數ノ多少ヲ問ハズ迅速ヲ專一トシテ手廣ク御取次仕候間續々御注文被下果シテ便利ヤ否ヲ御試ミアランヿヲ希望仕候

東京神田區裏神保町一番地
教育書出版、古本賣買
諸雜誌發行及取次　敬業社

東京人類學會雜誌　第八卷第八十四號

●本誌ハ毎月々末一回發行一部定價拾錢郵税貳錢
半年分前金五拾五錢郵税一部ニ付貳錢ツヽ

○記事　○論說及報告　○支那銅器時代考材料（續、圖入）寺石正路　○陸奧國二戸郡小鳥谷村石器時代の遺跡（圖入、石版圖付き）若林勝邦　○千葉地方貝塚探究報告、古作の部八木奘三郎　○下總國曾谷、千葉の二貝塚に就て山崎直方　○二日の旅行（白子紀行、圖入）下村三四吉、鳥居龍藏　○遠江敷知郡入野村蜆塚ヨリ發見シタル古代ノ遺物土屋彥六　○通俗講話人類學大意（續）理學士坪井正五郎　○一產多子に就き羽柴雄輔　○幽靈ト葬式（承前）石川一男　○本會へ寄附されたる最近諸雜誌中に在る人類學上の材料坪井正五郎　○雜報　土器のひねりとめ（根岸武香）麴町の貝塚（鳥居龍藏）貝塚百首、續（井上喜久治）其他、

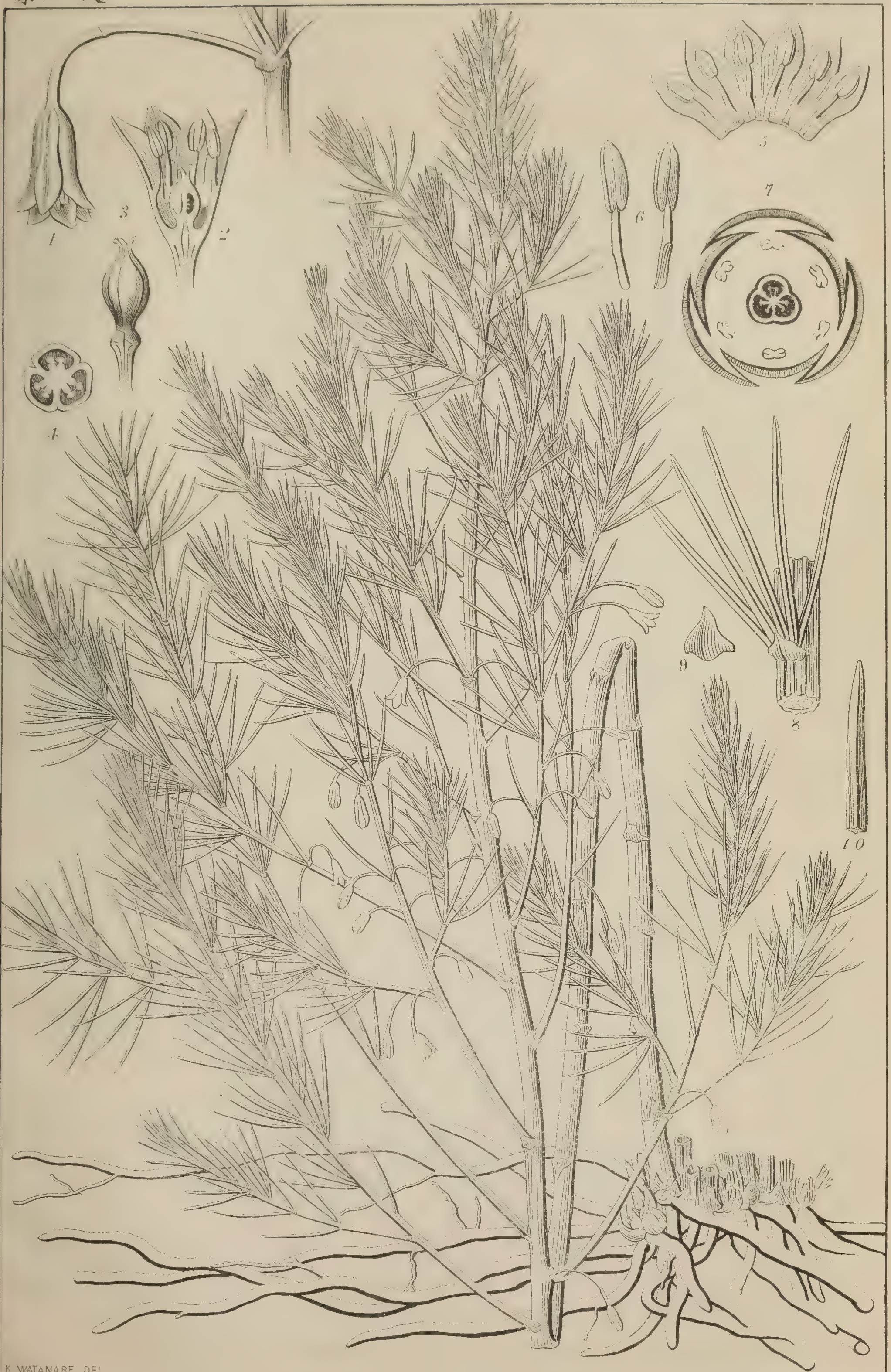
發行所　東京本鄉區本鄉六丁目　哲學書院

明治廿六年四月九日印刷
明治廿六年四月十日出版

版權所有

編輯兼發行者　東京府平民　井上蘇吉
東京神田區錦町三丁目一番地
滋賀縣士族
印刷者　熊田宜遜
東京神田區錦町三丁目廿五番地
發行所　植物學雜誌編輯所
東京神田區裏神保町一番地
賣捌所　敬業社
同所
同　丸善書店
東京日本橋區通三丁目

第四版 Plate IIII.


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

K. WATANABE, DEL.

ASPARAGUS TAMABOKI, YATABE.

TAMABŌKI. タマバウキ.

植物學雜誌第七卷第七十四號　（明治二十六年四月十日）

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. VII. April 10, 1893. No. 74.]

New or Little Known Plants of Japan.

No. 33.

Ryōkichi Yatabe, Sc. D.

Asparagus Tamaboki, nov. sp.

Nom. jap. Tamabōki. タマバウキ.

(Order Liliaceæ.)

Plate IV.

Rhizome short-creeping. Stem herbaceous, erect, sulcate, much branched, about a foot high. Cladodia 4-6, from the axils of leaves, 4-angular, 6-9 lines long. Leaves scalelike, scarious, deltoid, $\frac{1}{2}$-2 lines long. Flowers hermaphrodite, in pairs or solitary, cernuous; peduncles 2-4 lines long; pedicel articulated to the peduncle, 2 lines long. Perianth 6-partite, tubular-campanulate, dark purplish-green, $2\frac{1}{2}$ lines long; its segments in 2 series, somewhat recurved at the apex, $1\frac{1}{2}$ lines long, the inner three ovate and with yellowish margins, the outer three ovate-lanceolate. Stamens 6, a little shorter than the perianth, opposite its segments, adherent to its tube at the base; filaments subulate; anthers erect, oblong, slightly apiculate, cordately bilobed at the base, dorsifixed near the base, orange-colored, about 1 line long. Ovary ovoid, 3-celled, green, about 1 line long, $\frac{1}{2}$ line broad; style short, 3-lobed, the lobes recurved and stigmatose on the upper side; ovules 6 in each cell, biseriate, each on a clavate pedicel projecting from the central angle of the cell, amphitropous.—Fl. October.

My specimens are from the Botanic Garden of the Imperial University.

This plant belongs to *Asparagopsis*, Kunth (Enum. Pl., vol. v., p. 76.), the flowers being hermaphrodite. I believe it is a native of Japan, although it is uncertain in what part of the country it is found wild. It is figured in the *Honzō Zufu* (vol. xxviii., fol. 7 verso.) under the name of *Tamabōki.* The plant figured in the *Sōmoku Zusetsu* (vol. vii., fol. 6.) under the same name is probably the same as the present plant. Franchet and Savatier in their *Enumeratio Peantarum Japonicarum* (vol. ii., p. 59.) refer *Asparagus oligoclonos*, Maxim. to the figure in the *Honzō Zufu* mentioned above, but it is a diœcious species allied to *Asparagus officinalis*, *Linn.*

Plate IV. Fig. 1, flower; 2, vertical section of flower; 3, pistil; 4, transverse section of ovary; 5, pe-

rianth laid open showing the attachment of stamens; 6, ventral and dorsal views of staman; 7, floral diagram; 8, portion of branch with a leaf and cladodia; 9, leaf detached; 10, upper portion of cladodium:—*all enlarged.*

日本産ふたばらん屬

牧野富太郎

ふたばらん屬ハ即チ R. Brown 氏ノ Listera 是ナリらん科中ノ Neottieae 族 Spirantheae 亞族ニ屬ス世界ヲ通ジテ此屬ニ屬スルモノ十種ニ超ユ本邦ニ産スルモノ今日吾人ノ知ル所四種アリ就中其一種ハ新種ニ屬ス左ニ之レガ索射表(Analytical Key)ヲ掲ゲ且ツ之レヲ列記セン

索射表

一、脾片分裂セズシテ線狀披針形ヲ成ス……………………れはふたばらん
　　脾片兩裂ス……………………二

二、脾片ノ裂片ハ鋭頭ナリ……………………三
　　脾片ノ裂片ハ圓形ニ〆倒心臟形ノ狀アリ……………………ふたばらん

三、脾片ノ裂片ハ披針形ヲ成シ基部ノ小齒ハ後方ヲ指セリ……………………ひめふたばらん
　　脾片ノ裂片ハ線形ヲ成シ基部ノ小齒ハ前方ニ向ヘリ……………………こふたばらん

一、れはふたばらん(新稱) Listera japonica Bl.

脾片分裂セザルニ由テ之ヲ他ト區別スルヿ容易ナリ Blume 氏著 Flora javae 第四卷らん科植物ノ部ニ於

テ詳ニ之ヲ圖説セリ吾人ハ獨ニ此書ニ據テ之ヲ見ルノミニシテ未ダ之ヲ實見セシヿナシ

二、こふたばらん Listera cordata R. Br.

歐洲米洲之ヲ産シ西比利亞地方亦之ヲ見ル故ニ其散布狹隘ナラズ脾片兩裂シ其裂片狹長ニシテ線形ヲナシ基齒ハ前向ス脾片ノ長ハ略〻花蓋片ニ倍シ花ハ花軸上ニ四—十一個許ヲ有ス　産地、下野日光山、信濃駒岳（共ニ帝國大學標品）

三、ひめふたばらん（新稱）Listera shikokiana Makino.

葉形前種ニ酷似シ果實ナキノ標品ハ極メテ相混淆スルヲ免カレズ脾片兩裂シ其裂片ハ披針形ヲナシ基齒ハ後向ス此狀ヲ驗シ得バ之ヲ前種ト區別スルニ難カラズ且ツ其形長大ニシテ略〻花蓋片ニ三倍シ花ハ花軸上ニ疎生シテ二—三個ヲ着クルニ過ギズ　産地、土佐名野川村山地（渡邊協氏）同土佐郡工石山（矢野勢吉郎氏）

四、ふたばらん Listera Eschscholtziana Cham.

西比利亞地方ヨリ本邦ニ散布ス莖ハ纖長葉ハ卵形花蓋片ハ狹長ニシテ脾片ハ其長サ之ニ二倍シ裂片廣クシテ其狀倒心臟形ヲ成シ蕊柱長ク直立ス其脾片ノ狀ハ大ニ前ノ三種ト異ナリ以テ之ヲ他ト識別スルノ特點トシテ可ナリ　産地、土佐横倉山（予）下野日光山幷ニ信濃御嶽（共ニ帝國大學標品）

右ニ列擧セシモノ是レ今日吾人ノ知得シタル品種ナリ而シテ本邦ノ地採集未ダ遍ネカラズ從テ未知ノ品種多シ四方同好ノ士異種ヲ得ルアレバ幸ニ愛ヲ割テ其二三個ヲ惠與セラレンヿ切望ノ至ニ堪ヘザルナリ

All Known Species of the Japanese Listera.

(日本產フタバラン屬)

BY TOMITARŌ MAKINO.

牧野富太郎

LISTERA R. Br.

R. Brown in Ait. Hort. kew. V. p. 201.

Lindl. Gen. et Sp. Orch. p. 455.

Endl. Gen. pl. p. 213.

Meisn. Gen. p. 385.

Benth. et Hook. f. Gen. pl. III. p. 595.

Engl. u. Prant. Die nat. Pflanzenfam. II. 6. p. 113.

Analytical Key to Species of the Japanese Listera.

1. {Labellum entire, linear-lanceolate..L. japonica Bl.
   {Labellum 2-cleft. 2.

2. {Lobes of the labellum acute. 3.
   {Lobes of the labellum broadly rounded (obcordate)......L. Eschscholtziana Cham.

3. {Lobes lanceolate, basal teeth curved downwards..............L. shikokiana mihi.
{Lobes linear, basal teeth curved upwards.........................L. cordata R. Br.

1. Listera japonica Blume.

Blume Fl. jav. Orch. p. 136, tab. 38, fig. 2, et tab. 48, fig. E.

Miq. Prol. fl. jap. p. 141.

Franch. et Savat. Enum. pl. jap. II. p. 37.

New Japanese Name.—Ōfutabaran. オホフタバラン(新稱)

Japan (after Blume).

2. Listera cordata R. Br.

R. Brown in Ait. Hort. kew. V. p. 201.

Lindl. Gen. et Sp. Orch. p. 455.

Chamisso in Linnaea III. p. 33.

Reichenb. Ic. fl. germ. et helv. XIII. tab. 480.

Billot Fl. gall. et germ. exsicc. No. 174.

Lebeb. Fl. ross. IV. p. 80.

Blume Fl. jav. Orch. p. 136.

Miq. Prol. fl. jap. p. 141.

Maxim. Prim. fl. amur. p. 269.

Fr. Schmidt Reisen in Amurl. und der ins. Sachal. pp. 63 et 183.

Sowerby Eng. Bot. IX. p. 120. pl. 976.

A. Gray Man. Bot. ed. 5, p. 506.

Franch. et Savat. Enum. pl. jap. II. p. 36.

Neottia cordata L. C. Rich. Orch. Eur. p. 37.

Reich. fil. l. c. p. 149.

Epipactis cordata Swartz in Act. holm. (1800) p. 232.

Willd. Sp. pl. IV. p. 88.

Ophrys cordata L. Spec. 1340.

Sm. Engl. Bot. ed. 1. No. 356.

Ophrys foliis cordatis Gmel. Fl. sib. I. p. 25, No. 23.

Ophrys minima C. Bauh. Pin. p. 87.

Cymbidium cordatum Londers. in Mém. de la Soc. des Natur. de Mosc. I, p. 282.

Bifolium minimum J. Bauh. Hist. pl. III. p. 534.

Japanese Name.—Kofutabaran. コフタバラン

Shimotsuke: Nikkō; Shinano: Mt. Komagadake (Herb. Imp. Univ., Tōkyō, Japan).

3. Listera shikokiana spec. nov.

Perianth thin, reflexed, one-nerved. Sepals obtuse; the upper one ovate-oblong; the lateral ones slightly oblique and oblong. Petals almost as long as the sepals, spathulate-oblong, quite obtuse, with revolute margins. Labellum deflexed, thrice longer than the perianth, more or less carnose towards the central portion, 2-fid, with a minute blunt tooth between the two lobes; lobes lanceolate, acute, divergent, 3—4 nerved; basal teeth minute, sagittate, and clasping the column. Column short, globose; clinandrium large, deeply concave; rostellum short, very slightly retuse; stigma horizontal, concave. Anther broadly ovate, convex, sessile on the dorsal portion of the clinandrium. Ovary obovoid, glabrous.

Small herb. Root-fibres very long,fili form. Rhizome slender, creeping. Stem erect, angular, smooth, and with 2—3 membranous sheaths at the base. Leaves 2, much shorter than the stem, subopposite, sessile, deltoid-ovate or rhombic-deltoid, sometimes subcordate, abruptly narrowed at its basal portion, acute, membranous, and glabrous; margins crisped; main nerves 3 with reticulated veinlets; the upper surface often albescent along the midrib. Raceme usually shorter than the stem, glandular-pubescent; flowers greenish-purple, 2-3, arranged loosely; pedicel slender, filiform, glabrous. Bracts minute, obtuse, sometimes acute, embracing the base of the pedicel. Fls. April.

Whole plant 5—9 c.m. high. Leaves 12—15 × 7—14 m.m. Raceme $2\frac{1}{2}$—$3\frac{1}{2}$ c. m. long. Pedicel $3\frac{1}{2}$—6 m.m. long. Perianth-segments $2\frac{1}{3}$—3 m.m. long. Labellum about 7 m.m. long. Ovary 2—$2\frac{1}{2}$ m.m. long.

New Japanese Name.—Himefutabaran. ヒメフタバラン (新稱)

Tosa: Nanokawa (*K. Watanabe*), Mt. Kuishi (*S. Yano*).

4. Listera Eschscholtziana Cham.

Chamisso in Linnæa III. p. 33.

Lindl. Gen. et Spec. Orch. p. 456.

Ledeb. Fl. ross. IV. p. 80.

Maxim. Prim. fl. amur. p. 269.

Fr. Schmidt Reisen in Amurl. und der ins. Sachal. p. 183.

Japanese Name.—Futabaran. フタバラン

Tosa: Mt. Yokogura (*T. Makino*). Shimotsuke: Nikkō; shinano: Mt. Ontake (Herb. Imp. Univ., Tōkyō, Japan).

* * *

公孫樹（イテフ）ノ枝ノ北向ニ就テ

藤井健次郎

公孫樹ノ枝ノ常ニ北方ニ傾斜スルヿハ古來傳ヘテ人ノ能ク知ルトコロニシテ或ハ公孫樹ニハ磁氣アリナドイヘリ又原野ニ出デヽ方向ヲ失セル𪜈ニ若其近方ニ於テ公孫樹ヲ見ルヿヲ得バ其枝ノ常ニ北向ナルガ故ニ以テ方角ヲ認知スルヲ得ベシト云フ余之ヲ聞クヿ久シク又之ヲ目撃スルヿ屢ナリ

其事實斯ノ如ク明ニ又斯ノ如ク世ニ知ラレタルヿナレバ其果シテ何ノ故ニカ其枝ガ斯ク北向ナルヲ研究スル

公孫樹ノ枝ノ北向ニ就テ

モ一ハ其事實其自身ニ對シテモ無用ニモアラザルベク又一ハ類似現象ニ於ケル其理ヲ啓發スルノ鍵タランヿヲ期ス

凡ソ事ノ原因ヲ探索セントスルニ當テハ先ツ其事實ノ正確ナルヤ否ヤヲ决セザルベカラズ因テ以下少シク總テノ公孫樹ノ總テノ枝ハ眞北ニ向フヤ否ヤノ事實ヲ確定セントス

余ハ故アリテ昨年來東京府埼玉縣山梨縣静岡縣神奈川縣大坂府富山縣石川縣等ノ數地方ニ於ケルいてふニ就キテ觀察スルノ折ヲ得タリ就中甲州及東京ニテ觀察セシモノ最モ多シ此等ノ觀察ニヨレバ總テノいてふノ總テノ枝ガ眞北ニ向フト云フヿハ事實ニアラズ又いてふノ枝ニ眞北ニ向ハントスル性アリト云フコトモ事實ニ相違シ此現象ハ彼ノ日向性地向性等ト共ニ北向性或ハ磁氣性ナドトシテ論ズベキモノニアラズ

今各地ニ於テ余ガ實地觀察セルモノニシテ北向ト云フ事實ニ相違セル一二ノ例證ヲ擧ゲンニ何レノ地方ニテモ著シク北方ニ向ヘルハ皆高サ數丈ナル樹ニシテ高サ一二間ノいてふニ於テハ幹ハ直立シ枝モ亦他ノ樹木ニ於ケルト一般ニシテ殊ニ北方ニ向フヿナシ又大樹ニシテ其幹枝著シク北向ノ觀アルモノモ其幹ノ上半ハ多少北方ニ傾斜スレ𪜈下半ハ概シテ直立セリ又下方ノ枝ハ概シテ方角ニ偏スルヿナク其北向最モ著シキガ如ク見ユルハ大概項上ノ幼芽ナリ東京府内ニテハいてふノ上方枝ハ概シテ北方ニ傾斜シ其最モ甚シキ一例ハ農科大學ニ至ル途中ニテ宮益坂ト云ヘル坂ノ上ノ一小祠内ノいてふニシテ此樹ノ上半ノ傾斜下半ト恰ンド百二十度以下ノ角度ヲナセリト覺フ此ニ注意スベキヿハ一ノ公孫樹ノ下ニ立チ其枝ノ何レニ向フカヲ確メント欲セバ觀察者ハ可成丈其樹ヲ離レ其樹ノ全体ヲ四方ヨリ觀察スルニ非ザレハ誤認シ易シ而〆其北方ナルヤ否ヤヲ確ムルニハ其樹ノ東或ハ西ヨリ觀ルヿヲ要ス南方或ハ北方ヨリ觀ルトキハ何程北方ニ傾斜スモ之ヲ識別シ得ザル

ナリ品川大森間ニテハ概シテ北向ナリ神奈川近方ニテ稍北向ナレ𪜈著シク東向ナルガ如キモノヲ見受ケタリ藤澤ト平塚間ニテハ北向ナリ國府津ニテモ亦北向ナリ奄原近邊ニテ東北ニ向ヘルモノヲ見受ケタリ越中國高岡近方ニテハ北向ノモノ多シトイヘ𪜈東京ニ於ケルガ如ク著シキモノヲ見ズ甲州富士川ノ沿岸ナル中八木澤村ニ一ツノいてふアリ周圍六尺六寸（明治廿五年四月）高サ八間許ニシテ此樹ハ全体西ニ向ヒ稍南ヘ傾斜シ少シモ北向ノ傾ナシ又駿州富士郡上野村下ノ坊ナル一公孫樹ハ重ニ西向ニシテ三分許北向ナリ仝郡妙蓮寺ナル一公孫樹ハ東北ニ向ヘリ大坂市ノ一大公孫樹ノ芽ハ多ク東向ニシテ稍北向ノ氣味アリ

以上ノ事實ニ依レハいてふノ枝ハ必ズシモ方角ニ偏セズ又偏スルモノ必ズシモ北方ニ偏セズ故ニいてふノ枝ハ皆北ニ向フト云フヿハ事實ニアラズ去レ𪜈其北ニ偏スルモノ如斯多キヲ以テ見レバ亦此ニ其原因ナカルベカラズ又其原因ニシテ一般他ノ草木ニモ及ボシ得ベシトセバ他ニ其例ノ有無ヲモ探究スルヲ要ス又何ノ故ニいてふニ於テ其影響如斯著シキカヲモ攻究セザルベカラズ

（未完）

日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）

澤田駒次郎

三十七　ロザ、カニナ

羅甸名　Rosa canina, Linn.

薔薇科

歐羅巴等ニ自生スル落葉灌木ニシテ高サ丈餘幹直立圓柱形ヲ爲シ平滑緑色若クハ赤褐色ヲ呈シ一根ヨリ叢生枝梢ヲ繁茂シ鈎状ノ刺ヲ有ス其初生ノモノハ紅色ヲ呈スト雖𪜈時ヲ經タルモノハ褐色ト爲リ大イサ均等ニシ

テ大小錯雜スルコト無ク兩側扁平ナリ枝條ハ極メテ延長シテ弓形ヲ爲シ平滑ニシテ綠色若クハ紫色ヲ呈ス葉ハ奇性翼狀ニシテ互生シ葉柄ヲ有ス托葉一對長圓形ニシテ鋭尖ヲ有シ其邊緣葉柄椎ニ附着ス小葉二對乃至三對頂端ノ一葉ハ稍々大ニシテ殆ンド座着シ卵圓形乃至長卵圓形ニシテ先頂尖リ邊緣鋭鋸齒若クハ重鋸齒ヲ有シ菲薄ニシテ濃綠色ヲ呈シ表面平滑裏面ハ毛茸ヲ帶ブ葉柄ハ或ハ平滑或ハ毛茸ヲ帶ヒ赤色細小ノ刺ヲ有ス花本ハ二三花聚集シテ細小ナル擬繖形花ヲ綴ル花ノ直徑一寸二分餘乃至一寸六七分花梗矮短毛茸ヲ有セズ抱花小葉ハ卵圓形ニシテ鋭尖ヲ有シ眞葉狀ヲ爲ス萼ハ廣濶ナル甕形ニシテ其上部狹小ト爲リ外面平滑先頂五箇ニ缺刻シ其截片鋭尖平滑翼葉狀ヲ爲ス花瓣五片廣濶ナル心臟形ヲ爲シ開展シ暗石竹色ヲ呈シ其基部黃色ヲ有ス而シテ內面凹陷シ屋瓦狀ニ並列ス雄蘂無數數行ニ排列シ肉質甕形ナル萼ノ口部即チ花盤ヨリ生ジ其葯細小ナル雌蘂數多萼ノ內面ニ充塞シテ長毛ニ因テ被覆セラル實礎ハ單房ニシテ一箇ノ卵子ヲ懸生シ花柱ハ稍々側方ヨリ延長シテ毛茸ヲ有シ柱頭膨脹シ萼ノ口部ヲ超過シテ微ニ突出ス果實ハ夥多ノ乾果ヨリ成リ肉質甕形ノ擬果ニ因テ被覆セラル而シテ其內面ニハ長毛ヲ有ス乾果ハ硬堅ニシテ卵圓形ヲ爲シ鋭尖ヲ有ス然レドモ其形狀稍々差異アリ而シテ其頂端萎縮シタル花柱ヲ有シ外面ニ長毛ヲ帶ブ子殼ハ厚ク其質骨樣ニシテ硬堅ナリ種子一箇膜質ノ胎盤ヨリ懸生シ子葉ハ平面凸圓形ニシテ根芽ハ上位ヲ爲シ蛋白質ヲ有セス

本植物ハ歐羅巴全土ノ森林矮林等ニ產シ東ハ亞細亞北部波斯北ハ亞弗利加及ヒ加拿里諸島ニ蕃殖ス此等ノ諸國ニ於テハ籬ト爲シ大イニ其花ヲ愛翫ス英國ニテハ隨所ニ產スト云フ

本植物ハ第六七月ノ頃開花シ第十月頃ニ至リ果實稔熟シ降霜前ニ至テ微ニ柔軟ト爲ルナリ

本植物ハ變種極メテ多ク果實ノ形狀花梗ノ毛茸及ヒ腺毛ノ有無葉緣ノ鋸齒等ニ因リ之ヲ區別ス此等ノ差異及

ビ他ノ性狀ヨリ數多ノ種類アリトス *Baker* 氏ハ二十九種ヲ區別シ *Boswell Syme* 氏二十一種トス

藥品　薔薇子 Rosa Caninae Fructus.

薔薇子ハ本植物及ヒ之ニ類似スル種類ノ稔熟シタル果實ニシテ英國藥局方ニハ此果實ヲ以テ藥用ニ供ス又印度藥局方ニハ本植物ノ稔熟シタル果實ノミヲ用フ日本藥局方ニハ用ヒズ

性狀　薔薇子ハ球形若クハ卵圓形ニシテ長サ六分餘外面平滑鮮赤色ヲ呈シ稔熟殊ニ降霜ノ後其內層柔軟ト爲リ橙黃色ヲ呈ス味ハ甘酸ニシテ香氣ヲ有セズ其內部ハ空虛ニシテ數多ノ乾果ヲ有ス硬固ニシテ毛茸ヲ有ス通常之ヲ種子ト云フ

成分　*Bilz* 氏ノ說ニ據レハ薔薇子ハ游離枸櫞酸三「ペルセント」游離林檎酸七·七「ペルセント」護謨二十五「ペルセント」不結晶糖大約三十「ペルセント」其他枸櫞酸鹽類林檎酸鹽類礦物酸鹽類等ヲ含有スト

醫治効用　緩和ナル清涼ノ一藥ニシテ稍々收歛性ヲ有ス英國藥局方ニハ蜜漬ト爲シ用フ此種子ハ硬毛ヲ帶ブルニ因リ之ヲ內服スルトキハ內臟ニ機械的刺戟ヲ生スト〇薔薇子ハ蜜漬ト爲シ一味用フルコト無シト雖モ味ヒ甘酸佳美ナルニ因リ矯味藥トシ或ハ丸劑練藥等ノ一成分トス *Gerarde* 氏云稔熟ノ果實ハ甘酸美味ナルニ因リ食品ヲ生スト

薔薇根ハ往時恐水病ノ一良藥トス本植物ニ Canina ナル種名ヲ命セシハ之ニ基因スト云フ

三十八　ロザ、ガルリカ

羅甸名 Rosa gallica, Linn.

薔薇科

細小ナル灌木ニシテ幹直立匍匐狀ノ根莖ヨリ叢生シ枝杪矮短硬剛嫩芽ハ殆ンド均等ニシテ眞直ナル刺及ビ腺毛ヲ有スト雖𪜈肥大鉤狀ノ刺ヲ有セズ葉ハ奇性翼狀ニシテ互生シ托葉一對大ニシテ鋭尖ヲ有シ葉柄椎ニ附着ス小葉二對其頂端一葉ヲ有シ形チ卵圓底部圓ク邊縁鋸齒ヲ具ヘ其質硬剛通常革紙樣ニシテ脉絡微細皺紋ヲ顯ハシ裏面ハ其色稀薄ニシテ微ニ毛茸ヲ帶ヒ邊縁ノ鋸齒ニ腺毛ヲ有セス葉柄矮短或ハ之ヲ缺如ス花ハ大ニシテ花梗厚長堅立或ハ枝杪ノ頂端ニ生シ或ハ葉腋ヨリ發シ葉狀ノ抱花小葉二個乃至三箇ヲ有ス萼ハ肉質瓶樣ノ管ヲ爲シ開展シ口部狹隘ト爲リ先頂五個ニ缺刻シ其截片卵圓形ニシテ外面腺毛ヲ有シ內面平滑外側ノ邊縁ニ細小ノ刺ヲ有ス花瓣五片（自生ノモノ）萼ノ缺刻ト互生シ其截片廣濶ナル三角形ヲ爲シ瓣脚細小ナル柄ヲ有シ屋瓦狀ニ並列開展脉絡鮮明ニシテ通常濃石竹色ヲ呈シ瓣脉ノ柄ハ其色稀薄ナリ雄蘂夥多萼ノ內面肉質ノ花盤ヨリ生ジ數行ニ並列シ其葯扁平二房ヲ有ス雌蘂數多萼ノ底部及ビ側方ヨリ生ジ實礎ハ單房ニシテ一箇ノ卵子ヲ懸生ス花柱ハ側方ヨリ生シ其上部膨脹シ萼外ニ突出ス果實ハ乾燥ノ閉果ニシテ種子一個ヲ有シ萼中ニ聚集ス擬果ハ球形若クハ卵圓形ニシテ平滑紅色ヲ呈シ其頂端ニ萼ノ缺刻ヲ存シ冠帽狀ヲ爲ス

本植物ハ歐羅巴北部英國等ヲ除キ殆ンド全土ニ自生シ或ハ自生ノ觀ヲ呈ス又希臘クリミア亞爾美尼亞等ニ蕃殖スト

本植物ハ往時ヨリ栽培シ多クノ變種ヲ生シ重瓣ニシテ種々ノ彩色ヲ呈ス此等ノ變種ハ其香氣「ロザ、センチホリア」ト異ナリ藥用ニハミチガム近傍、痾哥斯佛爾州 (Oxfordshir) 德爾北州 (Derhyshir) ヨリ產スルモノヲ用フト

本植物ハ佛蘭西ニ於テ此變種ヲ生セシ土地ヨリシテ其名ヲ Provins ト稱シ大イニ之ヲ貴重シ現今和蘭及ビ

巴里近傍ニ於テ培養ス或云本植物ハ「ロザ、センチホリア」ヨリ區別スルコト極メテ難シト　（以下次號）

Martensia australis Harv. の造搆に就きて

岡村金太郎

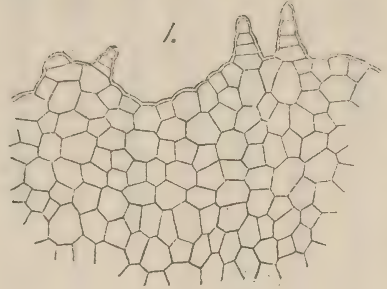
Martensia australis Harv. は去る明治廿年理科大學助教授大久保三郎氏が伊豆七島巡回之際大島に於て採集したるを以て嚆矢とす其圖は明治廿年六月發兌植物學雜誌第一巻第五號第十二版に佐々木三六氏の手に成れる自然大の圖あるを以て詳なり爾來此種を相洲三浦郡三崎及び房州等に得るを前後三四回に及べども常に其造搆を研究するの便なく甚だ遺憾と思ひ居る處昨年夏八月學友三本貞守氏が三崎出張中同所に於て再び此種を獲アルコホール漬として送られしを同月當地赴任の際携へ來り此頃閑あるまゝ研究したれば玆に之を報告し以て氏の好意を謝す、

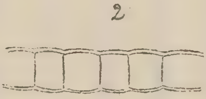
此種は紅藻類中 Rhodomelaceae 科に屬し Pollexfenieae 族中に在り。根は小さき盤伏にして莖短く。上部に扁平なる体に開張す。体は二部より成り。莖の上部なる薄膜部は稍腎臓形又は扇状に分裂し。幅高さ共凡そ三セ、メ許にして。柔且薄し。膜部の上緣邊より漸次網狀部を成長す。充分なる大さのものにて殆と十五セ、メ許の幅並に高さあり。往々縱裂す。網目は大小不同なれども緯よりは經の長さを常とす。膜部に近き下部の網目は概に小なり。網狀部の周邊は狹き緣取りあり。微小なる刺を有すれども。充分成長する時は往々見るべからさるに至る。實は未だ視察したるをなし。色鮮紅色にして乾燥するときは紙に密着す

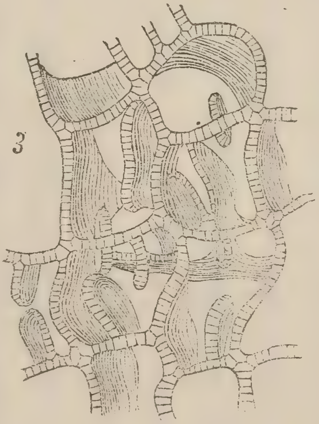
膜部は多角形なる細胞一層の面に併列して之を爲す（１、２圖）其遊離緣に尖頭狀の成長點を見るべし。網狀部は恰も長方形の目を有する格子細工の如く縱の骨及び横の骨とも皆一層の面に併列せる細胞より成り（３）膜

部の面と直角をなす而して目の周圍の骨より數多の隔板を出し或は各自獨立し或は相互癒着する等甚だ不規則なり

本種は之とアウストラリア、タスマニア等の産にして其本邦豆相房邊に産するは暖流の齎す所たるは屢々論したるか如し本種の洋書に記載ある者は Harvey 氏 Phycologia Australis 第八版を以て始とす







第１圖は膜部を表面より見たるもの（九十七倍）

第２圖は其横斷面（仝上）

第３圖は網狀部を上面より見たるもの圖の位置は縱即チ自然の位置なり

◎雜錄

○「バクテリア」の說（前々號ノ續キ）

K. D. 山人纂譯

第二章　黴菌及其作用

生物ノ始メテ此世ニ現ハレ出シ時ハ其形狀單純ニシテ猶ホ恰モアメバノ如ク若クハ單純ナル細胞ノ如クナリシコト其理尤モ信スヘキモノ多シ然ルニ漸ク年所ヲ歷ルニ隨ヒ生理上ノ分業トイフ天然ノ法則ニ伴ヒ多クノ

生物ハ次第々々ニ複雜ナル形体ト能力トヲ具フルコトヽハ成リシナリ

サレドアラユル生物ハ皆悉ク進化的變化ヲ受ケタリト謂フ可カラズ何トナレバ劣等植物ノ一群族ニシテ肉眼ニテハ殆ント見分モ付カザル而カモ數年前マデハ全ク吾人ノ知ラサリシモノ今尚存在スレバナリ是物タル誠ニ單純微細ニシテ恰モ始メテ世界ニ生ジ來リタルモノヽ一ナラント思ハルヽ程ナリ之ヲ何トカ爲ス黴菌即チ是レナリ

黴菌ハ極メテ微細ニシテ其構造幷ニ活動モ亦極メテ單純ナルガ故ニ學者ヲシテ動植物ノ何レニ屬スルヤヲ判スルニ苦マシメキサレド現今ニ至リテハ正シク植物ニシテ藻（アルジー）茸ト密接ノ關係テ有スルモノナリト爲スニ至リタリ

黴菌ハ其形狀種々ニシテ常ニ一定セズサレド通例其圓形ナルコト球ノ如ク又橢圓形ナル卵ノ如ク時ニ鉛筆ノ如ク棍狀ヲナシ或ハ栓拔ノ如ク螺旋狀ヲナスモノナリ

黴菌ハ極メテ么微ナルガ故ニ之ヲ吾人ノ熟知セル物ト相比較スルニ非レハ決シテ想像シ得ベカラサルモノナリ爰ニ通例ノ黴菌一千五百ヲ把來リテ其端ト端トヲ合スルモ尚針頭ニ於ケル直徑ノ長サト爲スニ足ラザルベシ故ニ若シ一箇ノ黴菌ヲ廓大ニシ而シテ之ヲ一箇ノ人ト同様ニ見做ス時ハ人ハ華盛頓山ヨリ大ナルコト殆ント四倍ナルニ至ラン黴菌ノ細微ナル斯ノ如シト雖モ吾人ハ尚能ク其ノ濃厚ナル外被ニヨリテ包マレ而モ粒狀ノ物質ヨリ成レルモノタルヲ知レリ

更ニ顯微鏡ヲ以テ見ル所ハ黴菌ハ透明ナル物体ニシテ尚ホ明ニ其全體ヲ究メムト欲セバ宜シク「アニリン」ノ如キ染料以テ赤色ナリ青色ナリ若クハ紫色ニナリ之ヲ染メンコトヲ要ス

試ニ黴菌ヲ取リテ之ヲ流動体ノ中ニ置ク時ハ其棍狀若クハ螺旋狀ヲナセルモノハ實ニ驚クベキ動作ヲナシ或ハ靜カニ游泳シ或ハ廻轉シ或ハ踠キ或ハ進ミ或ハ退キ時ニ揉ミ合フカト思ヘバ又靜マリ若クハ前後ニ蕩漾スル等其變化極リナク之ヲ見詰レバ殆ンド頭重ク眼疲ルヽニ至ル抑此運動ハ或黴菌ニ在リテハ其体ノ一端ナル髮狀ノ突起物ニ因リテ爲スモノナリ玆ニ精强ナル顯微鏡ヲ以テスルモ尙ホ此等ノ突起物即氈毛ヲ見ルコト甚タ難シトスサレドモ黴菌ヲ撮影スルヿハ敢テ難シトセズ即チ人ノ網膜ニ映ズル能ハサル氈毛ノ如キ形ヲモ寫眞板ニ印シテ長ク消滅セザラシムルコトヲ得ルナリ

黴菌ノ活動ニ必要ナルモノハ暖氣濕氣酸氣及ビ多少ノ有機物等是レナリ故ニ若シ是等ノ要件ニシテ其宜シキヲ得タランニハ黴菌ノ繁殖實ニ夥キニ至ラン而シテ其繁殖ノ順序タル最初黴菌ノ外面ニ収縮ヲ生シ斯クテ漸ク深クナリ行キ遂ニ中部ニ隔壁ヲ生シテ二箇ノ黴菌トナリ是等ノ黴菌又各分レテ二箇トナリ或ハ互ニ抱合シテ種々長短ナル絲ノ形鎖ノ形又塊狀ヲ成スモノナリ

其生殖ノ速カナルコトハ一箇ノ黴菌ヨリシテ一晝夜間ニ千六百五十ノ黴菌ヲ生ズ或有名ナル生物學者ノ計算ニ據レバ若シ黴菌生殖ノ狀況ニシテ其宜シキヲ得バ一吋ノ千分ノ一ニモ足ラザル棍狀ノ一黴菌ハ五日間ニシテ其深サ平均一哩ト見做シ尙能ク地球表面ニ於ケル諸大洋ヲ充タスニ至ルベシト

黴菌ノ繁殖ハ斯クノ如ク迅急ナルモ幸ニ外部ノ勢力常ニ之カ防害ヲナシヽカ故ニ我世界ヲシテ其災禍ヲ免レ以テ今日アルヲ得セシメリ殊ニ吾人々類カ是等黴菌ノ生存ヲ認知セサリシ前ニ當リテモ亦幸ニ經驗ト熟練トニヨリテ敢テ之ガ侵害ヲ受ケザリシハ實ニ幸且ツ不思議ト云ハサルベケンヤ

抑生存競爭ハ夫ノ高等ナル動物中ニ盛ニ行ハレシガ如ク各種黴菌ノ成育上ニ於テモ猶ホ盛ニ行ハレ即チ一種

ノ黴菌ハ他種ノ黴菌ニ打勝ヲ或黴菌ハ他ノ菌黴ノ滅亡ノ爲ニ昌ヘ又强健ナル黴菌ガ其小世界ニ於テ食物ノ匱乏ヲ來タス時ハ之ヨリ稍微力ナル四近ノ黴菌ト競爭ヲ起シ其微力ナル黴菌ハ竟ニ之ヲ避クルヲ得ザルノ境遇ニ陷ルモノナリ

左レハ其形狀ノ如何ニ拘ラズアラユル黴菌ハ其生活ニ適スル狀況ニシテ宜シキヲ得タランニハ前ニ述ベシ如ク能ク生活シ能ク繁殖スルコト何ノ難キコトカアルベキ而レドモ若シ外界ニ於テ變化ノ生ズル時ハ常ノ如ク其生活ヲ持續スルコト頗ル難シ故ニ此時ハ其生治力ヲ体ノ一端ニ集メ以テ光澤アル小塊ヲ造リ更ニ濃厚ナル膜ニヨリテ被包セラルヽ之ヲ稱シテ胞子（スポール）トイフ此レ斯クセバ其不利益ナル外部ノ勢力ヲ避ケテ生存スルヲ得又此胞子ヲ作ラザレバ忽チ其生命ヲ失フノ恐レアルカ故ナリ而シテ外部ニ於ケル不利益ノ勢力且變シテ舊ニ復スル𪜈ハ胞子再ヒ膨脹シテ黴菌トナリ以テ次第々々ニ發育繁殖スルモノナリ

黴菌ハ素ト細胞ヨリ成レル單純ノ形体ナリ而シテ亦細胞ノ如ク活動ヲ以テ生命ヲ現シ或ハ動キ又ハ自ラ養餌ヲ求メテ生成滋殖スルモノナリ故ニ若シ濕氣及空氣ノ供給アルニ當リテハ枯死セル無機物質ヲ分解シ而シテ更ニ其必要ナル部分ノミヲ取リテ自巳ヲ養ヒ餘ハ自ラ遊離シテ恰モ他ノ生物ノ供用ニ便スルカ如ク成シ置クモノナリ

凡ソ世界ニ於ケル人類動物及ビ植物ノ組織ヲ造出スル物質ノ供給ニハ自ラ定限アルモノナレバ一種ノ生物ニシテ自己ノ形体ヲ組成スル所ノ物質ヲ永ク壟斷スル𪜈ハ其供給ハ直ニ缺乏スルニ至ルベク隨テ又他ノ新シキ生物ノ現出ヲ見ルコト能ハザルベシ是故ニ所謂生命ナル活力ガ動物若シクハ植物ヨリ離レ而シテ倘ホ濕氣酸素又ハ暖氣ノ存スルコトアレバ其動植物ハ忽チ腐化シ去リ乃チ其前ニ形体ヲ組成セシ物質ハ各分離シテ他ノ

生物ヲ新造スル所ノ物質トナルモノナリ此レ彼ノ黴菌有機物ニ侵入スルノ時ニ〆又其化合物ヲ分解スルノ期トス而レ𪜈此時ニ方リテハ黴菌ハ自己ノ養料ノ爲メニ其物質ヲ用ヰルコト至テ少ク其稍高等ナル生物ニシテ生活上未タ酸水窒及炭素等ヲ要セザルモノヽ爲メニ其物質ヲ變形スルモノナリ

牛乳ハ黴菌ノ最モ好メル食料ナリ故ニ之ニ變狀ヲ與フルコト甚シク其ヲシテ酸味ヲ生セシメ或ハ一種ノ化合物ヲ生シテ乾酪ニ種々ノ臭氣ヲ與フルモノナリ又化學的物質ニ種々ノ色彩アルハ黴菌ガ自然ニ腐敗セル有機物ヲ以テ自己ヲ養フ時ニ分解シタルモノナリ此ノ他時トシテハ悪臭アル瓦斯香氣アル物質甘味アル物質又ハ酸味アル物質ヲ生ズルコトアリサレド是等ハ皆遲カレ速カレ動物若クハ植物ノ用ヰル所トナリテ再ビ生命ノ域內ニ入リ來ルモノナリ斯ク生ト死トノ間ニハ斷エス變動行ハレ原素ノ結合亦自ラ一去一來ス而ルニ生物ガ單純ナル原始的ノ形狀ニテ此世ニ現出セルヨリ以來（コノカタ）黴菌ハ孜々トシテ其壞頹腐敗セル不用物ヲ粉粹シ再ビ之ヲ變化シテ更ニ生物ノ形トナスコトヲ力メタルモノト謂フベキナリ

昔時ニ在リテハ黴菌ノ如キ劣等ナル有機物ハ其自然ニ於ケル外部ノ狀況ニシテ宜シキヲ得バ直ニ發生シ得ベシト爲シタレ𪜈今ヤ此發生說ハ徒ニ識者嘲笑ヲ迎フルニ過キサルモノトナレリ何トナレバ元ト粗漏杜撰ノ觀察ニ據リテ得タル臆說タレバナリ夫レ人類ニマレ鳥獸ニマレ植物ニマレ將タ細胞ニマレ凡ソ生物トシ名ヲ得タランモノハ其曾テ生存セル生物ヨリ發生セザルモノハ之レアラサルナリ此原理タル下ハ黴菌ノ如キ么微劣等ナル生物ヨリ上ハ稍高等ノ機能ヲ有スル生物ニ至ルマデ決シテ變異スルコトアラザルナリ

黴菌ノ種類實ニ夥シ而シテ各種又各特有ノ性質アリテ其發生上並ニ成育上ニ必要ナル外部ノ狀況及變動等ハ隨テ異ナレリト雖𪜈先宇宙間到ル處自然ニ存在セザルハナシト云フベキモノナリ殊ニ壞頹腐敗ノ起ル處ニハ

尤モ多ク且生物ノ體內ニテモ必スヤ乾燥スルカ若クハ微弱ノ有樣ニテ生存ス故ニ濕氣ト食物ノアラン限リ其外圍ノ物体之ヲ防止スルニ至ルマデ決シテ成育並ニ繁殖ノ力ヲ止ムルコトナシ左レバ水面土地菓物其他植物人類或ハ動物ノ嫌ヒナク其口中ナリ食道ナリ皮膚ナリ苟クモ塵埃ノ觸ルヽ處ニハ行クトシテ多少ノ黴菌アラザルハナキナリ實ニ黴菌ハ普通ニ生存シ其數ノ多キコト亦此ノ如キガ故ニ若シ料理セザル食物ヲ食フ時ハ必ズ之ト共ニ多少ノ黴菌ヲ体中ニ入ルヽコトヲ免レザルモノナリサレド吾人ガ知ラズ々々消費スル是等ノ微細ナル生物ハ必シモ悉ク不潔有害ナル物ノミニアラズ何トナレバ必竟黴菌ハ唯タ一ノ細胞タルニ過キスシテ吾人ノ常ニ消費スル食物ハ其動物タルト將タ植物タルトヲ問ハズ悉ク細胞ヨリ成レルモノニシテ菓物ノ軟肉ニ於ケルガ如ク直ニ之ヲ食フコトヲ得ルモノ或ハ單純ナル料理若クハ他ノ製法ニ因リテ食フコトヲ得ルモノタルニ過キザレバナリ

葡萄ノ表面ニ寄リ集（ツト）ヘル數千ノ細胞即チ所謂黴菌ナルモノト是ヨリ稍大ナル數百ノ細胞ニシテ實際葡萄ヲ組成セル所ノモノト其有害無害ニ關シテハ更ニ逕庭アルコトナク何レモ通例ノ場合ニ在リテハ消化セラレテ身体ノ滋養分トナルモノナリ

サレド又有毒ナル植物有毒ナル黴菌之レナキニアラスサリトテ惴々焉トシテ常ニ畏ヲ抱キ菌類ヲ食フ時ニ當リ有毒菌ヲ食フノ害ヲ思ヒ出スガ如キハ豈ニ愚ノ極ニ非スヤ故ニ食用ニ供スル野菜ノ如キハ之ヲ耕作人ニ一任シテ可ナリ若シ其耕作人ニシテ不正無智果シテ有毒無害ノ甄別不確ナルコトヲ知レバ預メ有毒ノ植物ト無害ノ植物ト相混ズルコトナキヤヲ見定メタル上ニテ之ヲ嘗味セバ何ノ不都合カアラン

以上述ベタル所ニ據リテ黴菌ノ自然ノ動作ハ劣等ニシテサマテ顯著ナラサルモ大ニ其要用ナルコトヲ知リ得

ベシ實ニ黴菌ハ地球上ニ於ケル高等生物ノ經續ニ欠クベカラザルモノタリ故ニ又黴菌ヲ稱シテ見ル能ハザル人類ノ朋友トイフハ蓋シ其當ヲ得タルモノナラン

（未　完）

○原形質及ビ感應性（前號ノ續）

池野成一郎

植物組織ハ動物組織ニ異リテ原形質ニテ充滿スルハ唯々幼若ニシテ未ダ充分發育セザル細胞ノミ斯クノ如キ幼若ナル細胞ニ於テ細胞核ノ他ニ比シテ割合ニ大ナルハ以テ其ノ形成作用ニ關係アルヲ證ス而メ細胞核ノ大ニ原形質ノ充滿セル細胞ハ唯幼若ナルモノニ限ルト雖モ然レモ斯クノ如キ幼若細胞ハ常ニ植物体ニ於テ之ヲ發見スルヿヲ得ベキナリ蓋莖端根端ハ常ニ發育シテ止マズ之ヲ生長點ト稱ス而メ此生長點ヨリシテ新枝新根不斷發生スレハナリ而メ生長點ガ斯ク發育シテ止マザルハ其ノ細胞的造搆ヲ有スルガ爲ナラズ唯其原形質ノ狀態ノ一種特異ナルニ依ルノミ若シ細胞的造搆之ガ原因タラハ非細胞植物ハ生長點ヲ有セザルベキナリ然ルニ非細胞植物モ又之ヲ有ス非細胞植物ニ於テ新枝新根ヲ形成シ之ヲ發育セシムルモノ細胞植物ト同ジク幼若ナル原形質ナリ

植物細胞ハ成長スルニ隨ヒ空虛トナルニ至ル是普通ノ動物細胞ト異ル所ナリ斯クノ如キ細胞ニ於テハ原形質ハ唯細胞膜ノ內面ニ薄層ヲ爲シテ存シ細胞內ハ水樣ノ細胞液ヲ以テ充滿スルニ至ル

高等植物ノ体ニ於テハ之ヲ搆成スル細胞ノ一部ハ其生活含有物ヲ失フヿ動物体ニ於ケルガ如シ斯クノ如キ含有物ヲ失ヘル細胞ハ生命ナキモノナルカ故ニ死物トシテ植物体ノ生理上ニ力ヲ致ス即空虛ニシテ管狀ナル木管トナリテハ根ヨリ吸收セル水分ヲ上昇セシメテ葉ニ送致スルノ用ヲ爲シ厚膜ナル纖維トナリテハ植物体ヲ堅固ナラシメ且植物体中木質ト稱スル部ノ大部ヲ形成ス斯クノ如キ死セハ細胞ノ近傍ニハ多ク生活セル細胞

体ニ挾マリテ以テ其活働ヲ整正ス植物体中唯死セル細胞ノミヨリ成ルモノ卽樹木ノ「コルク」或ハ赤身ノ如キハ自ラ働クノ力ナク唯受身ノ官能アルノミ卽「コルク」ハ植物ニ外界ノ接觸スルヿヲ防キ赤身ハ繁茂セル葉ノ重ミヲ負擔スルニアリ材ニ赤身ナク唯シラタノミヨリ成ル樹木ニ於テハ生活セル細胞ハ死セル細胞ト相混交シテ莖ノ中央ニ至ル而メ此細胞ハ皆悉クト云フニ非ザレ圧多クハ不斷生命ヲ有ス卽余ハ一百二十四年ヲ經テ直徑一メートル以上アルぶなノ材ニ於テ其髓ノ近傍ニ生活セル細胞ヲ見タリ赤身ヲ形成スル樹木ニ於テハ生活セル細胞ハ材ノ外部ニ限ラル、シラタト云フハ暗色ナル赤身ニ對シ暗色ナラザル材ノ部ヲ云フモノニシテ赤身シラタノ區部ハかしは、はりゑんじゆ、其他果樹、針葉樹ニ於テ判然タルハ人ノ能ク知ル所ナリ赤身ノ暗色ナルハ一種ノ物質之ニ堆積シ此物質防腐ノ力アリ以テ死セル組織ノ腐敗ヲ防グナリ斯クノ如キ場合ニ於テ若シ死セル組織腐敗スル片ハ此腐敗物ヲ除去スル所ノ生活細胞欠如スルガ故ニ之ヲ腐敗セシメザルノ方法完備セルナリ

シユライデン及ビシユワン兩氏ノ研究ハ植物及ビ動物ノ細胞論ヲ合シテ同一題トナシタリ而メ植物ノ原形質ト動物「サルコード」ノ同一物タリトノ發見ハ愈此兩細胞論ヲシテ近接セシメタリ斯クノ如キ事實アルニモ拘ハラズ動植物學ニ於テハ其研究兩端ニ分離シ殊ニ細胞形成ノ事ノ如キ動物植物相對スルヿナクシテ論究セラレタリ事情斯クノ如クナリシガ故ニ細胞ノ形成法ハ動物ト植物ト更ニ類似スル所之ナキガ如ク細胞核ノ行爲ノ如キモ又大ニ相違スルガ如クニ思意セラレタリ例ヘバ動物家ハ新キ細胞核ノ生ズルハ從來現存セル核ノ縊ルニ因ルト信ジ植物家ハ之ニ反シ細胞核ノ新ニ生ゼントスルヤ從來ノ核ハ一旦溶解シ其後新キ核ヲ生ズト信ゼリ以上ノ如ク諸說區々タリシガ之ヲ一定セルハ實ニ一千八百七十五年ニ出デタル新說ナリ（譯者曰クコ

レ此演説者ストラスブルゲル氏ガ Ueber Zellbildung und Zelltheilung ナル書ナリ）此新説ハ動植物ニ於テ細胞及ビ細胞核形成法ノ其要點相同ジキヿヲ論ジタリ而メ此事タル後ノ研究ニ因リ愈確實ナルニ至リヌ此説ニ因レバ細胞核ハ其分裂以前更ニ溶解スルヿナク新ニ生ゼル核ハ從來現存セル核ノ變化セルモノタリ此分裂法タルヤ極テ複雜ナルガ故ニ之ヲ視察スルニ時間ト勞力ヲ費消スルヿ少カラズ然レ𪜈動植學者ノ其研究ニ從事スルモノ多ク此等學者ノ協力ニヨリ今ハ細胞核分裂ノ方法明瞭ナルニ至リ且ハ其分裂法中必要ナル事ト不必要ナル事トヲ區別スルヲ得ルニ至リタレバ數語ヲ以テ其法ヲ説明スルヿ容易ナリ抑細胞核ノ將ニ分裂セントスルヤ之ヲ搆成スル絲ハ先ヅ短小トナリ厚クナリ相整列シテ後ノ分裂ノ平面上ニ所謂核板ヲ形成シ、各絲ハ縱裂シテ二個ヅヽトナリ各絲ノ兩半ハ反對ノ方向ニ退キ同方向ニ趣キタルモノ相合シテ新キ核二個ヲ成ス此ノ分裂ニ際シ各絲ハ縱裂シテ其一半ヲ新核ノ甲ニ與ヘ他ノ一半ヲ乙ニ與フルガ故ニ新ニ生ゼル二個ノイハユル娘核ハ各々同一ナル核質ヲ同量ニ蓄積スルヤ明ナリトス細胞核分裂ノ法タル以上ノ如ク複雜ナルニ似タレ𪜈之ト同一ノ成果ヲ得ンニハ他ニ簡單ナル方法アルベクモ思ハレズ例ヘバコヽニ一個ノ帶アリテ種々異質ノ部分ヨリ成ルトセンニ之ヲ質モ量モ同一ナル帶ニ二分センニハ吾人ハ之ヲ横ニ切ラズメ之ヲ縱ニ切ルベキナリ造化モ又斯クノ如ク絲ハ各々縱裂シ各娘核ハ其各一半ヲ受クルガ故ニ母核ノ有セル性質ハ悉皆之ヲ受ケザレバ核ハ假令百囘千囘分裂スルモ此結果ニ於テ毫モ違フヿコレナキナリ斯クノ如クシテ核ガ分裂スレバ其度毎ニ其大サヲ減ズルヤ必然ナリ然シテ此減少ナカラシメンガ爲メ核ノ分裂毎ニ之ヲ榮養スルモノアリ此榮養ノ爲メ核ハ生長シテ分裂前ト同樣ノ大サヲ有スルニ至ル核ノ再ビ前ト同大ナルニ至レバ再ビ分裂ス而メ此分裂タルヤ動植物學者最近ノ研究ニ因レバ前段論ジタル原形質ノ一部タル「セントロゾーム」ノ力ニ因ルガ如シ

「セントロゾーム」ハ各核ノ傍ニ二個ツヽ存シ核ノ將ニ分裂ヲ始ムルヤ二個ハ相隔離シ新核ノ生ズベキ場所ニ來ルサレバ兩個ノ「セントロゾーム」ノ位置ハ以テ分裂セル核糸ガ赴ク所ノ兩極ヲ示スモノナリ而メ兩極ヨリハ細胞質ノ細微ナル糸出デヽ以テ核糸ノ行爲ヲ整正ス而メ兩核ノ形成終ルヤ「セントロゾーム」ハ分裂シテ二個ヅヽトナリ斯クシテ各新核ノ傍ニ二個ヅヽ存スルニ至ル

細胞分裂ハ人ノ之ヲ研究セルヿ核分裂ノ如ク周密ナラズ而メ細胞分裂ニ於テハ之ヲ全ク同樣ナル兩半ニ分ツニ非ザルガ如ク又細胞質ニ複雜ナル分異モ生ゼズ唯動物ニ於テハ細胞中央ニテ縊レテ兩個トナリ又植物ニ於デハ固形ノ隔壁ヲ生ジテ兩個トナルノミ

色素体モマタ分裂スルヿ細胞質ノ如シ色素体ハ決シテ新ニ特生スルモノニ非ズ必ズ前ニ色素体アリテソレヨリ生ズルモノナリ細胞核、「セントロゾーム」、色素体ノ如キ特生スルヿコレナキハ學術上明證シ得ベクシユワン氏シユライデン氏ノ研究トハ實ニ反對ノ結果ヲ生ズルニ至リヌ蓋兩氏ハ細胞核及ビ細胞ハ新ニ特生スルモノナリト信ジタリ之ニ反シ吾人ハ生物体ヲ搆成スル細胞ハ悉皆之ヲ卵細胞ヨリ來ルモノタルヿヲ知ル而メ細胞核、「セントロゾーム」及ビ色素体ハ此卵細胞ノ細胞核、「セントロゾーム」及ビ色素体ヨリ來ルモノタルヿヲ知ルナリサレバ生物ハ子々孫々其更質相連續セルモノニシテ啻ニ其生活物質ノミナラズ總テ形アル成分ハ皆悉ク連續スルモノタルヤ明ケシ

細胞核ノ分裂スルニ當リ種々複雜ナル方法アリテ其兩手ノ全然同一ナル樣ニ分ツハ何故ナルヤ其理由ハ細胞核ガ各生物体ノ特異ノ性質ヲ有スルモノタルヲ知ラバ明瞭ナラン何トナレバ核ノ分裂スルヤ其娘核ニ自身有スル丈ケノ性質悉皆ヲ讓與スルヿヲ要スレバナリ抑細胞核ガ生物体ニ於テ斯クノ如キ特別ノ官能ヲ有スルヿ

ハ生殖論研究近來ノ成果ニ基スルモノナリ蓋生殖ノ事タル之ヲ究覓スルニ唯二個ノ細胞核ト二個ヅヽノ「セントロゾーム」ノ合着ニ外ナラズシテ此等ノモノ卵細胞內ニ於テ相合着シ而シテ其子孫ニ其性質ヲ讓與スルモノナリ父ノ細胞核イハユル精核ハ父ノ性質ヲ子ニ傳ヘ母ノ細胞核イハユル卵核ハ母ノ性質ヲ子ニ傳ヘ、合着セル「セントロゾーム」ハ兩核ノ合着ニ因リテ生ジタル胚核ノ分裂ヲ惹起スノ作用アリ細胞核ノ生殖上必要ナルヿハ相ノ子ノ形成ニ於テ愈々明ナリ相ノ子ノ形成トハ相異ル所ノ生物ノ兩核相合着シテ兩親ノ性質ヲ兼有スル所ノ新生物ヲ生ズルヿナレバ此相ノ子ガ其部分ノ何レナリ𪜈兩親ノ混交ノ性質ヲ有スルニハ其核ハ悉皆同樣ノ組成ヲ有シ且父母核ノ性質ヲ有スルヿヲ要スルヤ明ナリ然ルニ父母核共其核糸ハ先ヅ第一ニ縱裂シ其一半ヲ各新核ニ與フルガ故ニ幾百萬代ヲ經ルモ其核ノ性質ノ不變ナルハ勿論ノヿトスサレバ如何ナル古木ニテモ其枝先キノ細胞核ハ其古木ガ因テ以テ生ジタル卵細胞ノ核ト其性質更ニ異ルヿアルナキヤ明瞭ナリ

（以下次號）

譯者曰早田氏ヨリ「セントロゾーム」ニ就キ質問アリ因テコヽニ其質問ト余ガ應問トヲ掲グ

○○質問　一本誌七十貳號池野先生ノ抄譯論文原形質及ビ其感應性ト題スル文中「セントロゾーム」ハ細胞核及ビ細胞質ノ分裂作用ヲ主宰スル力ノ中心タリト此ノ「セントロゾーム」ナルモノハ細胞含有物ノ如ク明カニ見得ルモノナル哉又ハ細胞中ニハ「セントロゾーム」ナル成分アラザルヲ得ズトノ假說ナル哉不學ナル拙者ニハ諒解スルヲ得ズ眞ニ在ルモノナリセバ明カニ試驗ノ手續及ビ其方法ヲ御明示ヲ願上升

早田文造

○○應問　「セントロゾーム」ハ假說的ノモノニアラズシテ實際ノモノナリ澱粉、葉綠粒ト同ク細胞含有物タル

ガ故ニ實際目撃シ得ベキモノナリ然レ圧コレ極テ微細ニシテ且之ヲ適當ナル方法ニテ染色スルニ非ザレバ認識シ難ク且ヤ其發見モ日尚ホ淺キヲ以テ之ヲ染ムルノ法モ一定ノ良法アルニ非ズ假令法ノ如クナスモ見難キヿアリ或ハ見得ルヿアリテ一定ナラズ實ニ其時ノ運次第ナリ且其染色宜シキヲ得ルモ最モ精微ナル顯微鏡ヲ用ヰ最モ注意シテ觀察スルニ非ザレバ見難キモノトス今左ニ佛八ギギヤール氏ガ發見ノ一法ヲ記セン其法ハ先ヅ「セントロゾーム」ヲ見ント欲スル物質ノ切リ口ヲ（オスミユーム）酸ノ蒸氣ニテ殺シ尋テ之ヲフレミング氏液（イハユル「クローム、オスミユーム」醋酸）及ビ無水アルコールニテ處分シ然ル後「フクシン」ト「メチールグリユーン」（共ニ「アニリン」染料）ノ溶液ヲ適度ニ調合シタルモノニテ染ムレバ其内ニハ「セントロゾーム」ノ濃薔薇色ニ染マリタルモノ往々コレアルモノトス而メ「フクシン」ト「メチールグリユーン」ノ溶　ヲ調合スル割合ハ一定ナラズ植物ノ種類ニ因ツテモ異ナルベク其他ノ事情ニモ因ルベシ

○ドクトル Ernst Huth 氏ノ毛茛科小屬中ノ訂正

Huth 氏ハ毛茛科中 Myosurus, Trautvetteria, Hamadryas, Glaucidium, Hydrastis, Eranthis, Coptis, Anemonopsis, Actaea, Cimicifuga 及ビ Xanthorrhiza ノ諸屬ニ就キ Bot. Jahr. für Syst. Pflanzengeschichte u. Pflanzengeographie 第十六バンド第二、第三ヘフトニ以上十一屬植物調査ノ結果ヲ揭載セラレタリ論文中本邦ニ係スル植物記事ノ大意ヲ摘譯スルヿ左ノ如シ

大久保三郎

Trautvetteria.　もみぢからまつ屬

此屬ニハ T. palmata, Fisch. et Mey. ノ一種アルノミ此種類ハ北米並日本ニ產ス而メ其變種二アリ α. β.

ハ共ニ北米ノ産 Y. ハ日本ノ産ナリ即チ T. palmata, Fisch et Mey. Y. japonica, Sieb. et Zucc. もみぢからまつコレナリ

Glaucidium. しらねあふひ屬

本屬植物ハ G. palmatum, Sieb. et Zucc. しらねあふひノ只一種類アルノミ

しらねあふひ屬ノ位置ヲ定ムルハ甚困難ナリ「ベーロン」「ベンサム」「フーカー」ノ諸氏ハりうきんくわ群ニ入ル𪜈「プラントル」ハ牡丹屬群中ニ置ケリ然レ𪜈以上兩群植物ハ果實ノ裂開ハ腹部ヨリス而〆しらねあふひ屬ノ果實ニアリテハ其成熟スルニ當リ背部裂開シ以テ種子ヲ出ス

本植物ハ毛莨罌粟兩科ノ中間ノモノニシテ最 Podophyllum ニ近似ス然レ𪜈「ポドフヒラム」屬ハ Lindley 氏ノ罌粟科ニ置ク處ノモノナリ

Hydrastis

本屬ハ恐クハ H. canadensis, L. (米國産) ノ一種ノミナラン日本産 H. jezoensis, Sieb. ナルモノハ甚疑ハシキ植物ナリ此ノ植物ニ就キテノ記事ハ不明瞭ナルノミナラズ此植物ヲ何レニテモ見シヿナク且「シーボールド」ノ所有セシ植物標品ヲ最多ク貯ヘ置ケル「ミュンヘン」ノハルバリアムニ於テスラ、見出シ能ハザリシ考フルニ此モノハ由ヤしらねあふひト同一ナラズトナスモ恐クハ Glaucidium 屬中ノモノニ外ナラザルベシ

Eranthis せつぶんさう屬

E. Keiskei, Fr. et Sav. せつぶんさう Maximowicz ノ Mél. Biol. IX 605. ニ掲載セシ E. pifnnatifida ナルモノハ E. Keiskei ト同物ナリ而〆其學名ハ「マキシモウヰクヅ」ノ名先ナリト雖𪜈氏ノ解說ハ不完全ナル花ノ

記事ニシテ甚不明瞭不確實ナリ之ニ反シテ「フランシエー」「サバチエー」ノ記事ハ最モ明瞭ニシテ完全ナリ E. Keiskei ノ花柱ハ鈎狀ニ曲リ E. pinnatifida ノ柱頭ハ直立ナリトイフトイヘドモ之レヲ以テ別種トハナシガタシ如何トナレバ一種類ノ植物ニシテ柱ノ曲直アルモノアリ Regel ノ E. longestris ノ如キコレナリ「リイゲル」ハ其徵候ヲ擧グルニ當リ左ノ如クイヘリ "Stylis rectis vel recurvatis" 即チ花柱ハ直立若クハ曲反ス

Coptis. 黃連屬

・根生花梗 (Scape) 單花ヲ有シ花瓣ニ附屬物アリ

C. trifolia, Salisb. みつばわうれん C. quinquefolia Miq. ごかにふわうれん

二乃至四花、心皮ノ柱至テ短ク漸尖頭ヲナス

(イ)葉ハ單ニ三出花瓣ニ附屬物ヲ欠ク

C. occidentalis, Torr. et Gray 葉三出、小葉廣卵形若クハ略圓形三（五）裂或羽狀樣鈍齒云々

C. anemonifolia, Sieb. et Zucc. きくばわうれん（本草圖譜卷之七、二葉ノ表、草木圖說第十卷三十八葉）

(ロ)根葉二回三出若クハ二回羽狀

(い)日本產ナシ

(ろ)花瓣ニ附屬物ナシ

C. brachypetala, Sieb. et Zucc. せりばわうれん蕚片線狀、花瓣有爪、短帽狀、楕圓、鋭尖、淺溝アリ（本草圖譜卷之七、四葉ノ兩面）

β. major, Miquel 小葉長大、雌花ノ小梗八、九セ、メ長、兩花全及ビ雄花ノ雄蕊ハ短ク且少シ

γ. pygmæa Miq. 小葉小ニシテ三裂ス

C. orientalis Max. 萼片披針狀、花瓣箆狀、平扁、三脈（きくばわうれんニ似タレ圧葉二回三出花瓣平扁ニシテ帽狀チナサズ）

Aremonopsis れんげしようま屬

A. macrophylla Sieb. et Zucc. れんげしようま

Actæa. るゐえふしようま屬

A. spicata L. α nigra Willd. forma acuminata Wallich. 小葉狹長、頂端伸長ス(產地箱根)

Cimicifuga さらしなしようま屬

(一)每花若クハ頂花單柱種子無鱗片

(イ)心皮有柄、種子横皺アリ葉ハ總テ根生ナリ

C. japonica Spr. みつばしようま葉ハ單三出、小葉長柄、葉脚心臟狀、三乃至五裂ス

α. acerina Huth. 小葉針狀、裂片伸長シ銳尖ナリ

β. obtusiloba Huth. (一名 C. toubsiloba Miq.) おほばしようま

C. biternata Miq. みづふで（花彙草之四十三葉）

(二)二乃至八柱、種子有鱗

(イ)外側雄蕊ハ無約ニ〆瓣狀、楕圓、二裂

C. dahurica Huth. 下葉二回又三回三出小葉羽狀尖裂若クハ基脚ニ近ク分離ス鋸齒缺刻ス總狀圓錐花、花ハ兩全罕ニ單性心皮二或三

β. Tschonoskii Huth. 心皮平滑長柄、柄ハ子房ノ三四倍アリ無約雄蕊ノ先端凹形　信州ニ産ス

(ロ)瓣狀雄蕊ヲ有セズ花瓣往々先端凹形ニシテ約ヲ有ス

(い)心皮有柄

C. foetida L. (一名 C. japonica Miq.)

γ. simplex Huth. (一名 C. simplex Wormsk.) さらしなしようま

γ. simplex Huth. 1. mascula Huth. さらしなしようまヨリ壯大、花亦萼片暗色

2. femina Huth. 雄蕊皆無約　産地橫濱、箱根

3. hermaphrodita Huth. 花ニ蜜アリ雄蕊有約子房長柄　産地　日光橫須賀橫濱箱根

○些事一束

○古キ新聞紙ヲ以テ夏日衣服等ヲ包ミ置クトキハ小虫ノ爲ニ損害ヲ受クルヿナシ是レ印刷用ノ墨汁ハ蛾類其幼虫ニ害アルニ因ルト云フ腊葉ヲ包ムニ古キ新聞紙ヲ用ヒルトキハ之ヲ白紙ニ貼付シ置クニ比スレバ防虫ノ毒液ヲ塗抹セザルモ虫害ヲ受クル少ナキガ如シ蓋シ印刷用墨汁ノ効能ニ因ルナルベシ果シテ然ラバ古新聞紙ハ腊葉貯藏者ニハ甚有用ナルモノト謂フベシ

○Mioll 氏ハ水百合ノ一種(Victoria regia) ノ葉ニ就テ色々研究セシガ其葉ニ多ク生ズル剌ハ此植物ヲ侵害スル一種ノ蝸牛類ヲ防禦スル用ニ供スルモノニシテ若カキ葉ニ於テハ其剌密接シ全ク之ヲ食害スルヿ能ハザラシム其葉ノ完成シタルモノニ於テハ僅ニ其緣邊ノミヲ侵スヿヲ得ルト云フ本邦ニ産スルおにばすハ此植物

ノ近類ニシテ亦多ク刺ヲ生ゼリ其刺ハ果シテ同一ノ用ヲナスモノナリヤ否ヤ

○一昨年ノ夏期殆ト東京全都ヲ傾動セシトモ稱スベキ不忍池中ニ生ゼル一根九莖ノ蓮ハ通常ノおにばすナリシヿハ其頃岡村金太郎氏ガ本紙上ニ辨ゼラレシガ如何ニシテ此植物ガ偶然發生セシヤニ就テハ疑ヲ存セラレタリ頃日同池ノ近邊ニ住スル人ニ聞クニ昨年モ發生シタレ𪜈之ヲ取リ去リタリト云フ伊藤圭介翁ノ日本產物誌武藏ノ部ニ上野近傍ノ植物ヲ記サレタレ𪜈おにばすニ及バズ若シ舊時ヨリ同池ニ產スルモノナレバ此ノ如キ著大ノ植物ガ其記述ニ漏ルヽヿナカルベシ此池ヘハ時々他所ヨリ蓮根ヲ移植シ蓮ノ繁茂ヲ謀ル等ノ事アル由ナレバ一昨年ハ之ニ混ジテおにばすノ根ガ此ニ達スルヲ得タルモノナラン

○金生樹譜ト云フ書ニ插木ヲナス種々ノ方法ヲ記セリ其中ニ菊ハ花ビラ一個ヲ地ニ插スモ發芽スルヿアリ云々蓋花ビラト稱セシハ一個ノ舌狀花冠ヲ指シタルモノニシテ其偶ゝ發芽セシハ此花冠ノ下部ニ伴フ種子ノ萌發セシヲ云ヘルナリ

○前同書ニ本邦ニ著名ノ松樹ヲ記セリ其中旅行者ノ一顧ヲ煩ス價値アリト思フモノヲ左ニ抄ス

播州高砂古松
江州唐崎松
紀州高野山三鈷ノ松
紀州藤白松　（高サ七丈餘）
出羽國由利郡ノ山中ニアル神代松　（高サ四十ヒロ）
武藏國秩父山中カネノテ松

上野國利根郡チゼ山中千貫松
飛州乘鞍ヶ岳連理松

右ノ諸樹中唐崎ノ松ハ往古ヨリ其名ヲ傳フレ𪜈現今存スルモノハ舊樹ノ倒レタル後天正十九年ニ當リテ某氏ノ移植スル所ナリト記セリ此年ハ恰モ豐臣秀次政權ヲ執リシ頃ナリ

○前項ニ記シタル唐崎ノ松ハ黑松ナリ之ヲ一覽シタル友人ハ一本生ジタル葉（通例ノハ二本ナレ𪜈稀レニハ一本ノ葉ヲ生ズト云）ヲ携ヘ歸レリ此ノ如キ葉ハ珍ラシキ故マモリニスルトテ之ヲ特ニ尋ネニ來ル人アリト云フ此葉ヲ撿スルニ二本生ジタル者ガ一本偶然ニ損傷セラレテ一本ヲ存シタルモノト思ハレズ初メヨリ一本ノミ生ジタルモノト思ハル其橫斷面ヲ撿スルニ脂ノ存スル溝ノ數ハ通常ノ葉ニ見ルモノヨリモ其數ヲ少シク增シ居レ𪜈其他ハ特異ノ構造ヲ認メ得ズ兎ニ角余ノ撿シタルモノハ二個ニ過ギザレバ尚同地ニ遊バルヽ人ニ之ヲ撿センヿヲ望ムナリ又何レノ松ニモ一本ノ葉ヲ雜生スルヿアルカモ知レザレ𪜈余ハ未ダ之ヲ見出サズ尤モ赤松黑松等ノ二本ノ葉ノ間ニ芽ヲ發生スルヿアリ此事ハ本紙ニ先年牧野富太郎氏ガ報ゼラレシト記臆ス此ノ如キ芽ガ伸長スル𪜈ハ左右ニアリタル葉ハ恰モ一本ヅヽ生シタル如ク見ユレ𪜈唐崎ノ松ノ標本ニ就テ見タルモノハ此ノ如キ場合ニ當ルモノトモ思ハレザリシナリ

○近時東京市中ニ南洋ヨリ來ル物品ヲ賣捌ク店アリテ象牙實又ハいぼりいなつとト稱シテ一種ノ果實ヲヒサギ居レリ略圓形ニシテ其直徑三寸許外面ニ暗褐色ノ鱗片ヲ叢生セリ此鱗ハ松毬ナドノ鱗トハ其方向反對ニシテ其鱗ノ尖端ハ其果ノ項端ニ向ハズ却テ其基底ニ向ヒ居レリ外被（厚サ二分許）ヲ去レバ內部ニ堅硬ノ核ヲ存セリ此部ハ外面黑色ヲ呈スト雖其實質ハ白色ニシテ甚緻密ナリ之ヲ以テ印材ニ供シ又ハ小盃等ノ如キクリモ

ノヲ作ルニ堪タリ始メテ象牙實又ハいぼりいなつとノ名ヲ聞クトキハ植物性象牙 (Vegetable ivory) ノ如ク思ハルレ𪜈此名ハ二三ノ書ヲ撿スルニ Phytelephas macrocarpa ノ果實ヨリ得ル堅硬ノ物ニ限レル如シ而シテ東京市中ニ販賣シ居ル所謂象牙實又ハいぼりいなつとノ名アルモノハ棕櫚科中ノ Metroxylon 屬ノ果實ニシテ此屬ハ數多ノ種ヲ含有シ一般ニ砂穀棕櫚 (Sago-palm) トシテ知ラルヽモノナリト聞ケリ即眞正ノ Vegetable ivory ニアラザルナリ

○外國新聞ニハ顯微鏡用ノ生キタル標本ト題シテ廣告ヲ出スアリ如何ナルモノカト云フニ Volvox, Hydra, Euglena 等ノ如キ小生物ノ標品ヲ生物學ノ實驗者ニ賣ラントスルモノナリ我邦ニテハ先年松原新之助氏ガ Hydra ノ棲息地ヲ發見セラレ昨年石川千代松氏ガ Volvox ノ巢窟ヲ探知セラレタル等ノ事アルヨリ此等ノ標品ヲ得ントスルモノハ上野ノ公園ニ行キ又ハ淺草田甫龜井戶等ニ出掛ケテ之ヲ求ムレ𪜈未ダ之ヲ賣買品トスルヲ聞カズ西洋ニテ學術研究ノ普及シ居ルハ些々タル廣告ニ徵スルモ之ヲ知ルベシ

○繇條書屋植物雜記　（其二）（本誌第五十六號ノ後ヲ承ク）

牧野富太郎

東京上野ノ Chroolepus 屬一種

東台ノ地權現社アリ社前ノ石垣一ノ氣中藻類着生ス其色柑黃其狀綿ノ如シ採テ之ヲ顯微鏡下ニ窺ヘバ則チ一列ノ細胞相連リテ處々ニ技分シ此ノ如キモノ相集リテ群簇ヲ成ス此レ恐クハ英國幷ニ米國ニ產スル Chroolepus aureus (L.) Kutz. ト同種ナラント云フ

土佐高知ノ Aphanothece 屬一種

土佐高知公園ノ周圍ニ溝塹アリ其東方ニ繞ル塹水中一ノ淡水藻アリ形狀瘤ノ如キアリ圓キアリ楕圓アリ其大

小亦一ナラズシテ二「セ、メ」徑ノモノヲ最大トナス色采黯綠ニメ其數極メテ多ク數萬相依リ溝底爲メニ之レガ埋沒スル所トナル本年一月友人矢野勢吉郎氏東京ニ造ルニ會ス同氏予ガ依囑ニ應ジテ遠ク之ヲ東京ニ携帶サレ予等幸ニ之ヲ親驗スルノ好期ヲ得タリ深ク以テ同氏ニ謝ス而シテ是レ Aphanothece 屬ノ一種ニシテ A. prasina Br. ハ恐クハ之ト同種ナルベシ

硅藻類 Bacillaria.

昨年夏秋ノ際予高知ニ在リ高知ハ瀕海ノ地ナリ顯微鏡ヲ取テ水滴ヲ驗スルニ際シ一異体ノ視野ニ横ハルヲ見タリ其狀タル數個ノ眞直ナル桿狀体アリテ相並列セリ此桿体先ヅ一方ニ斜行シテ宛モ列雁ノ狀ヲナシ其末端ヲ以テ相連リ分離スルニ至ラズ須臾ニメ又タ元ニ復シテ各桿相並列スルヤ直ニ又他方ニ斜行シテ前ト反對ノ方向ヲ取ル此ノ如クニシテ常ニ之ヲ反複シテ止ム時ナシ而メ其色ヤ淡黃褐色ナリ是レ硅藻類(Diatoms)中ノ一種ニシテ Bacillaria paradoxa Gmel. ト稱スル珍奇ナル一生物ナリ

やぶまめノ地中結實

やぶまめ一ニぎんまめト稱ス即チ Amphicarpaea Edgeworthii Benth. var. japonica Oliver. 是ナリ此モノ能ク地中ニ在テ莢ヲ結ブ莢ハ實ニ花ノ時ヨリ地下土中ニ在テ始終天日ヲ仰ガス而メ能ク成熟ス莢ニハ梗アリ地中ニ直下セル莖ヨリ枝分スル所ナリ莢ハ成熟セル時尚ホ萼ヲ伴ヒ其形貌短厚ニメ微細毛アリ莢中一二ノ豆粒ヲ容ル豆粒ハ肥厚ニメ外皮ノ表面彩紋アリ莢豆スベテ本然ノモノニ異ナリ而メ此現象ノ此植物ニ存スルヿヲ親驗セルモノヲ矢野勢吉郎氏トナス氏ハ我土佐ニ在テ常ニ植物ニ留意セルノ士ナリ氏此事ヲ以テ之ヲ予ニ語ル予モ亦共ニ之ヲ驗スルニ果メ然リ記メ以テ同好ノ士ニ報ズ

あさだ土佐ニ產ス

予從來土佐ノ植物ヲ採集スルニ際シあさだ Ostrya virginica Willd. ヲ得シヿ蓋シ一二回ニ止マラズ而メ之ヲ產スルノ地ハ皆深山ニメ里閭ニ近キ淺山ニハ未ダ曾テ之ヲ見タルヿアルナシ

いてうしだノ新產地

いてうしだ（Asplenium Ruta-muraria L.）ノ近江國伊吹山ニ產スルヿハ從來人ノ知ル所ナリ是第一ノ產地ナリ第二ノ產地如何、土佐國橫倉山ト黑瀧山、共ニ石灰岩ノ罅隙ニ生ゼリ

はくさんいちげさう

友人土居磯之助氏ハ予ト同好ノ士ナリ曾テ植物ヲ豫州石槌山ニ採集シテ其絕巓ニはくさんいちげさう Anemone narcissiflora L. ヲ得タリ同草ノ本邦中部以北ノ諸高山ニ產スルヿハ皆人ノ知ル所ナリト雖モ四國ヲ以テ之レガ產地ノ一ニ算スルハ同草ノ地理分布上聊カ記スベキノ事ニ屬セリ

Viola serpens Wall.

Viola serpens Wall. 日本ニ產スルヲ知ラズ此モノ種々ノ點ニ於テこみやますみれト異ナリこみやますみれハ學名ヲ Viola Selkirkii Gold. forma major Maxim. ト云フナリ

のぢぎくノ產地

のぢぎくハ Chrysanthemum sinense Sab. ノ原種ナリ曾テ土佐國吾川郡川口村傍近ノ地ニ之ヲ發見セシヿハ載セテ既刊ノ本誌幷ニ拙著日本植物志圖篇ニ在リ而メ其產地尙ホ此ニ止マラズシテ同國斗賀野村カラ谷ヨリ吾井鄉、桑田山、須崎港ノ近傍ニ多生シ又延テ大谷村ノ海邊幷ニ戸島ニ夥シク更ニ東シテ浦戸港、橫濱村ノ

邊ニ多シ而シテ高知以東ノ海邊ハ之ニ反シテしほぎく夥生シのぢぎくヲ見ルベカラズ是レ聊カ奇ナル現象ニ屬スト謂フ可シ

きからすうりノ吸盤

きからすうり Trichosanthes japonica Rgl. ハうり科ノ蔓草ナリ處々ニ多シ石垣ニ上リ板屏ニ攀ヅ是レ何ニ由テ然ルカ卷鬚ノ末端吸盤ヲ有スルコ宛モつたノ如ケレバナリ

* * *

◎質問應答

問　　早田文藏

○日本蘚苔類書有之候ハヾ御敎示ヲ乞フ

答　　大、三、

An Enumeration of all the species of Musci and Hepaticæ from Japan. By W. Mitten (Transaction of Linnean Society III. 2d. Ser.)

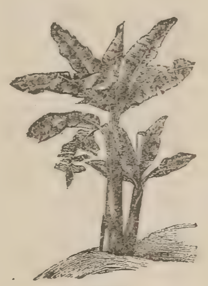
On Musci and Hepaticæ from Japan and China (Journal of Linnean Society 1865.)

Miquel-Prolusio Floræ Japonicæ.

Account of the Botanical Specimens. By Asa Gray.

Thunberg-Flora Japonica.

Dozy et Molkenboer-Musci Frondosi ex Archipelago Indico et Japonia.



Plantain.

第五十三號　明治廿六年三月十五日發兌

動物學雜誌

一册金拾錢郵稅壹錢六册前金六拾六錢（郵稅共）

◎目錄　○動物界に現はるゝ生活法八田三郎　○蠶兒軀幹筋肉系池田作次郎　○日本ノ蝸牛（四）飯島魁　○とりがい(Cardium Japonicum)ノ眼（圖入）岸上鎌吉　○汗腺ノ進化石川一男譯　○相州三浦三崎近傍隱鰓うみうし科(Cryptobranchiate Nudibranchiata)（第四十七號ノ續キ）藤田經信　○フェルチルン氏原虫切斷試驗ノ結論（第五十號續）五島清太郎　○昆蟲ノ話（六）石川千代松　◎雜錄　●生活トハ何ツヤ（續キ）琉球やまたにし●琉球產ノ蝶類ニ就テ●綠色ノこやまたにし●沖繩やもり●アワビとトコブシ●カツウオノエボシ●ウミガメ●横濱港●越冬の六足蟲●再び動物に關する松山地方の方言に就て●高階君の所謂カトンボに就て●東京動物學會●左ノ件序ヲ以テ御報申上候●動物園ノ訃音●正誤

發行所　東京神田裏神保町　敬業社

東洋學藝雜誌

第百三拾八號

明治二十六年三月二十五日發兌
●表紙廣告等ヲ除キ五十頁木版挿圖數個

●論說○教育と宗教の衝突（承前）井上哲次郎○釜石鐵山ノ話併セテ我國鐵業ノ前途ヲ論ズ（承前）野呂景義○アウストラリヤの土俗（承前）坪井正五郎○武藏坊辨慶重野安繹●雜錄○中古山口町繁昌一斑谷本富●雜報○帝國大學紀要所載論文要旨○天降鐵中に於ける金剛石の存在○スタース紀念講義○コッポ及ホフマン紀念講義○明に音叉の共鳴を示す法○レンスの公式に關する命名法○支那內亂と氣候の關係○餌蟲砂を耕す○醫科先哲追薦會●學會記事八件●定價一册金拾錢一ヶ年十二册前金（郵送稅共）壹圓八錢●發行所東京市神田區裏神保町一番地東洋學藝社

地學雜誌

第五拾壹卷

三月廿五日發兌一部金十錢

◎論說

●秩父地質巡撿旅行日誌（圖入）（前號ノ續キ）　理學博士　横山又次郎

●經濟地理學ニ就テ（前號ノ續キ）　理學士　金田楢太郎

●羽後國ノ泥炭地並ニ御物河舊床ノ土質（前號ノ續キ）　農學士　東條平二郎

◎雜錄

●アネロイド晴雨計解說及ビ用法附天氣豫知法（圖入）　海軍水路部

●希臘時代之地學家　比企忠

●人口沿革一斑　金田楢太郎

◎雜報

●地學協會ノ演說●北海道ノ新大炭田●石灰石ノ新產地●山岳ノ高度ヲ測ルコトニ就テ●世界ノ人口十四億八千萬ニ達ス●支那帝國ノ面積ト人口●周防國小瀨河ノ魚切岩並ニ蛇喰岩●奇々妙々ノ落雷●綠國再ビ横斷セラル●巨大ナル綠柱石●朝鮮仁川港ノ寒サ●二月十九日夜ノ中國地震ニ就テ

◎寄書

●「普通學教科ニ地質學ノ必要」ヲ讀ム　石川一男

◎批評

●小藤博士新著阿武隈高原太古界ニ就テ　理學博士　原田豐吉

◎質疑

●震災豫防取調委員諸君ニ質ス　原田豐吉

發行所　東京京橋區西紺屋町十九番地　地學協會事務所

314179

THE
BOTANICAL MAGAZINE.

Vol. 7.] April 10, 1893. [No. 74.

CONTENTS.

Asparagus Tamabōki, nov. sp. By R. Yatabe, Sc. D. 61

Japanese Listera. By T. Makino 63

All Known Species of the Japanese Listera. By T. Makino. 65

On the Cause of Northward Inclination of the Branches of Ginkgo biloba, L. By K. Fujii. 69

Plants Employed in Medicine in the Japanese Pharmacopæia. By K. Sawada. 71

Martensia australis, Harv. By K. Okamura. 75

Miscellaneous :— 76

Bacteria.—Protoplasm and Irritability.—Dr. Huth's Revision of the smaller Genus of Ranunculaceæ. Notes on Botany.—Notes on the Plants of the "Yōdyō-Sho-oku".

All letters and communications to be addressed to the editor of the

TŌKYŌ BOTANICAL MAGAZINE,

No. 1. Urajimbōchō, Kanda, Tōkyō, Japan.

第七卷　第七拾五號

75

明治二十六年五月十日

植物學雜誌

目録

Contributions to the Phycology of Japan.　理學士　岡村金太郎（九九丁）
Notes on Japanese Ptants.　牧野富太郎（一〇二丁）
日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）　澤田駒次郎（一〇五丁）
公孫樹ノ枝ノ北向ニ就テ（前號ノ續キ）　理學士　藤井健次郎（一〇七丁）
◎雜録　（一〇九丁）
○能州ノ海藻○原形質及ヒ感應性○植物通信○絲條書屋植物雜記○松の枝に就て○バクテリアの説○新刊批評○東京植物學會○寄送書目

◎附録

○顯花植物分科撿索表　池野成一郎（四五丁）

植物學雜誌編輯所

●動物學雜誌　第五十四號
明治廿六年四月十五日發兌

●目次　○高等脊椎動物ノがすとるらニナル模樣ニ付キテ（附圖第一版）箕作佳吉君　○球陽雜譚（第三稿）黒岩恒君○鷲兒軀幹ノ筋肉系（前號ノ續キ）池田作次郎君○島根縣下鳥類目錄第二回報告　渡邊盈作君報○肝腺ノ進化（承前）石川一男君○本邦保護鳥類（承前）長濱兼吉君○昆蟲ノ話（七）石川千代松君◉寄書　○北海道昆蟲概數ニ付併新種ノ蝶類 IV生◉雜錄　●魚類の燐光●八重山こまのつめ●警察官と鳥類●いとまきえひ●福の神●第五十二號小生の寄稿に對し●三崎臨海實驗所ノ消息●松山市近傍蝶類目錄の追加●コノハテフに就て●キフテフ發生●蚊と蚤●動物參養の話（つゞき）●動物學會例會●帝國大學理科動物學敎室の新築落成●札幌博物學會●北海道の蝸牛

發賣所　東京神田區裏神保町　敬業社

●東洋學藝雜誌　第百三十九號

明治廿五年四月廿五日發兌○表紙廣告ヲ除キ六十八頁木版挿圖數個

●論說○フアント、ホフとフイッシエル櫻井錠二○アウストラリヤの土俗（承前）坪井正五郎○霜柱後藤牧太○敎育と宗敎の衝突に關する餘論井上哲次郎○地震學研究に關する意見●雜錄○ケルネル氏日本在留中の事績古在由直○福島中佐歡迎の歌中郁秋香●雜報○大學總長○新舊總長送迎會○連嶺生因の新說○東京化學會第十五年會○關谷理學博士○大學紀要○大不列顚理學奬勵會○メートルと光の波○地震學雜誌○三角法敎科書○眼の七像○日蝕皆既○葡萄を侵害する菌類等外數件●應問○浸滴虫石川千代松●定價十錢●

發行所　東京神田區裏神保町　東洋學藝社

●地學雜誌　第五十二卷

四月廿五日發兌一部金十錢郵税一錢

◎論說

●秩父地質巡撿旅行日誌（前號ノ續キ圖入）　理學博士　横山又次郎

●英國印度間兵站路（兵要地理學問題圖入）　理學士　金田楢太郎

◎雜錄

●日本ノ鑛物產地（第四十八卷ノ續キ）　理學士　鈴木敏

●農業ト製鉄　農學士　東條平二郎

●岩石ノ風化ト苔類ノ作用附土壤中窒素化合物ノ天然供給　ピー、エム

●日本海岸ノ地理研究ニ就テ　理學士　金田楢太郎

●本月十五日十六日ノ日蝕皆既　大川通久

◎雜報

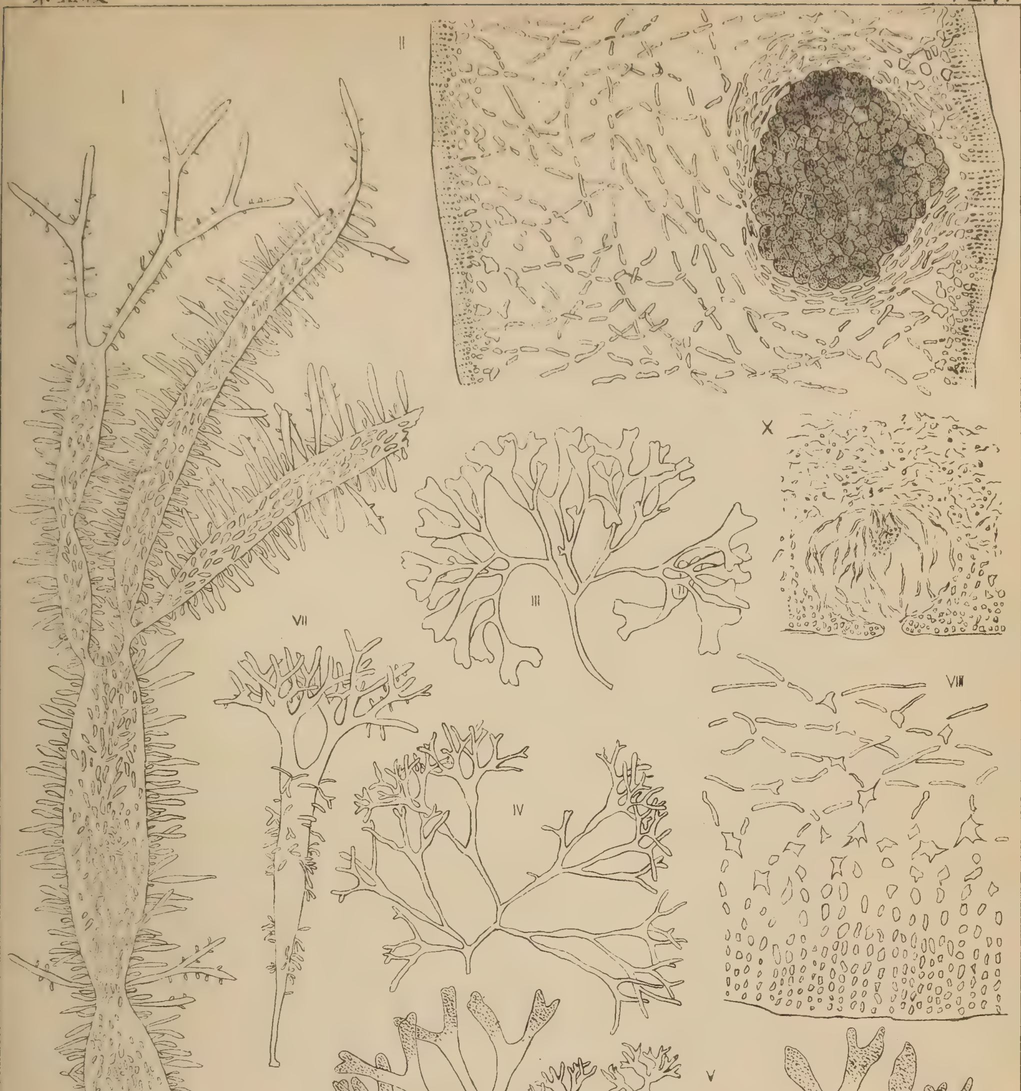
●地學協會ノ演說●朝鮮王國ノ面積●朝鮮王國ノ人口●「バチルス」大ニ岩石ヲ崩壞ス●北海道新鑛產地●北亞米利加ノ最高峰●南氷洋ノ鯨獵遠征●ローゼンブッシュノ岩石學●鑛山局長及地質調査所長ノ更迭●地質調査事業ノ前途●按摩的ノ批評●新刊書

◎批評

●新選日本地理及萬國地理　猪間收三郎

●應問一件

發行所　東京京橋區西紺屋町十九番地　地學協會事務所


I
II
III
IV
V
VI
VII
VIII
IX
X
OKAMURA del.

GRATELOUPIA HORRIDA SP. NOV.,
G. AFFINIS (HARV.) OKAMURA AND VAR. LATA OKAMURA.

植物學雜誌第七卷第七十五號 (明治二十六年五月十日)

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. VII. May 10, 1893. No. 75.]

Contributions to the Phycology of Japan.

By K. OKAMURA.

Grateloupia horrida, sp. nov.

Nom. jap. Mino-ji-nori. ミノヂノリ.

Root a small disc. Stem simple or sometimes branched, compressed or almost cylindrical, short, 0.5-1 cm. long, soon passing into the oval or subcuneate base of the frond. Frond tufted or solitary, flat, linear-lanceolate, slightly thickened at the margin, 3 cm. broad, rarely simple, usually constricted at long intervals so as to form nodes, branches arising proliferously from the nodes or apex. Apex of frond generally dissolved into two or three frondlets or branches, rarely simple and sublate. Branches either simple and lanceolate or attenuated above, or ramifying dichotomously become linear. Internodes sublanceolate or almost oval in some small specimens. Smaller prolifications constricted at the base, densely arising from the margin and surface of the frond except younger portions. They are mostly short and lanceolate; some of them at the margin become either longer and linear branching once or twice dichotomously or pinnate by lateral proliferations. Cystocarps abundant, mostly collected in the smaller proliferations. Tetraspores dispersed over the surface of the frond and in the proliferations. Color dark purplish red, changing to brownish or pale yellowish. Substance cartilaginous. The plant does not adhere to paper in drying except the soft younger portions free from proliferations.

Hab. On rocks, between tide marks Kagoshima, Tōtōmi, Enoshima, Noto. Fruits in August.

The near relative of the present species is *Grateloupia filicina.*

Pl. V. Fig. I. G. horrida. (nat. size).—Fig. II. Cross section of frond with a cystocarp (× 230).

Grateloupia (Gigartina) affinis, Harv. Root a small disc. Frond tufted, many times pretty regularly dichotomous, 3-6 cm. high, compressed, its lower portiòn tapering into a compressed or subcylindrical stem. Segments linear, 2 cm. or more long in the lower portion of the frond, gradually decreasing above, 0.7-3 mm. in breadth, somewhat thickened at the margin, mostly expanded at the forks. Lacineæ in many cases cuneate or sublate-linear. Apex blunt or emarginate. Axils generally rounded. Proliferations constricted at the base, often arising from the margin or injured end of segments, very rarely from the surface. Cystocarps densely collected in the uppermost one or two segments. Nucleus simple, immersed beneath the cortex. Tetraspores dispersed over the frond, mostly in upper segments. Color deep purplish red, varying through various degrees of brownish and pale greenish to yellowish. Substance cartilaginous. The plant does not adhere to paper in drying. Fruits in August.

Hab. On rocks near high water mark. Hakodate, Rikuchū, Matsushima.

Gigartina affinis Harv. Char. of New Alg. from Japan. no. 31.

I have seen a sterile specimen of this plant collected at Hakodate by C. Wright and named Gigartina affinis. Prof. Harvey's *G. affinis* is no doubt the same species as my plant. It seems to me that he placed this plant in the Genus *Gigartina* and gave the specific name *affinis* for its resemblance to *G. mamillaria*; but the character of the cystocarp and the structure of the frond of this species are those of *Grateloupia* and not of *Gigartina.*

Pl. V. Fig. III—V. Various forms of frond (nat. size).—III. IV. Portion of frond.—V. Whole frond.

Var. lata Okamura. nom. jap. Kome-nori. コメノリ.

Frond compressed, 3-12 cm. high, repeatedly dichotomous. Segments broadly linear or cuneate toward the forkes, somewhat canaliculate, 2-7 mm. broad. Lacineæ linear-subulate or cuneate, roundish or emarginate at the apex. Proliferations from the margin and surface. Cystocarps collected in upper lacineæ. Tetraspores dispersed over the frond, mostly in upper segments. Fruit in Summer.

Hab. Bōshū, Sagami, Shima, &c. On rocks near high water mark.

Formerly I considered the present plant as a distinct species, but on studying various forms of specimens from different parts of the country, I came to the conclusion that the present plant is a variety of *Grateloupia affinis*, differing from the type only in size, breadth, and thickness of the frond. As this form grows in the warmer parts of the Pacific coast, I think its difference from the type must be a result of the influence of the habitat.

Pl. V. Fig. VI. VII. Two forms of G. affinis var. lata (nat. size).—VI. With cystocarps on the apical portion of frond.—VIII. Portion of cross-section of frond (× 230).—IX. Portion of cross-section of frond with tetraspores (× 230).—X. Same showing the anastomosing texture surrounding the simple nucleus which has been removed.

Notes on Japanese Plants, XVII.

TOMITARŌ MAKINO.

CELASTRACEÆ. まゆみ科.

Celastrus articulatus Thunb. Fl. jap. p. 97, var. pubescens Makino. Jap. *Ōtsuru-umemodoki.* オホツルウメモドキ. The under surface of leaves sparsely pubescent, especially on the midrib and veins.

Tosa: Ochi, Ōtsurutsu, Akinokawa. (T. Makino.)

ROSACEÆ. いばら科.

Prunus pendula Maxim. in Mél. biol. XI. p. 690. *Cerasus pendula* Sieb. Syn. pl. oecon. n. 368.

Var. ascendens Makino. Jap. *Tachizakura.* タチザクラ Branches ascending. Flowers denser.

Tosa: Nanokawa. (K. Watanabe).

SAXIFRAGACEÆ. ゆきのした科.

Astilbe simplicifolia sp. nov. Jap. *Hitotsubashōma.* ヒトツバショウマ. Leaves radical, simple, ovate, cordate, palmate-nerved, obsoletely 5-palmatisected, mucronate-duplicate-serrate, glabrous; petiole long, slender, with blackish brown scales at the base. Stem erect, simple, with a few minute leaves. Raceme cylindrical, compound, forming a longish panicle, pubescent; bracts minute, subulate. Flowers pedicelled; pedicels 2-$3\frac{1}{2}$ m.m. long. Sepals 5, ovate-oblong, obtuse, entire, one-nerved. Petals 5, twice as long as sepals, linear-spathulate, rather acute, base narrowed, one-nerved. Stamens 10, nearly as long as petals; filament subulate; anther ovate. Carpels 2, standing almost vertical, conical, narrowed upwards; stigma terminal. Fruit drooping.

Japan. (Yorisuke Yamamoto).

COMPOSITÆ. きく科.

Senecio farfaræfolius Maxim. in Mél. biol. IX. p. 293, **var. humilis Makino.** Jap. *Himekōmoriso.* ヒメコウモリサウ. About 2-3 decim. high. Stem erect, flexuous, branching in its upper part, pubescent; branches at the summit all floriferous. Leaves deltoid-reniform, broadly cordate, with the base shortly narrowed down to the petiole, obsoletely trilobed; lateral lobes also slightly bilobed, coarsely acuminate-dentate; petiole long, without marginal wings. Corymb few-flowered. Involucre cylindrical; bracts 5. Florets 5. Pappus-hairs white. Fl. October.

Tosa: Mt. Kuishi. (Udumaro Yorioka, T. Makino.)

Taraxacum officinale Web. in Wigg. Prim. fl. holst. p. 56, **var. albiflorum Makino.** Jap. *Shirotampo.* シロタンポ. Scapes tall, erect, $1\frac{1}{2}$-4 decim. high. Heads white. Internal involucral-bracts erect, linear-subulate, apex subcorniculate; external ones reflexed, ovate-oblong or oblong-subulate, with a thick acute horn at the back just down the apex. Achenes narrowly obovate, slightly compressed, striated, about 4 m.m. long, muricated on the whole surface, markedly so above; beak twice or thrice as long as achene. Fl. April-May. Iinuma. Sōmoku-Dusetsu XV. fol. 10.

This variety is distinguished from the var. *corniculatum* by being larger and by having fewer and very much reflexed bracts of the involucre. The achenes of the latter variety are muricated only above

the middle part.

Tosa, commonest. (T. Makino.) Musashi: Tōkyō, rare. (T. Makino.)

日本藥局方植物篇 （前號ノ續キ）

澤田駒次郎

藥品　薔薇花　Rosas galliciae Petala.

薔薇花ハ本植物ノ花ニシテ充分開展セザル前ニ採收ス英國藥局方ニハ生鮮或ハ乾燥セシモノヲ以テ藥用ニ供ス印度及ビ合衆國藥局方ニハ乾燥ノ花ヲ用フ但シ日本藥局方ニハ用ヒス

採收　薔薇花ハ一ニ赤色薔薇花ト稱ス英國藥局方ニ據レハ培養ノ植物ヨリ採集ス英國諸部殊ニミチガムニ於テ專ラ之ヲ栽培シ Damask rose ト稱シ之ヲ區別シ其花ヲ採集シテ乾燥ス其方法ハ花芽ノ漸ク成長シテ肉荳蔻大ニ至リ將ニ開花セントスルモノヲ撰ミ其基部ヨリ摘採ス故ニ蕚ト附着セシ部分即チ白色ノ瓣脚ヲ存ス然ル後温室ニ移シ注意シテ乾燥シ雄蘂及ビ他ノ混淆物ヲ除キテ市場ニ輸致ス藥劑師ノ赤薔薇花或ハ赤薔薇葉ト稱スルモノハ即チ是レナリ但シ開花前ニ採收セシモノハ開花後ニ得タルモノニ比スレハ收歛性ヲ有スルコト强烈ニシテ乾燥シ易ク其收歛性ヲ消失シ或ハ變色スルコト徐々ナリトス或云二千箇ノ花蕾ハ生薔薇花大約百磅ヲ生シ之ヲ乾燥スレハ十磅ニ減少ス藥用ニハ生鮮ノモノヲ用フト

性狀　坊間ニテ鬻賣スル薔薇花ハ多少皺紋ヲ有シ或ハ各瓣分離シ或ハ微ニ連繫シテ圓錐形ヲ爲シ稍々捲縮シテ鮮紫色ヲ呈シ快活ナル芳香ヲ有シ味ハ苦クシテ微ニ酸味ヲ帶ヒ收歛性ナリ

薔薇花ハ大氣ニ曝露シ或ハ日光ニ觸ルヽ𪜈ハ其氣味ヲ消失ス故ニ光線ヲ避ケ壜中ニ納メ密栓固封シテ貯フ可

シ

成分　輓近ノ試驗ニ據レハ赤薔薇花ハ鞣酸及ヒ沒食酸ノ痕跡、脂肪、揮發油、赤色素、配糖質 Quercitrin. quercitannic acid ヲ含有ス Filhol 氏ノ說ニ據レハ赤薔薇花ノ收斂性ハ鞣酸ニアラスシテ Quercitrin. ニ基因スト

赤薔薇花ハ沸湯ニ其成分ヲ溶出シテ暗赤色ヲ呈ス此溶液ハ硫酸及ヒ他ノ礦物酸類若クハ植物酸類ニ因テ深紅色ヲ呈シ亞爾嘉魯乙度ニ因テ鮮綠色ヲ呈ス

醫治効用　緩和ナル收斂及ヒ强壯ノ一藥トス此藥彩色美麗ニシテ快活ナル芳香ヲ有スルニ因リ專ラ矯臭藥トナシ用フ

三十九　リコヒダンベル、チリエンタリス

羅甸名 Liquidambar orientalis, Miller.

金縷梅科

小亞細亞等ニ自生スル落葉喬木ニシテ高サ四十尺餘枝杪ヲ繁茂ス幹ニ在テハ皮部厚ク其色紫灰剝離スルコト無ク若枝ニ在テハ皮部平滑ナリ葉ハ掌狀ニシテ通常五箇ニ缺刻シテ殆ンド半バニ達シ其截片更ニ三箇ニ缺刻シ邊緣鋸齒ヲ有シ表裏兩面平滑ニシテ鮮綠色ヲ呈ス而シテ裏面ニ於テ脉管隆起シ其腋ニ毛茸ヲ叢生ス葉面ノ長サ一寸六七分乃至二寸五六分幅三寸餘乃至四寸餘其柄纖小ニシテ互生シ長サ一寸二三分乃至一寸六七分粗ニ散布ス花ハ細小ニシテ花梗椎ハ嫩葉ノ腋ヨリ生シ延長シ其頂端ニ長圓形ノ頭狀花ヲ綴ル一家花ニシテ雄花ハ花梗ヲ有セス其基部ニ卵圓形ノ抱花小葉アッテ擴張シ萼及ヒ花冠ヲ缺如ス雄蘂數多細小ナル花床ニ群生シ

花絲纖小其葯扁平ニシテ方形ヲ爲シ基礎部ニ於テ花絲ノ頂端ト附着シ花時縱線ニ因テ破綻シ花粉ヲ吐出シ雌蘂ハ之ヲ缺如ス雌花ハ頭狀花ノ基礎部ニ長卵圓形ノ抱花小葉アッテ擴張シ內面平滑ニシテ外面毛茸ヲ帶フ蕚ハ矮短ナル筒狀ヲ爲シ隣接ノモノト密着シ其口部擴張ス花瓣ハ缺如ス雄蘂四箇乃至九箇葯ハ細小ニシテ只痕跡ヲ存シ蕚ノ邊緣ヨリ生ジ或ハ之ヲ缺如ス雌蘂ハ二箇ノ果葉ヨリ成リ實礎ハ蕚中ニ在テ之レト附着シ二房ヲ有シ各房許多ノ卵子アッテ二行ニ並列ス花柱ハ分離シ先頂狹小ト爲リ或ハ開展シ或ハ直立シテ返卷ス而シテ花後墜落セス果實ハ球形ニシテ懸生シ其直徑大約八分四五厘木質ニシテ硬固密着シタル蕚筒及ヒ半バ覆ハレタル子殼ヨリ成リ大約二百箇餘ノ刺狀ノ花柱ヲ有ス子殼ハ二房ヲ有シ稔熟スレハ自カラ破綻ス種子ハ扁平ニシテ其一端ニ短キ翼ヲ有シ胚子ハ直立シ子葉ハ扁平根芽ハ僅少ナル蛋白質中ニ在リ

（以下次號）

* * *

公孫樹ノ枝ノ北向ニ就テ

（前號ノ續キ）

藤井健次郎

以上記セシ如ク彼ノ地ノ公孫樹ガ北向ニシテ此地ノモノハ北向ニアラズト云フヿガ該樹ノ內部性質ノ差異ニ基ツクモノニシテ外界ノ關スル所ニアラズトセバ其原因ヲ攻究スルハ至難ナルヿナレ𪜈同種ノ植物ニシテ等シキ外圍ヲ有シナガラ終始異ナル方角ニ向フテ生長スト云フコトハ未ダ其例ヲ聞カズ去レバ等シク公孫樹ニシテ等シキ外圍ヲ有スルモ一ハ終始北ニ向ヒ一ハ他ニ向フト云フガ如キハ其到底外圍ノ現象ニ歸スベカラズト云フヿノ確證アルニアラザレバ直チニ之レヲ云フベカラズ故ニ余ハ外圍ノ差異ヲ以テ說明シ得ル限リハ彼ノ北向ノ公孫樹ノ所在ト非北向ノ公孫樹ノ所在トノ外圍ノ差異ニ就キ之レガ原因ヲ求メントス去レ𪜈其所在異ナレバ外圍ノ異ナルヤ千種萬樣ニシテ一々觀察シ盡スベカラズ故ニ先ツ就中尋常植物ノ全体若シクハ其一

部ノ生長ニ際シ之レガ方向ニ著シキ影響アルモノニ就テ之レヲ求ムルノ外ナシ尋常植物ノ生長ニ際シ其各部ノ方向ニ著シキ影響アルモノトハ即チ地球ノ重力、日光、温度、濕度、風等ナリ」去レ圧公孫樹ノ北向ハ重力ガ直接ニ關スルトコロニアラザルコハ論ズル迄モナカルベシ又若シ日光ノ關スルトコロナリトセバ周年南方ニ日光ヲ受クルコ多キガ爲メ該樹ガ有スル背日性ニ據ツテ斯ク北ニ向フナリト云フノ外ナカルベシ去レ圧樹木ガ周年南方ニ日ヲ受クルコ多キハ決シテ東京ノ特有ニアラズ品川大森間ノミニアラズ藤澤平塚間ニ限ルニアラズ又國府津ノ特點ニアラズ神奈川近傍ニテモ庵原近邊ニテモ甲州富士川ノ沿岸中八木澤村ニテモ駿州富士郡上野村下ノ坊ニテモ大坂市ニテモ周年南面ニ日光ヲ受クルコノ多キハ敢テ異ナルコナシ先キニ記セシ内只富士郡妙蓮寺ノモノハ南方ニ樹木ノ茂レルアルヲ見ルノミ而モ此樹ハ南方ニ向ハズシテ其枝ノ東北ニ傾斜スルヲ以テ見レバ其枝ノ向ハ決シテ背日性ニ據ルモノニアラズシテ寧ロ該樹ハ多小ノ向日性ヲ有スルコナキヤノ疑ヲ抱カシム

濕度モ亦之レヲ北向ノ原因ト見做スコヲ得ズ何トナレバ一樹一枝ノ北面ト南面トニ於テ空氣ノ濕度ニ著シキ差異アリト云フハ甚ダ考ヘ難キコナリ又若シ南面ト北面トニ於テ其差異ナシトセバ全体ノ空氣中濕度ノ多少ニヨツテ或ハ南面ノ成長北面ノ成生ヨリモ大ニ或ハ北面ノ成生南面ノ成長ヨリモ大ナルヘキ性質ヲ該樹カ特有スルトナスモ亦甚拙ナリ何トナレバ公孫樹ノ枝ハ尋常葉或ハ花瓣ノ如ク背腹兩面異狀アルニアラズシテ輻狀相稱ノ器官ナリ

温度ハ或ハ北向ノ一原因タラザルヲ保シ難シトイヘ圧尚未ダ以テ主因トナスベカラズ或ハ南風暖カニシテ北風冷カナルヲ以テ枝ノ南面ハ北面ニ比シテ多量ノゑねるぢーヲ得ルカ故ニ其發育南面ニ多ク北面ニ少ナシト

云フモ可ナルガ如シト雖𪜈著シク北向ノ觀ヲ呈スル樹ニ於テハ其新芽ニシテ直徑尙二三分ニ過ギザルモノトイヘ𪜈多ク北方ニ傾斜スルヲ以テ見レバ斯クノ如キ細枝ニ於ケルモ尙南風ト北風トノ温度ノ差異ニヨリ枝ノ南面ト北面ニ於テ空氣ノ温度ニ著シキ差異ヲ生ズル如ク一條ノ細枝以テ能ク吹ク風ヲ遮ギリ得ベシトスルカ實ニ此ニ疑ナキヲ得ズ又若シ南北兩面ニ於テ温度ノ差異ナシトセバ濕度ノ塲合ト一般ニシテ彼ノ茶梅ノ花瓣ノ如ク温度ノ上昇ハ或ル半面ノ生長ヲ促シ温度ノ下降ハ他ノ半面ノ生成ヲ促カスト云フガ如キ或ハ蕾ノ發生ノ時ニ於ケルガ如キ其初期ニハ主トシテ或ル半面ノ生長ヲ見後ニ至リ主トシテ他ノ半面ノ生長ヲ見ルガ如キハ公孫樹ノ枝ノ如キ輻狀相稱ノ器官ニハ見ザルトコロナリ且ツ公孫樹ノ枝ハ時期ニヨツテ其方向ヲ變ズルヿ無キヲ以テ見レバ又固ヨリ彼ノ諸器官發生ニ伴フ Nutation トハ毫モ關スルナキハ論ヲ待タズ

夫レ斯ノ如ク北向ノ原因ハ重力ニアラス日光ニアラズ濕度ニアラズ温度ニアラズトセバ公孫樹ノ枝ノ北向ハ果シテ何ニヨルトナスヘキカ

其ノ体内ニ磁氣ヲ帶ブル植物アルコトモ未ダ其ノ例ヲ知ラズ又若シ公孫樹ノ枝ノ北方半部ノミ常ニ Electric current アリトセバ或ハエルフヴイング及ビシユルレル、ヘツトリンゲンノ試驗ヨリ推考セバ枝ガ北方ニ傾斜スルヿ或ハ之レ有ルベシトイヘ𪜈斯ノ如キ電流ノ常ニ存スルトナスハ一ツノxヲ求メテ更ニ未知ノyヲ得タルモノニシテ單ニ一笑ノ外ナシ又共ニ北向ナラサル公孫樹ノ所々ニ存在スルヲ以テモ此ノ如キ空想ヲ逞フシ得ザルナリ

（未完）

◎雜錄

○能州ノ海藻

岡村金太郎

當春期休業中六日間能州ヲ巡回シ海藻ヲ採集ス三月三十日金澤ヲ發シ羽咋ニ出テ三十一日羽咋ヨリ西海岸ニ沿フテ高濱ニ至ル此間砂濱ニシテ數多ノ海藻漂着セリ高濱ヨリ海岸漸ク岩石多ク福浦灣稍採集ニ宜シ福浦ヨリ劔地ニ至ル間ハ大概山路ナリ四月一日劔地ヨリ黑島ニ至ル途次富士濱ニ於テ採集シ門前ヲ經テ輪島ニ至ル二日輪島ヨリ沿岸並ニ山路ヲ透蛇シ三里許ナル南志見村ニ出ヅ此間概ネ大小ノ石磊々タリ南志見村ヨリ山路ヲ取リ宇出津ニ至ル三日宇出津ヨリ瀛船ニ乘シ七尾ニ上陸シ高畠村ニ至ル宇出津ヨリ七尾ニ至ル海岸ハ水深ク砂濱少ナクシテ採集ニ便ナラズ四日高畠ヨリ歸澤ス凡ソ海藻採集ノ爲ニハ金澤ヨリ輪島ヲ經テ岬ニ至ル外浦ヲ宜シトス內浦即チ岬ヨリ宇出津穴水ヲ經テ七尾ニ至ル間ノ沿岸ハ採集ニ便ナラズ

此行僅少ノ日數ナルヲ以テ其目的トスル所ハ採集ヲ次トシ他日精細ノ調査ヲナサン爲メ地理ノ研究採集地ノ便不便ヲ探ルヲ以テ旨トシタレバ海藻ノ種類甚ダ少ナシ然レモ尙ホ三十餘種ヲ得中一種從來採集セザルモノヲ得タリ左ニ其種類ヲ列記ス

紅藻類

Porphyra laciniata Ag.	あまのり	各地ニ産ス
Ceramium rubrum Ag.	いぎす	各地ニ多ク産ス
Campylaephora Hypnaeoides J. Ag.	ゑご	各地ニ産ス
Gigartina tenella Harv.	すぎのり	各地ニ産ス
Callophyllis sp.	甚ダ幼嫩ニシテ其何種ナルヲ判スルニ苦ム	

Chylocladia sp.　未ダ何レノ處ニモ採集セザリシモノニシテ本邦ニハ新シキモノナリ

Plocamium affine Kütz?　江ノ島房州邊ニ多ク產スルモノト同一ナリ

Gracilaria confervoides Grev.　おでのり　各地ニ產ス

G. Textorii Sar.　かばのり　大平洋沿岸日本海沿岸共稍暖キ處ニ產ス

Laurencia paniculata Kütz.　各地ニ產ス

L. sp.　種名未詳

Asparagopsis sp.　此種ハ從來函館ニ產スルノ外他所ノ產アルヲ知ラザリシガ今回之ヲ黑島附近ノ海濱ニ得タリ曩キニ余此種ヲ研究シ新種ト認メタリシガ其標品僅少ニシテ充分確定スル能ハザリシガ今多數ノ標品ヲ獲タレバ他日其名ヲ公ニスベシ

Chondria crassicaulis Harv.　各地ニ產ス

Rhytiphloea complanata.

Polysiphonia sp.　未詳

P. sp.　未詳

Dasya sp.　此種ノ學名ハ未ダ考ヘズト雖モ佐渡ニ產スルモノト同一種ナリ

Amphiroa dilatata　各地ニ產ス

Corallina officinalis Lin.　各地ニ產ス

此他屬ノ未詳ナルニモ二種アリ

褐藻類

Cystophyllum Sisymbryoides Ag 房相ノ海ニ多シ

C. Swartii mert.? ひらのを (Cystophyllum Thunbergii) ニ類スレ𪜈上部分枝多シ　各所ニ産ス

Sargassum enerve Ag.　ほんだわら　各所ニ産ス

S. serratifolium Ag.　のこぎりもく　各所ニ産ス

此他 Sargassum 屬ノ種二種アレ𪜈種名詳ナラズ

Coccophora

C.

右二種ハ未ダ何レノ地ニモ採集シタルヿナク今回ヲ以テ始トス然レ𪜈此屬ノ二種ハ既ニ三四十年前外人ノ採集命名シタル所ニシテ書ニ依リ之ヲ徵スルニ本邦ノ外他ニ所産ナシ二種ノ内後者ハ或ハ前者ノ變種ニハ非ルカト疑ハル倘ホ他日ヲ期シテ研究確定スル所アルベシ

Dictyota dichotoma Lmx.　各地ニ産ス

Sphacslaria sp.

Asperococcus sp.

Sclytosiphon lomentarius J. Ag.　かやものり　各所ニ産ス

Hydroclathrus sinuosus Zanard.　ふくろのり　各所ニ産ス

Ecklonia bicyclis Kjellm.　あらめ　各所ニ産ス

Ulopteryx pinnatifida Kjellm.	わかめ	各所ニ産ス
綠藻類		
Ulva latissima	あをさ	各所ニ産ス
Cladophora sp.	未詳	
Bryopsis plumosa Ag.		各所ニ産ス

○原形質及ビ感應性　（前號ノ續）

池野成一郎

原形質ノ造搆タル以上論ジタルガ如シサレバ細胞ノ生活セル含有物ハ決テ造搆無キ所ノ物質塊ニ非ズ既ニ複雜ナル造搆アルヲ知ル故ニ原形質ノ活働ニ於ケル吾人ノ知識ハ一層深遠トハナリヌ然レ𪜈未ダ其活働ノ工合ハ明了ナラズ吾人ハ原形質ノ細胞質、核、「セントロゾーム」、色素体ニ分異スルヲ知ル然レ𪜈其活働法ノ不明ナルハ更ニ從前ト異ラズ蓋原形質ヲ以テ一種ノ器械ニ比較スルハ實ニ其當ヲ得タリ器械ノ活働タル其造搆ノ如何ニヨリ知ルヿヲ得ベシ原形質モマタ斯クノ如ク其造搆ノ摸樣ニヨリ其活働ノ如何ヲ知ルベシ然レ𪜈生キタル原形質ノ造搆タル吾人深ク之ヲ知ラズ隨テ其活働ノ工合モマタ吾人充分ニ知得シ難シ假令原形質ヲ活働セシムル所ノ原因ヲ知リ又其活働ノ爲起ル所ノ成果ヲ知ルヿアルモ原因ト成果トノ中間ニ在ル所ノ作用ハ吾人知ル能ハズ蓋シ總テ生活的作用ハ原形質ヨリ起ルノ説タル天然理學ノ進歩ヲ助ケタルヿ大ナリト雖モ生活的作用ノ摸樣ヲ深ク究ムルガ如キハ前途遼遠ニシテ期年ノ後ニ望ムベキニ非ズ生活作用ノ如キハ深ク分子ノ圈內ニ伏在スルガ故ニ之ヲ發キ之ヲ開カンヿ今日ニ於テハ到底覺束ナキヿナリ生活体ニ於テ原形質ガ其主宰タルヲ知ラザリシ以前ニハ向日性トテ植物ガ光線ノ工合ニヨリテ屈曲スル現象ノ如キモ單ニ光線ガ細胞膜ニ

對スル直接ノ影響ニ歸シタリキ即光線ノ作用ニヨリ細胞膜ニ直ニ化學的ノ變化ヲ生ジ之ニヨリ其部ノ延伸力ヲ減殺シ隨テ光線ノ强ク當リタル部分ノ生長薄弱トナルコレ光線ノ方位ニ向ヒ植物ガ屈曲スル所以ナリト然ルニ玆ニ此說明ニ不都合ナル件アリソハ植物ノ或ル器官ハ光線ノ方位ニ向テ屈曲セズ却テ之ト反對ノ方位ニ屈曲スルモノアリ斯クノ如キモノ光線ガ植物組織ノ內部ニ於テ複雜ニ屈折スルニ因ルト論ゼリ即此光線ガ反對ノ方位ニ屈曲スルヿハ多ク綠色ナラザル透明ナル器官殊ニ根ノ爲ス所ナルヲ以テ光線ノ其組織ニ入ルヤ屈折シ其ニヨリテ光線ト反對ノ方位ニ於ケル植物ノ部分ガ强ク光線ニ當ルニ因ルナリト然レ𪜈此等ノ說タル後ノ研究ニヨリ其不當ナルヿヲ證明セラレタルガ故ニ今日ニ於テハ向日性ノ如キモ原形質ノ主宰スル所タルハ明白ナリ如何トナレバ向日性ニ於テ細胞膜或ハ其他細胞ノ部分ガ或ハ屈曲シ或ハ其他ノ活働ヲ爲スモノ皆コレ原形質內ニ起リ原形質ガ行フ所ノ作用ナレバナリ因是觀之生活的現象タル總テ最終ノ原因ハ之ヲ原形質ガ体制ノ特異ナルニ歸スベシ而シテ原形質ガ其特異ナル体制ノ爲外界ヨリ來ル所ノ刺激ニ對シ反應スルノ性之ヲ其感應性ト稱ス原形質ヲ活働セシメ之ヲシテ反應セシムル所ノ原因コレ刺激タリ吾人ガ今原形質ノ体制ト稱シ感應ト稱スルモノハ器械ノ組立及ビ仕事ト更ニ異ルヿナシ盖器械ノ組立ハ其体制ト謂ツベク其力ヲ貯蓄シ銷蓄ヲ開ケバ直ニ其組立ノ如何ニヨリ一定ノ仕事ヲ行フモノコレヲ其感應ト謂ハン然リ而メ生物ガ死セル器械ト異ルハ其仕事ヲ爲スニ必須ナル力ヲ自ラ使用シ自ラ自身ニ運動ヲ惹起シ之ヲ連續シ又一定ノ限界ヲ超エザル內ハ生起セル所ノ破損ヲ自ラ補ヒ又自体ヲ自ラ製造スルニアリ生物ハ死セル器械ニ對シ生命アル器械𪜈謂フベクシテ其運轉ニ必ズシモ外力ヲ要セズ自ラ其運行ヲ整正シ外界ノ許ス限リハ運動シテ止マズ外界ノ狀態不都合ナルカ或ハ非常ナル災害ニ遭遇スルニ非ザレバ決シテ其運轉ヲ停止スルヿアラザルナリ

生物ガ自ラ活働スル力アルヿコレ生活的現象ノ要點ニシテコレ生活的物体ノ基本ノ性質タリエドワルド、プフリユーゲル氏ガ千八百七十五年ニ於テ論ジタル如ク凡ソ複雜ナル生活的現象ノ起リタルハコヽニ一定ノ蛋白質ノ物体ヲ生ジ其物体ニ自ラ生育シ自ラ其体ヲ組織スルノ性アリシニ因レリ又新ナル性質ヲ得テ之ヲ固定シ胚質ト共ニ之ヲ子孫ニ傳フルノ力アルニヨリ愈々發育シテ止マズ得タル所ノ性質ニヨリ一定ノ形狀ヲ生ズコレ其体制タリ或ハ種々ノ物質相分離シ此等物質ノ相互ノ作用ニヨリ其体制愈複雜ヲ極ムルニ至リ元來簡單ナリシモ發育スルノ力アル物体ハ遂ニ生物体ト爲ルニ至リヌ蓋有機物ガ受ケタル刺激ヲ自体ニ固定スルヿヲ知ラント欲セバ宜シク思考ト云フ事ヲ考ヘヨ人ノ思考内ニ得タル感覺ハコレ實ニ新ニ得タル性質ニシテ其感覺ノ至ル所ノ腦髓ノ部ニハ必ズ一定ノ實質ノ變化ヲ生ズベシ而シテ吾人ガ得ル所ノ智識ハ遺傳スルモノニ非ズ因是觀之總テ生活体ノ實質ハ感覺ヲ受クル毎ニ變化ヲ生ジ此變化ハ比較的ニ容易ニ生ジ比較的ニ容易ニ固定セラルヽモノタルヤ明ケシ扨前論ジタル如ク人ノ思考中ニ固定セル智識ハ子孫ニ遺傳スルモノニ非ズ然レバ感覺ニ限ラズ總テ他ノ新ニ得タル性質ハ遺傳スルモノナルヤ如何コレ亦人ノ多ク考フル所ニ從ヘバ遺傳スルモノニ非ズ而シテ總テ生活物ノ變化ハ其源因ヲ胚質ノ變化ニ歸スベシ植物ノ行爲ヲ見テ此ノ説ヲ確定スルヿ難キニ非ズ即立木ニ葉ノ形狀等ノ通例ト異リタル枝ヲ生ズルヿ往々コレアリコレ此變化ハ唯芽ヨリ起ルモノタルガ故ニ之ヲ芽ノ變異ト稱ス斯クノ如キ芽ヨリ生ジタル枝ガ生ズル芽ハ大抵亦通常ト異リタル枝トナル此芽ヲ他ノ臺木ニ芽接スレバ大ニ之ヲ播殖セシムルヿヲ得ベシ今人ノ底園ニ多クアル所ノ喬木灌木ノ葉ノ形狀ノ異常ナルモノハ大抵ハ一個ノ枝ヨリ來レルモノニシテ或ル立木ニ偶然芽ノ變異ヲ生ジ園丁ノ之ニ注意スルモノアリテ之ヲ播殖セシメタルニ因レリ又斯クノ如クシテ生ジタル異常ナル立木ノ芽ノ内或者ガ再ビ元ノ祖

先ノ形狀ニ偶然復歸スルヿアリ之ヲ「アタビスム」ト稱ス蓋シ以上論ジタル芽ノ變異テフモノハコレ枝條ノ先端ニアル生長點ノ胚質ノ變化ヨリ起ルモノナリ若シ此變異ノ原因ガ胚質ノ變化ヨリ生ズルモノニアラズンバ如何ゾ其立木ヨリ續々生ズル所ノ葉ガ皆同樣ニ形狀ノ異常ナルノ理アランヤ蓋胚質ニ變化ヲ生ズルガ故ニ其レヨリ生ズル所ノ花粉粒及ビ卵ハ此性質ヲ子孫ニ遺傳スルナラン余ハあかぶゑノ木一株ヨリ生ズル種子ノ內百分ノ十丈ケ異常ナル葉ヲ有スル苗木ヲ得羽狀複葉ヲ有スルはりゑんじゆ一株ヨリ生ズル種子ノ內百分ノ三十丈ケ全邊葉ヲ有スル苗木ヲ得タリ而〆苗木ノ內多分ハ生育スルニ隨ヒ親ノ形狀ニ復歸シタレ𪜈多分ハ亦親ノ形狀ニ復歸スルヿナシ然レ𪜈未ダ既ニ生育ヲ終リタル成熟部ガ受ケタル性質ノ遺傳スルヿハ植物界ニ於テ其例アルヲ知ラズかしわニハ虫ノ作用ニヨリ沒食子ヲ生ズルヿ常ニシテ何代ノ植物モ大抵之ヲ生ズレ𪜈未ダ嘗テ虫ノ作用ナクシテ之ヲ生ジタルヿアルヲ知ラズかしわガ沒食子ヲ生ズルノ性質ノ遺傳スルヿナキヤ知ルベキナリ

生命ノ最モ顯著ナル現象ト云ハヾ先ヅ指ヲ生物体ノ發育テフヿニ屈スベシ一個ノ生物ガ卵ヨリ生ジ種々ノ形狀ヲ經過シテ老イルニ至ル之ヲ發育ト云フ而〆其發育ノ順序タル其生物体ガ嘗テ幾星霜ヲ經テ其祖先ヨリ進化シ來リシ順序ト大同小異ナリコレエルンスト、ヘッケル氏ガイハユル個人發育ハ系統發育ヲ繰返ヘスト云フヿ是ナリ生物ハ卵ヨリ生ジテ卵ニ終ル其順序整然トシテ亂レズコレ祖先ヨリ代々遺傳シ來リタルモノナリ生活物質ハ生長シ新キ性質ヲ固定スルノ性アルヿヲ知ルヿコレ生物發育作用ヲ理解スルノ基礎タリ(以下次號)

○植物通信

左ニ載スル所ハ頃日予ガ手記ヲ探リテ得タル所ノモノナリ其事些末ニ係ルト雖モ或ハ同好ノ士ノ參考ト

ナルヲ慮リ之ヲ録スルコト爾リ

高知縣　井上虎馬

一、ちやぼつめれんげ Cotyledon shikokiana Makino.

此蕞爾矮小ナル Cotyledon 屬ノ一種ハ往年牧野富太郎氏之ヲ土豫國境ナル手箱山巓海拔五千尺ノ地ニ於ケル片岩上ニ得其新稱ト其精圖トハ同氏著日本植物志圖篇第一卷第十集第四十九版ヲ以テ公ニセラル本植物ハ我邦ニ於テハ稀有ノ種類ニ數ヘラレ隨テ其散布ノ區域ノ如キモ至テ狹ク僅ニ手箱ノ他其產地ヲ確メタルモノハ土佐國長岡郡上倉及ビ下關鑛山ノ近傍ニシテ何レモ海拔千尺以上ノ地ニ於テ角岩上蘚苔ト共ニ之ヲ認ムルヲ得ルノミ然レドモ尚精密ナル探索ヲ經バ或ハ四國脊梁山脈中ニ於テ其新產地ヲ加フルナラン

二、かはいはたけ

本邦ニ產スル地衣科植物中食用ニ供スルモノ至テ少シかはいはたけ Endocarpon miniatum. ハ土佐國土佐郡本川村ヲ流過スル吉野川沿岸ノ水際ニ生ズ曩ニ予之ヲ同地ニ採集シ土人ニ就キ其食用ニ供スルヲ聞ケリ爾後其產地ヲ求メテ得ザリシニ昨年中仁淀川鏡川ノ水際ニ於テ夥多之ヲ發見スルヲ得タリ多クハ水面上二三寸ノ處ニ附着シ間〻沈水スルモノアリ葉体ノ長サ二セ、メヨリ五セ、メニ至リ其表面灰色ヲ帶ビ間〻微綠色ヲ交ユ裏面ハ微紅色ニシテ往々子器ヲ附クルモノアリ其產地ノ如キモ我土佐ニ於テハ逐次其數ヲ增セリ他邦既ニ其產地ノ發見セラレタルモノアリヤ否ヤ同志ノ士若シ之ヲ知ラルヽアラバ幸ニ敎示ヲ賜ヘ

三、いぶきノ大木

豫州下浮穴郡坂本村淨琉璃寺境內ニアリ高サ六メートル餘圍殆ンド三メートルヲ超ヘ幹ノ中部ヨリ數枝ヲ分

岐シ自ラ老雅ノ態ヲ粧ヘリ

四、いしもちさう

Drosera 屬ニ籍ヲ列スルモノ四國島ニ三種アリ屬中いしもちさう D. peltata Sm. var. lunata Clarke. ハ同島北部地方ニ散布シ南部地方ニ於テ未ダ其產地ヲ見ズ北方地方トハ何邊ゾ松山近傍江戸山天山等是レナリ採者ハ誰ゾ同好ノ士奥平幹一氏ナリ氏ハ松山ニ住ス昨夏其標品ノ完全ナルモノ數株ヲ殊ニ予ニ寄送セラレタリ

五、ゐんかくらん

ゐんかくらん Lycopodium aloifolium Wall. ハ予嘗テ九州ニ其產アルヲ聞ケリ然レ𪜈四國島ニ於テハ未ダ之ヲ產スルヲ知ラザリキ去夏予ノ高岡郡朴ノ川山ニ入ルニ及ンデ同山中ノ絶壁上數十尺ノ邊ニ於テ一石松科植物ノ垂下スルヲ觀採テ之ヲ驗スレバゐんかくらんノ分岐セルモノニシテ其全長六寸ニ及ブモノナリキ之ヲ以テ是ヲ觀レバ同植物ノ東漸シテ四國島ノ南部ニモ散布スルヲ證スルニ足ランカ

六、うりのきノ芽

うりのき Marlea begoniæ folia Roxb ハ Cornaceæ ニ屬シ土佐ニ於テハ山中所在之ヲ見ル其芽ハ全ク葉柄中ニ被包セラレテ柔毛ヲ被レリ其葉柄ニ包マルヽヿハ秋季ノ際之ヲ撿スレバ最モ明カナリ本邦所產ノ植物ニシテ其芽ノ葉柄中ニ包被セラルヽモノハ先年本誌上ニ於テ牧野氏等ヨリ報ゼラレタレドモ未ダ本植物ノ事ヲ載セラレタルヲ見ズ故ニ末尾ニ之ヲ附記ス

○繇條書屋植物雜記（其三）

牧野富太郎

くもらん（豫定名 Cryptorchis aphylla Makino.）

くもらん能ク樹身樹枝ノ陰ニ粘附シテ屏居ス形貌蕞爾ニシテ巧ニ吾人ノ眼ヨリ逃遁シタリ然レ圧蕞爾タルモ蘭ナリ既ニ蘭ナリ「フロラ」探究者ハ何ゾ永ク之レガ逃避ヲ許サンヤ、くもらんを押へて見れば名無しなり Cryptorchis ノ新屬名 C. aphylla ノ新種名此ニ至テ始メテ世ニ出ヅルモ亦止ムヲ得ザルナリ屬徵種徵ハ乞フ之ヲ後日ノ公示ニ俟テ

くろたきかづら（新稱）

此名何ニ因テ名ク黒瀧山ニ産スル一藤本ナレバナリ黒瀧山ハ土佐ニ在リ斷崖牆立林樹深幽、樹下崖足石塊狼籍タリ此處之ヲ生ズ昨年晩秋初メテ之ヲ見出ス時ニタヾ紅實ヲ着ケ其狀類セズ故ニ其所屬ノ科サヘ分明ナラザリシナリ而シテ頃日始メテ其科屬ヲ探出スルヲ得タリ即チ其屬名ヲ Natsiatum ト云ヒ Olacineæ ニ屬ス屬中元タヾ一種ヲ含メリ之ヲ N. herpeticum Ham. ト云フ「ヒマラヤ」山中ニ生ズ近年更ニ亦一種ヲ加フ之ヲ N. sinense Oliv. ト云フ支那ニ産ス載セテ Hooker 氏ノ Icones plantarum. ニ在リ黒瀧山產本邦ノモノハ此兩者ト異ニシテ明ニ新種ニ屬ス而シテ予ハ是ニ命ズルニ Natsiatum japonicum. ノ學名ヲ以テシ近日之ヲ世ニ公ニスベキナリ

ひのきばやどりぎノ寄生主

いくり（培養品ニシテすもゝノ一變種）、もちのき、さかき、とちしば(Symplocos prunifolia S. et Z.)、あせび、ひさかき、みゝずばい、くす、つばき、ねぢぎ、あかつゝじ(Rhododendron shikokianum Makino＝? Rhod. Weyrichii Maxim.)ハ皆此やどりぎノ寄寓ヲ許セル品種ナリ

しろがや不忍池畔ニ生ズ

しろがやトハ何ゾヤ Isolepis Micheliana Rœm. et Schult. 是レナリ此品先年曾テ池野成一郎氏ト共ニ之ヲ常州水戸千波沼ノ傍ニ採集セシヿハ載セテ本誌ノ中ニ在リ不忍池ハ東京ニ在リ池畔又多ク之ヲ產シ以テたまがやつり Cyperus glomeratus L. くわんゑんがやつり Cyperus Iwasakii Makino. ト雜生ス採集ニ志アルノ士ハ秋時眼ヲ此池邊ニ放テハ忽チ容易ニ之ヲ看出シ得ン

Habenaria radiata Miq. ト F. Kränzlin 氏

本邦植物ニさぎさうアリ又だいさぎさうアリ此兩品ハ是レ自ラ別種ニ屬スさぎさうハ其ノ學名ヲ Habenaria radiata Miq. (=Orchis radiata Thunb, Platanthera radiata Lindl., O. Suzannæ Thunb. non Linn.) ト云ヒだいさぎさうハ Habenaria Sieboldiana Miq. ト云フ葉狀並ニ脾片ノ狀ハ之ヲ識別スベキ主點ノ存スル處ナリ頃日 F. Kränzlin 氏アリ Engler 氏出版ノ Botanische Jahrbücher für Systematik, Pflanzengeschichte, Sechzehnter Band. II. Heft, p. 200. ニ於テ此兩種ヲ混同シテ一種トナシ以テ Habenaria radiata Miq. トナセリ而シテ其記載文ハ全クだいさぎさうニシテさぎさうノ學名ヲ以テ皆之ガ異名トナセリ然ルニ Miquel 氏稱スル所ノ Habenaria radiata. ハ即チ Thunberg 氏ノ Orchis radiata ニシテ F. Kränzlin 氏ノ Habenaria radiata Miq. ハ宜シク其命名者ノ名ヲ變ジテ之ヲ Habenaria radiata Kranzlin. non Miq. トナスベキナリ是レ Miquel 氏ノ Habenaria radiata. ハ F. Kränzlin 氏ノ記載スル所ト異ナレバナリ必竟 Kränzlin 氏ハさぎさうノ學名即チ Habenaria radiata Miq. ノ下ニだいさぎさうノ記載文ヲ附シタルナリ是レ是ニ非ズ宜シク訂正ヲ要スベキモノナリ

誰カ言フ清國ニさくら無シト

從來我邦ノ本草家籍々淸國ニさくら無シト稱スト雖モ此國之レ無キニ非ザルナリ英國 Kew 植物園昨年 Dr. Henry 氏採集セル植物標品ヲ帝國大學ニ致セリ是レ淸國中部ノ地ニ産スル植物ナリ中ニさくらアリ即チやまざくらナリ學名ハ同ジク是レ Prunus Pseudo-Cerasus Lindl. ナリ已ニ之レ有リ無シト言フ可カラザルナリ

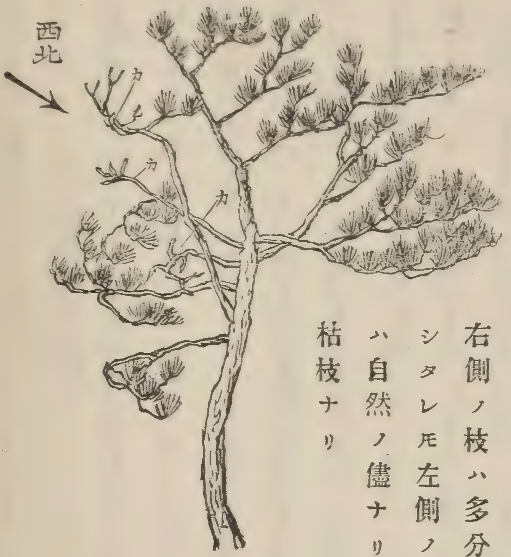
○松の枝に就て

岡村金太郎

余は明治二十二年十月發兌本誌第三卷第三十二號に土手の松ヶ枝てう一篇の文を草し余が視察せる東京なる牛込見附より市ヶ谷見附に至る間の土手上の松ヶ枝が多く西北より東南に延び出るを以て之を冬期東京に吹く處の西北風の强きが爲と一は東南は常に日光に面するとの二件に歸したり

當時山梨なるい、き、氏は酒折宮趾に繁茂する松ヶ枝の南垂するを以て余の說を助けたり然るに大三氏は余の說を駁して曰く松は手入次第にて何れの方向にも好む如くに枝を延ばしむべく土手の松ヶ枝も折々手入れを爲すを以て自然に東南に延びたるなるべく又他方に延びたる株もなか〱に多ければ之を以て一に風向に關するものとは云ふ能はざるべしと論じ余の論據は脆くも打破られ了ぬ然れども爾來余は余の說の萬全誤りならさるを自信し松樹ある每に常に其樹下に立ち其地方に最も多くして且つ强き風向と枝態との關係を視察したりしが此事實をして益ゝ信ならしめたる例は今回春季休業中能州旅行の際能州の西南岸高濱村（舊大念寺村）の西十町許なる阿部屋より福浦村に至る沿岸にある數多の松之なり加能兩州凡て北國は冬季西若くは西北風多く其勢暴烈にして西比利亞の高地より渺々たる日本海上を吹き荒れたる風はなか〱に劇しく住みなれし東京の西北風よりも尙甚し之に依て海岸の方面に延たる枝は此强暴なる西北風の衝に立つを以て枝々皆東南若くは東方に屈曲し又西方に面せる枝梢は枯死せる者多し之に反して東方に延びたる枝は葉も延

々として少しも風の影響を受けさるものゝ如く且つ西方に面せる枝の屈曲して東方に向へる而已ならず葉叢も亦恰も風に吹き曲げられたるものゝ如く東方に屈曲せるを圖に示すが如し然れとも少しく海岸を離れる處にあるもの若くは同林中にても低き矮少なる樹は枝々孰れの方向にも延び決して屈曲するをなし是れ思ふに丈の低か爲に强風の暴威を感ずるを高梢の如く著しからさるに因するならん此に類する事實は特り此邊ののゝみに限らず津幡より宇野氣村に至る街道の左右にある松並樹に於も亦然り此街道は海岸を去る一里弱の處にあれども海岸の砂丘の下に大なる河北潟ありて西北風此潟上を吹き荒れ先づ其衝をなす松樹に當るを以て枝皆東方に屈曲せり又金澤より西南松任に至る間若くは金澤より西方金石濱に至る間の松樹にも風の影響を見るを明かなり友人某嘗て職を秋田に奉じ在職の間屢ゝ秋田より一里許手前なる横山と云へる處へ至るをありしが其往還の兩側にある雜木の並樹は皆東南へ屈曲し西北面に枝を出すもの稀にして其風の爲めなるとは常人と雖も氣附く程なりと語れり尤も秋田邊は第三帶地なるを以て松樹はなく皆種々の喬木なりと之に依り思ふに風力は植物の成長に影響するを著しく啻に松のみならず他の喬木にも亦然るならんか聊か實見する所を記して博雅の諸子に資す若し再び大三氏の爲に切り取られなば已まん而已



右側ノ枝ハ多分省略シタレモ左側ノモノハ自然ノ儘ナリ「カ」ハ枯枝ナリ

余モ風力ニ關係ナシトハ申サヾリシ然シ東京ノ土手ノ枝ブリハ風力ノ爲メノミニハ非ザルナリ又日光ニハ餘リ關係ナキ樣ナリ風折雪折其他蟲害又ハ色々ノ原因ニ依リテ手入ヲナスニアリト申セシナリ現ニ土手ノ松ケ枝ハ南スルアリ北ヘ向クアリ東若クハ西ヘ枝ヲ張ルアリ加州能州ノ松カ東南若クハ東方ヘ屈曲セリトテ東京ノ土手モ左樣トハ申サレマシ如何、扨岡村漁翁君ニ御尋ネ致シ度キ事アリ君ハ君ノ說ノ誤リナラザルヿヲ御自信ノ由シ然シ此度ノ御實驗ニ就キテ日光ノ關係ハ如何ナリシヤ又土手ノ松ノ枝ガ南ノミデナク東、西、北ヘ隨分多ク枝ヲ張リテ居ルハ如何ノ理由ニヤ御手數ナガラ再ヒ御敎示下サルレハ幸甚々々

大、三

○「バクテリア」の說（前號ノ續キ）

K. D. 山人 纂譯

第三章　黴菌研究ノ方法

爰ニ少量ノ枯草ヲ瓶中ニ入レ之ニ水ヲ注キ一二日ノ間之ヲ暖室ニ置ク時ハ其初清澄ナリシ水モ渾濁ノ狀ヲ呈シ忽チニシテ鼠色ノ渣滓水上ニ浮ブヲ見ルベシ而シテ其水ハ一種不快ノ臭氣ヲ放ツ是レ乾燥セル時ニ當リテ枯草ニ添附セシ黴菌及ビ水中ニ在リシ黴菌ノ增加シテ水ヲシテ渾濁セシメ更ニ酸素ノ多キ水面ニ向テ浮ビ出ツルニ因ル而シテ枯草ヨリ溶解セラレタル有機物ハ黴菌ニ對シテ十分ノ食物ヲ給シ黴菌ハ之ヲ微細ニ粉碎シテ以テ己ニ必要ナル特殊ノ元素ヲ造リ其餘ノ物質即チ惡臭瓦斯ノ形ヲナシテ現ハレタルモノハ或ハ空中ニ散シ或ハ水中ニ吸收セラルヽナリ

其水ノ一滴ヲ顯微鏡ニテ見ル時ハ管狀或ハ螺旋狀ヲナシタル黴菌ノ活潑ニ游泳スルヲ見ルベク而シテ日々其形ノ變ズルヲ見ルベシ今日ハ管狀ノ黴菌多ク現ハルヽモ明日ハ其數大ニ減ジテ球狀ノモノ其過半ヲ占ムルニ

至ラン然ル後又其大サハ最初ノモノト異リタル管狀球狀ノ新黴菌ヲ生ズベシ少焉（シバラク）アリテ其瓶底ニハ稍色ヲ帶ヒタル沈澱物ノ堆積スルヲ見而シテ水ハ澄清スルニ至ルベシ

黴菌ハ水中ノ有機物ヲ溶解シテ自己ノ養料ニ供スル爲メニ之ヲ變形シテ以テ蕃殖ヲナセドモ果（ハチ）ハ其分解セラレタル殘餘ノ物質愈々益々增加シテ却テ其成育ヲ妨ケ竟ニ自ラ其生命ヲ失フコト猶ホ恰モ密閉シタル部室ニ籠居スル人ガ自ラ吐出セル炭素ノ充滿セルガ爲メ其生命ヲ傷フニ至ルト同一ナリ其他水中ニ於ケル一種ノ黴菌ガ發出スル物質ハ近傍ノ黴菌ヲ毒殺スルコトアリ故ニ其初メニ當リテハ繁殖能ク行ハルヽモ瓶底ハ遂ニ是等數種ノ黴菌ノ墓地タルニ至ルモノナリ

或黴菌ハ死セルガ如ク自餘ノモノト共ニ瓶底ニ落ツレドモ此レ其實就眠ノ時期ニ在ルモノニシテ則チ前章ニ於テ既ニ述ベタルカ如ク子實（スホア）ヲ結ビ再ヒ其生活ニ恰好セル外部ノ狀況生シ來ルマデハ沈睡シテ動カザルモノナリサレド其他ニ於ケル新種類ノ黴菌ハ時々刻々空氣中ヨリ水中ニ落チ來リ瓶底ノ黴菌ヲ毒スルコト甚シ故ニ生死ノ活劇ハ長キ間斷エズ行ハルヽモノナリ

サテ斯ノ如ク各種ノ黴菌紛然雜然混合セル中ニ其形狀ト其運動トノ差違ヲ知ルノ外他ノ點ニ就キテ其觀察ヲ遂ゲントスルハ實ニ至難ノ事トス故ニ之ヲ爲サント欲セハ須ラク各種ノ黴菌ヲ一々分離シテ之ヲ培養セザル可カラズ曾テ流行セル黴菌分離法トイフモノ是レナリ其法ハ先ツ黴菌ノ好食餌タル肉熬（ビーフテイ）ヲ製シ少許ツヽ之ヲ多クノ管中ニ入ルヽナリ尤モ管中若クハ肉熬（ビーフテイ）ヲ造出セル物質中ニハ時トシテ黴菌ノ生存スルコトアルヲ以テ豫メ之ヲ絶滅センガ爲メニ能ク意ヲ用イテ管ヲ煖メンコトヲ要ス尙又別ニ大ナル壜ニ水ヲ入レ是モ亦均シク熱シテ黴菌ノ生存ヲ防クベシ斯クシテ細小ナル針ヲ取リテ豫メ白熱シテ之ヲ腐敗物ニ觸レシメ直ニ壜內ノ水

中ニ入レテ其一端ニ附着スル物質ヲ振リ落シ然ル後能ク其壜ヲ撼搖シテ針頭ヨリ水中ニ落チタル黴菌ヲシテ十分水中ニ分配セシムベシ

其壜內ノ水中ニ落サレタル黴菌ガ稍分離シテ稀薄トナルヲ見テ更ニ針頭ヲ以テ壜內ノ水ニ觸ルヽカ又ハ其水ノ一滴ヲ取リテ豫テ用意シ置ケル多クノ管中（即チ肉熬（ビーフテイ）ヲ盛リタルモノ）ニ落ス時ハ管ノ何レニカ唯一箇ノ黴菌ヲ入ルヽコトヲ得ベシ。

斯クテ是等ノ管ヲ清淨ナル暖室ニ入レ置キ管中ノ流動体渾濁ヲ生ズルニ至ルニ及ンテ顯微鏡ヲ以テ之ヲ驗スレバ其管內ニ一種又ハ數種ノ黴菌ヲ生ズベシ而シテ多クノ管ノ何レニカ唯一種類ノ黴菌生シタラン時コソ即チ特種ノ黴菌培養法ニ於テ好結果ヲ得タルモノトハ稱フルナレ

此ニ於テ其一種ノ黴菌ヲバ更新鮮ナル肉熬（ビーフテイ）ヲ盛レル管中ニ再三移植スルトキハ其特性ハ如何又其中ニ在リテ成育ノ際發出スル化學的物質ハ如何等ノ事ニ就キ多少了知スルコトヲ得ベシ

サレド以上ノ方法タル大ニ時ヲ費シ且ツ動モスレバ倦怠ヲ催スノミナラズ其好結果ヲ得ルコトモ亦タ甚タ難キモノトス何トナレバ肉熬（ビーフテイ）ノ一部分ノミハ顯微鏡ニテ明カニ其處ニ生存スル黴菌ヲ知ルコトヲ得ベケレドモ其全体ヲ通覽スルコト尤モ難キガ故肉熬（ビーフテイ）ノ他ノ部分ニ於テ他種ノ黴菌ヲ生ゼシヤ否ヤヲ知ルコト更ニ困難ナレバナリ

肉熬（ビーフテイ）ハ黴菌ノ培養ニ於テ其要用ナル場合多シト雖モ現今ニ在リテハ固体ナル食物ヲ用ヰテ之ヲ試ムルコト盛ナルニ至レリ其方法ハ先ヅ馬鈴薯ヲ蒸シテ豫メ其泥土或ハ空氣中ヨリ入リ來レル黴菌ヲ一掃シ之ヲ熱シタル庖刀ニテ切截スベシ尤モ庖刀ヲ握ルニハ猛汞（コロツシブ、サブリメート）ヲ以テ其手ヲ洗ヒ成ルベク生物ノ附着ヲ避ケンコトヲ要ス

而シテ馬鈴薯ノ切片ヲバ熱シタル瓶ノ下若クハ管中ニ入レ置キテ空氣中ヨリ落ツル黴菌ヲ防キ以テ腐敗ヲ生スルコトナカラシムベシ而シテ硝子ヲ以テ柄トナセル白金ノ針線ヲ白熱シ之ニ因リテ黴菌ヲ含メル物質ノ少量ヲ馬鈴薯ノ截面ニ觸レシメ然ル後其馬鈴薯ヲ再ビ瓶ノ下若クハ管中ニ入レ一日乃至二日間暖室ニ入レ置クベシ若シ萬事ニシテ宜シキヲ得バ黴菌ハ馬鈴薯中ニ成育シ而カモ肉眼ヲ以テ見得ラルヽヤウナルモノナリコノ成育即チ所謂團群（コロニ）ハ當初移植セラレタル黴菌ヨリ生ジタル千萬無量ノ子孫ヨリ成レルモノニシテ多クノ場合ニ於テ其成育ハ間々固有ノ色彩ヲ現ハスモノナリ故ニタトヒ顯微鏡ノ力ヲ假ラザルモ能ク他ノ黴菌ト相分ツコトヲ得ベシ斯ノ如キ放大ナル團群（コロニー）ハ黴菌ノ區別ヲナスニ甚タ必要ナルモノニシテ其効果ハ顯微鏡ヲ以テ見タルモノト殆ンド相同ジ此レ恰モカノ農民カ其互ニ肖似セル種物（タ子モノ）例ヘハ蕪菁ト蕓薹トニ就キ疑義相生ズル時ハ先ツ之ヲ播キテ其結果ヲ見而シテ後其疑ヲ釋クニ同シキナリ

斯ク見難キ微細ノ黴菌ト雖モ之ヲ移植シテ成育セシメ終ニ大塊トナシ肉眼ヲ以テ容易ニ之ヲ鑒別シ且ツ研究シ得ベシトセバ夫ノ先年月球ニ於ケル住民ノ有無ヲ見定メ是ト交通センコトヲ熱心ニ主張シタルモノヽ如キ其企圖ノ精粗ハ兎ニ角縱令未見ノ前世界ナリトテ强チ交通ノ成リ難キ事ニモアラザルベシト思ハルヽナリ

X. Y.

* * *

◎新刊批評

○植物學教科書下卷

此書ハ理科大學敎授理學博士松村任三氏ノ編著ニテ昨年發刊セラレシ上卷ニハ植物器官植物解剖及ビ植物生理ヲ記述シ現今世ニ行ハルヽ植物學敎科書中其學說ノ極メテ耳新シク他ノ敎科書ト趣ヲ異ニセルヲ以テ大ニ

好評ヲ博セラレタリ今般發兌ノ下卷ニハ隱花顯花兩類ノ分類ノ要ヲ摘ミ明ヲ旨トシテ編セラレシモノナレバ世ノ植物學ヲ探究スルモノヽ一本ヲ購ツテ一覽スベキ最良書ナリ

○理學士白井光太郎氏著
中等植物學教科書

本書ノ批評ハ次號ニ讓ル

○齋田博士高橋章臣兩氏著英文植物學教科書

ふ、け、

此書ハ An Elementary Text Book of Botany, for the Use fo Japanese Students. ト題シ齋田、高橋兩氏ガ英文ヲ以テ綴ラレタル植物學教科書ニシテ去ル二月十四日出版サレタリ

我邦人ノ手ニ成レル植物學教科書ノ著名ナルモノ既ニ五ツ六ツアレ𪜈歐文ノモノハ今回ヲ以テ初トスルガ故ニ此ニ少シク其詳細ヲ記スベシ

先ツ製本ハ本綴ニテ縱六寸巾四寸許序文、目次、索引等ヲ除キ本文紙數百三十九頁ニシテ程ヨキ大サノ本ナリ印刷ハ製紙分社ノ版ニシテ紙質及活字ト圖畫ノ鮮明ナルヿハ泰西ノ書ノ右ニ出ヅト云フモ過言ナラズ

卷首ニ序文ト目次ヲ擧ゲ本文ノ初メニ General introduction ヲ附シ以下ヲ四編ニ分チ最終ニ索引表ヲ附セリ

第一編ハ Morphological Botany ニシテ此編ヲ分ツテ五章トナシ章ヲ追フテ根、莖、葉、芽、及毛ヲ論ゼリ第二編ハ Histological Botany ニシテ此編ヲ分ツテ三章トシ追章細胞、組織、細胞間隙ヲ論シ第三編ハ Physiological Botany ニシテ分ツテ營養論ト生殖論ノ二章トナス第四編ハ Systematic Botany ニシテ第一章ニ顯花植物ヲ說キ第二章ニ隱花植物ヲ說ケリ第一編（形態學）ハ紙數九十一頁ヲ以テ終ヘ第二編（解剖學）ハ紙數二十頁

ヲ以テ終ヘ第三編（生理學）ハ紙數十二頁ヲ以テ盡シ第四編（分類學）ハ紙數十一頁ヲ以テ完結ス

緒言及ヒ全編ノ說ク所ニヨレバ Science of Botany ヲ Natural History ノ一ツトナシ植物學ニモ二樣ノ見解アルヿヲ說キ即チ一ハ以テ分類ノ科學トシ一ハ以テ觀察、實驗、推理ノ科學トナス而シテ此二ツハ何レモ普通教育ニ欠クベカラザルヿヲ說キ此ノ主意ニ基ヅキ物セラレタル者ニシテ分類ハ無論自然分類法ニヨリ又全編ノ組織ハ先ツ事實ヲ掲ゲ次ニ之レガ概念ヲ與ヘ或ハ推理ヲ述ブ故ニ各章ノ初メニハ必ズ簡短ナル Introduction ヲ置キ又其終ニハ必ズ總論ヲ附ス又事實說明ノ後ニハ必ズ表ヲ以テ示メシ一目シテ解得セシムル樣ニナセリ熟語ハ從來適當ナルモノナシト認メラレタル折ニハ其熟語ノ長大ナルヲ厭ハズシテ可成丈名實相叶ハシメントノ主意ヲ以テ著者ガ隨意ニ創造セラレタリト云フ

書中例トシテ掲ケラレタル植物ハ大底日本普通ノモノヲ用ヰラレタリ又其植物名ハ必ス先ツ日本名ヲ羅馬字ニテ綴リ右傍ニ括弧ノ中ニ學名ヲ與ヘラレタリ

此書ハ著者ガ嘗テ著ハサレタル新式植物學ナル書ヲ主トシテ英文ニ譯セラレタルナリト云フ又該書ハ一モ圖解ナカリシヲ今回ノ英文ノモノニハ多クノ圖ヲ挿入サレタルナリ而シテ此書ハ今回ノ萬國博覽會ヘ出品サレタルモノナリト云フ

評者ハ以テ日本國アルヿヲサヘ知ラザル諸方ノ國民ガ此國アリ又早ク既ニ此學ノ發達シ居ルヿヲ知ルノ一材料タルヿヲ期ス

概シテ評スレバ此ノ書ノ体裁ハ書ノ内外共ニ外國ノ製本ニ劣ラズ書中記載スルトコロノ組織ハ丁寧ニシテ順序アリ言句ハ簡ニシテ解シ易シ植物名ヲ日本語ニテ綴リタルト日本普通ノ植物ヲ例證ニ引カレタルトハ此書

ノ特色ニシテ此ニ意ヲ用ヰラレタル亦深切ナリト云フベシ其記スル所ハ初學者該學ノ一般ヲ學ブニハ一ノ良書ト謂フベシ

只殊更ニ外國語ヲ以テ綴リ之レヲ邦人ノ植物學教科書トシテ如何トノ點ニ於テハ一時ニ同意ヲ表シ難シ去レモ若シ之レヲ以テ歐米ノ教科書タラシメントナラバ之レ誠ニ願フ所ナリ更ニ進ンデ日本語ノ植物學教科書ガ彼地ノ植物學教科書タランヿハ切ニ後來ニ希望スルトコロナリ

◎東京植物學會

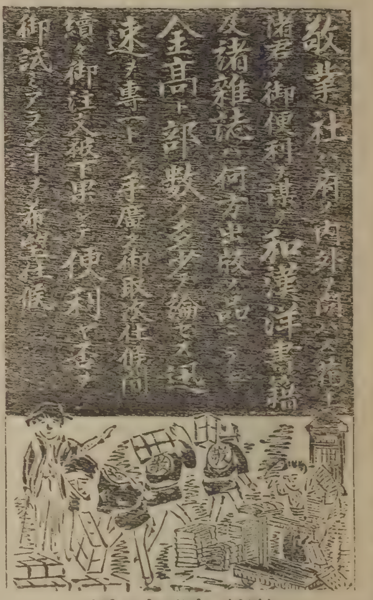
同會ハ四月三十日午後第二時ヨリ理科大學植物學教室ニ於テ開カレ出席員十四名先ヅ幹事大久保氏立ツテ本會當年度ノ會計ノ報告アリ例ニヨリ役員改選セシニ左ノ四氏當撰セラレタル由

東京植物學會會長	松村任三氏(再)
仝　幹事	大久保三郎氏(再)
仝　幹事	澤田駒次郎氏(再)
仝　幹事	安井伴市氏(新)

次キニ白井光太郎君ハ日本博物家稻生若水、丹羽正伯、野呂元丈及ビ小野蘭山等ノ略傳ヲ演セラレ且ツ本年二月植物學雜誌ニ記載セラレタル曲亭馬琴翁ノ腊葉帖ヲ示サレタリ次キニ藤井健次郎君ハ「プェッファ」氏性行「槲寄生」及ビ「松ノ傾斜」ニ就テ談話セラレタル由

◎寄送書目

大日本農會報告	自第百三十五號 至第百三十八號	四册	大日本農會	（東京）
東京人類學雜誌	自第八十號 至第八十五號	六册	東京人類學會	（東京）
日本蠶業雜誌	自第五十四號 至第五十九號	六册	日本蠶業雜誌社	（東京）
氣象集誌	自第十一年第十號 至第十二年第二號	五册	大日本氣象會	（東京）
日本藥業新誌	自第二百三十九號 至第二百四十二號	四册	衞生社	（東京）
北水協會報告	自第七十五號 至第七十七號	三册	北水協會	（北海道）
大日本山林會報告	自第百十九號 至第百廿四號	六册	大日本山林會	（東京）
動物學雜誌	自第五十號 至第五十三號	四册	動物學會	（東京）
地學雜誌	自第四十八卷 至第五十二卷	五册	地學會	（東京）
牧畜雜誌	自第九十四號 至第百三號	十册	牧畜雜誌社	（東京）
東京醫學會雜誌	自第六卷第廿三號 至第七卷第八號	九册	東京醫學會	（東京）
日本園藝會雜誌	自第四十號 至第四十二號	三册	日本園藝會	（東京）
釀造雜誌	自第九十九號 至第百十號	十二册	釀造雜誌社	（東京）
農事新報	第五十五號	一册	有隣堂	（東京）
信濃實業新報	第三號	一册	天蒓社	（信濃）



敬業社ハ府内外ノ同業者ト
諸君ノ御便利ヲ謀リ和漢洋書籍
及諸雜誌ハ何方出版ノ品ニテモ
全高ト部數ノ多少ヲ論セス迅
速ニ專ラ手廣ク御取次仕候間
續々御注文被下度實ニ便利ヲ蒙ラ
御試アラン事ヲ希望仕候

（電話二百五十八番）

教育書出版、古本賣買、
諸雜誌發行及取次所　東京神田裏神保町　**敬業社**

●東京人類學會雜誌　第八卷第八十五號

●本誌ハ每月一回月末發兌壹冊定價拾錢郵稅貳錢
六部前金五十五錢郵稅壹部ニ付貳錢ヅヽ、郵劵代用
壹割增之事

目錄　○記事　○論說及報告　○飲食物につきて故香川樟三郞　○沖繩縣記標文字說（續）田代安定　○鹿兒島縣下大島郡島雜辭田代安定　○西ヶ原貝塚探究報告。其一。理學士坪井正五郞　○下總貝塚遺物圖解（圖入）山崎直方　○貝塚七ヶ所の記井上喜久治、鳥居龍藏　○小豆澤紀行下村三四吉　○信濃東筑摩郡埴原村地方ノ古物遺跡（圖入）鷹野秀雄　○石鏃製造場所ノ話犬塚又兵
○雜報　茨城縣下ノ遺跡（岡田毅三郞）上野櫻ヶ岡は石器時代の遺跡（井上喜久治）、佐藤重紀氏の訃音、其他

發賣所　東京本鄉區六丁目　**哲學書院**

本誌缺號買入交換廣告

第一號至第四號、第七號、第八號、第十二號、第十五號、第十七號至第三十一號、第五十號、第五十一號至第五十三號、第五十五號、第五十七號、第五十九號、第六十一號、

右缺號各地愛讀諸君より屢々御注文有之候處右缺號の爲め空しく御斷申居遺憾の極に御座候就ては地方各地の諸君にして右雜誌缺號御不用の餘册御座候へば何卒御通知被下度候然る上は相當の代價亦は本誌最近號と交換等御申越に從ひ右兩樣可仕候此段廣告仕候也

東京市神田區裏神保町一番地

申込所　**敬業社雜誌部**

明治廿六年五月七日印刷
明治廿六年五月十日發行

東京府平民
編輯兼發行者　東京市神田區錦町三丁目一番地　井上蘇吉

滋賀縣士族
印刷者　東京市神田區錦町三丁目廿五番地　熊田宜遜

印刷所　東京市神田區錦町三丁目廿五番地　熊田活版所

發行所　東京市神田區裏神保町一番地　植物學雜誌編輯所

賣捌所　同所　敬業社

同　東京日本橋區通三丁目　丸善書店

版權所有

314179

THE
BOTANICAL MAGAZINE.

Vol. 7.] May 10, 1893. [No. 75.

CONTENTS.

Contributions to the Phycology of Japan. By K. Okamura. 99

Notes on Japanese Pants. By T. Makino. 102

Plants Employed in Medicine in the Japanese Pharmacopæia. By K. Sawada. 105

On the cause of Northward Inclination of the Branches of Ginkgo biloba, L. (Continued from No. 74.) By K. Fujii. 107

Miscellaneous :—. 109

Pretoplasm and Irritability.—Branches of Pine tree.—Bacteria.—New Literature.—Drosera lunata . . . .

Appendix. 45

Analytical Key to the Phanerogamous Plants.

All letters and communications to be addressed to the editor of the

TŌKYŌ BOTANICAL MAGAZINE,

No. 1. Urajimbōchō, Kanda, Tōkyō, Japan.

第七卷　第七拾六號
76
明治二十六年六月十日

植物學雜誌

目録

リウキウセキコク　理學博士　矢田部良吉（一三一丁）
Notes on Japanese Plants.　理科大學　牧野富太郎（一三三丁）
日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）　醫科大學　澤田駒次郎（一三六丁）
植物分類餘録（本邦產葡萄類）　理科大學敎授理學博士　松村任三（一三九丁）
美作植物一班　理科大學　安井伴市（一四六丁）
日本農業植物病害論（葱ノ萎黃病）　理學士 農學士　堀正太郎（一五一丁）
「やはずさう」及ビ其變種　牧野富太郎（一五五丁）
（一五六丁）
◎雜錄
○植物新稱○原形質及ビ感應性○植物雜語○日本ノ石竹○植物体中揮發油ノ生成及ビ所在○バクテリアの說○植物家彙報○昨年中出版外國植物書數篇ニ就キ○新著ノ「レフエラート」○批評○質問應答
◎附錄
○顯花植物分科撿索表　池野成一郎（五三丁）

植物學雜誌編輯所

植物學雜誌編輯所印

東京植物學會々員ニ告ク

自今事務所ヲ左ノ所ヘ移シ凡テ本會ニ關スル諸務ヲ取扱候也

但シ全會々費爲替ニテ御送付ニ相成候諸君ハ必ス左ノ幹事宛東京市駒込郵便電信局ヘ向ケ御拂込被下度候猶質問及報告モ全ク左ノ幹事宛ニテ封書ニ學會用ト御記入ノ上御發送被下度候

東京市本郷區東片町百六十二番地
東京植物學會幹事
澤田駒次郎

（速記彙報）

正價 一册八錢 十二册前金九拾錢 全國無遞送料

速記彙報第五十二册出づ、築地活版所長曲田成君の**活字**に就ての話は明治五六年頃の活字世界の有樣を讀者の眼前に紹介せり、土耳其より歸朝せられたる山田寅次郎君の**土耳其風呂**は一讀土耳其風呂に浴するの快を覺ふべし、手品師**隅田川浪五郎**翁の談話は慶應二年横濱出帆より桑港着までの船中の奇談を孕めり其他**武藏西北部**の方言は讀者を驚かすべく、速記に關する論說雜報は速記者及速記修業者を益すべし

東京神田區裏神保町一番地
速記彙報發行所

●動物學雜誌

第五拾五號
明治廿六年五月十五日發行

●一册金拾錢郵稅金壹錢○六册前金六十六錢（郵稅共）

●目錄 相州三浦三崎近傍ノ隱鰓うみうし科（Cryptobranchiate Nudibranchiata）（第五拾三號續）○藤田經信君 ○海產生物學ノ沿革（二） 岩川友太郎君 ○動物防禦攻擊之手段 箕作佳吉君 ○日本ノ蝸牛（五） 飯島魁君 ○五大人種ノ命名者タルぶるーめんばつはノ人類論 坪井正五郎君 ●寄書 愛媛縣產蝶目錄增補 奧平幹一君 ●雜錄 ●動物叢居話○魚類ノ燐光○（承前）○美保關ノ福ノ神○ゐまこノキノコ井エー氏器官ハ保護器ナラム○蚯蚓能ク掘チ發ル○生活トハ何ソヤ（續）○一色まゐく○琉球人ノ藥用動物○三木原廣介氏○キンケムシ桑樹を害す○一口物語○東京動物學會例會○先入主とゐる○ヤマキテフ

發賣所 東京市神田區裏神保町一番地 **敬業社**

●東洋學藝雜誌

第百四十號

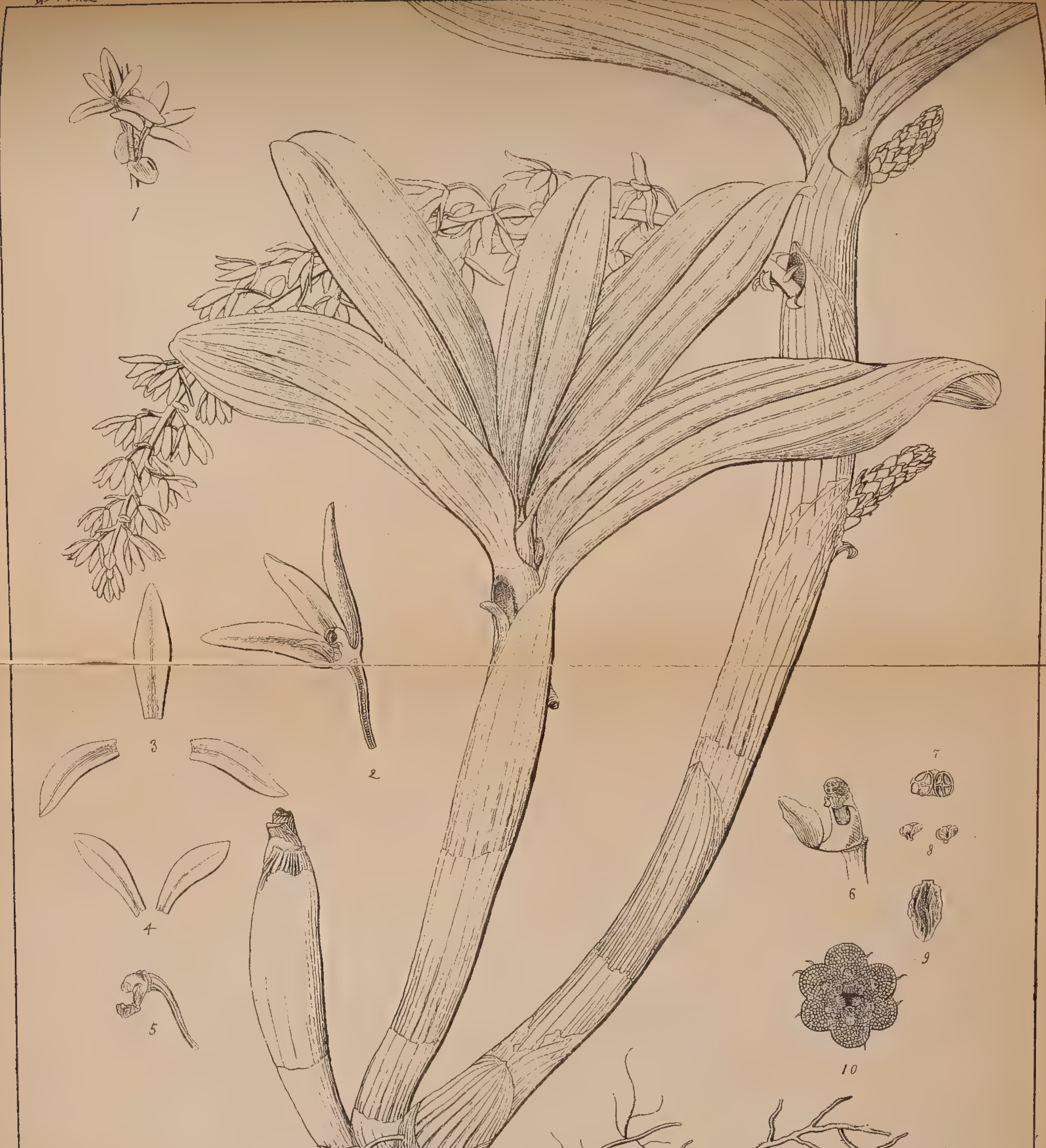
明治二十六年五月二十五日發兌○表紙廣告ヲ除キ五十四頁木版挿圖數個

●論說○珠算ニ付テ 菊池大麓○うらかた卜筮 小中村清矩○人類學研究の趣意 坪井正五郎○武藏坊辨慶（承前） 重野安繹●雜錄 ○花鳥春秋○中古山口町繁昌一班（承前） 谷本富●雜報 ○加藤博士の新著○コエーベル氏○教育と宗教○基督教徒の不公平○ This day six months ○共鳴の現象を明瞭に示す法○樟腦製造試驗○アルミニュムの新用途○固狀の大氣○石炭酸の赤色に變更する原因○欠伸の効能○閣龍博覽會へ出品の植木○野外探討○植物學士逝けり○帝國大學紀要理科の代價○人類學講義其他十數件●學會記事●應問●定價十錢

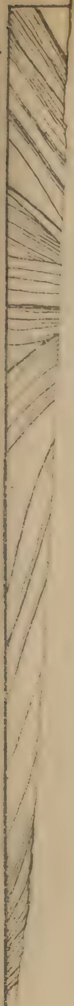
發行所 東京神田區裏神保町 **東洋學藝社**

第六版

PL. VI.


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

ERIA LUCHUENSIS. YATABE.
RYUKYŪ-SEKKOKU. リウキウセキコク.



植物學雜誌第七卷第七十六號　(明治二十六年六月十日)

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. VII. June 10, 1893. No. 76.]

New or Little Known Plants of Japan.

No. 34.

Ryōkichi Yatabe, Sc. D.

Eria Luchuensis, nov. sp.

Nom. jap. Ryūkyū-sekkoku. リウキウセキコク.

(Order Orchideæ.)

Plate VI.

Stems or pseudobulbs clustered, erect, cylindrical, stout, clothed with large sheathing scales (or reduced leaves), 3 inches to nearly a foot high, 5—8 lines thick; the scales at first green and herbaceous, at last delicately membranaceous and striated, closely adhering to the stem. Leaves perennial, 3—5, from the apex of the stem, thick, coriaceous, glabrous, oblong, obtuse at the apex, contracted at the base, then expanded below into a sheath closely adhering to the stem, dark-green on the upper, paler on the under surface, 3—5 inches long, 8—12 lines broad. Racemes arcuate, towards the apex of the stem, breaking through the back of the leaf-sheaths and scales, slightly puberulent, 5—10 inches long; bracts ovate, pale greenish-yellow, 5 lines long, $2\frac{1}{2}$ lines broad. Flowers cream-colored. Sepals suberect, very slightly connate at the base, subequal; the dorsal linear-oblong or lanceolate, acutish, 6 lines long, $1\frac{3}{4}$ lines broad; the lateral somewhat falcate, otherwise similar to the dorsal. Petals suberect, lanceolate, or oblanceolate, acutish, 5 lines long, $1\frac{1}{2}$ lines broad. Labellum ovate, dark-purple towards the base, somewhat recurved, undulate at the margin, with two short longitudinal ridges on the upper surface, 2 lines long, 1 line broad. Column short, with the base protruded in front. Anther operculate, 2-celled, each cell imperfectly 4-locellate, pollinia 8, in 2 clusters, 4 in each cell, obovate. Ovary slender, somewhat arcuate, puberulent, 3—4 lines long.

Living specimens of this plant were collected by Mr. Yasusada Tashiro in 1887 at Nishi-omoteshima in Luchu, and have been since cultivated in the Botanic Garden of the Imperial University, where they flower in the months of September and October.

In answer to my inquiry in regard to this plant Mr. W. T. Thiselton-Dyer, Director of the Royal

Gardens, Kew, has written to me as follows:—"The plant received for identification is, so far as we can ascertain, an undescribed species of *Eria,* near. *E. mysorensis,* Lindl."

Plate VI. Fig. 1, flowers; 2, vertical section of flower; 3, sepals; 4, petals; 5, flower with sepals and petals removed; 6, same with anther opened, 7, operculum; 8, pollinia; 9, front view of labellum; 10, transverse section of ovary:—*all except* 1 *enlarged.*

Notes on Japanese Plants, XVIII.

TOMITARO MAKINO.

COMPOSITÆ. きく科.

Prenanthes acerifolia Matsumura Cat. Pl. Herb. Imp. Univ., Tōkyō, p. 113. *Nabalus acerifolius* Maxim. in Mél. biol. VII. p. 557. Franch. et Savat. Enum. pl. jap. **I.** p. 273, et **II.** p. 419. Jap. *Fukuōsō* フクワウサウ.

Var. nipponica Makino. *Nabalus nipponicus* Franch. et Savat. l. c. II. p. 420. *Prenanthes nipponica* Makino in Bot. Mag., Tōkyō Bot. Soc. IV. p. 451. Jap. *Fukuōnigana.* フクワウニガナ.

Sagami: Mt. Hakone. (T. Makino.)

ERICACEÆ. しやくあん科.

Rhododendron dilatatum Miquel in Ann. mus. Lugd. Bat. I. p. 34, et Prols. fl. jap. p. 96. Maxim. Rhod. as. orient. p. 27. Jap. *Mitsubatsutsuzi.* ミツバツヽジ.

α. **typicum.** Stamens 5.

β. **decandrum Makino.** Jap. *Tosanomitsubatsutsuzi* トサノミツバツヽジ. Flowers 2—3 from a bud. Peduncles about 1$\frac{1}{5}$ c. m. long. Lobes of corolla oblong; the upper one with deep purple spots inside. stamens 10! Ovary glandular.

This variety has the same number of stamens as *Rhod. rhombicum* Miq.

Tosa: Ochi, Mt. Yokogura. (T. Makino.)

ORCHIDACEÆ. らん科.

Habenaria (Gymnadenia) Chidori Makino in Bot. Mag., Tōkyō Bot. Soc. VI. p. 48. Jap. *Hinachidori* ヒナチドリ. About 7—8 c. m. high. Tuber ovoid; roots fleshy. Stem simple, erect, with a membranous sheath at the base. Leaves 1, lanceolate, acute, sheathing at the base. Spike 2—3-flowered; bracts linear-subulate or lanceolate; acuminate, exceeding the ovary in length, 3-nerved. Flower lilac coloured, about 12 m. m. across. Sepals ovate-oblong, obtuse, 3-nerved; lateral ones somewhat oblique. Petals ovate, obtuse, equal in length to sepals. Labellum tripartite; the middle lobe oblong, obtuse; the lateral lobes falcate, divergent; spur very large, exceeding the ovary in length, with a blunt apex. Ovary slender. Fl. July. Iinuma Sōmoku-Dusetsu XVIII, fol. 81. K. Itō Nippon-Shokubutsu-Dusetsu 1. fol. 12.

Tosa: Nanokawa, mountainous region. (K. Watanabe.)

LILIACEÆ. ゆり科.

Smilax herbacea Linn. Sp. ed. 2, 1400, **var. higoensis Makino.** *Smilax higoensis* Miq. in Versl. med. K. Acad. 2 ser. II. p. 88, et Prols. p. 314. Maxim. in Mél. biol. VIII. p. 411. A. DC. Monogr. phanerog. I. p. 55. Jap. *Hosobashiode.* ホソバシホデ.

Sagami: Mt. Hakone. (T. Makino.)

Lilium japonicum Thunb. Fl. jap. p. 133, **var. albomarginatum Makino.** Jap. *Fukurinsasayuri.* フクリンサヽユリ. Stem slender, terete, about 4—6½ decim. high. Leaves lanceolate, tinged white along the mragins. Flowers 1—4, cernuous, light rose-coloured, sweet-scented.

This is perhaps the typical form described by Thunberg in his Flora japonica.

Tosa: Tokanotōge. (T. Makino.)

日本藥局方植物篇　（前號ノ續キ）

澤田駒次郎

本植物ハ小亞細亞南西部メラスソ (Melasso) ノ近傍ナルシイアラ (Sighala) ノ森林及ビギヲバ灣 (Gulf of Giova) ナルモーラ (Moughla) ウルラ (Ulla) 近傍ノ森林中ニ自生ス其他ローデス (Rhodes) 對岸ナルマルモリザ (Marmorizza) イスゲンゲキ (Isgengak) 近傍ノ森林中ニモ亦蕃殖ス

流動蘇合香ハ往時ヨリ貿易品トシテ歐羅巴ヘ輸入スト雖モ其ノ原植物ヲ確定セシハ第十七世紀ノ中頃ニシテ Miller 氏ハ巴里府 Richard 氏ノリウエント (Levēnt) ヨリ携帶セシ種子ヲ得テ之ヲチエルセーア植物園ニ播種栽培シテ其種類ヲ確定セリ又英國キユ植物園等ニ於テモ殆ンド之ト同時ニ本植物ヲ移植スト．

本屬ノ植物ハ Platanus 屬ノ植物ト著シキ似寄ヲ有スルノミナラズ其分布ノ景況モ亦相類似スト

本植物ハ亞米利加ニ產スル Liquidambar Styraciflora, Linn. ニ極メテ類似スト雖モ其葉ノ形狀異ニシテ葉面平滑ナルト果實ノ稍々細小ナルヲ以テ之ニ異ナリ又流動蘇合香ハ本植物ノ他各種ノ植物ヨリ採收セシモノヽ如シ D. Hambury 氏ノ說ニ據レバ Maltass 氏ハ一千八百五十一年第五月七日八日ニ於テカポニシー (Caponisi.) ノ村落トモーラ市ノ間ニ在ル楓樹林ヲ通行セリ該樹ハ本植物ニ類似スト雖モ全ク別種ニシテ其葉稍々細小通常平原ニ產スル樹ニ比スレバ緻密ニ繁茂ス又大ナル樹ノ多クハ其幹ノ外皮及ビ內皮ヲ剝離セシヲ目擊スト又氏ハ果實及ビ葉ヲ採集シ一時間餘此美麗ナル樹林ヲ經テモーラニ到着セリ該林ノ樹ハ其高サ二十尺乃至三十尺トス然レドモ樹林外ニシ大氣ノ流通宜シク特ニ水邊ニ產スル樹ハ其成長旺盛ニシテ高サ四十尺ニ達セリ誘導者ノ說ニ從ヘバメラスソ邊ニハ六十尺ニ至ルモノアリト彼者ハ該樹ノ名ヲ知ラズト雖モ此樹ヨリ Buchur ト稱スル油ヲ採收ス此油ヲ得ンガ爲メ其樹ヲ伐截スト云ヘリ

藥品　流動蘇合香　Styrax Liquidus.

流動蘇合香ハ本植物ノ內皮ヨリ製シタル拔爾撒謨ニシテ日本藥局方ニハ之ヲ以テ藥用ニ供ス

製造　Campbell 氏ノ說ニ據レバ第六七月ニ於テ幹ノ一側ノ外皮ヲ剝離シテ束ト爲シ之ヲ燻料トシ然ル後半圓形若クハ鎌形ノ小刀ヲ以テ其內皮ヲ刮削シ充分ナル量ヲ得ルマデ小桶ニ納ムト

Maltass 氏ノ說ニ據レバ前法ヲ以テ採集セシ內皮ヲ馬毛製ノ囊ニ納メ本製壓搾器ニテ搾出シ然ル後其囊ニ沸湯ヲ注キ更ニ壓搾スレハ樹脂ノ過半ハ分離シ得ルモノトス然レトモ Campbell 氏ノ說ハ少シク異ナル所アリ氏ノ說ニ從ヘハ內皮ヲ水ニテ煮沸シ其表面ニ浮游スル樹脂ヲ汲取リ其殘滓ニ沸湯ヲ加ヘテ樹脂ノ分解ヲ促シ之ヲ馬毛製ノ囊ニ納メテ壓搾シ樹脂（yagh）ヲ採集ス又 Mc Craith 氏ノ說ニ據レバ流動蘇合香ノ製造者ハ主モニ Yuruks ト稱スル土耳古ノ飄民ニシテ鐵製三角形小刀ヲ携ヘ森林中ニ入リ行路樹幹ノ皮ヲ剝收シ液汁ト共ニ揉皮製ノ小器ニ納メ適當ノ量ヲ得レハ之ヲ大ナル銅製器ニ移シテ煮沸シ其分離シタル樹脂ヲ取リテ鑵ニ移シ其殘滓（殘留セル皮部）ヲ毛皮製ノ囊ニ納メ壓搾シテ樹脂ヲ取リ前ニ得タルモノト混合ス此法ニ因テ得タルモノハ灰色不透明半流動ノ樹脂ニシテ之ヲ流動蘇合香ト稱シ世人ノ知ル所ノモノナリ又其殘滓即チ皮部ハ日光ニ曝露シテ乾燥シ之ヲ希臘及ビ土耳古所屬ノ島嶼ニ致シ夫ヨリ土耳古ニ運搬シテ燻料ト爲シ之ヲ消費スルコト多量ナリ然レ𪜈疫病流行以來其消費高大ニ減少セリ此燻料ハ Cortex Thymiamatis 或ハ Storax bark ト稱シ藥劑師ノ知ル所ナリ又 Maltass 氏ハ余ニ此標本ヲ多ク寄送セラレタリ（D. Hanbury 氏ノ說ニ係ル）

性狀　流動蘇合香ハ柔軟膠質蜂蜜稠ニシテ透明ナラズ灰褐色ヲ呈シ多量ノ水ヲ含有ス此水ハ時ヲ經ルニ從ヒ放出シテ其上面ニ浮游ス香氣ハ佳快拔爾撒謨樣ニシテ味ハ芳香性ニシテ苛辣ナリ但シ新鮮ナルモノニ在テハ

多少「ナプタリン」臭ヲ發スル故ニ久時貯藏セシモノハ其臭氣消散スルニ因リ殊ニ佳快トス

本品ハ往々砂土、灰其他各種ノ物質ヲ以テ混淆スル故ニ藥用ニハ酒精ヲ加ヘテ綿布ニテ濾過シ精製シ用フルヲ緊要トス英國藥局方ニ據レバ精製流動蘇合香ハ半透明帶褐黃色半流動ノ拔爾撒謨ニシテ蜂蜜稠ヲ爲ス又其小量ヲ試驗管ニ取リ重湯煎ニ上ボシ熱スレバ多量ノ液体ヲ生スト雖𪜈水蒸氣ヲ發スルコト無シ又重格羅謨酸加里ノ溶液及ヒ硫酸ヲ加ヘテ煮沸スレバ安息香酸ノ香氣ヲ發出ス

氣味ハ强芳香性ニシテ温和ナリ生藥學ニ云蘇合香ハ灰色溷濁ノ粘稠液ヲナシ水中ニ沈下ス其灰色ヲ帶ブルハ水分ヲ含有スルニ由ル水分ヲ除去セル蘇合香ハ柔靭粘着性濃厚ノ液ヲナシ澄明ニシテ褐色ヲ帶フ蘇合香ヲ薄ク塗布シ顯微鏡ニ撿視スレハ暫時ニシテ結晶ヲ認ムルニ至ル其結晶ハ羽狀ヲナシ又ハ著大ノ板狀或ハ柱狀ヲナスモノアリ依的兒、酒精、哥囉仿謨、硫化炭素等ニハ植物性ノ碎片及ビ汚物ヲ留テ溶解スレ𪜈石油依的兒、的列並底油、揮發油類ニハ不充分ニ溶解ス（中略）蘇合香ヲ精製シテ不溶性ノ汚物及ヒ水分ヲ除去スルニハ之ヲ無色ノ石油偏蘇爾ノ半容量ニ溶解シ濾過スルノ后蒸發スヘシ又之ヲ精製スルニ當リ偏蘇爾ニ代フルニ酒精或ハ依的兒ヲ以テスル時ハ水分ヲ含有スル精製蘇合香ヲ得而シテ獨乙藥局方第一板ニ揭クル精製蘇合香ハ澄明琥珀樣ノ粘稠液ヲナシ依的兒、硫化炭素、偏蘇爾及ヒ温脂肪油等ニ全溶スルモノトス」トアリ又改正日本藥局方ニ云流動蘇合香ハ本植物ノ內皮ヨリ煎出シテ得タル灰色粘稠ノ拔爾撒謨ニシテ其薄層ニ於テハ透映シ水ヨリ重ク佳快ノ芳香ヲ有シ味ハ苛辣ナリ

本品ハ等分ノ温酒精ニハ殆ト全ク溶解シテ酸性暗褐色ノ液トナルベシ

本品二「グラム」ヲ沸騰酒精百「グラム」ニ溶解シ冷後濾過シテ得タル液五十一「グラム」ヲ蒸發シ其殘滓

ナ百度ニ於テ三時間乾燥スルニ其殘留物ハ少ナクモ〇、七「グラム」ナラザル可カラス」トアリ　（以下次號）

植物分類餘錄

松村任三

本邦産葡萄ノ類　An anumeration of Japanese Vitaceæ.

Vitis vinifera, L.

ブダウ　葡萄　（本草綱目蓏類）

エビ　（古名）

エビカヅラ　（古名）

オホエビ　（古名）

ハツ　（蝦夷）

草龍珠帳　（酉陽雜俎）

珠顆　（行厨集）

蔓胡桃　（園林草木疏）

龍須　（事物紺珠）

僧眼　（仝上）

鍍金木錦　（仝上）

孛桃　（秘傳花鏡）

蒲陶　（品字箋）

黑水晶　（正字通）

Vitis amurensis Rupr.

ガネブ　紫葛　（本草綱目蔓草類）

カモヱビ　（仙臺）

ヱビヅル　（和州）

小野蘭山曰ク深山幽谷ニ生ス苗葉蛇葡萄ニ似タリ或ハ三尖或ハ五尖皆鋸齒アリ葉每ニ鬚アリテ物ニマトフ紫色ヲ帶ビ光アリ紋脉紫色背モ亦紫色、花實ハ蛇葡萄ニ似タリ實熟シテ紫色、嫩葉ト秋葉ト紅色ニシテ美ハシ秋後葉落チ蔓ハ枯レズ根紫色ニシテ粉アリ味澁シ

J. E. Planchon 曰ク Cette remarquable espèce, dont le feuillage devient, à l' automne surtout, très ornamental en prenant alors de teintes pourpres, est cultivée dans plusieurs jardins. ト以テ能ク兩說ノ合ヘルヲ見ルベシ

本草圖譜卅一卷四葉ノ表、草木圖說木部二卷百三十七(?)

本草圖譜三十二卷八葉ノ裏(?)

草木圖說木部二卷百三十七葉ノ圖ト本草圖譜三十二卷八葉ノ裏ナル圖トハ同物ナルガ如シ圖說ニハガネブト稱シ圖譜ニハギヤウジヤノミヅト稱ス孰レカ是ナルヲ知ラズ又 Vitis amurensis ナルカ將タ別種ナルカモ未詳ナラズ

賜紫櫻桃　（群芳譜）

シロブドウ　水晶葡萄　（釋名註）

本草圖譜七十一卷十葉ノ裏、草木圖說木部二卷百三十一

Vitis Coignetiæ, Pulliat.

ヤマブダウ　野葡萄

ヤマエビ

オホエビヅル

クロブドウ　（津輕）

クマブドウ　（伊吹）

北海道森（博士矢田部採）青森常盤野（理學士岩川採）羽前湯殿山（博士矢田部及理科大學助敎授大久保採）岩代會津（自採）加州白山（自採）信州鳥居峠（博士矢田部採）越中立山（自採）越後清水峠（博士矢田部、助敎授大久保採）羽後鳥海山（博士矢田部、助敎授大久保採）伯州大山（理學士堀採）野州日光（自採）

草木圖說木部二卷百三十四

Vitis Thunbergii, Sieb. et Zucc.

Syn. Vitis Sieboldii, Hortulan.

Vitis labrusca, var. *ficifolia, Regel.*

Vitis labrusco, var sinuata.

Vitis labrusca, Fr. et Sav. pro parte.

Vitis bryoniæfolia, Hance. non Bunge.

Vitis flexuosa, Hort. non Thunb.

イヌエビ　**蘡薁**　（本草綱目蓏類）

エビヅル

ノブダウ　（京、仙臺）

イヌブダウ

ガラミ　（筑前）

ガブヅル　（備前）

ガビカヅラ　（備前）

スブダウ　（佐州）

スイビ　（佐州）

クロブダウ　（奥州）

ゴヨミ　（伊州）

ゴヨギ　（勢州）

ナベトリカヅラ　（阿州）

ゴイビ　（江州）

ゴユビ　（江州）

ゴユミ （江州）
ノラブダウ （越前）
ナツガンドウ （泉州）
ヤマエビ （上野）
ガラメ （薩州）
イボオトシ
グンダ （若州）
エビ （上總）
エビゾロ （相州）
エブコカヅラ （豫州）
ウマノブス （東國）
サナツラブダウ （津輕）
ガネブ （本草圖譜）
烟黒 （救荒本草）
車鞅藤 （品字箋）
蔄 （正字通）
蘡薁 （通雅）

煙虆　（山東通志）

青森國吉村（理學士岩川採）信州戸隱山、善光寺大峯山（自採）野州日光（自採）武州目黒、堀ノ內、道灌山（自採）上總本鄕村（大學校僕採）日向西嶽村（自採）肥後百貫石（園丁內山採）相州箱根（博士矢田部採）佐渡金北山（博士矢田部、助教授大久保採）隱岐都羽女村、伯耆大山（理學士堀採）

本草圖譜七十一卷十三葉ノ裏、草木圖說木部二卷百三十三

Vitis lanata, *Roxb.*

リウキウガネブ　新稱　（花細小ニシテ內地ノエビヅルト異ナリ）

沖繩島（田代採）八丈島（理學士白井採）

Vitis flexuosa, *Thunb.*

Syn. Vitis vulpina, var. *parvifolia*, *Regel.* non *L.*

Vitis indica, *Thunb.*non *L.*

サンカクヅル

ミヤマブダウ　（粕河）

ギヤウジヤノミヅ

岩代會津（自採）野州日光（自採）越中立山（自採）加州白山（自採）豆州天城山（助教授大久保採）和州春日山（助教授大久保、自採）勢州檜原峠（自採）豐前岩嶽山（自採）豫州石鎚山（博士矢田部採）相州箱根（同上）越後五頭山、同清水峠（同上、助教授大久保採）新島（理學士白井採）

本草圖譜三十二卷三葉ノ表、草木圖說木部二卷百三十九及百四十

forma Thomsoniana, *Pl.*

Syn. Vitis vinifera, Hook. fil. et Thoms. non L.

ケサンカクヅル

土州矢筈山、同黑森

Ampelopsis heterophylla, Sieb. et Zucc.

Syn. Ampelopsis heterophylla *S. et Z.* pro parte.

Vitis heterophylla, Thunb.

Vitis heterophylla *Sieb. et Zucc.* var. Maximowiczii, Regel.

Cissus bryoniaefolia, Regel. non Bnnge.

ノブダウ　蛇葡萄（救荒本草）

メクラブダウ（青森）

北海道札幌（博士矢田部採）青森常盤野（理學士岩川採）岩代會津、野州日光、武州戸田原、堀ノ內（自採）上總本鄉村（大學校僕採）豆州天城山（助教授大久保採）勢州菰野（助教授大久保、自採）土州戸手野村、同矢筈山（　？　）阿州ニシウ村）日向霧島、豐前岩嶽山（自採）岩城薊川（理學士池野採）羽後船越村（博士矢田部、助教授大久保採）相州箱根（博士矢田部採）佐渡相川、越後五頭山（博士矢田部、助教授大久保採）雲州鰐淵寺山、同澄水山、隱岐都羽女村（理學士堀採）沖繩島（田代採）紀州高野山（理學士池野採）

本草圖譜七十一卷十四葉ノ裏、草木圖說木部二卷百四十二

美作植物一班

理科大學　安井伴市

曾テ植物採集者ノ訪ハサルノ地若シ植物ニ富マサルノ地ナランニハ作州ハ蓋シ其一ニモアラン曾ツテ採撿者ノ跋跡セザルノ山河モシ奇勝ノ探ルベキモノアランニハ作州ハ亦其數ニテアラン此地元來植物ニ富ムヤ富マズヤ吾人未タ採集者ノ之ヲ報セシヲ聞カズ富ムニモアレ富マズニモアレ一度之ヲ探リコヽニ採摘セントスルハ研究的必要ニ伴レタル人生普有ノ好奇的感情ナラン乎余昨年七月山陰地方ニ遊ヒ路ニ作州ヲ横切リ行々採集ニ忙シ獲ル所ノ標品素ヨリ多シト爲サズ今ヤ藏メテ篋底ニアリ頃日要スル所アリ偶之ヲ撿ス想ラク此クノ如キノ標品素ヨリ此地植物ノ一班ヲダモ示スニ足ラズ江湖ニ告ルハ深ク愧ル所ナキニアラズト雖モ所藏之ヲ私スル甚タ不親切ニ似タリト遂ニ其概要ヲ錄シテ仝好ノ士ニ報ズルヿトハナシヌ唯乞フ此行ヤ夏期旅行ヲ主トシ兼テ他ニ期スル所アリ悠々採集ニ專意ナル能ハザリシカハ遺漏スル所鮮少ナラザルヲ了セラレンヿヲ

Ranunculaceæ.	毛茛科	
Thalictrum minus, L.	アキカラマツサウ	眞島郡神代村
Ranunculus japonicus, Thunb.	ムマノアシガタ	神代村
〃　ternatus, Thunb.	キツネノボタン	仝郡新庄村
Menispermaceæ.	防已科	
Cocculus Thunbergii, D.C.	アヲツヾラフヂ	神代村

	Papaveraceæ.	罌粟科	
Chelidonium majus, L.		クサノワウ	神代村
	Cruciferæ.	十字花科	
Nasturtium montanum, Wall.		イヌガラシ	新庄村
	Violarieæ.	菫菜科	
Viola verecunda, A. Gray.		ツボスミレ	神代村
	Caryophylleæ.	石竹科	
Dianthus Superbus, L.		カハラナデシコ	新庄村
Cerastium vulgatum, L. var. glandulosum, Koch.		ミヽナグサ	新庄村
Stellaria aquatica, Scop.		ウシハコベ	新庄村
	Hypericineæ.	金絲桃科	
Hypericum erectum, Thunb.		オトギリサウ	仝郡四十曲
	Ternstræmiaceæ.	厚皮香科	
Camellia japonica, L.		ツバキ	新庄村
	Geraniaceæ.	牻牛兒科	
Oxalis corniculata, L.		カタバミ	新庄村
	Sapindaceæ.	無患樹科	
Acer palmatum, Thunb.		モミヂ	神代村

Anacardiaceæ.	漆樹科	
Rhus succedanea, L.	ハゼノキ	神代村
Ampelideæ.	葡萄科	
Vitis heterophylla, Thunb.	ノブダウ	神代村
Leguminosæ.	荳科	
Lotus corniculatus, L. var. japonicus. Regel.	ミヤコグサ	新庄村
Indigofera tincteria, L.	コマツナギ	神代村
Rosaceæ.	薔薇科	
Kerria japonica, D.C.	ヤマブキ	神代村
Fragaria indica, Andr.	ヘビイチゴ	新庄村
Rubus merifolius, Sieb.	クマイチゴ	四十曲
,, parvifolius, L.	ナハシロイチゴ	神代村
Potentilla Kleiniana, W. et Arn.	オヘビイチゴ	神代村
Rosa multiflora, Thunb. var. genuina, Fr. et Sav.	ノイバラ	四十曲
Saxifrageæ.	虎耳草科	
Astilbe Thunbergii, Miq.	トリアシショウマ	四十曲
,, chinensis, Maxim. var. japonica, Maxim.	チダケサシ	新庄村
Saxifraga sarmentosa, L.	ユキノシタ	神代村

Deutzia scabra, Thunb.		ウツギ	神代村
	Crassulaceæ.	景天科	
Sedum Alferdi, Hance.		マルバノマンネングサ	神代村
	Onagrarieæ.	柳葉菜科	
Oenothera biennis, L.		マツヨヒグサ	福渡村
	Curcurbitaceæ.	葫蘆科	
Trichosanthes japonica, Regel.		キカラスウリ	神代村
	Umbelliferæ.	繖形科	
Hydrocotyle sibthorpioides, Lam.		チドメグサ	美甘村
Caucalis japonica, Houtt.		ヤブジラミ	新庄村
	Caprifoliaceæ.	忍冬科	
Viburnum tomentosum, Thunb.		ヤブデマリ	神代村
,, dilatatum, Thunb.		ガマズミ	神代村
	Rubiaceæ.	茜草科	
Galium trifidum, L.		ホソバノヨツバムグラ	新庄村
Galium verum, L. var. leiocarpum.		カハラマツバ	四十曲
	Valerianeæ.	敗醬科	
Patrinia scabiosæfolia, Link.		オミナヘシ	神代村

美作植物一班

Valeriana officinalis, L.	カノコサウ	仝
,, flaccidissima, Maxim.	ツルカノコサウ	仝
Compositæ.	菊　科	
Eupatorium japonicum, Thunb.	ヒヨドリバナ	四十曲
Gnaphalium multiceps, Wall.	ハヽコグサ	美甘村
,, japonicum, Thunb.	チヽコグサ	神代村
Artemisia japonica, Thunb.	チトコヨモキ	四十曲
Carduus crispus, L. var. congestus, Fr. et Sav.	ヒレアザミ	仝
Sonchus oleraceus, L.	ケシアザミ	新庄村
Cnicus spicatus, Maxim.	ヤマアザミ	美甘村
Lactuca Thunbergii. A. Gray.	ニガナ	落合村
Campanulaceæ.	桔梗科	
Campanula punctata, Lam.	ホタルブクロ	新庄村
Ericaceæ.	石南科	
Rhododendron dilatatum, Miq.	ミツバツヽジ	仝
Primulaceae.	櫻草科	
Lysimachia clethroides, Duby.	チカトラノチ	四十曲
,, japonica, Thunb.	コナスビ	美甘村

（未　完）

日本農業植物病害論

理學士
農學士　堀正太郎

左ニ記スル處ノ一編ハ農業植物ノ病害論ニシテ特ニ其病害ハ一ニ寄生害菌ニ依リテ起ルモノヽミヲ撰擇シ且ツ予カ自ラ實物ヲ實撿シタルモノニアラサレハ掲載セス其豫防驅除ノ法ヲ應用實施セシト欲スルノ諸君ハ須ラク害菌ノ性質發生ノ順序時季等ヲ考察シテ同時ニ自家ノ考案ヲ以テ相當ノ豫防驅除ノ策ヲ案出サレンヿヲ乞フ農業植物病害ハ好ンテ予カ研究セント欲スル處ニシテ又此等ノ材料ヲ送付セラルヽ諸君ニハ鋭意之ヲ取調回答ノ勞ヲ辭セサル可シ

第一　葱ノ萎黄病

此病氣ハ春四五月ノ頃發生スル處ノモノニシテ其初メ葱ノ青葉ハ處々青白色ノ粉様ナル斑點ヲ生シ漸次其斑點大トナリ終ニ青葉全体ハ黄褐色ニ枯凋乾燥スルニ至ル此病患ハ其蔓延甚ダ速カニシテ最モ恐ル可キ病患ノ一ナリ此病患ハ學名

Pernospora Schleideniana, Ung.（ペルノス、ポラ、シユライデニアナ）

ト稱スル害菌ノ寄生ニ依リ起ル處ノモノニシテ今左ニ之カ學術的ノ詳解ヲ與フレハ

肉眼的ニ青白色粉様ノ斑點ヲナス。胞子ヲ附着スル處ノ菌糸ハ强硬ニシテ直立高サ 250―400μ. アリ互岐又ハ雙岐シテ末端ノ支枝ハ尖リテ稍彎回ス。無性子ハ卵圓形ニシテ頂頭尖リ色淡褐色ニ菫色ヲ帶ブ長サ 40―60 巾 16 ― 25 ナリ。休眠子ハ圓球形ニシテ外皮厚ク表面稍凹起アリ色黄褐色ナリ

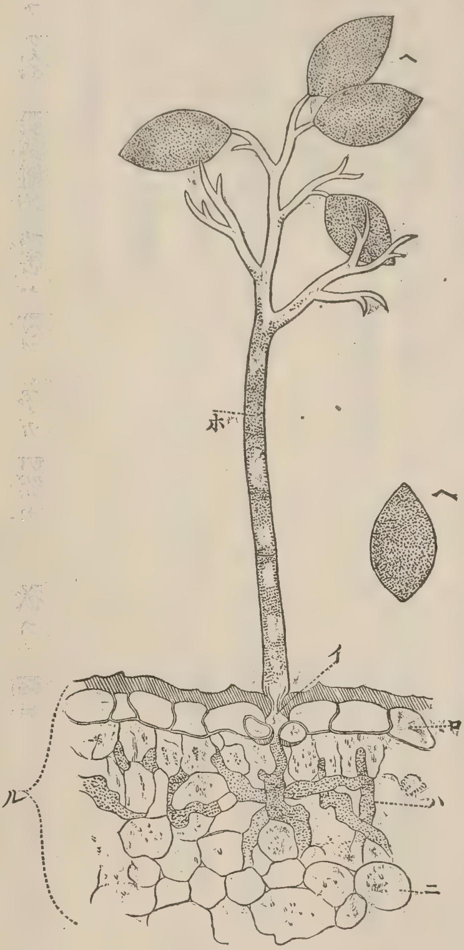
寄生。葱、洋葱、ワケギ其他各種ノ葱屬ノ植物ノ生葉又ハ鱗莖ニ寄生ス

時季。四月ヨリ六月ニ至ル

分布。歐米諸國、西ベリア等ニアリ我國ニテハ岐阜（明治二十三年五月名和靖氏採集）愛知（仝廿六年四月於愛知縣農事試驗場堀正太郎採集）ニアリ其他諸國至ル處ニアルヿ疑ヒナシ

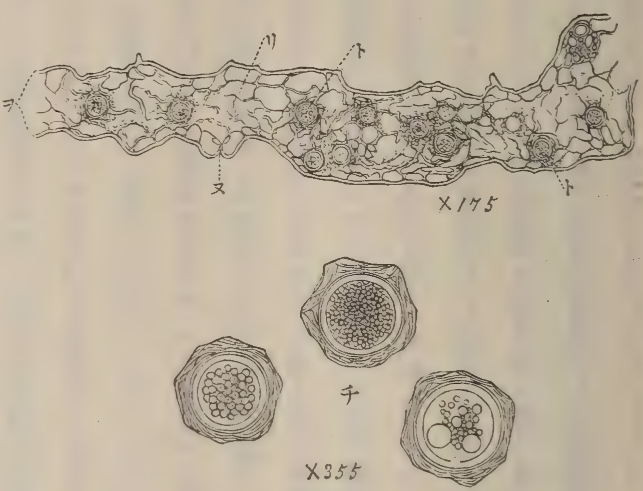
此害菌ノ學名ペルノスポラ、シユライデニアナハ植物家シユライデン氏（Schleiden）氏ノ名譽ヲ彰表スル爲メウンゲル氏（Ungel）カ命名シタルモノナリ第一圖ハ即チ此害菌ノ全形ニシテワケギノ葉ノ氣孔中ヲ通シテ空氣中ニ抽出セル狀ヲ示シ原形ヲ二百三十倍シタルモノナリ「ル」ハ其葉ノ一部ヲ横斷シタルモノニシテ「ロ」ハ表皮細胞「イ」ハ氣孔ニシテ菌系「ハ」ハ葉ノ組織細胞「ニ」間ニ從横ニ迷走シ組織中ノ養分ヲ吸收シテ漸々生長シ氣孔「イ」ヨリシテ仝種繁殖用ノ無性子ヲ結フ處ノ菌系「ホ」一本或ハ二本ヲ抽出シ分岐枝條ヲ生シテ其尖端ニ無性子「ヘ」ヲ結ブヿ恰モ樹木ノ果實ヲ着ケタルカ如シ斯ノ如ク菌体ハ葉ノ組織中ヨリ養分ヲ吸收シテ以テ生長スルカ故ニ終ニ葉ノ分解ヲ來スニ至ル其初メ葉綠色ナルハ細胞內ニ

第一圖



健全ナル葉緑粒ノ存在スルニ基クト雖モ一旦害菌ノ寄生ニ依リ爲メニ分解セラレ其色褪却シテ黄褐色トナリ加フルニ菌糸ハ氣孔ヨリ抽出スルヲ以テ水蒸氣發散ノ門口ヲ途絶シ葉ノ生理上大害ヲ來スヲ以テ遂ニ害菌寄生部ハ皆枯凋萎縮シ後乾燥ス第二圖「チ」ハ即チ之カ横斷面ヲ示スモノナリ

第二圖



無性胞子「ヘ」ハ形卵圓形ニシテ淡褐色ニ菫色ヲ帶ビ生熟セハ容易ニ支枝脫落シテ風ニ吹散ラサレ再ヒ葱屬ノ植物ノ葉面ニ落チテ數多ノ圓形無色ニシテ原形質多キ大サ 16—20 μ. ノ小胞子即チ游走子ト名ツクルモノニ分裂ス此游走子ハ各出開セル管狀ノ發生管ヲ生シ葉ノ氣孔ヲ通過シテ內部ノ組織中ニ侵入シ養分ヲ得テ蔓殖シ後又生性子ヲ結ブ處ノ樹木狀ノ菌体ヲ氣孔ヨリ外部ニ抽出ス斯ノ如ク輪轉シテ益〻同樣ノ蔓殖ヲ司トル (Saraner Pfl. Krank.)

此ノ如ク無性胞子ニ依リテ漸次蔓延繁殖スルト同時ニ葉ノ組織內ニ一種ノ胞子ヲ生ス之ヲ名ケテ休眠子ト云フ第二圖「チ」ハ枯凋セントスル處ノワケギノ葉ノ一部ヲ横斷セルモノニシテ「ト」ハ即チ休眠子「リ」ハ葉ノ組織「ヌ」ハ氣孔ナリ此休眠子ハ圓球形ニシテ外皮厚ク黄褐色表面稍凹起アリ「チ」ハ即チ三百五十五倍大シタル休眠子ニシテ內ニ原形質幷ニ油粒ヲ含有ス此休眠子ハ葉ノ枯凋腐朽ト共ニ地上又ハ地中ニ埋藏シ

テ生活力ヲ保存シ冬季間蟄伏シテ春季四月頃温暖ノ時候ニ至レハ發芽シ一種ノ胞子ヲ生ス此胞子ハ葱屬ノ植物ノ葉ニ飛ンデ寄生シ是ニ依リテ葉面青白ノ粉樣ナル斑點ヲ生シ恐ル可キ萎黄病ヲ發生ス

此病患ハ三四月ノ交ニアッテ葱ワケギ洋葱等其他此種ノ野生植物ノ青葉ニ發生スルモノニシテ洋葱ハ之カ爲メニ完全ナル鱗莖ヲ生スル能ハス葱幷ニワケギノ如キハ青葉盡ク萎黄シ終ニ生長シ得ス而〆又種子ヲ生スルヿ能ハス其害劇烈ナル時ハ終ニ全植物ノ腐敗ヲ起スニ至ル此病害ハ乾燥ノ氣候ニ最モ劇シク且ツ突然ニ發生スルモノナリ然レ𪜈或人曰ク此病患ハ濕氣多キ冷氣ノ時候ニモ亦多シト且肥料不足栽培不良其他密植シテ空氣ノ流通不充分ノ園圃ニ多シト

豫防驅除法、此病患ヲ免カルヽノ良策ハ青葉ニ斑點ヲ見ルヤ否之ヲ剪截シテ地中ニ埋ムレハ無性子ノ飛散ヲ防遏シ病毒蔓延ノ患ヲ尠フス可ク又萎黄セル病葱ハ之ヲ堀リ採リ焼却スルヿ最モ緊要ナリ左スレハ休眠子ノ翌春發芽シテ同病ヲ發生スルノ患ヲ減小ス葱ノ種類ハ皆毎歳同一ノ園圃ニ栽培スルヲ良トス然ルニ萎黄病ノ毎歳發生スルヲ嘆スルノ栽培家アリ是レ病葱ノ取扱粗漏ナルニ基ツクモノニシテ病患ニ依リ枯凋セル葉ハ夥多ノ休眠子ヲ包藏スルヿ第二圖「ヲ」ニ示スカ如キヲ以テ之ヲ無頓着ニ散亂セシメ又ハ淺埋スル𪚲ハ外界ノ好況ニ遇ヘハ翌歳必ス發芽シテ仝病ヲ發生スルヿ當然ナリ是レ害菌ノ種ヲ保護スルト同理ニシテ洵ニ愚ノ至リト云フ可シ故ニ一旦葱類ノ萎黄病ニ罹リ葉ノ黄色ヲ帶ヒタル𪚲ハ既ニ休眠子ハ稍生熟シタルノ時季ナリ之ヲ以テ可成的枯凋セル病葉ヲ散亂セサル樣注意ス可ク之ヲ深ク地中ニ埋ムルヲ可トス之ヲ以テ病害流行地ハ可成深耕ヲナサハ其害ノ幾分ヲ少カラシム可シ此病害ハ晩春ニ最モ劇シク發生スルヲ以テ秋季ニ播種シ春季病患發生前ニ收護スルヿ良策ナラン

次ニハ蕓薹及ヒ桑ノ害菌ヲ論ス可シ

やはずさう及ビ其變種

牧野富太郎

やはずさうト呼ブアリまめ科中はぎ屬 Lespedeza. ニ屬ス野外ノ地山坡ノ處隨在之ヲ見ザルハ鮮シ小草ニ〆春時子生シ秋深テ枯死ニ就ク此ニ兩品アリ一ハ其葉線狀長楕圓形ヲナシ葉緣ニ長毛ナク蕚上ニ毛アリ莢ハ其長ヲ蕚長ニ等クス是レ普通ノやはずさうナリ即チ Lespedeza striata Hook. et Arn. ナリ一ハ其葉之ヲ上種ニ比スレバ稍密生シ葉形更ニ之ヨリ短ク略〻長楕圓形ヲナシテ葉緣ニ長毛アリ蕚ハ細小ニ〆緣邊ニ微碎齒アリ莢ハ蕚上ニ超出スルヿ殆ンド之レガ二倍タリ Maximowicz 氏ハ其著 Primitiae florae amurensis.（一千八百五十九年刊行）ニ於テ之ヲ一個ノ品種トナシテ詳說シ以テ Lespedeza stipulacea Maxim. ノ名稱ヲ下セリ然レ𪜈同氏ノ別著 Synopsis generis Lespedeae. ニ於テハ更ニ之ヲやはずさう即チ Lespedeza striata Hook. et Arn. ト同種トナシテ掲出シ其他ノ學者亦同ジク之ヲ一種ノ下ニ綜ブルヲ見ル然リト雖𪜈假令莖葉幷ニ全体ノ狀ハ此兩品ヲ〆各〻特立ノ位置ヲ保セシムル上ニ就テ充分ノ價値ヲ缺クトスルモ其蕚狀幷ニ蕚莢相比ノ狀ハ特ニ能ク之ヲ前品ト判別スルノ好標識ニ〆少クモ予ハ之ヲやはずさうノ一變種トスルニ躊躇セザル可シ依テ左ニ之レガ整理ヲ試ミントス

Lespedeza striata Hook. et Arn. Bot. Beech. Voy. p. 262.—Sieb. et Zucc. Fl. jap. fam. nat. No. 18.—Benth. Fl. hongk. p. 85.— Maxim. Syn. gen. Lesp. p. 56.—U. S. Dep. Agric. Rep. 1878, p. 180. t. 24.—Franch. pl. David. p. 97.—Miq. Prol. fl. jap. p. 237.—Franch. et Savat. Enum. pl.

jap. I. p. 102.—Forbes et Hemsl. Enum. chin. p. 182.

Hedysarum striatum Thunb. Fl. jap. p. 289.

β. stipulacea Makino.

Lespedeza stipulacea Maxim. Prim. fl. amur. pp. 85 et 470.—Fr. Schmidt Reisen in Amurl. und der Ins. Sachal. p. 124.

實ニ上ノ如シ兩品共ニ本邦ニ產シ予ハ皆之ヲ採集シテ此ニ其標品ヲ藏セリ而〆其變種ナル一品ハ土佐ノ各所ニ之ヲ採集シ得タリ同地ニ在テハ此品普通ノ品種ト雜生シ之ヲ得ルヿ極メテ容易ナリ其稍〻密簇シテ緣毛アル短葉ハ直ニ之ヲ普通ノ品種中ヨリ撰擇スルヲ得ベキ招牌タリ此品從來和名ノ呼ブベキナシ予ハ此ニまるばやはずさうノ新名ヲ下シテ以テ其稱呼ニ便セントス

錦窠翁米賀會誌中田中芳男先生ノ記事アリ曰ク東京近在ニ自生スル所二種アリ長葉ト圓葉アリ長葉ノ者ハ尋常品ニシテ圓葉ハ不然云云由是觀之東京ノ傍近亦之ヲ產スルヿヲ知ルニ足レリ

普通ノ品幷ニまるばやはずさうハ支那亦之ヲ產シ此乙品ハ更ニ尙ホ樺太州及ビ黑龍江地方ニ散布セリ

◎雜錄

○植物新稱

松村任三

Bromus unioloides *Willd*?

イヌムギ

草狀スヾメノチヤヒキニ似テ畚花ニ芒ナク又毛茸ナシ而シテ葉片葉鞘共ニ毛多シ

明治廿五年七月十八日東京小石川西丸町ニ於テ撿出

Sonchus asper *Vill.*

オニノゲシ　續斷　植物名實圖考

ノゲシノ一種葉緣ニ剛刺多ク花梗ニ腺毛アルモノ竹林路傍ニ生ス前者ト同處同時ノ撿出ニ係ル

Lamium purpureum *L.* Thunb. Fl. jap. p. 246.—Fr. et Sav. Enum. pl. Jap. vol. I. Pars II. p. 380.

ヒメオドリコサウ

明治廿六年四月下旬東京駒場ニ於テ撿出

○原形質及ビ感應症（前號ノ續）

池野成一郞

石炭ヲ薪キテ熱セル蒸氣機關ノ銷蓋ヲ開ケバ機關ハ直ニ運動ヲ起シ其造搆ノ工合ニヨリ種々ノ仕事ヲ行フヘシ而シテ此時ニ當リ銷蓋ヲ開カンガ爲吾人ノ使用セル力ト機關ノ仕事トハ相釣合ハスシテ吾人ノ使用セル力ハ極テ小ナレドモ機關ノ仕事ハ割合ニ大ナリ蓋此時ニ當リテハ吾人ノ力ハ唯從來遮止セラレ居タリシ機關ノ仕事スル力ヲ開放スルニアルノミ銷蓋ヲ開クハ別ニ機關ニ力ヲ給與スルモノニアラズ元來機關ハ運動シ仕事スルノ力アリシモ銷蓋ノ壓力ニ遮止セラレ更ニ働クヿナカリシガ銷蓋ヲ開クハ此遮止ヲ除キ其力ノ自由ニ働クヿヲ許スニアルナリ

弓蔓ヲ張リツムレバ此爲ニ使用セル力ト爲シ遂ゲタル仕事トハ相釣合フモノナレハコレ力ヲ給與スル作用ナリ張リツメタル弓蔓ニハ之ガ爲使用シタル力ハ靜止ノエネルギー即張力ト爲テ蓄積セラル今張リツメタル弓

蔓ヲ放テハ之ニ蓄積セラレタル張力ハ開放セラレテ活力即運動ノエネルギートニ化ス而乄此弓蔓ヲ放ツ爲ニ使用スル力ト其時ニ開放セラルヽ力トハ其量相鈎合ハズシテ開放セラルヽ力ノ方大ナリコレ即蒸氣機關ノ鎖蓋ヲ開クト同樣ニシテ弓蔓ヲ放ツト云フハ元來存在シタリシ力ヲ開放スルノミナルガ故ナリ今摩擦其他ノ爲メニ消失セル力ヲ計算ニ入ルレバ弓蔓ヲ放ス時開放セラルヽ力ハ之ヲ張リツムル時使用スル力ト其量同一ナリ此蔓ヲ張リツムル力ヲ吾人ハ蔓ニ給與シ而乄コレニ矢ヲ放ツ時ニ使用スルナリ蔓ヲ張リツムル時使用スル丈ケノ力ガ矢ヲ放ツ時ニ使用サルヽトイフハコレ天然理學ニ於テ實驗上確定セルエネルギー保存ノ大原理ノ一例ナリ凡天地間ニ行ハルヽ作用タル皆一種ノ運動ガ他種ノ運動ニ化シ或ハ强力ガ活力ニ化シ或ハ之ニ反シ活力ガ張力ニ變ズル等ニ外ナラズ世上ニ現有スルエネルギーハ消滅スルヿモナク又無ヨリ新ニ生ズルヿモナシ宇宙間ニ現存スルエネルギーハ吾人ノ試驗上知ル所ニ從ヘバ實ニ其量タル不變不易ナリ

生物ノ生活物質ハ實ニ張力ノ倉庫ニシテ此張力ハ絶エズ止マズ活力ニ化シ以テ生活作用ヲ營ムナリ

生活作用ハ一部ハ力ヲ給與スルノ作用ナリ即呼吸ノ如キハ徐々ナル燃燒ニシテ力ヲ給與スルノ作用ナリ造化ノ爲ス所ハ吾人ノ爲スト異ル所ナリ吾人ハ木材或ハ石炭ヲ薪キテ其内ニ貯蓄セラレタル力ヲ開放ス造化ノ爲ス所モ大同小異ナリ木材或ハ石炭ノ燃燒スルハ空氣中ノ酸素ニ因ルガ故ニ若シ密閉シタル室內ニ於テ之ヲ燃ヤシ其室內ノ酸素ヲ使用シ盡セバ燃燒スル能ハズシテ消滅ス生物モ斯クノ如ク酸素ナケレバ其生活作用ハ直ニ停止スルノ外ナキナリ

生活物質ガ外界ノ刺激ニ感應シ反應スルハコレ元來現存シタリシ力ヲ開放スルノ作用タリ此作用タル動物ニ於テハ急速ナルヿ物ノ爆裂スルガ如ク弓蔓ヲ放ツ時ノ如シ植物ニ於テ此作用多クハ徐々ナリ然レ𪜈固ヨリ力

ヲ開放スルノ作用タルガ故ニ開放スル力ト開放セラルヽ力トハ其量相釣合ハズメ開放スル力ハ小ニシテ開放セラルヽ力ハ大ナリ但爆裂的ノ感應タル植物界ニ於テ全ク之ナシト云フニハアラズ或ル植物ハ一定ノ外界ノ刺激ニ逢ヒ或ハ內部ノ狀態ノ一定ノ變化ヲ受レバ直ニ感應シテ急速ナル運動ヲ惹起スヿアリ此クノ如キ植物ノ適例ハねむりぐさニシテコレ能ク人ノ知ル所ナリ其葉ハ之ヲ振動スレバ直ニ垂下シテ其小葉ハ相疊ムコレ刺激ノ爲葉柄及ビ小葉ノ基底ニ於ル運動器官ガ急ニ其性質ヲ變ジ其細胞ノ原形質タル元來水分ノ出入ヲ妨グルノ性アリシモ急ニ水分ノ出入ヲ許スニ至リ夫ガ爲メ細胞內ノ水分流出シテ細胞間ノ空隙ニ入ルカ故ナリ水分流出スルガ故ニ此細胞ノ容量減縮シ隨テ其器官ノ容量モ減縮ス運動器官ノ上部及ビ下部ハ其細胞ニ水分充滿スル𪜈ハ相平均スト雖モ若シ水分ヲ失フ場合ニハ上部若クハ下部ノ一方丈ケノ水分流出スルガ故ニ水分ヲ失ハザル方ノ部ハ其重量他部ヨリ增大即若シ下部ノ方水分ヲ失ヘバ葉柄ハ下方ニ向テ壓セラレ小葉ハ前方ニ向ヒ且上方ニ向テ相疊ムナリ此運動タルヤ勿論運動器官ノ行フ所ナリト雖モ運動器官ニ及ボセル刺激ヲ受クルモノハ原形質ナリ刺激ヲ未ダ受ケザル器官ノ細胞內ニハ水分充滿シ細胞ヲ緊張ス斯ノ如ク水分ノ他ニ流出スルヿヲ妨グ若シ刺激ノ來ルニ逢ヘバ直ニ此水分ヲ流出セシムルノ作用ヲ爲スモノコレ原形質ナリ細胞內ノ水分流出スルノ結果ハ遂ニ外ニ顯ハレテ葉ノ運動トナル而メ此等ノ器官ノ造搆タル一種特異ニシテ如何ナル種類ノ刺激ヲ傳フルモ必ズ常ニ其結果ハ運動ナリ即葉ヲ振動シ或ハ中傷シ或ハ小葉ヲ中傷スルモ必ズ運動トナリテ顯ハルヽナリ此等ノ器官タル皆特別ノ反應法ヲ有スルヿ恰モヨハンネス、ミューレル氏 (Johannes Müller) ガ動物ニ於テ發見シタル特別エネルギーニ比較スベキナリ

ねむりぐさヲ刺激スレバ刺激ハ傳播シテ遠方ニ至ルヿアリ即今一個葉ニ觸レバ二三秒時ニシテ他ノ葉モ又垂

下シ其他此葉ノ上部或ハ下部ニアル數多ノ葉モ又同樣ニ運動ス今此刺激ノ傳播スル速力ヲ計算シ之ヲ動物神經ニ於ケル傳播ノ速力ニ比較スレバ植物ノ力ノ大ニ動物ニ劣リタルヲ知ラン蓋動物ノ神經ニ於テハ其速力タル一秒時ニ三十メートル以上ニ及ブト雖モ尤モ感覺强キねむりぐさニ於テスラ此ノ速力ハ同時間ニ於テ一サンチ半ニ過ギズ然レ𪜈ハーベルランド氏（Haberlandt）ノ研究ニ因レバねむりぐさニ於ケル刺激ノ傳播ハ動物神經ニ於ケルトハ其法霄壤ノ差異アルガ故ニコハ相比較ニ成ラザルモノナランカ蓋シねむりぐさニ於テ刺激ヲ傳播スルハ神經ニ非ズシテ恐クハ長キ管狀ノ且粘液ヲ含メル細胞ナリ此細胞内ノ水力平均紊亂シ此紊亂遠方ニ傳播スルニアリ而メ刺激ハ此等細胞内ノ壓力ノ差ヲ惹起スニアリ植物組織ノ一部死スルヿアルモ刺激ハ其死セル部分ヲ經過シテ傳播スルヲ以テ見レバ刺激ノ傳播タル生活的ノ作用ニアラザルナリ然レ𪜈他ノ植物ニ於テ刺激ノ傳播スルハ細胞体ヲ結合スル所ノ細微ナル原形質ノ糸ニ因ルヿ明ナルガ故ニねむりぐさニ於ケル刺激ノ傳播法ハ一種特別ト云フベシ而メねむりぐさニ於テスラ水壓力ノ差異ヲ整正スルニヨリ刺激ノ傳播ヲ起スト云フハ唯葉ノ運動ニ關係シテ云フノミ其他ニ於テハねむりぐさノ細胞ト雖モ原形質ノ糸ヲ以テ相結合スルヿ他植物ニ於ケルト異ルヿナシ蓋刺激ノ傳播スルヤ斯クノ如キ原形質ノ糸ヲ通過スルハ徐々ニ非ザレバ能ハザルガ故カ將タ植物原形質ノ分業不完全ナルガ故刺激ヲ誘導スルヿ鈍キガ故カ兎ニ角刺激ノ一細胞ヨリ他細胞ニ傳播スルヤ距離僅少ニシテ時間ハ多シサレバねむりぐさニ於テ別ニ水壓力ノ差異ヲ利用シテ刺激ヲ急速ニ傳播スルニ至リシモノ實ニねむりぐさニ取テ利益アリ……ねむりぐさニアルガ如キ管狀細胞ハ他ノ豆類ノ植物ニ於テモコレアリ即吾人ノ庭園ニ多ク植ウル所ノはりゑんじゆニ於ケルガ如シ然レ𪜈此等ニ於テハ此細胞ハ唯或ル物質ヲ吸收シ之ヲ送ルノ用ヲ爲スノミ刺激ノ傳播ヲ司ルニ至リシハねむりぐさヲ以テ

始メトスコレ一新官能ニ適當シタルモノニメ一個ノ新ニ得タル性質トモ云フベキナリ刺激ノ傳播急速ナルカ故ニ隨テ刺激ニ因テ起ル所ノ結果モ又植物体ノ一部ヨリ他部ニ及ブヿ急速ナリねむりぐさノ葉ニ觸ルレハ急速ナル運動ヲ行フカ故ニ之ニ觸レタル動物ヲ驚愕セシム熱帶地方ニ於ケルねむりぐさノ最モ感覺ノ鋭敏ナルモノニ至テハ其傍ニ動物ノ走ルヿアリ爲メニ其葉ノ振盪セラルヽヿアレバ葉ハ直ニ下垂シ因テ以テ葉ノ基底ニアル所ノ刺タル從來葉ニ因テ被ハレタリシモノカ今ハ顯著タリコレ動物ガ之ヲ害スルヲ防グナリサレバ旅人ノ斯クノ如キ土地ヲ通過スルヤ近傍ノ植物ハ皆動物ノ呑食スル所トナルヿアルヲ見ルモねむりぐさハ獨リ依然トシテ呑食ヲ免ルヲ見ルト云フ

張リツメル弓蔓ヲ引キ放セバ其張力ハ皆活力ニ化シ去リタリ故ニ之ニ新ニ仕事ヲ爲サシメンニハ再ビ之ヲ張リツメザルベカラズ之ト同クねむりぐさガ刺激ヲ受ケテ運動スレバ張力化シテ活力トナリタルナリ而メねむりぐさハ再ビ自ラ元來ノ張力ヲ復歸スルナクソハ運動器官ノ細胞ハ流出シタル水ヲ再ビ吸收シテ膨脹シ器官モ隨テ增大ス葉柄ハ杠上シ小葉ハ擴張シ數分時ニシテ刺激前ノ狀態ニ復歸ス此時ニ行フ所ノ仕事ハ張力トナリテ各細胞体ニ貯蓄セラルヽナリ

ねむりぐさノ運動器官ガ刺激ニ感應スルニハ必ズ外界ノ有様ノ適當ナルヿヲ要ス此生活的器械ノ仕事スルニハ温度ガ一定ノ限界ヲ超過セザルヿヲ要シ且土壤及ビ大氣ノ濕度ノ適當ナルヿヲ要ス温度下リテ攝氏十五度以下ニ至レバねむりぐさハ運動ヲ止メ上リテ攝氏四十度以上ニ至ル𪜈モ亦同ジ而メ下テ十五度以下ニ至リ或ハ上テ四十度以上ニ至リ運動ヲ停止スルモ温度再ビ適當ナルニ至レバ再ビ運動スベシ然レ𪜈温度零度以下ニ下リ或ハ五十度以上ニ上レバ器械破壞シ温度正ニ歸スルモ再ビ仕事スルヿナシ又空氣或ハ土壤ノ異常ニ乾燥

スルヿアレバ運動ヲ停止スレ𪜈之ニ水ヲ注ゲバ數時間ニシテ又元ノ有樣ニ戻ルベシ

ねむりぐさノ葉ヲ數回續ケテ刺激スレバ其感應性ハ少時間停止スベシ被ヒナキ土地ニ生育スルねむりぐさハ雨ノ降リ始ムルトキハ急ニ其葉ヲ垂レテ其小葉ヲ疊ム即雨滴ガ刺激ノ運動ヲ惹起スナリ暫クシテ降雨ノ止ムヿナキニモ拘ハラズ葉ハ再ビ杠上シ且擴張ス……ねむりぐさヲ周日暗黑ナル所ニ置ケバ其葉ハ同ク其感應性ヲ失フベシ……雨後ねむりぐさハ再ビ元ノ感應性ヲ得ベシ又暗黑內ニ放置セルニ因リ其感應性ヲ失ヘル葉ヲ日光ニ曝セバ暗黑內ニ於テ異常ニ害ヲ受ケザル限ハ再ビ數時間ニシテ其感應性ヲ得ベシ

ねむりぐさノ運動器官ガ感應性ヲ失ヘル間ニ受クル所ノ害ハ一定ノ限界ヲ越エザル間ハ植物自身ニ之ヲ修復スルノ力アリ其害非常ニシテ之ヲ修復スル能ハザルトキハ其器官ハ遂ニ死亡スルニ至ルナリ

感應性ヲ失ヘル葉ハ下方ニ垂下セズシテ恐クハ感應ヲ失ハザル時ノ如ク擴張ス是ニ因テ之ヲ觀レバ斯クノ如キ塲合ニ於テねむりぐさノ運動セザルハ運動ヲ行フ爲ニ必須ナル張力欠乏スルニアラズ唯其器械カ害ヲ受ケタルカ故ノミ器械ノ損所アルモノハ鎖蓋ヲ開クモ運動ヲ起サヾルカ如ク器官ノ損所アルモノハ刺激スルヿアルモ更ニ運動スルヿコレナキナリ

（以下次號）

松村任三

○植物雜語

猫ノ好物木天蓼（マタヽビ）ハ獼猴桃科 Dilleniaceæ. ニ屬ス多雄蘂、多心皮、サルナシ ミヤマサルナシ 皆此屬果實食フベシ

波疏（ウツギ）ノ葉ニ毛アリ其狀星ノ如シ內ニ $CaCo_3$ ヲ含ム

金盞菜（キンセンクワ）ノ花瓣ニ含メル色素ハ Cholesterin ナリ化合式ヲ $C_{26}H_{42}(OH)_2$ トス (A. Kirchner.)

葡萄葉ノ病源ニ Physalospora Bidwelli ト稱スル菌類アリ又一種ノバクテリヤアリ其長 3—4 m. 其幅 0,25 m.

林檎ノ果肉腐敗シテ苦味ヲ呈スルハ Gloesporium fructigenum ト稱スル菌類ノ所爲ニ由ル (Southworth.)

植物蠟ニ數種アリ

カルヌバ蠟アリ (Copernicia cerifera.)

ペラ蠟　一名支那蠟アリ

櫨アリ

カミ蠟アリ

イボタ蠟アリ

烏臼蠟アリ

楊梅蠟アリ

オリザバ蠟アリ

ストツクラツク蠟アリ

バヒヤ蠟アリ

珠柄 (Funiculus.) ノ用ハ物質ヲ種子ニ送致スルニアリ (Dahmen.)

珠柄ノ組織ハ表皮 (Epidermis.) 篩部 (Phloem.) 管部 (Xylem.) 及ヒ「パレンキマ」ノ四ナリ

砂糖ヲ採ル所ノ大根ヲ Beta vulgaris, var. Rapa ト稱ス

全歐洲ニ於テサトウダイコンヨリ製造スル所ノ砂糖全額ハ三百五十二萬三千七百三十七噸

苧麻（カラムシ）ノ靭皮纖維ハ長サ二十二サンチメートル其直經凡ソ0.05ミリメートル

○日本ノ石竹

英人エフ、エヌ、ウヰルリヤムス氏ハ全世界ノ石竹類ノミヲ記載シテ左ノ五種ハ日本ニ産スルモノトセリ

Dianthus superbus, L.
Dianthus deltoides, L.
Dianthus Buergeri, Miq.
Dianthus Boissieri, Willk.
Dianthus sinensis, L.

K. I.

○植物体中揮發油ノ生成及ビ所在

近著ノ獨逸新聞ヲ閲スルニ左ノ報告ヲ轉載セリ原報ハメスナール氏ガ Comptes rendus 1892 Tome CXV No. 21 ニ投ゼシモノニシテ甚ダ興味アリ且ツ有益ナリト思ヒ譯出シテ諸彦ノ一覽ニ供ス

仝氏ガ顯微鏡下ニ於テ揮發油ヲ鑑識スルニ使用シタル裝置ノ大要ヲ云ハンニ先ヅ檢スベキ植物体ノ一薄片ヲ覆物硝子（デックグラス）上ニ滴シタル砂糖含有ノ「グリセリン」中ニ入レ其面ヲ下ニシ豫メ顯微鏡下ニ備ヘタル硝子製小箱ノ上面ノ之レニ適スル小孔上ニ置キ此ノ箱內ニ他ヨリ乾燥シタル鹽酸瓦斯ヲ通ジ右「グリセリン」中ノ薄片ニ觸接セシメ同時ニ其景況ヲ窺フナリ然ル𪜈ハ細胞內ノ揮發油ハ鹽酸瓦斯ニ遇テ類黄色ヲ呈シ球形ニ瀦溜シテ明カニ他ノ脂肪油ト分別スルヲ得フルト云フ仝氏ハ此ノ法ヲ用ヒ種々ノ物体ニ就キ試驗シタルニ左ノ成績ヲ得タリ

「第一」揮發ヤスミン油　ハ殆ンド全ク蕚及ビ花瓣ノ上面ノ上皮細胞（エピデルミス）中ニノミ存在シ下面ノ上皮細胞ニハ唯罕レニ二三滴ヅヽ黒色ノ色素ト混ジテ現存スルニ過ギズ今一歩ヲ進メテ之レガ發生ヲ撿スルニ最初ハ單ニ葉綠（クロヽフイル）ノミニシテ時ヲ經ルニ從ヒ漸々鞣酸質ヲ生成シ次ニ配糖体（グリコシード）トナリ最后ニ再ビ鞣酸ト色素トニ分解スルヲ常トス之レニ由テ揮發油ノ生成ヲ考フルニ未ダ花ノ開カザル片即チ芽トナリテ存在スル片花瓣ノ下面ハ日光ト空氣トニ曝露セラルヽヲ以テ之レガ爲メニ單ニ鞣酸質ノミヲ生成スト雖𪜈花芽ノ內部即チ花瓣ノ上面ハ右等ノ作用ヲ受ケザルニヨリ充分酸化セズ即チ酸素ニ乏シキ揮發油ニ變生スルモノナルヤ明カナリ

「第二」薔薇油　モ「ヤスミン」油ト同ジク花瓣上面ノ圓錐形上皮細胞中ニノミ存在シ全ク下面ニ含蓄セズ「ニホヒ、スミレ」油モ亦然リ唯「ツベローズ」油ノミハ花蓋（ペリアンツス）ノ下面ニ存在ス

「第三」橙花油　ノ橙花中ニアルヤ種々ノ品類ヨリ成リ其蕚及ビ花瓣ノ下方ニ開口セル汾泌物貯蓄器中ニ存在スルモノハ眞正ノ橙花油 Oleum Neroli ニアラズシテ「ペチト、グライン」油ニ類スル揮發油ナリ其證ハ花芽ノ未ダ發綻セザルニ先ダチ注意シテ貯蓄器中ノ物質ヲ取去ルモ開花後橙花固有ノ香氣ハ决シテ變化セザルモノトス即チ佳絶ノ芳香アル揮發油ハ單ニ花瓣ノ上面及ビ花瓣樣ノ雄蕋束中ニノミ含有セラルト考ヘザルヲ得ズ

右等ノ事實ヲ總括スレバ左ノ結果ヲ生ズ

凡テ花類ノ揮發油ハ既ニ花芽中ニ生成シ特ニ蕚及ピ花瓣ノ上面ノ上皮細胞中ニ現存シ下面ニハ鞣酸質及ビ之レヨリ誘導シタル諸体ヲ含有ス

何レノ場合ニ於ケルモ揮發油ハ葉綠素ノ變成体ナルガ如シ蓋シ花部ハ葉部ノ變成物ナルヲ知レバ自（オ）ラ明瞭ナルガ如ク茲ニ葉綠素トナリテ現ルベキ物質ハ其ノ用途ヲ失ヒ必ズ他ノ物体ニ變ゼザル可ラズ即チ一種ノ鞣

酸様化合体（即チ揮發油）トナリ永久ニ變化セザルモノトナリテ現ハルヽナリ花類ノ芳香ヲ放ツハ右葉緑素ヨリ生ジタル中間物（鞣酸体）ノ全ク分解シテ揮發油ニ變ジタル時ニ於テ始メテ著シク其ノ量ハ（一定度迄ハ）該花中ニ含有スル鞣酸及ビ色素ノ量ニ逆比例スルモノトス是レ即チ緑色ノ花瓣ヲ有スル花類ハ無臭ニシテ白花或ハ淡紅色花（薔薇ノ如キ）ノ多數ニ限リ屡々佳絶ノ芳香ヲ有スル所以ノ理ヲ説明シ合セテ菊科ノ如キ植物ノ多數ハ大量ノ鞣酸質ヲ含ムニヨリ皆一種不快ノ臭氣ヲ放ツノ原因等ヲモ證明シ得ベシ云々

○バクテリアの説

K. D. 山人纂譯

然レバコソ我地球ノ表面ニ於テ假ニ西比利亞ノ如キ廣原ニ宏大無比ノ建築ヲ起シ且ツ月球ノ住民ガ亙シ顯微鏡ヲ有セサルモ尙ホ其ヲシテ一目瞭然タラシムルガ如ク其建築物ハ力メテ單純ナル圓形若クハ三角形ノ如キ形状トナス時ハ乃チ月球ニ在ル住民ハ其物体ヲ見テ必ズ其意ヲ解シ之ト相似タル建築物ヲ造リテ以テ交通ヲ開クニ至ルベシトハ言ヒシナランドモ然レドモ此レ全ク一ノ忘想タルニ過ギスシテ到底實行シ得ベキモノニアラザリケレバ爾後何ノ沙汰モナクテ已ミケリ然ルニ今日吾人ハ前上ニ反シテ其見ルベカラザル前世ノ住民（黴菌ヲ指ス）ト相通ジ加之ナラズ其隱微ナル生活迄モ漸ク覘ヒ知ルニ至レリ

サレド馬鈴薯ノ上ニ於テ黴菌ノ成育ヲ知リ得ル方法ハ其區域既ニ定限セリ何トナレハ馬鈴薯ハ透明ナラザルガ故ニ其見ルコトヲ得ル部分モ亦唯其外面ノ一局ニ過キサレバナリ加之スベテノ黴菌ハ悉ク馬鈴薯中ニ生育スルモノニ非ス即チ或種類ノ黴菌ノ如キ全ク馬鈴薯中ニ生育スルコト能ハサルモノナリサレハ黴菌成育ノ方法ヲ尙明カニ知ラント欲セバ之ニ適セル物質ニシテ而カモ透明ナル固体ヲ採ラサル可カラス玆ニ此目的ヲ達ス

ルニ最モ普通ニシテ且ツ要用ナルモノアリ即チ肉熬ペプトント少量ノ鹽ト混合シタル溶解性ノ膠ノ一ペルセントニ炭酸曹達ヲ中和シ或ハ少シク鹽性（アルカライン）ヲ含マシメタルモノ是レナリ而シテ其成分中ニ黴菌ノ存スルヤモ測ラレザルガ故ニ又之ヲ熱シタル後尚ホ高度ノ熱ヲ以テ焙リタル硝子ノ管ニ充タスコト三分ノ一許ニシテ綿ヲ以テ栓トナシテ其口ヲ塞クベシ然ル時ハ空氣ハ能ク外部ヨリ侵入スレ𪜈又之ト共ニ來レル黴菌ハ悉ク綿ノ纖緯中ニ捕捉セラレテ止ルベシ

（未完）

○植物家彙報

獨乙國ブレスラオ大學敎授同植物園長ドクトル、カール、プラントル氏ハ四十三歲ノ齡ヲ以テ死去セリ

伊國植物學敎員ドクトル、デトニ氏ハパルマ大學ノ敎授ニ擧ラレタリ

○昨年中出版外國植物書數篇ニ就キ

池野成一郎

昨年中外國ニテ出版セル植物書ノ數ハ極テ夥シト雖𪜈其中ニ就キ良書ナリト思ハルヽモノ數篇ヲ掲ケ其如何ナル書ナルヤヲ說明シ且聊其批評ヲ試ミントス但コヽニ掲グルハ敎科書其他之ニ類セルモノニシテ高尚ナル研究理論ノ書ハ之ヲ省略ス斯クノ如キ高尚ナル事ヲ論ズルハコレ本誌ノ目的ニ非サレハナリ

(一) *A. Engler*, Syllabus der Vorlesungen über specielle und medicinisch-pharmaceutische Botanik. Grosse Ausgabe 8°, 184 pp.

此書ハ植物界ヲ下ハ粘液菌ヨリ上ハ顯花植物ニ至ル迄詳ニ其分類ヲ示シタルモノナリ之ト同題ノ書ハ數年前死去シタル故ベルリン大學敎授アイヒレル氏出版シ大ニ世ニ行ハレタリシガエングレル氏ノ書ハアイヒレル氏ノモノニ比スレバ大ニ詳細ニ亘レリ其分類法ノ如キハ近來學術的ノ研究ヲ大ニ採取シタレバ評者ノ目ヨリ

見ルモエ氏ノ書ノア氏ノ書ヨリ學術的ナルコハ明ナリ又ア氏ノ書ハ顯花植物ニ詳ニシテ隱花植物ニ粗ナルノ患アリシガエ氏ノ書ニハ斯ノ如キ患ナシエ氏ノ分類法ハ其大群ハ普通ニ行ハルヽモノト其名稱ニ於テハ稍異リト雖モ其實ハ大同小異ナリ小群ニ至テハ其分類ハ往々從來ノモノト大ニ相違スルモノアリ此分類法タル前言フ如ク極テ學術的ニシテ且氏トプラントル氏トノ合著 Die natürlichen Pflanzenfamilien ノ如キ主トシテ此分類法ニ因リタレバ今ヨリ數年ヲ經バ氏ノ分類法大ニ世ニ行ハルヽニ至ランカ今次ニ氏ガ分類ノ大群ノ名稱ヲ從來ノモノト對比シテ掲グ

エングレル氏	從來ノ者
I. Myxothallaphyta II. Euthallophyta	I. Thallophyta
III. Embryophyta zoidiogama	II. Bryophyta. III. Pteridophyta.
IV. Embryophyta siphnogama	IV. Gymnospermæ. V. Angiospermæ.

(二) Behrens, Tabellen zum Gebrauch bei mikroskopischen Arbeiten. 2. Auf. 8°, 205 pp.

此書ハ顯微鏡術ニ有名ナルベーレンス氏ガ顯微鏡ノ仕事ニ從事スルモノヽ爲メ居常必用ナル事ヲ集メテ表トナシ之ヲ一書トナシ出版ナセルモノニテ今回出版セルモノハ一千八百八十七年ノモノヽ再版ナリ而メ再版ナレモ初版トハ非常ノ相違ニシテ初版ノ頁數ハ僅七十六ペーヂナルニ今回ノ再版ハ二百〇五ペーヂノ大數トハ

ナリヲ此書ヲ一覽スルニ動物家タルト植物家タルトヲ論ゼズ苟クモ顯微鏡ヲ使用スル人ノ坐右ニ欠ク可ラザルモノナリト思ハル其表數ハ七十五個ニシテ其主ナルモノハ固定液ノ表、洋紅染料ノ表、ヘマトキシリン染料ノ表、アニリン染料ノ表、主ナル液体ノ比重表、植物々質ノ反應表、其他コヽニ枚擧スルニ暇アラズ此書ノ出版ノ本國タル獨逸ニ於テハ學者ノ多キ蓋洛陽ノ紙價爲ニ貴カランカ本邦ニ於テ斯クノ如キ顯微鏡學專門書ノ需用者ノ夥カランニハ將タ今ヨリ幾十年ヲ待ツベキヤ

(三) Frank, Lehrbuch der Botanik. Bd. I. 8°, 670 pp.

獨乙國ウルツブルク大學敎授ユリユース、サックス氏ノ Lehrbuch ノ世ニ行ハレタルヤ久ク之ヲ佛譯スルモノアリ(フアン、チーゲム氏)或ハ之ヲ英譯スルモノアリ(ベンナット氏ヴァインス氏)而メ其最終版ハ千八百七十四年ニテ今ヨリ廿八年以前ナリサレバ其書ノ秀拔ナル書ナルニモ拘ハラズ今ヤ之ヲ使用スル人寥々タリ蓋其說ク所既ニ陳腐ナル所少カラザレバナリ是故ニサックス氏ノ書ヲ方今學術ノ狀態ニ適應スル樣ニ改竄スルノ必要ヲ感ジタル人ハ從來少カラズト思ハル昨年出版ノフランク氏ノ書ハ即此欠點ヲ補ハンガ爲ノモノナリフランク氏ハ當時ベルリン高等農業學校ノ植物生理學敎授ニシテ從來植物學上ニハ効勞少カラズ今亦サックス氏ノ書ヲ改竄シテ出版シ大ニ世上ノ學者ヲ益セントス此書ハ上下二卷ニシテ上卷ニハ植物細胞論、植物解剖學、植物生理學ヲ論ジ下卷ニハ植物形狀學、植物分類學ヲ論ズ昨年出版ノモノハ上卷ニシテ下卷ハ本年ノ初出版ノ筈ナレ𪜈未ダ出版ニ成ラザルモノト見エ未ダ評者ノ手ニ入ラズ今此上卷ヲ一覽スルニ細胞論、解剖學ハサックス氏ノ書ト其順序大同小異ニシテ唯近來ノ學術ヲ參酌シテ大ニ改竄ヲ加ヘタルヲ異リトスルノミ植物生理學ハ此書ノ大部分ヲ占ムルモノニシテ六百七十ページノ書中三分二ハ之ニ屬ス其順序ハサックス

氏ノ書トハ大ニ相違シ嘗テ先年著者ガ物セル Lehrbuch der Pflanzenphysiologie ノ順序ニ同ジ先ヅ總論アリ次ギニ植物ト外界トノ關係ヲ論ジ次デ物理的生理學ト題シ有機体ノ分子的構造、原形質ノ運動、オスモース及ビ緊張、水ノ運行、水ノ分泌、蒸散、瓦斯体ノ運行、植物ノ器械的性質、光學的性質、エレキ的性質、成長、器官造成、植物体ノ運動ヲ論ズ次キニ化學的生理學ト題シ植物ノ化學的造構、呼吸、醱酵、榮養總論、炭素吸收、窒素吸收、水酸素吸收、灰分吸收、植物々質及ビ其起原、官能ヲ論ジ終ニ植物生殖論ヲ短ク論ゼリ此書ノ他書ト異ルハ感應論ヲ先ニシテ榮養論ヲ後ニシタルヿナリ又榮養論ノ割合ニ長キヿナリ即生理學ノ凡三分二以上ハ之ニ屬ス氏ハ農學校ノ敎授ナレバ榮養論ニ偏スルモ理由ナキニ非ズ又氏ハ自身研究ノ事ヲ他ノ事ノ割合不相當ニ長ク書キタリ敎科書ト云フ題ニ對シテ如何アランカコレハ既ニウオルトマン氏ガ「ボタニシッエ、ツァイツング」紙上ニ於テ論ジタルヿナレバ今更ラコヽニ云フノ必要ナキカモ知ラザレド例ヘバ植物ト外界トノ關係ニ於テ他生物トノ關係即共生ト題スル部分ハ氏ガ得意ノ Mycorbiza ヲ滔々ト論ジ外界ト關係論總テ四十二ページノ內二十ページ即凡半分ハ共生ニ關シ圖畫八個ノ內六個ハ之ニ屬ス又窒素吸收ノ章ニ於テ氏ハ得意ノ遊離窒素ノ吸收ヲ長々ト論ジ(九ページ)タリ然シコレニハ未ダ反對ノ說アリテ確定シタリト云フ譯ニモアラズ然シ氏ハコレヲ確定シタルカ如クニ說ケリコレ如何ナルモノナランカ然シ以上ノ欠點ナキニ非ザレド大体ヨリ云ヘバ論說斬新、紙質精良、圖畫鮮明ニシテ一個ノ良書ト思ハル評者ハ下卷ノ早ク出版ナリテ之ヲ一讀シ之ヲ植物學雜誌ノ讀者諸君ニ紹介スルノ愉快ヲ得ンヿヲ望ムナリ

(四) Zimmermann, Die botanische Mikrotechnik., 278 pp.

此書ハ植物細胞論ニ有名ナルチユービンゲン大學「ドッエント」「ドクトル」アー、チンメルマン氏ノ著ニシ

テ顯微鏡ヲ使用スルモノノ爲プレパラート製法、顯微鏡化學、プレパラート染色法等ヲ最近ノ學術ニ基キテ編纂シタル至極ノ良書ナリ此書ハ分テ三編トナシ第一編ニハ一般ノ方法（アルゲマイネ、メトヂック）ト題シ生活植物撿査法ヲ初トシ固定法、染色法、其他「ミクロトーム」術ニテ「パラフヰン」ヘ物体ヲ「インベッド」スル法、截面ヲガラス板ヘ固着スル法ヲ陳ベタリ第二編ニハ顯微鏡化學ト題シ無機化合物ヨリ初メ有機化合物ニ至リ數多ノ植物的物体ノ反應ヲ論ゼリ第三編ハ細胞膜、及ビ原形質ノ含有物、分異ノ研究法ト題シ氏ガ得意ノ細胞膜、細胞核、色素体ノ固定法、染色法等ヲ詳ニ論ジタリ殊ニ細胞膜、色素体等ニ詳ナリ附錄ニハバクテリアノ研究法トテ短キ章アリ苟クモ學術的植物學ニ從事スル人ハ何人ヲ論セズ此書ヲ坐右ニ欠クベカラズ評者ノ如キモ聊カ顯微鏡研究ニ從事スルモノナレバ常ニ之ヲ實驗室內ニテ使用シ固定法、染色法等ニ就キ既ニ此書ヨリ得タル利益ハ洪大ナリ

（以下次號）

○新著ノ「レフェラート」

Burthold Hansteen. Algeregioner og Algeformationer ved den norske vestkyst. (Separat-aftryx of nyt magazin for Naturvidenskaberne XXXII. 1892.)

此編（二十一頁、二個ノ海藻分布圖）ハ那威國西方海濱ノ海藻分布ヲ論ゼルモノニシテ緯度五十八度三十分ヨリ六十度三十分ニ渉レル間ノ部分ニ付テノ調査ナリ

著者ハシェルマン氏（Kjellman）ノ分割法ニ從ヒ海中深淺ノ度ニヨリ左ノ三層ヲ區別セリ

（第一）上層（Litoral regionen）即チ海面ヨリ一尋半ノ深サニ達スル迄（第二）中層（Sublitoral regionen）深サ二十尋ニ至ル（第三）下層（Elitoral regionen）深サ二十尋以下、以上ノ三層トモ各固有ナル海藻ノ種類

ヲ有スレモ海濱ノ地位ニヨリテ自ラ差違アリ即チ大洋ニ開向セル海濱ニ於テノ上層中ハ主トシテ紅藻(Rhodophyceen) 及ビ綠藻 (Chlorophyceen) ニ富ミ之ニ反シテ港灣等ニヨリ隱蔽セル部分ノ同層ニハ褐藻(Fucoideen) 多シ

右海濱ノ地位及ビ水中ノ深淺ニヨリテ其中ニ生スル海藻ノ種類ハ固ヨリ異ナレモ一定ノ地位ニアル一定ノ深サニテハ自ラ一定ノ種類ヲ有ス著者ハ此點ニ關シテ亦シエルマン氏ノ分割法ノ如ク之ヲ數多ノ部 (Formationer) ニ分チ左ノ如ク記載セリ

(甲) 大洋ニ開面セル海濱ニ於テ

(上) 上層

(一) Callithamnion-formationen 此部ハ海水ノ表面ニ接近セル部ニシテ層ノ厚サ僅カニ一尺ニ過キズ Callithamnion arbuscula (Dillw) Lyngb 固有ノ種類ナリ

(二) Ulraci formationen 此部ハ Ulraceen 及ビ cladophoraceer 繁生ス

(三) Broget-pelagiske-formationen 此部ハ層ノ厚サ四尺乃至六尺ニ至ル Ceraminum, Ptilota ノ諸屬及ビ Corallina officinalis, L. Cladostephus Spongiosus (Ligthf) Ag. ノ諸種蔓生ス此部ハシエルマン氏カ Bohu 海濱ニ於テ觀察シタル „Bunte Formation" トハ一致セス

(四) Gigartina formationen 此部ハ層ノ厚サ僅カ一尺ニシテ Gigartina mamillosa (Good et Wovdw) Y. G. Ag. 固有ノ種ナリ

(五) Nemaleon formationen 此部ハ シエルマン氏ノ Nemaleon-formation ト同一致ノモノナリ

（六） Himanthalia-formationen此部ハ已ニ中層ニ接觸セル所ニテ固有ノ種類ハ Himanthalia lorea (L.) Lyngb. ナリ

（中） 中層

（七） Alaria-formationen 此部ノ厚サ僅ニ二尺 Alaria esculenta (L.) Grer. 固有ノ種ナリ

（八） Laminaria-formationen 此部ハ深サ十五尋ニ達ス固有ノ種ハ Laminaria clustoni Le jol. L. digitata (L.) Lamour. f. ensifolia Le gol. ナリ

以上ノ二層ハシエルマン氏ハ之ヲ „Laminarieen formation" ノ一部中ニ包括シタレ𪜈那威西方海濱ニ於テハ之ヲ前兩部ニ判然區別シ得ルナリ

（乙） 港灣等ニヨリ隱蔽セル海濱ニ於テ

（上） 上層

（一） Pelretia-formationen. Pelretia canaliculata (Desne.) Thar. 固有ノ種ナリ

（二） Ascophyllum-Fucus-formationen. Ascophyllum 及ビ Pucus ノ二屬固有ナリ

（三） Fucusseratus-Formationen. Fucus serratus 尤モ多シ

以上ノ三部ハシエルマン氏ノ „Fuceen formation" ヲ區別セルモノナリ

（中） 中層

（四） Halidrys-formationen 深サ三尋ニ及ブ Halidrys siliquosa (L.) Lyngb. 固有ノ種ナリ

（五） Chorda-formationen 深サ六尋ニ達ス chorda filum (Stackh.) Lamour. 固有ノ種ナリ

（六） Unbestemte formation.（不分明部）前記ノ深サヨリシテ乃至二十尋ニ達ス此ノ部ニハ數多ノ種類雜生シ紅藻、褐藻ノ二族モ全ク一樣ニ多シ

以上ハ一般分布ノ狀態ナレ𪜈又處々ニヨリテ例外アリ著者ハ此等ノ特例ニ就テ辨明セリ

在獨逸　三好學

◎批評

○新版植物學教科書批評

ふ、け、

理學士白井光太郎氏著（中等）植物學教科書ハ去ル三月二十一日又其續編ハ五月二十日發行サレタリ正編二百二十六頁續編二百三十二頁書中說ク處ハ在來ノ邦語植物學教科書中最詳シク處々高尙ナル學理ヲモ記述セリ殊ニ續編中功用編ノ如キハ其詳細ナルヿ該書ノ右ニ用ヅルモノナカラン之レヲ教科書トナサンヨリモ寧ロ教員參考書トシテ良書ト謂ツベシ此學ニ志スモノ及教員タルモノ一本ヲ座右ニ置カバ益スルトコロ尠ナカラザルベシ定價ハ正編續編何レモ六十錢ナリ尙其詳細ハ追テ評スルヿアラン

◎質問應答

長野菊次郎氏ヨリ質問ノ答ハ左ノ通リ

「タウイチゴ」ハ Rubus trifidus, Thunb.「ヒメカヽラ」ハ「サルマメ」ニ同シ「コハマアカザ」ハ Atriplex「ネコノチヽ」ハ Microrhamnus franguloides, Max.「ナツヽタ」ハ Vitis inconstans, Miq.「サヽバモ」ハ Potamogeton micronatus, Presl.「アカバイナモリサウ」Ophiorrhiza japonica, Blume.

オ、サ、

地學雜誌

第五集
第五十三卷

五月廿五日發兌　定價一部金拾錢

◎論說

●高岳親王羅越國墳墓考　理學博士　北澤正誠
●槻木鑛山概査　理學博士　互智部忠承
●荒川銅山ノ鑛石ニ就テ　理學士　三浦宗二郎
●地理學修業ノ一新案　ガーツェン、ミュラー著　理學士　神保小虎譯

◎雜錄

●土佐國四大地震記　寺石正路
●墨西哥國ノ鑛山事業
●農業ト製鐵（前號ノ續キ）　農學士　東條平二郎
●大洋ノ温度（圖入）　理科大學　比企忠
●地學通論（第四十八卷ノ續キ）（圖入）　岐陽學士

◎寄書

●坑ノ次第ニ付キ震災豫防取調委員ノ答辯ヲ讀ム　理學博士　原田豐吉

◎雜報

地學協會ノ演說●ヒマラヤ山下ノ納涼地（圖入）●浮島洋中ニ漂フ●ニューヨーク及ビブルークリン間ノ大隧道●マンモス象ノ死体再ビ發見セラル●英佛間ノ大鐵橋●女護島ヲ發見ス●白頭山頂ノ火口湖●暹羅ト佛國●海外地變●吾妻山●西伯利鐵道會議ノ決議

◎質疑二件

發行所　地學協會事務所
東京々橋區西紺屋町十九番地

一本誌廣告料五號文字一行（二十五字詰）一回金五錢三回以上割引仕候
○本誌毎月一回發兌一册金拾二錢○六册前金七十二錢
○拾二册前金壹圓四拾四錢○會員ニ限リ壹册拾錢

○配達概則

第一條　代價收受セザル內ハ縱令御注文アルモ遞送セス○第二條　前金ノ盡ル時ハ改テ御請求仕ル故次號發兌迄ニ御送金ナキ方ハ御送附相成マテ雜誌ヲ郵送セス○第三條　郵便切手ヲ以テ代價ト換用ハ謝絶ス○第四條　特ニ一册限御入用ノ向ハ一錢切手十二枚御送致ナレハ御屆可申候

明治廿六年六月七日印刷
明治廿六年六月十日發行

版權所有

東京府平民
編輯兼發行者　井上蘇吉
東京市神田區錦町三丁目一番地

滋賀縣士族
印刷者　熊田宣遜
東京市神田區錦町三丁目廿五番地

印刷所　熊田活版所
東京市神田區錦町三丁目廿五番地

發行所　植物學雜誌編輯所
東京市神田區裏神保町一番地

賣捌所　敬業社
同所

同　丸善書店
東京日本橋區通三丁目

314179

THE
BOTANICAL MAGAZINE.

Vol. 7.] June 10, 1893. [No. 76.

CONTENTS.

Eria luchuensis, nov. sp. By R. Yatabe. Sc. D. 131
Notes on Japanese Plants. By T. Makino. 133
Plants Employed in Medicine in the Japanese Pharmacopæia. By K. Sawada. 136
An Enumeration of Japanese Vitaceæ. By J. Matsumura. 139
A Glance at the Flora of Mimasaka. By B. Yasui. 146
Diseases of Japanese Agricultural Plants. By S. Hori. 151
Lespedeza stricta and its variety. By T. Makino. 155
Miscellaneous:— 156

New Names of Plants.—Proptoplasm and Irritability.—Japanese Dianthus.—Production of Volatile Oils and their Situations.—Bacteria.—Personal Report.—New Literatures.

Appendix:— 53

Analytical Key to the Phanerogamous Plants.

All letters and communications to be addressed to the editor of the

TŌKYŌ BOTANICAL MAGAZINE,

No. 1. Urajimbōchō, Kanda, Tōkyō, Japan.

第七卷　第七拾七號
77
明治二十六年七月十日

植物學雜誌

目録

シロバナエンレイサウ　理學博士　矢田部良吉（一七五丁）
美作植物一班（前號ノ續キ）　安井伴市（一七七丁）
日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）　澤田駒次郎（一八〇丁）
日光山植物雜記　安井伴市（一八五丁）
◎雜録　（一八九丁）
○原形質及ヒ感應性○葡萄ノ卷鬚○いしもちさう○植物体中ニ含有スル石鹼素ニ就テ○バクテリアの說○唐崎ノ松○昨年中出版外國植物書數篇ニ就キ○質問應答數件
◎附録
○顯花植物分科檢索表　池野成一郎（六一丁）

植物學雜誌編輯所

動物學雜誌

第五十六號
明治廿六年六月十五日發行

一册金拾錢郵稅金一錢●六册前金六十六錢（郵稅共）

●目　錄

○とりがい（Cardium Japonicum）ノ眼（九一頁ノ續キ）　岸上鎌吉君
○五大人種ノ命名者タルぶるーめんばつはノ人類論（承前）　坪井正五郎君
○昆蟲ノ話（八）　石川千代松君
○動物防禦攻擊之手段（承前）　箕作佳吉君
○あさり介殼ノ班紋ニ就テ　池田作次郎君
○河豚之毒　高橋順太郎君
○對島採集日記（承前）　波江元吉君
◎寄書
○蝨節害蟲ノ發生　土田兎四造君
◎雜錄　K. F. 生
●雌雄陶汰●ギフテフの變種?●ギフテフの新產地●岐阜產サクラバエ●一種のトタテグモ●廢物利用●トタテグモ發見の再報●岐阜のさくらばへニ就て●シユレーゲル氏の Heptatrema Cirrhatum●雨蛤に似て非ナルモノ●Dermestes 屬の雌雄の標徵●東京動物學會例會

發賣所　東京市神田區裏神保町一番地　敬業社

新刊書籍發賣廣告

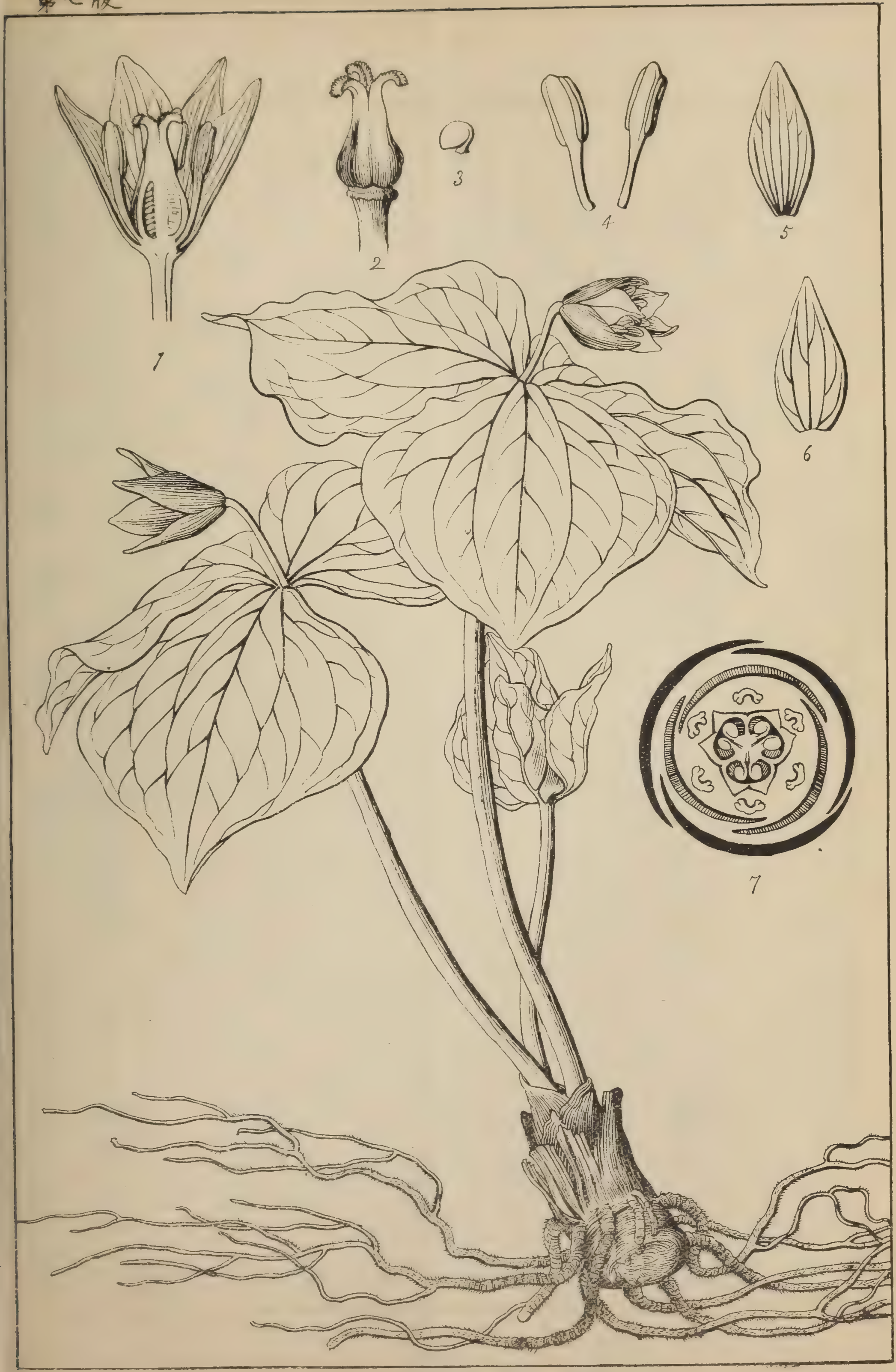
大學教授ドクトル理學博士石川千代松先生著

動物學教科書

洋装背革上製本上下全二册●挿圖二百數十個入●上卷定價金六拾五錢郵稅不要（下卷七月十日發賣）

本書は**博士**が**特別**の**新案**により講述せられたる者にして始めに**普通**の**動物**を掲げ其形態生理發生等の事實を簡明に説述し逐次他動物に及ぼし**歸納的**に動物學の眞意を知らしめんを勤められたるものなれば書中に挿入する圖書の如きも重に**本邦**に**產**する動物により博士の**精密**に寫生せられたるものなれば讀者は容易に實物と對照し得べきなり尋常師範學校尋常中學校敎科用書として極て適當なる**新式**の良書と云ふべし

發兌元　東京神田裏神保町　富山房書店



TRILLIUM TSCHONOSKII, MAXIM.
SHIROBANA-ENREISŌ. シロバナエンレイサウ.

植物學雜誌第七卷第七十七號 （明治二十六年七月十日）

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. VII. July 10, 1893. No. 77.]

New or Little Known Plants of Japan.

No. 35.

Ryōkichi Yatabe, Sc. D.

Trillium Tschonoskii, Maxim.

Nom. jap. Shirobana-enreisō. シロバナエンレイサウ.

(Order Liliaceæ.)

Plate VII.

Trillium Tschonoskii, Maximowicz, in Mél. Biol., vol. xi., p. 863.—Miyabe, Fl. Kurile Islands, in Mem. Bost. Soc. Nat. Hist., vol iv., p. 266.

A smooth perennial herb. Rhizome short, erect, præmorse. Stems simple, erect, 1—3 from the same rhizome, enclosed at the base by a few scarious sheaths, $\frac{1}{2}$—$1\frac{1}{2}$ feet high. Leaves 3. verticillately terminal, rhomboidal-rotund, suddenly acuminate at the apex, shortly attenuated at the base, 3—nerved and reticulately veined, usually 2—4 inches long and as much broad. Peduncle solitary, from the apex of the stem, $\frac{1}{2}$—1 inch long. Perianth persistent; its segments 6, in 2 series, distinct, subpatent; the outer 3 herbaceous, 3-nerved, ovate or ovate-lanceolate, acutish at the apex, imbricate in bud, 8 lines long, 3—4 lines broad; the inner 3 petaloid, white, 7—nerved, nearly the same as the outer in size and shape but narrower towards the base, convolute in bud (in the specimens examined). Stamens 6, shorter than the perianth-segments; filaments linear, thickened towards the apex, 3 lines long; anthers 2—celled, 3 lines long, the cells attached to the sides of a broad connective, linear and laterally dehiscing. Ovary ovoid, hexagonal, with prominent angles, 3-celled, greenish, about 3 lines long; styles 3, recurved, channelled and stigmatose on the inner side. Ovules numerous, in 2 series in each cell, attached to axile placentæ, anatropous.—Fl. April—June.

This plant grows in shady places in the mountains of the central and northern Japan and also in Yezo. My specimens are from Nikkō and Chichibu.

This species is distinguished from *Trillium kamschaticum*, Pall. (*T. obovatum*, Maxim., *T. erectum*, var. *japonicum* et *album*, A. Gray) by its ovary being greenish throughout and its filaments being as long as the anthers. The ovary of *T. kamschaticum* is dark purple at the apex, and the anthers are much longer than the very short filaments. (Maximowicz, Mél. Biol., vol. xi., p. 861; Miyabe, Fl. Kur. Isl., p. 267.)

Plate VII. Fig. 1, vertical section of flower; 2, pistil; 3, ovule; 4, back and front views of stamen; 5, inner perianth-segment; 6, outer perianth-segment; 7, floral diagram:—*all enlarged.*

美作植物一班 （前號ノ續キ）

理科大學　安井伴市

Apocynaceæ	夾竹桃科	
Trachelospermum jasminoides, Benth. et Hook.	テイカヽヅラ	新庄村
Boragineæ	紫草科	
Omphalodes japonica, Maxim.	ヤマルリサウ	神代村
Eritrichium brevipes, Maxim.	ミヅタビラコ	仝
,, peduncularé, A. DC.	タビラコ	美甘村
Convolvulaceæ	旋花科	
Convolvulus japonicus, Thunb.	ヒルガホ	神代村

	Labiatæ.	唇形科	
Calamintha gracilis, Benth.		タフバナ	仝
,, chinensis, Benth.		クルマバナ	落合村
Nepeta Glechoma, Benth.		カキドホシ	仝
Prunella vulgaris, L.		ウツボグサ	神代村
Lamium album, L.		オドリコサウ	美甘村
	Plantagineæ.	車前科	
Plantago asiatica, L.		オホバコ	仝
	Polygonaceæ.	蓼科	
Polygonum Blumei, Meisn.		イヌタデ	神代村
Rumex japonicus, Meisn.		ギシギシ	落合村
	Elægnaceæ	胡頽子科	
Elæagnus umbellata, Thunb.		アキグミ	神代村
	Urticaceæ.	蕁麻科	
Urtica dioica, L. var. angustifolia, Ledeb.		ホソバイラクサ	神代村
Bœhmeria longispica, Steud.		ヤブマチ	四十曲
,, spicata, Thunb.		コアカソ	神代村

	Cupuliferæ.	殼斗科	
Quercus glandulifera, Blume.		コナラ	仝
	Coniferæ.	松栢科	
Thuya squarrosa, Sieb. et Zucc.		ヒムロ	仝
	Orchideæ.	蘭科	
Spiranthes australis, Lindl.		ネヂバナ	落合村
	Liliaceæ.	百合科	
Smilax China, L.		サルトリイバラ	四十曲
Hemerocallis flava, L.		ワスレグサ	神代村
Tricyrtis japonica, Miq.		ホトヽギス	仝
	Commelinaceæ.	鴨跖草科	
Commelina communis, L.		ツユグサ	美甘村
	Juncaceæ.	燈心草科	
Juncus sp.		イトヰ	神代村
	Cyperaceæ.	莎草科	
Heleocharis japonica, Miq.		ハリヰ	新庄村
Fimbristylis squarrosa, Vahl.		アゼテンツキ	落合村

Gramineæ.	禾本科	
Panicum crus-galli, L.	ノビエ	美甘村
Setaria viridis, Beauv.	エノコログサ	仝
Phleum japonicum, Fr. et Sav.	アハガヘリ	新庄村
Trisetum cernnum, Trin.	カニツリグサ	落合村
Eragrostis pilosa, Beauv.	ニハホコリ	四十曲
Poa annua, L.	イチゴツナギ	美甘村
Festuca remotiflora, Steud.	キツネカヤ	神代村
Brachypodium japonicum, Miq.	ナツノチヤヒキグサ	新庄村
Filices.	羊齒科	
Davallia hirsuta, Sw.	イヌシダ	神代村
Aspidium falcatum, Sw.	ヤブソテツ	仝

日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）

澤田駒次郎

成分　流動蘇合香ノ主成分ハ「スチロール」「スチラチン」及ヒ樹脂トス故ニ之ヲ一種ノ拔爾撒謨トセリ

「スチロール」(Styrol) ハ無色揮發性ノ液ニシテ比重ハ〇。九四二大約華氏二百九十五度ノ熱ニ於テ沸騰ス而シテ流動蘇合香ノ芳香及ヒ稍々苛辣ノ味ヲ有スルハ此「スチロール」ヲ含有スルニ因レリ

本品ハ流動蘇合香ノ最モ緊要ナル成分トス

本品ハ流動蘇合香ヲ水ト共ニ蒸餾シ得タルモノニシテ格羅謨酸ニ因テ安息香酸藏化水素及ビ苦扁桃油ヲ生ズ」

「スチラチン」即チ桂枝酸チンナミール、エステル」(Styracin or Cinnamylic Cinnamate) ハ通常羽狀ノ結晶ヲ爲スト雖モ亦間々不結晶性ノ液体ヲ爲スモノアリ濃稠剝篤斯ニ因テ桂枝酸「エステル」及ヒ「スチロネ」即チ「シンニール」亞爾箇保爾 (Styrone or Cinnylic alcohol) ヲ生ズ

本品ハ水ニハ溶解セズ依的兒ニハ溶解シ酒精ニハ多少溶解ス而シテ純粹ナルモノハ無味無臭ニシテ桂枝酸ヲ有スルコト六乃至十二「ペルセント」トス又 Lowe 氏ノ說ニ據レバ二十三「ペルセント」ヲノ桂枝酸含有スト

桂枝酸ハ無臭ニシテ苛辣性ノ味ヲ有シ酒精依的兒、沸湯ニハ容易ク溶解シ冷水ニハ僅カニ溶解ス

本品ハ華氏二百六十四度ノ熱ニ因テ熔融ス

樹脂ノ性狀及ビ其含量ハ未ダ詳カナラズ Laubenheimer 氏ノ說ニ據レバ Benzylic alcohol モ亦流動蘇合香ノ一成分トス生藥學ニ云蘇合香ハ水（十乃至二十「ペルセント」ヲ含有ス）及ヒ少量ノ「カウトシユーク」(Kautschuk)（十三乃至十八「ペセント」ヲ含有ス）ヲ除クノ外主トシテ種々ノ芳香性亞爾箇保爾ノ桂皮酸「エステル」ヨリ成ル現今ニ至ル迄本生藥中ニ左ノ諸質ヲ檢出セリ

（一）「スチラチン」(Styracin) 即チ桂枝酸チンナミール、エステル」(Cinnamyl cinnamat $C_9H_7O_2-C_9H_{11}$) 上記ノ羽狀結晶ヲナス者是ナリ（二）「ストレシン」(Storesin $C_{36}H_{55}(OH)_3$ ナル亞爾箇保爾、一部分ハ桂枝酸ノ「エステル」一部分ハ遊離ノ狀ヲナシテ存在ス（三）遊離桂枝酸 (Zimmt-säure $C_9H_8O_2$) 蘇合香ヲ永ク保貯スルノ際前條ニ述ブル板狀或ハ桂狀ノ結晶ヲナシテ析出スルモノハ桂枝酸ニ外ナラズ蘇合香ニ那篤倫滷

液（比重一、〇五）ヲ加ヘテ煮沸スル𪜈ハ啻ニ其遊離ノ狀ヲナセル桂枝酸ノミナラス又其「エステル」トナリテ存在スルモノヲモ溶出スルヿヲ得而シテ其煮沸液ニ鹽酸ヲ加ヘテ得ル所ノ桂枝酸ノ全量ハ二十「ペルセント」ニ超ユルコトアリ此桂枝酸ハ少量ノ安息香酸ヲ混有ス斯ノ如ク多量ノ桂枝酸ヲ製出スルヲ得ヘキ物質ハ未ダ曾テ他ニ見サル所ナリ、（四）少量（一三「ペルセント」）ノ「スチロール」（Styrol）「スチロール」ハ即チ「フエニール」化「エチーレル」（$CH_2=CH-C_6H_5$）ニシテ無色芳香ノ液ヲナシ百四十六度ノ熱ニ於テ沸騰ス但シ間〻之ヲ欠如スルコトアリ

蘇合香中ニ含メル「エステル」類、亞爾箇保爾類及酸類ハ總テ酒精ニ溶解スルモノナリ故ニ其酒精ニ溶解スル成分ノ量ヲ測定スルニ由リ本生藥ノ品質ノ精粗ヲ判知スルヿヲ得即チ本品十分ニ等分ノ酒精（比重〇、八三）ヲ加ヘテ溫浸シ冷後濾過シ蒸發シテ得タル殘渣ノ量ハ正當ノ品ニ在テハ少ナクモ七分ナルヲ要ス而シテ其殘渣ハ褐色半流動体ヲナシ依的兒及ヒ硫化炭素ニハ殆ント全ク溶解シ石油依的兒ニハ溶解ス可カラス」トアリ

醫治効用　流動蘇合香ハ百露拔爾撒謨、篤留拔爾撒謨安息香ノ如ク衝動性祛痰藥トセリ然レトモ現今複方安息香丁幾ノ成分トシテ用フルノ佗之レヲ用フル者少レナリ〇此ノ藥ハ曼性氣管枝炎ニ用ヒテ効驗アリ或ハ實布底里亞ノ特効藥トシ又淋疾白帶下ニ骨湃波拔爾撒謨ニ代用ス〇流動蘇合香ハ近來阿利布油或ハ亞麻仁油ト混和シ疥癬ニ外敷ス又同量ノ煮熟シタル卵黃及ヒ偏里設林ト混和シテ軟膏ヲ製シ小兒ノ疥癬ニ外敷ス

上記ノ流動蘇合香ノ佗ニ各種類アリト雖モ現今歐羅巴ヘ輸入セズ東洋諸國ニテハ猶ホ之ヲ用フト此等ノ種

類中注意スベキモノハStyrax Calamitaニシテ其純粹ナルモノハ流動蘇合香ト「リコヒダルベル」樹皮殘渣ノ混淆物ニシテ此樹皮ヲCortex Thymiamatisト稱シ粗糙ナル粉末ヲ爲ス而シテ此粉末ノ欠乏スル時ハ尋常ノ鋸屑ヲ以テ之ニ代用ス此種ノ蘇合香ハ主トシテトリステー（Triste）ニ於テ製造スト雖𪜈ウエニース(Venice)及ヒマルセー（Marseilles）ヨリモ亦製出ス

本品ハ大ナル圓柱形ノ塊ヲ爲シ赤褐色ヲ呈シ樹脂ヲ含ミ之ニ觸ルヽトキハ稍々柔軟ナリト雖𪜈其質脆ク破碎シ易シ故ニ之ヲ粗末ト爲スコト容易ナリ又本品ヲ暫時大氣中ニ曝露スレバ其表面ニ白粉ヲ生ス此レ「スチラチン」ノ結晶ニシテ絹糸狀ヲ爲スモノトス

本品ハ木製ノ器ニ納メテ輸出ス

四十　テウシノキ

羅甸名　Eugenia Caryophyllata, Thenb.

Syn. Caryophyllus aromaticus, Linn.

桃金孃科

印度諸島等ニ自生スル美麗ナル常綠樹ニシテ高サ三十尺乃至四十尺纖小ナル枝杪ヲ橫張シテ緻密ナル圓錐形ヲ爲シ皮部ハ平滑ニシテ暗黃灰色ヲ呈シ嫩芽ハ軟毛ヲ帶フ葉ハ對生ニシテ密生シ形チ卵圓長サ二寸餘乃至四寸餘其柄長サ二分餘乃至八分餘先頂銳尖底部葉柄ニ沿フテ狹隘ト爲リ平緣ニシテ其質厚ク表裏兩面平滑細小ナル腺點ヲ散布シ表面濃綠色ニシテ頗ル光輝アリ裏面ハ其色稍々稀薄ニシテ主脉及ヒ側脉ハ隆起ス花ハ矮短ナル枝杪ノ頂端ニ生シ三個宛短花梗ニ因テ結合シ細小ナル擬繖形花ヲ綴ル抱花小葉ハ細小ニシテ直チニ脫落

ス蕚ハ管狀ニシテ稍々方形ヲ爲シ肉質硬固其上部ハ四個ニ缺刻シ其截片三角形ヲナシ其內面微ニ凹陷シ蕚ノ長サ四分餘腺點ヲ散布シ其表面粗糙ノ觀ヲ呈シ初メ白色ニシテ後チ綠色ト爲リ終ニ深紅色ニ變ス花瓣四片白色球形其幅二分餘油腺ヲ箝在シテ類黃色ヲ呈シ其內面凹陷シ蕚ノ缺刻ニ對シテ屋瓦狀ニ排列シ蕚ニ因テ圍擁セラレ小球形ノ花帽ヲ爲シ開花ノ後直チニ脫落ス雄蘂數多突起シタル花盤ノ外面ヨリ生ジ數行ニ排置シ花絲ハ花瓣ト殆ンド其長サヲ均フシ葯ハ細小球形ニシテ可動性ニ附着シ縱線ニ因テ破綻シテ花粉ヲ吐出ス實礎ハ下立性ニシテ其上部ニ二房ヲ有シ數多ノ卵子アッテ中軸性胎盤ニ附着ス而シテ實礎ノ外部ハ肉質管狀ノ蕚ニ因テ被覆セラレ花柱ハ雄蘂ヨリ稍々短小ニシテ其上部更ニ纖小ナリ果實ハ長倒卵形ニシテ長サ八分五厘許其頂端蕚ノ截片及ヒ花柱殘存シテ花帽ヲ爲シ平滑ニシテ紫色ヲ呈ス子殼ハ厚サ大約一分餘種子一個（他ハ發育セス）肥大ニシテ果房中ニ充盈ス種子膜ハ菲薄ニシテ胚子ハ直立シ子葉ハ肉質肥大ニシテ間々均等ナラザルモノアリ根芽ハ圓柱形ヲ爲シ子葉ニ因テ被覆セラレ蛋白質ヲ有セス

本植物ハ印度摩鹿加島及ビフヰリッピーネン島ノ南部ニ產シ從前ハ此等ノ諸島ヨリ產出セシニ止リシカ現今フヰリッピーネン島ノ南部ニ位スル諸島亞弗利加東岸ノ諸島、南米熱帶ノ諸地ニ移植セリ目下歐羅巴ヘ輸入スル丁香ハ亞弗利加東岸ザンヂバール及ビペンバヨリス又印度アンボイナ及ビ其近傍ノ諸地ヨリモ亦產出スト雖モ其量多カラズ又往時ハ佛領レニヲンヨリ產出スト雖モ現今ハ產出セス又新危尼及ビ其近傍ノ諸島ニハ往時自生アリト雖モ猥ニ之ヲ伐截セシニ因リ現今絕滅ニ歸シ該樹ノ隻影ヲモ見ルコト無シト云フ又和蘭領アンボイナ及ヒ其近傍ノ諸島ニテハ第十六世ノ初期ニ於テ已ニ之ガ栽培ニ從事シ現今大ニ培養ス又蘇門答臘、麻剌甲等ニ移植セシハ一千七百九十八年ニシテ Christophor Smith 氏之ヲ栽植スト又マリチウス及ボルボン諸

島ニ移植セシハ一千七百七十年ナリトス又 Joseph Banks 氏ハ一千七百九十七年ニ於テ英國キユ植物園ニ移植スト云フ

本植物ハ從來 Caryophyllus ナル屬名ヲ用ヒ來リシト雖𪜈近來專ラ Eugenia ナル屬名ヲ用フルニ至レリ然レ𪜈他ノ Eugenia 種類ト異ナル點ハ管狀ナル萼ノ下部著シク硬固ト爲リ稍々莖狀ヲ爲スニ在リトス

（以下次號）

日光山植物雜記

明治二十六年六月二十一日理學博士松村先生官命ヲ帶ビテ日光山植物取調ノ行アリ余私カニ先生ノ驥尾ニ附シ當地ニ來遊ス左ニ揭クル植物ハ余ガ鉢石ヨリ中禪寺ニ至ルノ間行々花實アルモノノミヲ撰ミ採摘スルニ從テ錄セルモノナルガ故ニ精細ノ分科ヲ爲サズ啻草本ト木本トニ大別スルノミ若シ此時期ニ當リテ此地ニ採集セントスル人ノ一助トモナラバ余カ幸何ンゾ是レニ如カン余素ヨリ淺學寡聞ナリト雖𪜈左ニ擧クル名稱ノ如キハ先生ニ就キテ親シク聞知スル所ナレハ誤謬鮮ナシト信ズ

日光中禪寺和泉屋樓上洋燈ノ下ニテ

明治二十六年六月二十二日　安井伴市誌

○木本部

一ニシキウツギ（花冠ハ始メ白色ニシテ後チ紅色ニ變ズ）

一ウコンウツギ（仝上ノ一種ニシテ花冠ハ始メ淡黃色ニシテ後チ紅色ニ變ズ）

一ズミ（白花ヲ開ク五瓣其形楕圓ニ〆此頃盛ニ開ク）

一アヲダコ　一名「コバノトネリコ」（白色ノ四瓣甚タ細長ニシテ二雄蕊アリ馬返以下ニアツテハ花既ニ過キタレ𪜈其以上ニアツテハ開花ノモノ多キニ見ル）

一サツマウツギ　白色四瓣ノ大花ヲ開ク

一ミヤマガマズミ　小白花ヲ開ク葉ニ光澤アリ馬返中禪寺邊ニ產ス

一カンボク　馬返中禪寺邊ニ開花ノモノヲ目擊ス

一アキグミ　馬返中禪寺邊ニアリテ盛ニ開花ス

一エゴノキ　鉢石ニ盛ニ花アリ

一アサガラ　鉢石含滿邊ニアリ花盛ナリ

一オホバノズミ　花ハ尋常ノ「ズミ」ヨリ大ニシテ中禪寺ニアリ白花ヲ開ク

一ウコギ　含滿邊ニアリ

ツクバネウツギ　花冠ハ紅色ニシテ四雄蕊ヲ有シ內面ニ毛アリ尋常ノ「ツクバネウツギ」ニ異ナリ故ニ「ベニバナノツクバネウツギ」ノ新稱ヲ下スヘシ

一ツリバナ　中禪寺邊ニ花ヲ開ク暗紫色ナリ

一ギンラン　馬返邊ニ花アレ𪜈僅カニ一株ヲ見タリ

一ガウソ　鉢石ノ水邊ニ產ス

一ヤウラクツヽジ（一名サラサドウダン）　花ハ鐘狀ニシテ淡黃質ニ紅條アリ馬返以上ニ尤モ多シ

一ムメモドキ　鉢石馬返邊ニ開花スルモノアリ

一ノイバラ　鉢石含滿邊ニ尤モ多シ

一サハシバ　枝末ニ實アリ其狀提燈ヲ懸垂セルカ如シ

一コヾメウツギ　隨所ニ開花スルモノヲ目擊ス

一ヒメウツギ　花盛ニシテ馬返邊ニ尤モ多シ

一アブラツヽジ　花ハ小壺狀淡綠黃色ニシテ總狀ニ下垂ス木容略ホ「ドウダン」ニ似タリ

一ヤマボウシ　四瓣ノ苞白色ニシテ美觀ヲ呈ス

一サハフタギ　白色ノ小花ヲ開ク

一ゴエフツヽジ　日光方言「シロヤシウ」葉ハ五個枝末ニ攢簇シ白色ノ躑躅花ヲ開ク

一ミツバツヽジ　枝末ニ大ナル三葉簇生シ紫紅色ノ花ヲ開ク既ニ其盛ヲ過ク

一アカヤシホツヽジ　葉ハ尋常ノ躑躅ヨリモ大クシテ枝末ニ四五葉叢生ス中禪寺邊ニ尤モ多シ樹高サ六七尺ニ及ブ

一ミヤマザクラ　白花ヲ開ク花梗ノ基底ニ大ナル綠苞ヲ有スルヲ以テ著シ中禪寺ニ大樹アリ其枝ハ略ホ櫻ニ彷彿タリ余攀上シテ其小枝ヲ採折ス時ニ落花セル狀恰モ雪ノ如シ

一コマユミ　中禪寺ニ花アリ

一ミヤマナルコスゲ　馬返邊ノ岩石ノ上ニ生ズ

一タニスゲ　中禪寺ニアリ

一キリ　栽培スルモノ鉢石ニアレ𪜈落花スルモノ多シ

一クマヤナギ　含滿邊ニ實アリ紅色ヲ帶ブ

一ヤブデマリ　含滿邊ニアリテ花盛ナリ

一ツルウメモドキ　含滿邊ニ開花ス花綠色ニシテ美觀ヲ呈セズ

○草本部

一シロバナノヘビイチゴ　三出葉ニシテ白花ヲ開ク中禪寺邊ニ尤モ多シ

一タガツデサウ　白花ヲ開ク「オホヤマフスマ」ニ似テ大ナリ馬返中禪寺邊ニアリ

一オホヤマフスマ　「タガソデサウ」ニ似テ小ナリ只雄蕋ノ短キヲ以テ前者ト區別ス、花三柱アリ中禪寺邊ニ多シ

一クハガタサウ　花ハ「イヌフグリ」ニ似テ大キク淡紅色ヲ帶ブルヲ以テ頗ル美ナリ

一ミヤマカラマツ　花未ダ充分ニ開カズ

一マヒヅルサウ　小草ニシテ葉ハ圓ク白花ヲ開ク中禪寺邊ニアリ

一ユキザヽ　葉ハ「アマドコロ」ニ似花ハ「マヒヅルサウ」ニ類似ス

一ワニグチサウ　花滿開セズ「アマドコロ」ニ伯仲シテ花ノ基底ニ苞アリ

一ムラサキケマン　此レハ東京近傍ニ多ク產スルモノナリ方今盛リニ花ヲ開ク

一スヾシロサウ　馬返ヨリ中禪寺ノ間ナル岩石ノ上ニ生シ白花ヲ開ク此レ未ダ先生ノ日光植物錄中ニ見サルモノ

一ユキノシタ　鉢石邊ニ尤モ多シ

一コンロンサウ　中禪寺邊ニ多クシテ複葉ハ尖銳ニシテ鋸齒アル小葉ヨリ成ル白花ヲ開ク

一ムメバチモ　葉ハ細裂シテ水中ニ沈ミ略ホ梅花ニ似テ小白花ヲ水面ニ浮フ含滿邊ノ淸水ノ中ニ產ス又流水ノ中ニモアリ

一カザグルマ　含滿邊ニ自生シ花頗ル大ニシテ白色ノ八九瓣ヨリ成ル

一クリンサウ　元ト湯本ノ湯瀧邊ニ產スルモノ諸所人家ニ移植ス花ハ紅色ニシテ頗ル美ヲ呈ス方言「クルマバナ」ト云フ

一イハエビネ　「キヂムシロ」ノ屬、葉ハ三出ニシテ尖銳岩石上ニ生ズ鉢石邊ニモアリ

一ハルカラマツ　中禪寺邊ニモ尤モ多シ花蓋五片ニシテ淡黃綠色ニテ小ナリ雄蕋三十個計リ雌蕋九個アリ花蓋ハ早ク脫落ス

一セントウサウ　方今花アリ中禪寺邊ニ多シ

一ヒメヘビイチゴ　葉ハ三出ニシテ長ク蔓ヲ引キ小黃花ヲ開ク鉢石含滿邊ニアリ

一アツモリサウ　鉢石馬返等諸所ノ人家ニ栽植ス此頃花盛ナリ

一ナヅナ　中禪寺ニアリ花ヲ開ク

一タカネサウ　中禪寺邊ニ多シ臺中葉尤モ廣キモノ

一スヾメノテツポウ　中禪寺邊ニ生ズ

一ヤマガラシ　「ハタサホ」ニ似テ黃花ヲ開ク

一ハタザホ　中禪寺邊ニ尤モ多シ是レ尋常品

一オトギリサウ　含滿邊ニ產ス

一ヤグルマサウ　馬返ヨリ中禪寺ニ至ル山腹ニアリ

一ナミキサウ　紫碧色ノ花ヲ開ク此レ先生植物錄中ニ漏タルモノ

一アブラシバ　馬返ノ砂地ニ多シ

一クリンユキフデ　中禪寺ニ花アリ

一サギゴケ　鉢石中禪寺ニアリ

一クサノワウ　鉢石邊ニ生ズ

一シモツケ　含滿邊ニ開花スルモノ少シ

一ヤマドリシタ　葉ハ「クサソテツ」ニ似テ「ゼンマイ」ノ如キ穗ヲ抽出ス華嚴瀧ニアリ

一アケピ　中禪寺ニ開花ス

一ヤマブキ　含滿邊ニアリテ一二花ヲ殘留ス

一ルイエフシヤウマ　中禪寺ニアリ白色ノ雄蕋ハ許多ナリ

一キツネノボタン　含滿ニ多シ

一ムシトリナデシコ　元ト西洋ノ產、含滿邊ニ自生ノ狀ヲ爲ス

一ノビル　含滿邊ニアリ此レ又先生ノ嘗テ記載セラレサルモノ

一ツルカコサウ　鉢石邊ニ生シテ花ハ紫碧色ヲ帶ブ此レ亦目錄中ニアラザルモノ

一ニガナ　鉢石ニ多シ

一フタリシヅカ　東京ニアリテハ既ニ實トナルモノ此地ニアリテハ花方今盛ナリ含滿邊ニ生ズ

一タチツボスミレ　中禪寺邊ニ花盛ナリ

一クハ　含滿邊ニ甚タ多シ既ニ實アリテ紅色ヲ呈ス

一ミゾホヽヅキ　鉢石含滿邊ニ開花ス

一コメガヤ　中禪寺邊ニ多シ穎ハ唯紫色ヲ帶ブ

一ミヽナグサ　鉢石、含滿、中禪寺ニ開花ス

一ムマノアシガタ　含滿邊ニ多シ五瓣ノ黃花ヲ開ク瓣面ニ光澤アリ

一ヤマヲタマキ　含滿馬返中禪寺邊ニアリ萼ハ暗紫色ニメ距ヲ有ス

一クサボケ　中禪寺ニアリ

一ヒレアザミ　中禪寺ニ生ス花未タ全ク開カズ是レ又目錄中ニ載セラレザルモノ

一スヾタケ　馬返ニアリ穎ハ暗紫色ニメ六雄蕊アリ

一ヤヘムグラ　馬返ニ多シ

一ハヽコクサ　鉢石邊ニアリ此レ先生ノ目錄中ニアラザルモノ

一ギシギシ　含滿邊ニアリ

一キランサウ　鉢石ニ生ス此レ目錄中ニアラザルモノ

一タンポヽ　鉢石中禪寺邊ニアリ

一ノアザミ　鉢石ニ生ス

一ツボスミレ　中禪寺邊ニアリ

一マヽコナ　文狹邊ニ開花スルモノ多シ

一テンナンシヨウ　中禪寺邊ニアリ佛焰ハ綠色ヲ帶ブ

一イブキヌカボ　中禪寺邊ニ多シ

一ホガヘリガヤ　中禪寺邊ニアリ綠色尖銳ノ穗花下ニ向フ

◎雜錄

○原形質及ビ感應性（結局）

池野成一郎

動植物ハ養分不足セザル間ハ其体ノ生活部ニ常ニ張力ヲ給與シテ止マズ而メ生物ガ其体ヲ成シ之ヲ保續スルニ必要ナル張力ハ之ヲ光線ヨリ得ルモノニシテ且光線ノ波動ヲ化シテ斯クノ如キ張力ニ爲スノ力アルモノハ唯緑色ナル植物アルノミ植物ハ其緑色ナル細胞内ニ於テ炭酸、水、及ヒ數種ノ鹽類ヨリ澱粉、砂糖、蛋白質及ビ脂肪ヲ造成ス而メ此等ノ物質タル實ニ力ノ源泉ニシテ其張力ハ後ニ開放セラレテ活力トナリ活働スルモノナリ蓋此等ノ物体ノ造成セラルヽヤコレ一種ノ還元作用ニシテ酸素多キ化合物ヲ酸素乏キ化合物ニ變ズルノ作用タリ炭酸百分中ニハ酸素七二、七アリ水百分中ニハ同ク酸素八八、八アリ然ルニ澱粉ニハ百分中唯四九ノ酸素アリ砂糖ニハ五三、三ノ酸素アルノミサレバ植物ガ此還元作用ヲ爲スニ當テハ常ニ多少ノ酸素ヲ大氣中ニ放出スルナリ扨又生物ガ行ヒタル還元作用ノ仕事ハ張力ト爲テ其作用ノ生産物内ニ貯蓄セラレ後ニ開放セラルヽニ當リテハ其仕事ノ量ニ相當セル有益ノ仕事ヲ行フベシ此事タル植物的物質例ヘバ木炭ヲ燃燒スル場合ヲ考フルモ明ナリ木炭ヲ燃燒スル場合ニ於テハ植物ガ行ヒタル還元的ノ仕事ハ元ニ復歸スルモノ𪜈云フベク即還元ニ因リ生ジタル物質ハ酸化シ其物質ガ以前因テ以テ生ジタル所ノ炭酸、水、及ビ鑛物鹽類ニ化スルナリ而メ木炭ニ貯蓄セラレタル張力ハ隨テ開放セラレテ或ハ熱トナリ或ハ器械ヲ運轉スルノ働力トナリテ吾人ノ用ヲ爲ス又植物ノ還元作用タル光線ノ充分赫々タルニ非ザレバ起ルヿナシコレ蓋還元作用ヲ行フノ力ハコレ大陽ノ給與スル所ナルガ故ナリ還元作用ノ行ハルヽ緑色粒ハ實ニ一個ノ小器械ニシテ光線之ヲ運轉セシメ而メ之ニ相當スル仕事ヲ爲スモノタリ其仕事ハ光線ノ強弱ニ比例シ光線強ケレバ其仕事愈大ナリ但光線ノ

度ノ一定ノ限界ヲ過グル場合ハ此限ニアラザルハ勿論ナリトス此等綠色ノ小器械ハ一定度ノ光線即其生ゼル場所ニ於ケル光線ノ平均ノ度ニ適應セルモノナルガ故ニ常ニ日陰ニ生育スル植物ハ常ニ光線內ニ生育スル植物ニ比スレバ其還元作用ヲ行フニハ低度ノ光線ヲ以テ足レリトスベシ日陰ノ植物ヲ直接ノ光線中ニ出セバ多クハ其体ニ紊亂ヲ惹起スルハ熱シ過ギタル蒸滊機關ニ於ケルガ如シ而メ此等ノ機關ニ於テ熱度ノ過ギタル場合ニハ安全鎖蓋アリ或ハ整正器アリテ此紊亂ヲ正スガ如ク植物ニモ一種ノ仕掛アリテ自ラ其綠色ナル器械ヲ光線外ニ出シ細胞膜ノ强ク照サルヽ部分ヲ强ク照サレザル方ニ誘クナリ

以上論ズルガ如ク植物ノ綠色ナル原形質粒即葉綠粒ハ大陽光線ノ活力ヲ用ヰテ以テ酸素ヲ炭素及ビ水素ヨリ分離スルノ仕事ヲ爲スナリ而メ其光線ハ還元ニ因テ生ジタル物体中ニ化學的ノ張力ト爲テ貯蓄セラルヽナリ吾人ガ石炭ノ如キ植物的ノ物質ヨリ來レル物ヲ燃燒スルハコレ大陽ノ力ヲ開放スルニ同クコレ太古此地球ヲ照シタル光線ノ今ニ至ル迄數百萬億年間地球ノ城塞內ニ幽閉セラレタルモノヲ開放スルニ過キザルナリ尤モ斯クノ如キ燃料ニハ植物ガ嘗テ行ヒタル仕事ハ悉皆少シモ殘サズ貯蓄セラルヽモノニハアラズ何トナレバ植物物質ハ土中ニアル間幾分カ徐々ニ酸化シ其還元的仕事ノ一部ヲ元ニ戻セバナリ植物的物質內ニ存スル炭素ノ一部ハ大氣ニ觸レザル時ハ其植物質內ニ含マルヽ酸素ト化合シテ炭酸ヲ形成シ又一部ハ水素ト化合シテ沼瓦斯ヲ成シ或ハ通常ノ水ヲ成スベシコレ石炭層ニ於テ石炭採堀者ノ尤モ恐ルヽ炭化水素及ビ炭酸ノ生ズル所以トス而シテ此等ノ作用アリテ後ニ殘留スル物質ハ割合ニ炭素ニ富ムハ明ナリ此作用愈々盛ナレバ殘留セル物質ハ愈水酸素ニ乏ク殘ル所ノ石炭ハ愈純粹ナリ石炭ノ純不純ハ蓋此作用ノ働ケル時間、壓力ノ大小隨テ起ル所ノ温度ノ高低ニ因テ異ルベシ泥炭、褐炭、石炭、無焰炭ハ石炭ノ不純ナルモノヨリ純ナルモノヲ順次ニ排

列シタルモノナリ木炭ノ目方百分中無焔炭ハ僅ニ目方十六分アルノミ余ノ特ニコレヲ云フモノハ理由ノ存スルアルナリ蓋人ノ往々唱フル所ニ因レバ石炭ヲ燃セバ植物ガ嘗テ爲シタル仕事ヲ測定スルヲ得ベシト然レ𪜈石炭ニハ嘗テ一タビ貯蓄セラレタル大陽エネルギーハ一半ト雖モ今ハ貯蓄セラレザルナリ蓋石炭ガ含メル炭素ノ量ハ之ヲ平均スレバ木炭ノ含メル量ニ比シ三分ノ二以上ニ至ルサレバ其物質ハ減ジテ元來ノ目方ノ四分一以下ニ至レルナリ

動物ニハ大陽ノ活力ヲ化學的ノ仕事ニ變ジ之ヲ利用シテ無機化合物ヨリ其体ノ養分ヲ造成スルノ器官ナシ故ニ動物ハ斯クノ如キ養分ヲ他ニ仰キ之ヲ自体内ニ於テ種々ニ變化スルナリ如何ナル動物タリ𪜈炭酸、水及ビ鹽類ヨリ澱粉、砂糖、脂肪及ビ蛋白質ヲ造成スルノ力ナケレバ總テ動物ハ其生命ヲ保續スルニハ植物ニ依ラザルベカラズ即植物ノ此世ニアルコトヲ必要トスルナリ

今此地球ヨリ植物界ト云フモノ全ク消滅シタリト假定セバ新ニ有機質ヲ造成スルヿ能ハズ隨テ動物ハ從來現存セル養分ニコレ依ルガ故ニ其極相互ニ呑噬シテ其生命ノ滅盡スルニ至テ止ムベシ

サレバ綠色ナル植物ノ部分ニ於ケル還元器械ハ總テ地球上ニ於ケル生命ノ源タリ

然ルニ近來ノ發見ニ因レバ或ル種類ノ無色ナルバクテリアニハ綠色ナル植物細胞ト同一ナル還元作用ヲ行フモノアリ此等ノバクテリアトハ即土壤中ノアンモニア及ビ其鹽類ヲ硝酸ニ化スル所ノモノナリ其研究者タルヰノグラスキー氏（Winogradsky）ハ此等ノバクテリアヲ「ニトロモナース」ト命名シタリ其說ニ因レバ此等ノ生物ハ炭素ノ無機化合物ヲ類化シテ有機化合物ト爲スノ力アリ而メ之ヲ爲スニ大陽光線ノ力ヲ要スルヿナク此還元作用ヲ行フ所ノ力ハ之ヲアンモニアヲ酸化スルニ因テ得ルト云フ又同氏ノ研究ニ係ル亞酸化鉄ヲ酸

化鉄ニ酸化セシムル鉄バクテリア或ハ酸化水素ヲ水ト硫酸トニ燃燒セシムル所ノ硫黄バクテリアニモ此力アリサレバ此等ノバクテリアタル全ク有機質ノ欠乏セル榮養液中ニ生育シ他ノ葉綠ナキ生物ヲ榮養スル能ハザル炭素化合物ニ炭素ヲ仰ギ而〆其生活ニ必用ナル力ハ皆之ヲ鑛物質ヲ燃燒シテ得ト云フ

此事實タル實ニ學理上面白キヿナリ何トナレバ地球上ニ顯ハレタル最始ノ生物ニ葉綠ノ如キ複雜ナルモノ備具セリ𪜈思ハレズ然レ𪜈生命アルニハ必ズ葉綠アルヲ必須トスル間ハ最始ノ生物ニモ葉綠アリト假定セザルヲ得ズ然ルニ今此研究ハ生活物質ハ唯綠色細胞ニ因テノミ仕事ヲ行フベキ大陽光線ノ外別ニ生活作用ヲ行フ爲ノ張力ノ源ヲ有スルヿ明ニセリサレバ大陽光線ヲ此仕事ニ用フルハ力ヲ得ル一種ノ方法ニシテ單獨ノ方法ニ非ズ他ニ力ノ源ナキニ非ザレ𪜈唯生活物質ニ葉綠ヲ生ジタル以上ハ大陽光線最モ有效ナル力源ト云フベキモノナレバ遂ニ力源ハ殆唯此一種ニ限ラルヽニ至リシナラン

以上説クガ如クバクテリアニハ大陽ノ光線ヲ假ラズ他ノ力源ヲ用ヰテ有機質ヲ造成スルモノアレ共其造成スル有機質ノ量タル勿論極テ微量ニシテ綠素ガ大陽光線ニヨリテ毎日毎時造成スル者ノ幾百萬億分一ダニモ及バズサレバ地球上ニ於ケル有機質ノ造成ハ悉皆綠素ノ造成スル所ト云テモ可ナルベク生物ノ生命ハ實ニ綠色細胞ニコレ依ルト云フベキナリ

動植物ノ呼吸幷ニ動植物体ノ腐敗ニヨリ嘗テ植物ガ還元シタル炭酸ハ再ビ大氣中ニ戻リ而〆又炭酸ヲ分解シテ酸素ヲ呼出シ此酸素ヲ用ヰテ呼吸作用ヲ遂グルナリサレバ地球上ニ於ケル動植物ノ數ハ多シト雖モ大氣ノ化學的成分ハ數百千年前ヨリ今ニ至ルテ毫モ變化ヲ受ケザルナリ

植物ガ還元作用ヲ爲スヿノ明了ニナリタルハ之ヲ化學ノ發達セルニ歸スベシ故ニ此作用ノ充分明確ニナリタ

ルハ實ニ前世期ノ末ナリキ其以前迄ハ人皆アリストートルノ說ヲ迷信シ植物ハ總テ其養分ヲ土中ヨリ取リ而〆此養分ハ既ニ土中ニアツテ植物ヲ養フベキ形狀ヲ備フルモノナリト信ゼリアリストートルハ植物ノ根ヲ動物ノ口ニ比シ植物全体ヲ以テ頭ヲ土中ニ置ケル倒立チノ動物ニ比シタリ千七百七十九年ニ至リ初テヤン、インゲンハウス氏 (Jan Ingenhouss) ノ說出デタリ其說ニ因レバ植物ハ大陽ノ光線アレバ多量ノ酸素ヲ呼出スルガ故ニ空氣ヲ清淨ニスルノ効アリト千七百九十六年ニ出版セラレタル同氏ノ植物榮養論テフ書ニハ既ニ植物ガ炭酸ヲ分解スルヿヲ明ニ說明セリ今世期ニ至テハ生活植物ニ於ケル類化作用愈々人ノ研究スル所トナリ生理的ニ化學的ニ愈々明了ニ愈々深奧ニ解釋セラルヽニ至リヌ然レ𪜈尙ホ此事ニツキテハ疑點多シ殊ニ化學的ノ點ニ於テ然リトス

光線充分ナル片ハ葉綠粒ニハ微細ナル澱粉粒生ズコレユリユース、サックス氏ガ今ヨリ三十年以前ニ發見シタル事實ニシテ澱粉ハ炭酸類化ノ最始ノ有形生產物ナリトス綠素ガ外界ノ事情適當ナル片幾何量ノ澱粉ヲ造成シ得ベキヤハコレ又サックス氏ガ研究探尋セル所ナリ之ヲ測定スルニハ同大ニ葉ノ一部ヲ幾度カ時ヲ違ヘテ切リ取リ之ヲ迅速ニ殺シ之ヲ乾燥シ而〆其乾燥目方ヲ相比較シ以テ造成セラレタル澱粉量ヲ知ルナリ類化ニ因テ生ジタル澱粉ハ糖分ニ化シ葉ヨリ莖ニ移轉ス日中ハ澱粉造成ノ方之ヲ溶解スル作用ヨリ盛ナルガ爲日沒ニ於テハ葉ハ多量ノ澱粉ヲ有ス然レ𪜈夜中ハ類化作用之ナキガ故葉ハ其澱粉ヲ殆悉皆失フニ至ル故ニ同大ノ葉ノ切片ノ乾燥目方ヲ朝ト夕トニ於テ測定シ比較スレバ其目方ノ差異ハ日中造成セラレ糖分等ニ變化スルヿナク尙ホ葉中ニ殘留スル澱粉ノ量ヲ指示スベシ造成セラレタル澱粉全量ヲ測定スルニハ此殘留セル澱粉量ニ加スルニ同時間內ニ溶解シテ他ニ移轉セル澱粉量ヲ以テセザルベカラズ而〆移轉セル澱粉量ハ夜中ニ失ハル

ヽ澱粉量ト異ナルヿナケレバ其レヨリ容易ニ計算スベシ以上ノ如キ法ニ因テ測定セル所ニ因レバ類化ニ對セル外界ノ事情適應ナル𬻿ハ日出ヨリ日沒ニ至ル時間內一平方メートルノ葉面ガ造成スル所ノ澱粉ハ目方三十グラムニ近シト云フ

以上論說スルガ如ク植物ノ仕事タル極テ靜肅ナルガ故其仕事ハ人ノ五感ニ觸レザルナリ然レ𪜈其行フ所ノ仕事タル實ニ洪大ナリサレバ野ニ生ズルゐりヲ見テコレ仕事ヲ爲サヾルモノナリ力ナキモノナリト云フハ其力ノ外ニ顯ハレザルヨリ人ノ云フヿニシテコレ誤謬ナリコレ淺見ナリ！

○葡萄ノ卷鬚

或人曰ク葡萄ノ卷鬚ハ枝ノ變化セシモノナリトノ說アレ𪜈其葉ニ對生ナルヨリ之レヲ觀察スレバ恐クハ葉ノ變化セシモノナラン若シ葉ノ變躰ニアラズトスレバ此卷鬚ハ莖ニシテ本莖ト見ルモノハ返テ枝ト云ハザル可カラズ如何トナレバ此卷鬚ハ葉腋ヨリ生ゼズ之ニ反シテ莖ハ葉腋ヨリ生ズルモノヽ如ク見ユレバナリ」ト之レ一理アルカ如クナレ𪜈其發生ノ順序ヲ調査セバ其枝ノ變化物ナルヿ明瞭ナルベシねーげりい及ヒしゆゑんでねる兩氏ノ說ニ依レバ葡萄ノ卷鬚ハ母莖ノ成長點以下ニアリテ嫩葉ニ對生ス然レ𪜈葉ヨリモ少シク後レテ生出スト云フ故ニ此卷鬚ハ腋外生ノ枝ノ變躰ナリ

大、　三、

○いしもちさう福山近傍ニ産ス

片岡雋弼氏ハ四月廿二日備後國福山ヨリ半里程ナル藏王山ノ南麓高燥ノ地ニテいしもちさう Drosera peltata, Sm. var. lunata, Clark. ヲ採集セラレタリ又同山中ニハむしとりすみれヲ産スル由ニテ福山誠之館生徒中ニテ之レヲ採集セシモノアリトノ事ナリ

○植物体中ニ含有スル石鹼素（サポニン）ニ就テ

K. I.

石鹼素ノ學術的研究ハ從來諸學者ノ刻苦探驗スル所ニシテ就中植物界中ニ發見スル現象ニ就キ研究シ得タル結果甚ダ多ク何レモ有益ナル事實ナリ今左ニハナオセーク、コーベルト、ワーグ、グレスホッフ等ノ諸氏ガ得タル成績ヲ總括シテ閲覽ノ便ニ供ス

〔名稱〕石鹼素（Saponin）トハ凝膠樣、配糖体（グリコシート）狀ノ化合物ニシテ水ニ和スレバ泡沫ヲ生ジ強ク粘膜ヲ刺戟シ赤血球ヲ溶解シ分解シテ腸管ヨリ吸收サル、物体ヲ云フ但シ Agrostemma（アグロステンマ）中ノ石鹼素（「サポトキシン」ト凡稱ス）ハ分解セズシテ吸收セラル、性アルヲ以テ若シ家畜ノ食物ニ混ル等ノコトアレバ中毒ヲ來スノ恐レアリトス

〔化學的構造〕コーベルト氏ノ說ニヨレバ多數ノ「サポトキシン」ハ一般記號 $C_nH_{2n-8}O_{10}$ ニ適應シ其 n ハ石鹼素ノ種類ニ依リテ差異アリ左ニ一例ヲ示ス

$n = 17$ ニ屬スルモノ

「セネギン」（Polygala Senega. 中石鹼素）「クイラヤ、サポトキシン」（Quillaja Saponaria 中ニ含有スル石鹼素）「サピンヅス、サポトキシン」（無患樹科ノ植物ハ何レモ之レヲ含ム）「アグロステムマ、サポトキシン」（Agrostemma Githago 中石鹼素）等是レナリ

$n = 18$ ニ屬スルモノ

「チギトニン」（Digitalis 屬中ニ含有ス）「サポルビン」（Saponaria 屬中ニ含ムモノ）等是レナリ

$n = 22$ ニ屬スルモノ

「サルサ、サポニン」（Smilax officinalis 其他 Smilax 屬ノ植物ニ普通ナリ）遠志屬植物中ノ一成分ニモ本屬ニ列スルモノアリ

右ノ外構造不明ノ石鹼素ハ其ノ數甚ダ多クワーゲ氏ニヨルモ大約二百種ノ植物アリト云フ以テ植物界ニ於ケル播布ノ廣大ナルヲ推知スベキナリ

〔植物体中顯微鏡的鑑識法〕　石鹼素ノ或植物部分ニ含有セラルヽヤ否ヤヲ發見スルノ最簡法ハワーゲ氏ノ撰定セシモノニシテ所謂ラフオン氏反應（Lafon'sche Reaktion）ナリ其法撿スベキ植物ノ薄片ニ硫酸及ビ「アルコール」各等分ヨリ成レル混和物ヲ加ヘ温ムルニアリ然ル時ハ石鹼素含有ノ組織ハ赤色或ハ黃色ヲ呈シ之レニ鹽化鐵ヲ加フレバ褐色乃至帶褐靑色ヲ呈ス此ノ反應ト同時ニ撿スベキ植物ノ一部ヲ水ト共ニ振盪シ泡沫ノ發生ヲ認ムレバ該植物部分ニ石鹼素存在スト斷言スルモ充分ナリト云フ

〔石鹼素ノ解剖的所在〕　ワーゲ氏ニヨレバ石鹼素ハ決シテ或ル一器中ニノミ發見スルニアラズ根、地下莖、尋常莖、葉、花、果實、種子等ノ論ナク凡ソ生活セル柔軟組織（パレンキーム）ノ存在スル部位ニハ皆ナ之レヲ含有シ其他髓線、髓及ビ或ル汾泌物貯蓄器中ニモ發見ス而シテ常ニ細胞液中ニ溶存シ其細胞ノ抱化シ或ハ纖維化スルニ及ンデ消失スワーゲ氏ハ石鹼素ヲ以テ植物生長ノ副產物ニシテ再ビ應用サレザル化合体トセリ何トナレバ果實ノ如キモノニ於テハ主トシテ果皮、果肉及ビ種皮中ニ發見シ向后生長スベキ營養組織及ビ胚胎中ニハ存在セズ換言スレバ石鹼素ハ外部ヨリ內邊ニ至ルニ從ヒ漸々減少シ種子ニ至リテハ唯其ノ內部ノ鞘タルガ如キ觀アリ但シコーベルト氏ニヨレバ Agrostemma Githago ノ種子ハ胚胎中ニモ石鹼素ヲ含有シ種皮ニハ却テ含マズト云ヘリ之レワーゲ氏ノ說ニ反スル現象ニシテ仝氏モ其說明ニ苦ミシ所ナルガ爾后全ク他ノ方面ヨリ說明シ得タリ即チ Lychnis chalcedonica ノ種子ニ含有スル石鹼素ハ發芽ニ際シテ使用セラレサリシヿ之レナリ故ニ石鹼素ハ植物生長ノ副生物ニシテ更ニ他ニ移轉セサルモノナルヤ眞ニ近シ

〔生理的効用〕　石鹼素ノ植物生理上ニ於ケル効用ハ苛辣性ノ味ト毒性ヲ有スルトニアリ即チ此ノ幇助ニヨリ動物ノ侵襲ヲ防ギ種族ノ生存ヲ完カラシムルモノヽ如シ一例ヲ擧ゲンニ（Kerner von Marilaun's "Pflanzenleben" 第一卷七百二十丁）或ル冬期間某庭園ニ於テ田鼠（タンボチヅミ）大ニ害ヲナシ近傍ノ植物ノ根部ヲ嚙蝕セシヿアリ然ルニ此時同所ニ多ク繁茂セシ石鹼草（Saponaria officinalis）ノ根ニ限リ全ク無害ナリシト云フ之レ石鹼草ノ根部ハ多量ノ石鹼素ヲ含有シ有毒ナルヲ以テナリ

〇バクテリアの說（前號の續き）

K. D. 山人纂譯

形狀ヲ具ヘタル黴菌成育ノ方法ヲ明カニ見ルヲ得可シ是レ其固有ニ於ケル性質ノ一斑ヲ知ル最屈强ノ方法トス

サレドモ普通室內ニ於ケル溫度ヨリモ尙ホ高クシテ体溫ト其度ヲ同セル處ニ於テハ膠ハ容易ニ溶解シ乃チアル種類ノ黴菌ノミ生育スルコトヲ得ルモノナルガ故ニ斯ル處ニ於テ右ノ栽植法ヲ行フ時ハ黴菌ノ塊ヲナスコトナクシテ當初ノ目的ハ空シク歸スベシ故ニ斯ル時ニハ膠（ジラチン）ニ代フルニ海草ヨリ生ズル物質「アカア々々々」ヲ用フベシ此物ハ一パーセントニ溶解スル𪜈ハ堅硬ニシテ透明ナル塊ヲナシ体溫以上ノ溫度ニ觸ルヽモ決シテ溶解スルコトナシ而シテ之ニ混ズルニ肉熬（ビーフテー）等ヲ以テスルハ猶ホ膠（ジラチン）ノ場合ニ於ケルガ如シ

是等ノ營養物ヲ用ヰテ得タル結果ト顯微鏡ヲ以テ觀察シタル所トニ因リ更ニ各種ノ黴菌成育ノ方法ニ特殊固有ノ性質アルコトヲ知レリ之ニ因リテ吾人ガ各種ノ黴菌ヲ區別スルコトヲ得ルハ猶博物學者ガ密接ノ關係ヲ有スル動物若クハ植物ヲ一々區別スルガ如シ而シテ其生活ノ狀態上各種ノ黴菌ヲ一々區別スルノ必要缺クヘカラサルコトハ前既ニ詳說シタル所ナリサレバ一種ノ黴菌ヲ他種ノ黴菌ト混ズルコトナク之ヲ貯フベキ團群

ヲ有セザル可カラサルコトハ最モ留意スヘキ事トス即チ之ヲ稱シテ「ピユアカルチユール」Pure culture トハイフナリ而レトモ此事タル決シテ容易ノ業ニアラズ何トナレバ黴菌ノ至小至微ナル空中何レノ處ニモ浮遊スルモノナルガ故ニ動モスレハ其研究セントシテ栽植スル黴菌ト混ジ易キノ虞アルヲ以テナリ伯林ノ博士コック氏ノ工夫ニ係ル簡易ノ方法ハ如何ナル時ニ於テモ十分各種ノ黴菌ヲ區別スルコトヲ得可ク又種々ナル黴菌ノ混合物ヨリ多クノ管中ヘソレ々々一種ノ黴菌ヲ移植スルコトヲ得ベシ是方法ヲ稱シテ種板培養ト云フ其詳細ナルコトハ是ヨリ下ニ述ブベシ玆ニ不潔ナル飲料水ノ一碗アリ其中ニハ四種ノ黴菌ヲ含メリ今此混合物ヨリ一々各種ノ黴菌ヲ管中ニ移植セントス其方法如何

前ニ述ベタル營養膠ノ多量ヲ溶解シ之ニ混ズルニ黴菌ヲ含有スル水ノ多許ヲ以テシ而シテ之ヲ其十分熱シタル硝子板上ニ灌メハ忽チ其表面ニ薄層ヲ生ジ直ニ收縮シテ堅硬トナルベシ然ル時硝子板ヲ瓶ノ下ニ置キ以テ空氣中ニ浮遊スル黴菌ノ侵入ヲ防キ且之ヲ乾燥スルコトナカラシメ而シテ適度ニ温暖ヲ保テル室内ニ放置セバ膠ノ層中ニ散在スル黴菌ハ直ニ成育ヲ始ム可シ

數日若クハ數時間ヲ經タル後ヲ肉眼或ハ顯微鏡ニテ其膠ノ薄膜ヲ視ル時ハ其中ニ散在スル微小ノ點塊ヲ認ムルコトヲ得此小點小塊ハ即チ黴菌ノ團群ニシテ其一箇ニハ各數百數千ノ黴菌ヲ含ム而シテ是等無數ノ黴菌ハ膠ノ收縮セル時ニ其硬壁中ニ移植セラレタル一箇ノ黴菌ヨリ成育シタルモノナリ

時ニヨリテハ同種或ハ異種ノ原始黴菌二箇以上アリテ膠ノ收縮スル時ニ固着シ隨テ其團群ハ異種ノ黴菌相混シ相重レルモノヨリ成ルコトアルヲ免カレスト雖モ多クノ場合ニ在リテハ其團群ハ一箇ノ元種ヨリ生ジタル子孫ヨリ成立スルガ故ニ顯微鏡ヲ以テ硝子板ヲ覘フ時ハ其形狀相異リタル團群ハ各其異レル種類ノ菌ヨリ生

育シタルモノナルヲ見ルベシ若シ以上ノ方法ニ因リテ黴菌ヲ栽植シ以テ之ヲ研究セバ其成育ノ方法ニ於ケル差違ハ明カニ之ヲ知ルヲ得可ク叉之ト同時ニ其色ヲモ形ヲモ見ルヲ得可シ即チ其色ニ在リテハ赤色ナルアリ綠色ナルアリ黃色ナルアリ橙色ナルアリ菫色ナルアリ鼠色ナルアリ或ハ全ク色ナキモノアリ其形ニ在リテハ緣邊ノ圓キモノ鋸齒狀ヲ成セルモノ總房ノ如キモノ叉ハ細ニシテ粒ノ如キモノ或ハ微細ナル棘（トゲ）ヲ出スモノアリ叉或黴菌ニ在リテハ其至近ナル四邊ノ膠ヲ溶解スルガ故ニ更ニ堅硬ナル膠ニ凹處ヲ生シ極メテ微小ナル池ヲ造リ出シテ以テ其中ニ生存スルモノアリ

（未完）

○辛崎の松

辛崎の松は天正年中大風にたふれ形はかりも殘らずなりしを新庄駿河守直賴か弟松庵東玉雜齋直壽兩人の者彼松の事より〳〵悔みて風情ある松を尋ね求めて天正十九年辛卯のとし植しよし尊朝親王の書玉へる松の記に見えたりされば今の松は昔の種にもあらず

萩泰祠按に尙山紀談天正の初明智光秀も辛崎の松をうゑたり其詠歌に

我ならて誰か植ゑけん一ッ松心してふけ志賀の浦風

（八見雜記）

○譯語

○近來植物學教科書ノ出版大ニ增加セルハ其需用アルガ爲メ需用アルハ本學ノ一進步ナルベシ然ルニ已ニ用ヒ來リシ學語(譯語)中少シク穩當ナラザルモノアリトカ新語ヲ用ヒザレバ著者ノ Value ニ關ストデモアルマジケレドモ變更ナスハ初學者ノ爲メニハ迷惑至極ノ事ナリ何トカ譯語ヲ一定ニナス事ハ出來マジキヤ譯語ヲ

變更ナセシトテ其著者ガゑらいトハ思ハレマジ夫レヨリ教科書ヲ著ハス人ハ少シク否大ニ校正ニ注意セラレタキモノナリ

附言校正ノ事ハ教科書ノミニアラズ植物學雜誌モ今少シ御注意ヲ乞フ　靜岡　愛讀者ノ一人

○昨年中出版外國植物書數篇ニ就キ（前號ノ續）

池野成一郎

（五）Ludwig, Lehrbuch der niederen Kryptogamen mit besonderer Berücksichtigung derjenigen Arten, die für den Menschen von Bedeutung sind oder im Haushalte der Natur eine hervorragende Rolle spielen. 8°, 672 pp.

此書ハ下等隱花植物卽藻類菌類ヲ論ジ殊ニ人事ニ關係アルモノニ注意シタリ外國雜誌ノ「レフエラート」ヲ讀ムニ良書ナリトノ評アリ（バクテリアノ病氣ニ於ケル糸狀菌ノ植物病ニ於ケルガ如キ殊ニ出色ノ評アリ）然レ𪜈評者ハ未ダ自ラ此書ヲ讀マザルガ故ニ果シテ然ルヤ否ヤ自ラ之ヲ評スルニ由ナシ唯此ノ如キ書ノ出版アリシヲ讀者諸君ニ紹介スルノミ

（六）Tavel, Vergleichende Morphologie der Pilze. 8, 176 pp.

菌類ノ學術的研究ニ從事シテ有名ナルハ佛國ニチユランヌ氏（Tulasne）アリ獨乙ニデバリー氏（de Bary）及ビブレフェールド氏（Brefeld）アリ然レ𪜈前二氏ハ今ヤ此世ノ人ニ非ズ二氏ノ後ヲ承ケテ菌學上大功アリ且尚ホ研究ニ從事シツヽアルモノブレフェールド氏トスブレフェールド氏ハ學術開ケタル今日ニ當リ尤モ進步セル方法ヲ用ヰ研究ニ從事セルガ故ニチユランヌ氏デバリー氏ノ研究ノ足ラザルヲ補ヒ實ニ菌類學上一大革命ヲ惹起シタリ氏ガ研究ノ結果ハ Untersuchungen aus dem Gesammtgebiete der Mykologie ナル大著トナ

リタリリドサッヒ氏嘗テ此書ヲ評シテ植物學上數十年以來ノ最大著ト稱スルモ過言ニアラズト云ヘリ此評ノ過當ナルヤ否ヤハサテ置キ兎ニ角氏ノ菌學上ニ於ケルハ恰モストラスブルゲル氏ノ細胞論ニ於ケルガ如クサックス氏ノ生理學ニ於ケルガ如シ實ニ古來ノ菌類分類法ノミヨリ知ラザル學者ニシテブレフェールド氏ノ分類法ヲ一覽スレバ恰モ維新前ノ頑固老人ヲ明治ノ今日ニ喚起シタルガ如ク何ガ何ヤラ一向了解シ兼ヌルナリ……扨此書ノ著者ターフェル氏ハ嘗テブレフェールド氏ト合力シテ菌類ノ研究ニ從事シタル人ナレバ新菌類學者ト云ハヾブレフェールド氏ノ外唯ターフェル氏アルノミ而メ此書ハ氏ガ此ブレフェールド氏ノ研究ニ基キ菌類ノ形狀學ヲ書キタルモノナレバブレエェールド氏ノ研究ヲ既ニ知リタルモノ及ビ知ラザルモノトヲ論ゼズ必ズ一讀スベキモノナリ殊ニ菌學專門ニ非ザル學者ニハブレフェールド氏ノ書ハ大部ニシテ手ニ入ル、ヿ六ヅカシキガ故ニターフェル氏ノ書ヲ讀ミテ以テ日新菌學ノ一斑ヲ學ブベシ西洋學術ノ進歩ハ迅速ナリ狹キ所ニ閉居シテグズ〳〵スル內ニハ自身ノ學問ハ古クナリ世界ヲ見レバ自身ハ盲目同前御用心々々々

（七） Sachs, Gesammelte Abhandlungen über Pflanzenphysiologie.

サックス氏ガ植物生理學上大功アルハ人ノ普ク知ル所ニシテ植物生理學ノ今日アルハ實ニ氏ガ功多キニ居ル氏ガ生理學上ノ研究ハ其時々ノ植物諸雜誌ニ出デタリ然レ𪜈其出デタル雜誌ノ數モ甚多ク且年限ノ既ニ古キモノモ少カラザレバ今ニ至テ之ヲ一讀セントスルモ仲々ニ六ケ敷殊ニ本邦ノ如ク書籍ニ乏シキ國—日本—ノ書籍館ニ至ルモ法律政治ノ書ヲ備フルモ植物書ノ如キハ殆ド全ク無之土地柄—ニ於テハ殊ニ困難一方ナラザルヲ感ズルナリサックス氏ハ今ヤ氏ガ時々ノ雜誌ニ出シタル論文數多ヲ一書ニ集メタリコレ即本書ナリ此書上下二卷ニ分チ上卷ハ昨年出版シ下卷ハ本年出版シタリ此書中ニ網羅セル論文ノ數ハ四十四條ニシテ最古ノ

論文ハ千八百五十九年ノ脂肪ヲ含メル種子ノ發芽スルニ際シ澱粉ノ生ズルヿト云ヘル論文ニシテ最新ノモノハ昨年ノエネルギーデン及ビ細胞ト云ヘル論文ナリ上卷ハ紙數六百七十四ページ、收ムル所ノ論文廿九條ニシテ植物体ニ對セル熱ノ作用、同光ノ作用、葉綠及ビ類化、植物体中水ノ運行、植物器官ノ成長ニ對シ養分ノ行爲ニ關スル論文ナリ木版圖四十六個ヲ挿入ス下卷ハ本年ノ出版ナレ𪜈序ニコヽニ一言スレバ紙數六百七十七ページヨリ千二百四十四ページニ至ル（上卷ヨリツヾキテ）收ムル所ノ論文十四條ニシテ枝及ビ根ノ生長、生長セル植物部ニ於ケル刺激作用トシテノ「トロピスム」細胞造成ト生長トノ關係、植物形狀造成ノ源因ノ關係ニ關スル木版圖八十個及ビ石版圖十個ヲ挿入ス此等ノ論文出デヽ以テ今日ノ植物生理學ヲ建設シタルモノナレバ別段コレニツキ批評ハ無用ナリ唯斯クノ如キ書ノ出版ハ書籍ニ乏シキ人々ニハ實ニ有益ナリト云フヿヲ一言スルノミ

（八） Oscar Hertwig, Die Zelle und die Gewebe. 8°, 296 pp.

此書ハ有名ナルベルリン大學ノ動物家オスカール、ヘルトヰッヒ氏ノ著ニシテ純粹ノ植物書ト云フニハ非ズ動植物相對照シテ論ジタルモノナリ蓋學術ノ進歩ニツレ動物ト植物トハ古來人ノ考ヘタルガ如ク其差甚シカラズシテ類似スルヿノ多キヿヲ知リタル今日ナレバ植物家ト雖モ此クノ如キ書ハ一讀シ以テ植物ト動物トノ關係ヲ知ルヿ必要ナリトハ評者ノ私ニ考フル所ナリ

扨此書ハ動植物細胞ヲ比較對照シテ之ヲ論ジ先ヅ第一章ニ於テ細胞論及ビ原形質論ノ歷史第二章ニ於テ細胞ノ理化學的及ビ形狀學的性質ト題シテ原形質、細胞核、「セントロゾーム」等ヲ論ジ第三、四、五、六、七ノ五章ニ於テ細胞ノ生活的性質ト題シテ運動的現象、感應的現象、榮養的現象、細胞ノ增殖、及ビ受精的現象

ヲ論ジ第八章ニ於テ原形質、核、及ビ細胞生産物ノ交互ノ關係ヲ論ジ第九章ニ於テ遺傳ノ理論ヲ論ゼリ各章ノ終リニハ其章ニ關スル「リテラツール」ヲ掲ゲ圖書ハ植物部ニ於テハサツクス氏ストラスブルゲル氏ギヤール氏等ニ假リ孰レモ鮮明ナルヿハ出版書肆ノエーナナルグスターフ、フヰシエルナルニテ知ルベシ此書ノ著者ハ有名ナル動物家ナレバ此書中ノ動物細胞論ノ惡シキ理由モナシ植物細胞論ノ如キモ評者ノ如キ淺學者ガ可否スル迄モナシ唯コヽニキーニッツ、ゲルロッフ氏ガ此書ノ批評ヲ掲グルニ曰クコレ良書ナリ唯此書中植物學的ノ事ニ三個ノ些細ナル誤謬アリ然レドモ此等ノヿタル些細ノヿナレバ勿論此書ヲ傷クルニ足ラズト評者ハコヽニ其誤ヲ掲出シ以テ此書ヲ讀ム人ノ參考ニ供セントス

(一)　九三ページニ於テビールノ釀母イハユル Saccharomyces cerevisiæ ヲバクテリアニ屬スト記セリ然レドモ釀母ハバクテリアニ非ズシテ眞正ノ菌類ナリ

(二)　一二二ページニ於テ植物体中ノ澱粉ハ悉皆「ジアスタース」ナル醱酵素ノ作用ニヨリ、溶解スベキ狀態ニ化スルガ如ク說ケリト雖モウォルトマン氏ガ近來ノ試驗ニ因レバ澱粉ヲ溶解スベキ狀態ニナスハ「ヂアスタース」左ノミ之ニ與ラズ主トシテ原形質ガ作用スルモノタルヤ明ナリ故ニ「ジアスタース」ガ此作用ノ主人タルガ如ク說クハ誤タルヲ免レス

(三)　葉綠ヲ以テ無機物ヨリ有機物ヲ造成スル唯一ノ器官ナリト論スレドモヰノグラスキー氏ガ近來ノ試驗ニ因レバ「ニトロモナース」ト云ヘルバクテリアハ光線ノ力ヲ假ラズ又葉綠ナク無機化合物ヲ有機化合物ニ化スルノ力アリ（本號雜錄欄內原形質及ビ感應性ヲ參考スベシ）サレバ葉綠ヲ以テ類化作用ノ唯一器官トナスハ非ナリ

キーニッツ、ゲルロッフ氏ノ批評ハ以上ノ如シ苟クモ理學的植物學ヲ修メントスル人殊ニ動物細胞ト植物細胞トノ區別ナク細胞ト云ヘル微妙ナル器官ニ就キ今日ノ學術ガ如何ナル程度ニ迄達シ居ルヤヲ知ラント欲スル人語ヲ更ヘテ云ヘバ最新ノ細胞學ヲ修メントスル人ハ宜ク先此書ヲ繙テ以テ其一斑ヲ學ブベシ

評者曰此書ノ出版年號ハ表紙ニハ千八百九十三年トアレ𪜈實ハ昨年末ノ出版ナルカ如シ因テコヽニ記ス

（完）

* * *

◎質問應答

問　松本鉞雄

一植物ハ莖、根ノ造構ヲ異ニセルニ俗ニ挿木ト稱シ一植物ノ莖枝ヲ取リテ之ヲ地中ニ挿シ置ク時ハ根ヲ生ズ是レ如何ナル故ナルヤ又根トナリシモノハ莖ニアリテハ何ニ當ルヤ

答　大、三、

挿木ヲナシテ根ヲ生ズルハ其植物ノ生活ヲ永續センガ爲メニ莖ノ內部ニアル「カンビーム」層ト稱スル生長層ヨリ生ズ

問　松本鉞雄

(二)つきみさう、まつよひぐさノ科名學名漢名又兩植物ノ容易キ識別法ヲ御教示被下度候

答　大、三、

つきみさう及ビまつよひぐさハ共ニ柳葉菜科ニ屬スル植物ニシテ屬亦同ジ即チ Oenothera ナリ而シテまつよ

ひぐさハ Jacq. 氏ノ Oenothrea odorata ト稱スルモノナリ つきみさうハ Oe. biennis L. var. Lamarkiana, Ser. ヲモ近來つきみさう若クハつきみぐさト稱スレ𪜈飯沼氏著草木圖說第七卷ニ載スル處ノつきみさうハ別種ナリ右圖說ノつきみさうハ Oenothera tetraptera, Willd. ト稱スルモノ如シ左ニ其簡易ナル區別ヲ述ベン

Oenōthera odorata, Jacq. まつよひぐさ 黃昏ニ花ヲ開キ其色黃、葉線狀ノ披針狀ニシテ遠隔ノ微鋸齒アリ花柱四裂ス高二三尺

Oenothera biennis, L. var. Lamarkiana, Ser. 黃昏ニ花ヲ開キ全体壯大ニシテ葉ハ長楕圓ノ披針ナリ

Oe. tetraptera. Willd.? 白花黃昏ニ開キ萎凋スレハ紅色ニ變ス葉披針狀ニ〆大刻缺不齊ノ尖齒アリ

問　松本鍼雄

(三)本邦ニアル仙人掌草科植物ノ種類ヲ學名、俗名ヲ以テ御敎示ヲ乞フ

答　大、三、

本邦ニ仙人掌草植物アルヲ未タ不知然レ𪜈外國ヨリ來リシ處ノ同科植物ハ少ナカラズ其大略ハ帝國大學植物園植物目錄ニ就キテ見ルベシ

問　松本鍼雄

(四)花ノ四部分即チ萼瓣、雌雄兩蕊ヲ具スルモノハ具備花ト稱スベキヤ將タ完全花ト稱スベキヤ植物書區々ニシテ一定ナラズ何卒御敎示ヲ乞フ

答　大、三、

余ハ蕚、花冠、雄蕊、雌蕊ヲ具スルモノヲ完全花ト稱スル名稱ヲ使用ナセ圧元「コンプリートフラワー」「パルフェクトフラワー」ヲ兩様ニ譯セシモノナレバ人ニヨリ「コンプリート」ヲ完全「パルフェクト」ヲ具備又ハ反對ニ譯スルモノアリソハ人々ノ隨意ニシテ一定ナラズ問者ハ問者ノ見込ニヨリ何レヲ使用スルモ可ナリ

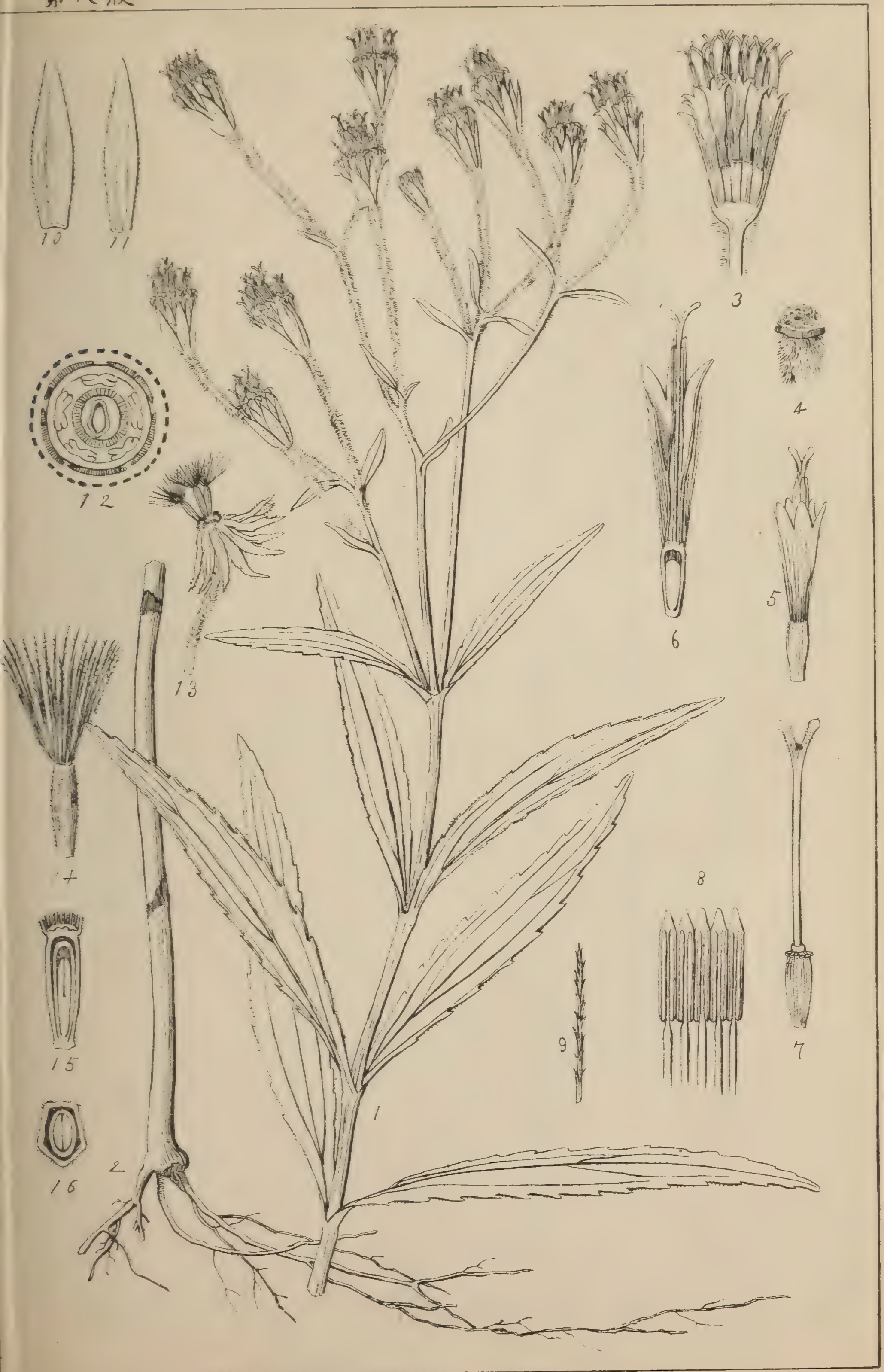
問　　　新垣安一

榕樹、萬壽木、福木、芭蕉ノ科屬幷ニ配布ニ付御敎示ヲ乞フ右四植物共ニ八重山普通ノモノ

答

榕樹ハ蕁麻科ニ屬シ印度支那南方地方ニ配布ス、萬壽木此名未詳別ニ名稱アレハ知リタシ、福木ハ藤黄科ニ屬ス芭蕉ハ芭蕉科ニ屬シ熱帶各地ニ散布ス

第八版 PL. VIII.


10
11
3
12
4
6
5
13
14
8
9
7
15
1
16
2

MALLOTOPUS JAPONICUS, FRANCH. ET SAV.

地學雜誌

第五集 第五十五卷

◉定價一册金拾錢郵稅一錢六册前金郵稅共金五十四錢

◎傳記 ●故三浦理學士の傳（寫眞版肖像入）◎論說●福島縣信夫郡吾妻山ノ噴泥及噴灰 農學士鴨下松次郎●鳥海山登山ノ記 故理學士三浦宗次郎●本邦ニ於ケル硫化鑛層ノ地質的配賦 理學士中島謙造●土性ト農業トノ關係一斑 農學士恒藤規隆●北極地方ヲ橫切ル方法如何 ドクトル ナンセン ◎雜錄●土佐國四大地震記（前卷ノ續） 寺石正路●支那ノ製鐵事業 岐陽學士●地震ト恐怖 服部捨太郎●地學通論（前卷ノ續）（圖入） 岐陽學士◎雜報 ●東京地學協會第十四年總集會●理科大學簡易講習科卒業式●新地質學士●地學協會ノ吾妻山調査●故三浦理學士ノ血帽ニ附着セシ灰泥ノ分拆●故三浦西山兩氏ノ吊慰金●仙臺市ノ一不思議●油ノ爲メニ颶風ノ難ヲ免ル●泡ハ如何ナル液体ニ生スルヤ●武藏坊辨慶ノ力●ブラジル國首府移轉ノ計畫●北洋旅行●地變●地方通信●新刊書◎批評 ●（日本帝國）政治地理（猪間收三郎）◎質疑八件◎應問●颶風ノ環狀ヲ畫クス理由（某中學教員）●地球星期ニ就テ（ゐ、し）山鹽ノ生スル理由ニ就テ（ゐ、し）●寶永山噴起ノ年月（ゐ、し）

發行所（京橋區西紺屋町十九番地）東京地學協會

大賣捌（神田區裏神保町一番地）敬業社

東洋學藝雜誌

第百四十二號

明治二十六年七月二十五日發兌○表紙廣告ヲ除キ五十四頁木版插圖數個

●論說○アウストラリヤの土俗（承前）坪井正五郎○アルコール並日本酒ノ利害（承前）丹波敬三○コロムブス時代地理探驗に就て箕作元八○雌雄ノ別石川千代松●雜錄○木曾山林河合鉑太郎○兼好師の論中邨秋香●雜報新刊數學教科書○クムメル氏○天文日○南洋群島の石果○新著化學書○理科大學へ進入の學生○卒業證書授與式○銀貨相場の下落と大學の經費○帝國大學の耶蘇信者○曲學阿世○哲學名稱の濫用等●寄書○教育と宗教の衝突に就て（承前）境野哲●應問○動物の種子石川千代松○人類の起原坪井正五郎●定價十錢

東京神田區裏神保町一番地

東洋學藝社

第七卷　　第七拾八號

75

明治二十六年八月十日

植物學雜誌

目錄

ちやうじざく　理學博士　矢田部良吉（二〇七丁）

日本農業植物病害論（第七十六號ノ續キ）　農學士　堀正太郎（二〇九丁）

植物分類餘錄　理學博士　松村任三（二一三丁）

フランク氏植物學教科書第二卷ヲ評シ
併セテ植物學近來ノ進歩ニ及ブ　池野成一郎（二二五丁）

日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）　澤田駒次郎（二二九丁）

Acanthopeltis japonica, Okamura. ニ就テ　理學士　岡村金太郎（二三三丁）

◎雜　錄（二三八丁）

○植物採集雜記○ヘーマトキリン○理學士白井光太郎氏著中等植物學教科書

◎質問應答（二四三丁）

◎附　錄

○顯花植物分科檢索表　池野成一郎（六九丁）

植物學雜誌編輯所

314179

THE
BOTANICAL MAGAZINE.

明治廿一年二月三日内務省許可

Vol. 7.] July 10, 1893. [No. 77.

CONTENTS.

Trillium Tschonoskii, Maxim. By R. Yatabe, Sc. D. 175

Notes on the Flora of Mimasaka. By B. Yasui. 177

Plants Employed in Medicine in the Japanese Pharmacopæia. By K. Sawada. 180

Notes on the Plants of Nikkō. By B. Yasui. 185

Miscellaneous:— 189

Protoplasm and Irritability.—Tendrils of Vitis.—Drosera peltata, Sm. var. lunata, Clark in Fukuyama.—Saponin.—Bacteria.—Karasaki Pine.—New Literature.—

Queries:— 204

Appendix:— 61

Analytical Key to the Phanerogamous Plants.

All letters and communications to be addressed to the editor of the

TŌKYŌ BOTANICAL MAGAZINE,

No. 1. Urajimbōchō, Kanda, Tōkyō, Japan.

地學雜誌

第五集　第五十四卷

定價一册金十錢郵稅一錢六册前金郵稅共五十四錢

◎論說

●吾妻山破裂調查概況（圖入）　故理學士　三浦宗次郎

●一切經山再破裂後故三浦技師一行登山の結果（圖入）　理學士　鈴木敏

●英國印度國兵站路（兵要地理學問題）（前號ノ續き）　理學士　金田楢太郎

◎雜錄

●日本ノ鑛物產地（前號ノ續き）　理學士　鈴木敏

●土佐國四大地震記（前號ノ續き）　寺石正路

●那須野ヶ原ノ地質大要　簑山生

●三池石炭ノ化學的研究　工學士　近藤會次郎

●地學通論（前號ノ續き）（圖入）　岐陽學士

●十九世紀地學大家列傳　西和田久學

◎雜報

●地學協會ノ演說●嗚呼三浦君●比企西和田兩氏●故地學協會々員三浦理學士ノ葬儀ト弔詞●故三浦理學士ノ傳ト言行錄●故三浦西山二君ノ遭難義捐金●奇々妙々ノ洞穴●人口百萬以上ノ大都會●朝鮮ノ七不思議●萬國地理學會議●壹萬弗ノ懸賞問題●新刊書

◎批評

●中等教育新編地文學　岐陽學士

◎質疑　三件

◎應問

●眞子午線ヲ發見スル方法（楢谷國松）●鐵條敷設ノ抗內ニテ磁針ノ誤差ヲ正ス法（同人）

發行所　京橋區西紺屋町十九番地　東京地學協會

大賣捌　神田區裏神保町一番地　敬業社

一本誌廣告料五號文字一行（二十五字詰）一回金五錢三回以上割引仕候

○本誌每月一回發兌一册金拾二錢○六册前金七十二錢

○拾二册前金壹圓四拾四錢○會員ニ限リ壹册拾錢

○配達概則

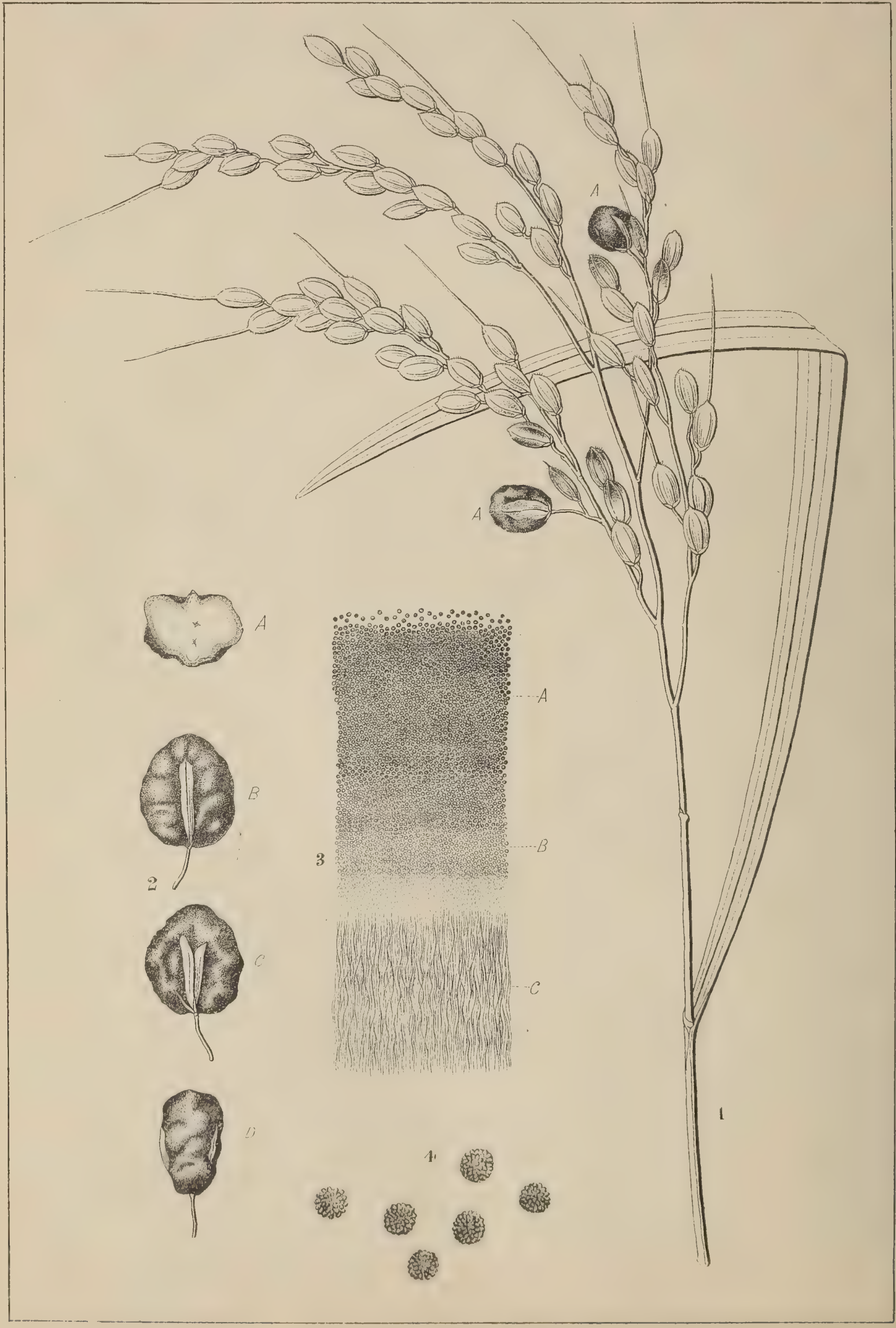
第一條　代價收受セザル內ハ縱令御注文アルモ遞送セス○第二條　前金ノ盡ル時ハ改テ御請求仕ル故次號發兌迄ニ御送金ナキ方ハ御送附相成マテ雜誌ヲ郵送セス○第三條　郵便切手ヲ以テ代價ト換用ハ謝絕ス○第四條　特ニ一册限御入用ノ向ハ一錢切手十二枚御送致ナレハ御屆可申候

明治廿六年七月七日印刷
明治廿六年七月十日發行

版權所有

編輯兼發行者　東京府平民　井上蘇吉
東京市神田區錦町三丁目一番地
印刷者　滋賀縣士族　熊田宜遜
東京市神田區錦町三丁目廿五番地
印刷所　東京市神田區錦町三丁目廿五番地　熊田活版所
發行所　東京市神田區裏神保町一番地　植物學雜誌編輯所
賣捌所　同所　敬業社
同　東京日本橋區通三丁目　丸善書店

第八版　　PL, VIII.


A
A
A
B
2
C
D
3
A
B
C
1
4

USTILAGO VIRENS, COOKE.
INE KOZI.　　イネカウジ.

植物學雜誌第七卷第七十八號 (明治二十六年八月十日)

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. VII. August 10, 1893. No. 78.]

New or Little Known Plants of Japan.

No, 34.

Ryōkichi Yatabe, Sc. D.

1

Mallotopus japonicus, Franch. et Sav.

Nom. jap. Chōji-giku. チヤウジギク.

(Order Compositæ.)

Plate VIII.

Mallotopus japonicus, Franchet et Savatier, Enum. Pl. Jap., vol. ii., p. 394.—Catal. Pl., Science College, Imp. Univ., Tōkyō, p. 95.—Catal. Pl., Bot. Gard,, Imp. Univ., Tōkyō, p. 112.

A perennial erect herb, 1—2 feet high. Stem terete (striate in dried specimens), smooth or slightly hairy, simple or with short branches above. Leaves opposite, lanceolate, acuminate, 3—5—nerved, smooth on both surfaces, sharply serrate-dentate and ciliate at the margins, connate and embracing the stem at the base, 1—4 inches long, 2—12 lines broad; those near the base of the stem elliptical; those on the peduncles alternate, lanceolate, reduced in size. Heads homogamous, tubuliflorous, campanulate, ½ inch long, in terminal cymose panicles; peduncles densely pannoso-lanate with soft white hairs, 1—2 inches long. Scales of the involucre 7—10, imbricate, erect in flower, reflexed in fruit, lanceolate, minutely pubescent on the outside, green or tinged with dark-purple, 4—5 lines long, 1—1½ lines broad, outer ones somewhat broader than inner ones. Receptacle slightly convex, alveolate, densely pilose with short white hairs. Florets about 20 in each head. Pappus-hairs 1—seriate, brownish, minutely barbellate under the lens, a little shorter than the corolla. Corolla regular, equal; its tube narrow, greenish, 1½ lines long; its limb campanulate, brownish-yellow, shortly 5-lobed at the apex, 1½ lines long, the lobes deltoid, recurved. Anther-tubes much exserted; anthers appendiculate at the apex, obtuse at the base. Style-arms recurved, flattened, somewhat thickened at the apex. Ovary linear-clavate, 2 lines long. Achenes pentagonal, faintly 10-ribbed, slightly pubescent.

This plant grows in the mountains of the central and northern parts of the country. It flowers in summer. Specimens cultivated in the Botanic Garden of the Imperial University flower in July. My

specimens are from the provinces of Echigo and Ugo.

Plate VIII. Fig. 1, upper part of plant; 2, lower part; 3, vertical section of flower-head; 4, receptacle; 5, floret; 6, vertical section of floret; 7 ovary and style; 8, anther-tube laid open; 9, upper part of pappus-hair; 10; outer scale of involucre; 11, inner scale of involucre; 12, floral diagram; 13, achenes on the receptacle; 14; achene; 15, vertical section of achene showing the embryo: 16, transvers section of achene:—*all except 1 and 2 enlarged.*

日本農業植物病害論（前號ノ續キ）

理學士 農學士 堀正太郎

第二稲ノいねこうじ病

此病患ハ穀ノ生熟季ニ際シテ顯ハルヽモノニシテ一穗ニ少キハ一個多キハ數個ノ穀粒深黄綠色ノ粉様ナル大サ指頭大ノ塊ニ變スルモノナリ是レ一種ノ害菌ノ寄生ニ依リテ生スルモノニシテ其學名ハ左ノ如シ

Ustilago virens, Cooke,（ウスヂイラゴウ、ヴィレンス）

Cooke, Grevilla VII, p. 15.

Felix Thümen, Die Pilze der Reispflanze p. 3.

Saccardo. Sylloge Fungorum, Vol. VII, Pars. II, p. 467

校正本草綱目第二十二卷三十六葉

本草圖譜第四十卷廿一葉

田中延二郎「穀類ニ寄生スル穀炎菌ノ説」二（植物學雑誌第二十八號一九八ページ第八版圖）

堀正太郎「稻ノ害菌」（植物學雑誌第四十五號四二五ページ）

本草圖譜ニ依レハ左ノ如キ記載アリ

粳穀奴（くろんぼ）穀ノ穗麥奴（くろんぼ）ノ如ク黒黴ヲ生スル物ヲ粳穀奴ト云フ

又校正本草綱目ニ依レハ

粳穀奴　穀穗煤黒者

トアリ抑モ稻穗ヲ害スル黒色ノ黴ニ數種アリ Helminthosporium sp. ノ如キ或ハ Tilletia Oryzae ノ如キ是レナリ共ニ皆穀粒ニ寄生シ其色煤黒ナリ然レ𪜈其外觀大ニ稻糀又ハ麥奴ト相違ス案スルニ本草圖譜等ニ載スル處ノ所謂粳穀奴ナルモノハ普通見ル處ノいねこうじニ疑ヒナシ左スレハ麥奴ト同シク和名ヲ

くろんぼ

ト稱スルモノ、如シ然ルニ本草綱目幷ニ本草藥名備考和訓鈔等ニハ

からすいね　粳穀奴

トアリ是ヲ以テ見レハくろんぼ　からすいね共ニ稻糀ノ和名ト知ル可シ夫レいねこうじノ名其色其狀蒸米ニテ製シタル糀ニ類似スルヲ以テ通俗之ニ稱呼スルモノ予亦其名稱ヲ襲フノ便利ナルヲ覺ユ

此病患ハ前記ノ害菌ノ寄生ニ依リテ起ルモノニシテ此害菌ノ學術的詳解ヲ記セハ左ノ如シ

肉眼的ニ粉樣、風ニ飛散シ易シ、色ハ深黄綠色ナリ。胞子ハ圓球形甚タ微小ニシテ直徑 5 μ. 色ハ深黄綠

色ナリ、表皮ニ細粒ノ突起アリ

寄主　稻ノ種子ニ寄生ス九月ヨリ十月ニ至ル

分布　外國ニアリテハ嘗テ西印度 Tinnevelly（チィンネヴェリー）ニテ發見サレシヿノ記錄アルノミ我邦ニアリテハ各地至ル處ニ之ヲ見ル

此害菌ハ稻ニ寄生シ花ノ心室內ニ於テ胞子ヲ結ブモノニシテ種子ノ生熟ト同時ニ胞子モ亦生熟ス之ヲ以テ被害ノ穀粒ハ全面深黃綠色ノ粉樣ナル胞子ヲ以テ覆ハレ不規則ナル指頭大ノ一塊トナル（第一圖a）此一塊ヲ取テ橫斷スルニ中心ハ白色ナリト雖𪜈外緣ニ近ツクニ從ヒ黃色ヲ帶ヒ其外部ハ深黃綠色ニシテ容易ニ風ニ飛散ス是レ生熟ノ胞子ナリ（第二圖）今橫斷ノ薄片ヲ製シテ顯微鏡下ニ窺フニ白色ノ部ハ即チ菌糸ノ集リニシテ其外緣ニ近ツクニ從ヒ菌糸ハ收約シテ胞子ニ分裂シ其色黃即チ未熟ノ胞子ナリ其生熟シタルモノハ深黃綠色ニシテ外部ニアリ（第三圖）此生熟シタル胞子ヲ頗ル廓大シテ檢スルニ其色深黃綠色形狀圓球ニシテ表皮ニ粒狀ノ突起多シ（第四圖）此胞子ハ風ノ爲メニ飛散シ易シ然レ𪜈飛ンテ健全ナル穀粒ニ附着スルモ再ビ穗麴病ヲ發生スルヿナク土中又ハ肥料ニ混シ或ハ穀粒ノ表面ニ附着シテ冬季ヲ經過シ翌春稻ノ播種後ニ至リテ初メテ寄生スルモノナリ然レ𪜈稻麴菌ノ詳細ナル生理的ノ研究ハ予未タ完了セサルヲ以テ今玆ニ詳細ヲ記述シ能ハス然リト雖𪜈此害菌ハ穀類菌科（Ustilagineae）ノ一ニシテ日本ニ普通ナル麥ノくろんぼ玉蜀黍ノおばけ等ト同屬ニシテ只其種ヲ異ニスルノミ故ヲ以テ其發芽ノ狀況寄生ノ方法順序等皆此等ト大同小異ナル可キハ疑ヲ入レサルナリ此等害菌ノ胞子ハ培養液即チ滋養分アル液体中ニアリテハ其養分ノ存在スル間ハ恰モ釀母菌ノ發芽スル如キ狀ヲ以テ永久繁殖スト雖𪜈通常ノ水中ニアリテハ甚タ發芽力ニ乏シキヿ諸菌學者ノ實驗シタル處

ニシテ例令稲ノ種子ト共ニ水中ニ播クモ水中ニ養分乏シキ時ハ胞子ハ遂ニ發芽スルヿナクシテ稲モ亦隨テ此害ヲ被ムルナシ然レ𪜈胞子ノ肥料中ニ混シタルモノハ盛ンニ發芽シ機ヲ得ハ直ニ寄主ニ侵入セントスルモノナリ然レ𪜈一定ノ時期アルモノニシテ頗ル矮小ナル秧（シードリング）ノ時ニアリテ其組織中ニ侵入ス其侵入點ハ根莖ノ中間ニシテ最モ軟弱ノ部分ナリ菌系ハ秧ノ生長ト共ニ其組織内ニ於テ漸々延長シ遂ニ稲ノ開花ノ時ニ至テ心室中ニ於テ胞子ヲ生スルモノナリ稲麴菌モ亦麥ノくろんぼ等ト同シク胞子ノ結ブノ時季ハ寄主ノ開花結實ト同時ニシテ其位置ハ必ス種子ノ内ニアリテ決シテ他ノ部ニ生スルヿナシ

穀炎菌類ノ胞子ハ肥料中ニ永ク其生ヲ保存シ穀炎病ヲ發生セシムルモノタルノ事實ハブレフェルト氏(Brefeld)ヴォルフ氏(Wolff)キューン氏(Kühn)等ノ實驗ニ依リテ明ニシテ穀炎菌ノ胞子ノ肥料ニ混シテ施セリ穀炎病立ロニ發生スト雖𪜈若シ穀粒ニ「アラビヤゴム」ヲ以テ胞子ニ附着セシメテ之ヲ播種スルモ發病スルヿ稀ナルヲ以テ見レハ肥料カ穀炎病ノ媒介ヲナスヿ自ラ明カナリ予嘗テ東京近傍ノ晩稲ノ播種ト同時ニ無肥料ノ鉢ニ稲麴ヲ碎キテ稲種ト混和シ之ヲ播下セシニ抽穗後結實ニ至ルモ遂ニ異狀ヲ見ス且又稲麴菌ノ胞子ヲ水中ニ浸漬シテ之ヲ驗スルモ遂ニ其發芽ヲ認メサリシ穀炎菌ノ寄主ニ侵入スルハ其矮小ノ時ニアルヲ以テ見レハ稲ノ生熟期ニ當リテ生スル處ノ稲麴菌ハ春期秧ノ苗代ニアル時ニ寄生シタルモノヽ始メテ其胞子ヲ結ヒタルモノナリ尚ホ胞子ノ發芽幷ニ寄生ノ狀況等ハ同屬異種ノ麥奴又ハ玉蜀黍ノおばけ等ノ條ニ於テ詳述ス可シ

此病患ノ損害ハ決シテ少小ニアラス然レ𪜈農家ハ稲麴發生ヲ以テ豐作ノ兆候トシ反テ之ヲ喜フモノヽ如シ愚モ亦甚タシト云フ可シ幸ニ其害麥奴ノ如ク甚タシカラスト雖𪜈地方ニ依レハ其害叉等間ニ附ス可カラサルモ

ノアリ昨二十五年筑波山下ノ稻田ニ於テハ實ニ其害劇烈ナリシヿヲ傳承セリ

圖解

第一圖ハ稻穗ノ全体ヲ示スモノニシテ「a」ハ穀粒ノ稻麴病ニ罹リ害菌ノ胞子ヲ以テ覆ハレ深黄綠色ノ塊ニ變シタルモノナリ(自然大)

第二圖ハ稻麴ヲ二倍廓大シタルモノニシテ「a」ハ横斷面ニシテ外部濃色ノ處ハ生熟シタル胞子ニシテ其色深黄綠色ナリ次ノ薄色ナル內層ハ未熟ノ胞子ニシテ其色黄色ナリ內部ハ菌糸ニシテ白色ナリ「b」及ヒ「c」ハ前後ヨリ「d」ハ側面ヨリ見タルモノニシテ穀ノ外殼ヲ破リテ內部ヨリ菌體ノ發育シタル狀ヲ呈ス（二倍廓大」

第三圖ハ第二圖「a」ノ横斷面ヲ二百三十倍廓大シタルモノニシテ「a」ハ生熟胞子「b」ハ未熟ノ胞子「c」ハ菌糸ナリ

第四圖稻麴菌ノ胞子ヲ千〇十倍廓大シタルモノナリ

植物分類餘錄

松村任三

Nymphaeaceæ. 睡蓮科

Nelumbo nucifera, *Gaertn.*

Syn. Nelumbium speciosum, Willd.

ハス　ハチス　蓮（本草綱目）

植物分類餘錄

ツユキグサ（古歌）

ミヅキグサ（古歌）

ツマナシグサ（古歌）

ミタヘグサ（古歌）

イケミグサ（古歌）

ツレナシグサ（古歌）

草木圖說十巻十葉、本草圖譜七十二及七十三巻

支那ニモ産ス

Brasenia purpurea, *Casp.*

Syn. Hydropeltis purpurea, Michx.

Brasenia peltata, Pursh.

ジユンサイ **ヌナハ**　蓴（本草綱目）

トチカツミ（彥根）

ウキヌナハ（古歌）

ネヌナハ（古歌）

馳蹄草（通雅）

本草圖譜三十四巻十一葉

Euryale ferox, Salisb.

ミヅブキ **オニバス** 芡實（本草綱目）

ミヅフヽキ（和名鈔）

ゲドウ（仙臺）

イバラバス（丹波）

本草圖譜七十六卷五葉

支那直隸ニモ產ス

Nymphaea tetragona, *Georgi.*

Syn. N. pygmaea, Ait.

ヒツヂグサ 睡蓮（本草綱目萍蓬草條）

草木圖說十卷十二葉、本草圖譜二十四卷九葉

支那ニモ產ス

Nuphar japonicum, *D C.*

カハホネ **カウホネ** 萍蓬草（本草綱目）

カハ（和方書）

カハト（仙臺）

タイコノブチ

草木圖說十巻十一葉、本草圖譜二十四巻六葉

Ceratophyllaceae. 金魚藻科

Ceratophyllum demersum, *L.*

キンギヨモ

キンチヤウモ

フサモ（江州）

エビノス（紀州）

ノボリ（但州）

クジヤクモ（勢州）

スヾモ（土州）

マツモ（江州）

小野蘭山曰ク聚藻二月水面ニ白花ヲ開ク五瓣黄蘂大サ三四分」ト盖シウメバチモヲ指スモノヽ如シ（本草啓蒙十五巻十一葉）故ニ聚藻ノ漢名ヲ除ク

Magnoliaceae. 木蘭科

Magnolia conspicua, *Salisb.*

Syn. M. Yulan, Desf.

Yulania conspicua. Spach.

Magnolia precia, Cor

M. Kobus, S. et Z. non DC.

ハクモクレン **白木蓮** 玉蘭（本草綱目時珍說）

オホコボシ（丹波）

イトマキザクラ（南部）

本草圖譜八十卷十五葉、小石川植物園草木圖說卷一ノ九圖

Magnolia obovata, Thumb.

Syn. Magnolia gracilis, Salisb.

M. purpurea, Curtis.

M. discolor, Vent.

M. denudata, Lam.

M. liliflora, Lam.

M. glauca, Th. non L.

Buergeria obovata, S. et Z.

Talauma obovata, Hance. non *Korth.*

T. Sieboldi, Miq.

Yulania japonica, Spach.

シモクレン　木蘭（本草綱目）

モクラニ（和名鈔）

モクレンゲ

小石川植物園草木圖説卷一ノ七圖

Var. discolor. DC.

サラサレンゲ

サラサモクレン

本草圖譜八十卷十四、十五葉、小石川植物園草木圖説卷一ノ八圖

Megnolia Kobus, *DC.*

コブシ　辛夷（本草綱目）

ヤマアラヽギ（和名鈔）

コブシハジカミ（和名鈔）

シキザクラ（津輕）（松前）

コボウシ（越前）（松前）

クフチノキ（木曾）

コボシ（丹波）

ヤマモクレン（美濃）

花彙木部二卷二十二、本草圖譜八十卷十七、十八葉、草木圖說木部六卷二十四葉、小石川植物園草木圖說卷一ノ十圖

Var. purpurascens, *Max.*

ムラサキコブシ　紫蘭（本草彙言）紅石蕎（花史左編）

Magnolia stellata, *Max.*

Syn Buergeria stellata. S. et Z.

シデコブシ　千葉辛夷

ヒメコブシ

ウスベニシデコブシ

本草圖譜八十卷十九表裏、草木圖說木部六卷二十六　小石川植物園草木圖說卷一ノ十一圖及十二圖

Magnolia salicifolia, *Miq.*

タムシバ（濃州）

チヤボホヽ

トリキ（會津）

クノシバ

クブシ（木曾）

コブシ（木曾、濃州）

ハカムザウ

ゴマガラ

コバノコブシ（和州）

日本產物志美濃下十三葉

Magnolia parviflora, *S. et Z.*

オホヤマレンゲ　天女花

本草圖譜八十二卷十葉小石川植物園草木說卷一ノ十三圖

Magnolia Watsoni, *Hook.*

ウケザキオホヤマレンゲ

ギヨクセイ（花戸）

小石川植物園草木圖說卷一ノ十五圖

Magnolia hypoleuca Sieb. et Zucc.

ホヽノキ　浮爛羅勒

ホシニ（蝦夷）

ブスニー（蝦夷）

小石川植物園草木圖說卷一ノ十四圖、本草圖譜八十二卷ノ八葉、花彙木部二卷ノ二

Magnolia pumila, Andr.

Syn. Liriodendron Coco, Lour.

Magnolia Coco, DC.

M. championi, Benth.

Talauma pumila, Bl.

Liriodendron liliifera, L.

トキハレンゲ

シラタマモクレン

ニクヅクダマシ

Magnolia grandiflora, L.

タイサンボク　優曇花（植物名實圖考）

小石川植物園草木圖說一ノ十六圖

Michelia compressa, *Max.*

チガタマノキ　黃心樹

チタヽマ

トキハコブシ

大師木（花戸）

大師香（花戸）

本草圖譜八十巻二十一葉、本草圖說、小石川植物園草木圖說巻一ノ十八圖
琉球國頭地方ニ産ス(田代安定氏)

Michelia fuscata, *Bl.*

Syn. Magnolia fuscata, Ander.

M. Figo, DC.

Liriodendron Figo, Lour.

Liriopsis fuscata, Spach.

カラタネヲガタマ　含笑花

小石川植物園草木圖說巻一ノ十九圖

Michelia champaca, L.

キンコウボク　旃簸迦(*Eitel.*)瞻蔔加、瞻博

小石川植物園草木圖說巻一ノ十七圖

Michelia longifolia, Bl.

ギンコウボク

Kadsura japonica, Dun.

Syn. Uvaria japonica, Th.

サネカヅラ　南五味子

ビナンカヅラ
トロヽカヅラ
ビンツケカヅラ
ビジンサウ（大坂）
ビナンセキ（伊賀）
ビランジキ（江州）

本草圖譜二十五卷六葉、花彙木部二卷二十三、草木圖說木部七卷五十六葉

Schizandra chinensis, *Baill.*

Syn. Maximowiczia chinensis, Rupr.
Kadsura chinensis, Turcz.
Sphaerostemma japonica, S. et Z.
Schizandra japonica, A. Gr.
Trichostigma repandum, S. et Z.

テウセンゴミシ　北五味子

マツブサ
ウシブドウ

本草圖譜二十五卷三葉、草木圖說木部七卷六十葉？支那直隸ニモ産ス

Schizandra nigra, *Max.*

ヤワラヅル

ワタフジ

ワタカヅラ

本草圖譜二十五卷五葉、草木圖說木部七卷五十八葉？

Illicium religiosum, *S. et Z.*

シキミ 莽草

シキミノキ（補仁本草）

カウシバ（遠州）豐後

オハナ（濃州）

ハナ（東京）

マツカウボグ（琉球大島）

ハナキ（播州）（因州）（豐前）

マツコ（勢州）

カウシバ

カウノキ（紀州）

梻（和字）

佛前草（古方書）

櫁（和玉篇）

本草圖譜二十四卷五葉、草木圖説木部四卷百五葉

Illicium Tashiroi. *Max.*

ヤエヤマシキミ

琉球八重山ニ產ス（田代安定氏）

フランク氏植物學教科書第二卷ヲ評シ幷セテ植物學近來ノ進歩ニ及ブ

池野成一郎

余ハ本雜誌前々號ニ於テフランク氏植物學教科書即原名 A. B. Frank, Lehrbuch der Botanik 第一卷ニ就キ聊批評ヲ試ミタリ（同號雜錄欄內昨年中出版外國植物書數篇ニ就キヲ參照スベシ）今ヤ其第二卷成リ余ハ之ヲ手ニシタレバ是ニ就キ愚評ヲ試ミントス讀者乞フ諒セヨ

第二卷ハ頁數四百三十二、圖畫四百十七個ナリ全卷ヲ第四、第五ノ二章ニ區分シ第四章ニ於テハ普通形狀學（アルゲマイネ、モルホロギー）ヲ第五章ニ於テハ特別形狀學（スペチエルレ、モルホロギー）即分類學（システマチック）ヲ論ズ

普通形狀學ハ劣等ト高等トヲ論セズ總テ植物全界ニ通ズル形狀學的法則ヲ叙述ス從來形狀學トイヘバ多クハ顯花植物ノ根、莖、根ノ形狀ヲ永々シク論說シタルモノニテ普通形狀學トイハンヨリ寧顯花植物形狀學ト改

名シタル方名實相稱フノ樣ナリシガ此書ノ形狀學ハ斯クノ如キ有名無實ノ形狀學ニ非ズシテ眞正ノ普通形狀學ナリ

普通形狀學ニ於テハ先ヅ植物界ニ於ケル形狀ノ區別ト題シ根、莖、葉ノ區別無キイハユル無極植物（アポラーレ、ブフランツエン）ガ進ンデ枝根ノ區別アル植物ニ至リ遂ニ根、莖、葉ノ完備セル高等植物ニ至ルノ順序ヲ陳べ生長ノ方向ト題シ植物ノ「シムメトリー」ヲ論ジ植物体部ノ位置ノ通則ト題シ分枝法、葉等ガ主軸ニ於ケル位置等ヲ論ジ終ニ植物体部ノ起原ト題シ根、莖、葉等ノ發育ヲ論ジタリ

此書ノ普通形狀學ハ能ク此學ノ法則ヲ概括シ一讀容易ニ其大意ヲ學バシムルト云フテ可ナラン

第五章特別形狀學即分類學ハ最近ノ分類法タルアドルフ、エングレル氏ノモノヲ基礎トシ之ニ多少ノ改竄ヲ加ヘタルモノトス

先ヅ植物界ヲ三大群ニ區別ス之ヲ原語ノ儘茲ニ擧グレバ

第一　Thallophyta
第二　Archegoniatae
第三　Phanerogamae

是ナリ

第一群「タロフヰータ」ハ分テ變形菌、分裂植物ベリジネア、硅藻、藻（接合藻、綠藻、車軸藻、褐藻、紅藻ニ小分ス）菌（藻菌、中間菌、高等菌ニ小分ス）ノ六部ト爲ス菌類ハ主トシテ大家ブレフエールド氏ニ從ヒタルハ云フ迄モナシ併シ高等菌ハ全然有性生殖ナシト云ヒ切ラズ（ブレフーールド氏ノ論ジタルガ如ク）

第二群ハ「アルケゴニアテー」ニシテ是ハ苔蘚類ト羊齒類トニ分ツ此部ハ別ニ他書ト異リタル所無之ガ如シ

第三群「ファネロガメー」即顯花植物ハ先ヅ初メニ羊齒類トノ關係ヲ述ベ胚囊ノ大芽胞ナルヿ或ハ花粉粒ノ小芽胞ナルヿヲ論ジ次デ之ヲ裸子、被子ノ二部ニ分チ又各々小分シテ論ジタリ被子部ニ於テハ從來ノ書ト異リテ先ヅ榮養器官ヲ論ジ次デ生殖器官ニ及ボセリ從來ノ書ニ於テハ被子部ニ於テハ唯生殖器官ノミヲ論ジ榮養器官ヲ論ゼズ何トナレバ其榮養器官ハ普通形狀學ニ於テ詳ニ論ズルヲ常トスレバナリ然レ𪜈此書ニ於テハ前段論ズル如ク普通形狀學ニ於テハ植物全界ノ通則ノミヲ論ジテ顯花植物ノ形狀ニ説キ及ボサヾルヲ以テ今玆ニ於テ之ヲ論ズルナリ是順序ヨリ考フルモ至極適當ナルヿトス顯花植物ノ總論終リテ其分科ヲ論ズ

卷末ニハ詳細ナル見出シアリ以テ書中論ズル所ヲ撿索スルノ便ニ供ス

此書ハ全体ニ云ヘバ第一卷ニ劣ラザル好書ト云フベク其尤モ得意トスル所ハ舊キ説ヲ棄テ輓近ノ研究ヲ採用シタルナリ故ニ近世植物學ヲ學バントスル者ハ此書ヲ讀ンデ之ヲ學ブヨリ容易ナルハナシ讀者若シザツクス氏ガ千八百七十四年ノ書ト此書トヲ比較對照スレバ此年間ニ於テ植物學ガ實ニ驚クベキ進歩ヲ爲シタルヲ知ルニ足ラン

此書ガ最近ノ研究ヲ參照シテ編輯シタルモノタルヤ以上論ズルガ如シ然レドモ從來ノ説ヲ打破スルノ研究ノ二三年前以來世ニ出デシモノニシテ未ダ此書ニ採用セラレザルモノアリ余ハ今余ガ氣付キタルヿ二三ヲ摘出シテ以テ讀者ニ示サン

第二百四十九頁ニ於テ裸子植物ノ受精ヲ論ズルニ當リ著者ハ花粉粒ガ大細胞ト小細胞トニ分裂シ大細胞ガ花粉管トナリ其細胞核ガ雄核ト爲テ作用スルト説ケリ是ストラスブルゲル氏ガ從來ノ説ニシテ學者ノ皆一致セ

ル所ナリキ然レ𪜈被子植物ニ於テ花粉粒ノ小細胞ガ花粉管ヲ爲スモノタルヤ明ナリトス然レバ被子ト裸子トニ於テ花粉管ヲ爲ス所ノ細胞ノ異ルハ奇ト云フノ外ナカリキ然ル所露人ベラーイエッフ氏(Belajeff)ハTaxus baccataノ花粉粒ヲ研究シストスブルゲル氏ノ説ノ誤レルヲ正シ此植物ニ於テハ小細胞ガ花粉管ヲ爲スヿ被子植物ニ於ケルト一般ナルヿヲ發見シタリ是一昨年ノヿナリキ而シテストスブルゲル氏モ自ラまつ科諸屬ノ花粉粒ヲ研究シ自己ノ説ノ誤レルヲ正シベラーイエッフ氏ノ説ヲ確メタレバ此説愈以テ確實トナリヌサレバフランク氏ノ書ニ記スル裸子類ノ受精論ハ既ニ業ニ陳腐ニ屬スルニ至レリ

第三百三十一頁ニ於テ著者ハ被子植物ノ受精ヲ論ズルニ當リ單ニ雄核ト雌核トガ合着スルガ如クニ説ケリ然レ𪜈一昨年ノ佛人ギギヤール氏ガ有名ナル研究以來植物受精ノ説ハ其面目ヲ改メタリ抑動物細胞ニ於テハ細胞核ノ外引力球ナルモノアリテ存スルヿハ人ノ知ル所ナリシト雖𪜈植物細胞ニ於テ之レヲ見タルモノナシ然ルニギギヤール氏ハ植物細胞ニ於テ之ヲ創見シ其受精ニ際シ特別ノ行爲アルヿヲ發見セリ即各細胞核ニハ必二個ノ引力球アリ受精ニ際シテハ啻ニ雄核ト雌核トガ合着スルノミナラズ尙又雄核ノ引力球ト雌核ノ引力球トガ合着スルヿヲ發見セリ是植物受精論ノ大進歩ノ大變革ナリ

第三百三十六頁ニ於テ著者ハトイブ氏ガもくまわう屬受精ノ研究ヲ叙述シ花粉管ガ胚珠ノ合點ヨリ入ルモノハ此屬ニ限ルガ如ク説ケリト雖𪜈今日ハ決シテ然ラズ露人ナハシン氏(Nawaschin)ガ研究ニ因レバかば屬ニ於テモ斯クノ如キ受精法アルガ如シ是極テ瑣細ノヿト雖𪜈又注意スベキヿトス

以上説ク所ハ決シテフランク氏ノ書ノ欠點ヲ列擧セン爲メニハアラズフランク氏ニシテ固ヨリ是等研究ヲ知ラザル筈ハナシ唯其書編纂既ニ成リテ之ヲ版ニ附シタル後ナレバ之ヲ改正スルノ暇ナカリシノミ余ハ唯近來

植物學進步ノ迅速ニシテ學者ガ一書ヲ編纂シ之ヲ未ダ世ニ公ニセザルニ既ニ早ク幾多ノ研究アリテ其書ニ多クノ陳腐ナル箇所ヲ生ゼシムルコヲ云フノミ嗚呼植物學ノ進歩ハ迅速ニシテ偉大ナリ植物學ヲ修ムルモノ豈ニ夫レ注意細心常ニ世界學術ノ大勢ヲ觀察セズシテ可ナランヤ哉

日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）

澤田駒次郎

藥品

第一　丁香　Caryophylli.

丁香ハ本植物ノ未開ノ花ヲ取リ乾燥セシモノニシテ日本藥局方ニハ之ヲ藥用トス又英國印度合衆國藥局方ニモ亦之ヲ用フ

收穫　丁香ノ採集法ハ土地ニ因リ差異アリ亞弗利加東岸ナル桑給巴爾及ビペンバ等ニ於テハ花蕾ノ綠色變シテ紅色ヲ呈スルニ至リ直チニ午ヲ以テ之ヲ採集ス採集者ハ踏臺ヲ持チ運ヒテ高所ノモノヲ採集シ然ル後大氣中ニ曝露シ日光ニテ乾燥ス又モラツクス島等ニ於テハ或ハ單ニ午ニテ採集シ或ハ樹下ニ綿布ヲ敷キ長キ竹竿ニテ打撃シテ花蕾ヲ脱落セシメ之ヲ收メテ日光ニ曝シテ乾燥ス然レトモ間々熱度ヲ用ヒテ乾燥スルコトアリ本植物ハ栽植ヨリ六年ヲ經レバ花蕾ヲ採集シ得ベシ十二年ニ至リ其收量過多ニシテ一株ヨリ平均四「キロガラム」ノ花蕾ヲ得ルト雖モ年々多少差異アリ爾後漸次其收穫減少シ二十年ニ至リ枯死スルヲ通常トス

丁香ノ採集期ハ年二回ニシテ六月及ビ十二月トス

性狀　丁香ハ乾燥シタル花蕾ニシテ其萼ハ長サ大約一「センチメートル」太サ三「ミリメートル」ニ過キザル長

圓壔形ニシテ稍々方形ヲ帶ヒ先頂四個ニ缺刻シ其截片三角形ヲ爲シ其質揉革樣ニシテ濃褐色ヲ呈シ其內部ニハ四個ノ花瓣アリテ數多ノ雄蘂ヲ圍擁シ雌蘂ヲ壓迫ス雌蘂ハ其基礎部著シク膨脹シ花瓣及ビ雄蘂ヲ附着ス實礎ハ蕚ノ下部ニ在リテ大約二十個ノ卵子ヲ有ス花床ノ下部即チ空洞ナラザル部分ハ長サ間々實礎ニ四倍シ其橫斷面ハ鈍菱形或ハ橢圓形ヲ顯ハシ其外部ニ二列乃至三列ヲ爲シ密ニ排置セル著大ノ油室ヲ存ス此油室ハ縱斷面ニ於テハ圓形若クハ卵圓形ヲナシ稍々壓扁セラル此油室ハ溶解性ナリトス

本品ハ其花床ニ於テ油室ヲ存スルノミナラス其他ノ諸器官モ亦之ヲ具有シ揮發油ヲ含ムコト多量ナルニ因リ之ヲ製出スルコト容易ナリ叉內部ノ組織中ニハ多クノ脉管ヲ有シ叉蓚酸加爾曳謨ヲ包有スル細胞ヲ箝在ス

本品ノ氣味ハ特異峻烈ニシテ芳香性ナリ

本品ハ其產地ノ異ナルニ從ヒ其形狀彩色等ニ差異アリ故ニ坊間ニ鬻賣スルモノハ其產地ヲ以テ之ヲ區別ス

良好ノ丁香ハ肥大ニシテ重ク濃褐色ヲ呈シ爪ニテ壓スレハ油ヲ發出ス下等品ニ在テハ稍々細小ニシテ淡褐色ヲ呈シ其質輕鬆多少皺紋ヲ帶ビ揮發油ヲ含ムコト多ラザルニ因リ其氣味下劣ナリ桑給巴爾ヨリ產出スルモノハ其色比較的濃厚ニシテ實礎長ク下部淡明西印度ボールボン(Bourban)ヨリ產出スルモノ之ニ類似ス東印度モルッケン諸島アムボイナ諸島等ヨリ出スモノヲ最良品トス此丁香ハ其色淡明ニシテ重ク特ニ著大ナリ西印度アンチルレンヨリ產スルモノハ最下等品ニシテ細小其色濃厚ナリ此丁香ハ佛蘭西ニ於テノミ用フ叉龍動府市場ニテ鬻クモノハ其價格ノ順序ニ因リ記載スレバペーナング產丁香ベンクーレン產丁香アムホイナ產丁香桑給巴爾產丁香ニシテカイネ島及ヒ西印度ヨリ產スルヲ下等トス

近來桑給巴爾及ヒペンパ諸島ニ於テ丁香ヲ產出スルコト巨額ニシテ一千八百七十二年ニハ一期ノ收量千五百

萬磅ニ達セリ爾後桑給巴爾ニ於テ暴風ノ害ヲ受ケ其收穫著シク減少セシト雖𪜈現今ニ至リ前時ニ回復セリ一千八百七十一年ヨリ七十二年ニ於テ孟買ヲ經テ英國ヘ輸入シタル桑給巴爾産丁香ハ三千二百七十九「センチウエート」ニシテ桑給巴爾ヨリ合衆國及ヒ歐羅巴諸國等ヘ向ケ直チニ輸出セシ丁香ハ極メテ多量ナリトス日本藥局方注解ニ云凡ソ揮發油分ニ富メル良好ノ丁香ハ峻烈ノ芳香ヲ有シ之ヲ以テ紙面ヲ壓スレハ油斑ヲ留ム而メ又良好ノ丁香ハ之ヲ水中ニ投スル𬼀ハ沈下シ或ハ水面ニ縱直ニ浮遊スレ𪜈揮發油分ヲ抽出セルモノ或ハ陳舊ニシテ自然ノ蒸發ニ由リ多少揮發油分ヲ消失セシモノハ水面ニ横ハリテ浮遊スベシ

丁香ノ粉末ヲ購求スル𬼀ハ宜ク之ヲ顯微鏡ニ檢視スヘシ異物ヲ混有スル𬼀ハ輙ク之ヲ發見スルヲ得可シ而メ揮發油ノ量ハ十五「ペルセント」ニ下ル可ラス又灰分ハ六「ペルセント」ニ超ユ可ラス

丁香莖 (Stipites Caryophyllcrum) ナルモノアリ是レ丁香ノ莖ニシテ丁香粉末ハ往々之ヲ以テ贋僞セルヿアリ而メ丁香ハ其揮發油ノ含量六「ペルセント」以下ニ在リ

又母丁香 (Anthophylli) ナルモノアリ丁香ノ未熟果實ニシテ揮發油ノ含量甚タ少ナシ」トアリ

成分　丁香ハ揮發油ヲ含ムコト多量ニシテ水ト共ニ之ヲ蒸餾スレバ大約二十「ペルセント」ヲ製出ス之ヲ丁香油ト云フ丁香ノ特異芳香性ノ氣味ハ此揮發油ニ基因ス又丁香ハ「カリチフヰルリン」(Caryophyllin) ナル化合品ノ小量ヲ含有ス此化合品ハ細小ノ針狀結晶ヲ爲シ中性ノ反應ヲ徵シ無味無臭ニシテ老利兒結兒斯樟腦ト同成分異体トス其他夛量ノ護謨椮酸撒里矢爾酸等ヲ含有ス

第二　丁香油　丁字油　Oleum Caryophyllorum.

丁香油ハ丁香ニ水ヲ和シ蒸餾シテ得タル揮發油ニシテ日本藥局方ニハ之ヲ以テ藥用トス

製造法　丁香油ハ丁香ニ水ヲ加ヘテ蒸餾ス而シテ充分ニ揮發油ヲ蒸餾セシムルニハ一回蒸餾シタル丁香ニ更ニ水ヲ加ヘテ再三蒸餾スルヲ緊要トス或ハ水ニ食鹽ヲ加ヘテ蒸餾ス是レ水ノ沸騰點ヲ高メル爲メナリ此蒸餾ニ際シ高度ノ蒸氣ヲ用フルヲ利益トス

丁香ハ丁香油ヲ含有スルコト多量ナルヲ以テ良好ノモノハ十七乃至二十「ペルセント」ノ丁香油ヲ生ズ現今英國藥局方ニ用フル良好ノ丁香油ハ龍動府ニテ製造スト云フ

性狀　丁香油ハ其新鮮ナルニ當リ無色若クハ淡黃色稀薄ノ液ヲ爲スト雖𪜈時日ヲ經ルニ從ヒ漸次黃色乃至類褐色ノ濃稠ノ液ニ變ス之ヲ水中ニ滴中スレバ器中ニ沈下シ比重ハ一、〇三四乃至一、〇六二ニシテ分極光線ノ平面ニ感覺ヲ徵セス丁香ノ氣味ヲ有シ酒精ニハ隨意ニ溶解シ硫化炭素ニ混和スレバ溷濁ノ液ヲ生ズ改正日本藥局方ニ云丁香油ハ丁香ヨリ水ヲ和シ蒸餾シテ得タル澄明類黃色或ハ類褐色稍〻稠厚ノ揮發油ニシテ酒精ニハ隨意ノ比例ニ於テ混和ス比重一、〇四乃至一、〇六ナリ

本品五滴エ石灰水十立方「センチメートル」ヲ和シテ強ク振盪スレハ柔軟絮狀ノ結晶塊ヲ分離ス又本品二滴ヲ酒精四立方「センチメートル」ニ溶解シ之ニ過格魯兒鐵溶液一滴ヲ加フレバ綠色ヲ呈ス

本品一分ヲ熱湯百分ニ和シテ振盪シ冷後濾過シテ得タル液ハ中性ノ反應ヲ徵シ之ニ過格魯兒鐵溶液ヲ加フルニ暫時ニシテ消失スル帶灰綠色ヲ呈スルモ藍色ヲ現ハス可カラズ

本品ニ五倍容量ノ水ヲ以テ稀釋シタル醋酸ヲ和シ振蘯シ濾過シテ得タル液ハ硫化水素ニ由テ變化ス可カラストアリ又日本藥局方注解ニ云本品ハ本條ニ揭クル左ノ試驗ニ合格スルヲ要ス

（第一）本品一分ヲ熱湯百分ニ和シテ振盪シ冷後濾過シテ得タル液ハ中性ノ反應ヲ徵シ之ニ過格魯兒鐵溶液ヲ

加フルニ暫時ニシテ消失スル帶灰綠色ヲ呈スルモ藍色ヲ現ハス可カラズ」兹ニ酸性ノ反應ヲ徵シ又藍色ヲ呈スルモノハ石炭酸ヲ夾雜ス但シ永ク時日ヲ經タルモノハ微ニ酸性ヲ呈スルヲ常トス（第二）本品ニ五倍量ノ水ヲ以テ稀釋シタル醋酸ヲ和シ振盪シ濾過シテ得タル液ハ硫化水素ニ由テ變化ス可カラス」是レ鉛、銅等ノ如キ金屬ノ夾雜ヲ檢明スルモノナリ而シテ本品中ニ鉛等ノ如キ金屬ヲ混和スルヤ之ニ醋酸性ノ水ヲ和シテ振盪スルトキハ其水ヨリ攝收セラレ硫化水素ニ由テ暗色ノ溷濁ヲ呈ス

本品ヲ檢査スルニ第一ニハ其比重ヲ計測スルヲ必要トス而〆其比重本文ニ掲クル所ヨリ低キモノハ的列並底油等ノ如キ他ノ揮發油ヲ含ム、本品ノ比重一、〇四以上ニ在ルヤ否ヤヲ簡便ニ檢査スルニハ醋酸（比重一・〇四八第一丁ヲ見ヨ）又ハ五「ペルセント」ノ食鹽溶液（比重一・〇四一）ヲ試驗管ニ注入シ之ニ丁香油一滴ヲ滴加スヘシ其比重右ニ掲クル所ヨリ高キモノハ試驗管底ニ沈下スヘシ其他酒精ニハ隨意ノ比例ニ由テ混和スルヤ否ヲ試ムヘシ」トアリ

成分　丁香油ハ「チイケノール」(Eugenol.)ナル一種ノ「フエノール」及ヒ小量ノ「テルペン」(Terpen)ヨリ成リ「チイケノール」($C_6H_3(CH_2\overset{1}{C}HCH.CH_2)O\overset{2}{C}H_3(\overset{3}{O}H)$)ハ其質重シ故ニ之ヲ重質丁香油ト名ク「テルペン」($C_{10}H_{16}$)ハ極メテ高度ノ溫度ニ因テ沸騰シ其質輕シ故ニ之ヲ輕質丁香油ト云フ

（以下次號）

Acanthopeltis japonica Okamura ニ就テ

岡村金太郎

昨年中余ハ本邦太平洋沿岸中稍溫暖ノ海ニ多ク產スルてんぐさ科（Gelidiaceæ）中ノ一植物ゆひきりト云ヘル種類ヲ研究シ、矢田部先生ノ贊助ヲ得テ之ニ Acanthopeltis ト云ヘル新屬名ヲ命シ japonica ト云ヘル種

Acanthopeltis Japonica Okamura ニ就テ

名ヲ附シ先生ノ好意ニ依テ之ヲ先生ノ編著ニ係ル二十五年發兌ノ日本植物圖解卷一第二第百五十七頁—百六十頁第三十九版ニ於テ之ヲ世ニ公ニセリ然ルニ今年一月二十六日附ヲ以テ獨逸グライフスワルドノ大學教授Fr. Schmitz 氏ヨリ書ヲ寄セ余ノ命名シタル *Acanthopeltis japonica* Okamura, *Ptilota dentata* Okamura 及ビ他二三種類ヲ送ランヿヲ請ハレタリ因テ余ハ之ニ應スルニ以上ノ種類及ビ他ノ三四ノ標品ヲ以テシ且余ノ研究セル一二ノ報告及ビ一新種ノ記載及ビ圖等ヲ送リ氏ノ斷定ヲ請ヘリ然ルニ五月廿五日附ヲ以テ書ヲ送リ仔細ニ余ノ送リタル標品及ヒ報告等ニ就テ氏ノ意見ヲ報ジ余ノ曩ニ命シタル Ptilota dentata Okamura ハ全ク新種ナルヿヲ報ジ且ツ Acanthopeltis japonica ニ就テ氏ノ研究セル結果ノ La Nuova Notarisia 千八百九十三年三月發兌第四集第十九—二十二頁ニ登載セル論文ヲ送リ越サレタリ因テ左ニ之ヲ繙譯シテ以テ紙上ニ報ズ他ノ種類ニ就テハ他日別ニ記スル所アルベシ

一兩日前余ハ教授ドクトル、ジービーデ、トニー氏ノ好意ニ依リ Acanthopeltis japonica Okamura (R. Yatabe Iconographia florae japonicae vol. 1. part 2. p. 157—160 pl. XXXIX.）ノ圖解及記載ヲ知ルヿヲ得タリ余ハ此新ニ記載セラレタル種類ヲ見ルニ當テ一驚ヲ喫シタリ此種ハ數年前余ノ已ニ研究スル所ニシテ且ツ余ガ物シタル紅藻類ノ屬名錄中ニ Schottmüllera paradoxa Grnnow ノ名ヲ以テ記シタルモノナレハナリ

プルシアノ東亞探撿書(Preussischen Expedition nach Ostasien 1866) 海藻ノ部第百十七頁ニ於テ G. v. Martens 氏ハ E. V. Martens 及ビ E. Schottmüller ノ兩氏ガ橫濱ニ於テ採集シタル一ノ標品ヲ Castraltia Salicornoides Richard トシテ記載セリ其後ドクトル、エー、グルーノウ (A. Grunow) 氏ハベルリン博物館ノ措葉室ニ保存セル Schottmüller 氏ノ採集ニ係ル標品ニ就テ研究シ遂ニ此標品ニ附シタル名及ヒ位置ノ不當ナル

ヿヲ發見シ全クてんぐさ科ニ屬スベキ特殊ノ藻類ナルヿヲ知リ命ズルニ Schottmüllera paradoxa Grunow ノ名ヲ以テセリ

余モ一千八百八十七年ノ秋ドクトルグルーノウ氏ニ依リテ此海藻ヲ知リ當時此種ノ造構及ビ囊果ヲ研究シ氏ノ賛助ヲ得テ他日出版ノ資ニ充ツル爲メ Schottmüllera ノ屬ノ性質ヲ記シ置キタリ

其後一千八百八十九年十二月余ノ紅藻類ノ屬名錄ヲ出版スル際てんぐさ科ノ屬中ニ叉 Schottmüllera Grunow 1889 (Typ. Sch. paradoxa Grun.) ノ名ヲ記シ此際心ニ思ヘラクグルーノウ氏モ本年中ニハ必ズ他ノ新種ト共ニ此新屬ヲ出版スルナルベシト然ルニ當時氏ノ出版書中ニ *Schottmüllera* ナル屬ハ全ク記載セラレザリキ而シテ余ノ知レル參考書中ニハ今日ニ至ル迄此屬ニ就テ出版シタルモノハ余ノ屬名錄ニ記シタル名ノ他ニアルヲ知ラズ然レドモ氏ノ命名セル新屬ハ其性ノ記載若クハ圖解ヲ公ニシタルニアラザルヲ以テ決シテ確定シタルモノトナス能ハズ故ヲ以テ *Schottmüllera* Grunow ノ名ハ充分研究シタル性質及ビ明瞭ナル圖解ヲ以テ正當ニ出版シタル新屬名ニ讓ラザルヲ得ザルコソ殘念ナレ

Acanthopeltis Okamura ト云ヘル屬名コソ即チ新ニ出版セラレタル屬名ナリ而シテ前ニモ陳タル如ク上ニ引用セル日本ノ書籍ノ圖解ヲ以テ見ルニ Acanthopeltis japonica Okamura ハ余ノ屬名錄ニ記シタル Schottmüllera paradoxa Grunow 及ビマルテンス氏ノプルシア東亞探檢書中ノ Castraltia salicornoides Richard ト全ク同一種ナルヿハ明カナリ

余ノ此海藻ノ研究ニ依ルニ岡村氏ガ氏ノ新屬ニ與ヘタル性質ハ其最要點ニ於テ少シク訂正セザルヲ得ズ

氏ハ氏ノ屬 Acanthopeltis ニ就テ曰ク「体ハ硬固ニシテ圓柱狀再三稍叉狀ニ分岐シ……小枝ハ扁平ニ開張シ

Acanthopeltis Japonica Okamura ニ就テ

テ莖ノ周圍ニ稍螺旋狀ニ附着シテ集リ刺狀突起ヲ以テ密ニ蔽ハレタリ」ト種ノ性質モ亦此ト同様ナリ曰ク「主ナル枝ハ稍互生シ上部ノモノハ稍叉狀若クハ叉狀様互生ナリ小枝ハ稍圓形ニシテ巾殆三ミ、メ質厚クシテ基脚半バ莖ヲ抱キ縁邊波狀若クハ不規則ニ缺裂シ兩面ニ單條若クハ分岐セル刺狀突起ヲ有シ莖ノ下部ナル老成部ヲ除ク外密ニ枝ヲ蔽ヘリ其内或ハ短柄アル葉狀体ニ開展シテ楕圓形若クハ圓形ヲナシ平滑或ハ刺ヲ有スルモノアリ………」ト

今此記載ニ依テ考フル時ハ誰人モ思ヘルナラン枝ノ頂端成長シテ更ニ枝ヲ生ズル時ハ小枝トナリテ側面ニ生ジ此小枝通常莖ヲ圍メル圓キ葉狀体トナリ時トシテハ短柄ヲ有スル小サキ葉トナルナリト然レ𪜈余ヲ以テ見ルニ少シク異ナルヿアリ枝ノ上端ヨリ更ニ成長スル時ハ其上端ニアル圓キ葉狀体ノ中心ヨリ一ノ小サキ枝ヲ生ジ此者後ニ至テ一ノ短柄アル小サキ楯狀ノモノトナルナリ而シテ此柄ハ稍葉ノ中點ヲ外ツレテ存ジ且ツ一方ノ側ニノミ廣ガレル楯狀ノ葉トナルナリ此小サキ枝ハ上部ニ至テ再ビ其中點ヨリ前同様ノ葉狀ノ枝ヲ生ジ此者又更ニ小枝ヲ生ズルヿ前ニ全ジ之ニ依テ枝態ハ全ク層々相重ナレル小サキ圓形ノ短柄アル葉ノ連鎖セルモノヨリナルモノヽ如シ(只岡村氏ノ説ニ從ヘバ時ニ小枝ノ稍長キ有平ノ扁タキ小葉ニ延ブルヿアリ)

前段記載セル葉狀体ハ概ネ大小不同ナル隆起ヲ以テ密ニ蔽ハレ且兩面ニ無數ノ短キ圓キ刺ヲ揩ヘリ此葉狀体ノ縁邊ヨリ一定ノ數ナキ小サキ卵圓狀ノ短柄ヲ有スル扁キ枝ヲ生ジ後結實部ニ變ズ而シテ余ガ研究シタル標品ニハ此結實部タル葉ハ常ニ囊果ノミナリシガ岡村氏ハ又同一ナル枝ニ四分胞子ノアルモノヲ示セリ(岡村曰ク囊果ト四分胞子トハ全ク別様ニ生ズレバナリ)此兩様ノ器官ハ其主要ノ造搆上てんぐさ屬(Gelidumト全ク同一ナリ

以上記載シタル如ク Acanthopeltis ノ生長ノ方法ハ Gelidum 屬ノ種類ノ通常ノ分岐法トハ實ニ異ナルガ如シト雖モてんぐさ科ノ他ノ屬ニハ Acanthopeltis ト殆ド密ニ相類スルモノアリ即チ Ptilophora spissa (Suhr) Kützing ニアリテハ Acanthopeltis ニ於ケルト同一ニ隨分大ナル葉ノ如キ枝ヲ有シ小塊狀ノ隆起ト刺トヲ以テ蔽ハレ其長ク延長シ羽狀ニ分裂セル葉ノ表面ヨリハ小サキ枝ノ多數ニ生ズルアリ又 Porphyroglossum Zollingeri Kütz ニ於テハ全ク分裂セザル葉ノ如キ扁平体ノ小ナルモノニ小サキ枝ノ如キモノヲ生ズルヿ往々ニシテアリ

余ノ研究ニ依リテ余ハ、Acanthopeltis 屬ノ性質ヲ稍變ズルヿ左ノ如シ

Thallus unterwärts stielrund, glatt, oberwärts dicht geringelt durch scheibenförmige, einseitig stärker vorspringende Blattsäume, seitlich oder fast gabelig verzweigt, aufgebaut aus zahlreichen, dicht aneinander gereihten, kurzgestielten, schildförmigen Blattscheiben, die durch kurze stielrunde, etwas excentrisch inserirte Stielchen verbunden sind; die einzelnen Scheiben fast horizontal, dicklich, am Rande unregelmässig gezähnelt, auf beiden Flachseiten durch zahlsreiche, einfache oderverästelte, dickliche Papillen höckerig und durch zahlreiche, kurze, steife Stachelhaare rauh; Spitzenwachsthum der Sprosse sympodial fortschreitend unter proliferirendem Hervorwachsen kleiner Folgesprosse, die in Gestalt gestielter schildförmiger Blättchen je aus der Mitte der jeweilig obersten Scheibe sich hervorstrecken. Thallusbau sehr dicht, analog *Gelidium*.—Fruchtblättchen ganz kleine, flache, gestielte Fiederchen, die aus dem Rande der Thallusscheiben in wechselnder Anzahl proliferirend hervorwachsens. Cystocarpien flach-oval, kurzgestielt, zweifächerig, analog *Gelidium*. Sporangien an beiden Flachseiten des Fruchtblättchens in sehr grosser Anzahl der nemathecienartig verdickten Aussenrinde eingestreut, paarig getheilt (analog *Gelidium*).

以上譯述セル如ク余ノ命名シタル海藻モ早ク既ニ外人ノ研究命名シタル所ナリシガ余ノ出版却テ彼ヨリ遲レ走セニナリシヲ以テ余ノ命名ヲ存スルヿニナリタルニテ只怪俄ノ功名ト云ハマクノミ氏ノ研究ノ密ナル同學者ニ懇切ナル敬伏ノ外ナシ

◎雜錄

○植物採集雜記

松村任三

明治十五年七月十六日余豐前國小倉ヨリ椎田ニ到リシヿアリ此間九里半許ト記臆セリ路傍ニ左ノ如キ植物ヲ目擊セリ

楊梅（ヤマモヽ）、クロガネモチ、松楊（チシヤノキ）、ヒナギヽヤウ（リ）花アノブノキ、ソクシンラン、イヌグス、天竺桂（ヤブニクケイ）、ウツボグサ、カウバウスゲ、梔子（クチナシ）（原野ニ自生ス）蔓荊（ハマガウ）、睡蓮（ヒツヂグサ）、イタチシダ、ベニシダ、クマワラビ、ホシダ、ホラシノブ、タチシノブ、薇、蕨、ハマナデシコ、（栽植）イセハナビ、カニツリグサ、ギヤウギシバ、櫨（ハゼノキ）（園際ニ植栽ス）等是レナリ

明治十五年七月十七日豐前國岩嶽山ニ登リテ植物ヲ採集セシコトアリ山坊佐々木氏ニ三夜投宿セリ此山上山谷ニ目擊セル植物ハ左ノ如シ

カナクギ（山上ノ社前ニ合抱ノ大樹アリ）

ヒノキ　コシアブラ　ボダイジユ（同社前ニ栽植ス）

スギ　ウリハダカヘデ　アカメガシ

シラカシ
ソロ
クサギ
シロダモ
マユミ
シキミ
ムベ
タマツバキ開花
ユヅリハ
コバンノキ結實
モチノキ
タラノキ
ドクダミ
アキノキリンサウ
ツガ方言トガ
ミツバアケビ
アケビ

ミヤマシキミ
ウラジロノキ
ヒサカキ
コバノガマズミ
ノブノキ（方言ノグルミ薪材トス）
タカノツメ
シラハシノキ
フシノキ
ウバユリ
ゼンマイ
シヤガシラ
ノブドウ
ウラジロガシ
フキ
オホバコ
ホド
ナツフヂ

ヤブムラサキ
シラキ
リヤウブ
スヽキ
シヒノキ
カラスウリ
ウド
ウツボグサ
イヌガヤ
キヅタ
ナツヅタ
イタヤカヘデ
ヒメシヤガ
井ノコヅチ
ムラサキツリフネ
キツネノボタン
ウマノアシガタ

ヤマシバ
ヤダケ
ハマクサギ
アカヾシ
ヤブクワンダウ（重瓣）
ヲトコヘシ
ヲミナヘシ
センニンサウ
ボタンヅル
ミヅキ
ダイコンサウ
ウツギ
ニハトコ

カウゾリナ
ウマノミツバ
ミツバ
シヤガ
アヲキ
ヤマカウバシ
ツタウルシ
ヤマウルシ
アセビ（多シ）
ワサビ（自生アリト云フ）

オカメザヽ
ユキノシタ
クヅ
カマツカ

○豐前岩嶽山高サ凡ソ二千二百英尺同犬ヶ嶽高サ凡ソ三千三百尺犬ヶ嶽ノ絶頂ニハ樹木ナシ唯芒ヲ以テ蔽ハル

○豐前築城郡下本庄村ニ樟ノ大樹アリ有名ナリ

○宇佐八幡社ノ境内ニヤマビハ（清風藤科）イチヰガシ（大樹）ミヽズバイ、タブノキ、シラカシ等アリテ繁茂ス（未完）

○「ヘーマトキシリン」液　オ、サ、

教授 S. H. Gage 氏ハ防腐「ヘーマトキシリン」液ノ製法ヲ發見セリ氏曰組織學上使用スル染藥中最滿足ニシテ且一般ニ適用セラルヽ染藥ハ「ヘーマトキシリン」ニ無若而シテ其水溶液ハ概シテ多量ノ「アルコール」ヲ以テ製セシ溶液ヨリ善良ナルハ經驗ノ徵證セル所ナルモ水溶液ハ頓テ黑キ沈澱物ヲ瓶中ニ生シ細粒充滿シ且往往菌絲ヲ顯出ナスハ顯微鏡家ノ皆知ル處ナリ………而シテ氏ハ左ノ法方ニヨリ水溶液ヲ製セシニ之レヲ調劑セシヨリ八ケ月ヲ經過セシモ更ニ異狀ヲ呈スルヿナシトイフ

蒸溜水　三百 ccm.　剝篤斯明礬十グラム　抱水「コロラール」六グラム　「ヘーマトキシリン」結晶　十分一グラム

右溶液ヲ製スルヿハ先瑪瑙石製若クハ磁器製ノ皿ニ水ヲ入レ明礬粉又ハ細片ヲ加ヘ五分間沸騰セシメ而シテ待其冷却スルヲ待チテ抱水「コロラール」及ヒ「ヘーマトキシリン」ヲ加フベシ「ヘーマトキシリン」ハ始メ五乃至十ccm. ノ無水「アルコール」若クハ九十五%ノ「アルコール」ニ解キテ加フルヲ便益トス

如此ナシテ製シタル「ヘーマトキシリン」液ハ始薄色ナルモ一、二週間ノ中ニハ暗紫色ヲ呈ス、沸騰セシメシハ水中若クハ明礬中ノ生物ヲ死セシムルガ爲メナリ抱水「コロラール」ヲ加フルハ若生物ノ芽等液中ニ入ルヿアルモ發生セシメザルガ爲メナリ

若シ濃厚液ヲ要セバ「ヘーマトキシリン」ヲ加フベシ又少シク稀薄ナルヲ要セバ蒸溜水ヲ加フルモ可ナリ然レ𪜈明礬、「コロラール」、及ビ水ヲ交合セシモノヲ以テ稀薄トナスヲ最良トス

○理學士白井光太郎氏著（中等）植物學教科書批評　ふ、け、

雜錄

植物學雜誌第七十六號ニ於テ該書ノ大体ニ就キ記セシガ此頃漸ク正編ヲ讀ミ終リタレハ此ニ少シク其詳細ヲ記シ前記ノ欠ヲ補ハントス

此書ハ分テ五篇トナシ追篇植物ノ形態組織生理分類効用ヲ說レタリ第一篇「形態學」ニハ形態概論、莖、葉、葉ノ內部構造、花、花ノ圖式、花序、果實、種子、根、第二篇(組織學)ニハ原形質、植物細胞、細胞膜、細胞生成法、細胞含有物、組織、組織系、胞隙及分泌物貯藏器、第三篇(生理學)ニハ植物体中ノ水分、有機質ノ運行、植物ノ食料、植物体中ニ起ル化學的作用、植物ト外力トノ關係、蕃殖論ヲ追章記述サレ以下分類効用ノ二篇ハ特ニ細目ニ至ルマデ、記述サレタリ而シテ此二篇ヲ合シテ續篇トス

書中擧ゲタル植物ハ主トシテ本邦所產ノモノヲ取リ外國產ハ其著名ナルモノニ限ラレタリ植物ノ名稱ハ凡テ和名ヲ用ヒ又漢名アルモノハ之レヲ用ヒラレタルモアリ

圖畫ハ在來名家ノ諸書ヨリ轉寫サレタルモノモ多シトイヘ𪜈著者ノ原圖モ亦尠ナカラズ就中著者ノ原圖ハ何レモ丁寧ニシテ此書ヲ學ブモノニハ實ニ便利ナリ圖畫ハ紙版肉質等ノ故ニカ一見シテ鮮明トハ云ヒ難キガ如シトイヘ𪜈解シ易ク調ヒ居レリ

該書ハ植物學ノ定義ヲ植物ニ關スル萬般ノ事項ヲ講究スル學ナリトシ之ヲ大別シテ純正植物學應用植物學ノ二トナス其全篇ノ說ク所ハ在來ノ植物學教科書中最モ廣ク又詳カナリ然レ𪜈紙數限リアレバ異說ヲ對比シ擧グルマデニハ至ラズ多クハ一方ノ說ヲ撰出サレタリ就中サックス氏ベッスセー氏等ノ說ヲ撰バレタルガ如シ

一般ニ植物記載ノ事ニ關スルヿ甚ダ詳シ又往々器管ノ發生等ノ事ニ注意サレタル處多シ

譯語ハ近時ノ譯字ニ依ラズシテ古來日本本草ノ事ニ從事セシ先輩ノ用ヰシ語中ニ就キ撰バレタルモノモアル

如ク又更メテ新字句ヲ附セラレタルモ多シ其一二ヲ擧グレバ胚珠ヲ卵子根冠ヲ根帽子房ノ上位下位ヲ上生、下生 Cuticle ヲ浮皮膜トセラレタリ又特別ノ讀ミ法ヲナサン爲メ平假名ヲ附シタルモ多シ

分類篇ハ有名ナルアイヒレル氏ノ組織ニ基キ物セラレ殊ニ詳細ナル効用篇ハ著者ガ多年間ノ參考調査研究等ノ結果ナリト云フ

* * *

○質問應答一件

問

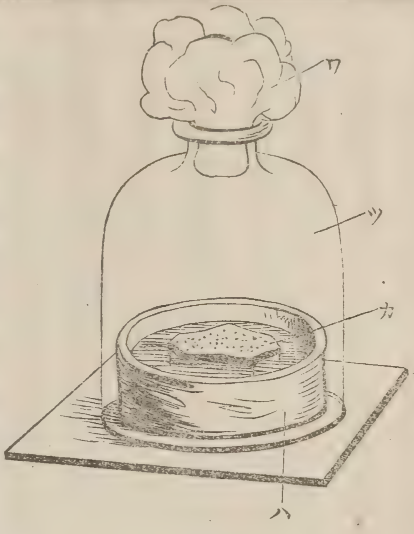
有管隱花植物（即チ Rhizocarpeae, Selaginellaceae, Lycopodiaceae, Filices, Ophioglossaceae, Equisetaceae 等）ノ有性々殖器即チ Prothallium（有性々代即チ Prothallium ハ誤カ應問者記ス）ヲ實驗センニハ如何ナル方法ニヨリ研究スベキ哉若シ培養器ニヨリテ檢スベキモノナラバ其構造ヲ又種類ニヨリテ培養ノ方法ニ差異ヲ御明示ヲ乞フ若シ培養器ニヨリテ檢スベカラザル種類ハ天然ノ産所ヲ明ニ御教示アランコトヲ乞フ

越後加茂町　早田文造

答

質問ノ文意稍不明瞭ナル點アリト雖モ前後ノ文意ヲ推察シテ答フルコト左ノ如シ若シ此答ニシテ質問者ノ意ニ滿タザルコトアラバ乞フ幾度ニテモ御質問アレ

有管隱花植物有世々代ハ他ノ植物ト同ク地上或ハ地下ニ生ズ殊ニ普通ノしだ類ノ有世々代ノ如キハしだノ生ズル濕地ニ多ク生ジ其狀稍ぜにごけノ小ナルモノニ似タレバ天然ノ産所ニツキ他ノ植物同樣ニ採集スルコト容易ナリ



若シ又之ヲ培養セントニハ無々世代（即普通ノしだ）ノ芽胞ノ熟シタルモノヲ植木鉢ナリ若クハ一定ノ地面ニ播種スレバ發芽シ有世々代ヲ爲スベシ但シ地面ニ播種シテ採リタル有世々代ニハ根ニ泥土附着シテ除キ難ク之ヲ顯微鏡下ニ檢スルニ大ニ不便ヲ感ズ泥土ノ附着セザルモノヲ得ルニハ宜ク附圖ニ於ケルガ如キ仕掛ヲ用ヰテ培養スベシ

其法ハ熟セル芽胞ヲ豫メ水ヲ吸收セシメタル清淨ナル瓦片（カ）上ニ播キ之ヲ水ヲ盛リタル小器（ハ）内ニ入レ（但水ガ瓦片ノ表面迄至ラザルコトヲ要ス）之ヲ（ツ）ナル鐘ガラスニテ蓋ヒ空氣流通ノ絶エザラシガ爲メ鐘ガラスノ口ヲ（ロ）ナル綿ニテ密封シ此仕掛ヲ明ルキ直接ニ光線ノ當ラザル所ニ安置スベシ又少クモ一週ニ一回ヅヽ（ハ）中ノ水ヲ新鮮ナルモノト更ムベシ以上ノ如キ仕掛ニ因レバ漸次發芽シ遂ニ有世々代ヲ爲スベシ

以上ハ一般ノ法ナレモ Filices 中へこノ如キりうびんたいノ如キハ熱帶ノ植物ナレバ東京若クハ越後ノ如キ寒地ニ於テ播種スルモ果シテ完全ナル有性々代ヲ生ズベキヤ應問者經驗ナケレバ答へ難シ

Lycopodiaceae ノ如キハ之ヲ芽胞ヨリ培養センコト本邦ニテハ到底出來ザルニトナリコレハ天然ノ産所ヲ求ムルコトモ甚ダ難シ

池野成一郎

動物學雜誌

第五十七號
明治廿六年七月十五日發行

一册金拾錢郵稅金一錢○六册前金六十六錢（郵稅共）

●目次 ○五大八種ノ命名者タルぶるーめんばつはノ八類論坪井正五郎君○相州三浦三崎近傍ノ鰓隱うみうし科（Crypto Branchiale Dorididae.）（第五十五號續）藤田經信君○海產生物學ノ沿革（三）岩川友太郎君○桑樹ノ介殼蟲佐々木忠三郎君○河豚之毒（前號續キ）高橋順太郎君○Carl Rabl ノ中胚葉說八田三郎君○「いそぎんちやく」ノ酒精漬製法ニ就テ濱田俊三郎君○球陽雜譚（第四稿）黑岩恒君◉雜錄 出品說明目錄○閣龍世界博覽會水產○黃蜂二種ニ就キテノ小實驗○唐津海濱ノ動物○東京動物學會○靜岡博物學會

發賣所 東京市神田區裏神保町一番地 敬業社

敬業社ハ[illegible]
諸君ノ御便利ヲ謀リ和漢洋書籍
及ビ諸雜誌ノ御用ヲ[illegible]品ニテモ
全國都鄙多少ヲ論ゼズ迅
速ニ專ラ手廣ク御取扱仕
候間續々御注文被下度御便利ヲ
至御試ミアランコトヲ希望仕候
東京神田裏神保町壹番地
敬業社

一本誌廣告料五號文字　一行（二十五字詰）一回金五錢三回以上割引仕候
○本誌每月一回發兌一册金拾二錢○六册前金七十二錢
○拾二册前金壹圓四拾四錢會員ニ限リ壹册拾錢

○配達概則

第一條　代價收受セザル內ハ縱令御注文アルモ遞送セズ○第二條　前金ノ盡ル時ハ改テ御請求仕ル故次號發兌迄ニ御送金ナキ方ハ御送附相成マテ雜誌ヲ郵送セズ○第三條　郵便切手ヲ以テ代價ト換用ハ謝絕ス○第四條　特ニ一册限御入用ノ向ハ一錢切手十二枚御送致ナレハ御屆可申候

版權所有

明治廿六年八月七日印刷
明治廿六年八月十日發行

編輯兼發行者　東京府平民　井上蘇吉
東京市神田區錦町三丁目一番地

印刷者　滋賀縣士族　熊田宜遜
東京市神田區錦町三丁目廿五番地

印刷所　東京市神田區錦町三丁目廿五番地　熊田活版所

發行所　東京市神田區裏神保町一番地　植物學雜誌編輯所

賣捌所　同所　敬業社

同　東京日本橋區通三丁目　丸善書店

314179

THE
BOTANICAL MAGAZINE.

明治廿一年二月三日内務省許可

Vol. 7.] August 10, 1893. [No. 78.

CONTENTS.

Mallotopus japonicus Fr. et Sav. By R. Yatabe Sc. D. 207

Diseases of Japanese Agricultural Plants. By S. Hori. 209

Scientific and Common Names of Plants. By Prof. J. Matsumura. . . . 213

Frank's Lehrbuch der Botanik, Zweiter Band and Recent Progress of Botany. By S. Ikeno. 225

Plants Employed in Medicine in the Japanese Pharmacopæia. By K. Sawada. 229

Notes on Acanthopeltis japonica, Okamura. By K. Okamura. 233

Miscellaneous:— 238

Hæmatoxylon.—Mr. Shirai's Text Book of Botany. . . . .

Query:— 243

Appendix:— 69

Analytical Key to the Phanerogamous Plants.

All letters and communications to be addressed to the editor of the

TŌKYŌ BOTANICAL MAGAZINE,

No. 1. Urajimbōchō, Kanda, Tōkyō, Japan.

第七卷　第七十九號

79

明治二十六年九月十日

植物學雜誌

目錄

ダイミンガサ　理學博士　矢田部良吉（二四五丁）

植物分類餘錄（前號ノ續キ）　理學博士　松村任三（二四七丁）

日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）　澤田駒次郎（二五五丁）

◎雜錄（二五九丁）

○植物採集雜記○バクテリアの説（前々號ノ續キ）○波波迦ノ説○羽後北秋田郡植物方言一斑

○ユクノキノ花○平賀源内翁ノ遺書○植物雜言○遠江京丸ノ牡丹○榧ノ老木○藥獵

○土屋勇之輔氏逝○分類家トシテノカル、プラントル氏

◎質問應答（二八四丁）

◎附錄

○顯花植物分科檢索表　池野成一郎（七七丁）

植物學雜誌編輯所

植物學雜誌編輯所印

地學雜誌

第五集
第五十六卷

◉定價一册金拾錢郵税一錢六册前金郵税共金五十四錢

◎論説 ●荒川銅山（圖入） 故理學士三浦宗次郎●福島縣信夫郡荒川河水ノ試驗成績 農學士鴨下松次郎●函根駒ヶ嶽四近ノ地質ト應用物料 理學士鈴木敏●土性ト農業トノ關係一斑（續キ） 農學士恒藤規隆●北極地方ヲ横切ル方法如何（續キ圖入） ナンセン●英國印度間兵站路（續キ） 理學士金田楢太郎◎雜錄 ●東亞露領石炭 理學士大塚專一●理學宗ノ本尊大陽ノ話 石川一男●飛驒鑛產地旅行記 中西準太郎●地學通論講義（續キ） 岐陽學士◎雜錄 ●本邦都市ノ人口●世界地學協會ノ數●世界地學雜誌ノ數●故三浦西山兩氏義捐金●三浦西山兩氏紀念碑建設ノ擧ニ就テ●故三浦宗次郎君ノ寡婦男兒ヲ擧ク●吾妻山便リ●鳥羽ノ日和山●鳥羽城址●上ノ鄉ノ大楠樹●間歇湖●露西ノ狠●ズイデル灣ノ開鑿●ヂラフノ減少●月ヲ製スルニ要スル地皮ノ大サ●唐津ノ玄武洞●寒武利亞系前ノ地層●星學上ノ一大發明●地方通信◎批評 ●近世中地理學外國ノ部猪間收三郎◎質疑 十一件◎應問 三件

發行所（京橋區西紺屋町十九番地）**東京地學協會**

大賣捌（神田區裏神保町一番地）**敬業社**

東洋學藝雜誌

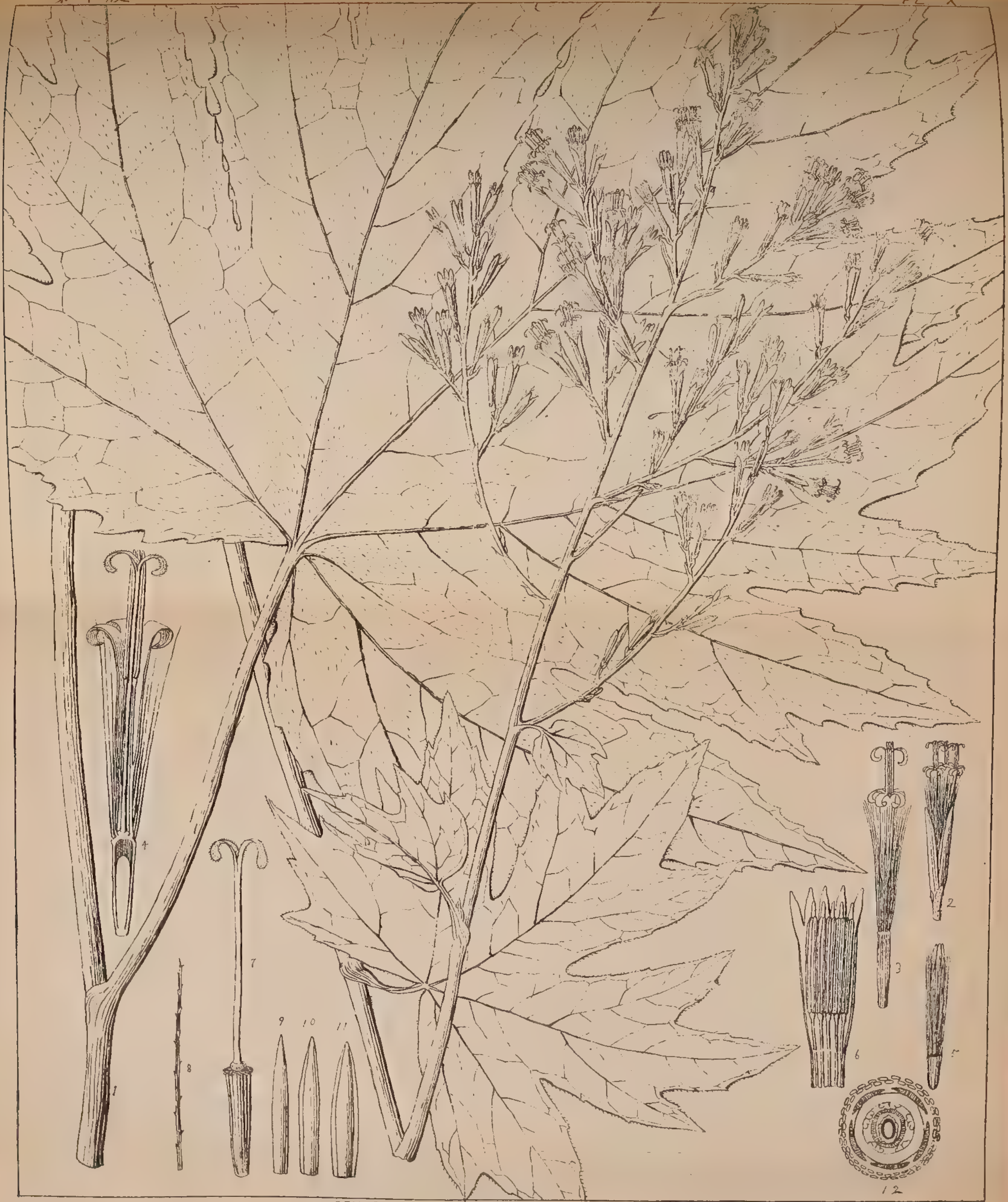
第百四十三號

明治二十六年八月二十五日發兌○表紙廣告ヲ除キ五十四頁挿圖十數個

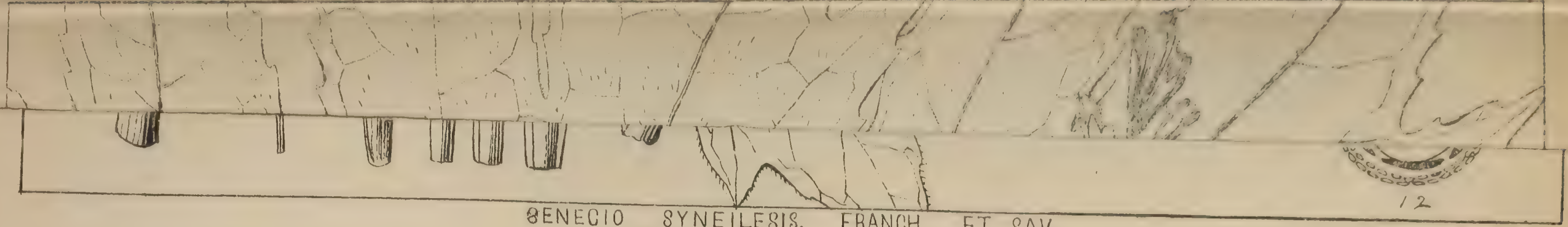
●論説○雌雄ノ別（承前）石川千代松○コロムブス時代地理探驗に就て（承前）箕作元八○動物生長の話箕作佳吉○衝突論に關する惑を解く井上哲次郎●雜錄○吏道諺文考岡倉由三郎●雜報○人造降雨○地磁力觀測○初等平面三角法敎科書○大學敎官○帝國大學紀要理科○化學音○水素瓦斯中に於ける植物の生存○香ひの說○學者と商品の證明○化學作用と水分の關係○敎育宗敎衝突研究會○耶蘇敎の前途○破邪叢書の發行○動物學新敎科書○理科大學動物標品陳列室○海中の石斧外數件●應問○水上住居坪井正五郎●定價十錢

東京神田區裏神保町一番地

發行所 **東洋學藝社**


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12

SENECIO SYNEILESIS, FRANCH. ET SAV.
TAIMINGASA. タイミンガサ.



SENECIO SYNEILESIS, FRANCH. ET SAV.
TAIMINGASA. タイミンガサ.

植物學雜誌第七卷第七十九號　(明治二十六年九月十日)

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. VII. September 10, 1893. No. 79.]

New or Little Known Plants of Japan.

No, 35.

Ryōkichi Yatabe, Sc. D.

Senecio Syneilesis, Franch. et Sav.

Nom. jap. Taimingasa. タイミンガサ.

(Order Compositæ.)

Plate IX.

Senecio Syneilesis, Franchet et Savatier, Enum. Pl. jap., vol. i., p. 249.—Forbes et Hemsley, in Journ Linn. Soc., vol. xxiii., p. 458.—*Senecio palmatus*, Lessing, Syn. Comp., p. 392—De Candolle, Prodr., vol. vi., p. 433. —*Arnica palmata*, Thunberg, Fl. Jap., p. 319.—*Syneilesis palmata*, Maximowicz, Mél. Biol. vol. ix., p. 300.—*Cacalia aconitifolia*, Miquel, Prol. Fl. jap., p. 113. Icon. jap.—Sōmoku Zusetsu, vol. xvi., vol. 12, sub *Taimingasa*.

Stem smooth, simple, 2 $\frac{1}{2}$ to more than 4 feet high. Cauline leaves petiolate, reniform or cordate, palmately 3 to more than 10 lobed, smooth on the upper, somewhat hairy on the under surface, finely ciliate at the margins; the lobes cuneate-oblong, acuminate, coarsely dentate and also scattered with mucronate teeth, 2—3—lobulate, the lobules acuminate; petioles shortly sheathing at the base; lower leaves 8 inches or more across. the petioles 4 inches or more long; upper leaves 4—6 inches across, the petioles $\frac{1}{2}$—1$\frac{1}{2}$ inches long; the uppermost much reduced in size, passing into ovate or lanceolate bracts of the inflorescence. Heads homogamous by the want of rays, tubular or tubular-obconical, about 6 lines long, 1—2 lines broad, in terminal panicles of 6—10 inches; the axis of the inflorescence nearly smooth or slightly pubescent; the pedicels of the heads pubescent, $\frac{1}{2}$—2 lines long. Bracteoles at the base of the heads 2, ovate, somewhat hairy, $\frac{1}{2}$ line long. Scales of the involucre 3—5, imbricate, of two forms, the narrower onter overlapping the margins of the broader inner; both linear-lanceolate, acute, 4 lines long; the outer $\frac{3}{4}$ line broad; the inner scarious at the margins, 1—1$\frac{1}{4}$ lines broad. Receptacle flat, naked. Florets yellowish-white, 3—6 in each head. Pappus-hairs copious, dirty-white or brownish, about as long as the corolla, minutely barbellate under the lens. Corolla tubular, very narrow towards the base, broader above, 5—lobed at the apex, about 4 lines long; its lobes linear-lanceolate, recurved when fully open. Anther-bases obtuse. Style-arms recurved, pubescent. Ovary linear, 1$\frac{1}{4}$—2 lines long.—Hab.

Mountain woods. Fl. August.

My specimens of this plant are from Yahazu-yama and Nanokawa-mura in the province of Tosa.

Plate X. Fig. 1, upper part of plant; 2, flower-head; 3, floret; 4, vertical section of floret; 5, young floret; 6, corolla laid open showing the stamens; 7, ovary and style; 8, pappus-hair; 9—11, scales of involucre; 12, floral diagram:—*all except 1 enlarged.*

植物分類餘錄 （承前）

松村任三

Trochodendraceæ. 山車科

Cercidiphyllum japonicum, *Sieb. et Zucc.*

カツラ

カモカツラ

チカツラ（和名鈔）

シロカツラ

カツラギ（筑前）

タマカツラ（野州）

カウノキ（北陸）

カツラノキ

アカキ

ランゴ（蝦夷）

日本產物志山城上二十一、二十二、草木圖說木部十卷七十三

Cercidiphyllum ovale, *Max.*

未詳

一

Euptelea polyandra, *Sieb.* et *Zucc.*

フサヾクラ

タニグハ

メヽヅキ（秩父）

サガラ（日光）

Trochodendron aralioides, *Sieb.* et *Zucc.*

ヤマグルマ

モチノキ

オホモチノキ

オホムネモチ

オホトリモチノキ

ビランジユ

イハグルマ

トリモチノキ

日本產物志美濃中ノ六

琉球西表島ニモ產ス(田代安定氏)

Lardizabalaceae. **通草科**

Stauntonia hexaphylla, *Decne.*

Syn. *Rajania hexaphylla, Th.*

ムベ 野木瓜

トキハアケビ

ムンベ(丹後)

コイヒ(江州)

七五三ヅル

モクマンヂユウ

マルアケビ(熊野)

フウトウカヅラ(豐前)

ウメヅル（琉球大島）

小石川植物園草木圖說卷二ノ三圖

相州横須賀、仝江之島、紀州高島、勢州菰野、和州春日山、豐前岩嶽、日向霧島、肥前長崎、琉球ニ産ス

Akebia quinata, *Decne.*

Syn. *Rajania quinata, Th.*

アケビ 通草

アケビカヅラ

アケベ（芸州）

アクビ（熊野）

アキビ（飛州）

アケブ（豐前）

タチタチボウ（紀州）

チヤヅル（但馬）

トトビ（江州）

タンポヽ（泉州）

アカヱビ（越後）

ハダツカヅラ

コモサウバナ（筑前）

ハンダツカヅラ（熊野）

小石川植物園草木圖說卷二ノ一圖

支那江蘇、浙江、江西、陝西、朝鮮ニモ產ス

Akebia lobata, *Decne.*

ミツバアケビ

ユベヅル（遠州）

小石川植物園草木圖說卷二ノ二圖

支那江西ニモ產ス

Berberidaceae. 小蘗科

Diphylleia cymosa, *Michx.* var. Grayi, *Max.*

Syn. *Diphylleia Grayi, Fr. Schm.*

サンカユフ　山荷葉

本草圖譜二十二

Achlys japonica, *Max.*

ナンブサウ

Nandina domestica, *Th.*

ナンテン　南燭

ナリテン

ナツテン（京都）

ランテン（上總）

ナルデン（豐前）

本草圖譜八十八、小石川植物園草木圖說卷二ノ八、九圖

支那直隷、江蘇、浙江、江西ニモ產ス

Epimedium diphyllum, *Lodd.*

Syn. *Accranthus. diphyllus*, *Morr.* et *Decne.*

Epimedium japonicum, *Sieb.*

バイクワイカリサウ

本草圖譜六卷ノ十二

土州佐川村（牧野氏）東京駒込

Epimedium macranthum, *Morr.* et *Decne.*

イカリサウ　淫羊藿

本草綱目啓蒙圖譜卷八ノ三十四表

支那江蘇、江西、朝鮮ニモ産ス

Epimedium sagittatum, *Max.*

Syn. *Epimedium sinense, Sieb.*

Aceranthus sagittatus, Sieb. et *Zucc.*

ホザキイカリサウ

本草綱目啓蒙圖譜卷八ノ三十四裏、三十五表

支那江西、湖北ニモ産ス

Leontice thalictroides, *L.*

Syn. *Caulophyllum thalictroides, Michx.*

ルヰエフボタン

草木圖說七卷二十六、日本産物志近江二

Berberis nepalensis, *Spr.*

Syn. *Mahonia nepaulensis, DC.*

Berberis Bealei, Curt.

Berberis japonica, R. Br.

Mahonia japonica, DC.

Ilex japonica, Th.

ヒラギナンテン　十大功勞

テウセンナンテン

ヒイラナンテン（土州）

カラナンテン（勢州）

Berberis Thunbergii, *DC.*

Syn. *Berberis cretica, Th.*

Berberis sinensis, G. Koch. non *Dese.*

Beriberis Maximowiczii, Regel.

小石川植物園草木圖說卷二ノ六、七圖

メギ　小蘗　（本草綱目）

ヨロヒドホシ

コトリスワラズ（勢州）

トリトマラズ（濃州）

コガネエンジユ（紀州）（水戸）

日本產物志山城下十五、小石川植物園草木圖說卷二ノ四圖

Berberis Tschonoskiana, *Regel*

ミヤマヘビノボラズ

Berberis vulgaris, *L. var.* japonica, *Regel.*

ヘビノボラズ

サハイバラ（江州）

トリトマラズ（勢州）

バライズ（淡州）

ホソキ

コガネヱンジユ（花戸）

メギ（日光）

日本產物志山城上十九、小石川植物園草木圖說卷二ノ五圖甲

Berberis Sieboldi, *Miq.*

ヒロハノヘビノボラズ

小石川植物園草木圖說卷二ノ五圖乙、

日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）

澤田駒次郎

製劑

第一　芳香丁幾　Tinctura aromatica.

改正日本藥局方ニ據レバ其製造法左ノ如シ

丁香粗末	二分
桂皮粗末	十分
小豆蔻粗末	二分
剉截セル薑根	五分
稀酒精	百分

ヲ取リ五日間冷浸シ壓搾シ濾過シ其濾液ニ

枸櫞精	五分

ヲ混和シ製スベシ本品ハ澄明赤褐色ノ液ニシテ比重〇。八九六乃至〇。九二〇ナリ

第二　芳香精　Spiritus aromaticus.

改正日本藥局方ニ據レハ其製造法左ノ如シ

丁香	十五分
桂皮	十五分
肉豆蔻	三十分
小豆蔻	三十分

ヲ取リ搗碎シ蒸餾器中ニ投シ之ニ

酒精	八百分
枸櫞油	一分

薄荷	二分
常水	千二百分

ヲ注キ大約千分ヲ餾取シ製スヘシ

本品ハ澄明ノ液ニシテ芳香性ノ氣味ヲ有ス比重ハ〇、九〇ナリ

壜中ニ容レ密栓シテ貯フヘシ

醫治効用　丁香ハ芳性調味藥トシテ用フ此浸劑ハ悪心嘔吐殊ニ妊娠ヨリ發スル嘔吐ニ用ヒテ効驗アリ〇此藥風氣痞滯ニ驅風藥トシ衰弱性不消化症ニハ衝動藥トシ共ニ効驗アリ本草滙ニ云温胃寒之嘔逆散腎氣之奔豚、消痃癖癥脹救痘瘡灰白、治虛噦冷氣冷勞、療胸痺陰痛腹痛治呢忒煖陰戸（中略）爲祛寒開胃之劑、香氣走竄、能行滯氣而除穢濁、温中健脾大有神功、須干丸劑中同潤藥用、乃佳、獨用多用、易干僭上損肺傷目、非屬虛寒豈可概施」宋醫陳文中治小兒痘瘡不起、用異功散、倍加丁香官桂服之、亦有愈者云々其他芳香阿片酒等ヲ製スルニ用ヒ又薰料トシテ況ク之ヲ應用ス

丁香油ハ藥用ニ供スルコト少レナリト雖モ其佳香ヲ有スルニ因リ現今專ラ粉粧藥ヲ調製スルニ用ヒ或ハ石鹼ニ和シテ香氣ヲ附與シ又器械ニ塗抹シテ其腐蝕ヲ豫防ス

丁香葉ハ往時多少用ヒシト雖モ現今歐羅巴ヘ輸入セスト云フ

四十一　メラリウーカ、リウーコデンドロン

羅甸名　Melaleuca Leucodendron, Linn.

Syn. Melaluca viridiflora, Gaertu.

桃金孃科

Melaleuca Saligna, Bl.

東印度等ニ自生スル喬木ニシテ高サ三十「メートル」其直徑一「メートル」半ニ至リ下部ハ其色黒褐上部ハ類白色ノ皮鱗ヲ被ムリ枝杪ハ纖クシテ褐色ヲ呈シ間マ下垂シ嫩枝ハ絹糸様ノ毛茸ヲ帶フルコトアリ又稀レニハ枝條ヲ叢生シテ灌木狀ヲ爲スモノアリ葉ハ楕圓形乃至披鍼形若クハ卵圓披鍼形ニシテ互生シ其質柔軟菲薄海綿様ヲ爲シ長サ十二乃至十六「センチメートル」幅八乃至十六「ミリメートル」ニ至リ其先端或ハ尖リ或ハ鈍ク邊縁平滑ニシテ波動ヲナシ底部或ハ均等或ハ不均等ニシテ葉面不明ノ斑點ヲ散布シ三條乃至八條ノ平行側脉ヲ有シ下部漸ク狹隘終ニ矮短ナル葉柄ニ移リ稍々屈曲シテ鎌狀ヲ爲ス而シテ嫩葉ハ軟毛ヲ密生シ其發育スルニ至リ捩轉シテ鉛直ノ位置ヲ有スルモノアリ然レ𪜈其大小及ヒ形狀ハ種々ニシテ一定セス枝杪ノ上部ニ於テ或ハ單一ナル穗狀花或ハ二三個ノ複穗狀花ヲ綴リ其頂端ニ葉芽ヲ有ス始メ矮短ナリト雖𪜈漸ク延長シ花梗椎ノ長サ四乃至十二「センチメートル」ニ至リ其周圍ニ矮短緻密ノ花叢ヲ簇生シ頂端ノ葉芽モ亦發育シテ束狀ヲナス而シテ花梗椎ハ或ハ平滑或ハ羊毛様ノ毛茸ヲ帶ブ蕚ハ鐘狀ニシテ其下部實礎ト癒着シ上部ハ五個ニ缺刻シ其截片卵圓形ヲ爲シ邊縁乾涸シ或ハ平滑或ハ毛茸ヲ帶ビ截片ノ內面厚化シ其邊縁ヨリ內部ニ至ルニ從ヒ漸次菲薄ト爲ル花瓣五片下部互ニ癒着シ上部五個ニ缺刻シテ鐘狀ヲナシ其截片倒卵圓形ニシテ白色ヲ呈シ直徑二乃至三「ミリメートル」其邊縁厚化スルコト蕚片ニ同シ雄蘂數多蕚ヨリ生シ花絲互ニ集合シテ五束ヲ爲シ各々五條乃至八條ヨリ成リ其下部癒着シテ狹隘トナリ更ニ花瓣ニ附着ス葯ハ楕圓形ニシテ二房ヲ有シ其上部ニ二個ノ腺ヲ有シ其背部ニ於テ花絲ノ頂端ト附着シテ內向シ花時縱線ニ因テ破綻シ花粉ヲ吐出ス形チ三角ニシ

テ其端頂各々一個ノ孔穴ヲ有シ稍々扁平ナリ實礎ハ下立性ニシテ其過半ハ萼ト附着シ上部ハ游離シ三房ヲ有シ各胎盤ハ皮壁ヨリ中心ニ突出シ更ニ二股ニ分裂シ外方ニ返卷シテ多少癒着シ數多ノ卵子ヲ有シ花柱糸狀ニシテ柱頭微ニ膨脹ス果實ハ類圓形ニシテ穗狀ヲ爲シテ花軸ニ附着ス種子ハ倒卵圓形若クハ楔形ニシテ胚子ハ肥大ナル子葉ヲ具ヘ蛋白質ヲ有セズ

（以下次號）

○正誤　前號イネカウジノ圖ニ第八版トアルハ第九版

PL. VIII.; PL. IX. ノ誤

◎雜録

○植物採集記（前號ノ續キ）

松村任三

○豐後速見郡金越トイフ峠アリノヒメユリ、シモツケ、カハラマツバ（黄花）ノリノキ、イガクサ、ヒメヤナギヒメマキエハギ、シンジユガヤ等ヲ生ス

○別府ヨリ大分ニ至レル路傍ニハイシカグマ、ハマナデシコ、ハマガウ、ハマグルマ、クマノミヅキ、ホウロクイチゴ、コモチシダ、等ノ生セルヲ目擊セリ

○別府ナル舊士族屋敷內ニコバンモチ、タマミヅキヲ、栽植セルヲ見キ又マキ（松柏科）ノ大樹合抱ノモノモアリキ

明治十五年八月三日日向國霧島山ニ登リテ採集ス其山腹ニ目擊セル植物ハ左ノ如シ

イヌビハ
フヤウラン
イチヰガシ
ホンバイヌビハ
ニシキラン
シラカシ
オモト
テイカヽヅラ
ウラジロガシ
ツバキ
サカキ
ミツバ

アスナロ
スギ
マウサウ
ヤダケ
メダケ
カラスウリ
ソクヅ
シノブ
マルバノホラゴケ
カノコユリ
オホバコ
バウシバナ
オニタビラコ
ミヅヒキサウ
井ノコヅチ
ヘビイチゴ
キツネノボタン

ウリハダカヘデ
アサヒカヘデ
ソロ
ニガクサ
メウガ
フウラン
シヽラン
ナゴラン
サジラン
ハクモウ井ノデ
井ノデ
ネムノキ
ヲミナヘシ
ヲトコヘシ
コガンピ
シロバナノカハラマツバ
ナデシコ

ヒサカキ
シヒノキ
クスドイケ
イヌガヤ
オホハンゲ
ハナイカダ
コバンノキ
シウカイダウ
ノカラマツ
スヽキ
ヌスビトハギ
ダイコンサウ
キンミヅヒキ
ミシマサイコ
アヲキ
アカメガシハ
サンゴジユ

ウマノミツバ
マタヽビ
アヲカシ
カタヒバ
シヽガシラ
ミヤマトベラ
エビネ
ベニシダ
マダケ
アワブキ
ホソバカナワラビ
コナスビ
ヲトギリサウ
ミヤマヲトギリ
ネコノチヽ
アマチヤ
アヂサ井

雜錄

ヨモギ
イヌシダ
イハタバコ
クラマゴケ
ヤブムラサキ
ホトヽギス
ウツギ
アカソ
ヘクソカヅラ
ツルカウゾ
メナモミ
ヒノキ
ホラゴケ
アヲツヾラフヂ
コバノガマズミ
クズ
クマイチゴ

キツネガヤ
カモジグサ
スモトリグサ
ヤブマヲ
フヂ
イヌビユ
ナヅナ
サギゴケ
ヒアフギ
フヂカンザウ
ミツタマサウ
タケニグサ
マツカゼサウ
コンテリギ
フユイチゴ
イタチシダ
サンセウ

キイチゴ
イヌグス
イタビカヅラ
ワラビ
ビナンカヅラ
クマワラビ
モミヂサウ
ヤブレガサ
タツナミサウ
ヤブタバコ
ヌルデ
カンチク
カハラケツメイ
ヲカトラノヲ
ゲンノシヤウコ
ヒメワラビ
カニクサ

バデイチゴ
ヤブカウジ
マンリヤウ
サルトリイバラ
ミヅキ
ハマクサギ
モミヂ
ヤマサクラ
イヌワラビ
カナクギ
ハゼノキ
クルマバナ
ノブドウ
ミヤマシキミ
キフヂ
ナツトウダイ
アマクサシダ

ウリノキ
ギヤウジヤノミヅ
ムラサキニガナ
ニハホコリ
スヾサイコ
カナムグラ
イヅセンリヤウ
ヒメシヤラ
モミ
クロヅル
チダケサシ
ノギラン
ミネバリ
キリシマツヽジ
リヤウブ
ノリノキ
イタヤカヘデ

ツルウメモドキ
ウラジロ
サヽクサ
ミヤマウヅラ
トウバナ
ヒモラン
ホツカウハグマ
ジヤノヒゲ
ソクシンラン
ミヅナラ
マヒヅルサウ
コヾメグサ
ヤマハヽコ
イタドリ
シラヤマギク
ナツノタムラサウ
ハンクワイサウ

エノキ
ニガナ
コセウノキ
ヒトツバ
ヒヨドリバナ
チゴユリ
キヅタ
ムベ
ナハシロイチゴ
キジノヲ
イヌヨモギ
ネコハギ
ハギ
クヌギ
アキノゲシ
カラスザンセウ
イス
ゴンズイ
クマヤナギ

シユモクシダ
アヲカシ方言シラキ
シケシダ
コケオトギリ
イハヘゴ
マユミ
ヤブソテツ
ノキシノブ
タウゲシバ
カクレミノ
ツチアケビ
キヤウジヤブキ
ミツバグサ
イチヤクサウ
ハヘドクサウ
テリハノイバラ
クロガネモチ

アリノタフ
ヒキヨモギ
ヨメナ
ツルニンジン
ヒナノカンザシ
サツマニンジン
ナヽメノキ
リンダウ
ウメバチサウ
クワ井
ヲグルマ
ノイバラ
コリカナギ
ヒナギヽカウ
クサネム
サクラタデ
ヲヒジハ

チガヤ
メドハギ
ゲジ〳〵シダ
カタバミ
カキラン
タカトウダイ
ワレモカウ
イガクサ
ツチグリ
ミツバツチグリ
ツボクサ
キンチヤクマメ
井ノモトサウ
コシホガマ
ヒメシヲン
カナビキサウ
キバウシ

ヤハズサウ
トラノヲシダ
シキミ
クサノボタン
ウナギツカミ
コナラ
カシヲシミ
エゴノキ
センボンヤリ
シヤウジヤウバカマ
サハヲグルマ
シライトサウ
ア井ナヘ
ノヤナギ
アキグミ
ヤマウグヒス
クヾガヤツリ

ナルコユリ
イヌツゲ
アマチヤヅル
チドメグサ
ガマズミ
ハヽコグサ
キランサウ
ネヂバナ
タカサブラウ
ギシギシ
サヽナギ
イボクサ
タヌキモ
カタシログサ
ミヅユキノシタ
ミツアサガホ
ヌマトラノヲ

ヘラオモダカ
ハコネウツギ
ミゾソバ
アブラガヤ
キクバドコロ
ツクバネウツギ
ウバユリ

コマツナギ
オキナグサ
ヒルムシロ
スヾメノヒエ
スヒカツラ
ホシダ
タマツバキ
クリ
シウメイギク

シホデ
アカネ
ヒメトラノヲ
イハガネサウ
カウカイセキシヤウ
イヌドクサ
ヤマブドウ
ハクウンボク

チゴザヽ
ホヽノキ
アケボノサウ
イヌノハナヒゲ
セリ
アゼムシロ
スギナ

○バクテリアの說（前々號の續）

K. D. 山人纂譯

サテ斯ク顯微鏡ニ因リテ黴菌ヲ移植シタル硝子板ヲ驗シ得ベシト雖モ其異種ノ形狀ヲ具フル團群ハ其數幾何ナルヤヲ知ランコト至テ難シトス（其團群ノ形狀ノ異ルハ即チ之ヲ組成スル黴菌ノ種類ノ異レルヲ指示スルモノナリ）故ニ熱セラレタル白金ノ針線ヲ以テ各種ノ團群ヨリ一々少量ノ各黴菌ヲ取リ出シ之ヲバ團群ヲ以テ充タセル多クノ罌內ニ一々栽植スルノ優レルニ若カス是ニ於テ始メテ其元種ノ混合物中ニ含有セル各種ノ黴菌ノ純粹培養ヲ成就スルコトヲ得ルナリ

一箇ノ黴菌ハ素極メテ微小ナルカ故ニ到底普通ノ視力ヲ以テ見ルコト能ハズト雖モ斯ノ如ク之ヲ栽植耕作シテ以テ其森体ヲ知リ得ルコトハ猶ホ恰モ農民カ耕耘ノ方ニ據リテ大ナル植物ヲ知レルカ如シ

斯ク純粹培養ノ方法ニ因リテ各種ノ黴菌ヲ得タル時ハ又種々ノ方法ヲ以テ之ヲ試驗シ而シテ各其特殊固有ノ

性質ヲ知了スルヲ得ベシ例ヘバ酸素ノ供給限アル場合ニ於テハ果シテ生命ヲ保ツモノナルヤ否ヤヲ知リ又高底ノ温度中何レニ於テ最モ能ク成育スルヤ將タ寒熱何レノ度ニ於テ其生命ヲ失フヤ等ノ疑義ヲ明晰ニシ兼テ又無數ノ黴菌カ其生育ノ間ニ發スル化合物ヲモ知リ得ベク而シテ消毒劑ノ如キ化學的物質ヲ以テ黴菌ニ試ミ其如何ナル度ニ因リテ容易ニ生ヲ滅セラルヽモノナルヤ等ノ諸理ヲ知リ得ルカ如シ

以上ノ如キ方法ニ因リテ各種ノ黴菌ヲ研究シ而シテ其多少同性質ヲ有スルモノハ更ニ其同性質ノモノヽミヲ集メテ之カ部分ヲ分チ以テ此講究ヲシテ愈明カナラシムルノ便ト爲ス而シテ斯ノ如キ新方式ニ因リテ黴菌ヲ研究スル事ハ誠ニ最近ニ屬スレ𪜈今日ニ至リテハ既ニ分析表ノ一斑ヲモ造リ出スニ至レリ此表タル猶グレー氏カ其植物教科書中ニ於テ稍高等ナル植物ヲ分類シタルト同ジク吾人ハ是ニ因リテ其目前ニ現ハレ來ル或ル形狀ヲ具ヘタル黴菌ヲ分類スルコトヲ得ルナリ

抑黴菌學ニ於ケル命名法ノ如キ尙未タ晴夜ノ狀態タルヲ免レズト雖モ然レ𪜈今ヤ將ニ其光ヲ於タルノ氣運ニ向ヘルモノト謂フベシ蓋シ黴菌ナル語ハ其形狀ノ如何ニ拘ラズ一般普通ニ適用セラルレ𪜈又時トシテハ之ヲ芽（シヤーム）ト名ケ又マイクロコカストハ其圓形ナル多數ノ黴菌ニ與ヘラレタル總稱ナリ故ニミクロコックスノ一種ニシテ既ニ成育シテ塊ヲ成セル時黄色ヲ呈スルモノヲ稱シテ黄色ミクロコックスト云ヒ又ミクロコックスノ一種ニシテ四箇ノミクロコックスヨリ生育セル一族ヲ稱シテ四面形ミクロコックスト云フ

又圓形ナル黴菌ニシテストンプトコックスト稱セラルヽ一種類アリ此（コ）ハ微小ナル球形ノ黴菌カ互ニ相團聚セルモノニシテ其生育スルヤ亦長短相異レル連鎖ヲ成スカ故ナリ又管狀ノ黴菌中ニ在リテ最モ普通ナル種類ヲバチルストイフ此種屬スル或黴菌ノ如キハ尤モ普通ニシテ其數頗ル多シトス

斯ク時ニ由リ得ルニ隨ヒ黴菌ヲ分類スルノ法及ヒ之カ研究記載ノ業ハ日々其歩ヲ進ムト雖モ又人々如何ニ夜ヲ日ニ續イテ斷エズ生物ヲ觀察研究スルトモ黴菌學者ガ黴菌發生ノ當時ニ於ケル世界（其海岸ニハ未タ手ヲ觸レタルモノナシ）ニ立入リテ仔細ニ其有樣ヲ覗フマデハ尙ホ多クノ日子ヲ費スコト必定ナリ

波波迦ノ説

白井光太郎

古事記天照大神天石屋戸隱（コモリ）ノ條ニ

召㆓天兒屋命布刀玉命㆒而内㆓拔天香山之眞男鹿之肩㆒拔而取㆓天香山之天波波迦（アメノハハカ）㆒而令㆓占合麻迦那波㆒而云云ト

アリ

此文中波波迦ハ註ニ「此三字以㆑音木名」トアリテ木名ナルコト明ナレ𪜈名ニシオフ古事記ノ文ナレバ語古クシテ今世ノ何木ナルヤハ容易ニ知リ難シ予曾テ此木ノ何物ナルヤヲ疑ヒ之ヲ古書ニ考ヘ實物ニ探リ方言ニ徵シ多年考究ノ餘遂ニ先人未發ノ見解ヲ此三字上ニ加フルヲ得タルハ予ノ窃ニ欣喜ニ堪ヘザル所ナリ

予ガ考究スル所ニヨレバ波波迦ハははかト讀ミ櫻屬ノ一種うはみづざくらト稱スル者ナルガ如シ其ハ左ノ考證ニ由リテ明ナラント信ズレ𪜈尙足ラサル所誤リタル所アレバ敎示ノ勞ヲ吝マザラン事ヲ乞フ

波波迦ハ日本紀ニハ朱櫻ト書セリ

本草和名（大醫博士深江輔人奉勅新撰）ヲ按スルニ

櫻桃一名朱櫻一名朱桃一名麥菜一名楔（革點反）一名荊桃（已上四名出釋藥性）一名樣子（味酸出崔禹）櫻桃一名含桃一名荊桃一名麥桃（已上三名出兼名苑）

和名波々加乃美一名加爾波在久良乃美

又和名類聚鈔（源順著）ヲ按スルニ

朱櫻（本草云櫻桃波々加一名爾波佐久良）トアリ兩書トモ信用スベキ書ナレ𪜈波々加ノ一名ヲ一ハ加爾波佐久良トシ一ハ爾波佐久良トセリ何レカ誤ナルコト明ナリ今其何レカ是ナルヤヲ考フルニ爾波佐久良ヲ正トスベキガ如シ何トナレバ加爾波又加爾波佐久良ト云フハ樺ノ古名ニテ和名鈔ニモ樺和名加波又云加仁波トアルニテ知ルベシ

扨此朱櫻和名波々加一名爾波佐久良ナル者ハ如何ナル木ナリヤト考フルニ固ヨリ今謂フにはざくらニ非ザルハ其木ノ野生セザルニテモ知ルベク且今謂フにはざくらハゆすらむめノ重瓣者ナレバ斯ル古代ニアルベキトモ思ヘズ是ハ同名異物ト看認シ可ナルハ誰人モ許ス所ナリト信ズ

然ラハ此波波加ナル者ハ櫻ニ似タル者ニテ今ハ他名ヲ以テ呼ブ者タルヤ明ナリ是ヲ徒ノ櫻ナリトナスノ説ハ理レナシ何トナレバ櫻ハ已ニ日本紀、和名類聚鈔等ニ別ニ佐久良又櫻ノ字ヲ用ヒ記載セラルヽモノアレバナリ

爰ニ注意スベキハ波波迦ノ讀方ナリ我邦假字ノ讀方は行ノ字相重ナル𪜌ハ其音ヲ引キテ讀ムヲ例トス例ヘバははきト書シテほをきト讀ひひらぎト書シテひはらぎト讀ほほつきヲほをつきははそヲほうそほほのきヲほをのきト讀ムガ如シ此例ニ據ル𪜌ハははかハほをかト讀ム可キ者ナルハ少シク國書ヲ讀ミタル程ノ人ハ首肯スベシ

之ヲ實物ニ探リ方言ニ徵スルニ日光ノ山中ニ方言ほをでト呼ブ木アリこトかトノ相違ノミニテ正シク古名ニ合ヘリ依リテ其如何ナル木ナルヤヲ檢スルニ櫻ノ一種ニテ今名ヲうはみづざくらト云フ者ナリ然レ𪜈只日光ノ一處ニテ此木ヲほをでト呼タリトテ直ニ波波加ヲ以テうはみづざくらニ當ルハ予ノ敢テセザル所ナリ然レ

モ之ヲ他處ノ方言ニ考ヘ又古書ノ記載ニ據リ考フルニ益此說ノ信ズベキヲ證スルガ如シ

今此木ニ就テ予ガ取調タル各地ノ方言又ハ諸書ニ出ヅル名稱ヲ列擧シ少シク解說セントス

加州產物志曰

ナデンザクラ或ウハミヅ又ミヅメ又ニガ木

怡顏齋櫻品曰

イヌザクラ（一名奈天或上溝）

蘭山採藥記曰

イヌザクラ方言ヨグソザクラ根ヲ用テ郡用ノ鳶色ニ染ム

藥名備考曰

ウハミゾ又ウハミヅイヌザクラノ實ノ鹽藏也洛東二軒茶屋名物也

草木圖說曰

イヌザクラ（一名ウハミヅサクラ 一名アカキ美濃北山方言 一名メヅラ）（慾齋翁曰吾北山ニテアカキノ名アリ皮色木理ノ赤キニ取ル）

日光採品錄曰

ホウガウザクラ

エヂゴアナ
ウハミヅサクラ
コンガウザクラ　**日光採品圖說**

藥名和訓鈔曰

ホウゴ日光イヌサクラ

ホウゴウザクラ同上

今時日光ノ方言予ノ調査スル所

ホウゴウザクラ　ミズメザクラ

ホンゴウザクラ

今時秩父三峯ノ方言予ノ調査スル所

メヅラ

今時青森ノ方言三講謹平氏ノ調査ニヨル

コゴノキ

今時秋田ノ方言中堀幾三郎氏ノ調査ニヨル

コモノキ

(不完)

○羽後北秋田郡植物方言一斑

ハンビロ　ハクウンボク

ヤツバ　ヤマハンノキ

ネキヨウ　シラクチヅル

タウチザクラ　コブシ

アカンチ　ヤエゴ

オツコ　アラヽギ

ヤスサハグルミ
ゴマノキヌルデ
ヒンノキハリギリ
トリキシバクロモジ
リチグロサハシバ
カシバツノハシバミ
コナラコナラ
コハゼナツハゼ
ガンチヤタニウツギ
シドノキカンボク
ヒヤウブイヌガヤ
大マキツリバナ
カタスギアズキナシ
ウリタマギボウシ(食用トス)
岩アヤメヒメシヤガ

サタメシバリヨウブ
ガンピヒメアスナロ
トンノキクサギ
マルミマルメロ
五月イチゴモミヂイチゴ
ツタサビタツルアヂサイ
小三郎コシアブラ
立イチゴサンザシバノイチゴ
チヤウキミヤマガマズミ
シチリカンバシチリ
コモノキウハミヅサクラ
ナベコハシシラキ
カハシキビオニシバリ
ヨメノハシクジヤクシダ
モクホソバノアマモ(乾カシテ蒲團ニ製ス)

マンダシナノキ
ヒノキアスナロ
ドロノキヤマナラシ
ハナノキハウチハカヘデ
コメノキミツバウツギ
ミヅナラ大ナラ
アケタモチウスノキ
ビラキヤブテマリ
トヅラクマヤナギ
シラカヘデミツデカヘデ
山ワラツクバネウツギ
ムラサキツヽジムラサキヤシホツヽジ
アイイラクサ(食用トス)
ホンナカニカウモリ食用トス

以上ハ近頃同地ヨリ歸京セル中堀幾三郎氏ノ採集品ニ就キ調査セルモノナリ

○ユクノキノ花

フヂキ屬ノ一種ニユクノキト稱スル者アリ秩父三峯近傍ニ多ク生ス葉ノ形フヂキニ似テ濶大ニシテ葉ノ裏面著シク白色ヲ帶ブ昨年七月廿一日上州野栗澤村ヨリ秩父中津川村ニ行ク山中ニテ其花ヲ見タリ花形穗狀フヂキト一般ニシテ紫色ナリ殘葩ノ地ニ布クモノ常種ニ異ルアルニ注意シ依テ仰テ樹上ヲ覘ルニ紫花樹頭ニ爛熳タリ予喜ンテ之ヲ採ラント欲シタレ圧事ニ妨ケラレテ果サズ其後山中諸處ニテ此樹ヲ見レ圧花アル者ニ會セズ今ニ至リテ遺憾ニ堪ヘズ此頃牧野富太郎君ニ會シ此樹ヲ問フニ氏モ未ダ曾テ其花ヲ見タルコトナシ然レ圧葉形ノ異ルアルニヨリ夙ニ其別種ナルヲ豫想シ Sophora shikokiana ノ新稱ヲ考定シ置タリト語ラル同氏ノ説ニ此種ハ土佐ノ山中ニモアリト云フ本年ハ既ニ時期ヲ失シタレ圧明年ハ之ヲ採集シ度ク思フナリ

○平賀源内翁ノ遺書

平賀卷太氏ハ平賀鳩溪翁四世ノ孫ナリ近頃東京ニ來リテ弊廬ノ近傍ニ寄寓セラル予ハ一友人ノ紹介ニヨリ同氏所藏ノ平賀源内翁手翰一通遺書ドヾニウス本草ノ二物ヲ展觀スルヲ得タリ此本草書ハ寶曆十一年來聘ノ和蘭貢使ノ醫官ガランスナル者翁ノ博識ニ感シ他ノ博物書ト共ニ贈貽セル者ニ係リ已ニ杉田氏ノ蘭學事始ニモ記載セラレタル頗ル學問上ノ名譽アル歷史的ノ書籍ナリウエブスター氏ノ大字典程ノ大册ニメ Cruydrboeck von Dodonœus ト題シ千六百八十六年ニ刊行ノ序文アリ桐ノ箱ニ納メ蓋ノ表面ニ紅毛本草ノ四字ヲ大書セリ此書ハ鳩溪翁ノ手筆ナリト云フ次ニ翁ノ手翰ヲ見ルニ中ニ秩父鉄山開坑ノ記事アリ予ハ先年中津川村ニ存スル翁ノ事歷ニ係ル舊記ヲ抄錄セル因アレバ茲ニ手翰ノ全文ヲ掲載シ同好人士ノ一粲ニ供ス

平賀鳩溪翁手簡ノ寫シ

六月十二日七月十五日出之御狀相達致拜見候先以母樣益御機嫌好被爲在㞢奉恐悅候次に御家內御替も無御座由頃日亘殿よりも御狀被下致安心候此方より書狀上候定て相達可申奉存候

一燒物二樽被遣御目錄の通委細引合請取申候扨々源吾上手に相成皆肝を潰し候此間長崎掛り御役人衆へも掛御目候品により源吾を遣長崎候而燒せ唐阿蘭陀へ渡度と御役人方へ御內談致掛置候是は日本の土にて唐阿蘭陀之金を取候工夫に御座候大抵相極り候はゞ委細源吾へ可申遣候末代迄之手柄に御座候間其節は參候樣兼而御談置可被下候

一秩父鉄山之儀いまだ吹方熟可申行れ兼候乍去右鉄山通行之爲川船工夫いたし十五六里之間往古より無〇之場通船いたし申候是も漸此節致成就候平助右奉行に遣置大に助に相成候右通船出來故是迄朽捨候山々之木皆炭に相成是も炭山願相濟夏以來二千俵斗燒せ試候處金壹兩に六貫目俵廿七八俵に而江戶着此節兩に十九俵の問屋仕切に而宜利分に候得共手燒に致させ候印埒明不申候故伊豆炭山師山本文野衛門と申者へ利分けに致相談相渡候一年先つ三萬俵位燒出し樣子次第十萬も燒せ候積に御座候是は人に世話致させ手をぬらさず利分に相成候川船〇〇〇兩方故平助一人〇〇〇〇申候炭川〇〇〇相成申候はゞ鶴〇〇ゑど參吳不申候而は他人計に而は大に損德有之候御序に御咄置可被下候川船通行十分致候故是迄十五六里も馬斗に而往來致候故朽捨候深山の諸木炭に相成天下無雙の大山大木共有之候扨々めさましき事に御座候其內には鐵山も成就致候是も石見之者へ渡し候相談致掛候

一たゝら運上金百兩程には相談出來可致候先以五たゝらも相立候積に理兵衛呑込歸り候是も成熟いたし候得は一年五百兩程の運上は取れ候是は未相定り不申候得共炭川船は丈夫に御座候乍去大層元入掛りこまり入

候只今迄も炭山に五人川船に七人鉄山は休候而さへ二人牛四匹川船六艘我一人の力にて扶持いたし居申候故最初の入たしに大に骨を折物入にてまり候故是迄其御見つぎも相成兼候是から少〻くつろぎ追々は金子手に入申候

一親類中近邊へも書狀遣度候得共甚取込故不能其儀宜御傳可被下候

一寒氣の節母樣隨分御保養被遊樣呉々宜御申上被下候

一江島屋へ別紙上不申候宜御心得改所うちや其外へも宜奉賴候

十一月廿四日

平賀源內

平賀權太夫殿

因ニ曰ク此等ノ書類ハ當時不用ノ品ナレバ賣拂度ト申居ラルヽ由聞ケリ

田村藍水先生墓碑銘

藍水田村先生ノ墓所ハ淺草松葉町眞龍寺ニアリ予ハ去ル廿三年八月中同處ニ到リ清掃ノ禮ヲ執リ碑銘ヲ臨寫セルコトアリシガ前項平賀翁ノ事ヲ記スルニ因リ翁ノ師事セル先生ノ事ヲ想起シ左ニ其碑文ヲ掲出スルコトヽセリ

先生姓坂上其先田村麿之支族也以田村爲氏諱登字元臺號藍水在世稱元雄父坂上某母櫻井氏生于江都十五而學醫業三十而聲聞達　朝廷暨遠邦四十六而寶曆癸未撰擧醫員賜於俸祿蒙製國產人蔘之命矣新館既就日勤無懈巡行奥州野州撰辨人蔘生根矣或奉鈞命探索萬國之產物卅八州採得芒消仙茅之類十七品著書籍諸州藥譜蔘製秘錄之八部自書焉自書焉今茲嬰病歿于正寢矣實安永五年丙申三月廿三日也時年五十九葬淺草眞龍寺矣初

聞其訃不覺涙下傾蓋相識二十餘年其子泣血不悲慕請余碑詞知我者先生知先生者我曾所晤語不有不道以何辭焉旗之以銘

活人醫國、一世英雄、探山浮海、應召盡忠、製有妙術、頗有成功、採藥增寶、國産復洪、春遇因厚、粗交王公、高雅晒落、有古人風、吁噫斯日、俄而待終、刋石雖泐、芳聲無窮、

孝子　坂上善之
政廳臣　林信亮撰
深川　三井親和書

因曰先生ノ後裔田村愼二郎氏ハ今四ツ谷ニ住シ家ニ遺著參製秘錄ノ一書ヲ秘藏セラル此書ハ上下二卷ヨリ成リ漢文ニテ參製ノ秘法ヲ記述シ處々ニ著色ノ圖畫ヲ挿メリ製藥家ノ參考ニ供スベキ珍書ナリ

以上四件白井光太郎報

○植物雜言

松村任三

○Dianthus deltoides, *L.* var. genuina. ヒメナデシコ 新稱五月下旬帝國大學植物園ニ開花ス

Pterocarya stenoptera, *Cas.DC. Prodr.* XVI—2. p. 140. Max. Mel. Biol. vol. 8. p. 639. Dr. Aug. Henry's collect. No. 971.

○カンペイジユ ト稱ス五月下旬農科大學植物園ニ實ヲ結ベリ十年前ノ移植ニ係リ昨年始テ開花セリト云フ樹頗ル長セリ葉ハ細鋸齒アル九對ノ小葉ヨリ成リ其總柄ニ翼アリ其翼緣ニモ細鋸齒アリ枝末ヨリ長梗ヲ下垂シ之ニ二翅アル實ヲ密布ス支那ノ産ナリ我ガ サハグルミ ト同屬

○アカシデ ソロ 材相均シ木管、木纖維、管狀細胞ノ三種ヨリ成ル其厚皮ニ靭皮纖維、及石細胞多クアリ而シテ栓質細胞內ニハ褐色ノ物質ヲ含ム

○玉蘭ノ頂芽ハ其狀恰モ筆頭ノ如シ長サ一寸五餘蓋シ樹芽中最大ナラム此樹側芽ヲ缺ク

○七葉樹ノ頂芽モ亦頗ル大ナリ然レ𪜈玉蘭ニ及バス鱗芽四稜アリ長サ八分許外面ニ粘アリ漆ヲ塗ルカ如シ側芽アリ對生ス

○胡桃枝粗大ナリト雖モ芽小ナリ而シテ眞正ノ鱗芽ニアラズ

○秦皮ノ芽ハ木質ヲ成シテ堅硬

○シヲデ ノ芽ハ對生葉ノ基趾ニ由リテ左右ヨリ蔽ハル

○ハクウンボク ハ葉互生、其柄基芽ヲ包ム

○キハダ ノ芽ハ葉柄ヲ蓋トス

○フサヾクラ ノ芽ハ黑褐色ノ鱗片ヨリ成ル

○オホウリカヘデ コウリカヘデ 小枝對生、芽形頗ル相類ス唯コウリ ハ全体小ナリ

○アサノハカヘデ イタヤカヘデ 小枝對生シテ其末ニ小芽ヲ着クルノ狀頗類似ス唯イタヤ ハ樹皮灰白色

○ハシバミ榛 ツノハシバミ 芽形相出シ ツノ ハ枝ニ毛茸アルヲ以テ別ツ

○クロモジ コヤスノキ 小枝ノ末端ニ葉芽ヲ戴キ其左右ニ花芽ヲ居ス梗アリ外反ス

○アワブキ 頂芽四裂ノ狀ヲ呈ス

○櫨、漆ノ二材黄色、櫨ハ漆ヨリモ緻密

○小蘗ノ材黄色美、寄セ木ニ用ヒテ妙、箱根山中ヨリ出ヅ

○蚊母樹ノ材極メテ緻密、淡紅色愛スベシ

○カツラノ材ハ松柏科所屬ノ觀アリ

○槐、桑兩材黒色、槐ハ木管空虚、桑ハ其内ニ物ヲ含ム

○天王寺カブ、近江カブ、小カブ、丸カブ、長カブ、油ナ、蕪ナ、漬ナ、テーナ、冬ナ、山東菜、白菜皆

Brassica campestris.

○スヾダケノ花六雄蘂

○會津ニテコヤスノキヲ（ヂシヤ）サルトリイバラヲ（モガキバラ）クサギヲ（トウノキ）サンカエフヲ（ドウフウ）イハカヾミヲ（ヂサクラ）ムシカリヲ（ソヅゾメ）トイフ

○和州方言ニシロダモ＝アカゴツクバネガシ＝メンガシウリハダカヘデ＝チヤウシノキカラスノサンセウ＝タロカシヲシミ＝オジコロシ

○信州方言

カハラマツバアハバナ

クサボケヂナシ

マツムシサウ（ダヅマ　カウボウバナ）

クラヽガウジコロシ

シラカンバ	シラハリ
レンゲツヽジ	オニツヽジ
マダイワウ	マクウリ
クロマメノキ	コマラヅバジキ
ガンカウラン	シパスギ
コケモヽ	カンラウバイ

○旋花科 (Convolvulaceæ.) ノ花ハ必ス放射平等形ナリ

○唇形(Labiatæ.)狸藻(Lentibulariaceæ.)列當(Orobanchaceæ.)紫葳(Bignoniaceæ.)胡麻 (Pedaliaceæ.) ノ諸科ニ屬スル植物ノ花ハ必ス左右平等形ナリ

○旋花、花葱、睨菊、 紫草諸科ノ雄蘂ハ必ス花瓣ト其數ヲ同フス

○常陸國多賀郡矢指村ハ海邊ナリ、モチノキ、ネズミサシ、トベラ、ヤブカウジ、ヒサカキ、イヌガヤ、ツバキ、ヒラギ、シキミ、マユミ等ノ自生アリ

○四十年前ノ植物學　廣瀬元恭先生ハ甲州ノ人理學提要前後五巻ハ先生ガ嘉永五年ノ譯ナリ其書ニ云ヘルヿアリ曰ク雄花有レ花無レ實雌花花謝シテ結レ實而雌花非レバ得ニ雄花之精一則不レ能レ結レ實也雌花與ニ雄花一異レ株而能生ニ種子一者亦因レ得ニ雄花之精一也其得レ精也風與ニ蜂蝶一屬ニ爲ニ之媒一蜂蝶欲レ吮ニ花之甜液一就ニ雄花之蜜槽一抹ニ被鬚蘂花精一更就ニ雌花一遺ニ花精于其心蘂一群飛往來反覆不レ止卵巢遂孕ム若無ニ蜂蝶之媒一則風送ニ此于彼一亦孕。

○四月上旬常陸國多賀久慈兩郡ニ開花セル植物　タネツケバナ、イヌナヅナ、シユツラン、シヤウジヤウバカ

マ、オキナグサ、アヅマギク、グンバイウチハ、アセビ、ヨメフリ、ヒナブキ、キイチゴ

○遠江京丸ノ牡丹　柳澤里恭ノ雲萍雜誌ニ曰ク東海道濱松といふに宿りし時、家のあるじのいひしは、此の處より天龍川に沿ひて、十五里ほど山に入れば、遠江と信濃との境なる川そひの地に、京丸とよぶ處あり、其地は、他より人の行きかふ可き處にもあらず、國の境に、藤の蔓もて、長サ五六十間もあらんとおもふ程の棧をかけたり、處の者は京丸の棧といへり、巾狹くして、行くにさへ、目くらみ、魂消ゆるばかりなれば、彼の地へ行く者とては、いと稀なり、誰が親の世には、京丸へ行きたる事の有りなど、たゞ噂にのみ其の處の事かたりつぎて、見たる人も無きに、此宿の下男好事の者にて、京丸見て來んと、しばしの暇をこひて、かしこに行きたりけり云々、又處の人語りけるは、此の山を登りて、くぼかなる處より見れば珍しき花有りとて、案内しければ、男行きて見るに、遙なる岨のもとに流あり、水聲の屈曲して激する聲のいさぎよきけはひ、言ふべくもあらず、溪間を遠く隔てゝ、其大サふた抱も有らんとおもふばかりの樹に、色紅にして黃を帶びたる花、今を盛と咲きたり、夏のことなれば、あまりのあつさに、案内の人は木の葉を、戴きたり、さて言ふやう、此花の大サこゝより見ればさほどにも有らねど、此川の末尻といふ處に、此花の散りて流れけるを拾ひし者あり、花びらの徑り一尺餘も有るべしと語れり、いかなる木の花にか、絕えて知る人なし、遠江の國の人は、これを京丸の牡丹とて、今猶有りといふ、云々、又其の地は、家僅に四五軒ありて、長とも見ゆる者の家は、寺院めきて、佛書をかけたり、其の書幅は、一向宗の眞向光明の彌陀にひとしき大なる物あり、食物のみをそなへ、松ともして燈明とす、花を手向くること無し、夜は燈火なく、炬をもて業をなせり、土人は皆總髪にして、男女共におなじ、髭は鎌にてきるといへり、子供も皆總髪にて、衣類には麻の粗きを

織りて、尾花蒲の穗などいれたるを着たり、夏も寒しといふ云々、京丸牡丹ノ事ハ人口ニ膾炙シ且京丸ハ肥後ノ五家莊ト共ニ桃花流水別天地ノ名アルヲ以テ去ル明治廿三年ノ八月此地ニ到リテ探撿ヲ試ミ本年亦植物採集ノ爲ニ此地ニ到ル然レドモ彼ノ牡丹ノ木ナルモノヲ見ズ土人モ之ヲ見タルコトナシト云フ一說ニ京丸牡丹ハ石南ナリトス或ハ然ラン京丸山中ニハ石南ノ大木多シ記シテ參考ニ供ス同地方ノ植物採集ニ關スル日誌中京丸山ノ記事ヲ抄錄スレハ次ノ如シ

八月廿一日晴雨不定　拂曉出發仂車ニ乘リテ森町ヨリ三倉ニ至ル里程三里地勢漸ク高起シ所謂爪先上リナレドモ車上敢テ苦痛ヲ覺エズ三倉ハ信州街道ニシテ秋葉山ノ道ナリ山麓坂下マデハ道路嶮惡ナラズシテ車行スルヲ得ベシト雖ドモ車上甚タ安カラズト云フ依テ余ハ草鞋ヲ穿キ採集器ヲ肩ニシ從者(案內者ナリ)ニ小荷物ヲ擔ハセ共ニ三倉ヲ發シ小奈良安ヨリ右折シテ熊切道ニ出デ泉平、石打松下等ヲ經テ高杉ニ至ル時ニ大陽已ニ傾キ降雨衣服ヲ霑シ道途泥濘步行ニ堪ヘザレドモ宿泊スベキノ旅舍ナク山上ノ一農家ヲ得テ此ニ泊ス三倉ヨリ高杉マデノ里程大約七里皆狹道ニシテ嶮坂多クうらじろ、こしだ、こあぢさいノ類繁生セリ

仝廿二日午前晴曇不定午後暴風暴雨　高杉ヨリ京丸ニ至ル道二アリ一ヲ石切道ト云ヒ一ヲ小俣道ト云フ何レヨリスルモ里程三里余ナリ而シテ高杉ノ北ニ杉嶺ト稱スル一嶺アリ必ズ之ヲ經過セザルベカラス黎明從者ト共ニ發シ石切道ニ向フ拾餘町ニシテ杉嶺ニ出デ嶺ヲ踰ヘテ行クニ隨ヒ山愈々高ク谷愈々深ク道路極テ嶮惡山崖ニ棧道ヲ作リ以テ通路トナス或ハ全ク道ノナキ所アリ樹木ハ能ク繁茂シ殊ニもみ、つがノ類多シ現今氣多製紙會社ニ於テ盛ニ之ヲ伐採シ以テ製紙ノ原料トナス山ヲ登リ山ヲ降リ或ハ溪流ヲ涉リテ漸ク行クニ一小橋アリ京丸橋ト稱スル岐路アリ小俣道ノ相會スル所ナリ其水上ヲ牡丹谷ト云フ一碧鏡ノ如ク頗ル幽邃ニシテ羊齒

類ノ叢生スルヲ見ルきくばはぐま、ゑんしゆうはぐま、みきまゆきのした、ひのきばやどりぎ其他拾數種ヲ得タリ谷ヲ出ヅレバ松杉蓊鬱ノ間ニ人家三軒アリ本家中家新家ト云ヒ皆藤原ヲ姓トス近時人家ニ接シテ一ノ堂宇ヲ建立シ本家ニ傳來スル所ノ彌陀ノ畫像ヲ安置セリ風俗ハ淳朴ニシテ禮節ヲ重ンズ且能ク兒童ヲ敎育ス又山間ノ處々ニ圃地ヲ拓キテきび、あは、ひゑノ類ヲ栽植シ農業ニ精勵ス而シテ他鄕トノ交通甚稀ナリ實ニ桃花流水ノ別天地ト稱ス可シ四面青嶂ヲ繞ラシ劍山峻峯屹立ス其北方ノ如キハ未曾テ人跡ノ到ラザル所ナリ氣候ハ寒冷ニシテ常ニ風强シ然レドモ冬日降雪甚多ナラズト云フ午後三時京丸ヲ發シ再ビ京丸橋ヲ渡リ直ニ左折シテ小俣道ニ出デ小俣峠ヲ踰ヘ小俣ノ舊家藤原五平方ニ泊ス里程大約二里ナリ此日朝來天候穩カナラズ夜ニ入リテ暴風雨トナリ樹木ヲ裂キ家屋ヲ破リ作物ヲ害スルコト甚ダシ小俣ニハ人家九軒アリ皆一系ヨリ出ヅルト云フ五平ハ學事ニ篤志ニシテ住家ノ一部ヲ敎場ニ充テ息女ヲ以テ其敎師トナシ小俣及京丸ノ兒童ヲ敎育ス此僻地ニシテ學事ニ精勵スルコト如斯都會ノ人士豈ニ奮勵セスシテ可ナランヤ

仝二十三日午前疾風微雨午後快晴　午前十時風雨收リ從者ト共ニ出發ス榛棘莽々僅ニ兎徑ヲ認ム葛蘿顔ヲ遮リやまびる足ニ吸着シテ殆ド通ズベカラズ然レドモ勇ヲ皷シ漸ク進ミテ杉嶺ニ達スかし、くぬぎ、くり、しひのきノ類繁生シ秋期ニ至レバ多クしひたけヲ出スト云フ暫時植物ヲ採集シテ久原ニ泊ス小俣ヨリ久原マデ里程大約二里半ナリ

仝廿四日快晴　黎明從者ト共ニ發シ氣多及窪田ヲ經テ秋葉山ノ裏坂ヲ登ル山頂遙ニ東海ヲ望ミ市街村落林間ニ散點シ景色絶佳涼風徐ニ來リ頗ル爽快ヲ覺フ暫時ニシテ表坂ヲ降リ坂下、若身平、小奈良安等ヲ經テ三倉ニ泊ス久原ヨリ三倉マデ里程大約十一里ナリ

（小笠原利孝報）

○槲ノ老木

駿河國駿東郡棚頭村小野勇逸氏庭園ノ槲樹ハ頗ル老木ニシテ其幹ヨリ南北ニ枝ヲ擴張ス第一ノ枝ハ北ヘ六間許南ヘ六間餘ニシテ更ニ彎曲シテ東南ヘ擴張スルヿ五間許夫ヨリ東ヘ四間半許擴張セシト云フ然レ𪜈此東ヘ向ケ擴張セシ枝ハ前年火災ニ罹リ枯死シテ今ハナシ第二第三等順次幹ヨリ南北ヘ一枝宛擴張スルヿ拾餘枝ニ至レリ棚頭村ハ小山停車場ヲ隔ルヿ四拾町許「クズ」瀧ヲ去ルヿ遠カラザルナリ

○藥獵

大和事始に云く五月五日に百草取集めて藥とする事也、日本紀に、推古天皇十九年夏五月五日、菟田野（ウタノ）に藥獵せらるとあり、是より始るなるべし」とあり從來植物を採集するを採藥と稱せしは蓋し此等に基因せしならん

○土屋勇之輔氏逝

東京植物學會々員土屋勇之輔氏ハ愛媛縣尋常師範學校ニ奉職動植物學教授ノ處肺患ノ爲メ職ヲ辭シ靜岡市ニ於テ專ラ療養アリシモ醫藥効ナク八月廿八日死去セラレタリ

左ノ一文ハ澳國ヴヰーンノ植物家「ドクトル」カルヽ、フリッチ氏ガ同府ナル動植物學會ニ於テ演說シタルモノヨリ抄出ス

池野成一郎誌

○分類家トシテノカルヽ、プラントル氏 (Karl Prantl als Systematiker)

數日前獨乙國分類學大家ノ一人タルブレスラウノ教授カルヽ、プラントル氏逝キヌ氏ハ實ニ前途有望ナル俊英ノ學士ナレバ若シ氏ニシテ猶此世ヲ去ルヿナクンバ吾人ガ今日用フル所ノ人造的ナル植物分類法上ノ疑點ヲ明解シ之ヲシテ眞正ノ天然分類法ニ近寄セシメタルヤ疑ヲ容レズ盖氏ガ研究ノ大目的タル植物諸類ヲ其天然ノ

系統ニ準據シテ分類スルニアルヤ其論文ヲ覧テ以テ知ルベシ例ヘバ氏ガ最終ノ論文タルしだ類ノ系統 (Das System der Farne) ハ左ノ語ヲ以テ始マル曰ク凡植物一群ノ天然系統ナルモノハ其等植物ノ總テノ遺傳ノ性質ヲ漏サズ知リ得テ後之ヲ基礎トシテ始テ建設シ得ベキモノナリ —Das natürliche System einer Pflanzengruppe kann nur auf Grund vollständiger, auf *alle erblichen Eigenschaften ihrer Glieder* sich erstreckender Kenntniss aufgebaut werden— ト若シ此主義ニシテ世界分類家一般ノ服膺スル所タラシメバ今日世上ニ行ハルヽ不自然ナル標徴ニ準據セル夥多ノ分類法ハ世ニ出ヅルヿナクシテ止ミシナランカ

プラントル氏ガ理學上ノ研究ハ多ク狹キ一局部ニ關ス即羊齒類ノ形狀學(解剖學、發生學)及ビ分類學ニ關ス氏ガしだ族中うらぼし科ノ分類法ハ從來ノモノニ比スレバ遙ニ自然ニ合セルモノタルヤ明ナリ氏トエングレル氏トノ合纂ニカヽル彼ノ有名ナル Die natürlichen Pflanzenfamilien 中管束隱花植物ノ部ハ盖氏ガ自ラ手ヲ下シテ編スベカリシナランニ之ヲ遂グルニ至ラズシテ此不幸ニ逢フ實ニ悼惜スベキナリ又氏ハ管束隱花植物ノ形狀學的研究(Untersuchungen zur Morphologie der Gefässkryptogamen) ト題スル論文ヲ公ニシ始メタルガ皆實ニ學術上大價値アルモノトス其續編ノ一册モ未ダ世ニ出デザルニ先チ此不幸アリコレ又大ニ悲ムベキナリ

プラントル氏ガ古來ヨリ短キ論文中植物家一般ニ對シテ面白キハ管束隱花植物ノ系統上ノ關係及ビ顯花植物ノ起原ニ關スル説 (Bemerkungen über die Verwandschaftsverhältnisse der Gefässkryptogamen und den Ursprung der Phanerogamen) トイヘル論文ナリ此論文ハ管束隱花植物中主ナル部類ノ相互ノ系統上關係、之ト苔蘚類及ビ顯花植物トノ關係ヲ論ゼリ……其内殊ニ面白キハ單子葉植物ノそてつ科ヨリ起レルヿ或ハ双子

葉植物ハ其一部ハまつ科ヨリ起リ一部ハ單子葉類ヨリ來リタルヿヲ論ジタルヿコレナリ

プラントル氏ガ Die natürlichen Pflanzenfamilien 中編セル科ハ此書中最モ秀拔ナルモノタルハ言フヲ待タズはしばみ科ヲかば科ニ合シぶな科ヲはしばみ科ヨリ分離シタルガ如キコレ系統上ノ自然ノ理ニ合セルモノトイフベク其他うまのわしがた科ノ如キモ氏ノ編スル所ニシテコレ亦大價値アリ十字花科ノ分類法ハ從來世ニ行ハレタルド、カンドール氏ノ分類法ト大ニ異リコレ亦分類上ノ一大進歩ト云フベキナリ

プラントル氏ガ著述多シト雖モ其最モ世ニ行ハレタルハ氏ガ植物敎科書ニシテ其順序ノ整正ナル其事實撰擇ノ宜シキヲ得タル僅々數年ニシテ第八版ヲ刷行スルニ至レリ……

池野曰ク我邦人稍モスレバ植物ノ名稱ヲ誦ジ植物ノ臘葉ヲ玩弄スル人ヲ以テ植物分類學者ト稱ス然レドモ植物ノ名稱ヲ誦ズルハ園丁モ能ク之ヲ爲スヘク臘葉ヲ玩弄スルヿハ骨董家モ能ク之ヲ爲スヘシ眞正ノ植物分類家タルモノ豈ニ骨董家、園丁ト同一視スベケンヤ抑植物分類家タルモノハ或ハ植物ノ發育ヲ顯微鏡的ニ研究シ或ハ其形狀ヲ精悉シ因テ以テ植物諸類相互ノ系統上ノ關係ヲ詳悉シ而メ全植物界ノ天然系統ヲ建設スルヲ以テ主眼トスカルヽ、プラントル氏ノ如キモノコレ眞正ノ分類家ト云フベク彼ノ徒ニ草木ノ名稱ヲ誦ジ草木ヲ玩弄スルモノコレ園丁、骨董家ト稱スベク植物分類家トハ稱スベカラザルナリ

○質問應答

問　高橋勇

昨年暴風雨ノ後桑園ヲ見シニ蒼々トシテ新芽ヲ發セリ然ルニ冬ニ至リテ皆新芽ハ枯レタリ是レハ如何ナル原因ナルヤ

答　白井光太郎

問者ノ謂フ所ノ新芽トハ八月枝（アウグストトリーブ）ト稱スル者ナリ暴雨ノ爲ニ地中ニ水分ヲ增加シ依テ秋芽ノ伸長ヲ促シ新枝ヲ生シタルナリ斯ノ如キ新枝ハ水分ヲ多量ニ含有シ木質頗ル柔軟ニシテ寒氣ニ堪ユル力弱キ者ナリ故ニ霜ノ爲ニ容易ニ枯死ス是其原因ナリ

問　高橋勇

余ガ居宅後ニ大ナル松アリ此松ノ枝南ニ向テ凡ソ三尺廻リニシテ長五間位アリ又三間許ハ小枝一本モナシ然ルニ其根ヲ掘タルニ其枝ト方角モ長モ廻リモ皆一同ニシテ異ナル處ナシ此ニ依テ始メテ根枝ト相共ニ成長スルモノト思ヘリ然レバ其枝ヲ切ラハ根又枯ルヽモノニヤ又根ト枝ト相平均スルモノナルヤ其理由ヲ御教授ヲ乞フ

答　白井光太郎

根モ枝モ年々成長スル者ナレバ大木ニハ大キ根アルハ勿論ノヿナリ故ニ成長ノ旺ナル期節ニ大キ根ヲ切レバ水分ノ吸收ト枝葉ヨリノ蒸發ト平均ヲ得ザルガ爲ニ其樹忽チ枯死スルコトアルベシ不時ニ樹木ヲ移植シ根ヲ傷クルコト甚シケレバ其木枯ルヽコトアルハ是ガ爲ナリ然レ𪜈葉ノ無キ時生長ノ休止セル時杯ニハ根ヲ切ルモ害ナシ根ト枝トハ必ス同方法ニ出テ同形ヲナスト思フハ觀察足ラザルガ爲ナリ少シク注意スレバ其然ラザルヲ知ルコト易シ

動物學雜誌

第五十八號
明治二十六年八月十五日發行

一冊金十錢郵税金一錢〇六冊前金六十六錢十二册金一圓二十二錢

●目次

○昆蟲ノ話（九）石川千代松君○あさり介殼ノ斑紋ニ就テ（前々號ノ續キ）池田作次郎君○とんぼトか瑠璃仙○双見ニ就テ石川千代松君○菟蔡葦觸手之保存製法長濱兼吉君

◉雜錄

○細胞固定藥並貯藏法九州ノ平家蟹○哺乳類ノ綱目肥前からす○唐津ノかぶとがにぜむべる先生○外國の新ゐる教科書○高濱ニテ採集セシ動物○蛹ノ運動○奇麗なる蜘蛛の卵嚢○海ノ螢○水產調査船

發賣所　東京市神田區裏神保町　敬業社

東京人類學會雜誌

第八卷
第八十九號

●本誌ハ毎月々末壹回發兌定價壹部金拾錢郵税貳錢六部前金五拾五錢郵税一部ニ付貳錢郵券代用必ス一割增

○記事

○論說及報告　直立して步行する類人猿に就て丘淺次郎○アイヌの名の撰び方永田方正○西ケ原貝塚探究報告、其二、理學士坪井正五郎○小兒判斷法羽柴雄輔○下野國足利に於て近頃發見せる埴輪土器（圖入）若林勝邦○アイヌの入れ墨（石版圖付）理學士坪井正五郎○飛彈國吉城郡國府村三川組字エンダソラ遺跡（圖入）田中正太郎通俗講話人類學大意（續）理學士坪井正五郎○人類學參考異聞隨筆、第一回井上喜久治○雜報越後ノ石棒（淡厓）分銅（若林勝邦）奥羽人類學會記事

發行所　東京本郷區本郷六丁目　哲學書院

一本誌廣告料五號文字　一行（二十五字詰）一回金五錢三回以上割引仕候

○本誌毎月一回發兌一册金拾二錢○六册前金七十二錢

○拾二册前金壹圓四拾四錢會員ニ限リ壹册拾錢

○配達概則

第一條　代價收受セザル內ハ縱令御注文アルモ遞送セス○第二條　前金ノ盡ル時改ハテ御請求仕ル故次發兌迄ニ御送金ナキ方ハ御送附相成マテ雜誌ヲ郵送セス○第三條　郵便切手ヲ以テ代價ト換用ハ謝絕ス○第四條　特ニ一册限御入用ノ向ハ一錢切手十二枚御送致ナレハ御届可申候

明治廿六年九月七日印刷
明治廿六年九月十日發行

版權所有

編輯兼發行者　東京府平民　井上蘇吉
東京市神田區錦町三丁目一番地
印刷者　熊田宜遜
東京市神田區錦町三丁目廿五番地
印刷所　熊田活版所
東京市神田區錦町三丁目廿五番地
發行所　植物學雜誌編輯所
東京市神田區裏神保町一番地
賣捌所　敬業社
同所
同　丸善書店
東京日本橋區通三丁目

314179

THE
BOTANICAL MAGAZINE.

Vol. 7.] September 10, 1893. [No. 79.

明治廿一年二月三日內務省許可

CONTENTS.

Senecio Syneilesis, Fr. et Sav. By R. Yatabe, Sc. D. 245
Scientific and Common Names of Plants. By Prof. J. Matsumura. . . . 247
Plants Employed in Medicine in the Japanese Pharmacopæia. By K. Sawada. 255
Miscellaneous:—. 259
Notes on Miscellaneous Plants.—Bacteria.—"Hahaka."—Local Names of Plants of Akita Co., Ugo.—Flowers of "Ukunoki."—Work of Mr. G. Hiraga.—So called Tree Poeony of "Kyomaru."—an Old tree of Quercus dentata.—Mr Yunosuke Tsuchiya.—Carl Plantl.—
Queries:— 284
Appendix :— 77
Analytical Key to the Phanerogamous Plants.

All letters and communications to be addressed to the editor of the

TŌKYŌ BOTANICAL MAGAZINE,

No. 1. Urajimbōchō, Kanda, Tōkyō, Japan.

第七卷　第八十號

50

明治二十六年十月十日

植物學雜誌

目録

日本植物報知（第十九）（ムジナモ イハツクバネウツギ）　理科大學　牧野富太郎（二八五丁）

日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）　醫科大學　澤田駒次郎（二八七丁）

植物分類餘錄（承前）　理學博士　松村任三（二九一丁）

松ノみどりノ運動ニ就テ　理學士　藤井健次郎（二九五丁）

日光山植物雜記（第七十七號ノ續キ）　理科大學　安井伴市（二九七丁）

靜岡縣產植物錄（第七十號ノ續キ）　小笠原利孝（三〇〇丁）

◎雜　錄（三〇八丁）

○「バクテリア」の說○繇條書屋植物雜記○附子○東京植物學會○寄贈交換書目

◎附　錄

○顯花植物分科檢索表　池野成一郎（八五丁）

植物學雜誌編輯所

動物學雜誌

第五拾九號

明治廿六年九月十五日發行
一册金十錢郵税金二錢六册前金六十六錢

●目次

○桑樹の介殼蟲（第五拾七號の續き）佐々木忠二郎君○海產生物學の沿革（四）岩川友太郎君○八躰の由來（第二）箕作佳吉君○菟葵布觸手之保存製法（承前）長濱兼吉君○佐賀縣に於ける食用くらげ 服部捨太郎君○雙兒に就て（前號の續）石川千代松君

◎寄書 ○鰹及ひ鮪節の有害蟲「がいた」の驅除法に付きての實驗幷に方案 粟野傳之丞君

◎雜錄 ●火の合戰●壹岐採集失敗の土產●旱魃と動物の關係●出水と動物の關係●蛙タケケムシを捕食す●うゐでるしわいむ氏の脊椎動物比較解剖書第三版(Grundriss der Vesleichenden Anatomie der Wirbiethiere, III te Auflage)●こるしえると、はいでる二氏ノ無脊椎動物ノ比較發生學書第三部 (Lehrbuch der Vergleichenden Entwicklungs-geschichte der wirbellosen Thiere von Prof. E. Korscheltund Prof. K. Heider; specieller Theil III Heft.)●帝國大學三崎臨海實驗所●土屋勇之輔氏逝く●五蹄馬寫眞

發賣所 敬業社
東京市神田區裏神保町壹番地

理學士宮崎道正先生著

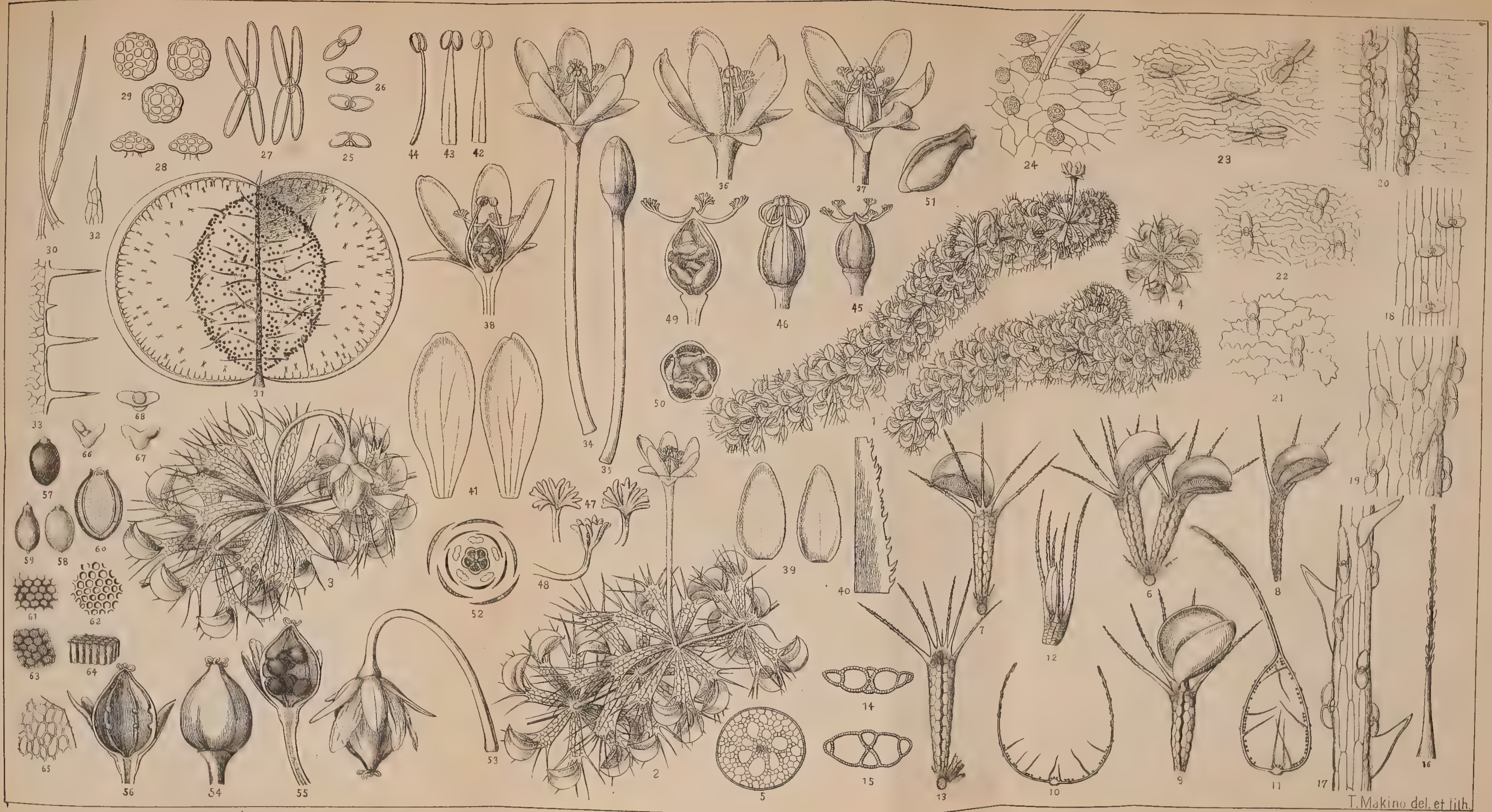
中等教育 無機化學教科書

全一册定價七拾五錢郵税金八錢
紙數三百八十頁精畫六十二個入

本書ハ理學士宮崎道正先生特ニ我ガ中等教育現在ノ程度ヲ詳察シ普ク內外化學教科書類ノ長短ヲ取捨シ更ニ一機軸ヲ出ダシテ編成セラレシモノニシテ舊教科書ノ缺點ヲ補訂スルニ最近研究ノ結果ヲ以テセラレタル所少カラズ而シテ每章幾多ノ實驗ヲ揭ゲ事實ト眞理ヲ正確ニシ淺近ヨリ深邃ニ入ルノ次序ヲ逐ヒ且ツ有名ナル週規則ニ照ラシテ章ヲ分チ節ヲ立テラレタリ又行文流暢簡潔ニシテ少シテ冗漫ノ煩ナク一度讀過シテ忽チ其趣旨ヲ得ルコト難カラズ故ニ教科書トシテ完具セザル所ナキノミナラス化學ヲ自修セントスルノ士ニ向テモ亦無比ノ好侶伴タルコト購讀諸君自カラ之ヲ認メン今ヤ新版刻成ル弊社ハ之ヲ我ガ教育社會ニ紹介スルノ榮ヲ得タリ

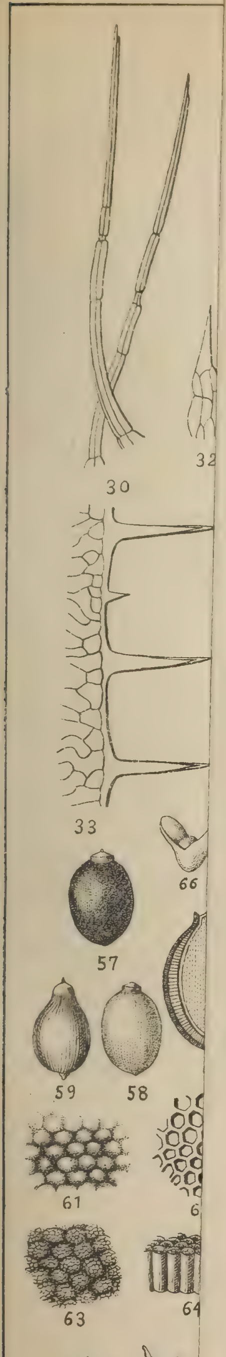
東京神田區裏神保町一番地
發兌書肆 敬業社

Notes on Japanese Plants, XIX.—


30
32
29
28
27
26
25
44
43
42
34
35
36
37
24
23
20
51
31
33
38
49
46
45
50
1
4
22
18
21
68
66
67
57
60
59
58
41
47
48
52
39
40
7
6
8
19
3
61
62
63
64
65
56
54
55
53
2
5
14
15
13
12
10
9
11
17
16

T. Makino del. et lith.

Aldrovanda vesiculosa Linn. Var. verticillata C. Darwin. Nom. Jap. Muzinamo. ムシナモ



植物學雜誌第七卷第八十號 (明治二十六年十月十日)

THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. VII. October 10, 1893. NO. 80.]

Notes on Japanese Plants, XIX.

Tomitaro Makino.

DROSERACEÆ. いしもちさう科

Aldrovanda vesiculosa Linn. Sp. pl. 402. Willd. Sp. pl. I. 1543. DC. Prodr. I. 319. Reichb. Icon. fl. Germ. III. t. 24. **Var. verticillata** C. Darwin Insect. Plants 329. *A. verticillata* Roxb. Fl. Ind. II. 112. *A. vesiculosa* Hook. f. et Thoms. in Journ. Linn. Soc. II. 83. Nom. jap. *Muzinamo.* ムジナモ (**Plate XI.**)

This plant was discovered by me May 11, 1890 (and July 1891 in flower), in stagnant water in Yōda-mura near Tōkyō, which is very interesting for the investigation of Japanese Flora. Its occurrence in this country was, as far as I know, never recorded.

CAPRIFOLIACEÆ. すひかづら科

Abelia biflora Turcz. Enum. Chin. n. 93 in Bull. soc. Mosc. X. 152. Walp. Rep. II. 446. Maxim. Fl. Amur. 472 et in Mél. biol. XII. 477. Franch. Pl. David. 151, t. 11. *A. Davidii* Hance in Journ. Bot. VI. 329 et XIII. 131. *A. shikokiana* Makino in Bot. Mag., Tokyo Bot. Soc. VI. 55. Nom. jap. *Iwatsukubane-utsugi.* イハツクバネウツギ

Shrub, much branching. Leaves opposite, obovate or ovate-lanceolate, rather acute, entire or with a few coarse teeth; its nerves, margins, upper surface, also petioles and young branches pilose. Peduncles terminating lateral branchlets, dichotomous, pilose. Bracts Minute, linear-subulate, tripartite, the middle lobe being longest. Calyx-lobes 4, narrowly oblong-spathulate, obtuse. Corolla infundibuliform, a little longer than the calyx, pubescent within; limbs 4, nearly rounded, white tinged with rose-colour. Stamens and style included. Ovary very slender, pilose. Fl. May.

Tosa: Ogawa-mura. (T. Makino) Mt. Yokogura. (T. Makino, Y. Yoshinaga)

日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）

澤田駒次郎

本植物ハ東印度、馬來群島、濠洲北東部、新南諾爾斯及ビフイリツピン群島等ニ自生ス

本植物ハ極メテ變種ヲ生ジ易シ故ニ從來其形狀ノ記載モ亦種々ニシテ一定セズ各自異ナル名稱ヲ附與スルニ至レリ Flückiger 氏云本植物播布ノ區域ハ頗ル廣大ナルニ因リ其産地ニ從ヒ多少差異ナキ能ハズ就中葉ノ形狀及ヒ大小ハ疑問ノ焦點トス其他花序ノ極メテ緻密ナルアリ花軸極メテ延長シ或ハ平滑或ハ毛茸ヲ帶ビ間マ羊毛樣ノ毛茸ヲ有スルモノアリ又雄蘂ハ其下部互ニ癒着シテ五束ヲ爲シ白色黄綠色紫色等アリテ一定セズト

一千八百十三年 Smith 氏ガ Melalenuca minor ト稱セシ一種ノ植物ハ本植物ノ變種ニ外ナラズ嫩葉及ビ蕚ハ絹糸樣ノ毛茸ヲ被ムリ花序ハ延長セズシテ殆ンド球形ナルヲ以テ本植物ト鑑別ス此種類ヨリハ多量ノ加耶布的油ヲ製造スト

本植物ヲ Cajeput. Cyjuput, Cajahet ト稱スルハ馬來ノ Kaju（白色ノ義） Putie（樹木ノ義）ナル語ニ基因シ Leucodendron ナル種名ハ希臘ノ「レウコス」或ハ「レウカス」（共ニ白色ノ義）「デンドロン」（木ノ義）ナル二個ノ語ヲ結合シタル名稱ナリ

藥品　加耶布的油　Ollum Cajeputi.

加耶布的油ハ本植物ノ葉ニ水ヲ和シ蒸餾シ得タル揮發油ニシテ日本藥局方ニハ藥用ニ供ス

製造法　RumPhius 氏ノ說ニ據レバ温暖ナル日ヲ選ヒテ葉ヲ採集シ之ヲ袋中ニ置ク𪜈ハ熱ヲ生ス之ニ水ヲ加ヘテ柔軟ト爲シ一夜放置シテ醱酵セシメ然ル後蒸餾ス二袋ノ葉ハ大約三「ドラクム」ノ加耶布的油ヲ生スト

又一千八百二十三年ニ於テ麻剌甲諸島ノ一ナルポーロニ至リシ Lesson 氏說ニ第九月下旬ニ於テ葉ヲ採集シ之ヲ銅製ノ蒸餾器中ニ置キ充分ナル水ヲ注加ス此蒸餾器ハ冷却器ヲ有セズ頭部尖リ其頭部ニ因テ被覆セラル

ヽナリ而シテ蒸餾シタル油ハ水ヲ以テ充シタル桶中ノ管ヲ通過シテ受器中ニ滴集スト又一千八百六十五年ニ於テボーロニ至リシ米國ノ旅客 Bickmcre 氏ノ云フ所ニ據レバ加耶布的油ハ水ヲ以テ本植物及ビ Melaleuca minor ノ葉ヲ蒸餾シ得タルモノニシテ其方法ハ多クハ Rumphius 氏ノ説ニ因ルモノトス

加耶布的油ハ壜詰ト爲シ新嘉坡、吧咑非啞ヨリ輸出ス

性狀　加耶布的油ハ暗淡綠色澄明ノ液体ヲ爲シ香氣ハ峻烈佳快ニシテ稍々樟腦ニ類似ス味ハ性温ニシテ微ニ苦ク樟腦樣ニシテ口中凉味ヲ生ス比重ハ〇•九一四ヨリ〇•九三〇ニ至リ平均大約〇•九二六ニシテ華氏三百四十三度ニテ沸騰シ酒精ニハ溶解ス

本品ハ極メテ揮發性ニシテ可燃性ヲ有ス改正日本藥局方ニ云加耶布的油ハ本植物ノ葉ヨリ水ヲ和シ蒸餾シテ得タル中性稀薄ノ揮發油ニシテ多クハ淡黄色或ハ類綠色ヲ帶ヒ樟腦ニ類スル竄透性ノ香氣ヲ有シ酒精ニハ隨意ノ比例ニ於テ澄明ニ混和ス比重〇•九一乃至〇•九三ナリ

本品五立方「センチメートル」ニ五十度ノ温ヲ保タシメ之ニ沃度一「グラム」ヲ漸々投加スルノ後冷却スレバ固結シテ結晶ノ塊トナル

本品一立方「センチメートル」ニ水二十五立方「センチメートル」ヲ和シテ後醋酸一滴ヲ加ヘテ振盪シ之ニ黄色血滷鹽溶液一滴ヲ注クニ呈色ス可カラス」トアリ又日本藥局方注解ニ云（醫科大學教授下山順一郎氏著以下之ニ傚フ）加耶布的油ハ本來無色ナレ𪜈尋常ノ品ハ淡綠色ヲ帶フ是レ極メテ少量ノ銅分ヲ含有スルニ由ル其銅分ハ銅製蒸餾器又ハ貯藏器ヨリ來ル更ニ水ト共ニ蒸餾スル𪜊ハ無色トナル而シテ殆ト全ク百七十六度乃至百七十七度ノ温ニ於テ沸騰シ分極光線ノ平面ヲ左旋スル所ノ化合品Cajeputol（カヱプトール）$(C_{10}H_{18}O)$ヨリ成ル本條ノ沃度ニ對スル反應ハ本品ヲ他ノ揮發油

ト鑑別スルニ用ユル反應ニシテ之ニ由テ生スル結晶塊ハ $C_{10}H_{18}O]_2$ ナル化合体ヨリ成ル而シテ又本條ニ揭クル黄色血滷鹽ニ對スル試驗法ハ本品ハ銅ヲ夾雜スルコトアルモ痕跡ニ過ク可カラサルヲ制定スルモノナリ

本品ヲ試驗スルニ當リテ注意ス可キモノハ色澤、香氣、比重特ニ其酒精ニハ隨意ニ混和スレ𪜈硫化炭素トハ澄明ニ混和セサル等ノ諸件トス

トアリ或云加耶布的油ノ綠色ヲ帶フルハ之ヲ蒸餾スル銅製ノ器ヨリ來ルモノトスレドモ Brande. Goertuer. Tereira 諸氏ノ試驗セシモノニハ銅ヲ夾雜セスト又嘗テボーロニ至リ加耶布的油ノ製造法等ヲ目擊セシ Lesson 氏ノ說ニ據レバ該油ノ綠色ヲ帶フルハ之ニ固有スル色彩トス又 Guibourt 氏ハ「メラリウカ」ノ他ノ種類及ビ之ニ類似ノ諸植物ノ葉ヨリ蒸餾シ得タル揮發油ハ鮮綠色ヲ有スルヲ通常トスト云フ加耶布的油ノ綠色ヲ帶ブルハ該油ニ固有ノ色彩ナリト雖𪜈久時之ヲ貯藏スルトキハ其色彩自カラ消失ス故ニ其綠色ヲ保有スル爲メニ些少ノ銅ヲ夾雜スルヲ以テ新タニ輸入セシモノニハ銅ヲ含有スルヲ通常トスト云フ

成分　Schmidt. Gladstone 兩氏ノ調査ニ據レハ加耶布油的ハ「ビヒトレート、カヤプーテネ」即チ「カエプトール」ヨリ成ルモノトス

本品ハ炭化水素ニシテ佳快ノ香氣ヲ有ス

醫治効用　加耶布的油ハ鎭痛ノ一良藥トシ風氣疝、歇私的利亞及ヒ內臟ノ痙攣ヨリ發スル疼痛等ニ特効アリ又緩和ナル興奮藥トシ陰性ノ熱病、痿癱等ノ如キ沈衰ノ諸症ニ殊効アリ或ハ虎列剌ノ特効藥トス然レトモ其効驗確實ナラズ又引赤藥トシ曼性僂麻窒斯等ニ用ヒテ効驗アリ殊ニ阿利布油ト混和シ曼性僂麻窒斯、痛風、神經痛等ニ外敷シテ其効驗著シト云フ

加耶布的油ハ馬來人等ノ最モ貴重スルモノナリ然レトモ目下本邦及ヒ歐羅巴諸國ニテハ藥用トシ只稀レニ之ヲ應用ス

四十二　メラリウーカ、ミノル

羅甸名　Melabeuca minor, Linn.

Syn. Melabeuca Cajuputi, Roxb.

桃金孃科

東印度諸島等ニ自生スル小喬木ニシテ皮部平滑暗黃褐色ヲ呈シ其質脆ク菲薄ナル皮鱗ト爲リテ剝離ス枝梢ハ纖小ニシテ稍々屈曲ス葉ハ披鍼形若クハ卵圓披鍼影ニシテ互生シ長サ二寸餘乃至三寸三四分先端或ハ尖リ或ハ鈍ク叉斜ナルモノアリ平縁ニシテ主脉ノ兩側平行脉絡ヲ有シ下部漸ク狹隘ト爲リ矮短ナル葉柄ニ移リ捩轉シテ鉛直ス而シテ嫩葉ハ軟毛ヲ密生シ其發育シタル葉ハ硬毛ヲ有ス花ハ花梗ヲ缺如シ穗狀花ヲ綴ル長サ一寸六七分乃至二寸四五分頂端鱗片様ノ芽ヲ有シ發育シテ枝葉ヲ生シ三個宛附着シ花梗椎ハ白色ノ毛茸ヲ密生ス蕚ハ盃形ニシテ長サ一分餘其質肥厚軟毛ヲ密生シ先頂五個ニ缺刻シ其截片矮短圓形ニシテ稍々乾涸ス花瓣五片白色圓形ニシテ蕚ノ口部ヨリ生シ開展ス雄蘂數多花絲極メテ纖小花瓣ヲ超過シテ突出シ下部互ニ附着シ五束ヲ爲シ花瓣ト相對シテ蕚ノ口部ヨリ生シ葯ハ細小ニシテ背部ニ於テ花絲ノ頂端ト附着シテ内向ス實礎ハ中立性ニシテ其過半ハ蕚ト癒着シ三房ヲ有シ各房數多ノ卵子アツテ胎盤ニ附着シ上部游離シテ凸圓形ヲ爲シ柱頭三個ニ缺刻ス果實ハ細小球形ニシテ其質硬固先頂截切様ヲ爲シ肥厚ナル蕚ニ因テ被覆セラレ其頂端游離ノ部分アツテ冠狀ヲ爲シ稔熟スレハ其頂端ヨリ房裂シテ三個ノ瓣ヲ爲シ三房ヲ顯出ス而シテ枝梢ノ側面ニ附着シ

テ數年間墜落セス種子ハ楔形ニシテ扁平其膜菲薄胚子ハ肥大ナル子葉ヲ有シ蛋白質ヲ有セス

本植物ハ東印度諸島殊ニ西里百（セレベス）、武羅（ボーロ）、安門（アンボイナ）等ニ多ク產シフイリッピン群島、交趾、ニユー、カレドニアニモ亦自生アリ

本植物ハ其葉ニ廣狹アリテ峻烈佳快ノ芳香ヲ有ス Bentham 氏ハ本植物ヲシテ「メラリウーカ、リウーコデンドロン」ト同物トセシノミナラズ東印度諸島ニ產スル其他ノ種類ヲモ同一種トセリ氏ノ說ニ據レバ此二種ノ植物ハ別種トスヘキ特異ノ性狀ヲ有スルコト無ク又此等ノ葉ヨリ蒸餾シ得タル揮發油ハ均一ノ性狀ヲ有スト

（以下次號）

植物分類餘錄 （承前）

松村任三

Menispermaceae. 防已科

Menispermum dahuricum, *DC.*

オホツヾラフヂ 漢防已

ツタノハカヅラ

フソナ

メクラブダウ

草木圖說木部十卷ノ五十五

Menispermum diversifolium, *Prantl.*

コウモリヅタ

コツラフヂ

Cocculus Thunbergii, *DC.*

Syn. *Cocculus ovalifolius, Dc.*

Cocculus diantherus, Hk. et Arn.

Menispermum orbiculatum, Th.

Nephroia sarmentosa, Lovr.

Nephroica sarmentosa, Miers.

Nephroica hexagyna, Miers.

Nephroica ovalifolia. Miers.

Nephroica dilatata, Miers.

Nephroica hastata, Miers.

Nephroica triloba, Miers.

Nephroica cynanchoides, Miers.

Nephroica Thunbergii, Miers.

Nephroica pycnantha. Miers.

アホツヾラ　木防巳

アヲカヅラ
ツヾラカヅラ
ツヾラフヂ
チンチンカヅラ
ピンピンカヅラ
メツブシカヅラ
ヤブカラシ
ヤマカシ
ハクサカヅラ
ウマノメ

草木圖說木部十卷ノ三

支那、朝鮮、臺灣等ニモ産ス

Cocculus laurifolius, *DC.*

Syn. *Galloa trinervis*, *Korth.*

カウシウウヤタ　衡州烏藥

草木圖說木部十卷ノ十八

Stephania hernandifolia, *Walp.*

植物分類餘錄

Syn. *Stephania longa*, Lour.?

Menispermum japonicum, Th.

ハスノハカヅラ

イヌツヾラ

ベウヅル

ヤキモチカヅラ

ガタマタ

琉球宮古島（田代安定氏）支那ニモ產ス

Calycanthaceæ.　蠟梅科

Calycanthus praecox, L.

Syn. *Chimonanthus fragrans*, Lindl.

ラフバイ　蠟梅

カラウメ

ナンキンウメ

ランウメ

タウラフバイ

ダンカウバイ

本草圖譜九十二巻、花彙木、部三巻

支那直隷、江西、陝西等ニアリ

後水尾帝ノ時朝鮮ヨリ移植ス

（未完）

左ノ一編ハ去ル九月三十日東京植物學會ニ於テ藤井健次郎氏ノ演述ニ係ルモノニシテ此度氏ニ請ヒ其精細ヲ本誌ニ掲載スルノ榮ヲ得タリ

松ノみどりノ運動ニ就テ

藤井健次郎

松ノみどりトハ即チ赤松黒松等松ノ嫩條ニシテ通常去年ノ枝ノ尖端ヨリ四五月頃挺出直立スルモノ、謂ニシテ其發生ノ頃ハ短枝（二葉、三葉、五葉等通常單ニ葉ト稱スル部分ノ全体ヲ云フ）未ダ開カズ葉尙短ク白褐色ノ鱗狀葉ハ未ダ其基底ヲ脫セズ其生長最モ盛ナル時期ナリ左レバ是等ノ新芽ガ多少 Circumnutate スルヿハ嫩條一般ノ性質ニシテ敢テ奇トスルニ足ラザルベシ去レ圧 Circumnutation ハ一般ノ卷鬚若シクハ其生長ノ卷鬚ノ如ク非常ニ速カナル植物ニアラザレバ著シカラザルヲ以テ人ノ注意ヲ引クヿ少ナシ此ニ記サントスル松ノみどりノ運動ハ即チ純然タル Circumnutation ニハアラザレ圧亦之レニ緣故アルモノナリ

舊植物學實驗室ノ前ニハ松林アリテ硝子窓ノ直ク前ナレハ日々眼ニ接近スルモノハ首ヲ垂ルレハ顯微鏡ノ筒先ニシテ首ヲ上グレハ窓前ノ松林ナリキ

本年四月雨降リテ終日顯微鏡ノ「フィールド」ノ暗キ一日ノ夕頭ヲ上ゲテ毎時茂ノ松林ヲ眺メシ折リ或ル一本ノ松樹ノみどりノ大半ハ四方ヨリ其樹ノ幹ノ頂點ニ向ヒテ屈スルガ如ク見ヘタリ之レモ亦面白キ現象カナト

想ヒシ故翌朝又此ニ注意セシニ大概北方ニ向ヘリ又他ノ松ノ木ニモ注意セシニ擧林皆北向ト云フ迄ニハアラザレ𪜈其みどりハ大概皆北向ナリキ其後モ度々實驗室ノ前後ノ松ノ木ニ注意セシニ視ル度毎ニ北向ナリキ左レハ前ノ其木ノ頂點ニ向フテ屈スルガ如ク見エタルハ其樹ノ周圍凡テノ方向ヨリ觀察セザリシガ故ニ或ハ觀察ノ誤リナリシナランカ此北方ハみどりノ生長期ニ際スル春風（東京ニテハ南風）ノ爲メニ其生長ノ方向ヲ北ニ偏セルモノト思考シ再度特ニ注意スルヿナカリキ然ルニ其後一夕歸途大學構內新築書籍館ノ邊ニテ一樹ヲ擧ゲテ其みどりノ悉ク南向ナルモノヲ見タリ依テ直チニ實驗室ノ前ヘ歸リ松林ニ就キみどりノ向ヲ見ルニ不思儀ニモ此日ノ此時ニハ大半悉ク南向ナリキ此ニ初メテ前ノ判斷ノ輕卒ナリシヿヲ知レリ依テ此頃尚短枝未ダ開伸セザル一定ノ若キ赤松樹二本ヲ擇ビ五月七日再度觀察ヲ始メタリ去レ𪜈此觀察ハ不本意ナガラ日々始終一定ノ時ニ於テ此等ノ樹ヲ訪フヿヲ得ザリシガ故ニ甚ダ不十分ニシテ未ダ確實ナル一定ノ結果ニ達セズ又此ノ非常ニ不完全ナル觀察ヲ以テ能ク其性質原因結果ヲ斷定スベカラストイヘ𪜈今暫時五月七日ヨリ以下二週間余其生長ノ盛ナル期節ニ際シ時々ノ觀察ノ內ニ記シタル日記ニ付キ其みどりハ此間如何ナル外圍ニ接シ如何ナル方向ニ如何ニ運動セシヤヲ記シ置カントス

余ガ特ニ若キ木ヲ撰ビタルハ古木ハ丈高クシテ其木ノみどりノ全体ヲ比較觀察スルニ不便ナレバナリ又校內ニハ黑松、赤松、朝鮮五葉等モアリシニモ係ハラズ特ニ赤松ヲ用ヰタレハ其みどりノ傾斜屈垂ノ度一般ニ最甚シキガ故ニ最初ノ觀察ニハ便ナルヲ以テナリ其二本ヲ定メタルハ其樹ノ位置ニ依リテ外圍ノ關係ヲ異スルモノヲ撰ビタルナリ即チ一ハ當時外界ノ影響ヲ防グベキ外物ノ少クシテ終日自由ニ日光風等ニ露出サレタルモノニシテ一ハ大樹古木ノ爲メニ裂風ヲ遮ギラルベキモノヲ撰ビタルナリ而シテ此二本ハ相去ルヿ一町余ナ

リ又此二本ハ當時大學構内ニ於テ其みどりノ屈曲ノ度最モ著シクアリシモノニシテ其一ハ樹容最モ正シク一ハ稍不規則ナルモノナリ

其觀察ハ必スシモ大學構内ニ限ラズシテ或ハ數十町ヲ隔テタルモアリ緣日ノ植木モ亦審査ヲ受ケタリトイヘドモ其重ナルモノハ此二本ニ限レリ

（未完）

日光山植物雜記（第七十七號ノ續キ）

安井伴市

本誌第七十七號ニ記載セル「ウコンウツギ」ハ眞ノ「ウコンウツギ」ニアラズ眞ノ「ウコンウツギ」ノ花冠ハ淡黃綠色ニシテ頗ル大ナリ下部特ニ黃色ニシテ白斑點アリ五雄蕋ノ葯ハ相互ニ附着ス花柱一個アリ纖細ニシテ其末ニ一大塊ヲ爲ス歌ケ濱邊ニ尤モ多ク開花セリ故ニ同號ニ揭載スル「ウコンウツギ」ハ自ヲ別種ナリ「シモツケ」「アケビ」「ヤマブキ」「クハ」ハ木本部ニ「ギンラン」「ガウソ」「ミヤマナルコスゲ」「タニスゲ」ハ草本部ニ屬スヘキ植物ナレハ玆ニ訂正ス又仝號ニ記セル「タカソデサウ」ハ「オホヤマフスマ」ノ誤ナリ

木本部

一メギ　大崎邊ニ多クシテ淡黃色六瓣ノ小花ヲ開ク材ハ黃色ニシテ頗ル美ナリ是レ蓋シ「オホバメギ」ナラン

一アサノハカヘデ　木皮灰色ニシテ橫裂ノ皮孔（レンチセル）アリ既ニ實ヲ結ベリ歌ケ濱邊ニ尤モ多シ

一フウリンツヽジ　花ハ「ヨウラクツヽジ」ニ似テ稍小ナルカ如シ蓋シ同種ナカランカ「フウリンツヽジ」ハ方言ナリ

一ミヤマサクラ　ハ中禪寺ニテハ「メザクラ」ト呼フ地獄茶屋ニアツテハ盛ニ開花セリ華嚴迤傍ニ合抱ノ大樹アリ此邊ニ「ヒガンザクラ」ヲ見ス

一レンゲツヽジ　地獄茶屋邊ニ盛ニ開花ス湯本ノ土俗此花盛ナルニ當テハ浴客減少スルヲ以テ此レヲ稱シテ「イモリノナキバナ」ト云フ花ハ大キク黄赤色ニシテ頗ル美ナリ蓋シ躑躅中花ノ大ナルモノ此レニ如クモノナカラン

一マタヽビ　中禪寺邊ニ多シ花未タ開カズ葉ノ白色ヲ呈スルハ入梅後ニアリ

一カヂカヘデ　木皮ハ灰色ニシテ殆ド平滑ナリ華嚴近傍ニ合抱ノモノアリ當時實ヲ結ブ此レニ毛茸ヲ生ス

一ミネカヘデ　花未タ開カズ大崎、岸ケ淵邊ニ多シ木皮灰色ニシテ縱ニ淺キ裂孔アリ

一オホカメノキ　葉ハ圓大ニシテ對生ス諸所ニ多シ當時實アリト雖モ未タ紅熟スルニ至ラズ

一ニハトコ　中禪寺邊諸所ニ産ス當時綠實アリ

一ミヤマナヽカマド　中禪寺ニテハ單ニ「ナヽカマド」ト云フ岸ケ淵、大崎、芷蒲ケ濱、歌ケ濱ニ多シ當時花芽アレ𪜈未タ開カス

一コマユミ　枝條ニ栓質ノ突起ナキヲ以テ「ニシキヾ」ト區別ス大邊ニアリテハ未タ開花スルニ至ラズ

一ヤマハンノキ　中禪寺ノ土人ハ之レヲ「ハノキ」ト稱ス華嚴、芷蒲ケ濱ニ多シ枝上ニ舊實ヲ殘留ス

一メイゲツカヘデ　方言ヲ「ニツカウイタヤ」ト云フ葉狀天狗葉團扇ノ如シ花既ニ過ギテ幼實アリ諸所ニ多シ木皮灰色ニシテ殆ント平滑、材ハ白色ナリ

一ヤマウルシ　御澤、中禪寺邊ニアリ材ノ中央木質ハ黄色ニシテ「ウルシ」頗ル美ナリ厚皮ニ小量ノ脂

液ヲ含ミ乾キテ黒色ニ變ス蓋シ「ウルシ」ト仝物ナラン枝上ニ舊實ヲ殘留ス果皮ニ毛茸アルヲ以テ眞正ノ「ウルシ」ト區別ス

一ブナ　方言ヲ「シロブナ」ト云フ木皮白色ヲ呈スルヲ以テ「クロブナ」ト區別ス「グロブナ」ハ植物家ノ所謂「イヌブナ」ニシテ木皮「シロブナ」ノ如ク白色ヲ呈セズ故ニ此名アリ其果實タル昔時ハ土人之ヲ食フヿヲ知ラサリシカ近年ニ至リ外國人此地ニ來遊セシ以來始メテ此ノ實ノ食フベキヲ知リ其味「クルミ」ノ如クニシテ甚タ甘シト云フ「シロブナ」ハ大崎岸ケ淵邊ニ多ク「クロブナ」ハ歌ケ濱邊ニ多シ

一ニレ　方言ヲ「ネレ」ト云フ中禪寺湯本ニ産ス葉ハ「アキニレ」ヨリモ大キク葉基ニ楔形ヲナシテ其緣邊ニ鋸齒アリ當時實ヲ結ブ其形巾着ノ如クニシテ嘴翼アリ材ハ之ヲ切斷スレハ黒色ノ心材アルヲ以テ著シ

一キイチゴ　岸ケ淵邊ニ盛ニ開花ス

一ニガイチゴ　又同所ニ盛ニ開花ス

一シヤクナゲ　龍頭ケ瀧近傍ニ多ク産スルモ花未タ開カズ此品ニ葉背ニ毛アリテ紅花ヲ開クモノアリ人家ノ庭際ニ多ク栽培シテ當時開花ス木皮ハ赤色ニシテ分裂細片ヲ爲ス

一イボタ　中禪寺邊ニ多シ未タ開花スルニ至ラズ

一クロカンバ　木皮ハ殆ント黒色ニシテ綠色四瓣ノ小花ヲ開ク歌ケ濱華嚴邊ニ多シ

一ヤマブダウ　中禪寺歌ケ濱ニアリ花芽尙幼ニシテ未タ開クニ至ラズ

一クロムメモドキ　岸ヶ淵、大崎、地獄茶屋華嚴邊ニ多シ木皮ハ略ホ「クロカンバ」ニ似タリ花既ニ過ク

一ヤマナシ　華嚴近傍ニ一株ノ大樹アリ周圍六尺計ニシテ既ニ花ヲ過ク此樹ハ新種ニシテ學名ナキヲ以テ松村先生ハ Pirus Nikkoensis ノ新名ヲ下スベシト語ラレタリ

一ウグエスカクラ　小灌木ニシテ花冠紅色、萼ニ毛茸アリテ東京邊ノモノト異ナリ方言ヲ「シヤグミ」ト稱シ實熟スレバ紅色ヲ呈スルヲ以テ土人之ヲ採食スルト云フ

一カマツカ　方言ヲ「ヤツラゲ」ト云フ日光山諸所ニ多シ花未タ全ク開カズ

一ニシキヾ　方言ヲ「カミスリギ」ト唱フ中禪寺邊ニアツテハ盛ニ開花ス

一ムラサキシキブ　諸所ニ産スルモ花未タ開カズ方言ヲ「ナンメイラ」ト呼ブ

一マンサク　日光山諸所ニ多シ實尚ホ幼ナリ甲州ニテハ此レヲ「ハナヅサ」ト云フ

一ナツヽバキ　方言ヲ「サルナメ」ト云フ木皮「サルスベリ」ニ似タリ日光ニテハ此材ヲ以テ種々ノ器物ヲ作ル、中禪寺邊ニ尤モ多シ當時花芽ヲ有ス

一ツタウルシ　土人之ヲ稱シテ「ウルシツタ」ト稱ス此材ニテ製シタル茶壜敷ヲ單ニ「ツタ」ト呼ツテ本山ノ名産ナリ當時花芽ヲ有シテ諸所ニ多シ

（未完）

靜岡縣産植物錄（第七拾號ノ續キ）

以上記スル所ノ植物中東京近傍ニ比シテ靜岡地方ニ多キハぎよりう、とべら、さゞんくわノ類ナラン又外國種ノみづたがらし（Watercress.）ハ數年前ヨリ舊城ノ外濠ニ發生シテ現今大ニ繁茂ス

	錦葵科 Malvaceæ.		
(88)	たちあふひ	Althæa rosea, Cav.	庭園ニ栽植ス
(89)	はなあふひ	Lavatera trimestris, L.	庭園ニ栽植ス
(90)	ぜにあふひ	Malva sylvestris, L.	庭園ニ栽植ス
(91)	いちび	Abutilon avicennæ, Gærtn.	畑ニ栽植ス
(92)	はまぼう	Hibiscus Hamabo, Sieb. et Zucc.	有渡郡三保村ニアリ八月花ヲ開ク
(63)	とろゝあふひ	〃 Manihot, L.	所在ノ畑ニ栽植シ製紙用ニ供ス
(94)	ふやう	〃 Mutabilis, L.	概庭園ニ栽植ス紅花ヲ開クモノ多シ
(95)	むくげ	〃 syriacus, L.	庭園ニ栽植スルモノ多シ
(96)	わた	Gossypium herbaceum, L.	畑ニ栽植ス
	梧桐科 Sterculliaceæ		
(97)	あをぎり	Sterculia platanifolia, L.	庭園ニ栽植ス
	菩提樹科 Tiliaceæ		
(68)	しなのき	Tilia cordata, Mill. var. japonica, Miq.	志太、益津ノ兩郡ニアリ甚タ少シ
(99)	ぼだいじゆ	〃 miqueliana, Maxim.	有渡郡久能ニアリ甚タ少シ
	亞麻科 Lineæ		
(100)	あま	Linum usitatissimum, L.	畑ニ栽植ス

風露草科 Geraniaceæ

(101) ふうろさう Geranium nepalense, Sweet. 所在ニ自生ス
(102) てんぢくあふひ pelargonium inquinans, Ait. 庭園ニ栽植ス
(103) のうぜんはれん Tropæolum majus, L. 庭園ニ栽植ス
(104) かたばみ Oxalis corniculata, L. 所在ニ自生ス
(105) むらさきつりふね Impatiens Textori, Miq. 安倍郡牧ヶ谷邊ニ多ク自生ス
(106) ほうせんくわ ,, Balsamina, L. 庭園ニ栽植ス

芸香科

(107) ごしゆゆ Evodia, rutæcarpa, Hook. et Thoms. 庭園ニ栽植ス
(108) さんせう Zanthoxylum piperitum, DC. 畑ニ栽植ス
(109) いぬざんせう ,, schinifolium, Sieb. et Zucc. 賤機山、吐月峰、八幡山等ニ自生ス
(110) こくさぎ Orixa japonica, Thunb. 所在ニ自生ス甚タ少シ
(111) からたち Citrus trifoliata, L. 庭園ニ栽植スルモノ多シ又畑ニ栽植シテ柑類ノ砧木トナス
(112) きんかん ,, japonica, Thunb. 庭園ニ栽植ス
(113) ゆず ,, aurantium, L. 庭園ニ栽植ス
(114) だいだい ,, bigaradia, Duhum. 所在ノ庭園ニ栽植ス殊ニ庵原郡ニ多シ
(115) ざぼん ,, decumana, L. 所在ノ庭園ニ栽植ス

(116)	たうみかん	,, sp.	たうみかん及各種ノみかんハ所在ノ庭園ニ栽植ス殊ニ庵原、有渡ノ兩郡ニ多シ

黃楝樹科 Simarubeæ

(117)	にがき	Picrasma ailanthoides, Planch.	薩埵嶺、宇都谷嶺等ニ自生ス

楝科 Meliaceæ

(118)	せんだん	Melia azedorach, L. var. subtripinnata, Miq.	所在ニ自生ス大木アリ

冬青科 Ilicineæ

(119)	いぬつげ	Ilex crenata, Thunb.	所在ニ自生ス甚多シ
(120)	うめもどき	,, Sieboldi, Miq.	庭園ニ栽植ス
(121)	たらえふ	,, latifolia, Thunb.	庭園ニ栽植ス
(122)	もちのき	,, integra, Thunb.	庭園ニ栽植スルモノ多シ
(123)	くろがねもち	,, rotunda, Thunb.	庭園ニ栽植スルモノ多シ
(124)	そよご	,, pedunculosa, Miq.	庭園ニ栽植スルモノ多シ

衛矛科 Celastrineæ

(125)	にしきゞ	Euonymus alatus, Thunb.	所在ニ自生シ又庭園ニ栽植ス甚タ多シ
(126)	こまゆみ	,, alatus, var. subtriflora, Fr. et Sav.	所在ニ自生ス
(127)	まゆみ	,, europæus, L. var. Hamilitonianus, Maxim.	所在ニ自生ス
(128)	まさき	,, japonicus, Thunb.	庭園ニ栽植ス

(129) つるうめもどき Celastrus articulatus, Thunb. 所在ニ自生ス甚タ多シ

鼠李科 Rhamneæ

(130) はまなつめ Paliurus Aubletia, Rœm. et Sch. 有渡郡三保村ニアリ六月花ヲ開ク

(131) なつめ Zizyphus vulgaris, var. inermis, Bunge. 庭園ニ栽植ス

(132) くまやなぎ Berchemia racemosa, Sieb. et Zucc. 安倍川ノ兩岸ニ多シ

(133) けんぽなし Hovenia dulcis, Thunb. 安倍郡足久保邊ニ多シ

葡萄科 Ampelideæ

(134) ぶだう Vitis Vinifera, L. 畑又ハ庭園ニ栽植ス

(135) のぶだう 〃 heterophylla, Thunb. 所在ニ自生ス

(136) つた 〃 inconstans, Miq. 所在ニ自生ス

無患樹科 Sapindaceæ.

(137) ふうせんかづら Cardiospermum Halicacabum, L. 庭園ニ栽植ス

(138) とちのき Aesculus turbinata, Blume. 宇都谷嶺、德願寺山等ニ自生ス

(139) むくろじ Sapindus Mukorosi, Gærtn. 所在ニ自生ス

(140) もみぢ Acer palmatum, Thunb. 各種ノもみぢハ所在ニ自生シ又庭園ニ栽植ス

(141) みつばうつぎ Staphylea bumalda, Sieb. et Zucc. 賤機山又ハ安倍川兩岸ニ自生ス

(142) ごんずい Euscaphis staphyleoides. Sieb, et Zucc. 所在ニ自生ス

漆樹科 Anacardiaceæ

(143) ふしのき Rhus semi-alata, Murr. var. Osbeckii, DC. 所在ニ自生ス静岡近傍ニ甚タ多シ

(144) はぜのき „ succedanea, L. 所在ニ自生ス静岡近傍ニハ甚タ少シ

(145) つたうるし „ Toxicodendron, L. var. radicans, Miq. 志太郡ニ自生ス甚タ少シ

毒空木科 Coriarieæ.

(146) どくうつぎ Coriaria japonica, A. Gray. 所在ニ自生ス賤機山、有渡山等ニ多シ

荳科 Leguminosæ

(147) せんだいはぎ Thermopsis fabacea, DC. 庭園ニ栽植ス

(148) たぬきまめ Crotalaria sessiliflora, L. 所在ニ自生ス庵原郡松野ニ多シ

(149) れだま Spartium junceum, L. 庭園ニ栽植ス

(150) ゑにしだ Cytisus scoparius, Link. 庭園ニ栽植ス

(151) うまごやし Medicago, sp. 静岡舊城内ニ生ス(外國種?)

(152) しながはゝぎ Melilotus arvensis, Wall. 益津郡ノ海岸ニ自生ス

(153) みやこぐさ Lotus corniculatus, L. var. japonicus, Regel. 所在ニ自生ス甚タ多シ静岡近傍ニテハ二月ヨリ花ヲ開ク

(154) にはふぢ Indigofera decora, Lindl. 所在ニ自生ス

(155) こまつなぎ „ tinctoria, L. 所在ニ自生ス

(156) ふぢ Wistaria chinensis, Sieb. et Zucc. 所在ニ自生シ又庭園ニ栽植ス

(157)	れんげさう	Astragalus lotoides, Lam.	所在ニ自生シ或ハ綠肥料ニ供スルガタメニ栽植ス
(158)	くさねむ	Aeschynomene indica, L.	所在ニ自生ス
(159)	たうじんまめ	Arachis hypogæa, L.	畑ニ栽植ス甚タ多シ
(160)	みそなをし	Desmodium laburnifolium, DC.	所在ニ自生ス賤機山、八幡山等ニ多シ
(161)	ぬすびとはぎ	〃 podocarpum, DC.	所在ニ自生ス
(162)	のはぎ	Lespedeza Buergeri, Miq.	所在ニ自生ス
(163)	はぎ	〃 bicolor, var. intermedia, Maxim.	所在ニ自生シ又庭園ニ栽植ス
(164)	まきゑはぎ	〃 Virgata, DC.	所在ニ自生ス
(165)	めどはぎ	〃 sericea, Miq.	所在ニ自生ス
(166)	ねこはぎ	〃 pilosa, Sieb. et Zucc.	所在ニ自生ス
(167)	そらまめ	Vicia Faba, L.	所在ノ畑ニ栽植ス
(168)	たにわたし	〃 unijuga, Al, Br.	吐月峰ニ自生ス
(169)	やはづゑんどう	〃 sativa, L.	所在ニ自生ス
(170)	すゞめのゑんどう	〃 hirsuta, Koch.	所在ニ自生ス
(171)	はまゑんどう	Lathyrus maritimus, Bigel.	庵原、有渡兩郡ノ海岸ニ自生ス殊ニ興津邊ニ多シ
(172)	いたちさゝげ	〃 Davidii, Hance.	所在ニ自生ス
(173)	ゑんどう	Pisum sativum, L.	所在ノ畑ニ栽植ス

(174)	だいづ	Glycine hispida, Mænch.	所在ノ畑ニ栽植シテ食料トシ或ハ肥科トナス
(175)	くず	Pueraria Thunbergiana, Benth.	所在ニ自生ス
(176)	なたまめ	Canavalia ensiformis, DC.	所在ノ畑ニ栽植ス
(177)	ゐんげんまめ	Phaseolus vulgaris, L.	所在ノ畑ニ栽植ス種類多シ
(178)	べにばなゐんげんまめ	,, multiflorus, willd.	稀ニ栽植ス
(176)	あづき	,, mungo, L. var.	所在ノ畑ニ栽植ス
(180)	さゝげ	Dolichos umbellatus, Thunb.	所在ノ畑ニ栽植ス
(181)	せんごくまめ	,, cultratus, Thunb.	所在ノ畑ニ栽植ス
(182)	のあづき	Atylosia subrhombea, Miq.	所在ニ自生ス
(183)	たんきりまめ	Rhynchosia volubilis, Lour.	所在ニ自生ス
(184)	いぬゑんじゆ	Cladrastis amurensis, Benth. et Hook. var. floribunda, Maxim.	所在ニ自生ス
(185)	くらゝ	Sophora angustifolia, Sieb. et Zucc.	所在ニ自生シ驅蟲劑ニ供ス
(186)	じやけついばら	Cæsalpinia sepiaria, Roxb.	庵原郡西奈ニ自生ス他ニ於テハ甚タ稀ナリ
(187)	かいかち	Gleditichia japonica, Miq.	所在ニ自生ス
(188)	はぶさう	Cassia occidentalis, L.	庭園ニ栽植ス
(186)	はなすはう	Cercis chinensis, Bunge.	庭園ニ栽植ス
(190)	ねむりぐさ	Mimosa pudica, L.	所在ニ自生ス

(191)　アカシヤ Acacia robinia.　所在ノ庭園ニ栽植ス近來大ニ繁殖セリ

(192)　ねむのき Albizzia Julibrissim, Durazz.　所在ニ自生シ又庭園ニ栽植ス

◎雜錄

○「バクテリア」の說（前號ノ續キ）

K. D. 山人纂譯

第四章　黴菌ノ奇觀

旅客ハ勿論旅行セザル人ト雖モ夜間ニ於テ一種淒涼ナル美光ヲ空氣中ニ放チテ浮游スルモノアルヲ見バ誰レカ亦奇ナル思ヲナサヾルモノアランヤ蓋シ面白ク感スルモノ又時トシテ濃厚ナル綠色若クハ青色ヲ呈スルコトアリ是所謂燐ニシテ即チ腐敗セル草木ノ中ニ現ハルヽコトアリ或ハ海灣海峽等ノ地ニ在リテハ此光四近ニ輝キ渡ルコトアリ而シテ死魚食物及ビ草木ノ表面モ亦往々此光ヲ放チテ其貯藏セラルヽ室內ヲ照スコトアリ

嘗テ朝餐ニ供スベキ臘腸（ソーセージ）ヲ預メ試驗セラレタシトテアル學者ノ實驗室ニ持チ行キタル一奇話アリ其故ハ或家ノ下婢一朝早ク臘腸ヲ取リ來ラントテ尙未タ昏キニモ拘ハラズ厨ニ赴キタルニ臘腸ノアルベキ處ニ於テ畏ルベキ影像ヲ見タリシコト是レナリ蓋シ下婢ハ之ヲ以テ臘腸ヲ造レル動物ノ幽靈ナリト思ヒシニ因ルナラン是事タルヤ決シテ理外ノ理トシテ奇異ノ思ヲナスニ足ラサルナリ何トナレバ種々ノ有機物ガ發出スル奇光ハ元ト其表面ニ生存スル或黴菌ノ作用ナルコトヲ知ルヲ得タレバナリ而シテ是等ノ黴菌ハ其處ニアリテ腐敗セル有機物ヲ己レカ食餌トナスモノナリ而シテ是等ノ奇怪ナル黴菌ハ純粹培養ニ因リテ既ニ栽植セラレタル

コト甚タ多シ故ニ若シ是等ノ黴菌ヲ管中ニ入レタルマヽ懷中時計ト共ニ暗黑ナル部屋ニ置ク時ハ黴菌及管ハ實ニ其光ニ因リテ輝ケルノミナラズ尙ホ明ニ時針カ其時表ヲ指スコトヲ見ルヲ得ベシサレバ昔時ハ奇異ナル幽靈ト誤認セラレタルモノモ今ハ反テ吾人ノ世界ヲ愉マシメントテ勞動セル靜穩ナル小黴菌タルニ外ナラサルナリ

アルコールハ沸釀ノ方法ニ因リテ或糖類ノ混合ヨリ製セラルヽモノナリ而シテ其ノ糖類ヲ分解シテ他ノ化合物（アルコールハ其一ナリ）トナスモノハ偏ニ酒母ト稱スルモノノ効果ニ因ルコトハ製酒者カ夙ニ知ル所タリ而シテコノ酒母トイヘルモノハ必竟微細ナル生物ニシテ黴菌ニ密接ノ關係ヲ有スルモノタリ麥酒淸酒ハ沸釀セザルモノナルガ故ニ酸味若クハ苦味ヲ生ズルナラントハ酒造ノ業開ケタル時ヨリ人ノ能ク說ク所ナリ然ルニ今日ニ至リテ之ヲ見ルニ麥酒淸酒ヲ釀造スル時ニハ或黴菌ハ其中ニ入リテ酒母ト食物トニ就キテ競爭ヲ起シ即チ若シ黴菌ニシテ酒母ニ勝ツコトヲ得バ終ニ酒中ニ忌ムベキ嫌フベキ化合物ヲ生ズルナリ故ニ造酒家ハ能ク意ヲ用ヰ時ヲ計リテ酒母ニ無害ニシテ黴菌ニ有害ナル化合物ヲ酒中ニ投入セサル可カラサルカ若クハ黴菌ヲ殺スニ十分ナル温度ヲ以テ之ヲ暖ム可シサリナカラ既ニ沸釀セル汁液ヲ害セザランコトニ注意スベシ是ニ至リテ黴菌モ亦人ノ目的意志ニ反シテ人ト相爭フモノタルヲ知ル

或黴菌ハ大ニ酸素ヲ好ムカ故ニ泡沫ヲ含メル水ヲ盛リタル小皿ノ中ニ入レラルヽ時ハ其運動ヲナスニ適セル黴菌ハ水中ノ各部分ヨリ出テ來リテ泡沫ノ周圍ニ集リ互ニ相擊チ相排シテ竟ニ酸素ノ邊ニ突進センコトヲ欲スルヲ見ルベシサレバ最下等ノ生物ニ至ル迄モ其動作ニ由リテ其意志ヲ表スルモノニシテ敢テ高等ナル動物ト異ナレル所ナシ唯前者ニ在リテハ其擧動單純ナルモ後者ニ在リテハ稍複雜ナルノミ或黴菌ハ寒氣ノ侵害ス

ル所トナルコト甚タ少シ故ニ極メテ寒冷ナル水中ニ在リテモ唯動クコト能ハザルノミニシテ縦令氷塊中ニ附着セルト雖モ長キ間其生ヲ保ツコトヲ得ルモノナリ新約克地方ノ如キ氣候ノ處ニ於テ生ズル氷ニシテ其塊中ニ於ケル泡沫ノ線條ナクシテ透明ナル場處ニハ還テ之ヲ含メルコト甚タ少キモノナリ

氷塊中ノ泡沫ノ線條内ニ於ケル黴菌ヲ驗シタル所ニ據レバ其中ニ集レル黴菌ノ多クハ齊ク酸素ヲ好ムモノニシテ且能ク動クコトヲ得ルモノタルコトヲ知レリ抑氷塊中ニ條若クハ層ヲナセル泡沫ハ日中或ハ其未タ凍合セザル時ニ集レルモノナルガ故ニ無數ノ黴菌ハ其間ニ泡沫ノ周邊ニ集リ來ルモノナリ而シテ夜ニ至ルカ若クハ寒風ノ吹キ來ル時ニ其水ハ氷トナリ泡沫ト黴菌トハ共ニ凍合セラルヽニ至ラン是ニ於テ地層中化石ト空氣トヲ含メルガ如キ狀ヲ呈ス唯其異ル所ハ彼ニ在リテハ既ニ枯死セルモノナレ𪜈此ニ在リテハ尚未タ死セザルナリ故ニ一夜間ニ於ケル黴菌生活ノ狀態ヲ知ラント欲セバ其氷ノ一片ヲ溶解シテ之ニ混ズルニ膠ヲ以テスベシ然ル時ハ一日或ハ二日ヲ經テ十分繁殖スルニ至ラン斯クテ之ヲ驗セバ以テ其一夜ノ間ニ於ケル變遷ヲ知ルヲ得ベシ

黴菌學者ガ黴菌保存室ニ於テ其實驗中最珍奇ヲ感スルハ彩色ヲ生スル黴菌トス蓋シ黴菌ニ十分ノ彩色アルコトヲ認メ得ルハ其群ヲナシテ成育スル時ノミナリサレドモ管中ニ於ケル食物若クハ膠ノ表面ヲ被ヘル粘液体ノ塊中ニ於テ七色其他種々ノ色ヲ見ルコトアルベシ叉時トシテハ只黴菌ノ塊ノミカ色ヲ發スルノミナリ其生育セル時ニ發出シタル化學的物質ガ膠ノ中ニ竄入スルコトアリ而シテ黴菌ハ是等ノ物質ニ綠色若クハ赤色ノ美光ヲ失フ

頃日著者晩餐ノ際極メテ美麗ニ畵キシ大ナル一個ノ菊花ヲ粧飾トシテ食卓ノ傍ニ立チタル時著者ノ一友ハ夫

ノ人爲陶汰ニ依リテ菊花ヲシテ其單一ナル淡泊ノ先祖ヨリ愈々益々華美ノ域ニ發達セシメタル忍耐ト熟練トニ感シ乃チ人ガ其熟知セル栽植法ニヨリテ或黴菌ノ彩色ヲ變形スルニ至ルマテハ尙ホ非常ノ時間ヲ費スナヲントテサモ得意顏ニ說ケリ其理想タルヤ頗ル良シ然レ𪜈之ヲ說クハ既ニ其時ヲ失ヘリト云フベシ何トナレバ獨逸ノ或黴菌學者ハ初メテ濃厚ナル紫色ノ黴菌ヲ栽植シ爾後再三之ヲ移植シテ終ニ殆ント白色ナルモノヲ生スルヲ得タレ𪜈其他ノ性質ハ更ニ其元祖ノ黴菌ト異ナルコトナカリキサレバ自然淘汰トイヘル法則ハ單純ナル生物ヨリ最上ナル人類ノ間ニ行ハレ來リタルコト明ニシテ其ノ見ルコトヲ得ザル最小ノ有機物ニシテ而カモ生物中最モ蒿ク且ツ最モ單純ナルモノヽ模標ト稱スベキニ黴菌ノ間ニモ尙ホ行ハルヽモノタルコトヲ證スルニ足ル

爰ニ色彩ヲ生スル黴菌ハ往々人類ノ生活上ニ對シテ良ニ忌ムベキ所爲ヲナスコトアリ即或製乳所ノ牛乳ノ如キ何ノ徵候モナクシテ俄然青色ヲ現ハシ恰モ流行病ノ如ク各室ニ貯蓄セラレタル牛乳ヲ變色セシコトアリ此變色タル多少人々ニ嫌忌セラレ而カモ不思議ノ思ヲ起サシメタルモノナルガ今ハ既ニバシラスノ種類ニ屬スル微小ノ黴菌ニ起因スルコトヲ知ルニ至レリ抑々此黴菌ハ塵埃ニ混シテ絕ヘズ室內ヲ不潔ナラシメ遂ニ牛乳ノ中ニ陷リテ生育シ青色ノ物質ヲ發出スルモノナリ

時トシテ牛乳ハ青色ヲ呈セズシテ赤色ヲ呈スルコトアリ此變色ハ塵埃ニ混シテ浮遊スル他ノ黴菌ニ因ルモノニシテ麵包モ亦同樣ノ害ヲ蒙ムルコトアリ即チ麵包製造所ニ於テ膨脹セシム可キ爲メニ一夜間放置セル麵粉ノ塊ヲ翌朝ニ至リテ見ル𣥆ハ朝暾ノ光ニモ增シテ赤色ヲ生ズルコトアリ又常ニ相集合セル黴菌ノ一種類ニシテ他ノ黴菌ヨリモ能ク人々ノ知ル所トナルモノアリ之ヲ稱シテネストルト云フ抑此ネストルニ就キテハ多少

宗教上ノ歷史アリテ存セリソハ如何ト云フニ自然ニ起レル無數ノ顯像中特殊ナル狀態ヲ呈スルカ或ハ不時ノ現出ニ因ルカ或ハ明亮ナル原因ヲ欠クトキハ悉ク以テ奇怪不思議ノ事トナスコト其習慣ナルカ是等ノ如キ不可思議ノ現象ト稱セラレタルモノヽ中ニテ最モ奇怪ニシテ人々ノ解スル能ハザリシモノハ其濕ヒタル食物ノ表面ニ深紅ナル微點ヲ生ジ漸々廣ガリテ遂ニ大ナル赤色ノ塊ヲナスコト恰モ赤血ヲ其上ニ灌キタルガ如キ觀ヲ呈スルコト是ナリ是ニ關シテハ慘怛悲哀ニシテ之ヲ口ニシ之ヲ筆ニスルコト能ハサル程ノ話譚アリ

神ニ供シタル出血ノ菓子ノ奇異ヲ以テ神カ人事ニ關スルノ明證トナシテ宗旨ヲ辨護シタルガ故ニ此ノ事多クハ僧侶ノ手ヨリ出テタリ即チ濕氣多クシテ黴菌ノ充滿セル會堂ノ空氣中ニ一夜ヲ通セル菓子ハ翌朝ニ至リテ盡ク染紅ノ斑點其上ニ散布スルカ故ニ僧侶ハ即チ叫ンテ曰ク是血ニ非スシテ何ゾヤ抑モ一人タリトモ漫ニ其手ヲ神聖ナル場處ニ觸レシメザルガ故ニ此レ神ノ手ヨリ出テタルニ非ズンバ誰レ人カ之ヲ爲シ得ヘキト當時ノ人之ニ和シ僧侶ト共ニ信ジテ毫モ疑フ所ナカリキ故ニ神ノ指端ヨリ出血セル所以ノモノハ僧侶ヲシテ之ヲ言ハシムルニ外ナラズトナシタリサレバ宗教上ノ誤信ヨリシテ幾何ノ生命ハ爲メニ犧牲トナリ幾何ノ家屋ハ爲メニ破壞セラレタリシヤ今日ニ至リテハ想像スルモ尙ホ餘リアリト謂フヘキナリ

今日吾人ハ管中ニ於テ微小ノ黴菌ヲ栽植シ以テ之カ研究ニ從事スレトモ昔時ニ在リテハ疑モナク黴菌ハ其血滴ヲ散點シテ是レヨリ幾條奇譚悲劇ヲ出セシヤ明カナリ然ルニ星移物換リ今ヤ奇異バシラスト稱スルカ如キ談話ハ殆ント其影ヲ失フニ至レリ

或種類ノ黴菌ハ互ニ死敵ノ如ク其相觸ルヽヤ一種ノ黴菌ハ必ス他ノ黴菌ヲ殺スヲ以テ竟ニ共ニ生活スルヿ能ハサルモノアリ然ルニ其小戰爭ノ詳細ニ就テハ尙未タ之ヲ知悉スルコト能ハサルノミナラス且如何ナル武器

〔即チ毒〕ヲ以テ相戰フヤモ知ルベカラズ然レ𪜈多分共生育スルニ當リテ其發生セル一種ノ毒ヲ以テ他種ヲ壓倒スルコトヲ得ルモノナランカ

之ニ反シテ是等ノ生物中其親密ナルコト管仲鮑叔モ啻ナラザル二三ノ例アリ即チ黴菌研究ノ時各種ヲ分離スルニ當リテ二種類ノ黴菌ハ能ク其生ヲ保ツト雖𪜈多クハ其分離セラルト同時ニ其一種ハ必ス死亡スルモノナリ而シテ此友愛ナル結合ノ性質如何ニ至リテハ之ヲ知悉スルヲ得ズ蓋シ一種ノ黴菌ガ生育スル時ニ當リテ發生セル物質ハ其同伴者タル黴菌中因テ以テ生活スル唯一ノ食料タルニ在ランノミ

○繇條書屋植物雜記（其四）

牧野富太郎

くろいはざゝ（新考）

黒岩恒氏先キニ琉球ニ入リ動植物ヲ八重山諸島ニ探グルヤ學術上有益ナル標品ノ氏ノ手ニ採集セラルヽモノ少カラズ就中其植物ハ同氏ノ厚意ニヨリテ予之ヲ親撿スルノ榮ヲ得タリ

予ガ第一ニ同氏ヨリ落手シタル標品ハ首トシテ八重山諸島ノ所産ニ係レリ中ニ一種ノ禾本アリ之ヲ Thuarea sarmentosa Pers (=Ornithocephalochloa arenicola Kurz.) ト云フくろいはざゝハ之レガ新考ノ和名ナリ

田代安定氏ノ先キニ採集シタル夥多ノ標品中ニ此品ヲ見ズ今黒岩氏ノ標品ニヨリテ帝國版圖內ニ亦此種ノ産スルヲ知レリ

ひしノ學名

W. B. Hemsley 氏支那植物目錄ヲ公ニスルヤひし即チ Trapa bispinosa Roxb. ヲ支那産ノ芰即チ Trapa bicornis L. f. ト共ニ之ヲ歐洲等ニ産スル Trapa natans L. ニ合一シテ以テ一種ノモノトナセリ同氏何ノ故ニ

此ノ如タナセシヤト云フニ Trapa natans. ト Trapa bispinosa. ノ二品ハ通常別種トシテ區別シアリ今支那產品ヲ取テ之ヲ此兩品ニ比較スルニ孰レニ之ヲ屬スベキヤ其間ニ立テル中間ノ形狀アリテ互ニ之ヲ連絡シ斷然一方ノ品種ニ之ヲ歸スルヿ能ハズ若シ之ヲ合一シテ一種トナスナク强テ多種ノモノトシテ之ヲ存センカ各種ノ限界分明ナラズシテ互ニ相連絡セルニ由リ此ニ無數ノ品數ヲ認メザルヘカラズト云フニ在リ

Ligustrum lucidum Ait.

Ligustrum lucidum Ait. ハ支那ニ在テ最モ普通ナル常綠樹ナリ F. P. Smith 氏ノ著書ニ據レバ之ヲ冬青或ハ蠟樹ト云フ枝上ニ蠟ヲ生ズル蟲ヲ棲マシム此蟲ヲ Coccus pela Westw. ト稱ス

一日田中芳男先生ヲ訪フ庭中一樹アリ支那ヨリ來リシモノニ係ル其狀我がねずみもちニ似テ非ナリ今書ヲ閱シテ考フル所ハ此樹恐クハ Ligustrum lucidum Ait. ナラント云フニ在リ然レ𪜈花實ナキヲ以テ的然之ヲ指定スルヿ能ハザルノミ帝國大學植物園中亦一樹アリ此ト種ヲ同クス

橄欖

橄欖ハ洋人稱スル所ノ Chinese Olive. 是ナリ Olive ノ名ヲ冒スト雖𪜈固ヨリ眞正ノ Olive ニ非ラズシテ緣屬甚ダ之ニ遠キモノナリ而シテ橄欖科 (Burseraceae) ニ屬ス支那ニ產スルモノ二種アリ共ニ此 Chinese Olive ノ稱呼ヲ有ス

一ヲ橄欖一名白欖一名綠欖ト云フ Canarium album Bæusch. (=Pimela alba Lour.; Canarium sinense Rumph.) 是ナリ一ヲ烏欖一名青欖ト云ノ Canarium Pimela Kon. (=Pimela nigra Lour.) 是ナリ又此兩種ヲ總稱シテ橄欖或ハ青果ト云ヘリ今此兩種相違ノ點ハ H. F. Hance 氏殊ニ能ク之ヲ記述シタリ即チ

Canarium album ハ葉柄幷ニ小葉柄ハ白黄色、小葉ハ奇數小葉ト共ニ五－六對ニ〆長楕圓狀披針形ヲナシ二半－四吋長十二－十六吩徑アリ葉脈ハ葉ノ上面ニハ高ク出テズ〆顯著ナラズ總狀花ハ單一、核果ハ無柄ニ〆卵形ヲナシ十五吩長アリ未熟ノ時ハ帶黄綠色ニ〆熟シテ黄白色トナリ面ニ皺紋アリ核ハ鋭頭紡錘形ニ〆小皺紋ヲ有セリ

Canarium Pimela ハ葉柄幷ニ小葉柄ハ綠色、小葉ハ奇數小葉ト共ニ四－五對ニシテ長楕圓狀披針形ヲナシ三－六吋長二半－三半吋徑、葉脈ハ網狀ヲナシテ高起シ花穗ハ多少複生ヲナシ核果ハ五－七吩長アリテ硬キ棍棒狀ノ梗ニ着キ其形紡錘形ニ〆略三稜ヲナシ兩端鈍頭ナリ二十吩ノ長アリ未熟ノ時ハ帶白ナル綠色ニ〆熟セバ紫黒色トナル表面平滑ニ〆核ハ鈍頭紡錘形ヲナシ滑澤ナリ

然ルニ葉ノ細脈ハ乾品ニ在テハ兩品トモ葉面ノ表ニ高起セリ然レ𪜈其網眼ハ Canarium album ニ在テ細密ナリ

支那ヨリ琉球ニ移植セル橄欖ハ此二種ノ中孰レニ屬ス可キヤ予ハ不幸ニ〆之レガ標品ヲ親睹セザルヲ以テ今遽ニ之ヲ確言スル能ハズト雖𪜈田代安定氏ガ先キニ博物局出版ノ博物雜誌中ニ述ベラレタル說文ニヨリテ之ヲ見レバ或ハ Cararium album ニ相當スルガ如シ然レ𪜈其說文簡略ナレバ容易ニ之ヲ確定スルニ由ナシ尙ホ他日標品ヲ得ルアレバ更ニ之ヲ驗考シ以テ同好ノ士ニ報ゼントス

田代氏ノ記文ニヨレバ大隅國佐多岬ニモ亦之ヲ移植シアリト云ヘリ

しろがやつりノ學名

しろがやつり最新ノ學名ト其異名トハ次ノ如シ

Cyperus pygmæus Rottb. var. Michelianus Boeckeler.
(=Scirpus Michelianus Linn.)
(=Isolepis Michelianus Roem. et Schultz.)
(=Dichostylis Micheliana Nees.)
(=Fimbristylis Micheliana Reichb.)

K. S.

○附子ニ就テ

南留別志二ノ巻ニ毒ヲぶすトイフハ附子之、田舍ニテ草烏頭ヲよばり草トイフ、瘧ナドニスリテノマスレバ、シパシ絕入ヲ、呼モドス之、蝦夷ナドノ毒箭モ草烏頭ヲスリ付ル之、武備志ニ製法有、ト見ユ、ぶすハ附子之トイヒタルハヨケレド、レイノ考据ナキハアカヌワザ之、コハ御曹子島渡册子ニ、テングワンノホウニ、フス矢ヲハメテ云々、袖中抄廿ノ巻、トグキノ矢ノ條ニ、オクノエビスハ、鳥ノ羽ノクキニ附子ト云毒ヲヌリテ、ヨロヒノアキマヲハカリテ射ルトイヘリ、附子矢トイフハコレ之云々、藻鹽草十七ノ巻弓ノ條、新撰歌枕名寄四ノ巻陸奥國千島夷ノ條、歌林拾葉七ノ巻、ナドニイヘルモコレニオナジ、大和本草六ノ巻附子ノ條ニ、顯昭法師曰、トヽキノ矢トハ奧ノ夷ハ鳥ノ羽ノ莖ニ附子ヲヌリテ射ル、篤信曰、今蝦夷人ハ附子ヲ矢ジリニヌリテ獸ヲ射ルト云、其名ヲぶすト云、是艸烏頭ニテ煎タル射罔（シヤマウ）ヲ云ナルベシ云々、本草啓蒙十三ノ巻、烏頭ノ條ニ、射罔ハ蝦夷ニテ竹箭ニヌリテ物ヲ射ル、コレヲぶすトモ、とゝきの矢トモ云、其國金鐵ナシ、故ニコレヲ塗テ矢鏃ニ代用、ぶすニハ蜘蛛ト番椒トヲ加云々、安齋隨筆赤鳥ノ上巻ニ、蝦夷人ノ矢根、毒ヲヌリテ射ル、其毒ハ蕃椒、蜘蛛、附子此三品也、此毒ニアタリタル時ハ、大蒜ヲヌリ、鉛ヲマセテ付ル、

毒解スルコト妙之、毒ハヱグリトリテ藥ヲ付ル云々、本草綱目十七ノ下巻烏頭ノ條ニ、草烏頭、取レ汁晒爲ニ毒藥一、射ニ禽獸一、故有ニ射罔之稱一、後魏書言、遼東塞外、秋收ニ烏頭一爲ニ毒藥一、射ニ禽獸一、陳藏器所ニ別續漢五行志言一、西國生ニ獨白草一、煎爲レ藥敷レ箭射レ人即死者、皆此烏頭云々、本草和名十ノ巻草下射罔ノ條ニ、陶景注云、以ニ八月一取レ汁、日煎爲ニ射罔一、獦師以傳レ箭射レ宍、中レ人亦死云々、倭漢三才圖會十三ノ巻、其國人物蝦夷ノ條ニ、負ニ劍於背一、挾ニ弓於脇一、獦ニ鳥獸一、其射不ニ敢致レ遠、惟二三丈之中正諦ニ分厘一而必不レ差、又製ニ草烏頭毒一塗レ鏃射レ人、如中則肌膚腐爛死、急剝ニ去所レ中身皮一、生蒜研末傳レ之乃無害也、ナドアルヲ考テ、ソノユヱヨシシルベシ、トグキノ矢ハ左京太夫顯輔集ニ、「あさましや千島のえぞのつくるなもとぐきの矢こそひまは守なれ」、トヨメルヲ、顯昭ガ烏羽莖ノ矢ト解シハ、イカニゾヤオホユル、「三才圖會草本圖四ノ巻、本草綱目圖上巻毒草類ノ部、證類本草十ノ巻草部下品ノ條、倭漢三才圖會九十五ノ巻毒草類ノ部、ナドノ圖ヲ見レバソノ草ノ貌ノ烏ニ似タルモアレバヤガテ烏莖トモイヘルニヤ、漢字ニ烏頭トカキ、俗語ニ烏カブトヽイフモ、共ニ烏ニ似タルヨシノ名ナルベシ、大和本草ヤ本草啓蒙ニ、トヽキノ矢ト書ルハヒガコト之、サテ蝦夷人ノ弓射ルコトハ、景行紀廿八年ノ條ニ、東夷之中、蝦夷是尤強焉云々、以レ箭藏ニ頭髻一刀佩ニ衣中一唐書百廿ノ巻、東夷列傳第一百四十五ニ天智立、明年使者與ニ蝦夷人一偕朝、蝦夷亦居海島中其使者鬚長四尺許珥ニ箭於首一、令ニ人戴レ瓠、立ニ數十歩一、射無レ不レ中、杜祐通典百八十五ノ巻、東夷上ニ、蝦夷國海島中小國也、其使鬚長四尺、尤善ニ弓矢一挿ニ箭於首一、令ニ人戴レ瓠而立一、四十歩射レ之無レ不レ中、太平御覽七百八十二ノ巻、四夷部三ニ、唐書曰、蝦夷國海島中小國也、其使鬚長四尺、尤善ニ弓矢一挿ニ箭於首一、令ニ人戴レ觚而立一數十歩射レ之、死ニ不レ中者一ナドソノ外モノニオホク出タリ、チナミニイフ武備志百四十三ノ巻ニ、治下中ニ毒箭一者上方アリ、箏根一兩、紫檀五錢、

石灰（二兩、研作レ末以二牛糞一火燒令レ赤）右爲レ末不レ拘二時候一以二藍葉汁一調二下一錢一弼飲下亦可云々、此外ニモ倉瘡、中毒、溺死、壓死、火傷、馬傷ナドノ治方アマタアレハ、閱テシルベシ

（擁書漫筆）

◎東京植物學會錄事

明治二十六年九月三十日午後二時ヨリ帝國理科大學植物學教室ニ於テ月次會ヲ開ク出席員十九名全四時十分散會ス當日第一席ニハ理學士白井光太郞君ハ本年夏期休業中凡ソ五十日間植物採集ノ爲メ理學士池野成一郞君ト共ニ九州地方ヘ出張セラレタル旅行ニ就キ地理、里程、風俗、氣候、採集地ノ適否、神社佛閣ノ名勝及ビ奇談等ヲ演セラル第二席ニハ理學士秣植千嘉衛君ハ「まつばらん」ノ產地形態內部ノ構造ニ就テ、終リニ理學士藤井健次郞君ハ松ノ「みどり」ノ運動ニ就キ演述セラレタリ

* * *

◎寄送交換書目

東京人類學雜誌	自第八十六號 至第九十號	五册	東京人類學會	（東京）
日本蠶業雜誌	自第六十號 至第六十三號	四册	日本蠶業雜誌社	（東京）
大日本農會報告	自第百三十九號 至第百四十三號	五册	大日本農會	（東京）
氣象集誌	第十二年第五號	一册	大日本氣象會	（東京）
日本藥業新誌	自第二百四十三號 至第二百四十七號	五册	衛生堂	（東京）
大日本山林會報告	自第百二十五號 至第二百十八號	四册	大日本山林會	（東京）

動物學雜誌	（自第五十五號至第五十九號）	四冊	動物學會	(東京)
地學雜誌	（自第五十三卷至第五十七卷）	四冊	地學會	(東京)
牧畜雜誌	（自第百四號至第百十三號）	十冊	牧畜雜誌社	(東京)
東京醫學會雜誌	（自第七卷第九號至第七卷第十八冊）	八冊	東京醫學會	(東京)
日本園藝會雜誌	（自第四十三號至第四十五號）	二冊	日本園藝會	(東京)
釀造雜誌	（自第百十一號至第百廿五號）	十五冊	釀造雜誌社	(東京)
國家醫學會雜誌	（自第七十六號至第七十七號）	二冊	國家醫學會	(東京)
理學士白井光太郎著植物病理學		一冊	白井光太郎君	(東京)
井上圓了述妖怪學講義緒言		一冊	哲學館	(東京)
通俗遭難救療法		全一冊	國家醫學會	(東京)
東洋學藝雜誌	第百四十一號	一冊	東京學藝社	(東京)
北海道水產雜誌	（自第一號至第三號）	三冊	北水協會	(北海道)

理學士白井光太郎著

植物病理學

紙數
二百五十頁

定價金四十錢　郵稅四錢

此書ハ分テ上下二卷トナシ上卷ニハ總論及各種ノ緊要ナル成長要件ノ過不足ヨリ起ル病患及突然來侵スル有害ナル無機勢力ノ作用ヨリ起ル病患及人爲ノ損害ヨリ起ル病患及其防除法ヲ說キ下卷ニハ顯花植物寄生、隱花植物寄生、雜草、虫癭等ヨリ起ル諸病及其防除法ヲ記載ス學校ノ教科用ノミナラズ農稼。林園。樹藝ノ諸業ニ從事スル實業家ノ參考ニ適用スベキ有用無比ノ良書ナリ

賣捌所　京橋區南傳馬町有隣堂○神田裏神保町敬業社○日本橋區通三丁目丸善書店

●東洋學藝雜誌　第百四十四號

明治二十六年九月二十五日發兌
表紙廣告ヲ除キ五十四頁木版挿圖數個

●動物生長ノ話（承前）箕作佳吉○解剖學ノ由來及其醫學ノ大本タルコ田口和美○法典ト法律ノ進步富井政章○代數學の基礎及界限ヘーワルド●雜錄○中郁秋香君に贈る書並答○角の生へたる蛇に就て名和靖○吏道諺文考（承前）岡倉由三郎●雜報○佛國と標準時○大學評議會○幾何學問題集○大學通俗講談會○ロバチウスキー○佛人リギヨール○耶蘇教徒の策略○智識進步の一證○田口博士○麥芒の有無は麥粒の成熟に大なる關係を有す○獨逸植物學士の傳等其他數件●批評○日本政治地理○衝突論に關する書類●定價十錢

發行所　東京神田區裏神保町　東洋學藝社

●東京人類學會雜誌　第八卷第九十號

●九月廿八日發行●一部金拾錢郵稅貳錢●六部前金五十五錢●郵稅十二錢

目錄○記事○論說及告トラック島土俗（石版圖入）（問者）理學士坪井正五郎（答者）志賀田順太郎、方言ノ性質及ビ調查法岡倉由三郎、アイヌの入れ墨（圖入）理學士坪井正五郎、豐前の石鏃（圖入）小川敬養、信州の遺跡（圖入）鷹野秀雄、常陸筑波郡貝塚の發見一ッ二ッ岡田毅三郎○雜錄　記錄又は想念上の人骨器具の申譯（吉田東伍）石器ノ用ヲ明示スル遺物（圖入）（若林勝邦）貝塚ト手長明神トノ關係（館岡虎三）○雜報　遠江國周智郡氣多村ノ石器（圖入）（土屋彥六）埼玉縣大宮公園所出の土器（圖入）（八木奘三郎）陸奧弘前地方にて忌む名の種類（下澤閑害）奧羽人類學會第三十五會記事、正誤

發行所　東京本鄉六丁目　哲學書院

地學雜誌

第五集
第五拾七卷

◉定價一册金拾錢郵稅一錢●六册前金郵稅共五拾四錢

◎論說

●北海道札幌市街ノ開發ニ就テ
●地學上ノ考察（圖入）　農學士　石川貞治君
●北極地方ヲ横切ル方法如何（承前）
ドクトル　ナンセン君
●日本交通一斑　理學士　金田楢太郎君
●土質ト流行病　農學士　東條平二郎君

◎雜錄

●シャコタン岳登山ノ記　農學士　石川貞治君
●中禪寺湖及其下流四近ノ地勢　東條平二郎君
●理學宗ノ本尊大陽ノ話（承前）　石川一男君
●地學通論講義（前卷ノ續キ）　岐陽學人
●砂金層ニ於ケル黃金產出ノ狀態　T. G. 生

◎雜報

●三浦西山兩氏遭難義捐金●巨大ナル隕石●北上川峽流ノ生因●北上山地貫通ノ道路●土湯ノ痣●北海道ニ於ケル辨慶ノ遺跡●北海道ノ鑛山熱●千島群島極北ノ地質●薩摩國牟田池ノ奇觀●朝鮮ノ地質●朝鮮ノ地震●千曲川ノ水源●矢ノ根石●荒尾久胤氏ノ化石熱心●地方通信

◎批評

●普通地文學　山上萬次郎君

◎質疑三件
◎應問四件

發行所　東京地學協會
京橋區西紺屋町十九番地

一本誌廣告料五號文字　一行（二十五字詰）一回金五錢三回以上割引仕候
○本誌每月一回發兌一册金拾二錢○六册前金七十二錢
○拾二册前金壹圓四拾四錢○會員ニ限リ壹册拾錢

○配達概則

第一條　代價收受セザル內ハ縱令御注文アルモ遞送セズ○第二條　前金ノ盡ル時ハ改テ御請求仕ル故次號發兌迄ニ御送金ナキ方ハ御送附相成マテ雜誌ヲ郵送セズ○第三條　郵便切手ヲ以テ代價ト換用ハ謝絕ス○第四條　特ニ一册限御入用ノ向ハ一錢切手十二枚御送致ナレハ御届可申候

明治廿六年十月七日印刷
明治廿六年十月十日發行

版權所有

編輯兼發行者　東京府平民　井上蘇吉
東京市神田區錦町三丁目一番地
印刷者　熊田宜遜
東京市神田區錦町三丁目廿五番地
印刷所　熊田活版所
東京市神田區錦町三丁目廿五番地
發行所　植物學雜誌編輯所
東京市神田區裏神保町一番地
賣捌所　敬業社
同所
同　丸善書店
東京日本橋區通三丁目

314179

THE
BOTANICAL MAGAZINE.

明治廿一年二月三日内務省許可

Vol. 7.] October 10, 1893. [No. 80.

CONTENTS.

Notes on Japanese Plants, XIX. (with plate) **By T. Makino.** 285

Plants Employed in Medecine in the Japanese Pharmacopæia. **By K. Swada.** 287

Scientific and Common Names of Plants. **By Prof. J. Matsumura.** 291

On the Movement of Shoots of Pinus. **By K. Fujii.** 295

Notes on the Plants of Nikkō. **By B. Yasui.** 297

Enumeration of Plants of Shizuoka Prefecture. (Continued from No. 70)
By Ogasawara. 300

Miscellaneous:— 308

Bacteria.—Notes on the Plants of the "Yodyō-shooku."—Aconitum Fischeri.—Report of a Meeting of the Botanical Society.

Appendix:— 85

Analytical Key to the Phanerogamous Plants.

All letters and communications to be addressed to the

TŌKYŌ BOTANICAL MAGAZINE.

No. 1. Urajimbōchō, Kanda, Tōkyō, Japan.

第七卷　第八十一號
明治二十六年十一月十日

植物學雜誌

目錄

Tetraspores of Desmia　第四高等中學校教授理學士　岡村金太郎（三二一丁）
Notes on Japanese Plants, XX.　理科大學　牧野富太郎（三二二丁）
本邦產胡頽子科植物ニ就キテ　高等師範學校教授理學博士　齋田功太郎（三二五丁）
公孫樹ノ枝ノ北向ニ就テ（第七十五號ノ續キ）　理學士　藤井健次郎（三二六丁）
植物分類餘錄（承前）　理科大學教授理學博士　松村任三（三三〇丁）
日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）　醫科大學　澤田駒次郎（三四一丁）
吾妻山ノ植物　粟野傳之亟（三四五丁）
八重山列島各屬島ノ植物　田代安定（三四六丁）
植物解剖雜記（一）　外山龜太郎（三五一丁）
◎雜　錄（三五六丁）
○「バクテリア」ノ説○花粉粒ノ細胞核ヲ染色スル法○藤ノ莖○導管ノ長サ○きばなみそはぎノ學名○東京近郊新採集地○つきみぐさノ開花○さといもノ開花○農科大學ニ植物家來ル○顯花植物分科撿索篇○猪子吉人氏逝ク
◎東京植物學會錄事（三六五丁）
◎寄贈書目（三六六丁）

植物學雜誌編輯所

●第七十九號目錄

タイミンガサ　理學博士　矢田部良吉（二四五）
植物分類餘錄（前號ノ續キ）　理學博士　松村　任三（二四七）
日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）　澤田駒次郎（二五五）
◎雜錄
○植物採集雜記○「バテクリア」の說（前々號ノ續キ）○波波迦ノ說○羽後北秋田郡植物方言一班○ユクノキノ花○平賀源內翁ノ遺書○植物雜言○遠江京丸ノ牡丹○槲ノ老木○藥獵○土屋勇之輔氏逝○分類家トシテカルヽブラントル氏
◎質問應答
◎附錄
○顯花植物分科檢索表　池野成一郎（七七）

●第八十號目錄

日本植物報知（第十九）（ムジナモ イハツクバネウツギ）　理科大學　牧野富太郎（二八五）
日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）　醫科大學　澤田駒次郎（二八七）
植物分類餘錄（承前）　理學博士　松村　任三（二九一）
松ノみどりノ運動ニ就テ　理學士　藤井健次郎（二九五）
日光山植物雜記（第七十七號ノ續キ）　理科大學　安井　伴市（二九七）
靜岡縣產植物錄（第七十號ノ續キ）　小笠原利孝（三〇〇）
◎雜錄
○「バクテリア」の說○繇條書屋植物雜記○附子○東京植物學會○寄贈交換書目
◎附錄
○顯花植物分科檢索表　池野成一郎（八五）

植物學雜誌第七卷第八十一號 (明治二十六年十一月十日)

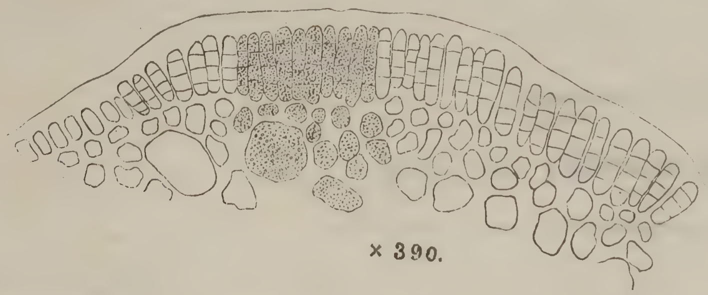
THE BOTANICAL MAGAZINE.

[Vol. VII. November 10, 1893. NO. 81.]

Tetraspores of Desmia.

K. Okamura.

I am not certain whether the tetraspore of Desmia is already known or not. But as it is not described in J. Agardh's Sp. Alg vol. III. p. 354, I will here describe what I have seen in Desmia japonica Haw., one of our common species in the warmer part of the Pacific coast. The tetraspores originate from minute colord cortical cellules forming roundish patches, which are often confluent and of a more or less irregular form. At first cortical cellules elongate and rise up above the surface of the frond forming a flat elevation, and afterwards each cellule is transformed by transverse partitions into a zonally divided tetraspore. It is oblong-cylindrical, 26—44 μ.



long, δ μ. broad, and almost colorless.

The specimens I have examined were collected on July 14, of this year Sugashima near Toba in the province of Shima.

Notes on Japanese Plants, XX.

Tomitarō Makino.

ARACEÆ. てんなんしやう科

Arisaema sikokianum Franch. et Sav. Enum. pl. Jap. II. 6 et 507. Engl. in A. DC. Monogr. Phanerog. II. 560. Iinuma Sōmoku-Dusetsu XIX. fol. 21. Nom. jap. *Yukimochisō.* ユキモチサウ

Leaf-segments 5 or 3, entire, often variegated with white colour on the upper surface. Ovary one-celled; ovules 3—4. Spadix, ripe fruits conical, with darker purple colour on the surface. Berries numerous, scarlet, roundish-obconical, sessile, one-celled; seeds ovoid, smooth, 1—2 or 3, stipitate; albumen copious; embryo cylindrical, staight.

Tosa: Sakawa-mura, Mt. Yokogura, Tadikawa-mura. (T. Makino).

β. **serratum** Makino.

Leaf-segments usually 5 or 3, with serrate or dentate-serrate-margins. Flowers and fruits similar to the typical form.

Tosa: Mt. Yokogura. (T. Makino).

HÆMODORACEÆ. そくしんらん科

Liriope minor (Ophiopogon minor) spec. nov. *Ophiopogon spicatus* Gawl. δ. *minor* Maxim. in Mél. biol. VII. 324. Franch. et Savat. Enum. jap. II. 84. Nom. jap. *Himeyaburan*. ヒメヤブラン Tosa: Ogawa-mura, Sakawa-mura, Chōzya-mura. Tokano-mura (T. Makino.) Mushashi: Shimura-no-hara. (T. Makino.)

EXPLANATION TO THE PLATE XI. (No. 80 of this Magazine.)

(*Aldrovanda vesiculosa* L. var. *verticillata* Darwin.)

Fig. 1. Whole plants; the one bearing a flower and a fruit, and the other branching. 2. A portion with a flower. 3. A portion with a fruit. 4. Verticel of leaves. 5. Transverse section of the stem. 6. Front view of leaves. 7. Dorsal view of leaf. 8. Vertical section through the petiole. 9. Leaf with fully opened blade. 10. Transverse section of the open blade. 11. Transverse section of the closed blade. 12. Young leaf. 13. Leaf destitute of the blade; such leaves occur in the whorl directly situated under the peduncle and that situated next to it, these two whorls being often very near to each other.

14. Transverse section of the petiole of the blade-bearing leaves. 15. Transverse section of the petiole of the leaf destitute of the blade. 16. One of projections of the petiole. 17. A part of the same. 18. A portion of the surface of the stem. 19. A portion of the petiole. 20. A portion of the lower or exterior surface of the blade, with its midrib. 21. The inner part of blade-lobes in its exterior surface. 22. Their outer part in its exterior surface. 23. A portion of the upper or interior surface of blade-lobes, showing their outer part. 24. Inner or gland-bearing part of blade-lobes in its interior surface. 25. Two-armed papilla found outside the blade, petiole and stem; lateral view. 26. The same, viewed from upwards. 27. Quadrifid processes on the outer part in the inner surface of the blade, viewed from upwards. 28. Glands on the inner part in the same surface; lateral view. 29. The same, viewed from upwards. 30. Hairs on the same part. 31. Blade, laid open. 32. Tip of the midrib. 33. Infolded margin of the blade. 34. Flower with its peduncle. 35. Flower-bud with its peduncle. 36 and 37. Flowers. 38. Vertical section of the flower. 39. Sepals. 40. A portion of the same. 41. Petals. 42. Stamen seen dorsally. 43. The same seen ventrally. 44. The same seen laterally. 45. Female organ. 46. Male and female organs soon after fertilization. 47. Stigmas and apex of styles. 48. Style and stigma. 49. Vertical section of the female organ. 50. Transverse section of the ovary, 51. Anatropous ovule. 52. Floral diagram. 53. Capsule with the peduncle; sepals, petals, and styles, still unfallen. 54. Capsule. 55. Vertical section of the same. 56. The same deprived of seeds. 57. Seed. 58. The same,

from which the external layer of the testa is removed. 59. The same, with the tegmen. 60. Vertical section of the seed, with a very minute embryo and copious albumen. 61. Surface of the seed. 62. Tissue of the external layer of the testa. 63. Surface of the internal layer of the testa. 64. Structure of the same layer. 65. Tegmen. 66, 67 and 68. Embryos.

All but figs. 1 and 48. magnified.

本邦産胡頽子科植物ニ就キテ

高等師範學校教授 理學博士 齋田功太郎

胡頽子科ノ植物ハ喬木或ハ灌木ニシテ多肉ノ宿存セル花蓋ノ脚部ニ由リテ圍繞セラレタル果實ト通常銀色或ハ褐色ノ鱗トヲ有スルヲ以テ容易ニ他科ノ植物ト區別セラレ得ルナリ

ベンザム及フーカー兩氏ノ「ジェネラ、プランタラム」ニ由レハ胡頽子科ニハ Elæagnus, Hippophae 及 Shepherdia ノ三屬アリトス今左ニ其簡單ナル區別ヲ揭ク

Elæagnus 屬　花ハ雌雄ノ兩蕊ヲ有シ、雄蕊ハ四箇アリ、葉ハ互生ス

Hippophae 屬　花ハ單性ニシテ多クハ雌花ト雄花トヲ異株ニ生シ、雄蕊ハ四箇アリ、葉ハ互生ス

Shepherdia 屬　花ハ單性ニシテ雌花ト雄花トヲ異株ニ生シ、雄蕊ハ八箇アリ、葉ハ對生ス

以上ノ三屬中本邦ニ産スルハ僅ニ Elæagnus ノ一屬トス而シテ此屬ニ屬スル植物ニシテ本邦ニ産スルハあきぐみ、なつぐみ、まるばぐみ、ゐはしろぐみ及つるぐみノ五種ナリ

玆ニ予ハ本邦産胡頽子科植物ヲ葉ノ形態及構造ニ由リテ區別センコトヲ試ミントス

葉ハ其上面ニ一層ノ細胞ヨリ成レル上皮ヲ有ス　一

葉ハ其上面ニ二層ノ細胞ヨリ成レル上皮ヲ有ス　三

葉ハ厚カラスシテ其下面ニ銀色鱗ノミ或ハ數多ノ銀色鱗ト少數ノ褐色鱗トヲ有ス　二

一

葉ハ厚クシテ其下面ニ褐色鱗ヲ有シ上面ノ上皮内ニハ二層ノ連續セル細胞ト一層ノ往々連續セサル細胞トヨリ成レル棚狀蜂窩組織（Palisade parenchyma）ヲ有ス　つるぐみ

葉ハ殆ト銀色鱗ノミヲ有シ其上面ノ上皮内ニハ通常二層ノ連續セル細胞ト一層ノ往々連續セサル細胞トヨリ成レル棚狀蜂窩組織ヲ有ス　あきぐみ

二

葉ハ數多ノ銀色鱗ト少數ノ褐色鱗トヲ有シ其上面ノ上皮内ニハ通常一層ノ連續セル細胞ト一層ノ往々連續セサル細胞トヨリ成レル柵狀蜂窩組織ヲ有ス　なつぐみ

葉ハ卵形或ハ卵圓形ニシテ銀色鱗及甚少數ノ褐色鱗ヲ有シ其下面ノ上皮内ニハ上皮ニ殆ト直角ヲナシテ排列セル細胞ヲ有ス　まるばぐみ

三

葉ハ通常長楕圓形ニシテ暗銀色鱗及少數ノ褐色鱗ヲ有シ其下面ノ上皮内ニハ上皮ニ殆ト平行シテ排列セル細胞ヲ有ス　なはしろぐみ

公孫樹ノ枝ノ北向ニ就テ　（第七十五號ノ續キ）

理學士　藤井健次郎

以上公孫樹ノ枝ノ北向ノ原因ハ重力ニモアラス日光ニモアラス濕度ニモアラス温度モ亦其主因トナスヘカラザルヿヲ知ル然レバ其北向ハ遂ニ之ヲ南風ニ歸スルノ外ナカルベシ去レ𪜈其原因ハ重力ニアラズ日光ニアラ

ズ濕度ニアラズ温度モ亦之レヲ主因トナスベカラズ故ニ風ナリト直チニ之レヲ斷定シ去ルトキハ未タ以テ其原因ヲ確定シタルモノトナスベカラズ故ニ以下之レヲ風トスルニ於テ事實相反スルガ如キヿナキカ又以テ何等ノ事實トヨク符合シ得ルヤヲモ攻究スルヿヲ要ス又果シテ其原因ハ風ナリトスルモ風ガいてふノ枝ノ發生ニ於テ如何ニ働キ如何ニ影響スベキカ又其影響ハ何故ニいてふニ限ルヤ或ハ一般ノ樹木ニモ其例アリヤ否ヲ攻究セザルベカラズ

公孫樹ノ枝ノ成長尤モ盛ナル時期ハ一般樹木ニ於ケルト等シク春ヨリ夏ニ渉リ晩夏ノ候ニ至リ次第ニ衰フ而シテ此成長期ハ又南風最モ烈シテ時期ニ伴ヘリ之レ即チ春夏ノ候南風ノ爲ニ其枝ニ北向ノ傾斜ヲ來ス所以ナリ特ニ春期ハ終日南風吹キ渡ルカ故ニ其枝ハ始終北方ニ彎屈セラレ爲ニ北半面ノ組織ハ縱ニ壓セラレ南半面ノ組織ハ縱ニ引キ伸バサルベシ故ニ北半面ノ組織ハ縱ニPressureヲ受ケ南半面ノ組織ニハ壓力ヲ減少シ且ツTractionヲ來スベシ而シテ此北面ニ於ケルカ如キ狀態ニ於テハ樹木ハ其成長ヲ防ゲラルヿハド、フリース氏ノ實驗ニ依テ證明サレタル事實ニシテ又此南半面ニ於ケルガ如キ狀態ニ於テハ既ニ成長ヲ止メタル細胞モ再度伸長ヲ促カサルモノナリ斯ノ如クニシテ南半面ノ組織ハ春夏ノ間過度ノ成長ヲナシ爲メニ枝ニ北方ノ傾斜ヲ來シ冬月ニ至リ北風烈シク吹クトイヘドモ終ニ恢復シ得ザルニ至ラシム之レ一ハ夏月ノ高温ハ成長ヲ促スモ冬月ノ底温ハ之レヲ妨クルニアリ一ハいてふハ松柏科中種々特別ノ點ヲ有スル内ニモ他ノ松柏科植物ノ葉ハ多ク年ヲ越ユレドモいてふハ落葉樹ニシテ大抵十月乃至十一月ニ葉ヲ失フガ故ニ冬月烈風之レヲ吹クドモ夏月緑葉繁茂セシトキノ如ク風ヲ受クルヿ甚ジカラズ又主トシテ此落葉ノ前緑色ノ退却ト共ニ次第ニ同化作用ヲ減シ北風烈シキ頃ハ遂ニ全ク之ヲ停止スルニヨレリ

前ニいてふノ枝ハ皆北ニ向フト云フヿハ事實ニアラザルヿヲ述ベ其一二ノ例證ヲ擧グルニ當テ其枝ノ北向ナルハ高サ數丈ノ樹ニ多ク又大樹ニシテ其幹枝著シク北向ノ觀アルモノモ其幹ノ上半ハ多少北方ニ傾斜スレ圧下半ハ概シテ直立シ其下方ノ枝ハ特ニ方向ニ偏スルヿナク其位置ニ從テ或ハ垂レ或ハ上方ニ向フヿヲ述ベタリ其何ニヨルカハ北向ノ原因ヲ南風ニ歸スルニ於テハ明瞭ナルヿニシテ樹木未ダ小ナル間ハ直接ニ風ヲ受クルヿ少ナク秀ツレハ風之ヲ吹クガ故ニ其枝ノ數丈ノ高キニアルニニ及ンデ之等ノ枝ニ於テ初メテ其影響著シカルベキナリ且ツ上方ノ枝ハ直立ニ近キモノ多クシテ風ハ水平ニ吹クヿ多キガ故ニ風ノ最モ其力ヲ逞シ得ベキ地位ニ立テリ

又前ニ越中高岡近邊ニテモ其枝ノ北面ナルいてふヲ見ルヿアレ圧其北向ノ傾斜東京ニ於ケルガ如ク著シカラズ又東京赤坂區官舍坂上ノいてふニ於テ枝ノ北向ノ傾斜著シキヿヲ記セリ之レ東京ハ四時風多キ土地ナルガ故ニ他ノ地方ニ於ケルヨリモ其影響一層甚シク又神社佛閣等ノ地內ニ於テ丘陵ノ上ニ兀立シ周圍ニ森林樹木等ナキ場合ニハ其原因著シキ所其結果モ亦著シキ理ナリ春夏ノ候南風著シキ土地ニ於ケルいてふノ枝ノ北面ニ就テハ更ニ言フベキモノナシ

爰ニ又面白キ例ハ前ニモ記セシ所ノ富士川東沿岸ナル駿州中八木澤村ノ一ノいてふニアリ其枝ノ全体西ニ向ヒ稍南ヘ傾斜ス而メ此地ハ三面山ヲ以テ圍マレ只西面ニ富士川ノ宏漠ナル河原ヲ見ルノミ余ハ故アリテ此土地ヲ訪フヿ三度二十四年十月二十五年四月及八月ニシテ特ニ此方向ニ注意シ又村人ニ聞キナトシタルハ八月ナリキ春夏ノ候南風ハ川ノ平原ニ沿フテ南ヨリ來リ彎曲セル周圍ノ山ヲ廻リテ西ニ吹去ルヲ常トス而メ北ニハいてふヨリモ稍低キ細キ欅アリ東ニハ直徑七寸許ノ杉一本及ヒ稍離レテ徑一尺許ノ杉一本東南ニアリ

又大坂市ノ中ノ島ニアル一大公孫樹ノ細枝ハ多ク東向ニシテ稍北向ノ傾アルヿヲ記セリ而シテ大坂ノ地ハ春夏ノ頃ハ主トシテ西風著シキ處ナリ

是等ハ春夏ノ候吹ク風ノ方向トいてふノ枝ノ方向トヨク符合セル面白キ例證ナリ彼ノ神奈川近方ニテ東向ナルガ如キモノヲ見菴原近方ニテ東北向ナルモノヲ見ルハ未タ其土地ノ地文ヲ知ラザレバ濫リニ此ヲ判斷シガタシ

富士郡上野村下ノ坊ノいてふノ枝ノ西ヘ多ク一部北ニ傾斜セルハ或ハ南風富士ニ依テ屈折サレ西ヘ走ルモノ多キニ由ルカ暫時疑ヲ置ソノミ同郡妙蓮寺ノいてふノ枝ノ北東ナルハ西ニ老杉ノアルニヨルベシ

いてふニ於テ風ノ影響如此著シク他ニ於テ然ラザルハいてふハ他ノ樹木ニ比シテ其皮部ニ多クノ水分ヲ有シ其成長速カニシテ且ツ甚盛ナルヿ……其成長ノ盛ナルヿハ多クノ直立セル巨大ノ不定芽ヲ夥多生ズルヲ以テ之ヲ證スルニ足ルベク又或ル場合ニ於テ多クノ乳房ト稱スルモノヲ生ズルヲ見テモ知ルベシ……其枝ノ錯雜ナラズ大概眞直ニシテ軟且ツ彈力ニ乏シキヿ（枝ノ屈曲セルガ如ク見ユルヿアルハ花ヲ生スヘキ短枝多キガ故ナリ）通常近隣ノ樹木ヨリモ秀デヽ高ク聳ヘ春夏南風吹續ク頃彼ノ廣キいてふ葉ノ繁茂スルヿ等ニヨルベシ

他ノ樹木ニ於テモ亦全ク之レニ類スル影響ナシトセス東京向島以北隅田ノ上流ノ原野ニアル樹木ノ内ニハ往々其枝ノ傾斜北方ニ偏セルモノヲ見ル之レ此ニハ近隣ニ樹木人家等少ナキガ爲メ南風ノ影響ヲ受クルヿ多キニヨルベシ甲州富士川ノ西沿岸下山村ノ南端ナル常福寺ニ一本ノいてふアリ其傍ニ又一本ノいぬがやアリテ高サいてふト略相等シ此地ハ春夏ノ候ハ正南ノ風強キ所ナルガ此いぬがやハいてふト共ニ其枝著シク北ニ向ヘリ又富士川ノ東岸中ハ木澤村ヨリ二里許ナル杉山ト云フ村ニ至ル途中湯川トイフ川アリ此川ノ西北ニ山ア

リ其山腰ナル多クノ榧（カヤ）ノ枝ハ皆北東ニ向ヘリ

又東京深川洲崎ノ海岸ニ植ヘタル高サ二三間許ノ松ノ木ノ枝ハ多ク著シク北ニ向ヘリ之レヲ離ルヽヿ數丁市中ニ一本ノいてふアリ之レモ其枝北向ナレ𪜈却テ松ニ於ケルヨリモ著シカラズ之レ堤ヲ越ユル南風ノ直チニ之レヲ吹クガ故ニ斯ノ如ク著シキナルベシ之レ松ノ木ノ如ク其枝ノ不規律ニシテ彈力アル木ニ於テモ尙其成長期ニ南風ノ影響ヲ受クルヿノ著シキ一例ナリ

以上記セシ所ヲ以テ見レバいてふノ枝ノ傾斜北向ナルモノヽ多キハ主トシテ其成長期ニ際シテ南風ノ吹續クカ爲メ枝ノ半面ニ於テ Traction ヲ生シ以テ其部ノ著シキ成長ヲ促カスニ由ルトナシテ可ナランカ以上記セシ所ハ只ニ自然ノ狀態ニ於テ之レヲ觀察セシニ止マリ一モ人工的試驗ヲ行ヒタルヿナシトイヘ𪜈暫時他日ノ參照ノ爲メ此ニ記シヌ

（完）

植物分類餘錄

理科大學教授
理學博士　松村任三

Lauraceae.　樟科

Cinnamomum pedunculatum, *Nees.*

Syn. *Cinnamomum japonicum, Sieb.*

Laurus pedunculata, Th.

ヤブニクケイ　天竺桂（本草綱目）

マツラニクケイ

ホトケタラシ
ダモ
ダマ
タマ
タブ（筑前）
クスタブ（筑前）
タボ（加州）
クスダモ
アブラダモ
アブラシバ
メソドダモ（勢州）
タマクサ（豫州）
タマガラ（豫州）
クスメソドウ
カラダモ
コガノキ（播州）
アサカイ（因州）

アサダ（阿州）
クロアサダ（阿州）
ムヅ（阿州）
クロツミノキ（肥前）
シホダマ（上總）
クロダマ（豆州）
コガイノキ（長州）

Cinnamomum Loureirii, *Nees.*

ニクケイ　桂　（本草綱目）
ニツケイノキ
本草圖譜八十一、花彙木部二卷

Cinnamomum Sieboldi, *Meisn.*

未詳

Cinnamomum sericeum, *Sieb.*
Syn. *Cinnamomum daphnoides, Sieb* et *Zucc*

マルバニクケイ
琉球ニ產ス

Cinnamomum Camphora, *Nees.*

Syn. *Laurus Camphora, L.*

Persea Camphora, Spr.

クスノキ（和名鈔） 樟 （本草綱目）

クス

Cinnamomum Doederleinii, *Engl.*

未詳 琉球ニ產ス

Machilus Thunbergii, *Sieb. et Zucc.*

Syn. *Laurus indica, Th. non L.*

イヌグス

シログス（豆州）

本草圖譜八十一卷

Machilus Kobu, *Max.*

コブガシ 小笠原島ニ產ス

ヤマグス（小笠原島）

Machilus japonica, *Sieb. et Zucc.*

タブノキ

Machilus longifolia, *Meisn.*

アチカシ

バリ〳〵ノキ

シラキメントウ

琉球ニモ産ス

Actinodaphne lancifolia, *Meisn.*

Syn. *Daphnidium lancifolium, Sieb et Zucc.*

カゴノキ　六駁(古今注)

カゴガシ

草木圖說木部十卷ノ二十一

Actinodaphne acuminata, *Meisn.*

アチカゴノキ

Litsea japonica, *Juss.*

Syn. *Tetranthera japonica, Spr,*

Tomex japonica, Th.

ハマビハ

ケイジユ

草木圖說木部十卷ノ十六

琉球ニモ產ス

Litsea glauca, *Sieb.*

シロダモ

チキミノキ

シロタブ（筑前）

ウラジロ（奧州）

タブ（筑前粕屋郡）

ツヾノキ

アブラキ（薩州）

スヽベイ（薩州）

シロツヾ（肥前）

ソキノミノキ（豐前）

アカゴ（和州）

タマガラ（土州）

草木圖說木部十卷ノ二十三

Litsea aciculata, *Bl.*

Syn. *Litsea foliosa, Sieb.* et *Zucc. non Nees.*

Litsea lancifolia, Vill.

Daphnidium lancifolium, Sieb. et Zucc.

Iozoste lancifolia, Bl.

イヌガシ

マツラニクケイ

草木圖說木部十卷ノ四十

Lindera praecox, *Bl.*

Syn. *Benzoin praecox, Sieb. et Zucc.*

ムラダチ

アブラチヤン

コヤスノキ

ゴロハラ

イヌムラダチ

ハレハレ

ハラハラ（西濃）

ヅサ（日光）

草木圖說木部十卷ノ三十

朝鮮ニモ產ス

Lindera glauca, *Bl,*

Syn: *Benzoin glaucum, Sieb et Zucc.*

ヤマカウバシ　山胡椒

シヤウブノキ

ヤマゴセウ

モチギ

草木圖說木部十卷ノ三十二

Lindera hypoleuca, *Max.*

クロモジ

クロモンジヤ（豆州）

クロモンジ（和州）（日光）

トリキ（越後）

トリシバ（仙臺）

マツフサ（南部）

クロトリギ（野州）

チシヤ（信州）

ビシヤ（信州）

チソ（越前）

フグキ（雲州）

草木圖說木部十卷ノ三十六

Lindera membranacea, *Max.*

オホバクロモジ

草木圖說木部十卷ノ三十八

Lindera umbellata, *Th.*

Syn. *Benzoin Thunbergii, Sieb, et Zucc.*

カナクギ

草木圖說木部十卷ノ三十四

Lindera sericea, *Bl.*

Syn. *Benzoin sericeum, Sieb. et Zucc.*

ケクロモジ

Lindera triloba, *Bl.*

Syn. *Benzoin trilobum, Sieb. et Zucc,*

ハタウコン

ウコンバナ

シロモジ（加州）

トモギ

ツラフリ（播州）

ノソバ（豫州）

クロヂシヤ（信州）

ムラダチ

ヂシヤグラ

ヲムラダチ

本草圖譜八十一卷、草木圖説木部十卷ノ二十六

Lindera obtusiloba, *Bl.*

Syn. *Lindera mollis, Oliv.*

ダンカウバイ

シロヂシヤグラ

ヤマヲヽバイ

ハダウコン

シロモンジ（日光）

草木圖説木部十巻ノ二十八

期鮮ニモ產ス

Lindera strychnifolia, *Vill.*

Syn. *Daphnidium strychnifolium, Sieb.* et *Zucc.*

Daphnidium Myrrha, S. et *Z.* non *Nees.*

テンダイウヤク　天台烏藥

Lindera citriodora, *Hemsl.*

syn. *Aperula citriodora, Bl.*

Benzoin? citriodorum, S. et *Z.*

アチモジ

琉球ニ產ス

Laurus nobilis, *L.*

老利兒　元歐洲ノ產ナリ

Cassytha filiformis, *L.*

スナヅル　小笠原琉球諸島ニ產ス

ハリガチサウ（小笠原島）？

Hernandiaceae　蓮葉桐科

Hernandia peltata, *Meisn.*

ハスノハギリ　小笠原、琉球諸島ニ產ス

ハマギリ（小笠原島）

日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）

澤田駒次郎

本植物ノ葉ニ水ヲ和シ蒸餾シ得タル揮發油ハ前種ノ植物ノ葉ヨリ得タルモノト共ニ加耶布的油ト稱シ其性狀成分、醫治効用等均等ナルニ因リ玆ニ之ヲ贅セス

四十三　ザクロ　安石榴

羅甸名　Punica Granatum, Liun.

千屈菜科

亞細亞南西部等ニ自生スル落葉小喬木ニシテ高サ一丈乃至一丈五尺皮部暗灰褐色ヲ呈シ縱條ヲ有ス枝杪ハ纖小ニシテ棘ヲ有シ密生ス而シテ嫩芽ハ赤色ヲ呈ス葉ハ長圓形若クハ鈹鍼形ニソ兩端狹隘邊緣平滑葉柄矮短其質厚ク硬剛ニシテ光輝ヲ帶ヒ長サ八分四五厘乃至一寸六七分通常對生スト雖モ間々互生樣ヲ爲スモノアリテ托葉ヲ有セス第七八月ノ頃枝杪ノ上部ナル葉腋ヨリ花梗ヲ抽キ其頂端或ハ一個或ハ二三個ノ花ヲ開ク萼ハ大ニシテ管狀ヲ爲シ長サ大約七八分其質厚ク鞣革樣ヲナシ下部ハ實礎ト附着シ上部稍々擴張シ其先頂五個罕レニハ七個ニ缺刻シ其截片尖銳三角形ヲナシ鮮紅色ヲ呈ス花瓣五片罕レニハ七片球形ニシテ猩紅色ヲ呈シ管狀

ナル萼ノ內部ヨリ生シ其缺刻ニ相對シテ排列シ屋瓦狀ヲ爲ス雄蕋數多花瓣ノ下部即チ萼ノ內面ヨリ生シ數行ニ並列シ花絲直立ス葯ハ卵圓形ニシテ其背部ニ於テ花絲ノ頂端ト附着內向シ二房ヲ有シ黃色ヲ呈シ稔熟スレバ縱線ニ因テ破綻シ花粉ヲ吐出ス實礎ハ萼ノ心底ニ在ツテ其內面ト癒着シ上下ノ二層ヲ爲シ下層ハ三房ニシテ上層ハ五房乃至八房ヲ有ス卵子無數胎盤ノ全面ニ附着ス其卵子ハ梗ヲ有セス而シテ胎盤ハ下層ニ於テ中立性ニシテ上層ニ於テ壁立性ヲ爲ス花柱狹小柱頭微ニ膨脹ス果實臭橙實大其直徑二寸乃至二寸五分餘球形若クハ扁圓形ニシテ五個乃至八個ノ鈍稜ヲ有スルコトアリ上部狹隘絞扼シテ頸ヲ爲シ頂端萼ノ缺刻ヲ存シ中央凹陷シテ其中ニ萎縮シタル雄蘂ヲ有ス子殼ハ揉革樣ニシテ平滑黃色若クハ微ニ赤色ヲ呈シ稔熟スレハ開裂シテ美麗ナル種子ヲ現ハシ頗ル佳ナリ而シテ果實ノ內空ハ其中央ヨリ稍々下部ニ於テ菲薄ナル橫隔膜アツテ中心ヨリ周邊ニ擴張シテ圓錐形ヲ爲シ其內空ヲシテ上下ノ二層ニ區畫ス而シテ上層ハ柔靭膜質ノ隔壁ニ因テ更ニ五個乃至八個ニ分畫シ下層ハ間マ縱隔ニ因テ分畫スルコトアリ種子無數果實ノ內空ニ充塞ス而シテ上房ニ在テハ果壁ヨリ突起シタル厚强海綿質ノ胎盤ノ周圍ニ附着ス此胎盤ハ房ノ上部及ヒ下部マテ延長セス下房ニ在テハ各房不整ニ錯走スル所ノ胎植アツテ種子ヲ附着ス種子ハ形チ長圓ニシテ長サ大約四分餘互ノ壓迫ニ因リ多角形ト爲リ稱子膜ハ內外ノ二層ヨリ成リ外膜ハ厚ク透明ニシテ石竹色ヲ呈シ液汁ヲ內膜ハ硬固ニシ白色ヲ呈シ胚子ハ直立シ根芽ハ矮短子葉ハ眞葉狀ヲ爲シ蛋白質ヲ有セス

本植物ハ往昔ヨリ栽植セシニ因リ現今其自生ヲ詳カニスルコト能ハスト雖モ亞細亞南西部、印度北西部、波斯南部、カウカス山地方ニ產シ又パァレスチンニ自生ス此等ノ諸國ヨリ種々ノ時代ニ於テ地中海沿岸ノ諸國（歐羅巴、亞弗利加北土）ニ移植セシモノトス而シテ亞弗利加北土ニ於テハ之ヲ自生トシ之ニ Punica ナル屬稱ヲ附與スルニ

至レリ又支那ニ栽培セシモノハ往昔亞細亞西部ヨリ移植セシモノトス

本植物ハ現今溫帶諸國ニ於テ栽植シ花ヲ愛シ果實ヲ賞ス又本邦ニ移植セシ年月等ハ詳カナラズト雖モ類聚雜要抄ニ仁和寺殿競馬行幸御膳幷御遊酒肴事保延三年九月廿三日云々一本菓子四杯松柏干棗柘榴云云聟娶御膳物五進臺五菓松子干棗石榴搔栗、人車記曰仁安二年八月御取御裝束裏書第三菓子松柏柘榴干棗云云トアルヲ以テ考フレバ今ヲ距ルコト數百年前已ニ本植物ヲ栽植セシコト明瞭ナリ

本植物ハ夏月美麗ナル花ヲ開キ秋月ニ至リ果實稔熟シテ分裂シ鮮紅色ノ種子ヲ顯ハシ頗ル佳致アリ故ニ之ヲ庭園ニ栽植スルハ普ク世人ノ知ル所ナリ

本植物ヲ栽植シ樹皮ヲ採集スルハ亞弗利加ノアルゼリ佛蘭西ノ南部其他地中海沿岸ノ諸地ヨリ產出ス

藥品

第一　石榴根皮　Cortex granati.　(Cortex Radicis granati)　石榴根皮ハ本植物ノ根ヨリ剝取シタル皮部ニシテ日本藥局方ニハ根皮ノミヲ藥用トス又英國印度及合衆國藥局方モ亦根皮ヲ用フト雖モ獨逸藥局方ニハ根皮及ヒ幹皮共ニ藥用ニ供ス生藥學ニ云曩ニ職ヲ東京大學醫學部ニ奉セシ草野元養氏ノ實檢ニ據レハ本生長ノ殺蟲ノ効アル成分「ペルレチエリン」ハ最モ多ク新鮮ナル根皮ニ含有シ舊根ハ其含量甚タ少シ而シテ同氏ハ幹皮ヨリハ毫モ亞爾嘉魯乙度ヲ製出シ能ハサリシ故ニ此撿査ニ由ルトキハ石榴皮ノ有効成分ハ新鮮ナル根皮ニ在ルモノトス而シテ日本藥局方ハ石榴根皮ヲ以テ藥用品ト製定シ幹皮ノ應用ヲ許サヽルハ實ニ其當ヲ得タルモノトス」トアリ

性狀　石榴幹皮ハ管狀ノ皮片ニシテ外面帶黃綠色ヲ呈スト雖モ稍々年ヲ經タルモノハ帶黃綠色ヨリモ寧ロ暗

灰綠色トス老皮ハ厚サ二•五乃至三「ミリメートル」ニ至リ外面黃色若クハ黃褐色ニシテ其內部ハ稚皮及老皮共ニ類黃色ヲ呈スト雖モ乾燥不充分ナルモノハ類褐色ヲ有ス稚皮ハ抱層ヲ被ムリ平滑ニシテ微ニ縱裂ヲ有ス之ヲ水ニ浸シタル後小刀ヲ以テ削ルトキハ抱層ノ下層ニ葉綠粒ヲ含有スル細胞ヲ撿スヘシ又老皮ハ其抱層ニ著シク隆起セル裂口ヲ有シ又皮鱗ヲ帶フ

本品ハ幹枝ヲ論セズ所々ニ地衣ヲ附着ス

石榴根皮ハ扁平ナル管狀ノ皮片ニシテ屢バ返卷彎曲シ長サ五乃至十五「センチメートル」幅二乃至七「センチメートル」ナルヲ通常トス又短管狀ヲ爲スモノアリ

本品ハ多クハ老樹ヨリ剝離スルヲ以テ厚キ枹層ヲ有シ類黃色若クハ類褐色ヲ呈シ葉綠ヲ含有セス又其外面決シテ地衣ヲ有セス所々ニ廣濶ナル凹陷ヲ有ス此レ枹層ノ剝脫セシ痕ナリ之ヲ幹皮ニ比スレバ短クシテ著シク彎曲スルヲ通常トス

本品ハ設令ヒ其新鮮ナルモノト雖モ閣層ヲ剝除スルモ綠色ヲ呈セズ帶黃褐色ノ皮層ヲ露出ス

本品ハ其內面微細ナル縱條ヲ現ハシ或ハ平滑ニシテ黃色乃至帶赤褐色若クハ帶綠褐色ヲ有シ其破碎面ハ顆粒狀ヲ爲シ黃色ヲ呈ス改正日本藥局方ニ云石榴根皮ハ多少半管狀或ハ反曲セル皮片ヲナシ厚サ二「ミリメートル」ニ至リ外面ハ帶綠黃色或ハ褐層灰色ノ枹層ヲ被リ皮鱗ノ剝落セル痕跡ヲ帶ヒ地衣ヲ附着セス內面ハ滑澤ニシテ帶褐黃色ナリ味ハ不快收斂性ニシテ稍々苦シ

本品ハ新タニ乾燥セルモノヲ撰用ス可シ」トアリ

（以下次號）

吾妻山ノ植物

粟野傳之亟

余ハ本年ノ夏期休業ニ際シ吾妻山探撿ヲ思ヒ立チ七月十六日午前六時福島出發吾妻山ニ向フ吾妻ハ遠ク西天ニ聳ヒ其煙烟山巔ニ漲リ一望以テ探撿ノ念ヲ起サシム此日午後三時微湯（ぬるゆ）ニ着シ此ヨリ植物採集ト火口探見トニ從事ス十八日ハ一切經山上ナル臨時測候所ニ請フテ一泊シ以テ吾妻山上ノ植物ヲ採集シ十九日ハ高湯ニ下リ二十日福島ニ歸ル

吾妻山採集案内

吾妻山ニ登ルニハ二道アリ一ハ微湯口他ハ高湯口是ナリ微湯ハ福島ヲ去ル四里半高湯ハ五里半而シテ火口ヲ去ル微湯ヨリハ一里半高湯ヨリハ二里半ナリ故ニ單ニ火口探撿ノミナレバ微湯道ヲ取ルヲ便トス然レ𪜈植物採集ナレハ高湯道ヲ取ル便ナリ先ツ高湯ニ一泊シテ此近傍ノ植物ヲ採集ス可シ特ニ微湯ト高湯トノ間ニハ高原アレバ此處ヲ採集スルヲ宜シトス次ニ高湯ト賽ノ河原次ニ一切經山等ヲ採集シ既ニ一切經山上ニ登ラハ火口ヲ西方ニ迂廻シテ西吾妻及桶沼山等ヲ採集シテ小富士ニ登ル可シ此ヨリハ漸次微湯ニ下ル可シ次ニ微湯ト福島トノ間ニ平原アレハ此處ニ於テ採集スルヲ宜シトス

一、薇族　Osmundaceae.

1. シヽガシラ　Lomaria spicant, Desv.
2. ヤマソテツ　L. adnata, Bl.

二、石松科　Lycopodiaceae.

3. ヒカゲノカヅラ　Lycopodium clavatum L.

4. マンネンスギ L. obscurum, L.

5. アスヒカツラ L. complanatum, L. var, chamaecyparisus Al. Br.

三、杉族 Taxodineae.

6. スキ Cryptomeria japonica, Don.

四、縱族 Abietineae.

7. ゴエフマツ Pinus parviflora, Sieb. et. Zucc.

8. モミ Abies firma, Sieb. et zicc.

五、百合族 Liliaceae.

9. ノギラシ Metanarthecium luteo-viride, Maxim.

10. マヒヅルサウ Mainthemum bifolium, DC

11. イワギバウシ Funkia Sieboldiana, Hook. var. longipes, Fr. et. Sav.

（未完）

八重山列島各屬島ノ植物

田代安定

其一　黒島ノ部

黒島ハ八重列島中ノ一屬島ニシテ西表島ヲ南ニ距ル三里許ノ處ニアル石花礁盤質島ニシテ先年予輩一行ノ實測シ得ル所ノ周廻ハ三里壹丁ト爲シ戸數百餘人口五百餘村落ハ宮里、保里、仲本、東筋、伊古、保里ノ

六個ニ分レ此内宮里村ヲ以テ首村ト爲ス島形ハ楕圓ニシテ坦平ナル一坐ノ礁盤ニテ成リ立チ新城島ト共ニ水至テ乏シク實ニ無水島ノ綽名ヲ下スベキ島ニシテ全島ノ三分一ハ植物ノ生育シ得ザル岩盤ノ部分アリテ固ヨリ山林ト名指スヘキ場處モナク只タ土砂ノ僅ニ其上面ヲ蔽被セル部分ニ蒼茫ト草木ノ雜生スルアルノミナリ故ニ其種類モ稀少ニシテ科目分類上ニ缺クルモノ亦自ラ多シ予ノ同島ヲ巡歷セシハ植物調査ノ用ニアラサリカトモ寸暇ヲ拾ヒ其自生植物ノ種類ヲ筆記シ置クコトヲ勉メリ此合計凡百種餘ニシテ之ヲ科目ニ分チ記スレハ左ノ如シ同島ノ位置ハ北緯二十四度十四分半（島ノ中央部）東經百二十四度ニシテ即チ小笠原列島ヨリ更ニ熱帶圈ニ近接セリ（熱帶圈ハ二十三度半ナルニ依レハ僅ニ四十餘分ノ差アリ）

雙子葉門

○第（一）毛茛科

（一）Clematis apiifolia, DC.

日本名　ボタンヅル　方言　ナーラカヅラ

（二）”　terniflora, DC.

日本名　サキシマボタンヅル（田代新名）

葉三出若クハ五出殊ニ五出ヲ其常標トス毎小葉尖頭卵圓形質柔薄多毛、花梗五複椏若クハ七複椏、花淡綠黃白色瓣短細（長三四分幅一分許、瓣多毛雄蕋瓣ヨリ短シ）

備考「センニンサウ」即チ「クレマチス、パニキユラタ」モ目撃セシヲ覺ユレトモ日記中ニ記錄シアラサルヲ以テ漫ニ列錄スルコトヲ避ケ置クナリ

(三) Ranunculus scerelatus, L.

日本名　タヽラビ

(四) "　fibrosus, Wall.

日本名　シマキツネノボタン（田代假稱）

全草多毛ニシテ莖柔細塌地シ易ク較「ラノンキユルス、レペンス」ノ趣ヲ爲セリ葉裂圓濶ニシテ缺刻淺シ花梗短細ニシテ葉腋ヨリ大抵一花ヲ抽ク瓣短濶ニシテ淺黄色子狀粗大ニシテ頭端著シク尖鋭且鉤曲スルノ殊標ヲ具ス

○第(二)木蘭科

(五) Kadsura japonica, L.

日本名　ビナンカツラ

○第(三)防已科

(六) Stephania hernandifolia, Walp.

日本名　ハスノハカヅラ

(七) Cocculus laurifolius, DC.

日本名　カウシウウヤク又イソヤマダケ又ヘンチシバ（鹿兒島縣）

○第(四)罌粟科

(八) Corydalis Wilfordi, Regel ?

日木名　キケマン　イソキケマン（田代假號）

○第（五）十字花科

（九）Senebiera integrifolia DC.

日本名　ヤンバルガラシ（田代新名）

海濱砂地ニ叢生ス小笠原島産トハ或ハ別種ナラン沖繩島山原（ヤンバル）地方ニ專ラ多ク産スルヲ以テ此新名ヲ附セリ「ヤンバル」トハ沖繩那覇ノ市民ガ國頭地方ニ對セル總稱ニシテ猶「バルバリー」（荒蠻）ト云ガ如キ意味ヲ含メリ故ニ植物名稱ニハ尤モ適當セル稱號ト爲ルコトアリ即荒野生何々ト云フベキ場合ニ相當スレバナリ此草ハ「ミヅタガラシ」ノ如キ辛味ヲ有シテ更ニ峻烈ナリ該草ノ形質ハ先年植物學教室ニ出シ置ケル書冊中ニ記載セシヲ以テ今故ラニ省ク

（十）Cardamine hirsuta, L. var. sylvestris Link.

日本名　タネツケバナ

（十一）Nasturtium palustre, DC.

日本名　イヌガラシ

（十二）Capsella Bursa-pastris, Moench.

日本名　ナヅナ

○第（六）白花菜科

（十三）Polanisia viscosa, Maxim.

日本名　サキシマフウテウサウ（田代新名）　方言　ピージャマメ（石垣島山羊豆ノ義）

全草細毛密生シテ粘着質ヲ具ス花ハ黄色四瓣雌雄蘂短小子蒴羊角狀ヲ爲シ長サ一寸乃至二寸ニシテ螺線縱條アリ此草ニハ Cleome viscosa, L. 等ノ「シノニーム」稱多シ即チ佛國領西ゴン港等ニ野生スルモノト同一ナリト思ヘリ同所ニハ白花ノ別種モアリ

○第（七）菫菜科

（十四）Viola patrinii, DC. C. var. triangularis, Fr. et Sav. ?

日本名　ヤハヅスミレ

（十五）〃 verecunda, A. Gr. ?

日本名　ツボスミレ

（十六）〃 patrinii, DC.

日本名　コンスミレ

○第（八）海桐科

（十七）Pittosporum Tobira, Ait.

日本名　トベラ

八重山列島ニハ常ノ「トベラ」「シマトベラ」ト兩品アリ本條品ハ常ノ方

○第（九）石竹科

（十八）Sagina maxima, A. Gr.

日本名　ツメクサ

(十九) Arenaria serpyllifolia, L. var.

日本名　ノミノツヾリ

(二十) Stellaria media, L.

日本名　ハコベ

(二十一) Dianthus japonicus, Th.

日本名　ハマナデシコ

(未完)

植物解剖雜記（一）

外山龜太郎

近來生物學ノ進歩ハ實ニ著シク從テ組織ヲ殺ス法、固定スル法及保存法等モ非常ニ發達シテ Caryomitose(所謂間接細胞分裂法) ノ如キモ頗ル明瞭ニ其構造ヲ研究スルヲ得ルニ至レリ、動物學者間ニアリテハ此等ノ方法ハ久シキ以前ヨリ一般ニ用ヒラレタレトモ植物學者間ニアリテハ餘リ用ラレズシテ近年ニ至レリ之レ蓋シちよんぎり流ノ便アルニヨリ起リタルモノナル可ケレトモ一ハ長キ間分類學者ニ蹂躙セラレタル餘弊ノ之レヲ助ケタルヿナシト言フ可ラズ、斯學ノ爲メニハ誠ニ悲ム可キヿナリ

デスカラ植物ノ組織ヲ研究スルニハ特別ノ場合ヲ除クノ外ハ Fresh materials ヲ其儘用ユルガ如キハ進歩シタル當今ノ形勢ニ適シタルモノト言フヲ得ズ、あるこふる浸ケノ標品ヲ用ユルハ之レニ比スルニ多少發達シタルニ相違ナケレトモ研究ノ目的ニヨリテハ全ク効ヲ奏スルヿ能ハズ殊ニ藻類等ニアリテハ一層其困難

ナルヲ見ルベシ勿論高等植物ハ其細胞膜堅固ナルヲ以テ細胞ノ形狀ノミヲ見ルヲ目的トスルモノナレバ充分其用ニ適スベケレトモ組織學ハ決シテ細胞ノ形狀ノミヲ論スルモノニアラサルヲ以テ一般ニ言フトキハ此ノ如キ方法ヲ以テ植物ノ組織ヲ研究スル間ハ到底面白キ新結果ヲ得ル能ハズ只古人ノ仕來リタル道ヲ再演スルニ過キズ、特ニ細胞内ニアリテハ核ガ最モ緊要ナル地位ヲ占メタルモノナリト定メタル今日ニアリテハ…………

トコロデ余ハ植物學ニ足ヲ踏ミ込ンテ居ラルル諸君ノ一顧ヲ煩ハシタキコトアリ、ソハ從來植物ノ組織ヲ記スルヲ見ルニ特別ノ場合ヲ除クノ外ハ大抵細胞膜ノミヲ畫キ細胞内ノ含有物ヲ記スルモノ少ナシ（結晶等ハ取リ除キ）特ニ細胞内ニアリテ最モ必要ナル核ノ形狀及ヒ地位等ヲ記スルモノアルヲ見ズ之レ實ニ植物學上ニ於ケル大欠點ニシテ組織中ニアル緊要機關ヲ省略スルカ如キハ進步シタル學術界ニ於ケル記載ノ法ト言フコトヲ得ズ勿論みくろてくにつくノ進步セザル往古ニアリテハ不得己コトナレトモ當今ノみくろてくにつくニアリテハ必ラズ見ユベキモノナリ見ユルモノヲ殊更省略スルハ特別ノ目的アルニアラサレバ妙不可思儀ト言ハサルヲ得ズ故ニ植物ノ組織ヲ畫クニハ必ラズ細胞内ハ於ケル核及ヒ仁ノ位置形狀等ヲ記載セラレンコトヲ望ム

之レヨリ解剖上ノヿヲ漸次記載スベシ然レトモ此稿タル實檢ノ結果ヲ手當リ次第ニ記載スルモノナルヲ以テ順序ヲ正スヿ能ハズ時ニハ一ツヿヲ二度繰返スカ如キヿアル可ケレ𪜈不得已ヿナレバ幸ニ諒察アリタシ

細胞ノ增殖

組胞ノ增殖ニハ三種ノ方法アリ一ハ間接細胞分裂二ハ直接細胞分裂三ハ Endogeue Kernbildung ニシテ今玆

ニ記スル所ノモノハ其第一即チ間接細胞分裂法ナリ然レ圧此事實ヲ記載スルニ先ダチ此レヲ實撿スル法ヲ一言スベシ

細胞ヲ固定スルニ最モ容易ナル藥品ハふれみんぐ溶液（動物學雜誌第五十八號參照）ニシテ之レニ次テ結果ヨカリシハ一プロセントノくろむ酸ナリ併シ植物學者間ニアリテハ無水アルコールハ非常ニ賞用セラレすとらすぶゐける、ざにやわしるノ如キ皆ナ此法ヲ應用シ非常ニ好成績アリタルヲ以テ余ハ余リ感服仕ラザレ圧先ツ無水あるこふるノ應用ヲ記載ス可シ

(a)無水あるこふるは其用法甚タ簡易ニシテ只物ヲあるこふる中ニ浸セバ可ナリ廿四時間以上ヲ經タル後（葉緑素ヲ有スルモノハ緑色ノ全ク脱スル迄あるこふるヲ度々易ユベシ）次ノ如キ方法ヲ以テぷれぱらーとヲ作ル可シ

先ツ薄片ヲ作リ之レヲ一プロセントノ硫酸亞鉛溶液又ハあんもにや明礬ヲ以テ處理シへまときしりん液ヲ以テ着色スベシ、ぷれぱらーとヲ作ル時ニハばるさむ又ハ他ノ油類ヲ用ユ可ラズ之レヲ用ユル時ハせんとろぞうまハ全ク見ヘザルニ至ルベシ故ニ常ニぐりせりんげらちんヲ用ユベシ

又しゆにつてヲ作ルニみくろとうむヲ用ヒズシテ只手にて作ルならば無水あるこふるニ廿四時開浸シタル後あるこふる及ぴぐりせりんノ等分混液又ハあるこふる、水、ぐりせりんノ三等混液中ニ貯フヘシ

(b)くろむ酸、一プロセントノ水溶液ニシテ通例藻類ヲ固定スルニ用ヒタルモノナレ圧又他ノ植物ヲ固定スルニモ頗ル都合ヨキモノナリ小サキモノナレバ數時間浸シヲケバ可ナレ圧大ナルモノナル時ハ廿四時間以上經ルヲ可トスカクシタル後流水ニテ充分洗ヒあにりん水さふらにんヲ以テ染ムヘシ

(C)昇汞、昇汞ハ其用法種々アレ𪜈あるこふる溶液ヲ最モ便利ナリトス高等植物ノ組織ハ空氣ヲ含有スル爲メ容易ニ水中ニ洗マスシテ取扱ニ甚タ困難ナレ𪜈あるこふる溶液ナルトキハ容易ニ此等ノ困難ヲ避ルヿヲ得可シ此溶液ニ數時間浸シタル後（物ニヨリテハ廿四時間位置クモ害ナシ）少量ノようどヲ加ヘタルあるこふるヲ以テ能ク昇汞ヲ洗ヒ取ルヘシ若シ充分洗ハザル時ハ組織中ニ昇汞ノ結晶ヲ殘留シ顯微鏡下ニテ飛ンダ間違ヲ生スルヿアルベシ若シ薄片中ニ殘留シヲルヲ發見シタル時ハようどあるこふるニテ能ク洗フヘシ

モ一ツヨキハHeidenhein氏ノ食鹽ト昇汞ノ混液トナリ之レハ0.5プロセントノ食鹽溶液ヲ温メ之レニ溶解スル丈ケノ昇汞ヲ加ヘタルモノニシテ冷却スル時ハ溶液中ニ再ヒ結晶ヲ生スベシ此ノ上水ノミヲ用ユルナリ此ノ液中ニ暫時浸シタル後極メテ薄キあるこふる即チ50%位ノあるこふるヨリ次第ニ高度ノあるこふるニ移シ遂ニ無水あるこふるニ移スベシ之レヨリ無水あるこふるトべるがもつと油ノ等分混液ニ移シ此液ヨリ純粋ノべるがもつと油ニ入レ次ニぱらふいんニ移スベシはらふいんハ始メべるがもつと油ト等分混液ヲ用ヒ次ニ攝氏四十度ノ溶解度ノパラフヒン終ニ五十八度ノモノヲ用ユベシ但シきえろーるハ決シテ用ユ可ラズ

玆テ昇汞ノ効能ヲ一寸申上クベシ、他ノ藥品ヲ用ユル時ハ多少組織ノ變色ヲ起スカ又ハ着色ヲ妨害スル等ノヿアリテ甚タ困ルヿ多ケレ𪜈昇汞ヲ用ユル時ハ決シテ此ノ如キヿナク固定シタルモノヽ色ハ常ニ白色ニ止リ又色素ヲ能ク吸收シ何レノ色素ニテモ自由ニ染ムルコトヲ得ベシ又昇汞ハ容易ニ組織中ニ侵入スルヲ以テ大ナルモノニテモ同時ニ能ク固定スルヿヲ得ベシくろむ酸ノ如キハ著シク着色ヲ害シをすみゆーむ酸ハ組織中ニ侵入スル力弱ク爲メニ大ナルモノニテハ不便少カラズ昇汞ハ總テ此等ノ點ヲ避ルヲ得テヲマケニ非常ニ廉價ナリ併シ多少組織ヲ脆クスルノ傾アレ𪜈貯藏法ノ如何ニヨリテ避クルヿヲ得ベシ故ニ組織ノ研究ニハ成ル

可クさぶりめーとヲ使ヒ慣ルヽヲ便トス始メノウチハ兎角シクジリ勝ナルモ慣ルヽニ從テ能キ結果ヲ得ルヲ以テ決シテ一二度ノ失策ニテ手引ク可ラズ

(d)くろむ酸鹽化白金液(動物學雜誌五十八號ヲ見ヨ)着色スルニハ次ノ種類ヲ用ユヘシ

(い)へまときーりん液、へやときーりん溶液ニハ種々アレドモ都合ヨキハDelafield溶液トBöhmer溶液ノ二種ナリ、染メタル後ぞいれあるこふるヲ以テ脱色シあんもにやあるこふるヲ以テ處理スヘシ

(ろ)かあみん溶液、此溶液ハぼらつくす、あるこふる、及ヒぴくりんかあみんノ三種ヲ用ユヘシ

(は)さふらにん、さふらにんハあにりん水さふらにんヲ可トス、あにりん水さふらにんハ濃厚ナルさふらにん溶液ニ同量ノあにりん水ヲ加ヘタルモノニシテ染メタル後無水アルコールニテ能ク洗フベシ然ルトキハ核ノミ着色シテ他ハ全ク脱色スヘシ故ニ非常ニ美麗ナルぶれぱらあとヲ作ルコトヲ得ヘシ之レハふれみんぐ溶液又ハくろむ酸ニテ固定シタルモノヲ染ムルニヨシ

(に)さふらにん、げんちやなふいをれつと及ヒをらんげノ三染法

(ほ)ふくしん、めちーゐぐりゆーん、ふくしんトめちーるぐゆーんノ水溶液ニシテ此ノ両色素ハ合シテ深紫色ヲ呈スルヲ度トシテ止メ之レニ小量ノ醋酸ヲ加フヘシ

(へ)ふくーん、ようどぐりゆーん、五十%ノあるこふるニ小量ノようどぐゆゝんヲ加ヘ之レニ五十%ノあるこふる中ニ溶解シタルふくーんヲ紫色ヲ呈スル迄加フヘシ之レハあるこふるニテ固定シタルモノヲ染ムルニ用ユヘシ

其他鍍液ヘまときーりん、をらんげ、るーびん、めちーるぐゆーんノ三染法等アレドモ今之レヲ略ス

ーゆにつてヲ作ルニハ成ルベクみくろとうむヲ應用スベシチヨンギリ流ニテハ細カキ仕事ヲ爲スニハ不便多シ尤モ非常ニ堅キ組織ニテみくろとうむめつせるニテハ切レザル如キモノニアリテハ是非ナケレ𪜈生長點デアルトカ又ハ生殖器ノ如キハ是非みくろとうむヲ用ヒラレタシ殊ニみくろとうむーゆにつてニテハ薄片ヲ連續セシムルヲ得ルヲ以テ研究上非常ニ便利ナルモノナリ、みくろとうむハSchanzeノModeleヲ用ユヘシ、小カハHenking形ヲ用ヒテ直角ニ切ルヲヨシトス斜メニ小刀ヲ用ユルハ場合ニヨリテ組織ヲ害スルヲ以テ余リ宜シカラズ

（以下次號）

◎雜錄

〇「バクテリア」ノ說　（承前）

K. D. 山人纂譯

第五章　人類ノ仇敵タル黴菌

余輩ハ前章ニ於テ既ニ一般普通ノ黴菌ハ獨リ之ヲ研究スルヿニ於テ快味ヲ覺ユルノミナラス又ソノ絶エス靜カニナセル事業ヨリ見ル時ハ地球上ニ於ケル高等ナル生物ノ生命ノ保持ニ關シ實ニ必要相離ルベカラザルモノタルコトヲ論ゼリサレド茲ニ不幸ナルハ高等ナル生物ノ生命ニ對シテ侵害ヲ加フルモノ或ハ無害ニシテ有用ナル千萬無數ノ黴菌中殊ニ人類或ハ高等ナル生物ノ体中ニ在リテ最能ク生長發育スルモノアルコト是レナリ

是等ノ黴菌ハ他ノ黴菌ノ如ク自然外界ニ在リテ發育シ若クハ壞頽腐敗セル普通ノ有機物ニヨリテ其生命ヲ保ツコトヲモ得ザルナリ其形狀ハ普通ノ黴菌ノ如ク球狀棍狀螺旋狀等ヲナセルモノニシテ矢張相觸ル丶物質ヲ

消費シテ其發育ヲ遂ゲ叉其生活ヲ持續スル中ニ化合物ヲ生ズルコトハ他ノ黴菌ニ於ケルガ如シ而シテ若シ人類ノ体中ニ入ル時ハ種々ノ黴菌ハ各相異レル方法ヲ以テ生育シ叉種々ノ化合物ヲ生ズルモノニシテ其成育繁殖ニ因リ若シクハ其生スル化合物ニヨリテ病ヲ引起スモノナリ

黴菌ノ人体中ニ發育シテ有害ナル結果ヲ生ズルモノヲ稱シテ病原的黴菌トイヒ其發育スルニ當リテ發出スル有毒ナル化合物ヲ稱シテフトマイントヽイフ

今茲ニ黴菌ニヨリテ醸成セラル丶疾病ハ如何ナルモノナルヤヲ知ラントスル前ニ當リテ吾人ハ先ツ病ナルモノハ抑如何ナルモノナルヤヲ知ランコトヲ要スル既ニ第一章ニ於テ人体ハ細胞ヨリ成レル多クノ結合体ヨリ組織セラレ而シテ其各結合体ハ人体一般ヲシテ健康ナラシムルガ爲メ各特殊ノ事業ヲナスノ能力ヲ有シ且是等ノ結合体ハ互ニ共同一致シテ圓滑ノ運動ヲナスモノナルコト及ビ是等細胞ノ結合体ハカクノ如ク驚クベキ器械ヲ組成スレドモ盡ク單一ノ生物即チ卵ヨリ出テタルモノナルコトヲ説ケリ

抑モ卵トイフ至微至小ナル一個ノ元細胞ニ生命アルコト勿論ニシテ叉其源ヲ此ノ卵ヨリ發シテ身體ヲ組成セル千萬無量ノ細胞ニモ生命アリサレハ生命トイフコトハ實ニ不可思議ナルモノニシテ吾人ハ容易ニ其何タルヲ知ルコト能ハサルナリ試ニ二個ノ細胞ヲ顯微鏡ニテ見ル時ハ其狀正ニ相同シクソノ間ニ少シモ異レル點アルナシ然ルニ一ノ細胞ハ發達シテ人類トナリ他ハ動物トナル吾人ハ何ニ因リテ豫メ此二者ヲ區別スルヤ亦容易ニ知ルコト能ハサルナリ吾人ハ理論ヲナシ實驗ヲナシ比較ヲナシ名稱ヲ付スル等ノ二トヲナセドモ是レ等ノ解説ニ至リテハ瞹乎トシテ尙ホイマタ知リ得ベキモノサヘナケレバ暫ク文化ノ進歩ヲ待チテ後始メテ知リ得ソノミサレド身体トイフ細胞器械ガ自新陳代謝ノ作用ヲ有スルモノナルコトハ已ニ既ニ知ルコトヲ得タリ

而シテ此作用タル一タビソノ動作ヲ初メタルニ於テハ或ル時期間絕エズ其力ニ適應スル種々ノ事柄ヲ爲スモノナリ但シ其力ヲ保ツニハ必要ナル外界ノ狀況ヲ欠カザランコトヲ要ス然レトモ遲カレ早カレ此器械ノ一部分若クハ各部分ニ變動破損ヲ生ジ尋テ或ハ緩慢ニ或ハ急激ニ活動ノ結合即チ所謂生命ナルモノヲ失フニ至ル是レ即チ死ニシテ全ク病ニ因リテ起リシモノニアラズソノ活力消滅シタルカ故ナリサレハ身体ノ器械一タビ使ヒ果タサレテ其用ヲナサヽルニ至リテハ如何ニ食物ト空氣トヲ以テスルモ最早新陳代謝ノ活力ヲ發生スル能ハサルモノトス是レ古ヨリ今日ニ至ルマデ避クベカラサル所謂死トイフモノ是レナリサレド自然ノ死トイヘルハ起ルコト割合ニ少キモノナリ」

若シ食物空氣及ヒ外界ノ事物ニシテ宜シキニ適シ且其最初ノ位置ヲ變ゼザランニハ肺臟腦腎臟肝臟ナトイヘル種々ノ細胞ノ結合ハ皆ソレソレノ職分ヲ盡スノ力ヲ有スルノミナラズ尙且有害物ヲモ壓倒シ若クハ之ニ抵抗スル能力ヲモ有スルモノナリ之ヲ名ケテ健康力トイフ而シテ筋肉ノ細胞ニ在リテハ一時食物ノ供給不足スルアルモ決シテ收縮スルノ力ヲ失ハザルナリ血球（ブラツトセル）ハ事ニ或分量ノ酸素ヲ身体ノ組織中ニ輸送シ彼ノ肺臟ヲ通シテ入リ來レル空氣ノ不潔ト多量トニハ更ニ關係セズ叉或ル細胞若クハ其ノ集合體ヲ混合シテ强テ働カシメントスルモ決シテ之ニ從フコトナク其自身ノ力ニテ爲シ得ン限ハ大ナル困難妨害ヲ排シテナリトモ直ニ其固有ノ狀態ニ復シテ以テ其固有ノ動作ヲナスモノナリ

若シ多數ノ細胞或ハ細胞ノ集合体ニシテ損傷等ニヨリテ組織中ヨリ排除セラルヽ時ハ殘レル細胞ニ於テ之ヲ補足スルノミガ其職分モ亦是等ノ細胞カ提掌セシ所ト敢テ少差ナク且ツ永久ニ陟リテ毫モ變スルコトアルナシ是ニ由リテ觀ルモ彼ノ所謂世ノ愛國心ヤ人体ノ精神ナルモノマタ既ニ身体ヲ組織スル細胞ノ理ニ於テ明カ

ニ其形ヲ成スモノナルヤ知ルベシ

モシ要用ナル細胞ノ結合ニシテ甚シク毀傷セラルヽカ若クハ其構造ニ變異ヲ來タシ其爲サヾルベカラザル仕事ヲ爲スコト能ハサル時或ハ其動作ヲ誤ルカ若シクハ体中ニ於ケル他ノ紛糾ニヨリテ一致合同ノ動作ヲ欠ク時ハ是レ即チ身体作用ノ定數ヲ誤リタルモノニシテ逐ニ疾病ヲ釀成スルニ至ル而シテ疾病ノ起ルヘキ部分ニ種々ノ差違アリテ常ニ一定セザル所以ハ則チ身体ヲ組成セル機關組織ノ種々ノ差違アルニ因ルモノナリ

○花粉粒ノ細胞核ヲ染色スル法

○花粉粒ノ細胞核ヲ染ムル爲メニA. Meyer氏ハChloralcarmineト稱スル藥品ヲ製セリ其製法ハカルミン〇、五グラム無水アルコール二十ccm硝酸三十滴ヲ加ヘ三十分間湯煎ニテ温メ「抱水コロラール」二十五グラムヲ加ヘ其冷却スルヲ待チテ濾過スベシ此液ハ花粉粒ノ細胞核ヲ十分間ニテ非常ニ紅色ニ染ムルヿヲ得ベシ又本液ハ「ジラチン」中ニ發生セシメタル花粉管中ノ核ニモ染色スルヲ得

藤ノ莖

○C.C.Curtis氏ハ藤ノ老莖ヲ調ベンニ通常十二年若クハ以上ヲ經過セシモノニハ初生靱皮（バスト）ノ外廓ニ新ニ「カンビーム」層ヲ生シ而シテ舊「カンビーム」ハ枯死ス此新「カンビーム」ハ恐ラクハ八年間繼續スルモノナラン而シテ其枯死スルニ當リテ亦次生ノ靱皮外ニ新「カンビーム」ヲ起生ス如此藤ノ生活ヲ有スルカギリハ靱皮ヲ生シ「カンビーム」ヲ生ズルモノナルヲ發見セラレタリ氏ハ二十五年ヲ經タル藤莖ニハ四層又ハ以上ノ靱皮層ヲ有ストイヘリ

導管ノ長サ

○エー、アドレル氏ノ説ニ依レバ導管ノ最長ナルハ Aristochia Sipho ニシテ二、二十六メートルアリ次ハはりえんじゅニシテ〇、六十九メートルアリ最短ハ Areca lutescens ノ葉柄ニシテ其長サ三、二C.m.ナリト

以上三件大、三、報

○きばなみそはぎノ學名

近來東京其他ノ庭園ニ培養セルきばなみそはぎナル者ハ學名未ダ判然セザリシガ此頃花實完備セル標本ヲ得テ(Engler（エングレル） Botanische（ボタニツシエ） Jahrbücher（ヤールブツヘル）)中 Kœhne（キヨーネ） 氏ノ千屈菜科モノグラフニ據リ調ベシニ全ク Heimia myrtifolia, Cham. et Schlecht. ナルコトヲ知レリ而シテ其生産地ハ南米ブラジル南方ナリト云フ

在札幌農學校　德淵永治郎報

○東京近郊新採集地

東京近郊採集地。是迄近郊ノ採集ト云ヘバ道灌山、戸田原大箕谷或ハ井之頭等ノ數ケ所ニ限ル樣ナリシニ頃日松田渡邊両氏ト共ニ府下東多摩郡ナル三寶寺池ニ採集セシニ全地ハ意外ノ良地ナリキ故ニ今其ノ概況ヲ記シ以テ同好ノ諸氏ニ報セントス

三寶寺池ハ東多摩郡石神井村ニアリ石神井ノ水源ナリ池ノ周圍ハ樹木鬱茂シ頗ル採集ニ適ス中央ニ小島アリ辨天ノ祠ヲ安置シ一見井之頭ノ如シ、此ノ近傍ニ一寺アリ三寶寺ト云フ同寺ハ維新前一大古刹ナリシガ近年火災ノタメ全ク灰燼ニ歸セリ今回ハ期節少シク遲カリシヲ以テ充分ノ採集ヲナス能ハザリシ然レトモ尚サハギヨウ、ミヅオトギリ、ドクゼリ(?)ヒメナミキ、シロイヌノヒゲ等近郊ニ見ル能ハザル者鮮トセズ故ニ他日ヲ期シテ山林ニ池濕ニ偏ク採集セバ得ル所又多カランニ此地ニ至ルニ三路アリ一ハ板橋ヨリシ一ハ雜司谷ヨリ

シ一ハ新宿ヨリス（里程各三里）然レトモ雜司谷ヨリ行クヲ便トス又二三丁迂廻シテ新高野山ヲ過リテ採集スルモ可ナリ唯飲食店ナケレバ必ズ行厨ヲ携フヘシ

○つきみくさノ開花

ツキミグサ開花　此花ノ全ク開綻スルハ大抵午後六時ヨリ七時頃ニシテ初メ午後三時頃蕾ミ次第ニ膨脹シ遂ニ萼片ノ上部破レテ少シク瓣片ヲ見ルニ至ル之ヨリ瓣片次第ニ膨大シ九分ノ後遂ニ半開ス又十乃至十五秒ヲ經テ萼ノ一半ハ下垂シ同時ニ此側ニアル一瓣水平トナリ他ノ三瓣モ次第ニ此ノ位置ニ進ミ十分ノ後遂ニ瓣ハ全ク開綻シ萼ノ一部モ共ニ垂下ス

以上二件　松平齋報

○さといもノ開花

本年九月中旬ヨリ當縣三重郡鹽濱村某農家ノ芋園中或一株ニ開花セシモノニテ方言「さといも」トテ其根塊ヲ食スルモノナリ此株ハ就中肥大セルモノニテ殆ント天南星花ノ如シ花蓖ハ黄色ニシテ一種ノ香氣ヲ有シ其下部分ハ青色トナリ生長スルニ從ヒ花篦一方ニ傾キ中ニ花軸アリテ黄色ノ肉穗花ヲ着ケ其花緣ニ白キ毛糸アリ之レ必ス雄蕊ナラン無限上昇花ニシテ已ニ開綻スレバ子室ハ青色ニシテ龜甲狀ノ簇生シ上昇スルニ從ヒ漸々細小トナリ終ニ子室トナラズシテ枯死スルノ觀アリ

此ノ芋ハ當地ニテ今年初メテ開花セシモノニテ五六十年來專ラ芋ヲ作リテ業トセル農夫等モ之レカ開花ヲ見ルハ初メテナリト云ヘリ記シテ以テ識者ノ參考ニ供ス

伊勢河曲　中堀　謙

編輯上ノ都合ニヨリテ圖ヲ省ク

○農科大學ニ植物家來ル

農科大學農藝化學教授ノ囑托ヲ受ケ去々月來朝シタル「ドクトル」オスカール、レーエー氏（Dr. Oscar Löw）ハ從來獨乙國バイエルン國ミユンヘン大學ノ私講師タリシ人ナリ氏ハ植物生理學、化學ヲ專門トシ且「バクテリア」學醱酵化學ニ精通ス氏ハ夫ノ有名ナル生活細胞內「プロテオゾーメン」ノ發見者ニシテ聞ク所ニ因レバ學ヲカルヽ、ネーゲリー氏ニ修メタリト云フ氏ガ研究事項ハ主トシテ化學的植物生理學ニ關スル其數タル極テ夥シ茲ニ枚擧スルニ暇アラズト雖モ今其主ナルモノヽ題目ヲ左ニ揭記ス

生活原形質ト死亡原形質トノ化學的差別

可溶性醱酵素ノ化學的性狀

生活原形質ハ死亡原形質ト其化學的構造ヲ異ニスルノ證第二

砒石化合物ハ植物原形質ニ有毒ナルヤ否ヤ

「アチクーフ」蛋白質ニ就キ

原形質內杭抵ノ多少ニ就キ

以上 Pflüger's Archiv der Physiologie ニ出ス

蟻酸「アルデヒード」ヨリ糖類ヲ造成スル說

蟻酸「アルデヒード」ガ植物類化ノ第一生產物タルヿニ就キ

以上 Berichte der deutschen chemischen Gesellschaft ニ出ス

蟻酸「アルデヒード」ヨリ糖類ヲ人工的ニ造成スルヿニ就キ

藻類ノ化學的及ビ生理學的研究

以上 Journal der practischen Chemie ニ出ス

生活原形質ノ化學的性狀

原形質ニ就キ第二

「フオルモーゼ」ノ生理學的關係

植物細胞內「アニチーフ」蛋白質ノ現存

以上 Botanische Zeitung ニ出ス

植物細胞ニ對スル稀薄亞爾加里性銀溶液ノ作用ニ就キ

蟻酸「アルデヒード」ノ化合物ガ植物ノ食物タルヿ

葉綠素造成ニ對スル燐酸鹽類ノ影響ニ就キ

以上 Botanisches Centralblatt ニ出ス

植物ニ於テ加里鹽類ハ「リビヂユーム」鹽類ニテ代用スルヿヲ得ルヤ

石灰及ビ「マグチシア」鹽類ノ生理學的作用ニ就キ

以上 Landwirthschaftliche Versuchsstationen ニ出ス

蟻酸「アルデヒード」ノ生理的作用

植物体內蛋白質ノ分解ニ就キ

以上 Berichte der physiologischen Gesellschaft in München ニ出ス

化學的運動ト生活力

下等菌類ノ窒素食物ニ對スル行爲

「アニチーフ」蛋白質ノ實驗

燐酸ノ生理的官能ニ就キ

以上 Biologisches Centralblatt ニ出ス

釀母菌ノ化學的造搆

下等菌類ノ榮養ニ就キ

菌類ニ於ケル脂肪ノ造成ニ就キ

醱酵ノ理論

以上カルヽ、ネーゲリー氏トノ協力ニ係リ Sitzungsberichte der kgl. Bayerischen Akademie der Wissenschaften ニ出ス

毒物作用ノ自然分類法

是ハ一册子ヲ爲ス

右　池野成一郎報

○顯花植物分科撿索篇

右ハ本誌第六十九號（昨年十一月）ヨリ第八十號（去月）迄附錄トシテ連載シタル池野成一郎氏譯顯花植物分科撿索表ヲ別刷ニナシ別ニ和洋科名ノ便利ナル見出シ表ヲ加ヘ一册トナシタルモノニテ今回東京植物學會ヨリ出版スル由委細ハ廣告ヲ見ルベシ

○東京植物學會々員猪子吉人氏逝ク

明治二十六年九月二日嗟乎吾人ノ記臆[illegible]ヘキ[illegible]日ナリ嗟乎殊ニ吾人身ヲ學術ノ討究ニ委ルモノ永刧遺忘スヘカサル哀悼ノ紀念日ナリ嗟乎此日ハ文部省[illegible]留學生醫科大學敎授醫學博士猪子吉人君ヲシテ永眠ニ就カシメタル大凶日ナリ君ノ逝クヤ現世ニ如[illegible]型ヲ遺セシソ君ハ孝ナリキ而シテ信ナリキ實ニ正義ヲ愛スルノ君子ナリキ兼テ勉勵堅忍有ユル美徳[illegible]フテ光彩アラシメ昨秋官君ニ命シテ獨逸ヘ留學ニ赴カシムルヤ師ハ言ヘリ而シテ友亦之ニ和セリ曰ク天下ノ異材今ヨリ異郷ニ培ハルト一年ハ端ナク過サレ訃音ハ痛ク吾人ノ耳朶ヲ打チヌ錦胸慕フヘク英才畏ルヘキ偉大ノ青年ハ惡魔ノ襲フ所トナレリ實ニ膓窒扶斯ハ彼ヲ幽冥ニ導キヌ春秋僅ニ二十又八吾人深ク人生ノ無常ヲ感シ長ク悲歎ニ堪ヘサルモノ實ニ偶然ニアラサルナリ殊ニ君ハ愛スヘキ敬スヘキ會員トシテ屢高說ヲ寄セ本會事業ヲ翼賛セラル其効鮮少ナラス吾人永ク感謝スル所香蘭凋シ易ク狂風屢ミ秀樹ヲ妬ム吾人茲ニ再ヒ天道ノ是非ヲ疑ハサルヲ得サルナリ嗟乎

◎東京植物學會錄事

十月二十八日午後第二時ヨリ帝國理科大學植物學敎室ニ於テ例會ヲ開ク出席員十四名仝四時散會當日講演者ハ藤井健次郎君ト澤田駒次郎君、澤田君ハ小林龜松君差支アリテ出席セラレサリシヲ以テ氏ニ代リ其席ヲ充サレタリ

第一席藤井君ハ公孫樹ノ其枝ヲ北方ニ傾斜スル原因ニ就キ細論セラレ、尋テ植物細胞ノ生長法テフ演題ニテネゲリー氏ノ唱フル「インターサスセプシヨン」、ストラスブルゲル氏ノ主張セル「アッポヂシオン」ノ學說及

ビウヰズナー氏ノ新說ニ就キ談話セラレタリ次ニ澤田君ハ植物性ノ顏料ナル藤黃ト雌黃トノ別、成分、効用、化學的性質及ビ之ヲ採集スル方法幷ニ護謨ト樹脂トノ化學的ノ區別ニ就キテ演說セラレタリ

◎寄贈書目

東洋學藝雜誌	第百四十五册	一册	東洋學藝社	（東京）
地學雜誌	第五集第五十八卷	一册	東京地學協會	（東京）
動物學雜誌	第五卷第六十號	一册	動物學會	（東京）
東京人類學會雜誌	第九十一號	一册	東京人類學會	（東京）
地質學雜誌	第一號		東京地質學會	（東京）
牧畜雜誌	自第百十四號至第百十五號	二册	牧畜雜誌社	（東京）
北海道水產雜誌	第四號	一册	北水協會	（北海道）
日本蠶業雜誌	第六拾五號	一册	日本蠶業雜誌社	（東京）
東京醫學會雜誌	自第七卷第十九號至第七卷第二十號	二册	東京醫學會	（東京）
大日本山林會報告	第百三十號	一册	大日本山林會	（東京）
釀造雜誌	自第百二十六號至第百二十八號	三册	釀造雜誌社	（東京）
國家醫學會雜誌	第七十八號		國家醫學會	（東京）
（山上萬次郎濱田俊三郎）合編新撰日本地理	全一册		濱田俊三郎君	

Bulletin of Miscellaneous Information. No 80 — 81.

Boletim da Sociedade Broteriana. X

地學雜誌

第五集
第五十八卷

◉定價一册金拾錢郵稅一錢●六册前金郵稅共五拾四錢

◎論說
●本邦硫化鑛層應用概見　理學士　中島謙造
●手取川水源地方ニ於ケル中生紀層地ノ土產　農學士　三成文一郎
◎雜錄
●博覽會報告拔萃　晴山生
●土佐四大地震記補遺　寺石正路
●福岡圖幅地ノ地貌ト水理　すゝき生
●東亞露領石炭（續き）　O. S. 生
●海洋鹽味說　T. B. 生
●炭酸瓦斯中及び水素瓦斯中ニ於テ植物ノ培養　K. K. 生
◎雜錄
●地學協會ノ演說●三浦西山兩氏ノ名義ヲ騙ル●郡司大尉ノ消息●前代未聞の大雨量●世界最深の試掘孔●鑽井の爲に害を被る●物の速力●昨年中に於るスエス溝渠の交通●下野國宇都宮町四近の石材●栃木縣下の道しるべ●モーリチウス島の颶風●間歇熱泉の噴出と氣壓の關係●世界最高山の名稱に就て●金剛石の性質●奇妙の幻影●地方通信
◎質疑一件　◎應問
●寒武利系前ノ地層ノ分類ニ就テ　理科大學　小川琢次

發行所　東京京橋區西紺屋町十九番地　東京地學協會

一本誌廣告料五號文字　一行（二十五字詰）一回金五錢三回以上割引仕候

○本誌每月一回發兌一册金拾二錢○六册前金七十二錢
○拾二册前金壹圓四拾四錢○會員ニ限リ壹册拾錢

○配達概則

第一條　代價收受セザル內ハ縱令御注文アルモ遞送セス○第二條　前金ノ盡ル時ハ改テ御請求仕ル故次號發兌迄ニ御送金ナキ方ハ御送附相成マテ雜誌ヲ郵送セス○第三條　郵便切手ヲ以テ代價ト換用ハ謝絕ス○第四條　特ニ一册限御入用ノ向ハ一錢切手十二枚御送致ナレハ御屆可申候

明治廿六年十一月九日印刷
明治廿六年十一月十日發行

版權所有

編輯兼發行者　東京府平民　井上蘇吉　東京市神田區錦町三丁目一番地
印刷者　熊田宜遜　東京市神田區錦町三丁目廿五番地
印刷所　熊田活版所　東京市神田區錦町三丁目廿五番地
發行所　植物學雜誌編輯所　東京市神田區裏神保町一番地
賣捌所　敬業社　同所
同　丸善書店　東京日本橋區通三丁目

[illegible]

THE
BOTANICAL MAGAZINE.

明治廿一年二月三日内務省許可

Vol. 7.] November 10, 1893. [No. 81.

CONTENTS.

Tetraspores of Desmia. **By K. Okamura.** 321

Notes on Japanese Plants, XX. **By. T. Makino.** 322

Japanese Elæagnaceæ. **By K. Saida.** 325

Cause of Northward Inclination of the Branches of Ginkgo biloba, L. **By K. Fujii.** 326

Scientific and Common Names of Plants. **By Prof. J. Matsumura.** . . . 330

Plants Employed in Medicine in the Japanese Pharmacopæia. **By K. Sawada.** 341

Plants from Mt. Azuma. **By D. Awano.** 345

Plants of Yaeyama and adjacent Islands. **By Y. Tashiro.** 346

Notes on Vegetable Anatomy. **By K. Toyama.** 351

Miscellaneous:—. 356

Bacteria.—Staining of the Nucleus of Pollen-grains.—Stem of Wistaria chinensis.—Length of Vessels.—Scientific Name of "Kiba-namisohagi."—New Botanizing Locality in the Vicinity of Tōkyō.—Oenothera tetraptera, Willd.—Colocasia antiquorum.—Dr. Oscar Löw.—New Literature—Mr. Inoko.—Proceedings of the Tōkyō Botanical Society.

All letters and communications to be addressed to the

TŌKYŌ BOTANICAL MAGAZINE.

No. 1. Urajimbōchō, Kanda, Tōkyō, Japan.

第七卷　第八十二號
明治二十六年十二月十日

植物學雜誌

目錄

葉面ハ水分ヲ吸收スルヤ否ヤヲ論ス　池野成一郎（二六七丁）
琉球ノ海藻ニ就テ　第四高等中學校教授理學士　岡村金太郎（二六九丁）
日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）　醫科大學　澤田駒次郎（二七七丁）
八重山列島各屬島ノ植物（續キ第二）　田代安定（二八〇丁）
日本羊齒彙類　理科大學教授理學博士　松村任三（二八七丁）
本邦產山茶屬植物ニ就キテ　高等師範學校教授理學博士　齋田功太郎（二八九丁）
植物分類餘錄　理學博士　松村任三（二九一丁）
九州採集土產　農科大學助教授理學士　白井光太郎（二九四丁）
◎雜錄　（四〇一丁）
○枯草ノ發火スルヿ○茄屬ノ花ト六脚蟲○波波迦ノ說○バクテリアノ說
○茶○獨逸植物學會總會ノ略況
◎東京植物學會錄事　（四〇八丁）
◎寄贈書目　（四〇八丁）

植物學雜誌編輯所

●第八十號目錄

日本植物報知（第十九）（ムジナモ イハツクバネウツギ） 理科大學 牧野富太郎 （二五五）
日本藥局方植物篇（前號ノ續キ） 醫科大學 澤田駒次郎 （二八七）
植物分類餘錄（承前） 理學博士 松村任三 （二九一）
松ノみどりノ運動ニ就テ 理學士 藤井健次郎 （二九五）
日光山植物雜記（第七十七號ノ續キ） 理科大學 安井伴市 （二九七）
靜岡縣產植物錄（第七十號ノ續キ） 小笠原利孝 （三〇〇）
◎雜錄
○「バクテリア」ノ說○絲條書屋植物雜記○附子○東京植物學會○寄贈交換書目
◎附錄
○顯花植物分科檢索表 池野成一郎 （八五）

●第八十一號目錄

Tetraspores of Desmia. 第四高等中學校教授理學士 岡村金太郎 （三二一）
Notes on Japanese Plants, XX. 理科大學 牧野富太郎 （三二二）
本邦產胡頹子科植物ニ就キテ 高等師範學校教授理學博士 齋田功太郎 （三二五）
公孫樹ノ枝ノ北向ニ就テ（第七十五號ノ續き） 理學士 藤井健次郎 （三二六）
植物分類餘錄（承前） 理科大學教授理學博士 松村任三 （三三〇）
日本藥局方植物篇（前號ノ續キ） 醫科大學 澤田駒次郎 （三四一）
吾妻山ノ植物 粟野傳之丞 （三四五）
八重山列島各屬島ノ植物 田代安定 （三四六）
植物解剖雜記（一） 外山龜太郎 （三五一）
◎雜錄
○「バクテリア」ノ說○花粉粒ノ細胞核ヲ染色スル法○藤ノ莖○導管ノ長サ○きばなみそばぎノ學名○東京近郊新採集地○つきみぐさノ開花○さといもノ開花○農科大學ニ植物家來ル○顯花植物分科檢索篇○猪子吉人氏逝ク
◎東京植物學會錄事○寄贈書目

植物學雜誌第七卷第八十二號

（明治二十六年十二月十日）

葉面ハ水分ヲ吸收スルヤ否ヤヲ論ズ

池野成一郎

葉面ガ根ト同樣水分ヲ吸收スルノ力アルヤ否ヤ是レ植物生理學ノ一大問題タリ根ハ土壤中ヨリ若クハ水中ヨリ水分ヲ吸收シテ以テ植物ノ枯槁スルヲ豫防ス葉面ニモ果シテ斯クノ如キ力アルヤ否ヤ是レ古來植物家ノ鞠究盡力シ以テ研究シタル所ナリ而シテ其研究ノ法タル千種萬樣、實ニ奇トスルニ堪ヘタリ今左ニ諸學者ノ研究方法一斑ヲ記シ最後ニ今日學術ノ有樣ニ徵スレバ此問題如何ニ決定セルヤヲ論究シ以テ讀者ノ一讀ヲ煩ハサントス

此問題ヲ處決スル爲メ學者ノ用ヒタル方法多シト雖モ其最モ初メニ使用セラレタルモノハ根ヲ除クノ外植物全体ヲ水中ニ沈メテ以テ其水中ニ沈メタル部分ガ水分ヲ吸收スルヤ否ヤヲ研究スルニアリ是甚ダ不精密ナル法ト謂フベシ何トナレバ假令水分ガ吸收セラルヽヿアルモ是果シテ葉面ヨリ吸收セラレタルヤ將タ葉柄節間等葉面ナラザル部ヨリ吸收セラレタルヤ更ニ之ヲ知悉スル能ハザレバナリ此法ニ因テ以テ研究シタル學者多シト雖モ今茲ニハ單ニバイヨン氏ガ千八百七十四年ニ於ケル研究ヲ記スベシバイヨン氏（Baillon佛人）ハ植木鉢ニ培養セル苗木ガ少ク長ズルニ及デ其植木鉢ヲ橫倒シタリ故ニ苗木ノ莖ハ陰性向地性ノ理ニ因リ直角ニ屈曲シテ以テ上部ニ向フベシ然ル後時ヲ計テ鉢ヲ轉倒スレバ莖ハ再ビ直角ニ屈曲シテ上部即鉢ノ方ニ向フベシ既ニ斯クノ如クナルニ至レバ莖葉部ノミヲ水中ニ沈ムルヿ甚ダ容易ナリバイヨン氏ハ此試驗ヲエンドウ及

ビインゲンノ二種ニ行ヒタリ其法ハ植木鉢ノ土壤ニ水分ヲ與ヘズシテ之ヲ乾燥セシメ地上器官ノ凋萎スルニ及デ之ヲ水中ニ沈メ或ハ之ニ度々水ヲ注ギ或ハ之ヲ濕リタル布ニテ包圍セシニ土壤ハ其固キヿ石ノ如クシテ根ハ全ク枯死シタルニモ拘ラズ植物ハ緊張シ數週間依然新鮮ナル狀ヲ呈セリ

葉面ハ水分ヲ吸收スルヤ否ヤヲ論ズ

バイヨン氏ハ別ニ左ノ如キ試驗ヲ施シテ以テ此問題ヲ研究セリシダレヤナギノ垂下セル枝（十四個ノ葉ヲ有シタリ）ヲ其本幹ヨリ切リ放サズシテ其枝ノミヲ水ヲ盛レルガラス器內ニ挿入シ其ガラス器ヲ密閉シタリ二十一日ヲ經テ之ヲ試ムルニ器內ノ水七十一「グラム」ヲ減ジタリ蓋水分ノ減少ハ其一部タル普通ノ蒸發ニ歸スベシト雖トモ其大部ハ葉面ノ吸收ニ歸スルヤ明カナリ

ベーム氏（Böhm獨乙人）ハ二個ノ枝條ヲ有スルヤナギヲ取リ甲ノ枝條ハ其上端ヲ水中ニ沈メ乙ハ之ヲ水中ニ沈ムルコト無ク唯空氣中ニ置キタリシニ甲乙ノ枝條共ニ數週間枯槁スルコトナク依然新鮮ノ狀ヲ呈セリ而シテ此試驗ニ於テ水中ニ沈メル枝條ノ枯槁セザルハ其水分ヲ表面ヨリ吸收スルニ因リ、空氣中ニアル枝條ノ枯槁セザルハ、水中ノ枝條ニ吸收セラレタル水分、莖ヲ經テ以テ空氣中ノ枝條ニ運輸セラル丶ニ因ルナリ

ブルゲルスタイン氏（Burgerstein澳人）ハ之ニ類似セル試驗ヲ爲シ少シク相異レル成果ヲ得タリ氏ハBuxus-sempervirensノ三個ノ枝條ヲ有スルモノヲ取リ其中央ナル枝條ヲ水中ニ沈メ他ノ側部ナル二枝條ハ水中ニ沈メズ十四日ヲ經テ之ヲ視ルニ水中ニ沈メルモノハ依然新鮮タリト雖モ他ノ水中ニ沈マザル二枝條ハ三日ニシテ既ニ殆ンド全ク枯死スルニ至レリ是試驗タルベーム氏ノ試驗ト其成果稍々異リト雖モ植物ノ表面ハ水分ヲ吸收スルノ力アルヲ證スルニ於テハ同一ナリ

デュアーメル氏（Duhamel佛人）ハ樹木ノ枝ヲ伐採シ其切リ口ヲ蠟ニテ封シ以テ其レヨリ水分ノ蒸發スルヲ防

ギ其凋萎シタルモノヲ濕リタル布ニテ包圍シタリ然ルニ葉ハ緊張シ枝ハ試驗前ニ比スレバ大ニ其重量ヲ増加シタリ

ヰーズ子ル氏(Wiesner 澳人)ガ千八百八十三年ニ世ニ公ニシタル試驗ハ實ニ珍奇トスルニ堪ヘタリ氏ハブダウ、Ampelopsis hederacea, Rubus fruticosus (イチゴノ類) Lycium barbarum(クコノ類)等ノ新ニ伐採セル枝ヲ取リ其軟弱ナル頂點ヲ水中ニ沈メ其老成セル葉ヲ有スル莖ノ下部ハ水中ニ沈メズ空氣中ニアラシメタルニ奇ナル哉空氣中ニ在ルモノハ依然其狀ヲ變ゼズシテ其水中ニ沈メル部分ハ凋萎シタリ然レ𪜈此莖ノ全部ヲ沈ムレバ斯クノ如キヿナク全部依然トシテ新鮮ノ狀ヲ呈セリ是現象タル甚ダ奇ナルニ似タレ𪜈能ク其理ヲ推究スレバ毫モ怪ムニ足ラズ盖空氣中ニアル部分ハ蒸散作用ヲ行フテ止マズ而〆此作用ヲ行フ爲メノ水ハ他ナシ唯水中ニ沈メル部分ヨリ得ル而已今此試驗ニ於テハ空氣中ノ部分其蒸散甚ダ劇甚ニシテ水ヲ求ムルニ急ナリ故ニ水中ノ部分ハ其吸收スル所ノ水ヲ空氣中ノ部分ニ送リ其送致甚ダ劇シク自ラ水分ヲ貯蓄スルノ暇ナク以テ自ラ凋萎スルニ至リシナリ而〆今空氣中ノ部分ヲ除去シ若クハ全ク乾燥セシメ或ハ蒸散作用ヲ遮止シタルニ水中ノ部分ハ再ビ其緊張ヲ復シタリ是レ即水中ノ部分水分ヲ吸收シタルノ明證ナリ　（以下次號）

琉球産ノ海藻ニ就テ

岡村金太郎

On the Algae from Loo-Choo.

此頃琉球首里尋常中學校敎諭黒岩恒氏ヨリ八重山列島中石垣島ノ産ニ係ル海藻十餘種ヲ送ラレタリ因テ之ヲ

撿セシニ概ヲ珍奇ノ種ニシテ余輩ノ未ダ嘗テ知ラザルモノヽミナリ琉球ノ地元ト遠隔セルヲ以テ動植物學者ノ玆ニ採集ヲ企ツルモノ尠ナク又常ニ此地ニ住居シテ親シク其ふあうな、ふろらヲ調査セルモノナシ今ヤ幸ニ此學ニ熱心ナル黒岩氏ノアルアリ氏ハ屢々有益ナル動物學上ノ報告ヲ動物學雜誌ニ寄セラル余此頃氏ニ依頼スルニ海藻ヲ採集送附センヿヲ以テシタルニ氏ハ快ク余ノ請ヲ容レ第一回通信トシテ此數種ヲ送ラレ尚ホ以後共多々益々送ランヿヲ申越サレタリ氏ノ好意謝スルニ餘アリ向後余ハ標品ヲ得ルニ從テ之ヲ撿查シ以テ紙上ニ報ジ此熱帶地ノ海藻ノ景況ヲ世ノ同學者ニ紹介セントス惟余ノ學淺薄ニシテ加フルニ參考ノ書ニ乏シキヲ以テ充分ニ調查スル能ハザルヿヲ恐ルヽノミ

琉球ノふろらニ就テハ先年田代安定氏親シク此地ヲ踏査シ數多ノ珍奇ナル植物ヲ採集シ之ヲ本誌上ニ報ゼラルヽヲ以テ其ヲ窺フニ足ルモノアリ然レ𪜈海產植物ニ至リテハ余輩ノ智識實ニ寥々タリ先年波江元吉氏ガ琉球ヨリ得タル Acetabularia mediterranea Lmx. ヲ松田定久氏ノ藏スルモノヲ借覽シタルトまくりヲ得タルトヨリ外未ダ此地ノ產物ヲ知ラズ我大學ト雖モ未ダ此地ノ海藻ヲ藏スルヤ多カラザルベシ今回得ル所ノモノ其數僅少ナリト雖モ亦以テ海產植物ノ一般ヲ知ルニ足ルモノアルヲ以テ左ニ之ヲ錄シテ以テ同好ノ士ニ報ズ（左ニ揭グル番號ハ氏ノ附記シテ送ラレタルモノナリ）

綠藻類

1. Halicoryne Wrightii Harv.

Frond attains the height of 6-7cm. Aplanospores contained in one sporangia are 23—36 in number. Each spore is spherical, covered with two membranes; the outer thin and structureless; the inner thick and radially striated in optical section. Spores measure 207 μ in diam. and the inner membrane is 22 μ thick. On the application of iodine of potassium iodide, the outer membrane takes slightly purplish color, while the inner blood-reddish color with plightly purplish tinge. The pedicel of ramuli bulges out at one of the upper corner.

体ハ輕ク石灰質ヲ以テ蔽ハレ、棍棒狀、單條ニシテ、空虛、圓柱狀ノ細軸（〇、五－〇、七「ミ、メ」）ヲ有シ、高サ六－七「セ、メ」ニシテ、細長キ嚢狀ノ小枝ヲ軸ノ周圍ニ小距離ニ輪生ス、此小枝ハ後アプラノスポランジア（アプラノスポールノ胞子嚢）ニ變ズ、軸ノ下部ハ漸次小枝ノ脫落スルニ依リテ圓柱狀ノ莖ヲナシ、只小枝ノ脫離シタル痕跡ヲ殘遺ス、中央部ハ稍細クシテ既ニ胞子ヲ散出シタル空虛ノ胞子嚢ヲ輪生ス、上部ハ稍太クシテ小枝ヲ密生ス、小枝ノアプラノスポランジアト成リ胞子ヲ藏スルモノハ稍緊張シ、上部ノ幼稚ナル小枝ハ乾燥シタル後甚ダ萎縮ス、各輪ノ小枝ハ皆同形ニシテ中央部ハ膨大シ、下部ハ細狹ノ短柄ヲナシ頂端ハ屈曲セル鋭キ尖ヲ存ス、故ニ其形恰モゑんどうノ莢ノ如シ、小枝ハ各互ニ離レテ存シ、短柄ハ小枝ノ嚢狀部ト隔絕シ、其上部ノ一隅ニ小サキ突出ヲナス、莖ノ上部ニ在ル小枝ノ柄ハ右ト同ジク隔膜ヲ存スルアリ或ハ之ヲ存セザルアリ、小枝ノ各輪ニ於ケル數ハ凡ソ十二若クハ之ヨリ多カラン、アプラノスポールハ球狀ニシテ直徑二〇七μ、內ニ綠色ノ粒狀体ヲ存シ、二層ノ皮ヲ以テ蔽ハル、其外層ハ薄クシテ別段造搆ナキ膜ヨリ成リ、內層ハ厚サ二二μニシテ密ニ放射狀ヲナセル縞ヲ存ス、一子嚢內ニ在ル胞子ノ數ハ二十三乃至三十六ナリ、沃度加里液ヲ以テ試ムルニ、外層ハ薄紫ヲナシ內層ハ血紅色ニ稍紫色ヲ交ヘタル如キ色ヲナス、

此種ハ數十年前 C. Wright 氏ガ本邦沿岸ノ海藻ヲ採集シ本國ニ持歸リタル後英ノ Harvey 氏ガ調査シタ

ルモノ、一ニシテ Halicoryne ト云ヘル屬名モ氏ノ命シタル所ナリ載セテ Harvey's Char. of New Algae no. 40 ニアリ

2. Caulerpa clavifera (Turn.) Ag.

体ハスルキユラスト稱スル匍匐莖ヨリ直立シ、圓柱状、平滑、細織、概ネ單條ニシテ高サ一、五—二「セ、メ」ナリ、小枝ハ直立セル体ノ周圍ヨリ覆瓦状ニ生シ、球状ニ膨大シ、頭部鈍圓ニシテ、一、五—二「ミ、メ」ノ細キ柄ヲ存ス、緑色ナリ、

此種ハ印度洋及ビ太平洋ノ熱帯部ニ生シ亦アドリアチック海ニモ産ス今回得ル所ノモノハ只一個ナリ、之ヲ余ノ嘗テ見タル米國ノ標品ト比スルニ全形稍小ナルガ如シ、

2. Caulerpa Boryana J. Ag.

体ハスルキユラスヨリ直立シ、數回叉状ニ分岐シ、下部圓柱状ナレ𪜈、上部直ニ扁圓ナリ、枝ハ扁圓ニシテ稍捩レタル如ク、線状ニシテ頂端鈍圓ナリ、緣邊ハ小距離ニ鋸齒ヲナシ、鋸齒ハ水平若クハ斜上、尖鋭ノ頂ヲ有シ、圓錐状ナリ、緑色、

此種ハ太平洋熱帯部ノ諸島ニ産ス

Boodlea coacta (Dickie) Murrayet De-Toni.

体ハ小形ニシテ分枝錯雑シ、海綿状ノ小塊ヲナス、各細胞ハ圓柱状ニシテ其直徑ノ二—十倍長ク、鈍頭ナリ、枝ハ各節ニ一乃至二個アリ、各枝ノ側面並ニ頂端ヨリ吸盤状ノ扁平ナルモノヲ生シ以テ接近セル枝叉ハ他ノ海藻或ハ岩石ニ固着ス、緑色ナリ、

此植物ハ Challenger 探撿船ガ始メテ我大島ニ於テ採集シ（大島ハ何レナルヤ詳ナラズト雖モ多分薩摩ノ大島ナラン）Dickie 氏之ヲ Cladophora ノ一新種トナシ Cl. coacta ノ名ヲ以テロンドンリニアンソサエチーノ雜誌第十五卷第八十七號四五一頁ニ掲載シタルヲ Murray 及ビ De-Toni ノ二氏更ニ Boodlea ノ新屬トナシ同雜誌第二十五卷第二百四十三頁ニ圖ヲ以テ掲載セリ此種ハ又南太平洋南緯二十一度五十七分西徑百五十八度ニ在ル Mangaia 島ニモ産スト云フ本種ハ Acanthophova Thierii? ノ体ニ附着シタルモノナリ

6. Ulva Lactuca Lejol. f. genuina　あをさ

此種ハ全世界處トシテ産セザルナク殆ド植物帶ノ極地ニ至ル迄産ス

9. codium adhœrens　はひみる

此種ハ太平洋沿岸房州邊迄産シ又小笠原島ニモアリ其以北及ビ日本海ヨリハ未ダ之ヲ得ズ而テ太西洋ニ於テハ英國ノ南部ヨリスペインニ至リ地中海アドリアチック海紅海喜望峯錫蘭ケルグエルン島フレンドリー諸島ニウジーランド等ニモアリ

褐藻類

5. Turbinaria vulgaris J. Ag.

余ノ獲タル標品ハ只一個ニシテ長サ十三「セ、メ」アリ、莖ハ殆ド圓柱狀ニシテ周圍ヨリ分岐ス、枝ハ三―四「セ、メ」ニシテ又圓柱狀ナリ、葉ハ凡ソ一「セ、メ」ノ柄ヲ有シ、柄ハ稍三稜ヲナシ、上部少シク太ク、上端展開シテ楯狀ノ葉片ヲナス、葉片ハ圓形ニシテ縁邊粗鋸齒ヲナシ、扁平或ハ稍凹ミ、表面ニ稍隆起セル腺狀体ヲ散布ス、徑一―一、七「セ、メ」ナリ、葉ノ色ハ暗褐色ニシテ革質ナリ、結實部ハ存セズ、

此種ハほんだわらニ類スルモノニシテ氣胞ヲ存シ氣胞ハ葉柄ノ上部ノ内ニアルベキナレ𪜈此標品ニテハ之ヲ見ルヿ能ハザリシ盖シ未ダ之ヲ生ズルニ至ラザル幼稚ノモノナルベシ

本種ハ印度洋及ビニウホルランドノ西部ニ生ズ

10. Sargassum latifolium?

莖ハ扁壓ニシテ兩邊薄ク分枝ス高サ二〇「セ、メ」、葉ハ披針狀ニシテ頂端尖リ、或ハ鈍頭ナルアリ、緣邊細カキ複鋸齒ヲナシ、中肋ヲ存ス、中肋ハ殆ンド尖端ニ近キ所ニテ消滅ス、葉ノ表面ニ小サキ腺狀体ヲ散布ス、氣胞ハ球形若クハ倒卵形ニシテ氣胞ヨリ少シク長キ扁キ葉柄ヲ存ス、結實部ハ缺如ス、

本種ハ結實部ナキヲ以テ種ヲ定メ難シト雖モ、頗ル此種ニ類セルヲ以テ暫ク疑ヲ存ス

8. Dictyota obtusangula Harv.

体ハ細線狀ニシテ肥ヘ、複叉狀ニ分岐シ、腋皆圓形ナリ、枝ハ廣ク離開シ、上部ニ至リテ稍不規則ニ分レ先端鈍圓ナリ、暗褐色ナリ、

此種モ亦C. Wright氏ノ本邦大島ニテ得タル所ナリ掲ケテHarvey's Char. of New Algae no. 14ニアリ大島ハ恐クハ薩摩ノ大島ナルベシ此種ノ我大學ニ藏スルモノハ即チ氏ノ採集シタルモノニシテ其産地大島トアリシカ小笠原島トアリシカ余今之ヲ詳ニセズ、本種ハ又太平洋中フレンドリー諸島ニモ普通ナリトアリ

紅藻類

11. Gracilaria Eucheumioides Harv.

体ハ稍扁圓ニシテ二—二、五「ミ、メ」大ク、不規則ニ分岐ス、枝ハ廣ク開キ、單條若クハ頂端ニ於テ分叉シ、扁圓ニシテ鈍頭、多少羽狀ヲナス、或ハ周圍ニ疣狀ノ隆起アルアリ、或ハ之ヲ存セザルアリ、果實ハ未詳、色ハ帶紫色ノ褐色ニシテ綠色ニ變ス、多肉軟骨質ナリ、

此種モ亦 C. Wright 氏ノ大島及ビ琉球本部ニ於テ採集スル所ニシテ載セテ Harvey's char. of New Algae no. 25 ニアリ太平洋中フレンドリー諸島ニモ產ス

3 Neurymenia fraxinifolia Mert. f. 1. Madagascariensis J.Ag.

体ノ初メ幼ナルモノハ單一ニシテ廣ク線狀ト長楕圓形ナル葉ヲ有シ一條ノ中肋之ヲ貫通シ其左右ヨリ數多並行セル脉アルモノト見倣スコトヲ得ベシ後漸ク長ズルニ至リテ中肋ヨリ同樣ノ葉ヲ生スルニ依リ遂ニ分岐セル如キ体形ヲナス而シテ最初ノ葉ハ漸次老朽脫離スルヲ以テ元來ノ中肋ハ變ジテ莖トナル、故ニ其成長スルヤ体ハ下部圓柱狀ノ莖ヲ存シ莖ノ上部ハ扁壓ニシテ全長二〇「セ、メ」(恐ラクハ以上)ニ達ス、葉片ハ廣ク線狀—長楕圓形ニシテ一〇—一五「セ、メ」、巾一、—一、七「セ、メ」扁平ニシテ稍反卷シ、基脚卵圓形、頂端圓クシテ、中央凹ミ、緣邊及ビ表面ヨリ小刺ヲ生ズ、側脉ハ僅ニ肉眼ヲ以テ見ルベク、中肋ヨリ互生シ、斜ニ緣邊ノ刺ニ達シ、小巨離ニ相並行ス、緣邊ノ刺ハ二三ニ分岐シ、小枝ハ尖鈍ニシテ屈曲ス、中肋並ニ側脉ノ兩面ヨリ同一ノ小刺ヲ生ジ、其側脉ニ沿フテ出ルモノハ横ニ一列ナス、果實ハ未詳、色ハ少シク帶紫色ナル暗紅色ニシテ膜質ナリ、

此種ハ印度洋ニ產シ印度ノ沿岸、錫蘭、マダガスカル等ニ產シ又西部ニウホルランドニモ產ス

7 Acanthophora Thierii, Lmx.?

体ハ圓柱狀ニシテ細ク直立シ複羽狀ニ分岐ス高サ凡ソ八「セ、メ」、莖及ビ枝ハ圓柱形ニシテ皆上端ニ至リテ細シ、小枝ハ短ク周圍ニ小刺ヲ密生シ、下部ハ概ネ刺ナシト雖モ或ハ單條ノ刺ヲ散布セルアリ、刺ハ頂端ニ於テ數多掌狀ニ分ル、幼刺ハ稍鑿狀ナレドモ老刺ハ圓錐狀ナリ、果實ハ未詳、色ハ暗褐色ニシテ稍帶紫色ナリ

此屬ノ種類ハ四分胞子ヲ藏スル部分ノ形狀ニ隨テ分類スルモノ故本種ハ其種類詳ナラズ故ニ暫ク疑ヲ存シ他日ニ讓ル

Polyzonia Jungermamroides (Mart. et Her.) J. Ag.

此種ハ元ト熱帶地ノモノニシテ西部オーストラリア紅海錫蘭新嘉坡等ニ産シ本邦中土沿岸中稍温暖ノ海ニ産ス即チ太平洋ニテハ房洲邊迄日本海ニテハ伯洲ニ之ヲ見ル本種ハ他ノ海藻ニ附着スルモノニシテ今回之ヲ Turbinaria 枝上ニ得タリ

4　Gelidium rigidum Vahl.

此種ノ我大學ニ藏スルモノハ小笠原島ノ産ニ係リ余曩ニ琉球ヨリ得タルまくりニ附着シタルモノヲ得タリ又熱帶モノナリ即チ熱帶部亞米利加印度洋紅海マリアナ群島ニ産ス

12　Hypnea seticulosa J. Ag.

此種モ本邦中土ノ沿岸中温暖ノ海ニ産シ太平洋ニテハ房洲邊迄日本海ニテハ出雲ヨリ得タリ原産地ハニウホルランド及ビタスマニアナリ

日本藥局方植物篇（前號ノ續キ）

澤田駒次郎

第八十一號ノ正誤 342ノ第十二行十五字目植ハ盤ノ誤同第十三行三十八字目ヲノ下有スノ二字ヲ脫ス同第十四行十字目茅ハ芽ノ誤 343ノ十二行四十七字目長ハ藥ノ誤 344ノ第十一行十七字目閣ハ枹ノ誤同第十四行十三字目褐層ハ帶褐ノ誤

石榴幹皮ノ橫斷面ヲ製シ顯微鏡下ニ撿視スレバ稚皮ト雖モ枹層ヲ有シ表皮ハ剝離スルヲ通常トス殊ニ稚皮ニ在テハ抱層ノ外部ハ薄壁性ノ細胞ヨリ成リ次ニ皮壁厚化シタル細胞二列乃至四列ヲ爲シ枹組織ヲ構成シ規則正シク裂口ヲ具具ス老皮ニ在テハ其裂口稍々延長ス枹層ノ下部ニハ「ヘエロデルム」層(phelloderm)アリ不整ニシテ橫徑ニ延長シ澱粉及ビ葉綠粒ヲ含有ス次ニ二層乃至三層ヲナセル細胞層アリ以上ノ部分ハ第一期ノ皮部ニ屬ス次ニ第二期ノ皮部ヲ有ス此皮部ニハ通常一列罕レニハ二列ノ細胞ヨリ成レル髓線アツテ通走ス其內部ハ整形ノ細胞ヨリ成リ澱粉ヲ含ム細胞ト蓚酸加爾曳謨ヲ有スル細胞ト交互ニ排列シ篩狀脈管ヲ箝在ス又皮部ノ外邊ニハ石核細胞ヲ有ス圓形ニシテ皮壁著シク厚化シ其周圍ニハ結晶ヲ有スル細胞ヲ撿スルコトアリ

石榴根皮ハ幹皮ニ類似スル雖モ髓線間ノ組織狹小ナリ老皮ニ在テハ其內皮部ニ細小ナル石核細胞ノ多數ヲ箝在ス殊ニ根皮ノ特異ナルハ稚皮老皮共ニ「ヘエロデルム」層狹小ニシテ葉綠素ヲ缺如ズルト髓線ノ殆ンド抱層ニ達スルニ在リ

石榴根皮及ヒ幹皮ヲ石灰水ニテ濕潤スレバ鮮黃色ヲ呈ス石榴根皮等ノ水煎液ニ硫酸亞酸化鐵溶液ヲ加フレバ褐色ノ沈澱ヲ生ズ此レ鞣酸ニ係ルモノナリ又此煎液ニ過格魯兒鐵溶液ヲ加フレハ其煎液ノ濃薄ノ稠度ニ因リ或ハ黑色或ハ帶黑藍色ノ沈澱ヲ生ス

石榴根皮及ヒ幹皮ハ收性歛ノ味ヲ有ス

第二　石榴果皮　Granati Fructus Cortex.

石榴果皮ハ本植物ノ果實ノ子殼ニシテ合衆國藥局方ニハ藥用トス

性狀　石榴果皮ハ乾燥不整形ノ子殼ニシテ多少窪起シタル碎片ヲ爲シ其質堅脆外面黃褐色乃至赤褐色ニシテ粗糙ナリ其內面暗黃色乃至褐色ヲ呈シ種子附着ノ痕跡ヲ存ス又間々蕚ノ管狀部ヨリ突起ヲ生シ其中ニ乾涸シタル雄蘂及ヒ花柱ノ痕跡ヲ存スルモノアリ

成分　石榴根皮ハ石榴鞣酸（Granatgerbsäure）ノ傍ラ恐ラクハ沒食子鞣酸ト同質ナル鞣酸ヲ含有ス此二種ノ鞣酸ノ含量合セテ二十「ペルセント」ノ多キニ至ル一千八百二十四年ニ於テ Wackenroder. 氏ハ本生藥中ヨリ鞣酸二十二「ペルセント」ヲ製造セシト稱セシハ恐ラクハ前記二種ノ鞣酸ノ混和セシモノ爲ル可シ又一千八百六十七年ニ於テ Ramdohr 氏ハ石榴根皮ノ煎液ニ醋酸鉛ヲ加ヘテ沒食子鞣酸ヲ得タリ此酸ハ沒食子鞣酸ト石榴鞣酸ノ混和物トス

石榴鞣酸ハ酒精依的兒ニ溶解シ鐵ノ鹽類ニ逢ヘバ黑色ノ沈澱ヲ生シ稀硫酸ト共ニ煮沸スレバ分解シテ砂糖ト「エルラック」酸（ellagsäure）ヲ生ズ又苛性加里ト共ニ煮沸スレバ鞣酸ヲ生ズ

石榴根皮ノ有効成分ハ液体ノ亞爾加魯乙度ニシテ之ヲ「ペルレチエリン」（Pelletierin $C_{16}H_3N_2O_2$）ト云フ

本品ハ一千八百七十八年ニ於テ Tanret 氏ノ發見ニ係リ無色芳香性ニシテ水、酒精、依的兒ニハ輙ク溶解シ酸類ト抱合シテ結晶性ノ鹽類ヲ生シ設氏百二十五度ノ溫度ニ於テ沸騰シ分極光線ノ平面ヲ左旋ス

本品ハ根及ヒ幹ノ皮部ニ存在シ幹皮中ニハ其含量僅々千分ノ四ニ過ギズト其他有効成分ハ一種ノ酸ニシテ之

ヲGranatapfelgerbsäure ト云フ此酸ハ今ヲ去ルコト十四五年前ニ發見セラレタリ

其他「イソペルレチエリン」「プソイドペルレチエリン」「メチイルペルレチエリン」ナル三種ノ亞爾嘉魯乙度及ビ小量ノ「マンニツト」等ヲ含有ス

イソペルレチエリン (Isopelletierin) ハ「ペエルレチエリン」ト同量異性体ニシテ其性狀稍々均シト雖モ分極光線ニ作用ヲ呈セズ其硫酸鹽類ハ風化シ易シ

プソイドペルレチエリン (pseudpelletierin $C_{18}H_{30}N_2O_2$) ハ依的兒、哥囉仿謨ヨリ長稜柱形ノ結晶ヲ析出シ設氏四十六度ニテ溶融シ二百四十六度ニテ沸騰ス

メチイルペルレチエリン」(Methylpelletierin $C_{16}H_{28}(CH_3)_2N_2O_2$) ハ二十五分ノ水ニ溶解シ設氏百十五度ノ温度ニ於テ沸騰シ分極光線ノ平面ヲ左旋シ其鹽類ハ極メテ濕氣ヲ吸收ス故ニ驗濕ノ用アリ

マンニツト」ハ一千八百三十五年ニ於テ Boutron-Charlard, Guillemette 兩氏ノ發見ニ係レリ本品ハ Latour de Trie 氏ノ「グラナチン」(Granatin) Guiart 氏ノ石榴滿那 (Grauato-Mannit) ト異名同物トス

石榴果皮ハ鞣酸、護謨、越幾斯質ヲ含有ス Reuss 氏ノ試驗成蹟ニ據レハ鞣酸二十八「ペルセント」護謨三十四「ペルセント」越幾斯質二十一「ペルセント」ヲ有ス一千八百六十九年ニ於テ Bowman 氏ノ調査ニ從ヘバ二十三、八「ペルセント」ノ鞣酸ヲ有スト又 Fluckiger 氏ノ説ニ從ヘバ灰分ノ量五、九「ペルセント」トス

(以下次號)

八重山列島各屬島ノ植物 （續キ第二）

田代安定

其一 黒島ノ部二

○第十馬齒莧科

（二十二）Pyxipoma polyandrum, ofenzl

日本名ハマスリベリヒユ（田代新名）

叢生塲地シテ蔓狀ヲ爲ス質多肉滑澤ニシテ葉對生細披針狀花ハ萼ヲ兼ル披針狀瓣五片ヲ以テ成リ淡紅色ニシテ鐘狀ヲ爲シ多雄蕋ニシテ雌蘂柱頭三裂ス子實ハ「マツバボタン」ノ實ニ類似シ核子腎臟狀ヲ爲ス淡紅花ノモノ八重山列島全部ニ播布ス此黒島ニハ白花ノ品モアリ莖葉共ニ帶白色ニシテ尋常品ノ紫紅色ヲ帶フルニ異レリ然トモ花實其他一般ノ組織ニハ異徴ヲ見ス即變種ト思フ

○第十一金絲桃科

（二十三）Hypericum japonicum, Th.

日本名コケヲトギリ

○第十二藤黃樹科

（二十四）Calophyllum inophyllum, L.

日本名テリハノキ方言ヤラボ

○第十三茶科

（二十五）Eurya chinensis, R. Br,

日本名ハマヒサカキ

(二十六) Camellia japonica, L.

日本名ツバキ

○第十四錦葵科

(二十七) Hibiscus tiliaceus, L.

日本名シマハマボ

(二十八) 〃 populineus, L.

日本名サキシマハマボ（田代新名）方言タマブリ（宮古島）トウユウナ（沖縄島那覇）本種ハ沖縄諸島ニ產スルコトヲ餘リ諸書ニ記載サレサル所ナレトモ奄美列島ノ南端ヨリ初リテ沖縄島ニ亘リ宮古島ニ尤モ多ク八重山列島ニハ普通植物ノ一ニ居レリ常ノ「シマハマボ」トハ全ク趣ヲ異ニシ幹直立シテ純然タル喬木態ヲ爲シ葉ハ鋭頭心臟狀ヲ爲シ能ク「カンアフヒ」葉ノ形ニ類似シ質ハ「ハマボ」ト同狀ニ〆光輝アリ花ハ「シマハマボ」ヨリ細小ニシテ鐘狀ヲ爲シ正開セス

該種ノ學名ハ數回各書ニ徵較シ定ムル所ニシテ漫ニ充ルニアラス

(二十九) Abutilon indicum, Don.

日本名シマイチビ

小笠原島產ト同一種

(卅) Sida shombifolia, L.

日本名キンゴジクハ

東京ニテ金午時花ト唱ヘ窖養スルモノト同品八重山諸島ニテハ極テ凡常ノ雜草ト爲ス

(三十一) Urena lobata, L.

日本名アマミボンデンクハ（田代新名）

常ノ「ボンデンクハ」ト混生シ彼ニ比スレハ枝條著シク長大ニシテ葉疎着シ且巨大ニシテ缺刻尖鋭ナルヲ其殊徵トシ葉面ニ彼ノ如キ紫紅斑點ナシ花瓣狹長ニシテ淡紅色即彼ヨリ花色淡クシテ形細小ナリ

○第十五梧桐科

(三十二) Melochia corcholifolia, L.

日本名ノヂアフヒ牧野氏山川（ヤマカハ）ゴジクハ（田代舊名）

此草ハ鹿兒島縣山川港近傍ノ原野ニ最モ多ク自生シ且當初十餘年前同所ニテ撿出セシ際其趣ノ同科植物午時花ニ近似スルヲ以テ該名ヲ附シ置ケリ花淺紅色五瓣短小蕚盞狀ヲ爲シ端數裂シ微毛茸アリ蕚外ニ細披針狀苞アリ短剌毛密生ス五雄蘂ニシテ雌蘂柱頭五裂シ子房亦五室

○第十六菩提樹科

(三十三) Corchorus actangalus, Lam.

日本名シマツナソ（田代新名）

ツナソ」即黃麻ノ一種矮小ナルモノトモ云ベキ狀ヲ爲シ花モ亦相近似シ但タ子實長蒴ヲ爲シ(一寸許)蒴ハ複三稜角ヲ爲シ頭端鉤狀ニ三尖裂ス

(三十四) Triumfetta angulata, Lam.

日本名カヂノハラセンサウ（田代新名）

半灌木狀ノ草木ニシテ高サ九寸乃至二三尺ニ達ス全形「ボンデンクハ」ニ稍似テ葉ハ「カヂ」ノ葉(楮)狀ヲ爲ス花黄色瓣蕚共ニ細披針狀子實ハ「ラセンサウ」ト同趣ヲ爲セドモ彼ノ如ク刺毛著シカラズ此植物ハ奄美列島ヨリ初リテ波照間島ニモ亘ル但シ州南諸島ニ於テノ事ナリ

(三十五) Elaeocarpus photiniaefolia Hook. et Arn.

日本名ヅクノキ

○第十七牻牛兒科

(三十六) Oxalis corniculata, L.

日本名カタバミ

○第十八芸香科

(三十七) Toddalia aculeata, Pers.

日本名サルカケミカン（田代新名）

藤蔓灌木ニシテ數丈ニ延長シ樹木ニ攀援ス枝間ニ細刺密生ス三、出形「フユサンセウ」葉ノ如クシテ短濶ナリ(互生)花攢簇五瓣黄色子實形「マメキンカン」ノ如ク大サ亦同シ熟シテ黄赤色味辛辣ニシテ甘味ヲ帶フ一顆五六核子ヲ收ム

(三十八) Glycosmis citrifolia, Link.

日本名ハナシンボーキ（沖縄方言）

常綠ノ灌木ニシテ葉ハ長披針狀單出若クハ三出若クハ五出シ殊ニ三出ノモノ多シ花五瓣淡黃綠色十雄蕋子實扁平大サ大豆ニ等シ熟メ淡紅色一顆中双核子ヲ收ム味辛辣ニシテ甜味ヲ帶ヒ舌ヲ刺戟ス

○第十九衛矛科

(三十九) Gymnosporia diversifolia, Maxim.

日本名ハリツルマサキ（田代新名）

磯岩ノ間ニ繁茂スル藤蔓灌木ニシテ枝間ニ堅硬ナル刺針アリ各葉腋ニ短梗五瓣細白花ヲ着ク子實ノ形較「グンバイナツナ」ニ似タリ熟シテ兩列シ双核子ヲ收ム

(四十) Evonymus japonicus, Th.

日本名マサキ

○第二十鼠李科

(四十一) Berchemia lineata, DC.

日本名ヒメクマヤナギ（田代新名）

極メテ細小ナル蔓生木本ニシテ磯石間ニ茂生ス葉ハ「ヒメチトギリ」草ノ趣ヲ爲シ鮮明ナル細縱線アリ花實ノ構造能ク「クマヤナギ」ニ似テ全部細小

(四十二) Sageretia theezans, Brong.

日本名クロイゲ（方言假用）

小灌木ニシテ能ク沿海向陽岩石間ニ生ス枝條鐵黑色ニシテ軟細蔓狀ヲ爲ス花ハ「クマヤナキ」ニ較趣ヲ近フシ子實ハ「ヤブカウジ」狀ノ膺果ニテ成リ熟シテ深赤色珊瑚玉ノ如シ今詳述スルコトヲ省ク

○第廿一葡萄科

(四十三) Vitis labrusca, L.

日本名エビツル

(四十四) ,, heterophylla, Th.

日本名ノブダウ

○第廿三無患樹科

(四十五) Cardiospermum Halicacabum, L.

日本名フウセンカヅラ

同諸島ニテハ尤モ普通ナル雜草ニシテ此自生區域ハ奄美列島ノ大島ヨリシテ既ニ初リ宮古、八重山兩列島殊ニ多シ餘ノ説明ハ此處ニ必要ナケン

○第廿三荳科

(四十六) Vigna lutea, Juss.

日本名ハマアツキ（田代新名）

著シク延長スル蔓草ニシテ海岸砂地ニ生ス全形「ツルアツキ」ニ近似シテ葉質柔厚ナリ花黄色瓣圓潤莢能ク「アツキ」ニ近似シ長サ二寸許一莢四五豆ヲ收ム豆黑褐色

（四十七）Lotus australis, Sims.

日本名アマミエホシクサ（田代新名）

其育殖區域ノ廣ク播布スルヲ以テ有名ナル草ニシテ予ハ最初奄美列島ノ海岸ニテ目擊シ且「エボシクサ」ト同屬ナルヲ以テ此稱號ヲ附シ置ケリ前條ノ「ハマアツキ」ト往々混生ス花ハ「エボシクサ」ヨリ巨大ニシテ白色ナリ

（四十八）Pongamia glabra, Vent.

日本名クロヨナ（方言假用）

純然タル熱帶地植物ノ一ニシテ八重山列島荳科喬木中ノ著シキモノトス幹高サ三十餘尺圍合抱餘ニ達ス葉ハ三四對ノ單鰭葉ヲ爲シ較紫檀葉ノ趣ヲ爲セリ花ハ長サ三四寸ノ穗狀梗ニ簇生シ紫紅色ニシテ「ワニグチモダマ」ノ花ニ似タリ莢扁濶長サ一二寸一莢一子ヲ收ムルヲ常トス

（四十九）Derris uliginosa, Benth.

日本名ケンカツラ（方言假用）

醋甲(即チ「ムラサキナツフヂ」)ト較趣ヲ近フスル強性藤本ニシテ葉ハ三四對單鰭狀ヲ爲シ頭尖鋭ニシテ面著シキ輝光アリ花ハ幹腹又ハ梢間ニ短穗ヲ抽キ簇着シ白色ニシテ「ナツフヂ」花ニ近似ス莢扁平ニシテ腊甲ノ如シ

（五十）Canavalia obtusifolia, D C.

日本名ハマナタマメ

（未完）

日本羊齒彙類

松村任三

Filicales. 羊齒門

Filices. 羊齒亞門

PLANITHALLOSAE. 匾平前苗群

(1) Hymenophyllaceæ. 苔荵科

Trichomanes auriculatum *Bl.* アナホラゴケ

Syn. Cephalomanes auriculatum Bosch.

Trichomanes Belangeri Bory.

T. dissectum Sm.

T. dimidiatum Prsl.

Trichomanes Filicula *Bory.* ヒメホラゴケ

Syn. T. minutulum Gaud.

Trichomanes japonicum *Fr. et Sav.* ホソバホラゴケ

Trichomanes parvulum *Poir.*

Syn. T. sibthorpioides Gaud. *T. saxifragoides Prsl.*

T. Thouarsianum Prsl. *Gonocormus parvulum Bosch.*

ウチハゴケ

Trichomanes radicasn *Sw*, コガネシノブ 田代

Trichomanes rigidum *Sw.*

Syn. *T. pyramidale Wal.*
T. Dregei Bosch.
T. Dentatum Bosch.
T. obscurum Bl.
T. setaceum Bosch.
T. bifidum Vent.
T. stylosum Poir.
T. mandioccanum Rdd.
T. daucoides Prsl.

Hymenophyllum barbatum *Bak.* カウヤコケシノブ

Syn. Leptocionium barbatum Bosch.

Hymenophyllum javanicum *Spr.* オホコケシノブ

Syn. *H. fimbriatum Sm.*
H. flexuosum A. Cun.
H. crispatum Wall.
H. daedaleum Bl.
H. erosum Bl.
H. micranthum Bosch.
H. Reinwardtii Bosch.
H. tasmanicum Bosch.
H. atrovirens Col.

Hymenophyllum paniculiflorum *Prsl.* フジコケシノブ

Syn. *H. coloratum A Br.*

Hymenophyllum polyanthos *Sw.*　ホソバコケシノブ

Syn. Trichomanes polyanthos Hedw.　*H. protrusum Hk.*

Hymenophyllum rarum *R.Br.*　コケシノブ

Syn. H. fumarioides Bory.　*H. semibivalve Hk et Grev.*

H. Cumingii Prsl.　*H. Wrightii Bosch.*

H. natalense Bosch.　*H. imbricatum Col.*

H. tubulare Bosch.　*H. Darwinii Bosche.*

（未完）

* * *

本邦産山茶屬植物ニ就キテ

齋田功太郎

日本内地ニ産スル山茶（ツバキ）屬植物ハつばき、さゞんくわ及ちやノ三種ナリトス而シテ山茶屬ハ原皮香科ニ屬ス

厚皮香科ノ植物ハ通常互生葉ヲ有スル木本ニシテ箇々分離セル或ハ脚部ニ於テ結合セル瓣片并ニ雄蕊ト通常三乃至五室ヲナセル上生子房トヲ有ス

本邦内地ニ産スル厚皮香科ノ植物ハ Ternsrtoemia, Cleyera, Eurya, Actinidia, Stachyurus, Stuartia, Camellia ノ七屬ニ屬スルモノニシテ此七屬ノ簡單ナル區別ハ左ノ如シ

脚生葯ヲ有ス　一

丁字様葯ヲ有ス　三

本邦産山茶屬植物ニ就キテ

一
花ハ雌雄ノ兩蕊ヲ有ス …… 二
花ハ單性ニシテ雌花ト雄花トヲ異株ニ生ス …… ひさかき屬(Eurya)

二
葯ハ毛ヲ有セス …… もくこく屬(Ternstrœmia)
葯ハ毛ヲ有ス …… さかき屬(Cleyera)

三
全面果ヲ有ス …… 四
破面果ヲ有ス …… 五

四
五片ヨリ成レル萼幷ニ瓣ト數多ノ雄蕊トヲ有ス …… さるなし屬(Actinidia)
四片ヨリ成レル萼幷ニ瓣ト八箇ノ雄蕊トヲ有ス …… きふぢ屬(Stachyurus)

五
五箇ノ柱ヲ有シ子房ノ各室ニ二箇ノ胚珠ヲ有ス …… しやらのき屬(Stuartia)
三乃至五裂セル柱ヲ有シ子房ノ各室ニ四或ハ五箇ノ胚珠ヲ有ス …… つばき屬(Camellia)

左ニ本邦産山茶（ツバキ）屬植物ヲ葉ニ由リテ區別セムコトヲ試ム

葉柄ハ殆ト平坦ナル上面ヲ有シ脉ハ鋭角ヲナシテ中肋ニ側生ス …… 一
葉柄ハ淺キ縱溝アル上面ヲ有シ脉ハ直角ニ近キ角度ヲナシテ中肋ニ側生シ大ニ下面ニ隆起ス …… ちや

一
葉柄ハ毛ヲ有セス海綿狀蜂窩組織ハ凡ソ十層ノ細胞ヨリ成ル …… つばき
葉柄ハ毛ヲ有シ海綿狀蜂窩組織ハ凡ソ六層ノ細胞ヨリ成ル …… さざんくわ

植物分類餘錄

松村任三

Papaveraceæ. 罌粟科

Pteridophyllum racemosum *S. Z.*

チサバグサ 箆葉草 十文字峠ニ産ス

Eschscholtzia californica *Cham.*

ハナビシサウ 花菱草（四季迺花園前編）東京園中ニ栽植ス

Hylomecon japonica *Prantl.*

Syn. Hylomecon vernale Max.

Stylophorum japonicum Miq.

Chelidonium japonicum Th.

Chelidonium uniflorum S. Z.

ヤマブキサウ 山吹草 石芥（救荒本草）（本草家之說）

くさやまぶき 草山吹

var. dissecta *Fr. et Sav.*

セリバヤマブキサウ 芹葉山吹草 草木圖說十卷ノ六、本草圖譜三十九卷ノ十二

Chelidonium majus *L.*

クサノワウ　草　黄?、白屈菜（救荒本草）（本草家之說）

支那、朝鮮ニモ產ス

Macleya cordata R. Br.

Syn. Bocconia cordata Willd.

タケニグサ　竹煮草　博落廻（本草綱目）（本草家之說）

ちやんぱぎく

たちおほばこ

ししやきぐさ

そそやき（仙臺）

ごうろぎ（和州）

けんくはぐさ

つけいし（阿州）

たかとう（水戶）

うこん（防州）

おほかめぐさ（播州）

うらじろ（播州）

おほかめたをし（藝州）

かちのは（紀州）

かぢくさ（丹後）

をでけずめ

Argemone mexicana *L.*

デロジヨウ　意義未詳　東京園中ニ栽植ス

Papaver Rhoeas *L.*

ヒナゲシ　麗春花（本草綱目）

びじんさう　美人草

Papaver somniferum *L.*

ケシ　罌子粟（本草綱目）

Dicentra spectabilis *DC.*

Syn. Fumaria spectabilis L.

Diclytra spectabilis DC.

Corydalis spectabilis DC.

Capnorchis spectabilis Borck.

Eucapnos spectabilis S. Z.

Dielytra spectabilis S. Z.

Hedycapnos spectabilis Planch.

ケマンサウ　華鬘草　荷包牡丹（秘傳花鏡）（本草家之説）

けまんぼたん　華鬘牡丹

ふじぼたん　富士牡丹

まるぎんちやく　丸巾着

くさぼたん　同名アリ　草牡丹

やうらくぼたん　瓔珞牡丹

きんちやくぼたん　巾着牡丹

支那ニ産ス

Dicentra pusilla *S. Z.*

コマクサ　駒草　八ケ嶽、陸中巖手山等ニ産ス

せんにんさう　同名アリ（陸中）仙人草

（未完）

九州採集土産

予ハ本年夏期休業中九州地方採集ヲ思ヒ立チ池野氏ト共ニ七月十九日ニ東京ヲ發シ九月十日ニ歸京セリ其間

九州ノ各地ヲ巡遊シ聞見セル事實多シト雖モ余ノ不文ニシテ怠惰ナル其十一ヲモ諸君ニ報道スル能ハザルハ大ニ遺憾トスル所ナリ

九州ノはぜのき

九州ニ入リ先ヅ目ニ附クモノハ路傍及耕地ノ周圍ニ植ヘタルはぜのきナリはぜのきハ豐前豐後邊ヨリ初メテ薩摩國海門嶽ノ麓ニ至ルマテ到ル處ニ栽培セリ中ニモ海門嶽邊ノモノハ最偉大ニシテ周圍五六尺ニ至ルモノ多シ此邊ノはぜの木ハ其幹ニぼうらんヲ生シ見事ナリはぜト山はぜトノ區別はぜハ葉及芽ニ毛茸ナシ山はぜハ葉及芽ニ茶毛ヲ密布ス是ニテ明ナリ予ハ豐前彦山ニテ山はぜノ果實アルモノヲ採集セリ此山はぜハ東京近郊ニモ多シ

彦山ノ樹木

彦山ハ豐前國田川郡金田停車場ヲ去ル凡六里許ノ所ニアリ麓ヨリ一里餘ノ道ヲ上リテ山ノ中腹ニ彦山町アリ人家二百戸許アリ油屋、傳馬屋、問屋、よろづ屋、あたらしや等アリ油屋傳馬屋ノ二軒最大ナリ彦山町ノ中央ニ大ナル唐金ノ鳥居アリ勅額ヲ掲ク此處ヨリ余輩ノ止宿セル油屋迄七町山頂ノ本社迄四十二町アリ彦山ニ上ルニハ表裏ノ二路アリ裏ノ方ハ豐前坊道ト云フ余等ハ此山ニ滯在スルコト五日ニ及ビタレバ前後二回表裏ヨリ登山セリ別ニ下リ路一アリ之ヲ不動道ト云フ表道ヨリ上レバ十町許ノ處ニ大講堂及外宮アリ舊時ハ大ナル佛像數軀ヲ安置シ金色燦爛タリシモ神佛分離ノ際悉ク焚捨タルガ爲ニ今ハ寂寥タル空堂トナリ居レリ講堂前ニ役ノ行者負掛ノ紅梅アリ上ルコト三十六町ニシテ行者堂アリ最モ頹廢シ僅ニ存セリ堂前ニ清水ノ出ヅル處アリ二尺四方許ノ穴ナリ周圍ヲ石ニテ積ミ小キ竹柄杓ヲ備ヘタリ之ヲ御水ト云ヒ登山人ノ渴ヲ醫スル唯一

ノ水ナリ此ヨリ頂上迄水ナシ頂上ノ本社ハ本年霧除ノ圍ヒ出來稍見ルヘシ途中所見ノ樹木若干ヲ左ニ記ス

1 イヌエンジユ
2 キイチゴ
3 サルカキイバラ
4 ガクウツギ
5 イヌツゲ
6 キリシマ
7 ノリノキ
8 シモツケノキ
9 ヤマボウシ
10 ヤシヤブレ
11 イヌシデ
12 シロモヂ
13 ブナ、（初テ出ヅ）
14 ギヤウヂヤノミヅ
15 コネソ
16 子ヂキ
17 タラノキ
18 フシノキ
19 サルナシ
20 シラツゲ
21 ニハトコ
22 タニウツギ
23 ミヤマシグレ
24 スヾタケ
25 ハナイカダ
26 ミヤマシキミ
27 シラキ
28 ツゲ（圍ミ一尺餘リノ者アリ）
29 ホヽノキ
30 小アヂサイ
31 オホカメノキ
32 コヤウラクツヽジ
33 モミ
34 シロモヂ
35 サハラ
36 スキ
37 ヒノキ
38 リヤウブ
39 モミヂ
40 ブナ（大木アリ）
41 ゴマキ
42 コツクバネウツギ
43 コバノト子リコ
44 カマツカ
45 ヲトコヨソヽメ
46 マンサク
47 シキミ
48 コバノミツバツヽジ

49 アカガシ
50 シロガシ
51 ヤマカウバシ以上上リ道ニテ見ル
52 アブラチヤン
53 サンセウ
54 クマシデ
55 ヤマシバ
56 マツハダ（人植？）
57 トチノキ
58 ウリノキ此邊ノウリノキハ葉皆モミヂノ如ク深裂ス
59 オホヤマレンゲ
60 イハグルマ
61 シロダモ
62 コバンノキ

63 ヒノキ
64 大葉クロモヂ葉ノ兩面ニ絨毛アルモノ
65 カヤノキ
66 アハブキ
67 カラコギカヘデ
68 ミツデカヘデ
69 シオジ（大木アリ）
70 コバノクロウメモドキ
71 マツブサ
72 サハグルミ
73 イタヤカヘデ
74 フシノキ
75 コグソミネバリ徑二尺許ノ者アリ

76 コハフチハカヘデ
77 コンヂノキ
78 エゴ
79 イボタ
80 ヒメシヤラ
81 アサガラ
82 カナクギノキ
83 ミヤマハヽソ
84 イチイ
85 ナンキンナヽカマド
86 ハリギリ
87 ゴヤウイチゴ以上裏道ニテ見ル所

樟樹ノ大木

樟樹モ九州ニハ大木アリ舊時ハ諸藩ニテ保護ヲ加ヘタル故多カリシモ今ハ大抵伐リ盡シ僅ニ神社公園等ノ境內ニ其遺族ヲ存スルニ過ギズ筑前箱崎八幡宮、仝大宰府天滿宮、肥前佐賀松原神社ノ神園及舊城近傍薩摩海

門山下牧聞神社及指宿郡指宿神社境内等ニ大樹アリ就中指宿神社ノ者最大ナリシト覺ユ直徑一間半位アリ牧聞神社ノ樟樹ニハさくららんヲ多ク着生セリ數十丈ノ樹稍ニ花團ノ蔓延スル狀宛モ蜂房ヲ散布スルガ如シ白色ニ紅點ノ着ケ一奇觀ナリ土人ハ之ヲはちすばなト呼ベリ此さくららんハ大隅國島迫間（シマトマ）邊ノ木ニモ野生スルヲ實見セリ

福岡縣農事試驗場

八月一日福岡縣農事試驗場ニ至リ場長楠原氏技手三宅氏ニ會シ兩氏ノ案内ニテ場内ヲ見物シ縮葉病桑ヲ拔キ寄生菌ノ有無ヲ實驗ス當所ノ病桑ハ白早生ト稱スル種類ニテ廿年植付廿四年六七株ノ病桑ヲ生シ廿五年ハ八分通病桑トナレリト云フ病徵ノ見ヘザル桑及縮葉トナリシ桑ヲ拔キ顯微鏡ニテ其細根ヲ檢査セシニ兩者共ニ根中ニ Pythium ニ似タル菌アルヲ見タリ此菌ノ普通ミコリザナルヤ桑病ノ原因ヲナスモノナルヤハ未タ詳ナラズ當場ノ植物見本園ニ玄海桑、沖島桑ノ二種アリ形狀大ニ常種ト異レリ

長崎諏訪山ノ公園

諏訪山ノ公園ハ長崎縣廳ノ正面ヲ行クコト六七町許ノ途ノ左ニアリ東京ノ愛宕山ノ如キ處ニテ前面ニ諏訪神社ノ階段高ク海面ヲ見晴シ風景絶佳ナリ社殿ハ規摸高大ナル外國人ニ我國ノ神威ノ程ヲ知ラスルニハ斯クナクテハ合ハジト思ハル社後ノ山ヨリ續キテ左ノ方ヲ公園トセリ老樹生ヒ茂リ植物多シイチヰガシノ直徑二尺五六寸ノ者楠ノ大樹等多シ其他ミヽズバイ、イハガネ、ホソバイヌビハ、クチナシ、サンゴジユ等アリ公園ノ入口ニシーボルド氏ガケムペル、ツンベルグ兩氏ノ爲ニ建テシ三角形紀念碑アリ高凡三尺許碑面ニ左ノ文字ヲ刻セリ

E. KAEMPFER

C. P. THUNBERG

ECEE! VIRENT VESTRÆ HIC PLANTÆ FLORENT que quolanut
cultorum memores, serta ferunt que pia

Dr. von Siebold

雲仙嶽

八月九日肥前國島原ヲ發シ雲仙嶽ニ登ル島原ヨリ雲仙嶽湯元迄五里ト云フ此二里七合迄ハ平地此處ヨリ路上リトナル途中牧場アリ牧馬路上ニ群ヲナシ遊ベリ導者ノ說ニ千四五百モアリト云フ湯元ハ小地獄トモ云フ此外本雲仙新湯ノ二ケ所ニ温泉宿アリ相去ル數町ナリ新湯ニハ外國人多ク來俗セリ雲仙嶽ニテ見タル植物二三ヲ左ニ記ス

ノリノキ方言オホスケ
大バマユミ方言ヘコハツ
イヌツゲ
ヘクソカヅラ方言ヤトパナ
アキグミ方言アキグミ
イヌサンシヤウ
ガクウツギ方言ジイム

カシヲシモ方言ペンペラ
クロキ
大バイボタ方言タニワタシ
ハルグミ方言トウザグミ
カウパウチヤ方言ノチヤ
ニンドウ方言ハナシバカヅラ
カヤ

リヤウブ方言ギヤウブ
コクハ方言ウヽノキ
ナヽメノキ方言ナモメ
ナハシロイチゴ
イヌエンジユ
タラノキダラ
コヤウラクツヽジ

シキミ方言ハナシバ
ムベグヘ
カナクギノキ方言タテザラク
サルカキイバラ方言クワククワライザ
アカガシ方言ハブトガシ
シロバナノコメツヽジ
ハイノキ方言イソクロギ
アリノトウ
モミヂイチゴ
ヲトギリサウ
アヲハダ
ノチヤ
サハシバ方言ムバゴリ
ノギラン
モウセンゴケ

ヒサカキ方言ヒラカキ
ヤブコツケイ方言クロタヅノキ
フシノキ
ツバキ方言カタシ
ウンゼンツヽジ
アヲキ方言ジウワウ
センブリ
ミヤコシキミ方言シキミ
メドハキ
ヤシヤブシ方言リウバリ
アヲツヾラ
タニワタシ
子コクギ
シヽガシラ

ハコネウツギ
アカマツ
シモツケ方言テマリクハ
イハヤナギ
ササンクハ方言ヒメカタシ
ヒヨドリバナ
シロダモ方言ツヾ
ヲミナヘシ
イヌガヤ
チガヤ
ウラジロガシ
トリアシヽヤウマ
ヤマガキ
ヲカトラノオ

本雲仙ニハ神明三社釋迦堂護摩堂アリテ堂後ノ地上ニ雲仙ツヽジ白花ノコメツヽジノ二種布諧タル如ク生セリ新湯ヨリ本雲仙ノ間ハ一帶ノ灰土ニテ火氣地中ニ充滿シ處々ヨリ蒸氣ヲ噴出シ大噴烟ノ處ハ號音ヲ發シ物凄シ此邊通路ヲ外シ誤テ灰土中ニ足ヲ投スレバ忽チ脛ヲ沒シ皮膚燒ケ爛シ救フベカラザルニ至ルヿ間々アリ

ト云フ

白井光太郎

（未完）

◎雜　錄

○枯草ノ發火スルヿ

プレスロー(Breslaw)ノ教授カーン(Cahn)氏ノ説ニ據レバ堆積シタル枯草ノ自然ニ發火スルハ一種ノ黴菌ノ發熱作用ニ因テ起ルモノナリト云此菌ハ Aspergillus fumigatus ト稱シ其熱ヲ發スル爲ニ大麥ノ發芽ヲ害スルヿハ已ニ知ラレタル所ナリ枯草ノ堆積シタルモノハ化學作用ノ爲ニ凡華氏九十五度ノ熱ヲ發シタルニ際シ此菌ハ更ニ其熱度ヲ上ボセテ百四十度ニ達セシメ終ニ發火スルニ至ラシムト云

○茄屬ノ花ト六脚蟲

Lubbock 氏ガ虫ト花トノ關係ヲ説キタル書ニモ茄屬ノ花ニハ蜜ノ分泌ナキ故ニ虫類ノ來ルヿ稀ナルヿヲ記シ Darwin 氏モ其著書(Effects of Cross and Self Fertilisation)中ニ之ニ類スル記事ヲ留メラレタリサレ𪜈是レ歐洲産ノ茄屬ニ於テ然ルモノニシテ新メキシコノ某農科大學ニアル T. D. A. Cockerell 氏ノ觀察スル所ニ據レバ其地ニ多ク産スル Solanum elæagnifolium, Cav. ト云フ植物ハ其花色ジヤガタライモノ花色ニ類似シ之ニ來ル虫類ハ甚多クシテ僅ニ兩日ノ間ニ膜翅類十五屬十八種ヲ捕ヘ獲タリト云フ(虫名ハ省ク)

白井光太郎

○波波迦ノ説　(第七十九號ノ續)

以上ノ所説ニ據リ考フルニ

ウハミヅザクラニハ左ノ數名アリ

1. ウハミゾ
2. ナデンザクラ
3. イヌザクラ
4. ミヅメ
5. メヅラ
6. アカキ
7. ヨグソザクラ
8. ホウゴ
9. ホウゴザクラ
10. ホンゴウザクラ
11. コゴノキ
12. コモノキ
13. ニガキ
14. コンガウザクラ

此中第一ニ注意スベキハウハミヅ又ウハミゾト云フ名義ナリ余ノ考フル所ニ因レバ是正シクウラミゾ(占溝)ヨリ轉訛シ來リタルモノナリ本朝大占（フトマニ）ノ法ヲ考フルニ鹿ノ肩骨ヲ取リ裏ニ町形ノ溝ヲ彫リ波波迦ノ枝ニ火ヲ點シ其溝ノ處ヲ灼キ肩胛ノ割レ目ノ形ヲ見テ占フナリ左レハ此溝ヲ裏溝（ウラミゾ）又ハ占溝ト稱ヘ其ヲ灼ク木ナレバ之ヲウラミゾザクラト名ケタラント云フハ强チ附會ノ説ニモアラサルヘシ此大占ノ占法ニ就テハ東洋學藝雜誌百四十號ニ小中村清矩氏ノうらかた卜筮ノ説アリ參考スベシ

又波波迦ノ漢名ヲ朱櫻トセルハ美濃ノ方言ニアカキト云フト同意ニテ材色ノ赤キニ取リタルナラン其他波波迦ノ一名ヲ荆桃又ハ麥桃ト稱スルコトハ明ニ此物ノウハミツザクラナルヲ證セリト考フ何トナレハ此荆桃ノ荆ハ蔓荆(はまがう)牡荆(にんじんぼく)ノ荆ニテ其果實ノ形狀大小及穗狀ヲナセルノ狀互ニ相類似スル所アルヨリ名ケタルナラン試ニウハミヅザクラノ果實トニンジンボク若クハハマガウノ果實トヲ取リ之ヲ比較シ余ガ言ノ虛ナラザルヲ驗セヨ其麥桃ト稱スルモ亦其果實ノ穗狀ヲナスノ狀略麥穗ニ似タル所アルニ因リテナ

ラン以上論ズルカ如ク波波迦ハ方言上ヨリ考フルモ和名上ヨリ考フルモ漢名上ヨリ考フルモ皆齊シク方今所謂ウラミヅザクラニ相當スル者ナルヲ指スガ如シ近頃小中村氏ノうちかた卜筮ノ説ヲ讀ミ波波迦ヲ普通ノ櫻トナスノ説ニ疑ヒアレハ聊カ所見ヲ記シテ同癖ノ人ニ示スト云フ

因ニ曰フウハミヅザクラハ羅丁名ヲ(Prunus grayana)ト稱ス此他是ニ似タル木尚二種アリ一ヲイヌザクラト云ヒ一ヲエゾウハミゾザクラト云フ此等皆其花序穗狀ヲナセリ此等諸種ノ區別ハ此ニ用ナケレハ記サズ松岡恕庵小野蘭山ノ諸氏ハウハミヅザクラヲイヌザクラトイヘリ其ハ怡顔齋櫻品犬櫻ノ條ニ一名奈天一名上溝ト記シウハミヅザクラノ花穗ヲ圖セルニテ知ルヘシ植物名彙ニ載スル所ノイヌザクラハ日光ノ方言ニテハ白櫻トイヘリ是其樹皮灰白色ナルコト他櫻ニ異ルニヨルナランエゾウハミヅザクラハ一名シウリト云ヒ奥羽及日光湯本金精峠邊ニアリウハミヅザクラニ似テ葉ノ本ニ凹ミアルヲ異トス此等皆ウハミヅザクラニ似テ非ナルモノナリ

○「バクテリヤ」ノ説（前號ノ續キ）

K. D. 山人纂譯

人体ノ種々ナル部分ノ構造動作ニ於ケル變動ヨリシテ竟ニ人体ノ活動ニ及ボセル紛錯今ヤ積年ノ研究ニ依リテ學識アル醫師ノ如キハ既ニ身体活動ノ不規律ヨリ推察シテ身体ノ如何ナル部分カ其害ヲ受ケタルヤ且ツ其紛錯ヲ來タセル原因ハ如何等ノコトヲモ屢々確知シ得ルナリ故ニ或ル場合ニ在リテハ其習慣ニ變動ヲ及スカ或ハ藥劑ニ因リテ紛錯ノ原因ヲ排去スルヲ得ルナリ去ルガユヱニ其細胞体ハ其固有ノ狀態ニ復シ因リテ以テ健康ヲ回復スベシ時ニヨリテハ藥劑ヲ用フテ其固有ノ狀態ニ復スル力ヲ助クルコトアリモシ又其紛錯ノ狀ニ

シテ生命ヲ失フカ如ク甚シカラザルニ於テハ之ヲ放置ストモ尚多少ノ時間ヲ經テ自ラ能ク其本ニ復スルコトアリ故ニ是等ノ場合ニ在リテ醫師ノ當ニ爲スベキハ食物ト興奮劑トヲ以テ身体ヲ補ヒ細胞ノ自ラ爲スヘキ仕事ヲ助クルニ在リサレバ其原因ノ明カナルト明カナラサルトニ拘ラズ人類ノ身体ヲ侵害スル百病ヲ治スルニ當リ俊秀ニシテ經驗アル醫師ハ唯ソノ身体ニ於ケル細胞ノ自然ニ有スル治療ノ傾向ヲ導キ助クルニ外ナラズ抑モ疾病ハ人体搆造ニ於ケル變動ソノ活動ニ於ケル紛錯トニ因リテ發スルモノニシテ其數極メテ多キコトハ既ニ前ニ説ケルカ如シ而シテ是等ノ變動及ビ紛錯中ニ在リテ其重要ナル原因ハ黴菌即チ是レナリトハ此レ近年ニ至リテ證明セラレタル所ナリ故ニ吾人ハ之ヨリ進ンテ其變動紛錯ハ如何ニシテ起レルモノナルヤ將ニ是等ヲ避ケンニハ如何ニシテ宜カルベキヤ等ノ理ヲ知ラント欲ス　（未完）

○茶

海人藻芥といふ書に、茶は上古より我朝にあり、挽茶節會とて、内裡におゐて行はる、公事儀式にして、葉上僧正入唐の時、重て茶の種を渡され、栂尾明惠上人これを翫へりとかけり、（榮西もつばら茶をたしみこれを明惠上人にたくられし事、明惠傳記に見へたり）上古より有ける事、他の書にて未見侍らず、（奥義抄にろのかみ内裡にて、大般若經讀誦せさせ給けるに、ひきちやとて衆僧に茶を給ふ事ありしとかや、後には酒を給ふ事あさましきなりとかけり、これも上古とは見へす）嵯峨天皇殊に茶をめてたき物にし給へりといふ事は古き文にも見へたり、さればにや、弘仁六年四月に、天皇近江國滋賀韓崎に幸し給ふ時、崇福寺の大僧都永忠手づからみつから茶を煎じて奉りし事、日本後紀に見へたり、日本に茶をうへ初ける事は、茶湯記（靈岩寺大蟲所記の作）に、建仁寺の開山千光國師、栂尾の明惠上人同船して入唐し、同時に歸朝しけるが、茶の種を持來て、筑前國脊振山にこれをうゑ、岩上茶と號す、人これを栂尾にうつし、又宇治に移すとなり、（烏鼠同穴集と云ふ書に、明惠上人茶實を栂尾と宇治にうへし事を記せり、）是日本に茶をうゆるの始にして、仁和寺、

醍醐、葉室、般若寺、神尾、大和の室生、伊賀の八鳥、伊勢の河居、駿河の清光、（清光は他本に清見とあり）武藏の河越茶など、皆是宇治栂尾につゞきて其名を得たり、茶を目さまし草と訓せしは、睡を覺すの功あれば也、惟宗孝言（後朱雀院の時の人）茶讃を作りて其能を譽といへとも、蜀山の產する所とあれは、是もろこしより來る茶を稱せるならん、（茶讃續文粹に出たり）葉上僧正、茶一盞を大將軍實朝に獻り、茶德を譽る書を捧し事、東鑑に見へたり、（其書を喫茶養生記と名く、今に傳れり）僧正は日本に初て茶をうへし人なれは、この茶は日本の茶を稱せるにや、[illegible]宋人の詩に幸得梅山信初嘗日本茶と作りしかば、栂尾の茶其名中華に稱せられし事殊に奇也、（梅山は栂尾をさす、梅と栂とおなし字なる故也、）今の世には、其用る所の品にそくばく高下のたがひありといへとも、上王侯より下衆民に至るまで日とし時として茶を用さる事なくなりにき、春雨抄に茶の哥とて

くもるなり雨ふらぬまにつみておけ、とがの尾山の春の若くさ

今日本の風俗にて婚姻の約をむすふ時聘物をおくるに、茶を副る事あり、此禮いつれの時よりおこりしにや、其始をしらず、此事もろこしにも有事にや、明陳晦伯かつくれる天中記といふ書に、凡種茶必下子移植不復生故聘婦必以茶爲禮、義固有所取也とかけり(大和事始)

○獨逸植物學總會ノ略況

獨逸植物學會(Deutsche botanische Gesellschaft.)ノ總會ハ是レ迄便宜ニヨリ獨逸萬有學會(Gesellschaft der deutsche Naturforsche und Aerzte.)ト同時ニ同一ノ所ニ開キ恰カモ萬有學會ノ一部(即チ植物學部)ヲ形ヅクルコトトナレリ、サレバ今年ノ總會モ亦、第六十五回獨逸萬有學會總會ト共ニ獨逸國バエルン邦ニユルンベルヒ市ニ於テ去ル九月十一日ヨリ十五日マデ開キタリ、該會々員ライプチヒ在學、理學士三好學氏ハ去ル八

月初旬ヨリ墺國チロール、アルプス山中ヲ旅行シ九月十日ニニユルベルヒ市ヘ着シ該植物學會總會ヘ出席セリ今氏ヨリ聞クトコロニヨレバ今回萬有學會ヘ出席セル會員ハ千有餘名ニシテ有名ナル學者ノ來會尠ナカラズニユルンベルヒ市ハ市長及ビ有志者ノ盡力ニヨリ欵待至ラザルナク來會員ニ滿足ヲ足ヘタリ三會ノ總會ト數回ノ部會トアリ總會中植物學上ノ演說ハライプチヒ大學植物學敎授「ゲハイムラート」フエッファー氏 Ueber die Reizbarkeit der Pflanzen.（植物ノ刺擊ニ感應スルヿニ就テ）ノ題ニテ述ベラレタリ氏ハ該問題ニ就テ現今ニ至ルマデ知レタル事實ヲ述ベソレヨリ植物体ノ「エ子ルギー」ニ說キ及ボシ現今植物生理學進步ノ有樣ヲ知ラシメタリ尤モ面白キ演說ナリシ區別ケ第四部即チ植物學部ニ於テハ第一着トシテ獨逸植物學會ノ事務會ヲ開キ會長敎授「ゲハイムラート」氏プリングスハイム氏會長席ニ就キ諸般ノ報告アリ會計長「ドクトル」ミユラー氏會計上ノ報告ヲ爲シソレヨリ前回以來死亡會員ノ傳記誦讀、一々弔禮ヲ行ヘリ、又役員、通信員等ノ選擧投票等アリ、右了リテヨリ演說會ヲ開キタリ、プリングスハイム氏ノ發議ニテ演說會第一回ノ會長ニ嗹國コペンハーゲン大學敎授ハンゼン氏ヲ第二回ニライプチヒ大學敎授フエッファー氏ヲ指名シテ撰メリ會員諸氏中演說アリタルモノ左ノ如シ

Hansen (Kopenhagen): Botanische Untersuchung über Essigsäurebakterien.

Pfeffer (Leipzig): Ueber Arbeitleistungen der Pflanzen.

von Weltstein (Prag): Die geographische und systematische Anordnurg der Pflanzenarten.

Cohn (Breslau): Ueber thermogene Bakterien.

Heydrich (Berlin): 4 neue Algen.

Magnus (Berlin): Ueber 2 von Bormüller in Persien gesammelte Pilze.

Klemm (Leipzig): Des organisations-Erscheinungen im Protoplasma.

Karl Müller (Berlin): Ueber des Wachsthum der Pollenschläuche im den Narbenpapillen der Silenaceen.

Kayser ; Ueber das Ovulum von Croton.

de Toin (Parma): Ueber Intrafrustular-Bildungen bei Amphora ovalis Kuetz.

Miyoshi (Tokio): Ueber Chemotropismus der Pollenschläuche.

Fünfstück (Stuttgart): Ueber die Permeabilität der Niederschlagsmembranen.

Karsten (Leipzig): Ueber Elateren. bei Fassen.

Magnus (Berlin): Mitteilung Kirchner's über die Wurzelknötchen der Soyabohne.

右演說ノ後ニ各〻多少ノ討論モアリタリ、演說會ハ兩回ニテ全ク了リタリ、此ニ記スベキハ獨逸植物學會々員中ノ該會總會ヲ後來全ク萬有學會ト隔離シ別時、別所ニ開カントスルノ動議ヲ呈出スルモノアリ、プリングスハイム氏議長席ニ就キテ會員諸氏ニ議セシム、マグヌス氏ハ固ク此動議ヲ主張シ三回ノ演說ヲ爲セリフェッファー氏痛ク之ヲ駁シ又ウェルトスタイン氏モ之ヲ駁シ論難甚盛ナリシガ決ヲ取ルニ及ビマグヌス氏ノ分離說ハ少數ニテ消滅セリ、サレバ來年モ獨逸萬有學會ト同時同所ニ開會スルヿニ決セリ、十一日ヨリ十五日マデ開會中ハ植物學者ハ一同、毎日、毎夜一處ニ集リ一ノ「テーブル」ヲ廻リテ坐シ飲食談笑親睦セリ、本會員中フェッファー、プリングスハイム、コーン等ノ碩學ヲ始メトシ其他有名ノ植物學者少ナカラズ、ベルリンノオトークンツェ(O. kuntze.)氏モ亦來會セリ氏ハ彼ノ Revisio plantarum ヲ以テ近來、分類學上ニ名ヲ喧クセリ世界旅

行者ニシテ十數年前、日本ヘモ來遊シタリ、因ニ記ス來ル千八百九十四年ノ總會ハ墺京維納ニ開クヿニナレリ

◎東京植物學會錄事

十一月二十五日午後正二時ヨリ理科大學植物學敎室ニ於テ仝會月次會ヲ開ク堀正太郎君ハ去月伊豆御藏島ヘ出張セラレタル目的及ビ該島ノ模樣ニ就キ小林龜松君ハ植物揮發油ノ化學的ノ成分及ビ理論ニ就キ細論セラレ終リニ牧野富太郎君ハ關西地方植物分布ニ就キ演セラレ說明其半ニシテ時正ニ黃昏ニ達セシヲ以テ一同退散セリ

◎寄贈書目

東洋學藝雜誌	第百四十六號	一册	東洋學藝社	(東京)
動物學雜誌	第五卷第六十一號	一册	動物學會	(東京)
地質學雜誌	第一號	一册	東京地質學會	(東京)
地學雜誌	第五集第五十九卷	一册	東京地學協會	(東京)
東京醫學會雜誌	第七卷第二十二號	一册	東京醫學會	(東京)
牧畜雜誌	自第百十六號至第百十七號	二册	牧畜雜誌社	(東京)
大日本農會報	自第百四十四號至第百四十六號	三册	大日本農會	(東京)
日本藥業新誌	自第二百四十八號至第二百五十號	三册	衛生社	(東京)
大日本山林會報	第百三十一號	一册	大日本山林會	(東京)
釀造雜誌	自第百二十九號至第百三十一號	三册	釀造雜誌社	(東京)
Gardeners' Chronicle. No. 345—354.		八册		
The Journal of Botany. No. 369—370		二册		

廣告

理科大學教授博士松村任三先生著

和漢洋對譯　本草辭典　全一册

定價金六拾錢

本書ハ英語及其他數十ケ國ノ語ニ於ケル植物及藥品等ノ名稱ヲ和漢兩名ニ對譯スルニ羅馬字ト假字トノ兩樣ヲ以テシ加之植物所屬ノ科名ヲモ記入シタルモノナレバ苟クモ**英語**ヲ教授シ**植物學**ヲ修メ**化學、藥物、山林、農業**等ノ諸科ヲ講シ又ハ**貿易、通辯、反譯、園藝**等ニ從事セラルヽ內外ノ人士共ニ座右ニ缺クベカラザル良辭書ナリ

東京神田裏神保町一番地

敬業社

一本誌廣告料五號文字　一行（二十五字詰）一回金五錢三回以上割引仕候

○本誌每月一回發兌一册金拾二錢○六册前金七十二錢

○拾二册前金壹圓四拾四錢○會員ニ限リ壹册拾錢

○配達概則

第一條　代價收受セザル內ハ縱令御注文アルモ遞送セス○第二條　前金ノ盡ル時ハ改テ御請求仕ル故次號發兌迄ニ御送金ナキ方ハ御送附相成マテ雜誌ヲ郵送セス○第三條　郵便切手ヲ以テ代價ト換用ハ謝絕ス○第四條　特ニ一册限御入用ノ向ハ一錢切手十二枚御送致ナレハ御屆可申候

明治廿六年十二月九日印刷
明治廿六年十二月十日發行

版權所有

編輯兼發行者　東京府平民　井上蘇吉
東京市神田區錦町三丁目一番地
印刷者　熊田宜遜
東京市神田區錦町三丁目廿五番地
印刷所　熊田活版所
東京市神田區錦町三丁目廿五番地
發行所　植物學雜誌編輯所
東京市神田區裏神保町一番地
賣捌所　敬業社
同所
同　丸善書店
東京日本橋區通三丁目

314179

明治廿一年二月三日内務省許可

THE
BOTANICAL MAGAZINE.

Vol. 7.] Desember 10, 1893. [No. 82.

CONTENTS.

Absorption of Water by Leaves. **By S. Ikeno.** 367

On the Algæ from Loo-Choo. **By. K. Okamura.** 369

Plants Employed in Medicine in the Japanese Pharmacopæia. **By K. Sawada.** 377

Plants of Yaeyama and adjacent Islands. **By Y. Tashiro.** 380

Enumeration of Japanese Ferns. **By Prof. J. Matsumura.** 387

Japanese Camellia. **By Prof. K. Saida.** 389

Scientific and Common Names of Plants. **By Prof. J. Matsumura.** . . . 391

Plants Collected in the Kyūshū. **By M. Shirai.** 394

Miscellaneous:—. 401

Spontaneous Combustion of Hay.—Flowers of Solanum and Insects.—" Hahaka."—Bacteria.—Tea.—German Botanical Congress.—Proceedings of the Tōkyō Botanical Society.

All letters and communications to be addressed to the

TŌKYŌ BOTANICAL MAGAZINE.

No. 1. Urajimbōchō, Kanda, Tōkyō, Japan.

無瓣花類

(1)(a) 花時子房ハ下位或ハ半下位、花被ハ雌花及ビ完全花ニ於テハ必ズ（雄花ニ於テモ多クハ）存ス　2

(b) 花時子房ハ上位、殆ド上位或ハ（花被ノ雌花及ビ完全花ニ欠如スルトキハ）裸出　21

(2)(a) 無葉、無葉綠ノ草本、寄生、多肉、色彩種々ナレドモ綠色ナラズ多クハ鱗片ヲ有シ往々唯一個ノ花ナリ　3

(b) 木本或ハ綠色ニシテ多クハ葉ヲ有スル草本（びやくだん科ニ殊ニ無葉ニシテ綠色ノ草本アリ）　4

(3)(a) 雄蕊一—六個、胚珠一—三個、花ハ有柄ノ穗狀花或ハ肉穗花ヲナス雄花ノ花被ハ鑷合樣或ハ欠如

つちとりもち科　Balanophoreæ

(b) 雄蕊八個以上、胚珠無數、植物体ハ根ノ外唯一個ノ無柄若クハ殆無柄ノ花ヨリ成ル稀ニ鱗片ヲ具スル莖ト穗狀ヲ爲セル花トヨリ成ルトキハ花被ハ覆瓦樣ナリ　*Cytinaceæ*

(4)(a) 子房ハ完全ニ一室稀ニ（やどりぎ科）花時子房室及ビ胚珠共ニ區別シ難ク花後始テ完全ニ一室ナリ　5

(b) 子房ハ完全若クハ不完全ニ多室稀ニ（殼斗科）花時子房室及ビ胚珠ノ區別ナク花後始テ完全若クハ不完全ニ多室ナリ　13

明治二十六年一月十日發兌

(5)(a)胚珠二個ヲ超過ス葉ハ鋸齒狀、鈍鋸齒狀、分裂、深裂或ハ羽狀複葉、花柱多數、分離、柱頭ハ其頂或ハ內部ニアレ𪜈其基底ヨリシテ柱頭ナルヿナシ　6

(b)胚珠一—二個稀ニ二個ヲ超過スルヿアレバ葉ハ全邊或ハ欠如ス花柱ハ一個分裂セズ柱頭ハ一個或ハ多數或ハ柱頭一個ニシテ無柱、稀ニ花柱分裂（さく科）或ハ無柱々頭多數（いらくさ科、くるみ科、あかざ科）　7

(6)(a)草本ニシテ葉ハ鈍鋸齒狀或ハ分裂、花柱ハ二—三個、分裂セズ　ゆきのした科　Saxifrageæ

(b)草本ニシテ葉ハ深裂或ハ羽狀複葉（唯上部ノ葉ハ分裂セズシテ鋸齒狀）ナリ或ハ木本ニシテ分裂セザル（鋸齒狀或ハ殆全邊）葉ヲ有ス花柱ハ三個ニシテ各々二裂或ハ四個　*Datisceæ*

(7)(a)托葉アリ花被萼樣、雄蕊ハ花被ノ裂片ト全數ニシテ之ト對生ス、稀ニ之ヨリ多ク或少シ、時トシテハ雄花ニハ花被ナシ　8

(b)托葉ハ欠如ス稀ニ存スレバ（さく科）花被ハ多少花冠樣且雄蕊ハ花被片ト全數ニシテ之ト互生ス（而シテ葯ハ相合着ス）　9

(8)(a)花ハ單性、雄花ハ花被ナクシテ穗狀ヲナス柱頭ハ分裂セズ無柱或ハ殆然リ葉ハ對生　ちやらん科　Chloranthaceæ

(b)花ハ單性雌雄花共ニ花被アリ極テ稀ニ雄花ノ花被ハ苞樣或ハ欠如スレバ花ハ凹陷セル花托上ニアリ或ハ柱頭ハ二裂ナリ、葉ハ互生、稀ニ對生ナレバ花ハ凹陷セル花托上ニアリ或ハ團聚花ヲナス　いらくさ科　Urticaceæ

(9)(a) 葉ハ奇數羽狀複葉、花冠ハ萼樣、雄花ニ於テハ往々欠如ス花ハ穗狀或ハ葇荑花ヲナス葯ハ相分離ス木本ニシテ互生葉　くるみ科 Juglandeæ

(b) 葉ハ單葉、多クハ分裂セズ、時トシテハ分裂或ハ淺裂、稀ニ深裂ナルヿアレバ花被ハ多少花冠樣、花ハ小頭花或ハ聚繖花ヲ爲シ且葯ハ相合着シ或ハ葉ハ根生若クハ對生ナリ　10

(10)(a) 雄蕊ハ其數花被片ニ倍ス稀ニ之ニ等シケレバ葯ハ戶ヲ以テ開キ花被覆瓦樣ニシテ子房ハ唯胚珠一個ヲ有ス　しくんし科 *Combretaceae*

(b) 雄蕊ハ其數、花被片ニ等シ葯ハ縱裂シ或ハ孔穴ヲ以テ開ク花被片ハ鑷合樣極テ稀ニ覆瓦樣ナルヿアレバ子房ニ三―四個ノ胚珠アリ　11

(11)(a) 雌性花及ビ完全花ニ於テハ花柱必ズ二裂或ハ柱頭二裂（雄花ニ於テハ柱頭ハ多ク不裂）、子房下位、胚珠一個、葯相合着シ稀ニ全然分離ス　きく科 Compositæ

(b) 花柱不裂或ハ欠如、柱頭不裂稀ニ二―三裂ナレバ子房ニ二―四個ノ胚珠アリ花時子房ト胚珠トノ區別ナク或ハ胚珠一個ニシテ子房ノ下半ハ花盤ニ插入シ或ハ胚珠二―四個ナリ葯ハ相分離ス　12

(12)(a) 子房下位、胚珠ハ一個ニシテ受精前ハ子房トノ區別判然セズ木本ニ寄生スル灌木柱頭ハ分裂セズ　やどりぎ科 Loranthaceæ

(b) 子房ニハ胚珠二―四個稀ニ一個ノトキハ子房ハ眞ノ下位ニアラズシテ唯其一半ヲ花盤ニ插入ス草本或ハ地

上ニ生育スル木本稀ニ木本ニ寄生スル灌木ナレバ柱頭分裂ス　びやくだん科　Santalaceæ

(13) (a) 雄花ニ花被ナシ若シコレアル𪜈ハ子房ハ各室ニ胚珠二個ヲ有ス托葉アリ、花被ハ蕚樣、雄蕊ノ數ハ花被片ヨリ多ク稀ニ同數ナレバ花ハ穗狀花或ハ葇荑花ヲナス　殼斗科　Cupuliferæ

(b) 花被アリ子房ノ各室ニハ一個若クハ三個以上ノ胚珠アリ稀ニ二個ノ𪜈ハ托葉ナシ托葉ハ多ク欠如ス若シコレアル𪜈ハ花被蕚樣ナラザレバ雄蕊花被片ト同數ニシテ且花ハ獨生若クハ聚繖花、繖形花或ハ小頭花ヲナス　14

(14) (a) 子房ノ各室（室ノ區別完全或ハ不完全ノ𪜈共）ニハ胚珠一個、雄蕊ノ數ハ花被片ニ同ク或ハ小、稀ニコレヨリ多數ナレバ花柱多數然ラサレバ柱頭無柱ニシテ托葉欠如シ且葯ハ內面（極テ稀ニ側面）ニテ裂開ス　15

(b) 子房ノ各室ニ胚珠二個以上、雄蕊ハ花被片ヨリ多數、花柱分裂セズ稀ニ花柱多數ニシテ相分離シ若クハ其基底ニテ相合着（或ハ柱頭多數ニシテ無柱）スル𪜈ハ托葉アリ然ラザレバ葯ハ外面ニテ裂開ス　19

(15) (a) 花被葉ノ子房ノ上ニ出ヅル部ハ相分離ス、胚珠ハ垂生、果實ハ蒴樣ナラズ子房ハ下位或ハ殆ド然リ子房ノ上ニ盤（時トシテハ此部分唯花柱ノ下部ノ增厚ニ止マル）アリ　16

(b) 花被葉ハ子房ノ上ニ出ヅル部分モ合着ス稀ニ花被葉ト子房ト分離セル𪜈ハ胚珠直立且果實ハ蒴然ラザレバ子房ハ眞正ニ下位ニアラズシテ廣キ盤ニ圍繞セラレ唯其內ニ陷入セルノミ　17

(16)(a)果實ハ二個ノ乾燥セル小堅果ニ分離シ小堅果ハ多ク果實ノ柄ニ附着ス盤ハ二裂、花柱ハ二個極テ稀ニ三個、子房ハ二室極テ稀ニ三室、葉ハ多ク深裂或ハ羽狀複葉葉柄ハ鞘ヲナス花ハ繖形花或ハ小頭花ヲナシ・此等ノ繖花形或ハ小頭花數多相集テ亦繖形花或ハ圓錐花ヲナス

繖形科　Umbelliferæ

(b)果實ハ漿果或ハ石果、盤ハ分裂セズ花柱ハ三個乃至多數（極テ稀ニ二個）或ハ花柱一個ニシテ柱頭三―多數子房ハ三―多（極テ稀ニ二）室、灌木或ハ喬木、花ハ繖形花或ハ小頭花ヲナシ此等ノ繖形、小頭花多ク相集テ總狀花、圓錐花或ハ繖形花ヲナス

うこぎ科　Araliaceæ

(17)(a)灌木或ハ喬木、子房三室ニシテ花柱ハ一個不裂若クハ三裂、稀ニ子房二或ハ四室若クハ子房三室ニシテ花柱多數ナル時ハ葉ハ互生ニシテ托葉アリ（而テ子房ハ盤內ニ陷入）胚珠直立

くろうめもどき科　Rhamneæ

(b)草本或ハ半灌木、子房二室（花柱一乃至多數）稀ニ三―多室ニシテ花柱（分離シ或ハ殆分離セル）或ハ無柱々頭多數ナレバ胚珠ハ倒生ナリ、葉ハ互生ニシテ托葉ナシ或ハ對生若クハ輪生

18

(18)(a)葉ハ互生、胚珠ハ垂生、葉ハ不分裂ニシテ厚質托葉ナシ

ざくろさう科　Ficoideæ

(b)葉ハ輪生或ハ對生、枝ハ大抵四角、葉ハ不分裂、托葉ハ稀ニシテ其存スルハ對生葉ニ限ル

あかね科　Rubiaceæ

(19)(a)托葉二個、花ハ一家極テ稀ニ多家、草本或ハ灌木、葉ハ多ク左右不同形

しうかいだう科　Begoniaceæ

(b) 托葉欠如、花ハ完全或ハ多家　20

(20)
(a) 花被全邊（或ハ殆ド然リ）單唇、兩唇或ハ三裂、葉ハ互生、子房ハ完全或ハ不完全ニ四―六室、草本或ハ灌木、葯ハ外面ニテ開ク、盤無シ　うまのすゞくさ科　Aristolochiaceæ

(b) 花被ハ四―八裂或ハ帽狀ニ合着、極テ稀ニ殆ド全邊ナルトキハ葉ハ對生ニシテ子房二―三室、葉ハ互生或ハ輪生稀ニ互生ナレバ木本或ハ葯ハ內面ニテ開ク盤アリ然レドモ往々著大ナラズ葉ニ班點アリ（互生葉ヲ有スル數種ヲ除キ）雄蕊無數、葯ハ二個ノ裂目ヲ以テ縱裂ス花被ハ大抵萼樣、木本或ハ灌木　ふともゝ科　Myrtaceæ

(21)
(a) 心皮多數、全然相分離シ或ハ唯子房ノ基底ニテ相合シ或ハ唯花柱ノ先端（或ハ柱頭）ニテ合着ス　22

(b) 心皮一個或ハ多數ニシテ相合着シ一個ノ不裂若クハ分裂セル子房ヲナス　25

(22)
(a) 花被片ハ相分離ス托葉ハ稀ニ存ス、葉柄ノ基底ハ往々鞘ヲナス雄蕊無數、草本、稀ニ木樣ノ纏繞草本ナレバ葉ハ對生ニシテ花被ハ大抵鑷合樣　きんぽうげ科　Ranunculaceæ

(b) 花被片ハ離花及ビ完全花ニ於テハ必ズ合着ス然レドモ往々深ク分裂ス　23

(23)
(a) 托葉欠如、葉ハ大抵對生　*Monimiaceæ*

(b) 托葉アリ葉ハ互生　24

(24) (a) 草本或ハ灌木、雄蕊ハ相分離ス、胚珠ハ垂生　ばら科　Rosaceæ

(b) 木本、雄蕊ハ相合着ス胚珠ハ上昇或ハ横臥　あをぎり科　Sterculiaceæ

(25) (a) 子房一室　26

(b) 子房多室　61

(26) (a) 胚珠一―二個　27

(b) 胚珠二個ヲ超過ス　50

(27) (a) 花ニ花被ナシ（然レドモ一個ノ苞ト往々二個ノ小苞アリ小苞ハ往々相互ニ合着シ又花序ノ軸ト合着ス）花ハ穗狀或ハ總狀ヲ爲ス葯ハ基底ニテ附着、胚珠直生、果實ハ漿果（然レドモ往々殆乾燥）胚乳多量、花柱ハ不分裂或ハ欠如、柱頭一個或ハ多數（多ク三―四）花序ハ有柄　こせう科　Piperaceæ

(b) 雌雄花共ニ或ハ少クモ其内一ニハ花被アリ稀ニ雌雄花共ニ花被無キトキハ小頭花或ハ繖形花ヲナシ或ハ廣マレル若クハ凹陷セル花托上ニアリ（あかざ科ニ屬スル少數ノ植物ニ於テハ花ハ獨生或ハ叢生或ハ穗狀ナリ然ルトキハ葯ハ其背部ヲ以テ附着シ胚珠ハ半倒生）　28

(28) (a) 雄花ニ花被ナク（然レドモ苞一個及ビ多クハ小苞二個アリ）穗狀ヲナス灌木或喬木、花ハ單性雌雄花共ニ穗狀花或ハ葇荑花ヲナス胚珠ハ直立或ハ側面ニテ附着ス　29

(b) 雄花及ビ完全花ニ花被アリ稀ニ花被ナケレバ花ハ小頭花、繖形花、團聚花ヲ爲シ或ハ凹陷セル花托上ニアリ　30

(29)(a) 花柱及ビ柱頭各一個分裂セズ、胚珠ハ側面ニテ附着、半倒生、種子ニ薄キ胚乳アリ

Leitneriaceæ

(b) 花柱一個、短小、柱頭二個ニシテ長シ胚珠ハ基底ニテ附着、直生、種子ニ胚乳ナシ

やまもゝ科 Myricaceæ

(30)(a) 胚珠二個、雄蕊七個以上葉ハ羽狀複葉、極テ稀ニ假葉ナレバ雄蕊無數ニシテ花被ハ鑷合樣ナリ花柱ハ子房ノ頂點ヨリ起ル

荳科 Leguminosæ

(b) 胚珠一個稀ニ二個ナレバ葉ハ單葉ニシテ分裂シ或ハ分裂セズ或ハ雄蕊一—五、尚又胚珠二個ナル𪜈ハ雄蕊一—十個若クハ花被覆瓦樣(若シ殆鑷合樣ナレバ花柱ハ子房ノ基底ヨリ起ル) 31

(31)(a) 托葉アリ 32

(b) 托葉ナシ 38

(32)(a) 葉ハ對生或ハ輪生(完全花ヲ有スル僅少ノモノヲ除キ)花ハ完全極テ稀ニ多家、花被ノ裂片ハ四—五、花柱多數或ハ一個ニシテ柱頭多數(多クハ小ナリ)、胚珠ハ倒生、半倒生或ハ彎生、雄蕊ハ多少子房周位、花被ノ裂片ト同數ニシテ對生ス、或ハ之ヨリ少ク極テ稀ニコレヨリ多シ

Illecebraceæ

(b) 葉ハ互生、稀ニ對生ナレバ花ハ單性然ラザレバ花被ノ裂片三或ハ六、花ハ單性、多家、或ハ完全、完全ノ𪜈ハ花柱ハ分裂セズシテ一個ノ柱頭ヲ有シ或ハ胚珠直生ナリ 33

(33)(a) 花柱ハ二—四個相分離ス或ハ一部相合着シ柱頭ハ相分離ス稀ニ無柱柱頭三個、子房ニハ胚珠一個種子ニ

ハ多量ノ粉狀胚乳アリ　たで科 Polygonaceae

(b) 花柱ハ一個、分裂セズ(多クハ極テ短小)、柱頭一個或ハ多數ニシテ其基底ヲ以テ連合ス或ハ無柱々頭一—二個稀ニ花柱二—三個若クハ無柱々頭三個ナレバ子房ハ二個ノ胚珠ヲ有シ或ハ幼時ニ於テ隔壁ヲ有ス、胚乳ハ全然欠如或ハ少量或ハ多量ニシテ多肉、稀ニ粉狀ナレバ花柱ハ分裂セズシテ一個ノ分裂セザル若クハ毛筆狀ノ柱頭ヲ有ス　34

(34) (a) 花ハ完全、雄蕊ハ子房下位或ハ殆然リ子房ニハ胚珠一個、葉ハ單葉ニシテ分裂セズ花被ハ覆瓦樣、花ハ總狀花序ヲナス　やまごばう科 Phytolaccaceae

(b) 花ハ單性、或ハ多家、稀ニ完全ナレバ(ばら科)雄蕊ハ子房周位ニシテ子房ニ二個ノ胚珠アリ若クハ葉ハ複葉若クハ花被鑷合樣(且花ハ獨生或ハ叢生)　35

(35) (a) 花ハ完全、稀ニ單性或ハ多家ナレバ葉ハ複葉、雄蕊四個以上ニシテ莖ハ草本狀或ハ灌木狀なり、花被三—十二裂、花柱ハ分裂セズ柱頭一個分裂セズ或ハ多裂シ多クハ毛筆狀ナリ　ばら科 Rosaceae

(b) 花ハ單性或ハ多家、葉ハ單葉ニシテ分裂セズ或ハ淺裂稀ニ(いらくさ科)缺刻シ或ハ複葉ナレバ喬木ニシテ雄蕊一—三個然ラザレバ草本ニシテ雄蕊五個且柱頭二個ニシテ雌花ノ花被ハ分裂セズ　36

(36) (a) 珠孔及ビ胚ノ幼根ハ果實ノ基底ニ向ク、花ハ一家、雌雄花共ニ密集セル球狀ノ單性小頭花ヲ爲シ多肉ニシテ凸起セル球狀ノ花托上ニアリ、花被ナシ然レ𪜈花托ニハ微細ナル鱗片アリ且雌雄ノ小頭花ニハ必ズ小苞

アリ　Platanaceae

(b) 珠孔及ビ胚ノ幼根ハ果實ノ頂部ニ向ク花被ハ雌雄花ノ内一ニハ存ス稀ニ雌雄花共ニ之ナキ𪜈ハ花ハ凹陷シ若クハ擴布セル花托上ニアリ或ハ雌雄花同一ノ小頭花中ニアリ又花一家ニシテ雌雄花共ニ球狀ノ單性小頭花ヲ爲シ多肉ノ花托上ニアレバ雌花ハ花托內ニ陷入ス(いらくさ科)　37

(37)

(a) 胚珠ハ二個稀ニ一個ナレバ果實ハ蒴ニシテ葯ハ三―四個ノ裂目ヲ以テ開キ(稀ニ二個ノ裂目ヲ以テ開ク𪜈ハ子房ハ幼時隔壁ヲ有シ各室ニ胚珠二個アリ)且雄蕊ハ大抵花被片ヨリ多シ灌木或ハ喬木、花ハ單性、雌雄花共ニ花被アリ胚珠ハ垂生　たかとうだい科　Euphorbiaceae

(b) 胚珠一個稀ニ幼時尚別ニ一個ノ胚珠ヲ有スレ𪜈直ニ消滅ス果實ハ裂開セズ葯ハ二個ノ裂目ヲ以テ開ク雄蕊ハ花被片ト同數ニシテ之ト對生ス或ハ之ヨリ少シ或ハ雄花ニ花被ナシ極テ稀ニ雄蕊ノ數花被片ヨリ大ナレバ花ハ多家或ハ草本ニシテ胚珠直立ナリ　いらくさ科　Urticaceae

(38)

(a) 葉ハ輪生ノ鱗片ニ化シ枝ノ結節ニアリ雄花ニハ雄蕊一個、花ハ單性、雌雄花ニ花被ナシ、喬木或ハ灌木　もくまわう科　Casuarineae

(b) 葉ハ多ク完全ニ發達ス互生、根生、或ハ對生、稀ニ輪生ナレバ雄蕊三―無數稀ニ葉ガ互生或ハ對生(決テ輪生ナルヿナシ)ノ鱗片ニ化スルヿアレバ雄蕊三―無數或ハ花ハ完全若クハ多家ナリ雌花ニハ多クハ花被アリ稀ニ之無ケレバ雄蕊二―無數或ハ草本或ハ半灌木ナリ、　39

(39) (a) 葉ハ輪生、水中ニ沈メル草本、雄蕊十ー二十個、花被ハ雌雄花共ニ六ー十二裂、花柱及ビ柱頭ハ分裂セズ然レモ多クハ花柱ノ下部ニ微細ノ平扁ナル附屬物アリ　さんぎよも科 Ceratophylleae

(b) 葉ハ互生、根生或ハ對生或ハ欠如、稀ニ輪生ナレバ陸生ニシテ雄蕊三ー九個ナリ花被片ハ一ー五個或ハ花被欠如稀ニ花被片六個以上ナレバ木本若クハ（たで科）花ニ多數ノ分離セル若クハ基底ヲ以テ合着セル花柱或ハ多數ノ無柱々頭アリ　40

(40) (a) 花被ハ完全花及ビ雄花ニ於テ覆瓦樣極テ稀ニ（あかざ科、につけい科）欠如（雌花ニ於テハ殊ニ屢次欠如ス）　41

(b) 花被ハ完全花及ビ雄花ニ於テ鑷合樣（雌花ニ於テハ往々欠如）　45

(41) (a) 葯ハ二個或ハ四個ノ下ヨリ上ニ向テ開ク所ノ戸ヲ以テ裂開ス花被片ハ六個以上稀ニ六ヨリ少（多クハ四個）ナレバ雄蕊ハ花被片ヨリ多シ然レモ之ニ倍スルヿ稀ナリ（多クハ六個）極テ稀ニ花被ハ著シカラズシテ雄蕊九個以上ナリ花柱ハ分裂セズ一個ノ分裂セザル若クハ淺裂セル柱頭アリ種子ハ垂生、胚乳ナシ香氣アル木本ナリ　につけい科 Laurineae

(b) 葯ハ縱裂ス多クハ花被片五個或ハ之ヨリ少クシテ雄蕊ハ花被片ト同數或ハ倍數或ハ少數稀ニ（たで科、やまでぼう科）花被片六個或ハ雄蕊花被片ヨリ多ク其倍數ニ至ラザル𪜈ハ（多クハ花被片五ー六個ニシテ雄蕊八ー九）花柱多數ニシテ相分離シ或ハ基底ヲ以テ相合着シ（或ハ無柱々頭多數）種子ハ直立、胚乳アリ極テ稀ニ（あかざ科）花被ハ一個ノ小片ニ化シ或ハ全然欠如而メ雄蕊ハ一ー五個ナリ　42

(42)
(a) 雄蕊ハ花被片ヨリ多シト雖モ其倍數ニ至ラズ極テ稀ニ之ト同數或ハ之ヨリ少數ナレバ花被片六個ナリ花被ハ必ズ存ス
たで科　Polygonaceae
(b) 雄蕊ハ花被片ト同數、倍數、或ハ小數或ハ花被欠如、花被片ハ五個或ハ之ヨリ少シ　43

(43)
(a) 雄蕊數ハ花被片ニ倍ス稀ニ之ト同數ニシテ互生シ若クハ之ヨリ少シ即雄蕊二個ニシテ花被片四個ナリ雄蕊ハ子房周位、四―五裂セル花被管ノ咽喉部若クハ上部ニ附着ス花柱ハ分裂セズ柱頭ハ一個、分裂セズ若クハ少ク先端凹形、胚ハ眞直、灌木或ハ喬木稀ニ草木或ハ半灌木ナレバ葉ハ互生或ハ雄蕊二―四個
ちんてうげ科　Thymelaeaceae
(b) 雄蕊ハ花被片ト同數ニシテ之ト對生シ或ハ少數或ハ花被欠如、雄蕊二個ニシテ花被片四個ナル𪜈ハ雄蕊ハ子房下位或ハ花柱ニハ多數ノ柱頭アリ然ラザレバ多數ノ無柱々頭アリ胚ハ彎曲シ或ハ螺旋狀ニ回旋ス　44

(44)
(a) 花ニ三個ノ苞アリ胚ハ彎曲シ、或ハ輪狀、胚乳多量、花被及ヒ苞ハ多ク乾燥、花糸ハ多クハ多少合着ス
ひゆ科　Amarantaceæ
(b) 完全花及ビ雄花ニハ多ク苞ナシ稀ニ一、二或ハ三個ノ苞アリ苞三個ノ𪜈ハ胚ハ螺旋狀ニ回旋シ且胚乳少量或ハ欠如ス、花被及ビ苞ハ多ク草樣或ハ皮膚樣、花糸ハ多ク分離ス
あかざ科　Chenopodiaceae

(45)
(a) 花糸ハ相合シテ一柱ヲナス柱ハ中央ニ位シ、子房下位、多ク極テ短小ナリ葯ハ柱上ニアリ相分離シ若クハ

相合着ス、喬本若クハ灌木ナリ柱頭一個、無柱或ハ殆無柱　にくづく科 *Myristicaceae*

(b) 花糸ハ相分離シ或ハ唯其基底ヲ以テ合着ス極テ稀ニ尙上部迄合着スルコアレバ(きく科)草本或ハ半灌木ニシテ雌花ニ於テハ花柱ハ二裂若クハ柱頭二個ナリ　46

(46)
(a) 雄蕊ハ子房下位、花被ト合着セズ或ハ唯基底ヲ以テ少ク合着稀ニ尙上部迄合着スルコアレバ草本ニシテ葉ハ對生且花ハ完全ニシテ薔薇色ナリ花被片ハ合着、三―五裂或ハ三―五齒或ハ殆ド全邊、葉ハ對生稀ニ互生ナレバ全邊、花糸ハ相分離シ若クハ基底ニテ合着　おしろいばな科 *Nyctagineae*

(b) 雄蕊ハ子房周位、稀ニ殆ド子房下位(花被ノ基底ニ附着)或ハ眞ニ下位ナレバ花被ハ殆ド共基底迄分裂或ハ(きく科)葉ハ互生ニシテ鋸齒狀或ハ分裂(而メ花糸ハ上部迄合着)灌木或ハ喬本稀ニ草木或ハ半灌木ナレバ葉ハ互生或ハ花ハ單性ニシテ白色ナリ　47

(47)
(a) 草本或ハ半灌木、花ハ一家(稀ニ多家ナレバ完全花ハ下位子房ヲ有ス)雄花ハ花被整正、雄蕊ハ花被片ト同數ニシテ之ト互生而メ花柱ハ分裂セズ雌花ニ花被ナシ然レモ合葉ノ總苞ト二裂或ハ二柱頭ノ花柱アリ　きく科 Compositae

(b) 灌木或ハ喬木稀ニ半灌木(かまのき科)ナレバ雄蕊花被片ニ對生シ且花柱ハ分裂セズ、一個ノ柱頭アリ花ハ完全、多家或ハ二家、花ニハ總テ花被アリ　48

(48)
(a) 雄蕊花被片ト同數ニシテ之ト互生シ或ハ之ニ倍ス(四―八個)、種皮ハ堅硬或ハ硬脆ナリ　ぐみ科 Elaeagnaceae

(b) 雄蕊花被片ト同數ニシテ之ト對生シ或ハ之ヨリ少シ(三―五個)種皮ハ皮膚樣、革樣或ハ欠如

(49)

(a)種子ニ種皮ナシ、胚乳多量、花盤アリ子房周位、短小ナル花被管ト合着、子房ノ基底ハ花盤內ニ陷入ス胚珠一個、直立、極テ稀ニ二個垂生、柱頭無柱（極テ稀ニ花柱アレバ子房ハ幼時上位ニシテ花時半下位トナリ花後下位ナリ）　49

びやくだん科　Santalaceae

(b)種子ニ種皮アリ胚乳ナシ子房ハ花盤ニ陷入セズ花盤ハ子房下位或ハ欠如極テ稀ニ花被管ノ下部ト合着スレバ花ニ四―八葉ノ總苞アリテ側面ニ附着スル胚珠一個アリ花柱アリ

かまのき科　Proteaceae

(50)

(a)草本、花ニ花被ナシ然レ𪜈多クハ二―三個ノ鱗片アリ雄蕊ノ外方ニ位ス花柱二個相分離シ或ハ基底ニテ相合着ス或ハ無柱々頭二個極テ稀ニ一個、胚珠ハ一個ノ中央胎坐或ハ二個ノ側膜胎坐ニ附着ス、水草ニシテ苔若クハ藻ノ如キ觀アリ

Podostemaceae

(b)灌木若クハ喬木、稀ニ草本或ハ半灌木ナレバ花ハ四―八裂ノ花被ヲ有ス（僅小ノ荳科植物ニ於テハ側膜胎坐一個、花柱分裂セズ、柱頭頂生而メ花被ハ三裂ナリ）　51

(51)

(a)胚珠ハ子房ノ基底ニ附着シ或ハ中央胎坐ニ附着ス　52

(b)胚珠ハ子房ノ側面ニ附着ス（側膜胎坐一個或ハ多數胚珠ハ唯其上部若クハ下部ニノミ附着ス）　54

(51)

(a)花ニ花被ナシ然レ𪜈雄花ハ一個ノ苞ヲ有シ雌花ハ多數ノ苞ヲ有ス、灌木或ハ喬木、花ハ二家ナリ

Balanopseae

(b) 花ニハ花被葉四—七個アリ草木或ハ半灌木稀ニ灌木或ハ喬木ナレバ花ハ完全ナリ花被葉ハ覆瓦様、相分離シ若クハ其基底ニテ合着ス　53

(52) (a) 葉ハ對生、果實ハ蒴ニシテ二—五個ノ蒴片ニ裂開ス　せきちく科　Caryophylleae

(b) 葉ハ互生、果實ハ蓋果或ハ不規則ニ裂開シ或ハ全然裂開セズ、往々漿果様ナリ　ひゆ科　Amarantaceae

(54) (a) 胚珠ハ一個ノ側膜胎坐ニ附着ス（即チ子房腔ノ一方ニ附着シ一—二列ヲナス）　55

(b) 胚珠ハ多數ノ側膜胎坐ニ附着ス　56

(55) (a) 雄蕊三—四個、托葉欠如、葉ハ分裂セズ或ハ羽狀裂、極テ稀ニ一回羽狀複葉ナリ　かまのき科　Proteaceae

(b) 雄蕊五個以上、極テ稀ニ三—四個ナレバ托葉アリ葉ハ羽狀複葉或ハ一葉、極テ稀ニ假葉或ハ欠如　荳科　Leguminosae

(56) (a) 花ニ一個ノ雄蕊アリ　*Lacistemaceae*

(b) 花ニ二個以上ノ雄蕊アリ　57

(57) (a) 花ハ二家、花被ナクシテ花盤アリ（或ハ花盤ナクシテ一—二個ノ鱗片アリ）或ハ花被アリテ花盤ナシ、葇荑狀ノ穗狀花或ハ總狀花ヲナス種子ニ胚乳ナシ　やなぎ科　Salicineae

(b) 花ハ完全稀ニ（ひゝぎり科）單性ナレバ花ハ花被ト花盤トヲ有シ穗狀花或ハ葇荑花ヲナサズ（然レ圧多ク

ハ總狀花ヲナス）種子ニ胚乳アリ　58

(58) (a) 雄蕊ハ花被ノ裂片ト同數、即四―六個、花柱ハ三―四個ニシテ相分離シ或ハ基底ニテ相合着シ柱頭ハ頭狀ナリ副冠一個管狀若クハ多數ノ糸ニ分裂シ雄蘂及ビ花盤ノ外部ニ位ス　とけいさう科 *Passifloreae*

(b) 雄蘂ハ花被ノ裂片ヨリ多ク極テ稀ニ之ト同數ナレバ花柱ハ一個ニシテ分裂セズ若クハ欠如シ且柱頭ハ一個ナリ副冠ナシ然レ𪜈往々分裂シ若クハ分裂セザル花盤アリ且又往々不熟雄蘂モアリ、灌木若クハ喬木　59

(59) (a) 子房ハ長柄ヲ有ス胚乳ハ少量或ハ欠如　ふうちやうさう科 Capparideae

(b) 子房ハ無柄若クハ殆ド無柄、胚乳ハ多量ニシテ多肉ナリ　60

(60) (a) 雄蘂ハ子房周位或ハ殆ド子房下位、子房下位ノトキハ不熟雄蕊アリテ雄蕊ト同數ニシテ之ト互生ス然ラザレバ葉ハ對生ナリ花被葉ハ其下部ニテ相合着シテ短キ若クハ長キ管ヲナス稀ニ殆ンド相分離スレバ雄蕋六―十個或ハ對生葉ナリ　*Samydaceae*

(b) 雄蕋ハ子房下位或ハ殆ド然リ外部ニ位スル雄蕋ニハ葯ナキモノ往々コレアルノ外別ニ不熟雄蕋ナシ、多クハ花盤アリ分裂セズ或分裂ス葉ハ互生花被葉ハ相分離シ或ハ唯基底ニテ少ク合着ス雄蕋十個以上、極テ稀ニ四―五個　いゝぎり科 Bixineæ

(61) (a) 花ハ完全ナリ　62

(b) 花ハ多家或ハ單性ナリ　70

(62) (a) 胚珠ハ子房ノ各室ニ一個、灌木或ハ喬木　63

(b) 胚珠ハ子房ノ各室ニ二個以上稀ニ一個ナレハ（ざくろさう科、十字花科）草本若クハ半灌木ナリ　64

(63) (a) 花柱一個、分裂セズ柱頭ハ分裂セズ若クハ不明瞭ニ二淺裂、花被ハ覆瓦樣、胚珠ハ垂生、托葉ハ欠如ス、子房ハ二室極テ稀ニ四－五室、葉アリ

ぢんてうげ科　Thymelæaceae

(b) 花柱一個、分裂セズ、柱頭多數或ハ一個ニシテ三裂ナリ、或ハ花柱多數ニシテ相分離シ或ハ基底ニテ相合着ス、花被ハ鑷合樣、胚珠ハ直立、托葉ハ多クアリ極テ稀ニ欠如スレハ子房三室ニシテ葉ハ對生セル鱗片ニ化シ或ハ全然欠如ス雄蕊四－六個

くろうめもどき科　Rhamneæ

(64) (a) 草本或ハ半灌木、花柱ハ多數ニシテ相分離シ、或ハ基底ニテ相合着ス、或ハ柱頭多數ニシテ無柱ナリ　65

(b) 灌木或ハ喬木稀ニ草本或ハ半灌木ナレハ花柱一個ニシテ分裂セズ柱頭ハ分裂セズ若クハ淺裂ス　66

(65) (a) 水生植物、花被三裂或ハ微細ナル鱗片ニ化シ、或ハ全然欠如ス、種子ニ胚乳ナク胚ハ眞直ナリ

Podostemaceæ

(b) 陸生植物、花被四－五裂、種子ニ胚乳アリ胚ハ彎曲、子房室及ビ柱頭ハ各々二－五個、花ハ獨生、或ハ遠心的聚繖花序ヲナシ又往々總狀花或ハ繖形花ヲナス

ざくろさう科　Ficoideæ

(66) (a) 雄蕊ハ明瞭ニ子房周位極テ稀ニ殆ト子房下位（みそはぎ科）ナレハ葉ハ對生ニシテ雄蕊四個或ハ八－十二

個ナリ

(b) 雄蕊ハ子房下位或ハ殆ト然リ葉ハ互生稀ニ對生ナレハ葯ヲ有スル雄蕊ハ五—六個ナリ　67

(67) (a) 雄蕊ハ花被ノ裂片ヨリ多ク(五個以上)稀ニ之ト同數ナレハ草本（或ル僅少ノモノハ草本ニ非ズ但雄蕊殆ト子房下位、胚珠無數)ナリ葯ハ運動スベシ柱頭ハ分裂セズ或ハ二裂、果實ハ蒴、二蒴片ニ裂開シ或ハ胞背裂開ニテ多蒴片ニ裂開ス或ハ漿果ナリ　68　みそはぎ科　Lythrarieæ

(b) 雄蕊ハ花被片ト同數、四個、子房周位、四裂セル花被ノ咽喉部ニ附着ス灌木、胚珠ハ子房ノ各室ニ二—四個、葯ハ固着、柱頭ハ四裂、果實ハ蒴、胞間裂開ニテ四蒴片ニ裂開ス　*Penæaceæ*

(68) (a) 雄蕊十個以上ナリ　ぼだいじゆ科　Tiliaceæ

(b) 雄蕊二—六個ナリ　69

(69) (a) 花被葉四個相分離シ、覆瓦樣、子房二室(極テ稀ニ三—四室)、胚珠ハ側膜胎坐ニ附着ス、種子ニ胚乳無シ　十字花科　Cruciferæ

(b) 花被葉五個、基底ニテ相合着、鑷合樣、極テ稀ニ少シク覆瓦樣、子房三—七室、胚珠ハ中央胎坐ニ附着ス種子ニ胚乳アリ　あをぎり科　Sterculiaceæ

(70) (a) 葉ハ其先端ニ蓋アル瓶子ヲ有ス、胚珠無數、上昇、柱頭ハ無柱、淺裂ス雄蕊ハ相合着シテ一柱ヲ爲シ葯モ相合着シテ柱上ニアリ纏繞シ若クハ横臥セル半灌木或ハ灌木、子房三—四室ナリ　*Nepenthaceæ*

(b)葉ニ瓶子ナシ胚珠ハ子房ノ各室ニ一－二個、稀ニ（ぼだいじゆ科、あをぎり科、いゝぎり科）之ニ超過スレバ花柱アリ且胚珠下降ニシテ花絲分離（或ハ基底ニテ少ク合着）然ラザレバ喬木ニシテ子房五室ナリ 71

(71)(a)雄蕊ハ明瞭ニ子房周位、四－五裂セル花被ノ咽喉部ニ附着ス花ハ多家、胚珠ハ子房ノ各室ニ一個、葉ニハ托葉アリ或ハ葉ハ對生セル鱗片ニ化シ或ハ全然欠和ス

くろうめもどき科 Rhamneæ

(b)雄蕊ハ子房下位或ハ殆ト然リ花ハ單性稀ニ多家ナレバ子房ノ各室ニ胚珠二個以上然ラザレバ葉ハ互生ニシテ托葉ナシ 72

(72)(a)雄蕊二個、葉ハ對生、托葉ナシ胚珠ハ子房ノ各室ニ二個花柱ハ分裂セズ、柱頭ハ分裂セズ或ハ二裂

もくせい科 Oleaceæ

(b)雄蕊三個以上、或ハ一個稀ニ二個ナレバ葉ハ互生（或ハ對生ニシテ托葉アリ或ハ全然欠如ス）而シテ子房ノ各室ニ胚珠一個或ハ花柱多數、相分離ス或ハ花柱一個、三－多裂或ハ花柱分裂セズシテ柱頭三－多裂ナリ 73

(73)(a)雌花ニ花被ナシ、多肉ナル圓錐形花序ヲナス胚珠ハ直立ナリ *Batideæ*

(b)雌花ニ花被アリ稀ニ之ナケレバ雌花ハ圓錐形花序ヲナサズシテ胚乳ハ下降ナリ 74

(74)(a)雌花ニ花被ナシ雄花ハ葇荑花ヲナシ懸垂シ全体ノ儘枯落ス子房二室、花柱二個相分離ス喬木或ハ灌木ナリ

殼斗科 Cupuliferæ

(b)雌花ニ花被アリ稀ニ之ナケレバ（たかとうだい科、ありのたう科）雄花ハ葇荑花ヲナサズ（往々穗狀花ヲナス）且子房室及ビ花柱枝（或ハ柱頭）ハ各々三個以上或ハ一個極テ稀ニ二個ニシテ草本ナリ　75

(75)(a)胚珠ハ下降或ハ垂生、胚珠ハ子房ノ各室ニ一—二個、中央胎坐ニ附着、花ハ單性ナリ

たかとうだい科　Euphorbiaceæ

(b)胚珠ハ上昇稀ニ平臥或ハ（むくろじ科）子房ノ各室ニ上昇及ヒ下降セル胚珠兩ナガラアリ　76

(76)(a)雄蕊二—三個、花被ノ裂片ヨリ少シ

がんかうらん科　Empetraceæ

(b)雄蕊四個以上、花被ノ裂片ト同數或ハ之ヨリ多數ナリ　77

(77)(a)花糸ハ其全体相合着シテ柱ヲナシ（柱ハ多ク子房柄ニ合着ス）、葯ハ其上ニアリ子房ハ五個、全部或ハ大部相分離シ、花柱ハ相合シテ一個ノ分裂セザル花柱ヲ爲シ、柱頭ハ分裂セズ或ハ淺裂ス托葉アリ葉ハ分裂セズ或ハ淺裂或ハ掌狀複葉、葯ハ十個或ハ十五個胚珠ハ子房ノ各室ニ二個以上ナリ

あをぎり科　Sterculiaceæ

(b)花糸ハ相分離シ或ハ唯基底ニテ相合着ス子房一個、分裂セズ或ハ淺裂シ花柱一個或ハ多數、托葉ナシ極テ稀ニ羽狀複葉ノ最下小葉ハ托葉狀ヲナス雄蕊四—十二個（多クハ八個）極テ稀ニ二十個以上ナリ雄蕊十個ノ時ハ子房二室或ハ各室ニ胚珠一個アリ子房ノ各室ニ胚珠一個ナレバ花ハ多家ニシテ葉ハ複葉（往々一葉）ナリ胚珠二個ナレバ花柱多數或ハ一個ニシテ柱頭多數ナリ

むくろじ科　Sapindaceæ

多瓣花類

(1)(a) 子房ハ下位或ハ半下位　2

(b) 子房ハ上位或ハ殆ド上位、極テ稀ニ裸出　31

(2)(a) 花ニハ完全ナル雄蕊一―十個（不熟雄蕊ハ除ク）　3

(b) 花ニハ完全ナル雄蕊十個ヲ超過ス　20

(3)(a) 子房ノ各室ニ胚珠一個（一室若クハ室ノ區劃不完全ナル子房ニ於テハ子房全体ニ胚珠一個）　4

(b) 子房ノ完全ナル室ニハ胚珠各々二個以上アリ　14

(4)(a) 花柱多數、全然相分離ス稀ニ（ありのたう科、うこぎ科）柱頭多數ニシテ無柱ナリ　5

(b) 花柱一個分裂セズ或ハ（ひやうたん科、くろうめもどき科、うこぎ科、*Bruniaceæ*）多少分裂スレ圧其基底迄分裂セズ稀ニ分裂セズ或ハ淺裂セル無柱々頭一個　8

(5)(a) 草本或ハ半灌木、花瓣ハ二―四個、雌花ニ於テハ往々欠如ス　ありのたう科　Halorageæ

(b) 草本（或ハ半灌木）ニシテ花瓣五個或ハ木本（喬木或ハ灌木）ナリ　6

(6)(a) 果實ハ蒴種皮ハ硬脆質或ハ骨質、黒色ニシテ光輝アリ胚乳少量、多肉、花盤ハ多ク欠如ス花ハ小頭花或ハ總狀花ヲナス　まんさく科　Hamamelideæ

(b) 果實ハ分裂果、石果或ハ漿果稀ニ瘦果樣、種皮ハ甚薄弱、胚乳ハ軟骨質或ハ多肉ニシテ多量、花盤ハ子房上

位ナリ（往々花盤ナクシテ僅ニ花柱ノ下部ノ増厚スルアルノミ）花ハ多ク繖形花ヲナス

(7)(a)果實ハ分裂果、二個ノ乾燥セル小堅果ニ分裂ス小堅果ハ多ク其先端ニテ果實柄ニ固着ス花盤二裂　7

繖形科　Umbelliferæ

(b)果實ハ石果或ハ漿果稀ニ乾燥ナレ𪜈二部ニ分裂スルヿナシ花盤ハ大抵分裂セズ

うこぎ科　Araliaceæ

(8)(a)雄蕊ハ花瓣ト同數ニシテ之ニ對生ス胚珠ハ直立或ハ子房ト胚珠トノ區別明瞭ナラズ　9

(b)雄蕊ハ花瓣ト同數ニシテ之ニ互生シ或ハ之ヨリ多ク或ハ少シ、胚珠ハ多ク垂生ナリ　10

(9)(a)子房室、花柱及ビ柱頭ハ分裂セズ受精前ニハ子房ト胚珠トノ區別明瞭ナラズ

やどりぎ科　Loranthaceæ

(b)子房二―四室、花柱ハ分裂セズシテ柱頭ハ淺裂ス、胚珠ハ直立

くろうめもどき科　Rhamneæ

(10)(a)花瓣ノ發狀ハ回旋、蕚片ハ鑷合樣、各々二―四個、子房ハ下位、花盤ハ子房上位、花柱ハ分裂セズ、葉ハ分裂セズ托葉ナシ

つきみさう科　Onagrariæ

(b)花瓣ノ發狀ハ鑷合樣、開展、或ハ覆瓦樣、覆瓦樣ノトキハ（*Bruniaceæ*）蕚ハ覆瓦樣、花瓣ハ大抵五個ニシテ子

房ハ大抵半下位然ラザレバ（うこぎ科）花柱ハ分裂シ、葉ハ大抵複葉ニシテ著シカラザル托葉ヲ有ス　11

(11)(a)花瓣ノ發狀ハ覆瓦樣、葉ハ分裂セズ托葉ナシ果實ハ蒴或ハ瘦果ナリ *Bruniaceæ*

(b)花瓣ノ發狀ハ鑷合樣、或ハ開展稀ニ覆瓦樣（うこぎ科）ナレバ葉ハ複葉ニシテ著シカラザル托葉ヲ有シ且果實ハ石果或ハ漿果ナリ　12

(12)(a)草本或ハ半灌木、花ハ單性、葉ハ互生、托葉欠如（然レ𪜈多クハ卷鬚アリ）種子ニ胚乳ナシ蕚ノ發狀ハ覆瓦樣、多クハ花瓣五個ニシテ雄蕊三個ナリ　ひやうたん科　Cucurbitaceæ

(b)喬木或ハ灌木極テ稀ニ草本ナレバ花ハ完全或ハ多家ニシテ葉ハ對生若クハ托葉アリ種子ニ多量ノ胚乳アリ蕚ノ發狀ハ大抵鑷合樣或ハ開展、雄蕊ハ花瓣ト同數極テ稀ニ之ヨリ多シ葯ハ縱ニ裂開ス　13

(13)(a)葉ハ複葉稀ニ單葉ナレバ子房ハ二—四室ニシテ多數ノ花柱アリ相合着スレ𪜈柱頭ニ至ラズ或ハ五—多室ナリ　うこぎ科　Araliaceæ

(b)葉ハ單葉ニシテ分裂セズ或ハ淺裂ス子房ハ二—四室ニシテ花柱ハ分裂セズ柱頭ハ分裂セズ或ハ淺裂ス若クハ子房一室ナリ　さんしゆ科　Cornaceæ

(14)(a)花瓣ノ發狀ハ鑷合樣、雄蕊ハ花瓣ト同數或ハ小數、花ハ單性、莖ハ纏繞或ハ匍匐、種子ニ胚乳ナシ　ひやうたん科　Cucurbitaceæ

(b)花瓣ノ發狀ハ覆瓦樣或ハ回旋或ハ先端ニテ帽狀ニ合着稀ニ開展或ハ鑷合樣ナレバ雄蕊數ハ花瓣ニ倍ス

（ゆきのした科、しくんし科）稀ニ雄蕊數ハ花瓣數ニ同ク或ハ小ニシテ（ゆきのした科）花ハ完全ナリ（或ル種ハ之ヲ除ク此種ハ直立灌木ニシテ花瓣ノ發狀ハ開展、且種子ニ胚乳アリ）　15

(15)

(a) 葉ニ斑點アリ對生或ハ互生、互生ノ時ハ雄蕊數花瓣數ニ倍ス（偶又不熟雄蕊アリ）花柱ハ分裂セズ柱頭ハ分裂セズ或ハ淺裂ス花瓣ノ發狀ハ覆瓦樣、蕚ハ若キ蕾ニ於テハ覆瓦樣、稀ニ殆ンド全邊ニシテ蕾ニ於テ開展ナリ子房ハ一室ニシテ二─十個ノ胚珠ヲ有シ、且胎坐ハ子房腔ノ基底ヨリ生シ（或ハ子房腔ノ基底ヨリ生ジ且少ク共側壁ニモ及ブ）或ハ子房腔ノ先端及ビ基底ニ附着ス若クハ子房二─三室ニシテ胚珠ハ中央胎坐ニ附着ス　ふともゝ科　Myrtaceæ

(b) 葉ニハ多ク斑點ナシ若シ斑點アレバ（しくんし科、ゆきのした科、*Samydaceæ*）蕚ハ鑷合樣ニシテ胚珠ハ子房腔ノ頂端ヨリ垂生ス（しくんし科）或ハ柱頭ハ分裂ス或ハ花瓣ハ鑷合樣ナリ或ハ葉ハ互生ニシテ雄蘂花瓣ト同數ナリ　16

(16)

(a) 子房一室、胚珠ハ二─六個、子房腔ノ頂端ヨリ垂生ス　しくんし科　*Combretaceæ*

(b) 子房一室ニシテ特生中央胎坐（のぼたん科）或ハ側膜胎坐（ゆきのした科、つきみさう科）アリ或ハ子房多室ナリ　17

(17)

(a) 葯ハ頂端ニ一孔アリテ開ク（孔ハ稀ニ一─二個ノ裂目ニ通ズ）稀ニ二孔アリ若クハ一個ノ裂目アリテ開ク雄蕊ハ花瓣ノ倍數或ハ稀ニ之ト同數ニシテ之ニ互生ス　のぼたん科　Melastomaceæ

(b) 葯ハ二個ノ裂目ヲ以テ縱裂ス稀ニ一個ノ裂目ヲ以テ横裂スルヿアレバ雄蕊花瓣ヨリ少シ

18

(18)
(a) 蕚ノ發狀ハ鑷合樣、子房ハ完全、或ハ不完全ニ四—五室、花柱ハ分裂セズ柱頭ハ分裂セズ或ハ四裂、花瓣ノ發狀ハ回旋、葯ハ大抵長シ　つきみさう科　Onagrarieæ
(b) 蕚ノ發狀ハ覆瓦樣稀ニ鑷合樣（ゆきのした科）ナレバ花柱分裂シ且花瓣ハ大抵鑷合樣ニシテ葯ハ大抵短シ或ハ子房ハ一—三室ニシテ葯ハ大抵短シ花瓣ノ發狀ハ覆瓦樣或ハ鑷合樣稀ニ回旋ナリ　19

(19)
(a) 胚珠ハ子房ノ各室ニ二個、雄蕊ハ花瓣ト同數、葉ハ互生ナリ　*Bruniaceæ*
(b) 胚珠ハ子房ノ各室ニ三個以上極テ稀ニ二個ナレバ雄蘂ハ花瓣ニ倍シ葉ハ對生ナリ　ゆきのした科　Saxifrageæ

(20)
(a) 托葉アリ　21
(b) 托葉ナシ　25

(21)
(a) 葉ハ對生ナリ　たんがら科　Rhizophoreæ
(b) 葉ハ互生ナリ　22

(22)
(a) 子房ハ一室ニシテ胚珠ハ三個以上、花柱ハ多數ニシテ相分離シ或ハ基底ニテ相合着ス果實ハ蒴ナリ喬木或ハ灌木蕚片ハ六—七個ナリ　*Samydaceæ*
(b) 子房ハ多ク多室稀ニ一室ナレバ（ふともゝ科、ばら科）胚珠ハ二個、花柱ハ大抵分裂セズ且果實ハ石果、漿果或ハ瘦果ナリ　23

(23)

(a) 子房多室ニシテ各室ニ胚珠一－二個稀ニ一室ナレバ各室ニ胚珠二個ナリ葉ニ斑點ナシ果實ハ大抵多肉、花瓣及ビ萼片ハ各々五個、覆瓦樣、種子ニ胚乳ナシ　ばら科　Rosaceæ

(b) 子房多室ニシテ各室ニ胚珠三個以上稀ニ（ふともゝ科）一室ニシテ各室ニ胚珠二個ナレバ葉ニ斑點アリテ果實乾燥ナリ　24

(24)

(a) 花柱分裂セズ柱頭分裂セズ或ハ淺裂ス萼ハ全邊ナリ或ハ三－六裂ニシテ幼蕾ニ於テハ覆瓦樣ナリ或ハ蕾ニ於テハ閉鎖シ後ニ不規則ニ破壞ス花ハ完全或ハ多家ナリ　ふともゝ科　Myrtaceæ

(b) 花柱ハ多數相分離シ或ハ基底ニテ相合着ス往々其全長柱頭樣ナリ萼片ハ雄花ニ於テハ二個、鑷合樣ナリ花ハ一家、極テ稀ニ多家　しうかいだう科　Begoniaceæ

(25)

(a) 花瓣ノ發狀ハ內向鑷合樣、子房ハ一室極テ稀ニ二－三室、葉ニ斑點ナシ　*Loaseæ*

(b) 花瓣ノ發狀ハ覆瓦樣稀ニ（ふともゝ科）其上部ハ帽狀ニ合着シ合着セルマヽ脫落シ且子房ニ隔壁アリテ葉ニ大抵斑點アリ　26

(26)

(a) 子房ハ一室、葉ハ大抵鱗片狀或ハ全然欠如極テ稀ニ大ナル無斑點ノ葉アリ莖ハ多肉、葉綠ヲ有ス（綠色）多ク木針及ビ疣アリ花ハ完全、花柱ハ分裂セズ柱頭ハ淺裂ス胚珠ハ無數、多數ノ側膜胎坐ニ附着ス　さぼてん科　*Cacteæ*

(b) 子房ハ多室稀ニ一室（ふともゝ科）ナレバ灌木ニシテ葉ニ小斑點アリ且胚珠ハ二個（稀ニ三－十個）ニシテ胎坐ハ子房腔ノ頂端及ビ基底ニ附着シ或ハ子房腔ノ基底ヨリ生ジ往々少ク側壁ニ及ブ　27

(27)

(a) 水草ニシテ葉ハ根生、長柄アリ、水上ニ浮游シ、芽ニ於テ盤旋狀多クハ楯形ナリ胚珠ハ子房ノ側壁或ハ隔壁ニ附着ス果實ハ漿果胚ハ眞直ナリ　ひつじぐさ科　Nymphaeaceæ

(b) 陸生植物多クハ灌木或ハ喬木稀ニ半灌木（ざくろさう科、ふともゝ科）或は草本（ざくろさう科）ナリ草本ノ時ハ葉ハ多肉ニシテ大抵對生、胚珠ハ多少子房腔ノ基底ニ附着ス且果實ハ蒴ニシテ胚ハ彎曲ス　28

(28)

(a) 草本或ハ半灌木、花瓣ハ多數、果實ハ蒴、花柱ハ多數ニシテ相分離シ或ハ基底ニテ相合着ス（花柱ハ其內面往々柱頭狀ナリ）　ざくろさう科　Ficoideæ

(b) 灌木或ハ喬木稀ニ半灌木（ふともゝ科）ナレバ花瓣四—五個ニシテ果實ハ漿果ナリ花柱一個、分裂セズ柱頭分裂セズ或ハ淺裂ス　29

(29)

(a) 葉ハ對生（對生葉ノ內一個ハ他ノモノヨリ非常ニ小ナリ）斑點ナシ葯ハ頂點ニ一孔アリテ裂開ス稀ニ二孔或ハ一個ノ裂目アリ極テ稀ニ二個ノ裂目アリテ裂開ス　のぼたん科　Melastomaceæ

(b) 葉ハ互生稀ニ對生ナレバ斑點ナシ（ふともゝ科）葯ハ二個ノ裂目ヲ以テ縱裂ス稀ニ（ふともゝ科）二個ノ頂生孔穴ヲ以テ開ク　30

(30)

(a) 花盤ハ蕚管ニ附着シ雄蕊ハ花盤ニ附着ス胚乳無シ或ハ極テ少量ナリ　ふともゝ科　Myrtaceæ

(b) 雄蕊ハ花瓣ノ基底ニ附着ス花盤ナシ胚乳多量ナリ　えごのき科　Styraceæ

(31)

(a) 完全ナル雄蕊ハ一—十個　32

(b) 完全ナル雄蕊ハ十一個以上　117

(32)(a) 子房ハ一個一室或ハ不完全ニ多室（稀ニ數個ノ不熟雌蕊アレ𪜈殆ド唯花柱アルノミ或ハ雄花ニ於テハ多クノ不熟雄蕊アリテ雄花ニ一個ノ成熟子房アリ） 33

(b) 子房一個ニシテ完全ニ多室或ハ多數ナリ 61

(33)(a) 蕚片二個、相分離シ稀ニ基底ニテ相合着ス胚珠ハ子房ノ基底ヨリ起リ或ハ中央胎坐或ハ二個ノ側膜胎坐ニ附着ス花ハ整正然ラザレバ雄蕊四個或ハ六個ナリ 34

(b) 蕚片或ハ蕚ノ裂片ハ三個以上或ハ一個或ハ蕚ハ多少全邊或ハ（荳科）蕚片ハ相合着シテ二淺裂ノ蕚ヲ爲セバ（蕚片ハ高ク相合着シ極テ稀ニ唯基底ニテ合着ス）胚珠ハ一個ノ側膜胎坐ニ附着シテ花ハ不整正且雄蕊ハ五個、九個或ハ十個ナリ 35

(34)(a) 葉ハ分裂セズ花ハ整正雄蕊ハ花瓣ト同數ニシテ之ニ對生シ若クハ之ヨリ少數、子房下位ナリ胚珠ハ二個以上子房ノ基底ニ附着シ或ハ一個ノ中央胎坐ニ附着ス　すべりひゆ科 Portulaceæ

(b) 葉ハ缺刻ス花ハ大抵不整正、花瓣ハ四個ニシテ距アリ雄蕊六個極テ稀ニ四個ニシテ花瓣ニ對生ス胚珠ハ二個ノ側膜胎坐ニ附着ス（然レ𪜈往々胚珠一個ニシテ一個ノ胎坐ノ基底ニ附着シ、他ノ胎坐ニハ胚珠ナシ　けし科 Papaveraceæ

(35)(a) 花柱多數全然相分離ス或ハ花柱一個ニシテ多少分裂シ柱頭ハ相分離ス稀ニ（せきちく科、たで科、とけいさう科）無柱々頭多數ナリ 36

(b) 花柱一個、分裂セズ、柱頭分裂セズ或ハ淺裂ス或ハ柱頭多數ニシテ基底ニテ相合着ス稀ニ柱頭無柱ニシテ分裂セズ或ハ淺裂ス 45

(36)(a) 子房ニハ一個ノ胚珠アリ　37

(b) 子房ニハ二個以上ノ胚珠アリ　40

(37)(a) 花被ハ不明瞭ニ三個ノ萼片ト三個ノ花瓣トニ分離ス葉柄ノ基底ハ多ク擴大シ托葉ハ合シテ管ヲナス

たで科　Polygonaceæ

(b) 花被ハ一個或ハ四—七個ノ萼片ト同數ノ花瓣トヨリ成ル托葉ナシ　38

(38)(a) 雌花ニハ一個ノ萼片ト一個稀ニ二個ノ花瓣アリ雄花ノ花瓣ハ相合着ス（極テ稀ニ雌花ニハ三—五個ノ分離セル萼片ト同數ノ花瓣アリ雄花ニハ三—五個ノ花瓣ト倍數ノ分離セル萼片アリ花瓣萼片共ニ覆瓦樣而シテ葯ハ相合着シテ環ヲナス

かうもりかづら科　Menispermaceæ

(b) 萼片四—六個、基底ニテ或ハ尚高キ部迄相合着ス花瓣ハ之ト同數ナリ花ハ完全稀ニ多家或ハ一家ナレバ花盤ハ大抵アリ且花糸ハ相分離シ或ハ基底ニテ相合着シ花盤ト合着ス　39

(39)(a) 雄蕊ハ花瓣ト同數(五個)ニシテ之ニ對生ス花盤ナシ

いそまつ科　Plumbagineæ

(b) 雄蕊ハ花瓣ト同數ニシテ之ニ互生ス或ハ之ヨリ少ク或ハ多シ花盤ハ大抵アリ

うるし科　Anacardiaceæ

(40)(a) 胚珠ハ一個或ハ多數ノ中央胎坐若クハ基底胎坐（ぎよりう科ニ於テハ胎坐ハ往々側壁ニ少ク附着ス）ニ附着ス　41

(b) 胚珠ハ多數ノ側膜胎坐ニ附着ス　42

(41)(a) 葉ハ對生、草本或ハ半灌木、種子ニ胚乳アリ胚ハ大抵彎曲ス　せきちく科　Caryophylleæ

(b) 葉ハ互生、灌木或ハ喬木、極テ稀ニ半灌木或ハ堅硬ナル草本、種子ニ大抵胚乳ナク胚ハ眞直ナリ　ぎよりう科　*Tamariscineæ*

(42)(a) 蕚ノ基底或ハ咽喉部ニ管狀或ハ糸狀ノ副冠アリ稀ニ之ナキ時ハ花ハ單性ナリ花盤ハ多クアリ雄蕊ハ花瓣ト同數稀ニ多數ナレバ灌木或ハ喬木ナリ蕚片ハ相合着ス種皮ニ溝或ハ格子狀ノ紋アリ多クハ卷鬚植物ナリ　とけいさう科　*Passifloreæ*

(b) 花ニ副冠、不熟雄蕊及ヒ花盤ナシ然レ𪜈花瓣ハ往々其內面ニ鱗片ヲ有ス花ハ完全ナリ　43

(43)(a) 葉ハ對生蕚片ノ發狀ハ內向鑷合樣、雄蕊ハ稀ニ花瓣ト同數多クハ六個花柱一個其先端ハ二—四個ニ分枝ス花ハ紅色或ハ紫色ナリ　*Frankeniaceæ*

(b) 葉ハ互生或ハ根生、蕚片ノ發狀ハ覆瓦樣、雄蕊ハ花瓣ト同數ニシテ四、五或ハ八個ナリ花柱ハ多數ニシテ相分離シ或ハ基底ニテ相合着ス　44

(44)(a) 花瓣ハ花後脫落、芽ノ發狀ハ回旋蕚片ハ花後脫落葯ハ內面ニテ裂開ス胎坐ハ花柱ニ對生ス　*Turneraceæ*

(b) 花瓣ハ花後凋萎シ發狀ハ覆瓦樣、蕚ハ宿存、葯ハ外面ニテ裂開シ稀ニ側面ニテ裂開ス胎坐ハ花柱ト互生ス　もうせんおけ科　Droseraceæ

(45)(a) 胚珠ハ二個或ハ多數ノ側膜胎坐ニ附着ス　46

(b)胚珠ハ一―二個或ハ多數ノ時ハ一個ノ側膜胎坐若クハ一個ノ中央或ハ基底胎坐ニ附着ス　50

(46)(a)花瓣ハ四個ナリ　47

(b)花瓣ハ五個ナリ　48

(47)(a)雄蕊六個、四强雄蕊ナリ稀ニ六個ニ至ラズ然ル時ハ子房ハ幼時一室ナレ𪜈花後（果實ニ於テモ）二室ナリ果實ハ長角完全若クハ不完全ニ二室多クハ二裂片ニ裂開ス稀ニ裂開セズ或ハ多數ノ裂片ニ横裂ス

十字花科　Cruciferæ

(b)雄蕊六個、皆同長或ハ殆同長、四强雄蕊ニアラズ稀ニ六個以上若クハ以下ナリ果實ハ一室ノ長角狀蒴或ハ漿果ナリ

ふうちやうさう科　Capparideæ

(48)(a)葉ハ羽狀複葉、花瓣及ビ雄蕊ハ子房周位、葯ハ一個ノ裂目ヲ以テ縦裂ス

Moringeæ

(b)葉ハ單葉、分裂セズ、稀ニ（すみれ科）缺刻、雄蘂及ビ花瓣ハ子房下位或ハ殆下位、葯ハ二個ノ裂目ヲ以テ縦裂シ或ハ(*Ochnaceæ*)頂點ノ孔穴ヲ以テ裂開ス　49

(49)(a)托葉アリ子房ハ三―五個ノ僅ニ突出セル胎坐ヲ有ス胚ハ大、胚乳ハ多肉、雄蕊ハ五個、葯ハ縦裂ス

すみれ科　Violarieæ

(b)托葉ナシ子房ハ二個（稀ニ二個ヲ超過ス）ノ胎坐ヲ有ス胎坐ハ突出シテ子房內ニ不完全ナル隔壁ヲ成ス稀ニ胎坐ハ僅ニ突出ス胚ハ極テ微小胚乳ハ硬固葉ハ互生、蕚ハ覆瓦樣、相分離シ或ハ基底ニテ相合着ス、

雄蕊ハ五個ナリ　　とべら科　Pittosporeæ

(50)(a)花被ハ三個ノ蕚片ト三個ノ花瓣トヨリ成ル葉ハ單葉ニシテ分裂セズ或ハ淺裂シ或ハ欠如ス葯ハ二－四個ノ下ヨリ上ニ向テ開ク所ノ戸ニテ裂開ス雄蕊ハ子房周位、胚珠ハ一個垂生、稀ニ別ニ尚一個ノ胚珠アレ𪜈直ニ凋萎ス　　につけい科　Laurineæ

(b)花被片ハ多ク六個ヲ超過ス稀ニ蕚片及ヒ花瓣各々三個（荳科、へんるうだ科、及ヒ僅少ノうるし科）ナレバ葉ハ複葉（極テ稀ニ單葉或ハ欠如シ且雄蕊ハ子房下位或ハ子房ニハ多數ノ胚珠側胎膜坐ニ附着ス）ナリ葯ハ裂目或ハ孔穴ヲ以テ開キ稀ニ戸ヲ以テ開ケバ（めぎ科）花被片ハ十二個以上ニシテ雄蕊ハ子房下位ナリ　　51

(51)(a)草本（或ハ半灌木）、蕚片及ヒ花瓣ハ各々四個、蕚片ハ相分離ス雄蕊ハ子房下位、六個、四强雄蕊稀ニ六個ニ至ラズ葉ハ單葉（往々缺刻）或ハ欠如ス葉ハ整正稀ニ少シ不整正（即二個ノ外花瓣ハ二個ノ内花瓣ヨリ大ナリ然レ𪜈同形）　　十字花科　Cruciferæ

(b)稀ニ草本（或ハ半灌木）ニシテ蕚片及ヒ花瓣ハ各々四個雄蕊ハ大抵子房周位ニシテ蕚片ハ多少相合着ス稀ニ雄蕊ハ子房下位ニシテ蕚片相分離スレバ葉ハ複葉或ハ花ハ蝶形花ニシテ雄蕊九－十個ナリ　　52

(52)(a)花被ハ十二個以上ノ相分離セル花瓣様片ヨリ成ル花瓣様片ハ各々六個ノ蕚片及ヒ花瓣ニ不明瞭ニ分ル花被ノ内片（花瓣）ハ覆瓦様、雄蕊ハ之ト同數ニシテ對生ス子房下位ナリ　　めぎ科　Berberideæ (b)花被葉(萼片花瓣共)ハ多ク十個或ハ之ヨリ少シ十二個以上ナレバ萼片ハ大抵多少相合着シ且花瓣ハ鑷合樣或ハ雄蕊ハ花瓣ヨリ多ク或ハ少ク或ハ同數ナレバ之ト互生シ或ハ子房周位ナリ　53

(53)(a)花ハ不整正、葉ハ單葉、分裂セズ、花瓣及ビ雄蕊ハ子房下位、雄蕊ハ八個稀ニ四個ナリ

ひめはぎ科　Polygaleæ

(b)花ハ整正稀ニ不整正(荳科、ばら科、僅少ノうるし科及ビ *Connaraceæ*)ナレバ葉ハ複葉或ハ花瓣及ビ雄蕊ハ子房周位或ハ雄蕊九－十個ナリ　54

(54)(a)子房ハ不完全ニ二室、各室ニ胚珠二個、胚珠ハ基底ニテ附着ス、花瓣ハ四－五個、發狀ハ鑷合樣雄蕊ハ花瓣ト同數ニシテ之ニ對生ス卷鬚アリ多ク纏繞スル灌木ナリ

ぶだう科　Ampelideæ

(b)子房ハ完全ニ一室或ハ不完全ニ三室(極テ稀ニ四－五室)三－四－五室ノトキハ(ほろ〱のき科、にでのき科)各室ニ一個ノ垂生胚珠アリ或ハ雄蕊ハ花瓣ノ倍數即十個ナリ花瓣ノ發狀ハ覆瓦樣、稀ニ鑷合樣ナレバ雄蕊ハ花瓣ニ倍ス或ハ胚珠ハ一－三個ナリ(極テ稀ニ三個ヲ超ユレバ草本或ハ喬木ナリ)　55

(55)(a)花瓣ハ四－六個、發狀ハ鑷合樣、葉ハ單葉、分裂セズ、托葉ナシ、喬木或ハ灌木、極テ稀ニ半灌木ナリ

ほろ〱のき科　Olacineæ

(b)花瓣ノ發狀ハ覆瓦樣或ハ回旋或ハ(荳科)唯一個ノ花瓣アリ稀ニ花瓣鑷合樣ナレバ葉ハ複葉ナリ(僅少ノばら科ニ於テハ單葉ナレモ托葉アリ且草本ナリ)　56

(56)(a) 胚珠ハ圓キ中央胎坐ニ附着ス雄蕊ハ花瓣ト同數（四―五個）ニシテ之ニ對生シ且之ニ附着ス葉ハ單葉、分裂セズ托葉ナシ　やぶかうじ科　Myrsineæ

(b) 胚珠ハ子房ノ側壁或ハ基底ニ附着シ或ハ子房室ノ先端ヨリ垂生ス雄蕊ハ稀ニ花瓣ト同數ニシテ之ニ對生ス然ルトキハ葉ハ複葉然ラザレバ單葉ニシテ托葉アリ　57

(57)(a) 雄蕊ハ花瓣ト同數、子房下位、胚珠ハ二個、花ハ多家或ハ單性、托葉欠如或ハ葉柄上ノ腺ト化ス花絲ハ相分離ス　へんるうだ科　Rutaceæ

(b) 雄蕊ハ稀ニ花瓣ト同數ニシテ且子房下位然ルトキハ胚珠一個若クハ三個以上或ハ花ハ完全或ハ托葉アリ　58

(58)(a) 子房ニハ胚珠一個、花ハ整正極テ稀ニ少ク不整正、托葉ナシ然レドモ複葉ノ下部ノ小葉ハ往々托葉狀ナリ雄蕊ノ内部ニハ多ク輪狀ノ花盤アリ稀ニ雄蕊ノ外部ニアリ或ハ全然欠如ス花盤雄蕊ノ外部ニアリ若クハ全然欠如スルトキハ葉ハ單葉ニシテ大抵全邊ナリ花絲ハ相分離シ或ハ基底ニテ相合着ス種子ニ假種皮ナシ　うるし科　Anacardiaceæ

(b) 子房ニ二個以上ノ胚珠アリ稀ニ（荳科、ばら科）胚珠一個ナレバ花ハ大抵多少不整正ニシテ蝶形花或ハ僅ニ不整正若クハ全然整正ナレバ托葉アリ　59

(59)(a) 花柱ハ子房ノ基底或ハ稀ニ側邊ヨリ起リ或ハ殆ド其頂點ヨリ起ル側邊或ハ頂點ヨリ起ルトキハ葉ハ單葉ニシテ萼ハ覆瓦様ノ五裂片ヲ有シ第五ノ裂片ハ枝ニ對ス或ハ草本ニシテ花瓣ハ鑷合様且雄蕊ハ一―四個ナリ　ばら科　Rosaceæ (b)花柱ハ子房ノ頂點ヨリ起リ或ハ殆ド頂點ヨリ起ル葉ハ單葉ニシテ萼ニ五個ノ覆瓦樣ノ裂片アルトキハ（荳科）第五ノ裂片ハ枝或ハ莖ト反對ノ位置ニアリ又草本ニシテ花瓣鑷合樣ナルトキハ（荳科）雄蕊ハ五個以上ナリ　60

(60)(a)胚珠ハ直生、二個、相並ンデ上昇、托葉ナシ　*Connaraceæ*

(b)胚珠ハ倒生或ハ半倒生、多ク一個ノ側膜胎坐ニ相重リテ附着ス托葉ハ大抵アリ然レドモ往々極テ微細ニシテ脫落性ナリ　荳科 Leguminosæ

(61)(a)花ハ單性ナリ　62

(b)花ハ完全或ハ多家ナリ　67

(62)(a)子房ハ多數、相分離シ花柱モ全然相分離ス、三個（稀ニ六個以上）ノ子房ニハ各々胚珠一個アリ　かうもりかづら科 Menispermaceæ

(b)子房ハ一個、分裂セズ或ハ淺裂ス極テ稀ニ（にがき科、へんるうだ科）子房多數ニシテ全然相分離スルモ花柱ハ少クモ一部分ハ相合着ス　63

(63)(a)雌花ニハ花被ナシ（唯子房ヨリ成ル然レドモ多ク苞ト雜ル）、多肉ナル毬果ヲナス柱頭無柱、不明瞭ニ二裂、胚珠ハ直立ナリ　*Batideæ*

(b)花ニ花被アリ極テ稀ニ（たかとうだい科）雌雄花ノ內一ニハ花被ナキトキハ花ハ毬果ヲナサズシテ花柱或ハ柱頭ハ分裂シ胚珠ハ下降ナリ　64

(64)(a)葉ハ羽狀複葉、互生、斑點ナシ花瓣ハ覆瓦樣稀ニ鑷合樣ナレバ喬木ナリ雄蕊ハ花盤ノ外ニアリテ其基底

ニ附着ス花柱ハ明瞭ニ淺裂シ若クハ分裂セル柱頭ヲ有ス或ハ花柱欠如スレハ多數ノ無柱々頭アリ（極テ稀ニ柱頭及ビ花柱共ニ分裂セズ然ル時ハ子房ハ五室ニシテ各室ニ胚珠一個アリ）子房ノ各室ニハ胚珠一ー二個、下降ナリ　にがき科　Simarubeæ

(b) 葉ハ單葉或ハ掌狀複葉或ハ欠如ス稀ニ羽狀複葉ナレバ葉ハ對生シ（へんるうだ科、ひらぎ科）或ハ雄蕊ハ花盤ノ內部ニ位シ極テ稀ニ其裂片間ニ位ス（むくろじ科）或ハ灌木ニシテ卷鬚アリ且花瓣ハ鑷合樣ニシテ花柱ハ分裂セズ或ハ欠如シ柱頭ハ少ク淺裂シ各子房室ニハ二個ノ上昇胚珠アリ　65

(65) (a) 胚珠ハ垂生或ハ下降ナリ　たかとうだい科　Euphorbiaceæ

(b) 胚珠ハ直立或ハ上昇稀ニ平臥、葉ハ單葉、分裂セズ斑點ナシ　66

(66) (a) 葉ハ對生、托葉アリ蕚ノ裂片ハ二ー四個、發狀ハ鑷合樣、花瓣ハ四個、種子ニ胚乳ナシ　*Salvadoraceæ*

(b) 葉ハ互生、托葉ナシ蕚片三個、發狀ハ覆瓦樣或ハ開展、花瓣ハ三個種子ニ多量ノ胚乳アリ　がんかうらん科　Empetraceæ

(67) (a) 花柱ハ多數ニシテ相分離シ或ハ唯上部ニテ相合着シ基底ニテ相分離ス或ハ花柱一個ニシテ分裂シ柱頭モ相分離ス或ハ無柱々頭多數ナリ　68

(b) 花柱一個、分裂セズ柱頭分裂セズ或ハ淺裂ス或ハ多數ノ柱頭其下端ヲ以テ相合ス或ハ一花ニ一個ノ分裂セル或ハ淺裂セル無柱々頭アリ　83

(68)(a)完全花及ビ雌花ニ於テハ子房多數相分離ス稀ニ基底ニテ相合着スルコアルモ其中點迄相合着スルコナシ花柱或ハ無柱々頭ハ全然相分離ス　69

(b)完全花及ビ雌花ニ於テハ子房一個ニシテ分裂セズ或ハ淺裂シ花柱ハ全然或ハ一部相分離ス或ハ子房多數ニシテ花柱ハ一部(基底若クハ先端)相合着ス　73

(69)(a)托葉アリ葉ハ互生、雄蕊ハ子房周位、蕚ハ四―五淺裂、五淺裂ニシテ覆瓦樣ナレバ蕚ノ第五裂片ハ校或ハ莖ニ對ス花柱ハ子房ノ眞ノ頂點ヨリ起ラズ　ばら科　Rosaceæ

(b)托葉ナシ　70

(70)(a)木本(灌木)ニシテ葉ハ對生或ハ輪生、子房ニハ胚珠一個、花瓣及ビ雄蕊ハ子房下位、蕚片及ビ花瓣ハ各々五個ナリ　どくうつぎ科　Coriarieæ

(b)多ク木本ニシテ葉ハ互生或ハ草本ナリ稀ニ(へんるうだ科、べんけいさう科)木本ニシテ葉ハ對生ナレバ子房ニ二個以上ノ胚珠アリ　71

(71)(a)草本或ハ半灌木稀ニ灌木ナレバ子房ニ三個以上ノ胚珠アリ　べんけいさう科　Crassulaceæ

(b)灌木或ハ喬木、子房ニ二個ノ胚珠アリ　72

(72)(a)胚珠ハ下降、倒生、雄蕊及ビ不熟雄蕊ハ併セテ三―八個子葉ハ葉狀ニシテ平扁或ハ摺襞ス葉ニハ大抵腺點アリ　へんるうだ科　Rutaceæ

(b)胚珠ハ上昇、直生、雄蕊及ビ不熟雄蕊ハ併セテ十個極テ稀ニ五個ナレバ子葉ハ巴旦杏狀ナリ　*Connaraceæ*

(73)(a)雄蕊ハ子房下位或ハ殆ド然リ花盤欠如然レ𪜈往々多數ノ相分離セル腺アリ（殊ニぬめでま科及ビふうろさう科）或ハ花絲管ハ花盤ニ彷彿ス（殊ニあをぎり科）（雄蕊ハ子房ノ下ニアリ凸起セル或ハ小ニシテ平扁ナル花托ニ附着ス）　74

(b)雄蕊ハ明瞭ニ子房周位或ハ多少子房下位ナレバ花盤アリテ輪狀、枕狀或ハ碗狀ニシテ分裂セズ或ハ淺裂シ完全シ或ハ唯一方ニアリ（雄蕊ハ萼ノ上部若クハ中部ニ付着シ或ハ萼管ニ附着スル凹形ノ花盤ノ上緣ニ附着シ或ハ萼ニ附着セザル花盤ノ上部若クハ下部ニ附着ス）　78

(74)(a)葉ハ對生或ハ輪生、托葉アリ胚珠ハ子房ノ各室ニ三個以上ナリ　みぞはこべ科　Elatineæ

(b)葉ハ多ク互生或ハ托葉ナシ稀ニ對生（或ハ輪生）ニシテ托葉アレバ胚珠ハ子房ノ各室ニ一―二個ナリ　75

(75)(a)萼ノ發狀ハ鑷合樣或ハ閉鎖、葉ハ互生、花絲ハ少クモ其基底ニテ相合着ス極テ稀ニ相分離スレバ其內五個ニノミ葯アリ　あをぎり科　Sterculiaceæ

(b)萼ノ發狀ハ覆瓦樣稀ニ鑷合樣（*Malpighiaceæ.* ふうろさう科）ナレバ葉ハ對生或ハ雄蕊八―十個ニシテ花絲ハ相分離ス　76

(76)(a)子房ハ一個ニシテ分裂セズ或ハ僅ニ淺裂ス花ハ整正、葉ハ互生稀ニ對生ナレバ胚珠ハ子房ノ各室ニ二個ナリ萼片及ビ花瓣ハ各々四―五個、花ハ完全、草本（或ハ半灌木）ニシテ雄蕊ハ花瓣ト同數、而シテ同數ノ不熟雄蕊アリ或ハ木本ニシテ雄蕊ハ花瓣ニ倍ス花絲ハ其基底ニテ相合着シテ輪ヲナシ或ハ短キ管ヲナス短キ管ニハ多ク五個ノ腺アリ花柱ハ多數、相分離シ或ハ一部相合着ス

ぬめごま科　Lineæ

(b) 子房多數ニシテ相分離ス或ハ子房一個ニシテ深ク（胎坐ニ至ル）分裂シ稀ニ分裂セズ或ハ僅ニ淺裂スルトキハ花ハ不整正ニシテ多ク距アリ或ハ葉ハ對生ニシテ且胚珠ハ子房ノ各室ニ一個ナリ　77

(77)(a) 子房ハ二—三室ニシテ胚珠ハ各室ニ一個、灌木或ハ喬木稀ニ半灌木ナレバ葉ハ對生ナリ葉ハ單葉、分裂セズ或ハ淺裂ス萼ノ裂片ハ五個ナリ

Malpighiaceæ

(b) 子房ハ五室稀ニ三室ナレバ胚珠ハ各室ニ二個或ハ草本ニシテ葉ハ互生ナリ、草本或ハ半灌木稀ニ灌木或ハ喬木ナレバ雄蕊ハ花瓣ヨリ多ク或ハ子房ノ各室ニ胚珠三個以上或ハ花ハ不整正ニシテ托葉アリ

ふうろさう科　Geraniaceæ

(78)(a) 雄蕊ハ花瓣ト同數ニシテ之ニ對生ス子房ハ二—四室分裂セズ或ハ僅ニ淺裂シ各室ニ胚珠一個アリ花柱ハ基底ニテ相合着スレドモ上部ニテ相分離ス花瓣ノ發狀ハ鑷合樣或ハ開展ナリ

くろうめもどき科　Rhamneæ

(b) 雄蕊は花瓣ト同數ニシテ之ト互生ス或ハ花瓣ヨリ多ク或ハ少シ　79

(79)(a) 胚珠ハ子房ノ各室ニ三個以上草本ニシテ花柱ハ全然相分離ス或ハ木本ニシテ雄蕊八—十個ナリ

ゆきのした科　Saxifrageæ

(b) 胚珠ハ子房ノ各室ニ多クハ一—二個稀ニ之ヨリ多ケレバ草本ニシテ花柱ハ基底ニテ相分離シ上部ニテ全然相合着ス（へんるうだ科）或ハ木本ニシテ雄蕊三—五個ナリ（むくろじ科、まゆみ科）

80

(80)(a)葉ハ分裂セズシテ托葉アリ胚珠ハ子房ノ各室ニ二個花瓣ハ萼片ヨリ少ク長シ胚珠ハ埀生ナリ

Chailletiaceæ

(b)葉ハ複葉或ハ托葉ナシ極テ稀ニ單葉ニシテ托葉アレバ胚珠ハ子房ノ各室ニ一個アリ　81

(81)(a)葉ニ腺點アリ雄蕊ハ花盤ノ外部ニ附着ス　へんるうだ科　Rutaceæ

(b)葉ニ稀ニ斑點アリ然ル𪜈ハ雄蕊ハ花盤ノ内部ニ附着ス　82

(82)(a)雄蕊ハ花盤ノ内部(花盤ト子房ノ間)ニ附着ス稀ニ其外部或ハ縁邊ニ附着スレバ胚珠ハ子房ノ各室ニ二個以上、胚珠ハ上昇ナリ　むくろじ科　Sapindaceæ

(b)雄蕊ハ花盤ノ外部ニアリテ其基底極テ稀ニ其縁邊ニ附着ス胚珠ハ子房ノ各室ニ一個、胚珠ハ下降、子房ハ深ク分裂ス極テ稀ニ分裂セズ或ハ僅ニ淺裂スレバ葉ハ分裂セズ或ハ灌木ニシテ漿果アリ葉ハ互生複葉極テ稀ニ單葉ナレバ子房ハ三室ナラズ　にがき科　Simarubeæ

(83)(a)草本或ハ半灌木、萼片四個相分離ス花瓣四個、雄蕊六個、四强雄蕊、子房下位、稀ニ六個ノ内或ル者ハ不熟或ハ欠如ス胚珠ハ側膜胎坐ニ附着ス　十字花科　Cruciferæ

(b)稀ニ草本或ハ半灌木ニシテ萼片及ビ花瓣ハ各々四個然ル𪜈ハ雄蕊ハ大抵八個極テ稀ニ之ヨリ少キ𪜈ハ(みそはぎ科)萼ハ合萼、雄蕊ハ子房周位且胚珠ハ中央胎坐ニ附着ス　84

(84)(a)萼片及ビ花瓣ノ發狀ハ鑷合樣、雄蕊ハ花瓣ニ倍ス(六－十個)子房ハ二室分裂セズ或ハ僅ニ淺裂ス小灌木ニ

シテ葉ハ分裂セズ且斑點ナシ *Tremandreæ.*

(b) 稀ニ萼片及ビ花瓣ハ鑷合樣且雄蕊ハ花瓣ニ倍シ且子房ハ二室ナリ然ルトキハ（へんるうだ科、かんらん科、せんだん科）葉ハ複葉或ハ斑點アリ（斑點アルトキハ半灌木若クハ子房ハ深ク分裂ス） 85

(85) (a) 胚珠ハ子房ノ各室（或ハ各裂片）ニ一個アリ 86

(b) 胚珠ハ子房ノ各室（或ハ各裂片）ニ二個以上アリ 97

(86) (a) 雄蕊ハ花瓣ト同數ニシテ之ニ對生、子房周位ナリ花瓣ハ萼ノ咽喉部ニ附着シ發狀ハ鑷合樣或ハ開展、子房ハ二―四室、分裂セズ或ハ少ク淺裂ス くろうめもどき科 Rhamneæ.

(b) 雄蕊ハ花瓣ト同數ニシテ之ニ互生ス或ハ花瓣ヨリ多ク或ハ少シ極テ稀ニ同數ニシテ對生スルモ（*Malpighiaceæ.*）雄蕊ハ子房下位ニシテ花瓣ノ發狀ハ覆瓦樣、且子房ハ三個ニシテ相分離シ或ハ單ニ軸部ニ於テ會合ス 87

(87) (a) 雄蕊ハ花盤ノ內部ニ附着ス むくろじ科 Sapindaceæ.

(b) 雄蕊ハ花盤ノ外部（其基底）ニ附着シ或ハ其緣邊（或ハ其裂片間）ニ附着ス或ハ花盤ハ全然欠如ス 88

(88) (a) 花ハ不整正、子房ハ二室ナリ ひめはぎ科 Polygaleæ.

(b) 花ハ整正稀ニ不整正ナルモ子房ハ三―多室ナリ 89

(89) (a) 草本ナリ雄蕊五個ニシテ子房周位ナリ *Stackhousieæ.*

(b)喬木或ハ灌木稀ニ草本或ハ半灌木ナルモ雄蕊ハ六個以上或ハ子房周位ナリ　90

(90)(a)草本ナリ萼ニ距アリ雄蕊ハ八個ナリ　ふうろさう科　Geraniaceæ.

(b)喬木或ハ灌木稀ニ草本或ハ半灌木(*Malpighiaceæ.*はまびし科)ナルモ萼ニ距ナク且雄蕊二―六個或ハ十個ナリ　91

(91)(a)花絲ハ相合着ス葉ハ羽狀複葉或ハ三葉複葉ナリ　せんだん科　Meliaceæ

(b)花絲ハ相分離ス稀ニ相合着スルモ葉ハ分裂セズ或ハ淺裂ス極テ稀ニ一葉複葉ナリ　92

(92)(a)葉ニ腺點アリ複葉(然レ𪜈多クハ一葉複葉ニシテ葉柄ニ不明瞭ナル結節アリ)ニシテ大抵互生ナリ花盤アリ　へんるうだ科　Rutaceæ

(b)葉ニ斑點ナシ極メテ稀ニ緣邊或ハ下面ニ斑點アルモ(*Malpighiaceæ*)葉ハ單葉ニシテ對生且花盤ハ著シカラズ　93

(93)(a)雄蕊ハ花瓣ト同數、四―五個ナリ子房ハ分裂セズ或ハ僅ニ淺裂ス胚珠ハ直立、花盤アリ葉ハ分裂セズ托葉ハ多クアリ稀ニ欠如スルモ葉ハ對生ナリ　まゆみ科　Celastrineæ

(b)雄蕊ハ大抵花瓣ヨリ多ク稀ニ之ト同數或ハ少シ花瓣ト同數ナルトキハ(*Malpighiaceæ*にがき科)子房ハ多數ニシテ相分離シ或ハ單ニ共軸部ニ於テ會合シ(深ク分裂スル子房チナス)胚珠ハ垂生或ハ垂生セル珠柄ヨリ上昇ス(且花盤ハ顯著ナラズ若クハ葉ハ複葉ナリ)　94

(94)(a)葉ハ對生或ハ輪生極テ稀ニ互生ナルモ花瓣ハ五個雄蕊ハ四個ニテ内二個ハ不成熟ナリ葉ハ分裂セズ或ハ淺裂ス　*Malpighiaceæ*

(b)葉ハ互生雄蕊ハ花瓣ト同數或ハ之ニ倍ス極テ稀ニ(にがき科)唯雄花ニ於テノミ花瓣ニ倍シ完全花ニ於テハ少數ナルモ喬木ニシテ葉ハ羽狀複葉ナリ　95

(95)(a)托葉アリ子房ハ四—六室ナリ　*Ochnaceæ*

(b)托葉ナシ稀ニ之アルモ子房ハ二室ナリ　96

(96)(a)葉ハ分裂セズ花瓣ハ五個、雄蕊ハ十個、子房ハ三—五室分裂セズ或ハ少ク淺裂ス托葉ナシ花瓣ノ發狀ハ覆瓦樣或ハ回旋、種皮ハ軟弱、胚乳ト判然區別シ難シ　*Cyrilleæ*

(b)葉ハ複葉稀ニ單葉ニシテ分裂セザルモ花瓣及ヒ雄蕊ハ各三—四個或ハ子房二室(且托葉アリ)或ハ子房多數相分離シ單ニ花柱ニ因テ相會合ス(且花瓣ハ鑷合樣)種皮ハ皮膚樣ナリ　にがき科　Simarubeæ

(97)(a)葉ナク葉綠ナク黃色、白色或ハ赤色(綠色ナラズ)ニシテ鱗片アル草本ナリ　ゆうれいさう科　Monotropeæ

(b)喬木、灌木、半灌木或ハ綠色ニシテ葉アル草本ナリ　98

(98)(a)花ハ明瞭ニ不整正多クハ距アリ葉ハ對生或ハ輪生、分裂セズ子房ハ三室ナリ　*Vochysiaceæ*

(b)花ハ多ク整正稀ニ不整正ナルモ葉ハ互生或ハ複葉或ハ子房ハ二室或ハ五室ナリ

(99)(a)雄蕊ハ花瓣ト同數ニシテ之ニ對生ス花瓣ハ鑷合樣ナリ　99　ぶだう科　Ampelideæ

(b)雄蕊ハ花瓣ト同數ニシテ之ニ互生ス或ハ之ヨリ多ク或ハ少シ極テ稀ニ（あをぎり科、あわぶき科）花瓣ト同數ニシテ之ニ對生スルモ花瓣ハ覆瓦樣或ハ回旋ナリ　100

(100)(a)雄蕊及ビ多ク花瓣ハ子房下位稀ニ雄蕊ハ子房下位ナル花瓣ノ基底ニ附着ス花盤ナシ然レ𪜈往々分離セル腺アリ　101

(b)雄蕊及ヒ花瓣ハ子房周位（萼ニ附着ス）或ハ子房下位、子房下位ノ𪜈ハ花盤（輪狀、枕狀或ハ碗狀）アリ

(101)(a)花絲ハ其中部或ハ尚上部迄（多クハ葯ニ至ル迄）相合着ス花ハ整正、托葉ナシ萼ハ覆瓦樣稀ニ鑷合樣ナルモ葉ハ羽狀複葉ナリ　108　せんだん科　Meliaceæ

(b)花絲ハ相分離シ或ハ基底ニテ少ク相合着ス（僅少ノふうろさう科ニ於テハ花不整正ニシテ花絲ハ同時ニ基底及ビ先端ニ於テ合着ス然レ𪜈中央部ニテ合着スルヿナシ）稀ニ花絲ハ高キ部迄相合着スルモ（あをぎり科）托葉アリ且萼ハ鑷合樣或ハ閉鎖且葉ハ單葉或ハ掌狀複葉ナリ、　102

(102)(a)子房二室、雄蕊ハ花瓣ト同數或ハ之ヨリ少シ、二－五個ナリ　103

(b)子房ハ多ク三－多室稀ニ二室ナルモ雄蕊ハ花瓣ヨリ多ク六－十個ナリ　104

(103)(a)葉ハ對生、花瓣ハ四個發狀ハ內向鑷合樣稀ニ二－三個ナリ雄蕋ハ二個稀ニ四個、胚珠ハ子房ノ各室ニ二個、垂生或ハ下降ナリ　もくせい科　Oleaceæ

(b) 葉ハ互生、花瓣ハ五個ニシテ其發狀ハ覆瓦樣、雄蕋五個、胚珠ハ子房ノ各室ニ三個以上、中央胎坐ニ附着シ平臥ナリ花ハ獨生或ハ團聚花、繖形花、繖房花或ハ圓錐花ヲナス、柱頭ハ分裂セズ或ハ僅ニ鋸齒アリ　　とべら科　Pittosporeæ

(104) (a) 葉ニ腺點アリ托葉ナシ灌木或ハ喬木ナリ　　へんるうだ科　Rutaceæ

(b) 葉ニ稀ニ斑點アリ然ル𪜈ハ(僅少ノふうろさう科及ビ極テ僅少ノぬめでま科及ビふうちやうさう科)托葉アリ或ハ草本或ハ半灌木ナリ　　105

(105) (a) 托葉ナシ雄蕋十個極テ稀ニ八個、葉ハ互生或ハ根生胚珠ハ子房ノ各室ニ多數アリ　　しやくなげ科 Ericaceæ

(b) 托葉アリ稀ニ欠如スレバ成熟雄蕋五個極テ稀ニ八ー十個ニシテ葉ハ對生且胚珠ハ子房ノ各室ニ二個ナリ　　106

(106) (a) 萼ノ裂片ハ鑷合樣或ハ閉銷、花絲ハ多ク相合着ス稀ニ相分離スルモ其內五個ニノミ葯アリ　　あをぎり科　Sterculiaceæ

(b) 萼ノ裂片ハ覆瓦樣或ハ開展稀ニ鑷合樣ナルモ成熟雄蕋六ー十個アリテ花絲ハ相分離ス　　107

(107) (a) 柱頭ハ分裂セス極テ稀ニ僅ニ淺裂ス托葉アリ子房ハ無柄或ハ短柄ヲ具フ萼片ノ發狀ハ覆瓦樣ナリ　　はまびし科　Zygophylleæ

(b) 柱頭ハ深ク(其基底迄)分裂ス稀ニ單ニ鋸齒アルノミナルモ托葉ナシ(且萼ニ距アリ)

(108) (a) 葯ヲ具スル雄蕋二―三個稀ニ五個ナルモ花瓣ト同數ニシテ之ニ對生ス葉ハ互生、子房ハ二―三室（往々二―三裂）ナリ　ふうろさう科　Geraniaceæ

あわぶき科　Sabiaceæ

(b) 葯ヲ具スル雄蕋多クハ四―十個、五個ノ時ハ花瓣ト互生シ若クハ花瓣ハ三個ナリ稀ニ完全ナル雄蕋二―三個ナル時ハ（まゆみ科、へんるうだ科、みそはぎ科）葉ハ對生若クハ子房四―五室ナリ　109

(109) (a) 葉ニ腺點アリ胚珠ハ子房ノ各室ニ二個稀ニ三個以上ナレバ草本或ハ半灌木ナリ　へんるうだ科　Rutaceæ

(b) 葉ニハ多ク斑點ナシ稀ニ之アルモ木本（喬木或ハ灌木）ニシテ胚珠ハ子房ノ各室ニ三個以上アリ　110

(110) (a) 葉ハ單葉ニシテ分裂セズ　111

(b) 葉ハ淺裂、分裂或ハ複葉ナリ　114

(111) (a) 雄蕊ハ三―五個、不熟雄蕊ナシ（極テ稀ニ雄蕊五個ニシテ内二―三個ノミ成熟ス）灌木或ハ喬木ナリ　まゆみ科　Celastrineæ

(b) 雄蕊ハ六―十個稀三―五個ナルモ同數ノ不熟雄蕊アリ若クハ草本或ハ半灌木ナリ　112

(112) (a) 雄蕊及ビ花瓣ハ子房下位ナリ　しやくなげ科　Ericaceæ

(b) 雄蕊及ビ花瓣ハ子房周位ナリ　113

(113) (a) 葯ノ先端ニハ一個ノ孔穴アリ裂開ス稀ニ二―四個ノ孔穴アリ或ハ一個ノ裂ケ目アルモ果實ハ漿果ナリ蕚ノ裂片ハ覆瓦樣稀ニ開展、帽狀ニ閉鎖シ或ハ殆ド鑷合樣ナリ　のぼたん科 Melastomaceæ

(b) 葯ハ二個ノ裂ケ目ヲ以テ縦裂ス果實ハ蒴ナリ蕚ノ裂片ハ鑷合樣然レ𪜈往々附屬ノ齒片（蕚片ノ托葉）其間ニアリ　みそはぎ科 Lythrariæ

(114) (a) 托葉アリ葉ハ對生稀ニ互生ナルモ草本ナリ蕚片ノ發狀ハ覆瓦樣或ハ開展雄蕊八―十個（極テ稀ニ之ヨリ少キモ草本ナリ）子房下位、花盤ノ外部ニアリテ其基底ニ附着ス　はまびし科 Zygophylleæ

(b) 托葉ハ多ク欠如ス稀ニ之アルモ木本ニシテ葉ハ互生（且蕚ノ裂片ハ鑷合樣或ハ雄蕊ハ花盤ノ内部ニ附着ス）極テ稀ニ木本ニシテ葉ハ對生ナルモ雄蕊五個ニシテ子房周位ナリ　115

(115) (a) 雄蕊ハ花盤ノ内部ニ附着ス稀ニ其外部或ハ縁邊ニ附着スルコアルモ葉ハ對生ナリ　むくろじ科 Sapindaceæ

(b) 雄蕊ハ花盤ノ外部ニ附着ス稀ニ（かんらん科）其縁邊ニ附着ス葉ハ互生ナリ　116

(116) (a) 花絲ハ相分離ス稀ニ花盤ニテ相合着スルモ柱頭ハ無柱ナリ胚珠ハ子房ノ各室ニ二個、子房ハ特生ス、果實ハ石果樣ナレ𪜈往々其外果皮裂開ス　かんらん科 *Burseraceæ*

(b) 花絲ハ多少相合着ス（多クハ葯ニ至ル迄）稀ニ全然相分離スルモ胚珠ハ子房ノ各室ニ三個以上（或ル僅少ノ種ニ於テハ胚珠ハ子房ノ各室ニ二個ナレ𪜈子房ハ其一部花盤内ニ嵌入シ且之ト合着シ又果實ハ蒴或ハ

蓇葖果ナリ)花柱アリ　せんだん科　Meliaceæ

(117)(a) 子房ハ多數相分離シ或ハ唯基底ニテ相合着スレ𪜈其中點迄相合着スルヿナシ柱及ビ柱頭ハ全然相分離ス　118

(b) 子房一個、分裂セズ或ハ淺裂ス(花柱或ハ無柱々頭一―多數)稀ニ子房多數ニシテ相分離シ或ハ基底ニテ相合着スルモ花柱一個或ハ花柱多數ニシテ一部分相合着ス　124

(118)(a) 雄蕊ハ子房周位草本(或ハ半灌木)ニシテ托葉アリ或ハ木本ナリ　119

(b) 雄蕊ハ子房下位稀ニ子房周位(べんけいさう科及ビ僅少ノさんぱうげ科)ナルモ草本(或ハ半灌木)ニシテ托葉ナシ　120

(119)(a) 托葉アリ雄蕊ハ輪狀ニ排列ス葯ハ內面ニテ裂開ス　ばら科　Rosaceæ

(b) 托葉ナシ雄蕊(及ビ花被葉)ハ螺旋狀ニ排列ス葯ハ外面ニテ裂開ス花被葉(萼片及ビ花瓣)ハ多數、凹陷セル花托ノ上緣及ビ其外面ニ附着ス種子ニ胚乳ナシ　らうばい科　Calycanthaceæ

(120)(a) 灌木或ハ喬木、葉ハ互生、花被ハ多ク三個(稀ニ二個)ノ萼片ト六個以上ノ二―多列(稀ニ三個)ノ花瓣ヨリ成ル稀ニ(もくれん科)花被ハ九個以上ニシテ萼及ビ花冠ノ區別ナキ三―多列ノ葉片ヨリ成ルモ萼片ハ脫落性ニシテ種子ニ假種皮ナシ(然レ𪜈外種皮ハ往々多肉ナリ)　121

(b) 草本、或ハ半灌木稀ニ灌木或ハ喬木ナルモ葉ハ對生(さんぱうげ科)或ハ(*Dilleniaceæ*)花被ハ五個(稀ニ四個或ハ六個ニシテ一列)ノ萼片ト五個(稀ニ一―四個或ハ六個)ノ一列ノ花瓣ヨリ成ル然ルトキハ萼片ハ宿存ニシテ種子ニ假種皮アリ　122

(121) (a) 種子ノ胚乳ハ糜爛狀ヲナス蕚片ハ大抵鑷合樣、托葉ナシ　*Anonaceæ*

(b) 胚乳ハ糜爛狀ヲナサズ蕚片ハ大抵覆瓦樣、托葉ハ多クアリ　もくれん科　Magnoliaceæ

(122) (a) 雄蕊ハ花瓣ニ倍ス二輪ニ排列ス一輪ノ雄蕊ハ花瓣ニ對生シ一輪ノ雄蕊ハ花瓣ニ互生ス稀ニ花瓣ト同數ニシテ之ニ互生ス蕚ノ裂片ハ六個以上、宿存、多肉ナル草本或ハ半灌木、果皮ハ種子多數ヲ有ス種皮ハ皮膚樣或ハ革樣ナリ　べんけいさう科　Crassulaceæ

(b) 雄蕊ハ花瓣ヨリ少ク或ハ多ク或ハ其倍數ヨリ多ク或ハ少シ稀ニ之ト同數或ハ倍數ナルモ雄蕊ハ多列或ハ螺旋狀或ハ不整正ニ(多クハ一方ニ偏シテ)排列ス蕚片五個稀ニ六個以上ナルモ或ハ脫落性或ハ灌木或ハ喬木ナリ種皮ハ硬脆性或ハ海綿狀稀ニ革樣ナルモ果皮ニハ種子一個アリ　123

(123) (a) 種子ニ假種皮アリ蕚ハ宿存、葉ハ互生、分裂セズ極テ稀ニ羽狀ニ淺裂或ハ缺刻ス多クハ木本ナリ　*Dilleniaceæ*

(b) 種子ニ假種皮ナシ蕚片ハ脫落性極テ稀ニ宿存ナルモ葉ハ掌狀淺裂或ハ缺刻ナリ草本稀ニ半灌木或ハ木質ノ纒繞植物ナレバ葉ハ對生ナリ　きんぽうげ科　Ranunculaceæ

(124) (a) 子房ハ一室往々不完全ナル隔壁ヲ有ス　125

(b) 子房ハ完全ニ多室ナリ　140

(125) (a) 胚珠ハ三個以上、多數ノ側膜胎坐ニ附着シ或ハ長ク突出セル側膜胎坐ガ造成スル所ノ不完全ナル隔壁ニ附着ス　126

(b) 胚珠ハ一個ノ側膜胎坐若クハ一—多數ノ中央胎坐或ハ子房ノ基底ヨリ起ル所ノ胎坐ニ附着ス或ハ胚珠ハ一—二個ニシテ子房腔ノ基底ヨリ上昇シ或ハ子房腔ノ頂點ヨリ垂生ス 133

(126) (a) 花被ハ二個ノ蕚片及ビ四個ノ花瓣ヨリ成ル極テ稀ニ三個ノ蕚片及ビ六個ノ花瓣ヨリ成ル草本ナリ
けし科 Papaveraceæ

(b) 蕚片或ハ蕚ノ裂片ハ三—八個、三個ノ時ハ花瓣ハ五個或ハ灌木或ハ喬木ナリ 127

(127) (a) 葉ハ對生或ハ輪生、花柱ハ多數相分離ス極テ稀ニ基底ニテ相合着ス柱頭ハ頂生ニシテ相分離ス
おとぎりさう科 Hypericineæ

(b) 葉ハ互生稀ニ對生ナルモ（*Cistineæ.* ふうちやうさう科）花柱ハ一個ニシテ分裂セズ或ハ無柱々頭一個ナリ 128

(128) (a) 草本ナリ子房ハ多數ノ無柱々頭或ハ短キ花柱ヲ有シ多クハ柱頭或ハ花柱間ニ穴アリ
レセダ科 Resedaceæ

(b) 灌木或ハ喬木稀ニ草本ナルモ（*Cistineæ*及ビ僅少ノふうちやうさう科）子房ハ一個ノ分裂セザル花柱若クハ一個ノ分裂セザル無柱々頭ヲ有ス 129

(129) (a) 花絲ハ其全部相合着シテ管ヲナシ葯ハ管ノ外面ニ附着ス *Canellaceæ*

(b) 花絲ハ相分離ス或ハ唯基底ニテ相合着スルモ上部ハ相分離ス 130

(130) (a) 葉ハ對生或ハ少クモ其下部ノ葉ハ然リ子房ニ柄ナシ胚珠ハ直生、胚乳ハ粉狀或ハ殆ト軟骨狀、胚ハ大ニ

屈曲シ摺疊シ或ハ卷旋ス　Cistineæ

(b)葉ハ互生極テ稀ニ對生ナルモ子房ニ柄アリ（ふうちやうさう科）、胚珠ハ倒生或ハ半倒生、胚乳ハ多肉或ハ欠如ス胚ハ多ク（有柄子房ヲ具スル僅少ノふうちやうさう科ヲ除ク）眞直或ハ唯僅ニ屈曲ス　131

(131)
(a)子房ハ無柄或ハ殆ド無柄、分裂セズ多クハ球狀極テ稀ニ柱頭淺裂ス稀ニ明瞭ニ認識シ得ベキ花柱アレバ草本ナリ花ハ完全稀ニ多家、胚乳僅少或ハ全然欠如ス　ふうちやうさう科　Capparideæ

(b)子房一個或ハ花柱多數稀ニ無柱々頭多數極テ稀ニ一個ノ不明瞭ニ淺裂セル無柱々頭アリ然ルトキハ花ハ二家ナリ喬木或ハ灌木種子ニ多量ノ胚乳アリ　132

(132)
(a)花瓣ハ革質ノ萼ノ裂片ニ類似シ宿存ス子房ノ各胎坐ニハ多數ノ胚珠アリ極テ稀ニ胚珠少數ナルモ花瓣六—八個ニシテ子房ニ多數ノ花柱アリ花瓣及ビ雄蕊ハ多少子房周位ナリ　Samydaceæ

(b)花瓣ハ多ク皮膚樣、萼片ヨリ大ニシテ脫落性ナリ稀ニ花瓣、萼樣ナルモ子房ノ各胎坐ニ唯少數ノ胚珠アリ且花瓣ハ三—五個或ハ（六個以上ノトキ）花柱一個ニシテ分裂セズ花瓣及ビ雄蕊ハ子房下位或ハ殆ド然リ　いゝぎり科　Bixineæ

(133)
(a)花柱多數ニシテ相分離ス　ぎよりう科　Tamariscineæ

(b)花柱一個ニシテ分裂セズ且柱頭一個或ハ多數稀ニ無柱々頭一個ニシテ分裂セズ或ハ淺裂ス　134

(134)(a) 蕚片二個、發狀ハ覆瓦樣ナリ草本或ハ半灌木、胚珠ハ基底胎坐或ハ中央胎坐ニ附着ス

すべりひゆ科　Portulaceæ

(b) 蕚片三個以上稀ニ二個ナルモ(苣科)喬木ニシテ蕚ノ發狀ハ閉鎖且胚珠ハ側膜胎坐ニ附着ス

135

(135)(a) 葯ハ下ヨリ上ニ向テ開ク所ノ戸ヲ以テ裂開ス胚珠一個、垂生(極テ稀ニ幼若ナル時ハ別ニ尚一個ノ胚珠アレモ後ニ不熟トナル)木本ニシテ單葉(分裂セズ或ハ淺裂ス)托葉ナシ

にっけい科　Laurineæ

(b) 葯ハ縱裂ス稀ニ頂上ノ孔穴ヲ以テ裂開ス胚珠二個以上稀ニ一個ニシテ大抵直生或ハ上昇極テ稀ニ(ばら科)一個ニシテ垂生ナルモ草本(或ハ半灌木)ニシテ複葉、托葉アリ

136

(136)(a) 葉ハ對生或ハ輪生、花瓣及ビ雄蕊ハ子房下位蕚片ノ發狀ハ覆瓦樣ナリ

とうわう科　Guttiferæ

(b) 葉ハ互生或ハ根生稀ニ(みそはぎ科及ビ僅少ノばら科)對生或ハ輪生ナルモ花瓣及ビ雄蕊ハ子房周位(雄蕊ハ往々殆ド子房下位)ニシテ且蕚ノ裂片(蕚ノ裂片間ニハ往々附屬ノ小葉存ス)ハ發狀鑷合樣ナリ

137

(137)(a) 花瓣及ビ雄蕊ハ子房下位、蕚片ノ發狀ハ覆瓦樣、葉ハ分裂セズ花ハ獨生或ハ圓錐花ヲ爲ス灌木或ハ半灌木稀ニ喬木、蕚片宿存、種子ニ假種皮アリ

Dilleniaceæ

(b) 花瓣及ビ雄蕊ハ子房周位稀ニ殆ト子房下位(苣科)ナルモ蕚ノ發狀ハ閉鎖或ハ鑷合樣(極テ稀ニ開展或ハ

殆ト欠如）且羽狀複葉ニシテ一葉複葉或ハ假葉ナリ（假葉ノトキハ花ハ穗狀花或ハ小頭花ヲナス）

(138) (a) 胚珠ハ三個以上、基底胎坐或ハ中央胎座ニ附着ス稀ニ唯二個ニシテ柱狀ノ中央胎坐ニ附着ス（且子房ハ幼若ナルトキハ不同ナル二室ヲ有シ雄蕋ハ十一個ナリ）托葉ナシ 138 みそはぎ科 Lythrarieæ

(b) 胚珠ハ三個以上ニシテ一個ノ側膜胎坐ニ附着ス或ハ一―二個ニシテ子房ノ基底或ハ側壁ヨリ起リ或ハ子房腔ノ頂端ヨリ垂下ス托葉ハ多クアリ 139

(139) (a) 胚珠ハ一個或ハ二個ニシテ相並列ス極テ稀ニ二個以上ニシテ一個ノ側膜胎坐ニ相重リテ附着スルモ花瓣ハ四―六個覆瓦樣、莖ハ草本狀、半灌木狀或ハ灌木狀、花ハ整正、子房ハ無柄或ハ殆ド無柄且雄蕋ハ大抵廿一個以上ナリ ばら科 Rosaceæ

(b) 胚珠ハ二個以上、一個ノ側膜胎坐ニ相重リテ附着シ一―二列ヲナス花瓣ハ一―三個、三個ヲ超過スレバ多ク鑷合樣稀ニ花瓣四―六個ニシテ覆瓦樣ナルモ喬木ニシテ花ハ稍不整正、子房ハ有柄且雄蕋ハ大抵廿個ニ至ラズ 荳科 Leguminosæ

(140) (a) 胚珠ハ子房ノ側壁或ハ隔壁ニ附着ス、子房ノ各室ニ三個以上アリ灌木、或ハ喬木 ふうちやうさう科 Capparideæ

(b) 胚珠ハ中央胎坐ニ附着ス或ハ子房ノ基底ヨリ起リ或ハ子房腔ノ頂點ヨリ垂下ス（然ルトキハ各室ニ一―二個アリ） 141

(141) (a) 花ハ單性、胚珠ハ子房ノ各室ニ一―二個下降ス たかとうだい科 Euphorbiaceæ

(b) 花ハ完全或ハ多家稀ニ單性（殊ニとうわう科）ナルモ胚珠ハ上昇或ハ子房ノ各室ニ二個以上アリ　142

(142) (a) 雄蕊ハ子房周位ナリ　143

(b) 雄蕊ハ子房下位ナリ　147

(143) (a) 葉ニ脂液ヲ分泌スル腺點若クハ透明ナル腺點アリ　ふともゝ科　Myrtaceæ

(b) 葉ニ腺點ナシ　144

(144) (a) 葉ハ對生（對生葉ノ一葉ハ往々他ノ一葉ヨリ小ナリ）稀ニ輪生或ハ互生、互生ノトキハ蕚ノ裂片（及ビ大抵花瓣モ）六個以上ナリ托葉ナシ　145

(b) 葉ハ互生、蕚ノ裂片及ビ花瓣ハ各四―五個、托葉ハ多クアリ　146

(145) (a) 葯ニハ頂點ニ一孔アリテ裂開ス極テ稀ニ二個ノ孔穴或ハ一個ノ裂ケ目ヲ以テ裂開スルモ果實ハ漿果ニシテ子房ハ二―六室ナリ蕚ノ裂片ハ發狀覆瓦樣稀ニ開展或ハ殆ド鑷合樣ナリ　のぼたん科　Melastomaceæ

(b) 葯ハ二個ノ裂ケ目ヲ以テ縱裂ス果實ハ蒴極テ稀ニ漿果ナルモ子房ハ多室ナリ蕚ノ裂片ハ發狀鑷合樣然レトモ往々各裂片間ニ附屬ノ鋸齒片アリ　みそはぎ科　Lythrarieæ

(146) (a) 花柱ハ多數相分離シ或ハ基底ニテ相合着ス稀ニ花柱一個ニシテ分裂セザルモ胚珠ハ子房ノ各室ニ一個アリ子房ハ大抵五室若クハ二室、花瓣及ビ雄蕊ハ大抵明瞭ニ子房周位且花瓣ハ發狀覆瓦樣ナリ　ばら科　Rosaceæ

(b)花柱一個、分裂セズ胚珠ハ子房ノ各室ニ二個アリ子房ハ大抵三室、花瓣及ビ雄蕊ハ大抵僅ニ子房周位、花瓣ハ發狀回旋ナリ　*Dipterocarpeæ*

(147)(a)蕚ノ裂片ハ發狀鑷合樣稀ニ開展、閉鎖或ハ欠如ス托葉アリ然レモ往々極テ微細ニシテ脫落性ナリ花絲ハ基底ニテ或ハ往々尙上部迄相合シテ一個ノ管ヲ爲ス　148

(b)蕚ノ裂片ハ發狀覆瓦樣、(稀ニぼだいじゆ科及ビ僅少ノへんるうだ科、せんだん科及ビとうわう科)鑷合樣、開展、閉鎖或ハ欠如スルモ托葉欠如ス或ハ花絲相分離シ或ハ(ぼだいじゆ科數種)基底ニテ合着シテ多數ノ花絲束ヲナス　149

(148)(a)葯一室ナリ　ぜにあふひ科　Malvaceæ

(b)葯二室ナリ　あをぎり科　Sterculiaceæ

(149)(a)蕚ノ裂片ハ發狀鑷合樣稀ニ覆瓦樣或ハ開展ナルモ花瓣ハ鑷合樣或ハ木本ニシテ無斑點ノ互生葉ヲ有シ花盤アリテ且子房ノ各室ニ二個ノ胚珠アリ葉ハ互生稀ニ對生或ハ殆ド然ルモ胚珠ハ子房ノ各室ニ二個アリテ上昇(且花ハ總狀花ヲナス)或ハ三個以上ナリ　ぼだいじゆ科　Tiliaceæ

(b)蕚ノ裂片ハ發狀覆瓦樣稀ニ開展或ハ閉鎖(*Dipterocarpeæ* ニ於テハ往々幼蕾ニ於テ覆瓦樣ニシテ後ニ鑷合樣若クハ開展トナル)、花瓣ハ覆瓦樣或ハ回旋ナリ胚珠ハ子房ノ各室ニ一―二個稀ニ多數ナルモ草本ナリ若クハ葉ハ對生或ハ斑點アリ若クハ蕚片三個若クハ花盤欠如ス　150

(150)(a)葉ハ對生或ハ輪生、草本ニシテ托葉ナシ或ハ木本ナリ葉ハ單葉、花ハ完全、多家或ハ單性、完全ノ花ハ花柱多數ニシテ相分離ス或ハ花柱一個ニシテ少クモ其頂點ニ於テ分裂ス極テ稀ニ花柱一個ニシテ分裂セ

ザルモ子房ハ二室ナリ　151

(b)葉ハ互生或ハ根生稀ニ對生(ふうろさう科、もくこく科)ナルモ草本ニシテ托葉アリ或ハ複葉ナリ或ハ完全ニシテ子房三―六室且花柱分裂セズ　152

(151)(a)花柱多數絲狀、相分離ス或ハ唯基底ニテ相合着ス托葉ナシ花ハ完全、子房三―五室、胚ニ二個ノ子葉アリ　おとぎりさう科　Hypericineæ

(b)花柱一個分裂セズ或ハ唯頂點ニテ分裂ス或ハ無柱柱頭一―多數アリ或ハ多數ノ相分離セル短厚ナル花柱アリ稀ニ多數ノ相分離セル絲狀ノ花柱アルモ托葉アリ花ハ單性或ハ多家稀ニ完全ナルモ子房二室或ハ胚ハ分裂セズ　とうわう科　Guttiferæ

(152)(a)葉ハ管狀、草本ナリ、花柱ノ頂點ハ五裂多クハ五個ノ稜角ヲ有スル若クハ五淺裂ノ傘狀ヲナス胚珠ハ子房ノ各室ニ多數アリ　Sarraceniaceæ

(b)葉ハ管狀ナラズ喬木或ハ灌木稀ニ草本或ハ半灌木ナルモ花柱多數ニシテ相分離シ若クハ花柱一個ニシテ分裂セズ且柱頭ハ分裂セズ或ハ二―三裂ナリ稀ニ柱頭五裂ナルモ(ふうろさう科)胚珠ハ子房ノ各室ニ二個アリ　153

(153)(a)托葉アリ胚珠ハ子房ノ各室ニ一個且上昇ナリ葉ハ分裂セズ蕚片五個稀ニ三―四個ナリ　Ochnaceæ

(b)托葉ハ多ク欠如ス稀ニ之アルモ胚珠ハ子房ノ各室ニ二個以上稀ニ一個ニシテ葉ハ掌狀若クハ羽狀複葉(むくろじ科、もくこく科)或ハ蕚片六個ニシテ胚珠ハ垂生ナリ(ぬめでま科)

154

(154) (a) 花盤（輪狀、碗狀或ハ一方ニ）アリテ雄蕊ノ外部ニ位ス 155

(b) 花盤欠如ス（然レ圧往々分離セル腺アリ）稀ニ（へんるうだ科、*Humiriaceæ*）花盤アルモ雄蕊ノ內部ニ位ス 156

(155) (a) 胚珠ハ子房ノ各室ニ一個アリ花ハ多家、種子ニ胚乳ナシ蕚片四—六個極テ稀ニ三個ナルモ葉ハ羽狀複葉ナリ むくろじ科 Sapindaceæ

(b) 胚珠ハ子房ノ各室ニ二個以上、花ハ完全、種子ニ胚乳アリ蕚片三個、葉ハ分裂セズ *Chlaenaceæ*

(156) (a) 花柱多數相分離ス稀ニ中部ニテ少ク相連合スルモ基底部ハ相分離ス葯ハ相合着ス子房ハ深ク分裂ス胚ハ極テ微細ナリ喬木或ハ灌木（極テ稀ニ半灌木）ニシテ葉ハ分裂セズ稀ニ多年草ニシテ葉ハ分裂セズ或ハ羽狀淺裂—鋏刻ナルモ花瓣ハ蕚片ト互生シ心皮ハ不規則ニ裂開シ且種子ニ假皮アリ蕚片ハ宿存ナリ *Dilleniaceæ*

(b) 花柱一個分裂セズ或ハ頂點ニテ分裂ス或ハ無柱々頭一個分裂セズ或ハ淺裂ス稀ニ花柱多數ニシテ全然或ハ殆ド全然相分離スルモ（もくこく科）葯ハ運動スベシ（丁字形）子房ハ分裂セズ若クハ僅ニ淺裂シ且胚ハ稍大ナリ 157

(157) (a) 花盤アリ然レ圧往々基底ニ至ル迄十裂ス子房五—八室ニシテ胚珠ハ子房ノ各室ニ一—三個ナリ花柱分裂セズ柱頭分裂セズ或ハ微細ナル鋸齒ヲ具ス *Humiriaceæ*

(b)花盤ナシ子房ハ多ク二－四室稀ニ五－多室ナルモ各室ニ四個以上ノ胚珠アリ或ハ花柱一個分裂セズ或ハ多數ニシテ相分離ス　158

(158)(a)胚珠ハ子房ノ各室ニ二個アリ種子ハ厚シ葯ハ直立多クハ花絲ニ固着ス花瓣ノ發狀ハ回旋、花柱ハ分裂セズ柱頭ハ分裂セズ或ハ三淺裂、蕚ハ花後長大シ爲ニ蕚ノ裂片ノ或ルモノハ多クハ翼狀ヲナス然レ𪜈往々僅ニ長大スルノミ然ル𬼂ハ花ハ獨生或ハ團聚花或ハ圓錐花ヲナス種子ハ一個胚乳ナシ子葉ハ大ニシテ厚シ　*Dipterocarpeæ*

(b)胚珠ハ子房ノ各室ニ三個以上稀ニ一個極テ稀ニ二個ナルモ種子ハ扁平ニシテ葯ハ運動スベク且花瓣ハ發狀覆瓦様ニシテ花柱五裂ナリ若クハ花瓣ハ發狀回旋ニシテ不等邊而メ花ハ總狀花ヲナス蕚ハ花後長大セズ種子ニハ種々アリ一個ニシテ胚乳ナケレバ花柱分裂セズ或ハ子葉微細或ハ扁平ナリ

もくこく科　Ternstroemiaceæ

合瓣花

(1)(a)子房ハ下位或ハ半下位ナリ 2

(b)子房ハ上位或ハ殆ド上位ナリ 21

(2)(a)雄蕊ハ十一個以上稀ニ五ー十個ナルモ其數ハ花冠ノ裂片數ヨリ大ナリ無葉ノ多液草本若クハ葉ノ分裂セザル木本ナリ 3

(b)雄蕊一ー十個花冠ノ裂片ト同數或ハ少數ナリ 6

(3)(a)雄蕊ハ八個或ハ十個葯ハ其頂點一ー二個ノ管ヲ爲シテ裂開ス子房上位ナル花盤アリ こけもゝ科 Vacciniaceæ

(b)雄蕊は十一個以上極テ稀ニ(にでのき科)八ー十個ナルモ葯ハ縱裂シ且花盤ナシ 4

(4)(a)子房ハ一室、多液ナル草本、莖ハ厚強、多肉ニシテ刺アリ葉ハ退縮ス極テ稀ニ木本ニシテ充分發育セル多肉葉アリ さぼてん科 Cacteæ

(b)子房ハ多室、木本ニシテ其有様さぼてんノ如クナラズ 5

(5)(a)雄蕊ハ萼管ニ附着スル所ノ子房上位ナル花盤ニ附着ス胚乳ハ極テ少量或ハ全然欠如ス葉ニハ大抵斑點アリ ふともゝ科 Myrtaceæ

(b)花盤ナシ雄蕊ハ花瓣ノ基底ニ附着ス胚乳多量、葉ニ斑點ナシ にでのき科 Styraceæ

(6)(a)雄蕊ハ花冠ノ裂片ト同數ニシテ之ニ對生ス子房ハ完全ニ一室ナリ 7

(b)雄蕊ハ花冠ノ裂片ト同數ニシテ之ニ互生シ或ハ(ひやうたん科)同數ニシテ不規則ニ排列シ或ハ花冠ノ裂片ヨリ少數ナリ　8

(7)(a)胚珠一個、受精前ニハ子房ト區別シ難シ花冠ノ裂片ハ發狀鑷合樣ナリ　やどりぎ科 Loranthaceæ

(b)胚珠ハ多數、花冠ノ裂片ハ發狀覆瓦樣、灌木ナリ不熟雄蕊ナク果實ハ裂開セズ
やぶかうじ科 Myrsineæ

(8)(a)子房二個相分離ス然レドモ其背部ハ一半蕚管ニ着生ス花冠ハ相合着ス　けうちくとう科 Apocynaceæ

(b)子房一個分裂セズ(一—多室)花柱一—多數ナリ　9

(9)(a)花絲ハ花柱ト相合着シテ一個ノ柱ヲナシ二個ノ葯ハ柱上ニ位ス　*Stylideæ*

(b)花絲ハ花柱ト相合着セズ　10

(10)(a)子房一室、胚珠一個アリ葯ハ相合着ス(全然或ハ基底ニ於テ)花冠ノ發狀ハ鑷合樣或ハ開展、花柱ニハ一—二個ノ柱頭アリ被片ナシ(極テ稀ニ一株ノ植物ノ花ノ內或ルモノニ限リ柱頭三個アリテ胚珠ハ直立ス)種子ハ垂生或ハ無胚乳ナリ　11

(b)子房ハ多ク多數ノ胚珠ヲ有ス稀ニ胚珠一個ナルモ葯ハ相分離ス(且花冠ハ多ク覆瓦樣)或ハ花柱ニ三個ノ柱頭アリ(且胚珠ハ垂生)或ハ柱頭ニハ碗狀若クハ二唇ノ被片アリテ之ヲ被フ(且種子ハ直立ニシテ胚乳アリ)　12

(11)(a)花柱ハ完全花及ビ雌花ニ於テハ二裂或ハ柱頭二裂胚珠ハ直立種子ニ胚乳ナシ
きく科 Compositæ

(b) 花柱及ビ柱頭ハ分裂セズ胚珠ハ垂生、種子ニ胚乳アリ　*Calycereae*

(12) (a) 子房ニハ一個ノ胚珠アリ（一室若クハ多室ニシテ一室ノミ成熟ス）雄蕊一―四個、花冠ハ發狀覆瓦樣、葉ハ對生、輪生或ハ根生、胚珠ハ垂生　13

(b) 子房ニハ多ク多數ノ胚珠アリ稀ニ（ひやうたん科、すひかづら科、あかね科、くさとべら科）胚珠一個ナルモ雄蕊五個或ハ花冠ノ發狀ハ鑷合樣（花冠鑷合樣ノ時ハ葉ハ互生ナリ或ハ胚珠ハ直立ナリ）　14

(13) (a) 各花ノ直下ニハ合葉ノ管狀小總苞アリ花ハ小頭花極テ稀ニ聚繖花ヲナス子房ニハ一室アリ花柱及ビ柱頭ハ分裂セズ種子ニハ胚乳（多量或ハ少量）アリ　まつむしさう科 Dipsaceæ

(b) 花ニハ小總苞ナク苞アリ然レ圧小苞ナシ（極テ稀ニ一個ノ小苞アリ）、聚繖花ヲナス子房ハ三室然レ圧二室ハ空虛ニシテ往々單ニ隆起ヲ爲スノミ然ル時ハ花柱二―三裂若クハ分裂セズシテ二―三淺裂ノ柱頭ヲ具ス種子ニ胚乳ナシ或ハ少量ノ胚乳アリ　をみなへし科 Valerianeæ

(14) (a) 托葉アリ極テ稀ニ欠如スルモ葉ハ輪生ニシテ花冠ハ整正、四淺裂ナリ子房上位ナル花盤アレ圧往々顯著ナラズ葉ハ對生或ハ輪生、單葉、分裂セズ多ク全邊、極テ稀ニ羽狀裂、乾燥スレバ多ク黑變ス　あかね科 Rubiaceæ

(b) 托葉ハ稀ニアリ若シ之アルトキハ葉ハ互生或ハ羽狀複葉、或ハ花盤欠如ス花盤欠如スルモ葉ハ黑變セズシテ多ク鋸齒アリ葉ハ根生、互生或ハ對生極テ稀ニ輪生（きゝやう科、いはたばこ科）ナルモ花冠ハ不整正ニシテ五裂ナリ　15

(15)(a) 花ハ單性極テ稀ニ多家ナルモ草本ニシテ子房一室或ハ三室ナリ　ひやうたん科 Cucurbitaceæ

(b) 花ハ完全稀ニ多家(きゝやう科、うこぎ科)ナルモ喬木或ハ灌木ナリ或ハ子房二室ナリ　16

(16)(a) 葉ハ互生或ハ根生極テ稀ニ(きゝやう科)輪生或ハ對生、對生ナルトキハ雄蕊ハ花冠ニ附着セズ雄蕊ハ花冠ノ裂片ト同數ナリ花冠ノ發狀ハ鑷合樣或ハ閉鎖、葯ハ縱裂ス　17

(b) 葉ハ對生稀ニ互生(いはたばこ科)ナルモ完全ナル雄蕊ハ花冠ノ裂片ヨリ少シ雄蕊ハ花冠ニ附着ス(然レ𪜈往々基底ニ近キ部ニ於テ附着ス)　19

(17)(a) 花瓣ハ其全長帽狀ニ相合着シ豫メ相分離スルコトナクシテ枯落ス灌木或ハ喬木ナリ胚珠ハ子房ノ各室ニ一個且垂生ナリ　うこぎ科 Araliaceæ

(b) 花瓣ハ唯其下部ニ於テ相合着シ其先端ハ相分離ス稀ニ數種ノ草本ニ於テハ基底及ビ先端ハ少ク相連結スレ𪜈中部ハ相分離ス子房ノ各室ニハ直立胚珠一個或ハ往々二個以上ノ胚珠アリ　18

(18)(a) 花柱ノ先端ニハ碗狀若クハ二唇ノ被片アリテ之ヲ被フ草本ニシテ乳狀液ナシ　くさとべら科 Goodenovieæ

(b) 花柱ニ被片ナシ多クハ乳狀液アル草本ナリ　きゝやう科 Campanulaceæ

(19)(a) 完全ナル雄蕊ハ五個極テ稀ニ四個ナルモ子房ハ三室ナリ　すひかづら科 Caprifoliaceæ

(b) 完全ナル雄蕊二個或ハ四個、子房ハ不完全ニ二室或ハ四室ナリ　20

(20)(a) 葯室一個ニシテ波狀ニ屈曲シ且分裂セズ或ハ不同ナル區劃ニ分割ス花盤ナシ木本ニシテ對生葉、雄蕊二個果實ハ四片ニ裂開スル蒴果ナリ種皮ハ平滑、胚ハ微細ナリ　*Columelliaceae*

(b) 葯室二個ニシテ波狀ニ屈曲セズ其先端ニ於テハ往々會合シテ一室トナル花盤ハ多クアリ之ナキトキハ草本ナリ若クハ葉ハ互生ナリ若クハ雄蕊四個ナリ果實ハ二片ニ裂開シ若シクハ一個ノ裂ケ目ヲ以テ裂開スル蒴果ナリ種子ニハ線條或ハ格子狀ノ斑紋アリ胚ハ稍大ナリ　いはたばこ科 Gesneraceæ

(21)(a) 雄蕊ハ花冠ノ裂片ト同數ニシテ之ニ對生シ或ハ之ヨリ多數ナリ　22

(b) 雄蕊ハ花冠ノ裂片ト同數ニシテ之ニ互生シ或ハ之ヨリ少數ナリ　41

(22)(a) 子房多數、相分離シ或ハ基底ノミニテ相合着ス花托ハ全然相分離ス（或ハ無柱々頭ハ全然相分離ス）　23

(b) 子房ハ分裂セズ或ハ淺裂スルトキハ（ぜにあふひ科、あをぎり科、へんるうだ科、しやくなげ科）花托ハ全然或ハ一部相合着ス　24

(23)(a) 萼ノ裂片ハ三個、花冠ノ裂片ハ六個稀ニ三個、雄蕊ハ多數、花冠ノ裂片ノ倍數ナラズ果實ハ漿果ナリ灌木或ハ喬木ナリ　*Anonaceae*

(b) 萼ノ裂片ハ四個以上、花冠ノ裂片モ之ニ同ジ雄蕊ハ之ニ倍ス果實ハ蓇葖、草本或ハ半灌木ナリ極テ稀ニ灌木ナルトキハ萼及ビ花冠ノ裂片ハ各五個ナリ胚珠ハ各心皮ニ多數種子ニ多肉ノ胚乳アリ　べんけいさう科 Crassulaceæ

(24)(a) 子房ハ完全ニ一室ナリ（すべりひゆ科數種ニ於テハ幼稚ナルトキ完全若クハ不完全ニ數室ナルモ後ニ完全

ニ一室トナル）　25

(b)子房ハ完全ニ稀ニ（えごのき科、ぶだう科、もくこく科）不完全ニ多室ナリ　29

(25)(a)萼片ハ二個、胚珠ハ二個以上、花柱ニ多數ノ柱頭アリ果實ハ蒴ナリ　すべりひゆ科 Portulaceæ

(b)萼片或ハ萼ノ裂片ハ三個以上、胚珠一個或ハ二個以上ノ時ハ花柱、々頭共ニ分裂セズ　26

(26)(a)花柱多數相分離シ或ハ其下部相合着ス或ハ花柱一個分裂セスシテ多數ノ柱頭アリ子房ニ一個ノ胚珠アリ花ハ完全、萼ノ裂片、花冠ノ裂片、雄蕊、花柱或ハ柱頭ハ各五個ナリ　いそまつ科 Plumbagineæ

(b)花柱一個分裂セズ柱頭分裂セズ或ハ（やぶかうじ科）柱頭ハ不明瞭ニ淺裂ス子房ニ二個以上ノ胚珠アリ　27

(27)(a)胚珠ハ側膜胎坐ニ附着ス複葉、稀ニ假葉、或ハ欠如ス　荳科 Leguminosæ

(b)胚珠ハ特立中央胎坐ニ附着ス單葉、分裂セズ、或ハ淺裂ス極テ稀ニ（浮游セル水草數種ニ於テ）缺刻ス　28

(28)(a)草本ナリ果實ハ二—多種子ヲ有スル蒴（極テ稀ニ瘠果）ナリ葯ハ内面ニテ裂開ス　さくらさう科 Primulaceæ

(b)喬木或ハ灌木極テ稀ニ半灌木、果實ハ裂開セズ多クハ一種子稀ニ二—多種子ナルモ葯ハ外面ニテ裂開ス　やぶかうじ科 Myrsineæ

(29)(a)草本、葉ナク葉綠ナシ、鱗片ヲ有ス黄色、紅色或ハ白色ナリ　ゆうれいさう科 Monotropeæ

(b)木本或ハ綠色ニシテ葉アル草本ナリ　30

(30)(a)花ハ單性、托葉アリ、花盤アレモ往々相分離セル腺トナル　たかとうだい科 Euphorbiaceæ

(b)花ハ完全稀ニ多家或ハ(こくたん科及ビ僅少ノもくこく科)二家ナルモ托葉及ビ花盤ナシ　31

(31)(a)花ハ不整正、子房ハ二室ニシテ各室ニ胚珠一—四個アリ極テ稀ニ三—五室ニシテ各室ニ胚珠一個アリ花盤ナシ花柱ハ分裂セズ柱頭ハ分裂セズ或ハ二—四淺裂、蕚片ハ五個、雄蕊ハ八個、極テ稀ニ四—五個ナルモ葉ハ互生ナリ　ひめはぎ科 Polygaleæ

(b)花ハ整正稀ニ少ク不整正ナルモ子房四室或ハ多室ニシテ各室ニ胚珠二個以上且花盤アリ若クハ花柱或ハ柱頭ハ五裂ナリ　32

(32)(a)雄蕊ハ花冠ノ裂片ト同數、花冠ノ裂片ハ發狀鑷合樣ナリ　ぶだう科 Anpelideæ

(b)雄蕊ハ多ク花冠ノ裂片ヨリ多數、稀ニ之ト同數ナルモ花冠ノ裂片ハ發狀覆瓦樣或ハ回旋ナリ　33

(33)(a)葉ハ羽狀複葉、互生、無斑點、無托葉、花冠ノ裂片ハ發狀鑷合樣、花絲ハ高キ部迄相合着ス果實ハ蒴ナリ　せんだん科 Meliaceæ

(b)葉ハ分裂セズ或ハ淺裂シ或ハ分裂ス稀ニ缺刻シ或ハ掌狀複葉ナルモ對生シ若クハ腺點アリ若クハ托葉アリ且(掌狀複葉ニシテ有斑點ナル葉ヲ有スル僅少ノへんるうだ科ヲ除キ)花冠ノ裂片ハ發狀覆瓦樣ナリ

(34)
(a) 花ハ單性或ハ多家、胚珠ハ子房ノ各室ニ一―二個、花冠ノ裂片ハ發狀回旋、托葉ナシ葯ハ二室ナリ　34

こくたん科 Ebenaceæ

(b) 花ハ完全稀ニ單性或ハ多家ナルモ（にでのき科、もくこく科）胚珠ハ子房ノ各室ニ三個以上ニシテ花冠ノ裂片ハ發狀回旋ナラズ（鑷合樣或ハ覆瓦樣）若クハ（ぜにあふひ科）托葉アリテ葯ハ一室ナリ　35

(35)
(a) 雄蕋ハ花冠ノ裂片ト同數或ハ倍數或ハ少數ナリ托葉欠如ス稀ニ之アルモ萼ノ裂片ハ發狀覆瓦樣ナリ　36

(b) 雄蕋ハ花冠ノ裂片ノ倍數ヲ超過ス稀ニ小ナル時ハ托葉アリ且萼ノ裂片ハ發狀鑷合樣ナリ　38

(36)
(a) 雄蕋ハ花冠ノ裂片ト同數稀ニ多數ナルモ喬木ニシテ雄蕋ハ大抵十一個以上、胚珠ハ子房ノ各室ニ一個ナリ

あかてつ科 Sapotaceæ

(b) 雄蕋ハ花冠ノ裂片ヨリ多シ胚珠ハ子房ノ各室ニ二個以上稀ニ一個ナルモ灌木ニシテ雄蕋ハ四―十個ナリ　37

(37)
(a) 子房ハ完全或ハ不完全ニ三室ナリ花冠ハ五裂、雄蕋ハ十個ナリ

えごのき科 Styraceæ

(b) 子房ハ四―二十室稀ニ二―三室ナルモ花冠ハ二―四裂ニシテ雄蕊ハ四―八個、花冠ハ子房下位、葉ハ分裂

セズ互生或ハ輪生稀ニ對生ナルモ直立若クハ横臥セル灌木ニシテ蕚ハ分裂シ花冠ハ五淺裂シ或ハ發狀回旋ナリ　しやくなげ科 Ericaceæ

(38) (a) 蕚ノ裂片ハ發狀覆瓦樣(數種ノ *Dipterocarpeae* ニ於テハ幼若ナル時ノミ覆瓦樣ニシテ後ニ鑷合樣或ハ開展トナル)　39

(b) 蕚ノ裂片ハ發狀鑷合樣稀ニ開展或ハ閉鎖(相合着ス)　40

(39) (a) 花冠ノ裂片ハ發狀回旋ナリ胚珠ハ子房ノ各室ニ二個、托葉アレ𪜈顯著ナラズ葉ハ分裂セズ蕚ハ花後增大ス(往々其裂片ハ翼狀チナス)　*Dipterocarpeae*

(b) 花冠ノ裂片ハ發狀覆瓦樣或ハ帽狀ニ相合着ス稀ニ回旋ナルモ胚珠ハ子房ノ各室ニ三個以上極テ稀ニ一個ナリ托葉欠如ス稀ニ之アルモ葉ハ掌狀複葉ナリ蕚ハ花後增大セズ　もくこく科 Ternstroemiaceæ

(40) (a) 葯ハ一室極テ稀ニ二―三室ナルモ葉ハ掌狀複葉ニシテ蕚ハ全邊或ハ淺裂シ不熟雄蕊欠如シ若クハ花絲管ノ下部ニ於テ其外部ニ位シ且種子ニ毛アリ子房ハ無柄ナリ　ぜにあふひ科 Malvaceæ

(b) 葯ハ二―三室極テ稀ニ一室ナルモ子房ニ柄アリ(且花絲管ハ子房柄ニ合着ス)葉ハ分裂セズ或ハ淺裂ス稀ニ掌狀複葉ナルモ蕚ハ分裂シ且不熟雄蕊ハ花絲管ノ頂點(葯間ニ)ニ附着ス種子ニ毛ナシ

あをぎり科 Sterculiaceæ

(41) (a) 成熟雄蕊ハ花冠ノ裂片ヨリ少數稀ニ之ト同數ナレバ二個ナリ　42

(b) 成熟雄蕊ハ花冠ノ裂片ト同數ニシテ三個以上ナリ　59

(42) (a) 子房一個、一室或ハ不完全ニ多室ナリ胚珠ハ三個以上　43

明治二十六年九月十日發兌

(b) 子房一個完全ニ多室或ハ子房多數相分離ス　46

(43) (a) 子房ハ完全ニ一室、一個ノ特生中央胎坐アリ　たぬきも科 Lentibularieæ

(b) 子房ハ完全ニ一室ニシテ多數ノ側膜胎坐ヲ有ス或ハ不完全ナル數室ヲ有ス　44

(44) (a) 葉ナク葉綠ナキ（然レ𪜈多クハ鱗片ヲ有スル）草本ナリ　はまうつぼ科 Orobanchaceæ

(b) 葉アル綠色ノ草本ナリ　45

(45) (a) 喬木（極テ稀ニ纏繞半灌木、羽狀裂ノ葉アリ）、雄蕊四個、蕾ニ於テハ後部ノ花冠裂片ハ外部ニアリテ前部ノ裂片ハ內部ニアリ種子（羽狀裂ノ葉ヲ具スル數種ヲ除ク）ハ增大スル所ノ軟弱ナル胎坐ニ嵌入ス　のうぜんかづら科 Bignoniaceæ

(b) 草本或ハ灌木稀ニ喬木ナルモ成熟雄蕊ハ二個ナリ葉ハ分裂セズ蕾ニ於テハ後部ノ花冠裂片ハ大抵內部ニアリ種子ハ極テ微細、胎坐內ニ嵌入セズ　いはたばこ科 Gesneraceæ

(46) (a) 胚珠ハ子房ノ各室ニ一個ナリ　47

(b) 胚珠ハ子房ノ各室ニ二個以上ナリ　50

(47) (a) 雄蕊ハ五—八個、花冠ノ裂片ハ十五—二十四個ナリ　あかてつ科 Sapotaceæ

(b) 雄蕊ハ二—四個、花冠ノ裂片ハ四—五個ナリ　48

(48) (a) 葉ハ互生（最下部ノ葉ハ往々對生）或ハ根生、胚珠ハ垂生、花ハ頂生穗狀花ヲナス葯ハ多ク最初ヨリ一室稀ニ兩葯室相連合シテ一室トナルヿアルモ然ルトキハ雄蕊ハ二個ナリ　*Selagineae*

(b) 葉ハ對生或ハ輪生稀ニ（くまつゞら科）互生ナルモ胚珠ハ上昇ナリ　49

(49) (a) 子房ハ四裂稀ニ四淺裂ナルモ果實ハ四個ノ乾燥セル小堅果ニ分離ス　唇形科 Labiatæ

(b) 子房ハ分裂セズ極テ稀ニ僅ニ四淺裂ナルモ果實ハ石果狀ニシテ子房ハ幼若ナル時ハ一室ナリ
くまつゞら科 Verbenaceæ

(50) (a) 葉ハ對生或ハ輪生ナリ　51

(b) 葉ハ互生、根生或ハ欠如ス　55

(51) (a) 雄蕊ハ二個、二個ノ心皮ト互生ス、花ハ整正ナリ　もくせい科 Oleaceæ

(b) 雄蕊ハ四個稀ニ二個ナルモ心皮ト規則正シク互生セズ（雄蕊五個アルベキ所前部或ハ後部ノ二雄蕊ノミ完全ニシテ他ノ雄蕊ハ不完全或ハ全然欠如ス）且花ハ多ク不整正ナリ　52

(52) (a) 胚珠ハ子房ノ各室ニ二個アリテ相並列ス果實ハ分裂果、石果或ハ瘠果ナリ花冠ノ裂片ハ發狀覆瓦樣ナリ
くまつゞら科 Verbenaceæ

(b) 胚珠ハ子房ノ各室ニ二個ニシテ相重ル或ハ三個以上稀ニ二個ニシテ相並列スルモ果實ハ胞間裂開ニシテ花冠ノ裂片ハ發狀大抵回旋ナリ　53

(53) (a) 葉ハ複葉稀ニ單葉ニシテ分裂セザルモ子房各室ノ二胎坐ハ花後隔壁ノ成長スルニヨリ相遠ザカルニ至ル且萼ハ大抵發狀閉鎖ナリ柱頭ハ二淺裂種子ニ翼アリ（然レトモ往々翼ハ狹隘或ハ毛トナル）胚乳ナシ
のうぜんかづら科 Bignoniaceæ

(b) 葉ハ單葉或ハ欠如ス、分裂セズ淺裂シ或ハ分裂ス稀ニ缺刻スルモ柱頭ハ分裂セズ且種子ニ翼ナシ胎坐ハ

子房ノ各室ニ一個稀ニ二個相並列スルモ花後相遠カザルヿナシ蕚ハ發狀覆瓦樣鑷合樣或ハ開展、種子ニハ多ク翼ナシ稀ニ(ごまのはぐさ科)翼アルモ胚乳アリ且柱頭分裂セズ　54

(54)(a) 種子ハ多ク强剛ニシテ長キ珠柄ニ附着ス稀ニ斯ノ如キ珠柄之ナキ𪜈ハ花冠ハ發狀回旋ニシテ蕚ハ全邊或ハ多齒若クハ柱頭二淺裂ニシテ蕚ハ基底ニ至ル迄分裂ス果實ハ蒴、胞背裂開ニシテ種子ヲ有スル胎坐ハ蒴ノ裂片上ニ殘留ス　れぎのつめ科 Acanthaceae.

(b) 種子ハ無柄或ハ小ナル珠柄ニ附着ス花冠ハ發狀覆瓦樣、蕚ハ二－五個ノ裂片ヲ有ス、柱頭ハ分裂セズ稀ニ二淺裂ナルモ蕚ハ鋸齒ヲ有シ或ハ淺裂ス或ハ(蕚分裂スル𪜈ハ)果實ハ裂開セズ或ハ胞背裂開或ハ胞背裂開ニシテ裂片ハ殘留スル胎坐ヨリ分離ス子房ハ二室、胚珠ハ各室ニ三個以上稀ニ二個ナルモ柱頭ハ分裂セズ種子ニ胚乳アリ　ごまのはぐさ科 Scrophularineae

(55)(a) 子房ハ二－三室ナリ(然レトモ柱頭ノ分裂セザルはまちんちやう科數種ニ於テハ花後往々四室トナル)　56

(b) 子房ハ四－五室、柱頭ハ淺裂ス　58

(56)(a) 胚珠ハ子房ノ各室ニ二－八個、灌木或ハ喬木、葉ハ分裂セズ雄蕋四個、果實ハ石果或ハ瘠果ニシテ一種子室或ハ一種子ノ石核ヲ有ス　はまちんちやう科 Myoporineae

(b) 胚珠ハ子房ノ各室ニ多數稀ニ少數ナルモ草本或ハ半灌木或ハ複葉或ハ二雄蕋ナリ果實ハ蒴ニシテ多種子室ナリ　57

(57)(a) 花冠ノ裂片ハ發狀鑷合樣或ハ摺襞シテ且稍覆瓦樣ナリ　なす科 Solanaceae (b)花冠ノ裂片ハ覆瓦様ナレ𪜈摺疊セズ葉ハ單葉然レ𪜈往々缺刻ス缺刻スルトキハ柱頭分裂セズ蕚ハ發狀覆瓦様、鑷合様或ハ開展、種子ニハ稀ニ翼アリ然ルトキハ柱頭分裂セズ或ハ單ニ先端凹形ナリ(先端凹形ナルトキハ蕚ノ裂片ハ發狀覆瓦様) 胎坐ハ子房ノ各室ニ一個或ハ二個ニシテ並列シ花後相遠ザカルヿナシ種子ニ胚乳アリ

ごまのはぐさ科 Scrophularineae

(58)(a)柱頭ハ分裂セズ或ハ五裂、胚珠ハ子房ノ各室ニ二個種子ニハ少量ノ胚乳ト旋卷セル子葉トアリ

へんるうだ科 Rutaceae

(b)柱頭ハ二裂、胚珠ハ子房ノ各室ニ三個以上、種子ニ胚乳ナク子葉ハ扁平ナリ

ごま科 Pedalineae

(59)(a)胚珠ハ子房ノ完全若クハ不完全ナル各室ニ(完全ニ一室ナル子房ニ於テハ子房全体ニ於テ)一―二個ナリ 60

(b)胚珠ハ各室ニ三個以上ナリ 76

(60)(a)葉ハ對生或ハ輪生ナリ 61

(b)葉ハ互生、根生或ハ欠如ス 66

(61)(a)雄蕋ハ花冠ニ附着セズ葯ハ頂生ノ戸扉或ハ孔穴ヲ以テ裂開ス低キ灌木ニシテ輪生葉アリ花冠ノ發狀ハ回旋、雄蕋ハ四個ナリ

しやくなげ科 Ericaceae

(b)雄蕋ハ花冠ニ附着ス葯ハ縱裂ス 62

(62)(a)子房ハ四室、四裂稀ニ四淺裂ナルモ果實ハ四個ノ乾燥セル小堅果ニ分離ス雄蕊四個、花柱ハ先端二裂、稀

明治二十六年八月十日發兌

ニ分裂セザルモ花冠ハ不整正ニシテ二唇ナリ

(b) 子房ハ一—三室稀ニ四室ナルモ子房ハ分裂セズ且果實ハ石果、瘠果或ハ蓋果ナリ　脣形科 Labiatae

63

(63)(a) 花柱ハ唯先端ノ直下ノミ柱頭狀ナリ花冠ノ發狀ハ回旋、花ハ整正ナリ　けうちくとう科 Apocynaceae

(b) 花柱ハ先端若クハ先端ノ裂片間ニ於テ柱頭狀ヲナス花冠ノ發狀ハ覆瓦様或ハ鑷合様極テ稀ニ（おぎのつめ科）回旋ナルモ花ハ不整正ナリ　64

(64)(a) 花冠ノ裂片ハ發狀鑷合様極テ稀ニ覆瓦様ナルモ花柱ハ二裂ニシテ各枝ハ各々二個ノ柱頭枝ニ分裂ス葉ハ托葉狀ノ鞘或ハ少クモ一個ノ横線ヲ以テ相連結ス　まちん科 Loganiaceae

(b) 花冠ノ裂片ハ發狀覆瓦様或ハ回旋花柱ハ分裂セズ且柱頭ハ分裂セズ或ハ二淺裂（極テ稀ニ三—五淺裂）若クハ花柱二裂ニシテ二個ノ分裂セザル柱頭枝アリ托葉ナシ　65

(65)(a) 果實ハ蒴、胞間裂開、種子ハ長キ剛强ナル珠柄ニ附着ス　おぎのつめ科 Acanthaceae

(b) 果實ハ石果、瘠果或ハ分裂果、種子ニ長キ剛强ナル珠柄ナシ　くまつゞら科 Verbenaceae

(66)(a) 草本、葉ナク葉緑ナク鱗片ヲ有シ莖ハ厚クシテ直立ス子房ハ扁平球狀、子房室ハ十二—二十八個、中央ナル太キ軸ノ周圍ニ配列ス胚珠ハ横臥或ハ下降、花冠ハ五—八淺裂、發狀ハ覆瓦様ナリ萼ハ五—十裂ナリ　*Lennoaceae*

(b) 草本ニシテ葉アリ稀ニ（ひるがほ科）葉ナク葉緑ナキ草本ナレバ莖ハ細クシテ纏繞ス（且子房ハ一—二室）子房室ハ一—十個稀ニ十一個以上ナレバ子房ハ深ク分裂シ胚珠ハ直立且花冠ニ五稜角アリ發狀ハ摺襞ス

（いぬつげ科） 67

(67)(a)二回羽狀複葉ニシテ托葉アリ子房ハ一室ナリ 荳科 Leguminosæ

(b)單葉、分裂セズ或ハ淺裂或ハ分裂稀ニ（はなしのぶ科、ひるがほ科）缺刻スレバ草本或ハ半灌木ニシテ托葉ナク花冠ノ裂片發狀鑷合樣或ハ回旋ニシテ葯ハ背部ヲ以テ附着シ且子房ハ分裂セズシテ多室ナリ 68

(68)(a)葯ハ一個ノ裂ケ目ヲ以テ縱裂ス 69

(b)葯ハ二個ノ裂ケ目ヲ以テ縱裂ス 70

(69)(a)花ハ多少不整正、雄蕋四個、二强雄蕋ナリ *Selagineæ*

(b)花ハ整正、雄蕋五個極テ稀ニ四個ニシテ皆同長ナリ（但花冠ハ鑷合樣ナリ） *Epacrideæ*

(70)(a)子房一個、完全ニ一室ナリ胚珠ハ垂生或ハ下降ナリ ぼろ〳〵のき科 Olacineæ

(b)子房多數ニシテ相分離シ或ハ一個ニシテ多室ナリ極テ稀ニ（おほばこ科、ひるがほ科）一個ニシテ一室ナルモ胚珠ハ直立或ハ上昇ナリ 71

(71)(a)雄蕋四個、草本或ハ半灌木、花ハ整正、花柱及ビ柱頭ハ分裂セズ おほばこ科 Plantagineæ

(b)雄蕋五個稀ニ六個以上或ハ四個、四個ノ時ハ灌木若クハ喬木若クハ花不整正（花冠傾斜）若クハ花柱二—四裂ナリ 72

(72)(a)葯ハ基底ニテ附着ス、先端或ハ側部ニテ裂開ス花冠ハ淺裂、發狀ハ回旋ナリ こくたん科 Ebenaceæ (b)葯ハ背部ニテ附着ス稀ニ(いぬつげ科)基底ニテ附着スルモ内面ニテ裂開シ且花冠ハ分裂シ發狀覆瓦樣ナリ　73

(73)(a)柱頭三個、花柱ハ分裂セズ或ハ三裂ス花冠ハ發狀回旋ナリ　はなしのぶ科 Polemoniaceæ

(b)柱頭一、二、四、或ハ五個以上極テ稀ニ(ひるがほ科)三個ナルモ花冠ハ發狀摺襞シ、或ハ鑷合樣ナリ　74

(74)(a)灌木或ハ喬木花冠ハ發狀覆瓦樣、子房ハ分裂セズ完全ニ四—十八室、花柱ハ分裂セズ、或ハ欠如シ柱頭ハ頂生分裂セズ或ハ四—十八裂ナリ　いぬつげ科 Ilicineæ

(b)草本、或ハ半灌木稀ニ灌木或ハ喬木ナルモ花冠ハ發狀摺襞シ或ハ内面鑷合樣若クハ花柱二—四裂若クハ花柱分裂セザルモ先端下ニ於テ其外面ハ柱頭狀ナリ　75

(75)(a)珠孔及ヒ幼根ハ上部ニアリ稀ニ側部(軸ノ方)ニアルモ子房ハ四裂(稀ニ二—四淺裂)ニシテ花柱分裂セス且花冠ノ發狀ハ覆瓦樣或ハ回旋ナリ多クハ剛毛アル草本ナリ　むらさき科 Boragineæ

(b)珠孔及ヒ幼根ハ下部ニアリ子房ハ分裂セズ或ハ五—多裂稀ニ二裂或ハ四裂ナルモ二個ノ花柱アリ花冠ハ發狀摺襞シ或ハ内面鑷合樣稀ニ覆瓦樣ナルモ葉ナク葉綠ナキ草本ナリ若クハ花柱二裂ナリ胚珠直立、多ク纏繞スル草本ニシテ剛毛アルヿ稀ナリ　ひるがほ科 Convolvulaceae

(76)(a)一—二室ノ子房一個若クハ分離セル子房二個アリ　77

(b)三室或ハ多室ノ子房一個若クハ分離セル子房三個以上アリ　88

(77)(a)二回羽狀複葉、子房一個一室、胚珠ハ一個ノ側膜胎坐ニ附着ス　荳科 Leguminosæ

(b) 單葉ナレ𪜈往々缺刻ス極テ稀ニ掌狀複葉、子房二個相分離ス若クハ一個ニシテ一ー二室、然ル片ハ胚珠ハ一個ノ基底胎坐或ハ中央胎坐若クハ二個（稀ニ三個以上）ノ側膜、基底、中央或ハ特生中央胎坐ニ附着ス　78

(78) (a) 花柱ノ先端ハ多ク毛ナシ稀ニ毛アルモ乳頭狀突起ナシ花柱ハ先端下ニ於テ外面柱頭狀ヲナス多クハ二個ノ分離セル子房アリ（然レ𪜈花柱或ハ柱頭ハ往々相合着ス）　79

(b) 花柱ハ先端ニ於テ若クハ裂片間ニ於テ柱頭狀ヲナス子房一個、分裂セズ或ハ僅ニ淺裂ス　80

(79) (a) 花柱二個、柱頭ノ下迄相分離スレ𪜈柱頭ハ相合着ス柱頭ノ緣邊ニハ五個ノ多クハ有色ノ腺狀体アリ柱頭ノ緣邊ニ粘着シ且葯ト互生ス花粉粒ハ相團集シテ花粉塊ヲ爲シ腺狀体ニ懸垂ス　たうわた科 Asclepiadeæ

(b) 花柱ハ一個或ハ二個ニシテ基底ニ於テ相分離スレ𪜈上部ニ於テ相合着ス、柱頭ニ腺狀体ナシ而メ往々葯ノ附屬物ハ葯上ニ殘留スレ𪜈葯ニ對生シ花粉其上ニ懸垂セズ　けうちくとう科 Apocynaceæ

(80) (a) 雄蕊ハ花冠ニ附着セズ　81

(b) 雄蕊ハ花冠ニ附着ス　82

(81) (a) 花冠ノ裂片ハ瓣狀鑷合樣、花絲ハ相合着ス胚ハ中部ニ位ス草本ニシテ乳液ヲ含ム柱頭ヲ被フ所ノ被片ナシ　きゝやう科 Campanulaceæ

(b) 花冠ノ裂片ハ瓣狀覆瓦樣、花絲ハ相分離ス胚ハ極テ微細、側部ニ位ス、花柱一個、分裂セズ柱頭分裂セズ或

ハ少鋸齒アリ胚珠ハ側膜或ハ特生中央胎坐ニ附着シ横臥、種子ニ胚乳アリ

とべら科 Pittosporeæ

(82)(a)花柱二裂(二個ノ頂生柱頭アリ)葉ハ互生或ハ根生稀ニ對生ナルモ淺裂若クハ缺刻ス花冠ハ發狀覆瓦樣或ハ回旋ナリ

はろぎく科 Hydrophyllaceæ

(b)花柱ハ分裂セズ(柱頭ハ分裂セズ或ハ分裂ス)稀ニ二―四裂ナルモ葉ハ對生ニシテ分裂セズ稀ニ互生ナルトキハ花冠ハ發狀鑷合樣或ハ摺襞ス 83

(83)(a)子房ハ一室、葉ハ互生、草本ニシテ五稜角アリ若クハ五淺裂スル花冠アリ或ハ纒繞灌木ニシテ花冠五裂ナリ胚珠四個アリ

ひるがほ科 Convolvulaceæ

(b)子房一―二室、一室ノトキハ葉ハ對生ナリ稀ニ互生ナルモ草本ニシテ花冠ハ分裂シ胚珠五個以上アリ 84

(84)(a)葉ハ對生或ハ輪生或ハ鱗片(多クハ對生ナル)ニ化ス稀ニ根生或ハ互生ナルモ子房一室ニシテ側膜胎坐アリ花冠ハ整正稀ニ少ク傾斜ス葉ニ斑點ナシ 85

(b)葉ハ互生(然レ𪜈往々一所ヨリ二葉出ヅ)或ハ根生稀ニ(でまのはぐさ科)對生、輪生或ハ鱗片ニ化スルヿアルモ花冠ハ二唇若クハ葉ニ斑點アリ子房二室極テ稀ニ一室ニシテ中央胎坐アリ 86

(85)(a)子房一室或ハ不完全ニ二室(不完全ニ二室ナルトキハ往々胎坐ハ子房ノ中央ニ於テ相接觸スルヿアレトモ決シテ相合着スルヿナシ)稀ニ完全ニ二室ナルモ草本ニシテ花冠ハ發狀回旋ナリ草本稀ニ灌木ニシテ花

柱ハ分裂セズ柱頭ハ二裂ス　　りんだう科 Gentianeæ

(b)子房ハ完全ニ二室稀ニ不完全ナル隔壁アルモ木本ニシテ花柱及ビ柱頭ハ分裂セズ若クハ花柱二裂ニシテ二個ノ柱頭ハ二裂ナリ灌木或ハ喬木稀ニ草本或ハ半灌木ナルモ花冠ノ發狀ハ鑷合様或ハ覆瓦様ニシテ回旋ナラズ　　まちん科 Loganiaceæ

(86)(a)雄蕋四個草本或ハ半灌木、花冠ハ發狀覆瓦様、整正ナリ蕚ハ四裂、葉ハ根生或ハ互生、斑點ナシ　　おほばこ科 Plantagineæ

(b)雄蕋ハ五個以上稀ニ四個ナルモ灌木或ハ喬木或ハ花冠ノ發狀ハ摺疊若クハ鑷合様或ハ花冠不整正（二唇極テ稀ニ殆ド整正ニシテ且蕚ハ五裂若クハ葉對生ニシテ斑點アリ）　87

(87)(a)花冠ハ發狀鑷合様或ハ摺疊シ且往々覆瓦様稀ニ覆瓦様ニシテ摺疊セザルモ果實ハ漿果或ハ蓋果ニシテ胚ハ（灌木ナル數種ヲ除ク）大ニ屈曲ス葉ハ互生然レ𪜈往々二葉一所ヨリ生ス（84ノbヲ見ヨ）　　なす科 Solanaceæ

(b)花冠ハ發狀覆瓦様ニシテ摺疊セズ果實ハ蒴ニシテ胞間或ハ胞背裂開、胚ハ眞直或ハ少ク屈曲ス草本或ハ半灌木稀ニ灌木ナルモ葉ハ輪生或ハ對生ナリ　　ごまのはぐさ科 Scrophularineæ

(88)(a)子房三個以上相分離シ或ハ基底ニテ相合着ス花柱ハ子房ト同數ニシテ全然相分離ス　　べんけいさう科 Crassulaceæ

(b)子房一個ニシテ分裂セズ或ハ淺裂ス（極テ稀ニ分裂ス）花柱一個ニシテ分裂セズ或ハ先端ニテ分裂ス　89

明治二十六年十月十日發兌

(89) (a) 花冠ハ發狀鑷合樣或ハ摺疊ス雄蕊ハ花冠ニ附着ス胚珠ハ子房ノ各室ニ五個以上、中央胎坐ニ附着ス

なす科 Solanaceæ

(b) 花冠ハ發狀覆瓦樣或ハ回旋稀ニ鑷合樣ナルモ雄蕊ハ花冠ニ着生セズ　90

(90) (a) 子房五室、花冠整正、果實ハ胞間裂開ノ蒴稀ニ瘠果葯ハ一個ノ裂ケ目ヲ以テ縱裂シ其背部ニテ附着ス花柱ハ細絲狀、分裂セズ葉ハ分裂セズ萼ハ四－五裂ニシテ覆瓦樣、花絲ハ相分離ス

Epacrideæ

(b) 子房ハ三－四室稀ニ(しやくなげ科)五－二十室ナルモ花冠ヒ多少不整正、果實ハ胞背裂開ノ蒴ニシテ葯ニハ先端ニ二個ノ孔穴アリテ裂開ス　91

(91) (a) 雄蕊ハ花冠ニ着生セズ多クハ子房五－二十室ニシテ葯ニハ先端ニ二個ノ孔穴アリテ裂開ス稀ニ子房三－四室ニシテ葯ハ先端ヨリ中央部ニ連亘スル縱ノ裂ケ目ヲ以テ裂開スルモ葉ハ輪生ニシテ雄蕊四個ナリ

しやくなげ科 Ericaceæ

(b) 雄蕊ハ花冠(花冠管或ハ花冠ノ咽喉部)ニ着生ス子房三室、葯ハ二個ノ裂ケ目ヲ以テ縱裂或ハ横裂ス葉ハ根生、互生若クハ對生ナリ雄蕊ハ五個アリ　92

(92) (a) 花冠ハ發狀覆瓦樣、花絲ハ太シ花柱ハ分裂セズ柱頭ハ多少明瞭ニ三裂、幼根ハ長シ

いはうめ科 Diapensiaceæ

(b) 花冠ハ發狀回旋、花絲ハ細絲狀、花柱ハ先端短ク三裂、其枝ハ先端若クハ內面柱頭狀ヲナス幼根ハ短シ

はなしのぶ科 Polemoniaceæ

顯花植物分科檢索篇終

恭賀新年

東京植物學會々長

松村任三

仝　幹事

大久保三郎

堀正太郎

澤田駒次郎

明治廿六年一月

東京植物學會々員諸君

發賣雜誌代價表

●東洋學藝雜誌　每月廿五日發兌定價一冊十錢郵稅一錢

●動物學雜誌　每月一回發行十五日發兌定價一冊十錢郵稅二錢

●植物學雜誌　每月一回發行十日發兌定價一冊二十錢郵稅二錢

●東京物理學校雜誌　月一回八日發兌一部六錢郵稅二錢

●獵之友　每月一回十日發兌一冊十錢六冊前金五十五錢十二冊前金一圓郵共

●裁判粹誌　每月二回十日廿五日發兌一部定價金八錢〇全國無遞送料

●亞細亞　每週月曜日發兌一冊定價金五錢十二冊前金五十六錢全國無遞送料

●精神　一部定價金六錢郵稅五厘六冊前金郵稅共三十六錢每月十日廿五日二回發兌

●米國桑港遠征　每月一日十五日二回發行一部定價十錢郵稅二錢六部前金五十四錢

●速記彙報　每月一回〇十一日發兌一冊八錢六冊前金郵稅共四十五錢

發兌書肆

東京神田　敬業社　裏神保町

敬業社編纂

理化示教

洋裝美本
全一册

紙數二百三十頁　挿圖六十三個
定價金三十五錢　郵稅四錢

刊行之趣旨

尋常師範學校第一年級ノ課程中「理化示教」ノ一科ヲ設クルノ趣旨タル事普通一般ノ事物現象ニ就テ實驗的理學考究法ヲ適用スル方法ヲ示シ以テ斯學ノ趣味ヲ涵養シ更ニ上級ニ進ミテ一層高尚ナル理化學原理ヲ了スル所以ノ礎地ヲ作ラントスルニアルヿ論スルヲ待タス而モ此ノ趣旨ニ基キテ編成セル教科書ナキノ今日適當ナル教科者其人ヲ得ルニ於テハ口授筆記ノ方法ニ頼ル或ハ可ナルヘシト雖一週僅ニ一時ニ過キサル教授時間ヲ以テ多般ノ實驗ヲ試ミ本來ノ所期ヲ一學年中ニ貫徹センコト頗難シトスル所ナリ故ニ未其ノ大捷ニ涉ラス未ダ其妙境ニ達セス未理學的趣味ヲ萌發スルニ至ラサル前早ク既ニ次學年ノ遑ル所トナリ業ヲ中途ニ終フノ憾ミハ實際其ノ務メニ任スル教員諸君ノ常ニ訴フル所ナリ弊社茲ニ觀ル所アリ乃斷然教科書使用ノ利便ナルヲ信シ本書ヲ編纂公行スルコトヽナシヌ而シテ本書ノ體裁タル先ヅ總論ノ一項ヲ設ケテ理學研究法ノ眞相ヲ示シ各章ノ組織排列皆實驗ニ據テ理法ヲ推考スルノ本意ニ協ハサルナシ蓋シ普通一般ノ人ト雖一讀以テ理學ノ津涯ニ到達スルコト難カラス若シ尋常中學校同程度ノ學校ニ於ケル理學初歩ノ教科書タラシメハ學生ハ章句ヲ讀過シテ忽チ其意義ヲ曉ルヘキガ故ニ教授者ハ一學年四十餘時ノ教授時間ヲ專ラ實驗及ヒ例解ニ充ツルコトヲ得ヘク斯科設置ノ本旨ヲ得了スルコト極メテ容易ナリ今ヤ印刷成ル一言以テ出版ノ由縁ヲ辨ジ江湖ノ採擇ヲ乞フト云爾

東京市神田區裏神保町一番地
發行所　敬業社

謹賀新年併乞倍舊御愛顧

敬業社は中學校師範學校其他同程度の教科用書及各種學校教員生徒諸君の參考書の出版を專業とし以後續々出版仕候敬業社は此目錄中記載の書籍は勿論其他何方の出版は書籍にても御注文に應じ御取次任候

植、動、礦物學之部

理學博士ドクトル飯島魁君編
●（中等教育）動物學教科書全二冊第一卷定價六十錢郵稅六錢
●第二卷金七十五錢郵稅六錢

仝君編
●普通動物學教科書全一冊定價金三十錢郵稅二錢

同君編
●NIPPON No TORI MOKUROKU. 一冊定價金二十錢郵稅二錢

敬業社編纂
●（訂正八版）動物學 全一冊 定價金二十錢郵稅二錢

理學博士松村任三君閲 理學士三好學君編
●（中等教育）植物學教科書全二冊上卷定價壹圓下卷同價郵稅八錢

理學士三好學君編
●普通植物學教科書 全一冊 定價五十錢郵稅四錢

理學士三好學君著
●（植物教科）隱花植物大意 全一冊 定價金卅錢郵稅金二錢

理學士三好學君閲 敬業社譯補
●植物解剖用紙全一枚 定價一枚壹錢郵稅壹枚（十枚ニテモ）二錢

理學博士松村任三君著
●本草辭典 全一冊 定價金六十錢郵稅四錢

敬業社編纂
●（訂正十一版）植物學 全一冊 定價金二十錢郵稅二錢

理學博士齋田功太郎君 染谷德五郎君補譯
●（教科用）植物生理學 全一冊 定價金四十五錢郵稅二錢

理學博士齋田功太郎君 染谷德五郎君補譯
●植物形態學 全一冊 定價金三十錢郵稅四錢

理學博士齋田功太郎君 染谷德五郎君合著
●植物學入門 全一冊 定價金十二錢郵稅二錢

牧野富太郎君著
●日本植物志圖篇

Illustrations of the Flora of Japan, to serve as an Atras of the "Nippon-Shokubutsushi."
第二、三、四、五、六（賣切）第一集再版第七集ヨリ第十一集迄出版正價壹冊二十錢郵稅一冊ニ付二錢

植物學士田中延次郎君著
●日本菌類圖說第一篇上下發兌 一冊正價金三十五錢（但郵稅共）

理學士白井光太郎君著
●日本博物學年表 全一冊 正價金五十錢郵稅四錢

仝君編纂
●（訂正增補）植物自然分科撿索表全一冊定價金十錢郵稅共

農學士齋藤祥三郎君著
●球葱一班 全二冊 定價金拾五錢郵稅二錢

敬業社編纂
●（訂正九版）礦物學 全一冊 定價金二十錢郵稅貳錢

礦山局長和田維四郎君編
●寶玉誌 全一冊 定價金一圓郵稅八錢

理學士菊池安君編
●（中等教育）礦物學教科書全四冊上卷壹定價四拾錢上卷貳定價四十五錢郵稅四錢

理學博士ドクトル石川千代松君著
●動物解剖指針 一冊出版 定價金三十錢郵稅二錢

理學博士ドクトル石川千代松君著
●進化新論 全一冊 定價金壹圓七十五錢郵稅金十錢

物理、化學、生理之部

農學士菊池熊太郎君編
●（訂正五版）物理學教科書 全二冊 上卷定價金七十五錢郵稅八錢下卷定價七十錢郵稅八錢

敬業社編纂
●（訂正七版）小物理學 全一冊 定價三十五錢郵稅四錢

東京市神田區裏神保町一番地 本社

敬業社

大阪市東區備后町四丁目 出張店

●普通學全書第廿四篇發兌廣告

理學博士どくとる　石川千代松先生校閲
八田三郎先生編

動物學新書

●洋裝美本全壹册●挿圖百餘個入（十二日發賣）●
●正價金貳拾錢●●●
●郵稅金四錢●●●●

其書の善良なると其價の極めて低廉なるとを以て每册共に非常なる江湖の喝采を博したる普通學全書は今や第廿四篇を發行するの幸運に遇へり特に本書動物學新書は從來の教科書と大に其撰を異にし或る一形の動物を撰んで模範とし其全群の性質を表象せり故に各種學校初級の教科書として最も適當の良書なり加ふるに理學博士石川先生の丁寧なる校閲を經たれば一層の完美を盡したり乞ふ愛讀の榮を賜へ

普通學全書總科目

第一篇　學理通論
第二篇　物理學新書
第三篇　心理學新書
第四篇　生理學新書
第五篇　萬國新歷史
第六篇　化學新書
第七篇　幾何學新書
第八篇　經濟學新書
第九篇　算術新書
第十篇　美術新書
第十一篇　日本新文典
第十二篇　植物學新書
第十三篇　日本地理新書
第十四篇　代數學新書
第十五篇　日本新歷史（上下）
第十六篇　萬國新地圖
第十七篇　鑛物學新書
第十八篇　倫理學新書
第十九篇　文章組織法
第二十篇　萬國地理新書
第廿一篇　支那新歷史
第廿二篇　地質學新書
第廿三篇　日本新地圖
第廿五篇　地文學新書（近刊）

●普通學全書ハ每編讀切完結ス●第壹篇ヨリ取揃御注文ニ應ズ●第壹篇正價金拾六錢第貳篇正價金拾八錢第三篇以下壹册正價金貳拾錢宛●郵稅每册金四錢（郵劵代用一割增）

發兌元　東京神田裏神保町　**富山房書店**

理科大學
教授博士　松村任三君著

和漢洋對譯

本草辭典　全一冊

定價金六拾錢　郵稅金六錢　紙數二百十三

本書ハ英語及其他數十ケ國ノ語ニ於ケル植物及藥品等ノ名稱ヲ和漢兩名ニ對譯スルニ羅馬字ト假名字トノ兩樣ヲ以テシ加之植物所屬ノ科名ヲモ記入シタルモノナレバ苟クモ英語ヲ教授シ植物學ヲ修メ化學、藥物、山林、農業等ノ諸科ヲ講シ又ハ貿易、通辯、反譯、園藝等ニ從事セラルヽ內外ノ人士共ニ座右ニ缺クベカラザル良辭書ナリ

發兌書肆　東京神田裏神保町一　敬業社

本號ハ吾妻山ノ破裂ニ關シ詳細ナル記事學說ヲ載セ緻密ナル

●論說○丹後ノ宮津港田邊朔郎○アウストラリヤの土俗（承前）坪井正五郎○アルコール並日本酒ノ利害丹波敬三○武藏坊辨慶（承前）重野安繹○吾妻山破裂ノ概報大森房吉●雜錄○吾妻山破裂探見餘錄石井八萬次郎山崎直方○吾妻山巡回記比企忠西和田久學●雜報○大學通俗講談會○數學展覽會○天文日の變更○一萬圓の懸賞○望遠寫眞鏡○コヱーベル氏○吾妻山活動の性質○蠋蝨の侵害を防ぐ新法○へつけるとわいすまん○珍奇植物の增殖○高橋五郎氏○學說と人身攻擊其他數件●寄書○敎育と宗敎の衝突境野哲●定價十錢

東洋學藝雜誌

第四十一號

明治廿六年六月二十五日發兌

一冊金拾錢
郵稅一錢

發行所　東京神田裏神保町　東洋學藝社

圖ヲ挿ミ又鮮明ナル寫眞石版ヲ以テ噴烟ノ眞景ヲ掲ゲリ

●新刊書籍發賣廣告●

敬業社編輯所編纂

中等教育　有機化學教科書

全一册紙數二百七十九頁圖數個挿入定價六十錢郵稅四錢

世間有機化學書ノ類ニ乏シカラズト雖或ハ浩瀚ニ過ギ或ハ省略ニ失シ能ク教科用書タルニ恥ヂサルモノ殆稀ナリ本社之ヲ患フルコト久シ今般當編輯所ニ於テ編纂セル本書ハ實ニ尋常師範學校ヲ始メトシ他ノ諸學校ノ教科用若クハ斯學ニ志スモノヽ參考用ニ供センガ為特ニ編輯シタルモノニシテ其所掲順序ノ整然貫通セル其精簡宜シキヲ得タル名類屬間ノ關係ヲ最明瞭ニ解說セルコト等ニ於テ他ニ比類ナキ良書ナリ書中數十ノ實驗ヲ掲ゲ初學者ヲシテ實際的ノ觀念ヲ得取セシメントシ叉譯語ノ下ニハ一々原語ヲ附シテ類似名稱ノ混迷ヲ避ケ併セテ他書ノ參考ニ便ナラシメタルガ如キ其用意ノ周到ナル其教示ノ丁寧ナル本書獨特ノ能處タリ本社發兌ノ諸書普ク江湖ニ名聲ヲ博シタルニ由リテ以テ其ノ評ノ誤ラサルヲ知リ給フ可シ

同　所編纂

普通天文學

全一册紙數百三十五頁精密圖挿入定價金三十錢郵稅四錢

方今天文書ノ世ニ出ヅルモノ尙極テ稀ニシテ偶之有ルモ卑近ニシテ單ニ童蒙ノ為ニスルニ非ザレバ深邃ニ過ギテ專門學上ノ外ハ殆ド會得シ能ハザルノ類ナリ今般本社出版ノ普通天文學ハ此ノ中間ニ位スルモノニシテ各天体運行ノ原因ヨリ其結果ニ及ホシ日月ノ蝕、金星ノ經過、氣候、潮汐、曆年、時刻等ノ如キ日常吾人ノ耳目ニ慣熟セルモノニ於テハ特ニ意ヲ用ヒテ說明シタルガ故ニ中等教育ノ教科用書トシテ適應セルノミナラズ天文上諸顯象ノ理由ヲ知ラントスル人士ノ為ニ世間無比ノ好伴侶タリ

理學士富士谷孝雄君述

普通地文學

全二册○第一卷定價金三拾五錢郵稅金四錢

○第二卷近刻

此書ハ富士谷先生ガ獨乙協會學校、日本中學校ニ於テ教授セラレタル講義ノ結果ナリ弊社先生ニ乞フテ今之ヲ發賣ス其尋常師範學校、中學校教科書並ニ教員參考書ニ適當ナルハ弊社ノ深ク信シテ疑ハザル所ナリ敢テ教育家諸君ノ試ミアランヿヲ冀望ス

文科大學教授
文學博士　井上哲次郎先生著

教育と宗教の衝突

全一册○定價金三拾錢郵稅金四錢

此書は教育宗教上重大の關係を論ずるものにて今や世論之が為めに紛然たり反對者は白方之を攻擊するも世人若し自ら此書を讀まば痛快激切必ず深く感發する所あらん是神官教育家佛教家基督教家士官憂國の士等必讀の書也

發兌書肆

東京市神田區裏神保町一番地　電話番號二五八番

敬業社

廣告を見よ

池野成一郎著

顯花植物分科檢索篇

全一册　定價二十錢

此書ハ植物學雜誌第六十九號ヨリ第八十號ニ附附トシテ連載セル顯花植物檢索表ヲ集メテ一册トナシ別ニ詳細ナル和洋科名ノ見出シ表ヲ附シタルモノナリ右三百部限リ印刷候ニ付御入用ノ方ハ至急東京神田裏神保町一番地植物學雜誌編輯所ヘ御申込ヲ乞フ

廣告を見よ

獵の友　第二十三號

明治廿六年十月八日發行○一册金十錢○六册前金五十五錢（郵稅共）十二册前金壹圓（郵稅共）

目錄◉狩獵◉獵友會及射撃場○射撃場開會當の記雉子打に付實驗村松春水君投◉遊漁山中に「ワカサギ」を獲る法螺城獵士君◉「スッポン」多獲の奇法上仝人◉犬獵犬飼養法實驗高井太三郎君◉雜錄獵途隨筆螺城獵士君○古老の獵譚鷲巢獵夫君○飛鴨夕方討法海山獵狂君○兎を種絶にするまで捕獲し得べき法深山獵夫君○鰻取の簡法（二）記者誌○輕重自在彈藥量器三不獵夫君案◉伸縮自由簡便掃除矢上同人誌○深草中に用ふべき獵靴棒信山獵夫君誌○獵家諸君に白す海山獵夫君○獵遊餘事春水獵徒君○狩獵免狀願○在米十文字大元君より雉兎蕃殖法及歐米漫遊關根榛山獵夫君より銃器目錄寄贈○銃砲の輸入○江南の火藥製造○傳書鳩○自轉車○漁業雜誌○銃獵雜誌○動物の標本○質問數件○獵友會特別公告○横濱放鳥射撃會秋季大會○獵友會贊成諸君氏名○廣告數件

發賣所　東京神田區裏神保町一番地　敬業社

東京人類學會雜誌

第九卷
第九十一號

●十月廿八日發行一部定價金拾錢郵稅貳錢●六部前金五十五錢郵稅十二錢

○記事○論說及報告
○方言ノ性質及ビ其調査法（承前）（岡倉由三郎）○西ケ原貝塚探究報告其三（理學士）（坪井正五郎）○琉球ノ入墨ト「アイヌ」ノ入墨（宮島幹之助）○幽靈ト葬式（承前）（ジエ、ジイ、フレザァ著（石川一男譯）○長野縣下佐久郡ノ古墳及諏訪郡石器時代ノ遺物（小平小平治）
○肥後國菊池郡亘村ノ橫穴（武藤虎太）下總西北部ノ貝塚略報（承前）（岡田毅三郎）岩手縣下ノ古墳及ビ石器時代ノ遺跡（島村孝三郎）○雜錄人骨製ノ槍（坪井正五郎）佛國一小村落に於ける合併埋葬の風俗（丘淺次郎）滿洲刻面標柱（林泰輔）○雜報　奥羽人類學會第三十五會記事其他

●發行所　東京本鄉六丁目　**哲學書院**

東洋學藝雜誌（第百四十五號）

明治二十六年十月廿五日發兌表紙廣告等ヲ除キ五十四頁

●論說○解剖學ノ由來及其醫學ノ大本タルヿ（承前）田口和美○代數學ノ基礎及界限（承前）ヘーワルド○溫室器ニ就テ眞野文二○野蠻未開ノ民中果シテ畫ヲ解セザル者有リヤ坪井正五郎●雜錄○備後三郎中郡秋香○薩摩大隅日向大地震記○字音考岡倉由三郎●雜報○帝國大學入學宣誓式○簡易講習科同窓會誌○液躰の分子量○理科大學紀要○磁力變動と地震○震災豫防調査會○磁力の測量○地震記錄蒐集○ロバチエフスキー紀念賞○東京市中に存する石器時代遺跡外數件●批評五件●寄書一件●學會記事●應問二件●定價十錢

●發行所　東京神田區裏神保町　**東洋學藝社**

動物學雜誌

第六拾號

明治廿六年十月十五日發行

一册金十錢六册前金（郵稅共）金六十六錢

目次○河豚之毒（第五十七號の續）高橋順太郎君○人腦の構造式石川一男君○越後信濃川のつゝがむしに就て池田作次郎君○人躰ノ由來（第二）ヴヰーデルレヤイム　箕作佳吉君

◎**寄書**○鰹及び鮪節の有害蟲「がいた」の驅除法に付きて實驗並に方案（前號の續き）粟野傳之丞君○潛水牛の實驗坂田時和君○筑前國產蝶類一斑長野菊次郎君◎

雜錄○鱗翅類の偉物○こばんいたゞきと瘧の妙藥○ Tethyasp. ○くらげ餘錄○男子及び女子の生長に就て○蚤とり藥の効能○蚊の食物○秋季の螢○伊吹山秋季採集の摸樣○とびなゐふし○學友某より來信○伊勢のぎふてふ○ひれどしてふの蛹○志摩のきまだらわげは○じやのめもどき及びやまきてふ○ぎふてふに就て報知○ Ephem の方言○季氏日本及び朝鮮產鱗翅類（第四卷三七一頁續き）○東京動物學會○札幌博物學會

發賣所　東京神田區裏神保町一番地　**敬業社**

廣告を見よ

緊急廣告

來ル明治二十七年一月ヨリ本誌發刊定日ヲ毎月二十日ニ變更ス

明治二十六年十二月十日

植物學雜誌編輯員

廣告を見よ

池野成一郎譯

顯花植物分科撿索篇

全一册　正價二十錢　郵稅四錢

此書ハ植物學雜誌第六十九號ヨリ第八十號ニ附録トシテ連載セル顯花植物撿索表ヲ集メテ一册トナシ別ニ詳細ナル和洋科名ノ見出シ表ヲ附シタルモノナリ右三百部限リ印刷候ニ付御入用ノ方ハ至急東京市神田區裏神保町一番地植物學雜誌編輯所ヘ御申込ヲ乞フ

地學雜誌　第五集　第五十九卷

◎定價一册金拾錢郵稅一錢◎六册前金郵稅共四拾五錢

◎論說

●吾妻山ノ破裂（石版圖二枚入）　理學博士　横山又次郎

●岩石ノ顯微化學分析法　工學士　近藤會次郎

●釜石鐵鑛床成生ノ說　理學士　大塚專一

●別子銅山ノ鑛床　理學士　中島謙造

◎雜錄

●地質原論　理學博士　横山又次郎

●隱岐群島（第四十七卷ノ續キ）　農學士　三成文一郎

●地學通論（續キ）　岐陽學士

●晴山君ノ示サレタル表中ニ在ル雷斧ト云フモノニ付キ所思ヲ述ブ　理學士　坪井正五郎

◎雜報

●地學協會ノ演說●地質學雜誌ノ發刊●奇怪ナル明文●地質要報ノ發刊●釜石四近鐵鑛床地質調査報文●故三浦西山兩氏ノ義捐金●地質調査所ノ名譽●マンモス遺骸ノ寄贈●歐米石炭ノ壽命●鍾石●物ノ速力●畝火山●川原毛温泉ノ鳴動●ナンセン氏ノ便リ●秘魯南部ノ雨季●ニユージーランドノ地震●博多港灣●吾妻山鳴動續報

◎批評●北海道地理（佐藤昌介氏閱 加藤房藏氏著）（農學士石川貞治）◎質疑（三件）◎應問●火山岩ノ時代ニヨリ變遷スル理由（ぬき生）●化石鑒定法ニツキ（SS生）●星体破滅ニツキ（SY生）●石膏岩鹽成層ノ順序ニツキ（ゐし生）●赤谷仙人鐵山地質報文（猪間收三郎）

發行所　東京京橋西紺屋町十九番地　**東京地學協會**

動物學雜誌　第六十一號　明治廿六年十一月十五日發行

○一册金十錢○六册前金六十六錢（郵稅共）十二册前金一圓三拾貳錢（郵稅共）

●**目錄**

海中生活一班丘淺次郎君○本邦保護鳥類（五十四號ノ續キ）長濱兼吉君○むしくらげ（Depastrum Inabai nov. sp.）岸上鎌吉君○人腦ノ構造式（承前）石川一男君●寄書○直翅類ノ觸鬚及聽器ノ位置ニ就テ石川千代松君○忍路海濱ニ貝殼ノ採集ヲ試ム札幌（マ、マ）雜錄○長洲採集日記天蛾類（Sphingina）ニ就テ○摸倣的斑紋ノ價値○動物參養（つゞき）○螢の大さ○七足ノ六足虫○カマキリの女尊男卑○ぽべーりむ氏○東京動物學會總會○季氏日本及ヒ朝鮮產鱗翅類（承前）○セレンカ氏渡來

發賣所　東京神田區裏神保町一番地　**敬業社**

東洋學藝雜誌　第百四十六號

明治二十六年十一月廿五日發兌●表紙廣告ヲ除キ五十八頁木版挿圖數個

●論說○温室器ニ就テ（承前）眞野文二○鉢勢論宇野朗○東京府下乳牛ニ新流行ノ疫病須藤義衛門○羅馬法ノ影響ニ就テ宮崎道三郎●雜錄○陸奧國上北郡貝塚村貝塚調査報告若林勝邦○佐久間象山ノ教育意見●雜報○本邦の動物學者○學術世界に於ける我國の位置○時事翁○ぜれんか氏の來朝○澳洲標準時○珠算改良會○世界の大市街○新刊化學書○帝國大學紀要○リヨーヴ氏○米國大學校○大不列顛理學奬勵會○獨逸萬有學會第六十五回の景況○地上最高の鐵道○火山噴出物の化學性變換○日本の地震學外數件◎定價十錢

發行所　東京市神田區裏神保町　**東洋學藝社**

人誰レカ死ナカラン而シテ尋常牖下ノ死尚且人ヲシテ悲痛ニ堪ヘサラシム況ンヤ職ニ公事ニ殉シ而モ其致命ノ境遇慘且烈ナル吾妻山遭難ニ於ケル三浦西山兩氏ノ如キモノアルモノニ於テヲヤ是レ本會ノ夙ニ同情ヲ表スル所今ヤ同志者ヨリ左記ノ如ク兩氏遭難義捐金募集趣意書ナルモノヲ本會ニ寄セ以テ洽ク天下同感ノ士ニ告知センコトヲ囑セラル此レ本會ノ喜ンテ之ヲ諾シ且ツ茲ニ掲載スル所以ナリ冀クハ天下同感ノ諸士多少ノ義捐アラムコトヲ

東京植物學會幹事

故三浦西山兩氏遭難義捐金募集趣意書

外ニ公事ノ爲メニ斃ル丶ト内ニ荏席ノ間ニ瞑スルト其死ハ一ノミ然レ圧人生レテ情アリ其間自ラ哀悼ノ情ヲ異ニスルモノナカランヤ況ンヤ其致命ノ境遇悲慘悽愴維レ極マルモノアルニ於テオヤ今回吾妻山ニ於ケル故農商務技師理學士三浦宗次郎及故農商務技手西山惣吉兩氏ノ遭難ノ如キ豈其慘ノ慘タルモノニ非スヤ嗚呼人誰レカ死ナカランヤ然レ圧君等カ此非命ノ死ヲ思ヘハ腸爲メニ九回スルモノアリ君等先ニ其現象ヲ觀察シ既ニ緊要ノ材料ヲ得タリ此時ヲ以テ當サニ歸ルヘキナリ然ルニ君等ノ公事ニ厚ク學術ニ勉ムル尚以テ足レリトセス再ヒ登山スルニ當リ轟然タル爆發卒カニ起リ黑烟天ニ冲シ石塊亂下雨ノ如ク肉破レ骨碎ケ孤身空シク灰風石雨ノ裏ニ呻吟シ一縷ノ情話誰ニ依テ傳ヘ片言ノ苦痛誰ニ向テ訴ヘンヤ悼ヒ哉君等終ニ吾妻山上ノ烟ト爲ル吁嗟此非命ノ死ヲ聞クモノ誰レカ悲哀ノ情ニ堪ヘサランヤ然レ圧兩氏カ職務ノ爲メニ屍ヲ曠野ニ曝シ學術ノ爲メニ身ヲ殺シ悔サルノ節義ハ遠ク絶域ニ達シ千載ニ傳ハリ永ク世教ヲ益シテ滅セサルヘシ我輩死者ノ非命ヲ慰メ其偉勳ニ酬ヒンカ爲メ茲ニ義捐金ヲ募集セント欲ス天下同情ノ諸君汎ク此意ヲ賛成セラレンヿヲ熱望ス

一義捐金寄贈諸君ハ多少ニ拘ハラス必ス三浦氏ト西山氏トノ分トヲ區別シ左項ノ内孰レカヲ明記セラレンヿヲ乞フ
  一三浦氏遺子敎育資金　一仝氏彰義紀念金
  一西山氏遺族扶助　一仝氏彰義紀念金
一本部ニ於テハ直接ニ一個人ノ義捐金ヲ取扱サレハ總テ便宜ノ各義團即チ新聞社、學會、官衙、其他有志ノ團体等義捐金募集ノ美擧アル內ヘ隨意御送金ヲ乞フ
一各義團ニ於テ募集サレタル義捐金ハ取纏メノ上來ル八月卅一日迄ニ本部ヘ御送金アリタシ
一本部ノ事務ハ一切東京本鄕區弓町二丁目廿五番地、地學俱樂部ニ於テ之ヲ取扱フ

六月　日

故三浦西山兩氏遭難義捐金募集本部

右發起人

原田豐吉　長谷川芳之助　西松二郎　大塚專一　奧田義八　和田維四郎
加藤敬介　鴨下松次郎　横山又次郎　高山甚太郎　棚橋一郎　添田壽一
恒藤規隆　中澤岩太　奈佐忠行　中島謙造　山上萬次郎　山下傳吉
松島鉦四郎　小藤文次郎　巨智部忠承　菊池大麓　菊池安　宮崎道正
志賀重昂　杉浦重剛　鈴木敏

明治廿六年七月七日印刷
明治廿六年七月十日發行
植物學雜誌第七拾七號附錄
東京市神田區錦町三丁目一番地
編輯兼發行者　井上蘇吉
東京市神田區裏神保町一番地
發行所　植物學雜誌編輯所

THE LIBRARY OF CONGRESS
1800

Class QH1
Book .B33

SMITHSONIAN DEPOSIT